世に良言を勧めて福を積む秘巻

天道人心

心力の存在と内外への大きな影響を述べる
貧富の盛衰の秘密と幸福を求めて災いを避けて身を
修めて家業を立てる
国を治め天下を平定する道

（著者：蔡偉忠微信/QQ 号：592566361）

【はじめに】

誰もが成功、富、健康、幸福を求めており、どの国や社会も長期的な安定を望んでいるが、どうすればそれを手に入れることができるのだろうか。私たちは目標を達成するには努力しなければならないことを知っていますが、なぜ努力しても得られないことが多いのでしょうか。あるいは努力が多くても得られることが少ない、つまり得られる結果と努力の程度はどうして完全に比例しないことが多いのだろうか。努力以外にどんな要素がもっと成否を決めるのだろうか。

なぜ、あまり苦労しなくても富貴で安逸な人もいれば、苦労しても貧乏な人もいるのだろうか。なぜ各方面に順風満帆な人もいれば、壁にぶつかって何もうまくいかない人もいるのだろうか。なぜ、ある人は天に恵まれているようで、いつもいろいろな良い機会に出会い、発展し、成功し、ある人はいつも運が悪くて成功しにくいのだろうか。なぜ高い成果を上げる人もいれば、何もできない人もいるのだろうか。なぜ健康で長生きする人もいれば、病気で短命な人もいるのだろうか。なぜ金持ちの家族が栄えているのに、ある家族は散財して離散しているのだろうか。なぜある人々の種族は常に人材を輩出し、輝き続けることができるのに、ある人々の種族は多くの人が退廃的に堕落し、人々の種族全体が没落していくのか。なぜ一部の地域では経済文化が発達し、人口素質が高く、一部の地域では発展が遅れ、人口素質が外部に与える印象が悪いのか。なぜ一部の地域では風向きがよく、非常に住みやすい地域では自然災害が頻発しているのだろうか。なぜ一部の国では地域社会が調和しており、一部の国では暴動が起きているのだろうか。なぜ資源が乏しいのに豊かな国もあれば、資源が豊富なのに貧しく立ち後れている国もあるのだろうか。

これらの問題を持って、私たちは一緒に人生、家庭、社会、国家の影響要素と発展法則を探して、成功した幸福、貧富の盛衰の秘密を探求します。

天道人心

【内容の概要】

キーワード：心力、意志、神鬼、天道、善悪に報あり、善行、悪を除く、福報、福を得て災いを避ける、盛衰、修身、持家、事業を立てる、管理、国策を治める、天下を平らげる、民心、民意、民治、法治

本書は心の力の存在を明らかにし、心の力の巨大な影響を述べ、自分の成功に影響を与え、対外的に善悪に報いることをもたらし、さらに立志、自信、善行積徳が成功と福報を得る鍵であることを明らかにした。『了凡四訓』は命理学と玄学及び多くの実例から善行が運命を変える法則を述べ、本書は心力物理学と心理学、社会学から善行が福報を得ることができる道理を明らかにした。

同時に本書は修身、斉家、立業、治国、平天下などの異なる角度から心力の応用と関連するいくつかの観点を述べた。そして、誰もが自分と人を顧み、ウィンウィンを重視してみんなの承認を得て、自分に良い外部の心力環境を形成しなければならないことを提唱し、そして、誰もが自分と人を顧みて、非の利益を取らなければ、社会には様々な問題が存在せず、文明の大治に向かうことができ、もし誰もが功徳心を持って功徳心に力を入れることができれば、つまり社会に貢献すれば、社会は急速に発展し、繁栄に向かうことができる。

本書の一部抜粋：

【心の力の存在と内部影響個人の状態に対外的に善悪をもたらすことに報いる】心の力は強大な力であり、内部エネルギーに対して個人の心理状態、精神、健康に影響を与え、内部駆動力になって自分の奮い立って目標を実現し、対外的に愛憎、好き嫌いなどの形で他人に放射して他人に強大な衝撃を与え、そして最終的に善悪に報いる現象を引き起こすことができる。なぜなら、善、他人に良いことから、他人に感謝し、祝福し、好感し、称賛し、感心して良い推進力のある雰囲気を得て、それによって万事順調になり、悪が他人に悪いことをするために、憎しみ、呪いに衝撃に阻まれる雰囲気を得て、それによって各方面うまくいかないと災難さえある。そのため、良好で、強靱で、積極的な心理状態を維持することが重要で、しかも各方面はやましいところがないようにしなければならなくて、最も努力して人の神が共に欽を共にすることをやり遂げて、天動地を感動させることができます。

【一人一人が自分と人を顧みるようにすべき】善のためには、まず自分と人を顧み、自分を重視し、考えると同時に他人の利益と感受を考慮して避けることを堅持しなければならない。損害を与えて他人を傷つけないようにしなければならない。そして、自分の利益ではなく占有してはならないことを理解しなければならない。そうしないと、他人や集団を損害し、必然的に恨みを覚えられ、災いの報いがある。さまざまな社会問題は、一部の人が自分の利益のために他人を傷つける利益を顧みないことによるものであり、もし誰もが自分や人のことを考えることができれば、詐欺や賄賂の略奪などの不良行為をすることはなく、社会は太平文明になるだろう。

【誰もが功徳を追求する心を持つべき】社会に様々な貢献をすることこそ人生のより大きな意義であり、功徳を積むことは自分や家族、子孫にも福をもたらすことができ、誰もが功徳を追求する心を持ち、社会に貢献することを個人の利益の前に置くこ

とさえできれば、社会はみんなの足を踏み入れて急速に発展するだろう。
【志を立てることと堅持することの重要性】一人は理想があって志があって追求があって才能が平凡ではなくて、心が強くて粘り強くて、根気よく努力して続けてこそ理想を実現することができる。子供の教育の最も重要なポイントは、志を立てさせて内駆力を持つことにあり、志がなくて自分の追求がなくて外力で督促するのは難しい。
【成功は福報に大きく左右される】成功は方向＋方法＋努力＋運にかかっており、良い方向、方法を見つけるには、多くの観察と思考が必要であると同時に、運の影響も受けており、運が良くて容易に良い方向と方法を見つけることができ、そして至る所で必要な人と資源、機会に出会うことができる。普段は善願があり、人に優しく、善行を多く積むことで自分がみんなに認められ、祝福され、助けられて福報を得られ、運が爆発する。一方、善行を少なくして徳を積み、福報を欠くと、運が一般的になり、幸運な機会に出会えることは少ないので、努力だけでは、発展は遅くなります。もし平常心が不正で、利己的で、人に損をして自分の利益を得ようとすると、みんなに嫌われて福が尽き、厄が続き、運が悪く、思い通りにいかない、何事もうまくいかない、あちこちで壁にぶつかることがよくあります。
【経営の道】何かをして協力を統合してこそ、より速く発展することができ、考え方が広く、寛容であってこそ、より多くの力を結集し、より多くの資源を統合することができる。革新と差別化こそ同質化競争を避け、より立脚し、発展しやすい。効率を高め、コストを下げることは永遠の法則です。

本書の一部の要約文（金文）：

- すべてのものには心の力がある
- 心は善で顔は善で、心配は少なく病気は少ない
- 志が強く、不利益はない
- 遠大な夢、良い暗示、いつも本当になる
- 限定的な予想をせず、無限の可能性を信じる
- 物は願いのために集まり、求められる方がいれば応えがある
- 心念は正方で力強く、心念が強ければ強いほど心力が強くなる
- 無邪気で悪がなく、無実で恨みがなく、損をせず借りがなく、鬼神を恐れない
- 家風は勤勉で、代々繁栄し、誰もが崇善で、国運は繁栄している
- 社会に大きな功績を残した者は必ず子孫繁栄する
- 天地万物を敬い、仁厚福徳を修める
- 仁義納福、善徳得沢
- 良いことを多くすれば、自分には福がある
- 善徳の人、神仏加持
- 人は神を共にし、福は綿々と報いる
- 善行をして力を見て果を見ても心を見て願を読む
- 善悪には報いがあり、差がない
- 仇を結んで恨みを結ぶと、必ず災いが起こる
- 常に過ちを改め、災いから遠ざかる
- 盛衰は徳にあり、風水は日を選ぶ影響が少ない
- 成功は福報次第

・善行をすれば運を変えることができ、徳を積めば災いを防ぐことができる
・善行をして徳を積むことは運命を改善する最善の方法である
・公益を行うことは投入産出比が最も高い投資である
・福薄がうまくいかず、徳を積むことを考えたことがある
・運が悪くても自分のことを考えて過ごすべきであり、境遇が悪くても徳を多く修めるべきである
・不義の金、得たものは災いがある

・よく良徳を修めて、天佑を得る

・仁愛の心、百善の源
・人が望まないことは、人に施すな
・いい人が多く、憎まれない
・世渡りを円滑にし、人間として厚かましい
・ウィンウィンのことだけをして、人に損をさせない
・管理は管理心であり、国を治めるのは治心である
・管理の道は、相互に認め、信頼することにある
・善行をして徳を積んで福報を得て、功を立てて業を立てて千秋を伝える
・一悪を除いて十善を行う
・この雄文をもって、天下の白を歌いたい

【四字良言】

心力の存在と影響：

衆生万物には、心の力がある。
時空を問わず、至る所に達しない、
力が強く、力が強いと思う。

対内自走、人生を決める、
志を追求し、人を奮い立たせる。
心が強く、成功しやすい。
しかも顔が出て、心が良くて顔が良くて、
健康に影響を与え、心配が少なく病気が少ない。

対外的に恨みを愛し、他人に影響を与える、
祝福に感謝して、人を助けるのは順調です;
恨みの呪いは、人を阻む。

世の中の万事は、人の心にもよる。
家風はまめによく、代々繁栄している。
誰もが善を尊び、国運が盛んである。
文明が教化し、地方が繁栄する。
民愚官悪、動乱繁殖。
社会が破綻すれば、天災は必ず多くなる。
政権は存亡し、民心に頼る。
戦いの勝負は、士気にかかっている。

心の力の継続-神鬼：

心が続き、鬼神と化す。
悪事を鬼として恨み、債権者だけにつきまとう、
無邪気で恥じない、恐れる必要はない。
善者は神であり、衆生を守る。
神の遺志を継いで、更に神の喜びを得ます。
善徳の人、神仏加持。

神の助けを祈って、心が誠であれば霊である。
助けてお返ししなければ、長続きしない。

心の力のまとめ-天道：

衆生の心の力は、天道に合流する。
順天に従う者は栄え、譜を離れる者は死ぬ。
善は善を願い、常に天佑を得る。
逆行すれば必ず天罰が下る。

善悪の報い：

善悪には報いがあり、差がなかった。
すべての報い、心の力によるもの。
善行をして彼を利し、感謝されて称賛された、
応援して、過去の不利益がないことを祈ります;
人は神を共にして欽を得て、福は綿々と報いる。
悪のために人を害し、憎まれて責められる、
仇を結んで恨みを結ぶと、必ず災いが起こる。
千人の夫が指し、病気せずに自滅する。

福を得て災いを避ける方法：

幸せで幸せで、幸せだと言います。
福厚運興、福浅成らず。
仁義納福、善徳得沢、
多く善事をすれば、自分に福がある。
福薄はうまくいかず、徳を積むことを考えたことがある。
善行をして徳を積むには、方法が多い。
お金を出して力を出せば、誰もができる。
不義の金は、それを取ると災いがある。
災いを避けるために、使われてはいけない。
不義のことは、してはならない。
他人を侵害すれば、必ず悪報を受ける。
国を害し民を害し、子孫を急死させる。

天道人心

自ら修持する道：

善心良、志遠心強、
勇敢に働き、勤勉に向上する。
よく良徳を修めて、天佑を得ることができる。
仁愛の心、百善の源、
衆生を思い、人を哀れむ。
過ちを反省し、悪から逃れる、
いい人が多くて、憎まれない。
円融処世、温厚で人として;
自分のことを人のことを考えて、他人を害することはない。
人生の価値は功徳にあり、
社会に奉仕して、千古流芳。

管理の道：

管理の道は、人の心を得ることにある。
認可を得て、誰もが尽力する。
心を一つにして、団結して前進する。
心が離れ離れになる。
乾綱は独断で、難周を兼ねている。
知恵を集める。
民主体制、広範な参加、
民意を広く集め、民心を広く得る。
不均一票は、より理にかなっている。
より有利に発展し、しかも悪政を防ぐ。

国家統治の方策：

柔軟で効率的な運用をシンプル化する、
煩雑さを簡略化し、内部消費を減らす。
透明に動作し、姦通を防止する。
人材を吸収し、繁栄を創造する。
市場に順応し、十分に競争する。
自由をゆるめ、活力を解放する。
効果的に管理し、安定を確保する。

天道人心

法治を教化するには、欠かせない。
バランス監督、権力を拘束する。
順を追って漸進し、絶えず改革する。
リーダーの人選には、大きな愛が必要だ。
間違いがあれば必ず訂正し、上にも下にもできる。
韜光養晦、不甲斐なく勝つ、
各国とうまく付き合って、多角的にウィンウィンする。

天下を平定するための方策：

人の心を整理し、恨みを減らす。
各方面を考慮して、調和を共にする。
包容開放、百家争鳴、
風正序良、誰もが礼を守る。
民心を教化し、邪悪な毒を厳重に防ぐ。
全力を尽くして悪を取り除き、世の中は清らかである。

ビジネスの道：

方向パターン、熟慮を精選する。
ニーズを捕捉し、より満足する。
製品の新異、市場の新拓、
すべてが異なり、競争を避ける。
ブランドを構築し、信頼を得る。
利益を重視し、コストを下げて効果を高める。
資源を統合し、強くする。

天道人心

【目次】

【はじめに】 1
【内容の概要】 2
【四字良言】 5
【目次】 9
第一章 心力の存在と力 11
1 心の力の存在 11
2 心の力が自分自身に与える大きな影響 11
3 外部に対する心力の大きな力 16
4 心が強くなればなるほど心の力が強くなる 20
5 心力の力も正当性に影響される 21
第二章 心力の継続とまとめ：神鬼、天道の存在 23
1 死亡後の心の力の継続と「神鬼」の存在 23
2 天道——天地、神々と衆生、万物の心のまとめ 24
3 天地や神鬼とのコミュニケーション、力を借りるためのいくつかの形 25
第三章 心の力の働きによる善悪の報いと福の獲得方法災いからの脱出 27
1 善悪に報いる現象 27
2 なぜ善悪に報いるのかを心の物理科学的に説明する 28
3 社会心理学からなぜ善悪に報いるのかを説明する 29
4 善悪には報いの余地がある 30
5 福報の理由とその重要性 33
6 仁義と善は善報、福報を得るのに有利である 35
7 多くの善行をして徳を積むことで福報を多く得ることができる 37
8 慈善公益を多くしてこそ、人生の意義と社会的価値をよりよく体現することができる 40
9 善行積徳のいくつかの理念、方式、原則 40
10 得ない、受けない、一切の不義、自分の利益ではなく災いから遠ざかる 47
第四章 個人の修持、発展と処世における心の力の応用 52
1 内面的に強く、良好な心を育てる 52
2 対外的仁愛の心を養う 64
3 優れた品格を身につけて衆生と天の認可を得る 67
4 身を修めて反省して悪のために災いを招くことを避けるために絶えず過ちを改める 74
5 多くの人が称賛したり憎まれたりしないで、自分に有利な外部の心の力の環境を作ります 77
6 矛盾、敵対、衝突の発生を避けるために、より多くの人を団結させる 78
7 人となりが上手で、人に親切で、みんなに認められている 82
8 自分と人を顧みて私と公を顧みる一線を守り、過度な私利私欲を避ける 84
9 天地万物を畏れ、天道に従い、法則と潮流に逆らわない 87
第五章 管理家の国有企業政治などへの心の力の応用 89
1 心を奮い立たせ、一人一人を奮い立たせる 89
2 利益分配をしっかりと行い、利益駆動を通じてみんなの積極性を引き出す 90

3 和合･ウィンウィンで凝集団結を実現し、互いに認め合い融合･統一を促進する91
4 人心を得る：スムーズで強固な管理を実現するためにみんなの認可を得る.....94
5 集民智：広範な参政議政を許可し、奨励し、広範な利益を考え、力を集め、監督を強化する.....98
6 民意に従う：民主的政策決定制度の必要性.....114
7 良好な意思決定制度の確立：現在の投票意思決定制度に存在する問題と改善された提案.....136
第六章 心力の平天下への応用.....147
1 理順人心：怨念が溜まって悪気になるのを避ける.....147
2 人の心を教化する：民衆を善と合格の社会公民にする.....148
3 純化民風：良好な社会文化、気風を育成する.....156
4 共和を実現する：各方面を配慮し、協調し、みんなの利益、心の力のバランスのとれた調和を達成する.....158
5 良好な社会制度を確立する：社会を秩序正しく、安定し、スムーズに運営させる.....162
6 一人一人の仕事、移動、交流などの基本的な権利を保証し、一人一人が自由に生きることができるようにする.....164
7 一人一人が基本的な経済、安全などの条件を持ち、生存を維持し、独立を維持できることを保証する.....165
8 宗教、学説の管理をしっかりと行う：その良い役割を発揮して悪人の心を傷つけたり、民衆の精神的足かせになったりすることを防止する.....166
9 天下泰平を保つために全力を尽くして悪を退治する.....176
10 法治に関するいくつかの思考.....196
第七章 国を治めるための方策（国を治めるためのいくつかの見解）.....208
1 政府機能のいくつかの提案.....208
2 政府活動ガイドラインのいくつかの提案.....217
3 政府の首長の推挙、選任、監督、罷免をどのように展開するか.....239
4 政府指導者を務めるための条件要件と選択上の注意事項.....241
5 極権専制の危害とどのように出現を防止し、どのように解決したか.....247
第八章 商道などの立業の道：いくつかの就職･起業の心得.....265
1 起業の必要性を追求する.....265
2 どうすれば事業を立ち上げることができますか。.....265
3 就職か起業か、適切な起業方法を選ぶ.....265
4 「プラットフォーム+個人」を活用した人員組織、協力モデル.....265
5 より発展し、より自分の発展に適した場所を選ぶ.....266
6 就職のいくつかの良い理念.....266
7 創業のいくつかの良い理念.....267
8 ビジネス起業のいくつかの法則.....268
9 いくつかの効果的な経営方法.....270
10 創業者が備えなければならない能力、素質、観念.....272
【総括イニシアティブ】.....276
【本になるためのビジョン】.....279
【著者プロフィール】.....280
【後記】.....281

第一章 心力の存在と力

1 心の力の存在

心力の存在：

人は体力があるだけでなく、心もある。

心の力は脳波、心の磁場と理解でき、見えない力である。

心力も力の一種であるため、物理力学で心力を理解、分析することができる。

心の力は体力のように筋肉や固体物質が接触しなければ伝達できないものではなく、その伝達、作用は時間、空間に制限されない（磁場、雰囲気を通じて伝達されているとも理解できる）。

心の力の表現形式は、自分の内部に対する発奮、立志、誓いと彷徨、後悔、後ろめたさ、自責などがあり、外部に対する承認、信頼、愛、称賛、尊敬、愛、崇拝、祝福と嫌い、嫉妬、憎しみ、軽蔑、排斥、のろいなどがある。

懐かしむ、あこがれる、あこがれる、渇望する、焦る、心配する、願い事をする、祈るなど、さまざまな心理活動も、心の力を伴っている。

人の状態も大部分は心の力の状態で、例えば：闘志が昂揚して、全神経を集中して、心が傍若無人で心身ともに苦労して、落胆して、魂が捨てられないなど。

人には心力があるだけでなく、動物にもいて、植物、静止物、日月天地などにも心力がありますが、強弱、明晦が違い、表現方法が違います。天地万物には霊がいて、すべての動物が記憶、思考、感情などの心の活動を持っていることや、植物にも弱いだけで私たちは感知しにくいことがありますが、さまざまな物質にも実は霊性があります。例えば、ある人が実験をしたことがあり、2杯の水にそれぞれ感謝と叱責の言葉を言ったことがあります。しばらくすると2杯の水の反応はそれぞれ異なり、水にも霊性があり、心の活動があり、霊性があると内、外の心の力があります。

2 心の力が自分自身に与える大きな影響

心の力は強大な力を持っていて、しかも力は普通の人が想像できないほど強い。

その内に対して自分の行為を駆動することができて、すべての言動はすべて心の駆り立てから源を発して、しかも強烈な心の念、人に到達して絶え間なく甚だしきに至っては寝食を忘れることを追求することができて、更に強大な心理暗示を形成して冥冥冥の中の強大な誘導力、推進力を生んで目標を更に速く実現させることができます。例えば、良い自己心理暗示、常に良い結果と未来を想像して（例えば、学生はよく試験で高い点数を得て、大学入試で良い大学に合格することを想像して）、よく本当に実現することができて、俗に言う「正しいことをしたい」のように、前に1冊の本を読んで、良い未来、良いことが起こることをもっと想像して、そして自分が成功したい人物は自分を心理的にこのような人物として自分に要求して、そして昔の人は「臥思」を非常に重視して、毎日寝る前と目が覚めると「臥思」の想像が起こる良いことをして、よく実現することができて、悲観的で飽きる心理暗示は往々にして更に運が悪くて、そして何の気もなく対応して物事を譲るさらに悪化して収拾がつかなくなり、俗に「恐れば恐れるほど正しい」と言われている心配すればするほどかえってバイアスが発生し、「カラスの口」のよくある不幸言は負のエネルギーによる同周波数共鳴発生に対応した結果であるべきだと説明した。また、「忘れないと響く」ということわざや、西洋のことわざ「夢ではないものはそばには現れない」も心の力の役

割を説明しており、常に憧れを思い出し、本当に応えてくれる（例えば、前にテレビの報道を見たことがある母親が、誘拐された息子と必ず再会できると信じていたが、数年後には本当に起きた）。そのため、誰もが遠大な夢と良い暗示を持っていなければならない。なぜなら、これらは常に真になるからだ。また、さまざまな宗教の祈りも、常に期待されている目標を実現することができます。さらに、「志ある者は事が成る」ということわざもある。志を持って自分を信じ、たゆまず努力すれば、往々にして成功することができることを示している。さらにすべての生物（動植物）に執着があれば、長期的な「修練」を通じて超常的な力を持つ精霊（従来は樹精、狐狸の精などの伝説が多く記載されている）にもなる。

1 心の力が大きく、自分がどのような人になるのか、事業がどの程度の高さに達するのかを決める：

誰もが心の中に自分に対する位置づけが見え隠れしていて、自分がどんな人なのか、どんな成功を収めることができるのか、この位置づけの心の力は絶えず自分を浮き彫りにして、自分に作用して、自分の発展方向とそれぞれのことをする時に発揮する程度を決定して、最終的には自分が心の位置づけになる人とその成功程度を基本的に決定して、一人の心の中でどのように彼がどのような人になるかと言うことができます。

そのため、思想境界のレベルが異なる人は、成功のレベルも全く異なる。

大胆に考えて大胆にやることも往々にして成功の最も重要な要素であり、考えても考えても、やってもそれをすることができないのは完全に成功の可能性がないからだ。大胆に考えてこそ可能性のある希望を開くことができ、そして往々にして1つのことをすることを決定し、そして強く、必ずやり遂げなければならない願望があり、目標を実現するために必要なさまざまな資源が自然に集まってくることが多い。つまり、物は願いのために集まり、求め方があれば応えがあり、稲盛和夫も「心は物を呼ばず物は届かない」と言った。

また、人の潜在力も非常に大きく、心がどれだけ大きな舞台があればどれだけ大きいかと言えますが、心の中の思想は往々にして自分のために天井を設定しており、自分がある程度を超えることはできないと思っていたら、それを超えるために努力することはできず、最終的にはせいぜい心の設定の程度にしか達していません。そして、もし一人が誰かがそんなにすごいと思っていたら、自分より強くて、彼を超える心理がなければ、本当に彼を超える可能性は少ない。他の人は力を尽くして挫折した後に「命を認める」心理があり、つまり心の中で追求を放棄し、平凡さと失敗に甘んじ、それによって彼自身が突破の努力を放棄し、二度と突破する可能性がなくなった。一人で追求する高さは発展の高さを制限するので、必ず自信を持って、無限の可能性を信じて、自分の期待に制限を設けないで、心の中から自分の発展の高さを限定しないでください。

2 心の力は個人の学習活動の状態と効率に大きく影響する：

大部分の人はほとんどの時間に体が良く、個人の学習･仕事状態に影響を与えるのは精神状態であり、心理状態の積極性、情緒が高揚しているのか落ち込んでいるのか、気持ちの喜び、怒り、哀しみ、楽、愛、悪、恐れなど、例えばさまよい、楽に疲れているのはすべて心理状態に影響を与えている例である。

積極的、自信、楽観的、情熱、快楽、余裕、楽観的な心理状態を保つことで、仕事の効率を大幅に向上させ、さらには超常的に発揮し、疲れを感じないようにすることができます。悲観、倦怠、不満、矛盾、焦り、驚き、落ち込んで、元気がなくて、心配して、苦労して、それは往々にしてうろうろして、状態に入ることができなく

て、効率が悪くて、甚だしきに至っては落ち着いて正常に学習、仕事を展開することができません。

そのため、寵愛と恥辱を保ち、物のために悲しまず、物のために喜んではなく、落ち着いて陣地を乱さず、着実に前進しなければならない。

3 心の力は人生、事業の成否に大きく影響した：

何事にも心を込めて効果を出すかどうかは非常に大きく異なり、心を込めていれば成功する確率が高く、心を込めなければ成功しにくいことが多い。

ことわざにもあるように、「心はそれが成し遂げることができることを信じて、心はそれが成し遂げることができないことを信じない」というのは、心理状態が成否に影響する描写であり、事に自信があり、重視することができればあの手この手で成功しやすく、自信がなければ意気消沈してすべてが難しいと感じ、重視しなければのらくらしてさらに成功することはできない。

古今東西を観察して、大事業者になることができるのは、心が強く、成功への欲求が強く、根気よく続けている人ではないだろうか。それは心の導きの下で、粘り強くたゆまず奮闘し、日々の積み重ねがますます近づいて最終的に目標を実現したが、スランプしている人は成功する可能性は決してなく、チャンスがその前に置かれてもみすみす流失してしまう。

私たちは日常的にも、重要なことや私たちが重視していることは、成功して失敗してはならないことさえ、往々にしてできることだと感じることができます。心の中で渇望しているものも手に入れやすいが、あってもなくてもいいものは本当に手に入らないことが多く、いつも流れを逃してしまうことも、心の状態が目標の実現に重要であることを示している。

もちろん、現実から逸脱することはできません。どんな目標でも強い心があれば達成できるというわけではありません。現実から逸脱した目標をいくら強要してもできないというわけではありません。ただ、心の力は人が現実の条件下でできるだけ早く目標を実現できると言っています。

伝統的な相学では、「富貴は精神を見る」ということは、人間の心理、心志、つまり精神的風貌が人生の発展に与える影響が非常に大きいことを意味し、人間を判断するのも主に彼の心志を見て、心が良く、志が大きく、強い人は、必ず発展し、富貴になることができる。

また、家を建ててから、家を買ってからの圧力が大きくてお金を稼ぐのが速いという現象もよくあります。圧力があってもっと努力する理由のほか、家を建ててからの心の志がもっと成熟して目標がもっとはっきりしていて、圧力が大きくて期待欲がもっと強い心理的な力が推進する要素もあります。

また、仕事、お金を稼ぐ必要、直面している困難なニーズを解決する必要がある、訴訟を起こす必要がある、病気を治す必要があるなどの強い、切実なニーズがあれば、すぐに学ぶことができますが、受け入れられ、注入された場合は、難しく、ゆっくりと把握することができます。例えば、「久病成医」で名医になりやすいのは、自分の治療のために切実な学習需要があるためによりよく学ぶことができ、訴訟を起こした人も必要で法律を独学することができ、すぐに法律に非常に熟知するようになるのも同じ道理だ。だから学習を需要に変えることが最も重要で、最も効果的な学習効率を高める方法である。

4 心の力の影響は個人の精神状態ひいては顔を決定する：

人の心は自分の精神状態を決定して、例えば自信に満ちていて、非凡さを追求することは一人を意気軒昂に見せることができて、落胆することは一人を萎縮させるこ

とができます。

長期的な心の状態は顔に大きな影響を与えるだろう。「相は心から生まれる」とよく言われていますが、一人の精神状態は心の体現（心の顔への投影）であり、顔にも生まれてくる先天的な基礎があるだけでなく、心の状態、性格の変化によっても変化します。例えば、教養が高まるにつれて清楚になり、愛、利他心が高まるにつれてより丸くなり、福相になる（例えば、慈善愛が増えると耳たぶがより豊かになる）、また、心理状態が良ければ顔色もよくなり、肌ももっとつやつやになる（そのため、一人はもっと美しく、もっと人に好かれる顔を持つ必要があり、まず自分の心を浄化し、美化し、寛和な心理状態を育成することで、自然に自分の内分泌をより正常にすることができ、ますます美しくなり、ますます顔を明るくし、髪を変えることができ、化粧品を塗ったり、治療をしたりするなどの物理的、化学的な美容による効果よりずっと良い）、そして心の良い人は、精神的な風貌の気質と一言一行が人をすっきりさせる。

もう一つの現象は、夫婦は異なる家族の血統から来ても全く異なるが、長く住んでいると夫婦の相があることが多いことと、抱っこしている子供が長くなってもますます家族のように成長することである。同じ家族のメンバー一人一人の理念、心理状態が一般的に似ているため顔も似ていることも、「相由心生」の道理を証明している。

「相由心生」は生理学的にも説明できる。例えば、天庭豊満は物事に余裕があって慌てることが少なく、そのため大脳の前部分の海馬体が発達していることを示し、焦り、恐怖にさらされていると大脳海馬体が小さくなり、額が狭くなる（中国相術は天庭豊満な人が役人になると考えているが、確かに理がある。リーダーになるには物事に余裕を持って慌てることが少ないようにしなければならないから）。

心は顔と精神的な姿を通じて見ることができるため、表情、目つきから人の心理を見ることができ、俗に言う「目は心の窓」や、顔、精神状態で人の未来を断定する相術、実は顔観心から未来を推測する方法を採用しており、曽国藩の識人の法も「富貴は精神を見、功名は気概を見る」と言及しているのも同じだ。

5 心の力は個人の健康と寿命に大きく影響する：

心理的に健康に大きな影響を与えることは誰もが公認しており、まず健康には心理的健康が含まれており、次に気分が体の免疫力や消化機能などに影響を与えることができ、俗に「気分不順の百病生」、「気分が良くて自然に食欲がある」と言うのがこの道理だ。

心の状態が良くて気持ちの喜びを維持して、甘やかして恥じることなく、生命力はもっとすっきりして、旺盛になることができて、そのため心の状態の調節が良いのは自分の生命力を高めて、それによって栄養吸収能力、免疫力などを強めて、そしてもっと良く体の健康を維持します。

心理的な抑圧は生命力の一部を弱めることができて、この時よく直接疾病を招いて、あるいはウィルスに抵抗できなくて病気になって、だから病気を治す最も肝心な点は心身を調節して、体の能力を回復して、ウィルスに抵抗する能力を強めることにあります。

また、「心が寛いで体が太っている」ということわざもあり、心が広く、情緒が波動しにくい人は太りやすい。心の脳はエネルギーを消費するので、肉体労働よりも頭脳労働の方が体のエネルギーを消費するという研究もあるので、心が寛いで心配することが少ないと無駄なエネルギーを消費することが少なくなり、太りやすくなる。

また、「心が強く体が丈夫」では、心が強くなると元気が旺盛になり、新陳代謝

が盛んになり、体も自然に強くなり、抵抗力も病気が少なくなります。

「心は病生を促し、心は病を促して癒す」、「心は一寸広く病は一丈退く」、これらは疾病と心理状態が大きな関係があることを説明し、疾病の発生は往々にして虚をついて入り、心身が脆弱な時に病原菌に侵入されやすく、あるいはすでに体内に潜伏している病原菌をより発作させやすく、心が鬱積し、心が乱れ、意気消沈し、恐れおののくと病気になりやすく、漢方医は鬱結は多くの疾病の主要な病因であり、気持ちが乱れ、貪欲で、恨みなどは気血が流暢ではなく、血酸素挟みから監視しても情緒の低下が血酸素飽和度の低下を見ることができ、新鮮な血液によって抗体、貪食細胞、栄養などを含む体の各部位の必需品であることも問題の最良の修復ツールであり、もしその流暢でなければ体に病気が発生する（ある記事「人が百毒侵さない秘訣、あなたの認知を完全に覆す！」http://mp.weixin.qq.com/s?__biz=MzI0NDk2ODk0MQ==&mid=2247495878&idx=2&sn=6f9ef91645a0370a7c1a80e945a7b0e6&chksm=e9570c44de2085521b253af9ef8448b559a07ba5ac06b335ec171f903146a71d9f384bc4f30a&mpshare=1&scene=23&srcid=&sharer_sharetime=1580610847391&sharer_shareid=55ad746740c567a0d7936a723426b895#rd この方面の詳しい陳述があります）、気持ちがすっきりして、心が清らかで、人は気楽で健康で病気が少なくて、甚だしきに至っては病気は心理のために発生したのです。そのため、病気を治すには薬や手術を通じてだけでなく、同時にその心理を救い、その心を明るく慰め、邪気を一掃し、そして病気に打ち勝つ自信を樹立しなければならず、パニックや焦りがあってはならない。

さらに「仁者寿」などの法則もあり、慈悲深い人は心身ともに健康で長生きすることが多いことを示している。

他の記事の内容を抜粋1（「仁者寿」などの法則の実験証明）：

米国のある雑誌はかつて『悪い気持ちが毒素を生む』と題する研究報告書を発表した。報告書によると、「心理実験室での実験によると、私たち人間の悪心は、生理上の化学物質の変化を引き起こし、血液中に毒素を産生することができる。人が正常な心理状態で氷のコップに息を吐くと、無色透明な物質が凝集して付着し、人が恨み、怒り、恐怖、嫉妬の気持ちの下で、凝集した物体はそれぞれ異なる色を示し、化学分析を通じて、人の負の思想は人の体液内に毒素を産生させることが分かった」という。

最近、米エール大学とカリフォルニア大学は協力して「社会関係が人の死亡率にどのように影響するか」という課題を研究し、従事者は無作為に7000人を抽出して9年間にわたる追跡調査を行った。統計研究によると、人を助けることが好きで他人と仲良くすることが好きな人は、健康状態と予想寿命が悪意を持ち、心が狭く、人を損ねて利己的になる人より明らかに優れており、後者の死亡率は正常な人より1.5～2倍高い。人種、階層、フィットネス習慣の異なる人々の間で、同じ結論が出たので、科学者は研究成果を発表し、善行をすることで人の寿命を延ばすことができる。

より多くの異なる実験は、純粋さ、慈善、正面の思想状態が生命の健康を喜ばせることができ、悪心が機体組織のアンバランスと病変をもたらすという同じ結論を出した。これは生理医学の分野での発見であり、これらは数千年前の中国古書に系統的に述べられていた。例えば、孔子が言った「仁者寿」、医学古書で述べた正気存内、「邪はやってはいけない」など。

他の記事を抜粋2：

漢方医の祝由術：「移精祝由」者、すなわち転換の意志、専心の注意を通じて、神に祈り、福を求め病気を癒す原始的な精神、心理療法である。この正前時代の「祝

由」の原始的な本義、つまり道教医学養生方術における吐納服気、導きの法である。

『楚国風俗志・巫女編・巫女の医療活動』は、「呪術を手段として治療することは、積極的な作用や効果がないわけではない。病気の原因を明らかにした後、呪術師は鬼神に祈り、患者に催眠、暗示、励起などの手段を施し、患者に自分の病気は特定の鬼神の祟りによるものだと信じさせ、呪術師が象徴的にある神の許しを祈ったり、ある鬼を逃避させたりする過程で、患者の内在する防御機能は十分に誘発され、これはつまり『素問』のいわゆる移精変気であり、同時に、病気による憂鬱、恐怖心も知らないうちに排除された。

3 外部に対する心力の大きな力

1 心の力が他の人に与える影響：

心の力は外部に放射線を照射して他人に影響し、他人に対する助力、推進、ベーキングまたは抵抗、傷害を形成することができる。例えば、ある人に対して良い印象を与え、その恩恵を得て恩返しをしようとすると、その好感、祝福、そして宗教の親友、恩人、衆生のために厄除けを祈る活動に対して、良い雰囲気を生むことができて、助力、推進、助力、抵抗の厄除けの役割を果たすことができて、例えば誰かに対して否定的な態度を持って甚だしきに至っては敵視の態度を持って、心の中の嫌悪の気はそれを阻止し、傷つける雰囲気がそれに作用することができて、昔の話では「千夫は無病自決を指す」というのは、みんなの憎しみが多くの人の悪気場の攻撃を万矢が心を突き抜けて失敗、死を加速させることができるという意味だ

2 民衆の心の力の集約は 1 つの地方の社会文化と政治生態を決定した：

一つの社会集団、その文化と政治はすべてみんなの心の力の合力であり、みんなの心理状態、認知が共同で形成された結果、人民の普遍的な信念はどのようになり、社会はどの方面に発展し、多くの文化、政治現象はすべて民心の基礎があり、すべて全体の地域の民衆の全体的な精神産児である。

「衆生念力がある程度に達すると、現実になる」と発見し、提案した人もいたが、衆生の心力は社会形態を左右し、決定することができることを説明した。

歴史上のさまざまな動乱は、一部の人々の支持を得ているものでもある。そうでなければ、誰も支持していないのに孤立しては起らない。例えば、太平天国暴動、袁世凱の復活、文化大革命は、愚昧で立ち後れた近代中国社会の文化的基礎でしか生まれ、実施されず、他の当時文明に向かっていた国では生まれにくく、本当に生まれてもみんなに排斥されてすぐに失敗する（鄧小平は文化大革命は欧米では起こり得ないと言った）。また、政府の各種政策はすべて民風、民意の基礎があって生まれた（民意はまだ比較的に大きく左右して決定されたもので、一般的にはあまり民意に逆らう人はいない）、さもなくばすぐに排斥される勇気がなかった、ロシアのウクライナ侵攻行為を含めて、多くのロシア国民が認め、支持している（多くのロシア民衆はクリミアとウクライナ東部を占有するのが合理的で返却されないと考えており、ウクライナ全体がロシアの一部であるべきだとさえ思っている）。また、腐敗の繁殖も民衆が腐敗に強く反対しておらず、昇進によって金儲けを実現できることを認め、さらに多くの人が自分の利益と引き換えに腐敗に協力している。そして民主政治の形成は、民衆が積極的で理性的に政治に参加することと、弱肉強食で銃の中から政権が出ることを認めない伝統的な政治思想に確立しなければならない。そうしないと、民主体制を構築しても安定して混乱と転覆に陥りやすい。孫中山も「国の盛衰と治乱は、その民

を見て知るものである。.....荘厳で神聖な国を建てようとすると、必ず優美で高尚な民がいて、無良な民質では無良な政治があり、無良な政治では無良な国がある。.....国と民との因果が相俟って.....」と感嘆した。

そのため、1つの地域の文化、政治を変えるには、まずこの地域の人々の価値観、理念、習慣などを変えなければならず、腐敗、独裁を根絶するには、まず腐敗、独裁が生んだ土壌を取り除かなければならない。

また、中国の古代は周辺の地域に対しても、まず教化を通じて文明に向かわせてから徐々に融合を実現することを重視していたが、近代社会の強国の弱国への侵略、植民地も、文化の輸送を通じて心理的な承認を得ることを重視していた。

3民衆の心力、つまり民心が政権の存亡を決定した：

「民心を得る者は天下を得る」、民心は政権の盛衰存亡に影響を与える第一要素であり、民心の支持を得ることができ、広範な力を集めて政権を奪取する勝利を得ることができ、支持を得ることができてボイコットされずに長期政権を執ることができ、民心を失った政権はすぐに人心が散漫になり、政令が通じず、みんなが離反し、分裂し、急速に壊滅に向かうことができる。

歴代にはこの道理を理解していない多くの執政者がいて、富、兵力を掌握することが最も重要だと思っていた（例えば清末に張之洞に積まれて世論の激変防止に注意するよう忠告した時、「兵がいる」ことを恐れなくてもいいと思っていた）、恐れがなくて広範な民衆の利益と感受をものにしていなかった、民とコミュニケーションをせず、民の心に順応して、万民と対抗した、民衆は最初は武器を持たず、資源が欠乏していたが、常に強大な力を急速に結集して明な暗く、硬いソフトな各種の対抗と抵抗措置を通じて、民の心から乖離した執政者

また、「銃の中から政権が出る」というのは、すべてではなく、武力も権力を奪う手段の一つだが、より多くのことは民衆の幅広い支持を得てこそ、政権を築くことができる。そして政権を奪取した後も、政権を守るためには民心を得なければならない。権力を握ってもすぐに滅びることは認められない。例えば李自成、洪秀全は民衆の広範な参加による蜂起によって政権を樹立したが、政権樹立後の逆行、不人心はすべて自分を急速に壊滅させた。

もちろん、歴史上にも政治、軍事闘争の中で、野蛮で立ち後れ、手段を選ばず、道義がなく、民心さえ得られない側がかえって勝利したことがある。これは往々にして外力介入、巨大な自然災害の影響、一部の人の重大な不注意ミスなどによるものであり、あるいは民智が開かれていない民衆の愚かな人心が誤って導かれ、民衆の支持の対象が現れた（民智が開かれていない時に人々はだまされやすいが、一部の政党の組織、宣伝、動員などの民心への影響、ごまかしは大きい）。また、異なる方向を代表する各方面の民衆の行動の多さと少なさは、ある方面を支持する集団が大多数を占めているが行動していないのに対し、一方を支持する集団は人が少ないが活動的であり、結果的に民心の多い人が勝利したとは限らない。しかし、これは歴史の主流ではなく、このような勝負は長続きしないことが多く、最終的には正義者が勝利し、民心を感じる者が政権を握ることになるだろう。

4人の心は自然環境、天気に影響する：

社会全体の人の心がスムーズになれば、社会が調和するだけでなく、自然環境もより美しく快適になり、気候が順調になります。みんなの心がスムーズになれば、周

りに発散し、破壊することが少なくなるからです。古言「聖人は黄河清を出る」とは、世の中には聖人がみんなを率いて民風を純化し、黄河の水さえも清らかになるという意味であるはずだ。

もし人の心に恨みが多ければ、社会は調和がとれないだけでなく、自然災害をさらに多く発生させることができる。例えば、漢武帝の逆行は統治末期の天災を頻発させ、明朝の末年も天怨人怨のために自然災害が頻発し、農地の不作や収穫がゼロになることが多い。

古代の自然災害が発生した場合、皇帝や地元の役人は率先して懺悔を反省し、自分のどこが悪いのかを反省し、自分の過ちを見つけて救済し、謝罪し、善行して理解を得て自然災害の軽減を祈願しなければならない。漢代の陸賈が言った「悪政は悪気に生まれ、悪気は災異に生まれ、マムシの類は気に従って生まれ、虹霓の属は政によって見られる。治道が下に失えば天文学は上に、悪政が民に流れていれば虫害が地に生まれる」にも道理があるはずだ。

また史書にも記載されている：周公は仁義を辞し、郊外は後生を祀り、越裳は貢ぎを奉じ、再訳して至り、麟鳳草木は縁化して応する。殷紂は無道で、微子は骨肉を捨てて死んだ。善行をすれば鳥獣が喜び、悪行をすれば臣下が恐れる。

董仲舒もこの現象を発見し、災害警戒で君主を戒めた。

天災は往々にして人災によって引き起こされ、一部の人の心が混乱し、悪気、悪気が強い国、地域では、人災が常生するだけでなく、天災も頻発している。

社会文明の政通性は往々にしてこの場所を風向きがよくならせることもある。例えば、シンガポールは台風の多発地にあるのに被害が少ない。ヨーロッパの多くの文明が発達している国もいつも気候がいい。

5 人々の心の集約は文化であり、集団、地域の発展に影響を与える：

文化は 1 つの集団、地区のみんなの心理状態、価値観の総括的な体現で、みんなの心志、心理的な承認の集約は家風、文化を形成しました。

1 つの家庭には、勤勉で積極的で親孝行な家風があり、必ず繁栄する。

企業や職場などの集団は、みんなが心を前向きにすれば、仕事の雰囲気がよくなり、みんなが努力して仕事を展開し、穏やかで善良で物事の道理をわきまえていれば、みんなは仲良くして友愛を団結し、最終的には全体の事業が繁栄することになります。

もしみんなが怠惰で気ままで、士気が落ちて、さらには心を鬼にして、それぞれ鬼の胎を抱いていたら、チーム全体に闘志がなく、ばらばらな砂のように、最終的には全体の効率が低下し、急速に敗亡に向かった。

一つの地域では、地理的位置や資源などではなく、人の心や文化の発展を決定する。多くの地域の発展が遅れているのは交通、資源の問題ではなく、人々の心理状態、考え方の問題であり、発展に対して日常生活に自信がなく、頭を働かせず、勤勉でもないのにどうして金持ちになるのだろうか。

最も明らかな例はイスラエルと周辺の一部の国で、彼らは砂漠にあり、位置も悪いが、イスラエルは農業も含めて世界第 5 位の食糧･果物･野菜輸出国として発展しているが、周辺のほとんどの国は貧しく、ほとんどの工業･農業の製品は輸入に依存しており、環境決定論の人は口をつぐんでしまう。

また、北朝鮮は韓国と同じ位置、環境であり、資源的には北朝鮮の方が豊かだが、発展は韓国にはるかに及ばず、文化、制度のためでもある。

また、東欧のある国の発展は西欧のものではなく、文化観念の問題も多い。ま

た、アジア・アフリカ・ラの多くの国は自然資源が豊かだが貧しく、怠惰で積極的に生存を求めずに発展している。

またアメリカでは、黒人の群れは他の群れに比べて発展が悪く、人種 DNA の問題で彼らが不器用で生計が悪いと言う人が多いが、これは間違っている。彼らも頭がいい。主に文化問題は DNA 問題ではない。多くの黒人は先進的な文化理念を受け入れてからもよく発展しているが、怠惰で救済に依存するなどの立ち後れた心理状態の理念を残している人は発展が悪い。ユダヤ人、華人は少し発展しており、教育、詩礼伝家を重視する家庭理念と勤勉に奮闘する人生観とは切り離せない。

国内の東北地方は近年なぜ発展が悪いのか、人の心理状態、文化関係が最も大きく、東北の土壌が肥え、資源が豊富で、経済的基盤が良いと言えるが、なぜ発展が悪く、さらに衰退しているのか、多くの人の思想が固化して古く、鍋料理も好きだ（前に記事「東北青年たちの入社選択：編制があれば街を掃いてもいい」を読んだことがある）。http://item.btime.com/314jd4i9pts8p9ocm7jc9fe90lt?from=mini）、また仕事をしてボーナスを分けるのは能力によって業績に応じてではなく、非常に年功序列で、関係を重視し、関係のない人やよそ者を排斥するのではなく、集団の利益を横領することを野放図にしている人もいるが、広範な民衆の大部分はそのやり方がだめだと思っていない。民衆の大部分は貧困を笑って娼婦を笑わず、発達している可能性が高いと思っているだけで、ある人は人をいじめ、他人の正当な利益を排斥することに対してもやりたい放題で全くベースラインがない（東北の一部の都市に滴滴、シェア自転車が黒車の運転手たちに包囲され、恣意的に破壊されたという報道も含む）。この土地を捨てることから遠ざけざるを得なくなって、最終的にこの地域はどのように発展することができますか?

また、山間部の一部の民衆は沿海部の一部の住民と同じように大都市へ発展し、往々にして最後まで発展し、山間部の民衆は経済的によくなく、経済的に成功することは相対的に少なく、文化とも関係があるべきである。保守、考え方が柔軟ではなく、向上心が足りず、倹約しすぎてけちで、共有・ウィンウィン精神が欠けているなどの欠点が人付き合いの悪さと多くの発展機会を逃しているからだ。

西北回族村は漢族村より貧しいことが多く、隣接する村だけでも（http://tieba.baidu.com/p/4614672419「回村と漢村は甘粛省ではほぼ一目瞭然で、はっきりしている。多くのビルが見える村は問わず漢民族の村であり、土の家は.....の村は明らかに回村である」と述べた）、これも文化の差であるはずで、宗教を信仰しすぎる人の多くは、世俗教育と現世の生計を重視するのではなく、宗教的な寄託を重視し、さらには宗教儀式や宗教建築の寄付に多くの経済収入を費やしている。

これも文化が企業管理、社会ガバナンスの中で制度よりも重要である原因であり、1 つの家庭、企業、職場、そして地域、国は、すべてのメンバーに良い心理状態、理念と人生観、価値観を持たせ、毎日制度で内部規律を維持することよりも半功倍であり、1 つの国を治めることよりも重要なのはみんなの「心」を治めることであり、つまり礼教、道徳で民衆に良から善から善へ、多くの法律を制定することよりも重要であり、この点は周文王、周公、孔子などから多くの論述がある。

また、貧困地区の貧困扶助についても、彼らを発展させる希望と彼らを心理的な苦境から連れ出すことができれば最も良く、彼らに経済的な寄付をするよりも役に立つ。彼らの多くは人生ひいては生活に希望を失い退廃的になり、萎縮した状態こそ彼らの貧困の原因だからだ。

6 みんなの心理状態は戦闘の勝敗に影響する主要な要素の一つである：

兵力差のほか、戦闘に参加する者の心理状態も戦闘の勝敗に影響する主要な要素である。そのため、古来、領兵作戦は士気を非常に重視し、士気が高まると戦いに勝ちやすく、士気が低下したチームは一撃で潰されることが多く、闘争、戦争はまずその心の力を破って弱気にさせなければならなかった。

また、「狭い道で勇者に会って勝つ」ということわざがあり、「勇」は勇敢で必死な心理状態であり、短兵が刃に会って戦う中で往々にして勇敢な方が勝利し、自信と勇敢さ、心理的素質が力の強弱よりも勝負を決める要素であることを説明している。

さまざまな争いに対しても、人の心の自分に対する認可、あこがれを高め、人の心の認可上の優位を形成し、口コミ、世論の勢いで競争相手を圧倒し、勝利の天秤を自分に滑らせるという「勢」の概念がある。

目標、理念、文化的アイデンティティはさらに重要で、決定的な役割さえ果たしている。もしアイデンティティの承認を得られなければ、例えば軍心を得られなければ、多くの兵が寝返りを打ったり逃げたりして、軍隊はすぐに潰されてしまうが、もしアイデンティティを得られれば、みんなは力を合わせて、敵を味方にして、巨大な力を形成するだろう。古来より師団が無名で、逆行逆行が認められなかったために軍隊が散逸して潰滅したり、けんかをしたりした例が多すぎる。正義の師はいつも広く支持され、力を集めて勝利することができる。大きな行動の前に決起大会を行い、日常的に目標理念の宣伝を行うなど、軍内部の政治宣伝、動員活動をますます重視し、政治政党組織を連隊に構築した。また、攻撃心、離間、降下などを宣伝することによって敵の兵将を瓦解させる思想も、より効果的でコストの小さい闘争方式である。

近代にも軍事力の優位性が大きいのに、戦闘意志の欠如によって急速に滅亡した例が多い。イランのパレイ王朝が努力を放棄して転覆したことや、アフガニスタンの民選政府がタリバンに抵抗する意志がなく上から下へと逃亡したり、降伏したりしてすぐに滅亡したことなどだ。また、ウクライナのロシア侵略への反撃など、意志の強さによって実力の差はあれど堅持できるものもある。

大部分の民衆、大部分の軍人が恨みを抱いている政権は、戦争に参加して、待っているのは失敗だけで、力を出す人はあまりいないので、一部の人はつまずいて、そしてみんなの心は衰えを見て、失敗を期待している。明の末年に何度も失敗し、敵に一撃で潰されたことも、天の恨みを恨むことに大きく関係しているはずだ。

4 心が強くなればなるほど心の力が強くなる

前に述べたように、努力して心を込めたことは一般的にできるが、急いで方法を考える困難は一般的に解決できるが、急いでいなくても希望を抱いていないことも困難も解決の結果が得られないことが多い。

心配、執着、怨念などの様々な考えにかかわらず、忘れないことには反響があり、作用があるが、ぼんやりした、どうでもいいという心理的な形から深く、強い信念になれば、力と影響力が大きくなる。

人の成功への渇望の程度は最終的な成功の程度と比例しており、願望が強い目標ほど大きな確率で実現されることが多く、強くなく、自信が足りない目標の実現確率は一般的に小さい。

恨み、怒りは往々にして人を目的を達成しなければやまない行為に駆り立てることができて、例えば歴史の上で伍子胥のきわめて強烈な亡楚は復讐の信念で彼を推進してあらゆる方法を尽くして最終的に目的を達成して、司馬遷は『伍子胥列伝』の末

尾で評定した時にも「恨みの毒は人に甚だしい」と感嘆して、巨大な恨みが人に発生させるエネルギーは非常に大きいことを見ている。そして呉三桂は怒りを爆発させて復讐に狂い、復讐のために理性を失うために手段を選ばなかった。

科学研究によると、実際には人間の潜在能力は非常に大きいが、脳は身体機能を過度に使用されないように保護するために損傷し、人間の爆発力を制限しているが、理性を失った人、極度の危険にさらされて生きるためにすべてを忘れてしまった人、ひいては精神的に異常な狂人は、脳のこの制限を受けずに驚くべき体力を爆発させることが多い。

一人で追い詰められて投げ出されたときは、心と体力も特に大きくなり、釜を破って舟を沈めることで背水の陣を切って反撃するしかなかった。兵士を死地に置いて退路がないようにして強い求生欲をかき立てて大きな戦闘力を生み出すことだった。また、兵法が「敵を追い詰めるな」、「包囲しても不足しない」ということにこだわっているのもこの道理で、敵を一気に追い詰めて抵抗力が特に強いことを避ける一方、人に希望を残し、さらに消耗し、分解し、徐々に敵を消滅させる戦略を採用することで、できるだけ敵の反撃力を下げ、自分の死傷者を減らすことができる。多くの闘争の中で、強い反発を避け、カエルをぬるま湯で煮て知らないうちに徐々に蚕食する方式を採用することで、抵抗を減らし、より良い効果を得ることもできる。

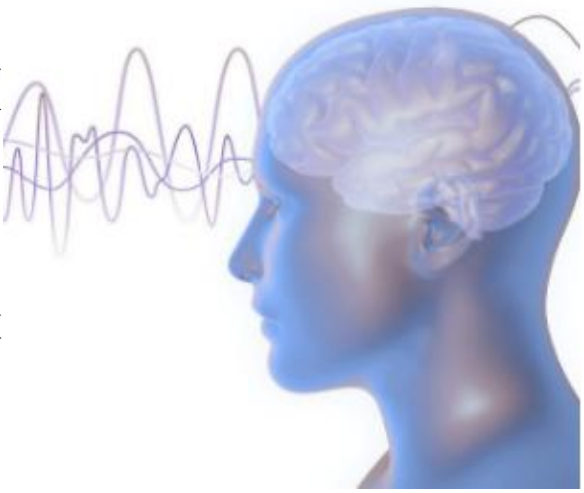
だから心が強くなればなるほど心の力が強くなる。誰もが強く追求し、確固とした信念を持ってこそ、目標をよりよく達成し、超然とした成果を上げることができるが、管理上、リーダーとしても、目標計画の青写真を制定し、美しい未来（画餅）を描くなど、意図的に危機感を醸成すること（戦場では『呉子・治兵』の言う「必死則生、幸生則死」、その他の各分野の競争競争競争競争でもそうだから、危機感があるのはもっと良い）が必要であり、さらに特殊な状況の時には背水の兵法のようにみんなを死地に置いて後生することも必要である。

5 心力の力も正当性に影響される

心力にも正当性と正当性の性質があり、例えば積極的、正エネルギー的、建設的、理にかなった心力、および消極的、負エネルギー的、破壊的、理不尽な、正当性は全く異なる。

心の力がどれだけ役に立つかは、強弱と関係があるだけでなく、正当性と大きな関係がある。

例えば呪いという心の力は他人を攻撃することができるが、理にかなっていて正当で、正義のための呪いであれば力があり、不正、不正の呪いは効果が悪く、効果がなく、反撃が自分を傷つけることもある（俗に言う「人をののしって自分をののしる」ように、理不尽に人をののしって最後に運が悪いのは自分だ）。その原因を究明するには、正当、正義の呪いこそ天地間の全体的な雰囲気、磁場の潮流に順応し、衆生、神霊などの認可を得て加持し、不正、不義の呪いは天地に阻まれ、呪われた者を擁護、擁護する力（祖先の魂、家族、親友、ファンなど）の心の力の反撃を受ける



そのため、みんなは心の力を加えても正当性を重視しなければならない。そして、み

んなは各方面が他人の正当な利益を傷つけるかどうかをさえすれば、他人の無端、錯乱、不合理な呪いを心配する必要はない。

第二章 心力の継続とまとめ：神鬼、天道の存在

神鬼、天道は確かに存在し、そしてその存在を宣伝するのは迷信と消極的な思想を宣伝するのではなく、積極的な社会的意義がある。神鬼、天道の存在を認識し、その源、特性を理解し、神鬼とどのように付き合うか、どのように天道に従うか、どのように神鬼の意志と天道に背くために罰せられることを回避するかを学ぶことは、個人にとっても社会にとっても意義があるからだ。ある文章を読んで、「墨子は鬼神の道を宣伝すれば、誰も鬼神の道を信じても、誰も悪事を働く勇気がなく、社会は必ず平和と秩序を回復すると信じている」と書いた。

1 死亡後の心の力の継続と「神鬼」の存在

人や他の生き物の心の力は、死んだ後も存在し続ける。いわゆる「精神不滅」、「魂遊離」、「悪気不散」などは、さまざまなオーラ、磁場、さらには物質的な担体を借りて存続し、さらには他の人の体に付着して言動を制御することもある（これまで多くの噂や記載があり、また、普段ある人は「鬼使い」の行為をすることがあり、冥冥冥の中の力に左右されるはずだ）。また、蝶や小鳥になって何かの場面に現れるなど、動物に付着することもある（例えば、冠婚葬祭に蝶が飛んできても離れようとしないのは家で死んだ人が蝶になってやってくる）、そしてよく人の夢の中に入る（死んだ人が夢を託す現象はよく起こる）。

このような心の力の継続は、特にエネルギーの大きい人（大成果、大功徳、社会的影響力の大きい人）、および願い（甚だしきに至っては死んでも浮かばれない目的）を持っていたり、恨みを持って死んだりしている人がいますが、普通の人、無事に死んだ人は一般的に死んだ後の心の力が小さく続いています。

「神鬼」は実際には散らない魂、精神、気結と理解することができ、その中の神は社会に貢献して有徳有功な人の魂、精神であり、鬼は普通の人の魂、気結（善鬼）あるいは悪人の魂、気結（悪鬼）、そして恨みを持つ魂（励鬼）である。

そしてこのような継続的な心志、精神は人々に認められ、尊崇されればされるほど存在が強くなるため、崇拝されている神ほどその法力が強く、霊的な現象も多くなる。

心の力の継続と鬼神の存在を知って、私たちに死者とそれによって形成された鬼神に対する畏敬を知ってもらう。また、私たちが人を助けると、その先祖の天にいる霊も感謝して私たちを助けてくれて、私たちを良い面に押し上げてくれて、そして災厄を防いでくれて、これも人を助けることができていつも報われて、徳を積むことができる理由の一つです。

実は私たちは神を尊敬しなければなりませんが、礼拝式や祭祀にはあまりこだわらなくてもいいです。なぜなら、彼らは私たちがあなたに賄賂を渡すのではなく、その品格や精神を受け継ぐことを望んでいるからです。

鬼に対しても恐れる必要はありません。良い鬼は人を傷つけることはありません。悪鬼、悪鬼も憎しみがあって冤罪がある人を探すだけです。冤罪には借金があって主がいて、鬼も道理を言わなければ神に罰せられます。たとえ鬼魅が自分の敵ではない人を超範囲で襲っても、徳を失い、罪を作り、他人に恥じ、社会に恥じない人を襲うだけで、心が正しく、悪をしていない、罪を犯していない、他人に恥じない、社会に恥じない人は鬼魅を恐れる必要はありません。

そして、神鬼と人はチャンネルにいない。例えば、車を運転するのは車道にいないようなもので、お互いが葛藤していること、借金、感情があったり、助けを求められたりしない限り、一般には遭遇しない。だから私たちは自分で心に悪がなく、人が社会にやましいことがなければ鬼神を恐れる必要はありません。もし本当に鬼に会って助けを乞われても助けてくれればいいのです（例えば、潮劇「柴房会」の李老三は莫二娘の幽霊の頼みを承諾し、道を案内して仇を見つけてあげます）。

また、「心善は神に通じ、徳高は鬼を鎮めることができる」、「仁厚は伏し、義重は邪を防ぐことができる」ということわざもあり、心善の人が超俗的でより神に受け入れられ、神はそれとのコミュニケーションを楽しむが、邪殺鬼は仁義大徳の凛とした正気に脅かされて、おとなしくて祟りを起こすことができないことを示している。

2 天道――天地、神々と衆生、万物の心のまとめ

「天」の概念は広く認識され、受け入れられており、私たちは普段、「人は天を作って見ている」、「天網恢々疎にして漏らさない」、「人は天に必ず加護することを善く願っている」などと言って、すべて「天」の存在に対する認識と受け入れである。

ここでの「天」は空を指すのではなく、ある神を指すのではなく、天道、自然の法則と理解できるはずで、まさに「天道自在人心」とは、宇宙、天地、人類、衆生、万物の心志をまとめたオーラである。

「天」に対しては、私たちも畏敬し、その規則に従って仕事をしなければならない。つまり、天命を知り、天命に順応しなければならない。孔子の人生の異なる段階に対する概括には不惑から知天命までが含まれているように、私たちは一人一人が絶えず探索し、自分のために社会における比較的良い役割の位置づけを見つけ、自分の社会的使命感を形成し、最終的には「知天命」、「天人合一」の境地に達するべきである。

歴代の大発展で大成功した人は、知応天命が天道に沿っていることを非常に尊重し、社会的使命感と抱負を持っており、時勢に順応して英雄に育まれることが上手だ。天命を知り、天道に従う者は、往々にして成功しやすいとも言える。

儒家も「天地のために心を立て、生民のために命を定め、往聖のために絶学し、万世のために太平を開く」ことを提唱し、孔子は『周易』に「天佑之より、吉に不利はない」と注釈をつけたのは天の超越的地位を認めたことであり、孟子は心の修養を強調したが、最後の帰着点も「心を尽くして知性を尽くし、性を尽くして天を知る」であった。

歴代の帝王はさらに「天子」を自任し、天を敬い民を愛することを責任とし、天を祭ること、つまり天と意思疎通し、天に祈る儀式をよく行い、一般的には欽天監の職を設けて星象、天象の動態を観察し、報告し、これらの動態に基づいて政策を制定し、行動を指導した。随所にも「天」を尊び、「天道」を準則とし、遠方には周文王家が天命に対して非常に畏敬し、長期にわたって悟ったように「天命靡常、唯徳は輔」というまとめがあり、近代の例えば朱元璋は天命に対して非常に重視しており、随所に天命に順応することを準則とし、都を応天府、宮殿を奉天殿と名付け、聖旨の冒頭に「奉天承運」という文字を用い、また張士誠との交渉書簡も「静候天命」と勧める。儒家には「天命」観があるだけでなく、サマン教の教義も天人合一であり、自然と融合することを追求している。漢族ではない建州女真一族はサマン教を信仰して

おり、ヌルハチなどは天命に非常に夢中で、出征するたびに星や天象を見て、吉兆があってやっと出征し、天象が変化すると非常に緊張して、百官を集めて分析し、討論しなければならない。

また、古来から挙動、蜂起者は、「天に代わって道を行く」などのスローガンを掲げてきた。

3 天地や神鬼とのコミュニケーション、力を借りるためのいくつかの形

私たちは天地、神、万物に対して畏敬の念を持たなければならない。古来より多くの人、多くの文化や宗教は万物に霊があることを認め、天地、神々、万物を非常に畏敬してきた。これは非常に良いことであり、もちろんある人の畏敬の仕方が間違っていて、あまりにも迂遠で、それに疲れて（例えば畏敬が形になった像や祭礼、読経、さらにはヒンドゥー教のように様々な人物、生物がその良し悪し、善悪にかかわらず崇拝の対象として、何万人もの神を形成し、立像に寺を与えて場所を大小の神像や廟にし、頻繁に線香を焚いて供え物を並べて祭る）、そのために非難されてきたを選択します。

祭礼、祈り、願い、誓い―「天」と神との疎通、力を借りる形式：「天」と鬼神は祭礼、瞑想、黙念などの儀式を通じて疎通することができて、祈りを通じて彼らに助けを求めて、願いをかけてお礼を言ったり、どれだけ善いことをしたりすることを承諾して彼らの認識を得ることができて、更に助けたいと思って、彼らに証人と今後の執行監督者になることを誓ってもらうこともできます。

多くの人が祈りを試みたことがありますが、祈りは常に有効であることを感じています。それが天地、神の助けを得た結果です。特に、様々な宗教の信者は祈りがもたらす奇跡を目撃し、宗教に対してより信仰を持っている（神は存在し、彼らを助けることができると信じているからこそ、祈りの効果がより良い、いわゆる「心誠則霊」だと信じているはずだ）。

神の助けを得て祈りの願いを叶えた後に神にお礼を言ったり、どれだけ公益をしたりするかなど、祈りの際に一定の「願い」をかけると、祈りの効果が高まることがよくあります。もちろん、この願いは返すもので、後で自分の目的を達成したのに返さないと約束することはできません。その軽さは、次の祈りが効果的に減量されると、与えられたものを罰せられて回収され、さらに多くの不調に見舞われることになります。ある人は願いを「クレジットカードを使う」ことにたとえてイメージしています。願いは神に助けてもらい、本来自分の能力では達成できない目的を得ることができます。クレジットカードを作ったように、お金がないときはクレジットカードで先に支払うことができますが、このクレジットカードは先に使ってから返済しなければ、借金、罰と信用喪失リストに登録されます。

また祈祷はもちろん悪い目的を祈ってはいけない。祈祷の内容は社会に無害でなければならない。悪事を働いたり、だまされたりして天に昇ったり、神々の加護を祈ったり、神に祈ったり、神に感謝したり、お札をつけたりしてはいけないと思っているのはおかしい。天地、神自体は正気に応じて存在し、加護したり、協力したりすることはできない。神仏が神仏になるのは善心があって社会に功徳があるからであり、彼らはその願いの遺志を受け継いで善のために衆生を祝福し続けることを望んでいる。投網は天と神々に彼らの罪をもっと知らせる。例えば、プー田系病院の多くは評判が悪く、電信詐欺に従事しているのも福建省出身の割合が高いが、プー田、福建省

の地元では神への礼拝が盛んで、多くの人が神に礼拝すれば彼らの不義の財を守ることができると思っているが、それは不可能であり、彼らの滅亡もすべてを証明している。一部の人は悪鬼に祈って助けを求めていくつかの悪い目的を実現する人もいて、甚だしきに至っては一部の人はまだ「鬼を飼う」（タイ、香港、マカオの一部の人の「鬼を飼う」行為）をしているが、悪鬼自体が神界に立脚するのは難しく、法力は限られており、悪鬼に助けを求めて「鬼を飼う」人は最終的にはその害を受けて「鬼」に傷つけられ、飲み込まれることが多い。

また、自分の約束を厳粛に保証するために、天に誓ったり、神に誓ったりする人もいます。つまり、天地、神を証人と今後の実行の担保にしたりすることができます。この誓いに対して、誓いを立てる人は畏敬しなければならず、ただ言っただけではいけないと思ってはいけません。それができなければ、普通は罰せられるからです。例えば、いろいろな不調や災難が出て、もしできなかったらどうなるかという話があれば、誓いを立てたようになることがよくあります。

しかし、要するに、神に仏を拝むよりも、多くの善行をして徳を積み、多くの公益をして貧しい人を助け、衆生、神、天は目に見えて褒賞を与える、つまり彼らに助けを求めるよりも、表現が上手で彼らの承認を得ることで助けを与えるほうがましだ。また、彼らの助けを求めるときにも、同時に多くの善行をすることができ、彼らに認められて助けを得やすくなることができます。

天地神明はみんなが善から公益をするのが一番好きで、彼らに対する返礼は、主に寄付などの善行を通じてすればいい。占い、日を選んで、風水を見るなどの玄学的なサービスで利益を得た人を含めて、得られた報酬も一部の生活に必要なものだけを残したほうがよく、多くのものは公益機関、廟に寄付するほうがいい。このような収入は天や神の力に依存していることもあり、さらには露天機で交換したものもあり、慈善寄付を通じて天地、神に報いる必要があるからだ。

第三章 心の力の働きによる善悪の報いと福の獲得方法災いからの脱出

1 善悪に報いる現象

周りを見回し、歴史をさかのぼると、個人が良い発展を遂げ、家族や子孫が繁栄して発達しているのは往々にして善行をして徳を積む人であるが、心が正しくなく、悪事を働いて、信義を重んじない最終的には良い末路がなく、子息が繁栄しても往々にして少なく、多くの貧苦が破れ、社会に縁化され、さらには後世の人が次第に少なくなり、最後に姿を消していることがわかるだろう。古公亶の父、周文王、周武王、周公の家族のように遠く、盛世を開き、徳を興し、仁政を施し、礼教を行い、封聖系を行い、勤勉に民を愛し、人神は共に欽を好み、ついに国の祚800年余りを享受し、子孫の興隆は中国の現在の人口の50%以上を占めている（データ参照）http://www.360doc.com/content/19/0201/21/276037_812599249.shtml）。また、古来から徳行が高く、徳才がそろっている人は、往々にして大きな福報を得ており、福禄寿が全盛で、子孫が満堂で、代々繁栄している。例えば唐代の名将郭子儀は、狂乱を挽回して反乱を平定し、各民族を団結させ、社稷を救い、万民を危難から救った。また、人間としての処世も非常に優れており、君上、同僚、家族、社会各界から広く認められ、洪福斉天、有終の美を飾る完璧な人生を獲得し、子孫が満堂になり、繁栄した。また宋代の名臣範仲淹、済世安民、定国安邦、善行積徳、子孫繁栄してきた。これらの評判の良い役人は往々にして子孫が繁栄しているが、彼らが多くの富を手に入れて多くの世代に衣食に心配がなく、多くの人が多くの子供を産んでいるのではなく、彼らは民のために福祉を積むために子孫を豊かにし、子孫の発展を円滑に生活させ、早婚早生多生させ、そしていつもいくつかの賢明な子孫を生んで宗族をさらに繁栄させることができる。逆に暴君、戦犯は、いずれも最終的には身を滅ぼし、子息もまばらに散って（近代第二次世界大戦の戦犯や暴君たちを含めても）、また道義を失い、悪事を働く者は往々にして良い末路がない。例えば、生命を無視して人を殺す白起と背信して敵の戦士をだまし取って投降し、敵の戦士を殺した李広も、それぞれ死と失敗を与えられて最後の自殺の末路に落ち、また不義の財を得て、巧妙に富を奪う者もすぐに自身や家族の不良行為（賭博のような）や災難、重病に見舞われて前を手にする李鴻章、王占元、盛宣懐などの不義の富はすべて権力を通じて国家民族の利益を売って巨大な富を奪ったが、しかし、結果はすべて敗者の子孫を出して急速に家財を失った。

また各地を見ると、人々が盛んで、家業が大きい宗族も、基本的には善行をして徳を積む比較的多い家族であるが、1つの宗族の中には複数の房頭分岐があり、一般的にも慈善厚道の発展が最も良く、人丁が最も盛んであるのに比べて、それらの不正で凶暴で理不尽な家族は、最後にはコミュニティのエッジ化されて家業がますます小さくなり、人丁はますます少なくなっている。農村では、大きな村には賢明で孝行な人が多いという現象があり、彼らの善行は村をより盛んにし、小さな村にはいつもひねくれた性格の人が出て、それによって発展に影響を与え、結婚の難しさを増やし、経済と人口の発展がより遅いという現象がある。

また、善行をして徳を積む気風が良い地域は発展が良いが、人口素質が悪い多くの人が底なしに仕事をする地域は発展が悪い。例えば、アメリカの多くの人は社会的

責任感と善行精神が強く、公益事業に大きな割合の財産を寄付する人がよくいる。また、ヨーロッパの多くの国の社会的気風も貧しい人の救済を重視しており、動物を大切にしている（例えば、オーストリアに行ったことがある。冬には雪の中でよく食べ物を捨てて鳥に食べさせる習慣があると聞いたことがある。また、デンマーク政府がサーカス団に 4 頭の象を買って動物園に放して奴隷から老後を安らかに享受できるという報道を見たことがある）。行為はすべて心の善良さが神欽を称賛させると言え、そのため、彼らが良い発展と幸せな生活を得る理由の一つにもなっている。その人たちと人の間には搾取、だまし、強奪、弱肉強食、そして過渡労働、虐待に満ちた動物を苦しめる地域（例えば東南アジアの森で象を虐待して木を引っ張る苦役をする）があり、往々にして不満の声があふれ、人々の心は鬱々としていて、長年貧しくてずっと発展できず、風も雨も自然災害も頻発している。

言うことができて、1 つの善を行うには必ず 1 つの報が得られて、1 つの行 1 つの悪にも必ず 1 つの報があって、これまで差があることはありません。天地造化は、さまざまな状況が予想を超えており、ため息をつくことも多いが、よく分析すると、因果が入っていることもある。

中国のことわざにもある「積善の家には余慶があり、積悪の家には余害がある」というのは、道理と真実がある。また、「出て行けば遅かれ早かれ返す」、「天道輪廻、蒼天は誰を許したことがない」、「不義を行うと必ず自滅する」ということわざもずっと霊験あらたかだ。また、潮汕の俗語「天地補忠厚」、「正直はいつまでもいて、悪を積むには長い間耐えられない」、「曲がった人はいつまでも貧乏で、白直食はむだ」も、すべて善悪に報いる現象の反映と総括である。

参考内容を抜粋：『科学者の驚くべき発見：善悪に報いることは真の科学である』https://health.wenwo.com/iw/aiwenArticle/5916ccd90cf2926043309ba9

2 なぜ善悪に報いるのかを心の物理科学的に説明する

善悪有報は迷信のような言い方に聞こえるが、しばしば発生し、公認されている事実であり、科学的な分析では説明が難しいようだ。

実は心力という物理科学から説明するのは難しくない。前述したように、心の力は強力な対外放射線、影響作用を持っており、もし一人が善から、他人に良く、他人を助けて、他人の好感、感謝、恩返し、祝福と対応の心の力を得ることができて、これらの心の力はすべて正のエネルギーのしかも助力、引き立て作用があって、人の各方面に加持、助力を得てより速く発展させることができて、そして助けを受けた人の

亡くなった家族の魂と世の中の神など、善行を行った人に感謝して称賛して、彼の様々な悪いものを解決して、避けて、彼を有利な方向に導くことができて、このように発展させることができます。もし悪をすれば、傷つけられた人は復讐の機会を探すだけでなく、心の力から悪をする者に嫌悪し、憎しみ、さらには歯を食いしばって呪い、心の中の悪気は悪をする者を至る所で阻まれ、何事もうまくいかず、さらには心身が報復者の心の力に衝撃されて病気になったり、死亡したりする（昔の言葉で「千夫は無病自殺を指す」というように）。この衝撃は肉体、物質の衝撃ではなくオーラの衝撃であり、肉眼では見ることができないが、肉体、物質の衝撃よりもはるかに強い。そして善、悪に関わる当事者の心の力から作用するだけでなく、周囲の人々、ひいては天下の衆生の心の力も作用し、皆は善を行う者を見ると好感、称賛、加持し、悪を行う者を見ると嫌悪、排斥し、また天地、神、万物もすべて善を好む嫌悪の心の力があり、最大限に悪を懲らしめることができ、これらも心の力の作用を強め、善悪の報いをより明らかにする。

善悪には報いがあり、必然と言える。たとえやった行為が故意に人に知られないようにしても、他の人に知られて対応する心の力の作用が生じていなくても、やはり報いがある。なぜなら、人々は知らないが、「天」は知っているからだ。「人はやっている、天は見ている」とよく言われ、「天」も各人の善悪行為に対応する善悪の報いを手配する。いわゆる「天網恢々疎にして漏らさず」、そして悪事をした当時の周りの様々な生物、物品も知っていて記憶と心の力の衝撃を与えるものであり、そして神も知っている。彼らはどこにもいて、どこにもいないからだ（つまり常言で言う「頭を挙げて3尺に神がいる」、『レ・ミゼラブル』の司教が言った「地下3尺に神がいる」）。

3 社会心理学からなぜ善悪に報いるのかを説明する

善悪に報いがあるということは社会学的にも解釈しやすい。

一方で、善行と悪行はいずれも対象の見返りを導入し、知恩図報、仇必報を含むのはすべての正常な人が持っている心理と自然にできる行為であるため、人に優しく、人も必ず桃を投げて李に報いることができ、人に悪く、人も歯を返すことを承知している。

一方、善行はみんなの認可、信頼を得ることができ、みんなは一人が資金、労働、時間を投入して善行をして公益をすることを望んでいるのを見ると、この人はいい人で、悪い人でも人をだますことはできなくて、人をだますことはできなくて、安心して付き合うことができて、みんなは喜んで、安心して彼と協力して、あるいは機会を紹介することができて、このように発展の機会は大幅に増加して、そしてみんなはそれに対して認可して、信頼して、それは協力しても直接に迅速に全面的に深く行って、また交流して、考察して保留する必要はなくて、協力コストはもし悪をして、みんなに嫌われて、憎まれて、それではみんなは避けて、できるだけ協力しないようにして、確かにやむを得ずつきあう必要があっても保留して、機会があればわざと絆を懲らしめて片付けたり、いろいろな条件を高めてもっとコストを払わせたりすることができます。

つまり、人に優しく、人になることができれば、より多くの助けと機会を得ることができ、右往左往して、至る所で「貴人」（自分に役に立ち、助けたい人）に出会い、人に悪い、悪事をする人は、人に嫌われ、排斥され、孤立し、阻止され、至る所で壁にぶつかり、何事もうまくいかない。

よく注意して観察してみると、社会で発展している人や企業は、基本的に人間としての能力が高く、口コミやブランドイメージを重視し、仕事の初心と出発点が良く、善行をして公益をすることが好きで、しかも愛、善心が大きくなるほど大きくなることがよくあります。例えば、ゲイツの大きな力、全身全霊の公益投資は彼を永続的に衰えず、ますます大きな成功とますます多くの富を得ることができます。自分の利益ばかり考えていて、悪巧みをして、背信して、手段を選ばない人や企業は、ほとんど発展することができなくて、たまにチャンスがあってもすぐに衰退してしまいます。

4 善悪には報いの余地がある

多くの人は善あり悪ありの報いに疑問を抱いているが、ここではよくある疑問を列挙し、一つ一つ答えていく。

Q 1：なぜ良い人もいれば悪い人もいれば、無茶をしても悪いことをしない人もいるの？なぜ善悪はすぐに報われないのか。

A 1：善悪には新聞があっても差はない。あるものはまだ新聞が出ていないだけで、時間を長くしてみると新聞があるが、大部分はすぐに新聞を出すわけではない。つまり、「新聞を出さないのではなく、時が来ないのではなく、時が来ると、すべて新聞を出す」というのが常だ。

善悪に報があるのは、迅速でリアルタイムに報が出るのではなく、隠れていて容易にみんなや天に気づかれなかったり、複雑な場合があったりして判断がはっきりしなければならない（法罰もすぐに実行するのではなく、状況を分析して理由を考えて判断して実行する）、報はタイミングが必要で、需要があるとき、適切なときに報が発生するからだ。だから善行をして、すぐに報われることを望んでいないで、後で必要な時に自然に報われることができることに気づくことができて、悪行をした人がしばらく悪報を受けていないことに対して、みんなはそれをできるだけ早く報いを受けるように推進する以外に、それが報いを受けていないことに文句を言う必要はなくて、ただチャンスがまだ来ていないだけで、あるいは悪行をした人はしばらく元気でしばらくみんなの憎しみ、呪いの心力と天の罰磁場の衝撃に打たれて、それが弱って

いる時になってこそ、もっとひどく収拾することができる。悪事をしているのに風光を返す人たちは、いったん敗色が訪れると、一敗地に落ちて収拾がつかないことがよくあり、悪事をしていない人ほど挫折してもそれほどひどくはならないように見えます。

Q 2：善悪の報いには量的な基準があるのか？なぜ同じことをする人もいれば報いが多く、報いが少ない人もいるのだろうか。

A 2：善悪有報には定量的な基準があり、各行一善、一悪には応報があり、応報の量も基本的に施行者の意思と力、施行による効果に比例する。

同じことをするのは出した力が同等であるだけで、実行した効果とも同等であり、必ずしも同等ではない（望むのは尽力する程度で、金持ちと金のない人が同じ金額を出して公益をし、金のない人の心はもっと良く、願いはもっと大きい）ので、多くの人に報いが少ない人もいるだろう。

また、報いは自分の言動に由来するだけでなく、先祖が徳を積むことや悪を積むことにも関係しており、先祖が善を行うことで自分も善を行うことができれば福報の蓄積がより大きくなるし、先祖に余沢がいることで悪報の処罰力が低下することもある。例えば、明末の皇帝の中には悪いが祖沢が尽きていない（先祖が積もった福沢は、先祖が社会に貢献していると理解でき、多くの人々が感謝しているため、子孫をできるだけ支持している）ため、威張っていることを維持することができる。

Q 3：李宗吾厚黒学理論が提案した成功富貴は善業功徳ではなく顔が厚く心が黒いという観点をどのように評価するか？

A 3：厚黒学の著作は劉邦、曹操などは顔が厚くて心が黒くてこそ成功し、項羽などは厚黒が足りなくてこそ失敗し、「劉玄徳七姓の家奴は厚く、韓信が股のぞきを受けたのは厚く、越王勾践臥薪嘗胆は厚く、曹操はむしろ私の負い目は黒、唐太宗が兄弟を殺して父の上を黒、趙匡胤黄衣加身は黒であることを提出した。厚い反義は「匹夫の勇」、黒の反義は「婦人の仁」である。韓信は厚くも黒くもなく、長楽鐘室は結局首異所にあり、範増は黒くも厚くもなく、中離間の計で客死異郷にあり、項羽は「匹夫」、「婦人」の両方がそろっていて、泥だらけで支えにくく、江山はおとなしく人を譲るしかなかった。「厚黒史観：善人は長命ではなく、災いは千年残る。これはどういうことか。冥頑強で長命が多く、霊秀は早死にしやすい。これはまたどういう道理か。もちろん寿命が長く、暮らしが良いか悪いかは、すべて「霊秀」か、良い人かどうかにかかっていないからではない。儒学道学仏学にだまされてはいけない。日日善行をすれば良い業果が得られるとは限らない。もしそうであれば、このような明確な基準があれば、誰もが大善人になり、世界も今のような姿にはならなかっただろう」、そして「厚い黒者は一つのことを求めるために手段を選ばず、自分の栄辱の節にこだわらず、厚い忍耐を屈服させ、黒いことを張させ、屈服することができ、この２点をやり遂げることができて、自然の向かうところ敵なし」。

これらの観点は偏狭で概括的で、管の中で豹を窺っている。その言及した成功できる歴史上の人物は、確かにいくつかの面で汚点があるが、私たちは彼らの汚点のある、厚い黒い面だけを見てはいけない。さらに、彼らの大きな面が良い善であることを見てはいけない。そして、社会に大きな功徳と大きな貢献がある。例えば、劉邦、朱元璋など、各方面の力を結集して天下を平定し、社会を秩序ある人民に戻して安定した生活を取り戻すことができる。その功徳は非常に大きい。彼らは本当に大きな面の善、その不足と破壊よりも大きな社会貢献によって、福報を得て成功したのだ。失

敗した人物といえば、仁義心と慈悲の面があるが、項羽には上級の宋義と熊心を殺し、20万人の降伏秦兵を殺し、阿房宮を焼き払うなど多くの背信行為があり、相手の下にも民衆にもよくない。その失敗は厚黒ではなく、黒すぎて非道で失敗したと言えるほど、これらの原因によるものが多い。そして、その「厚い」事例は、実は基本的に一時的な妥協の事例であり、これは生存と発展のために一時的に矛先を避けて恥を忍んで重荷を負わないことが必要であり、かつ一時的な対応性であり、そのような長期的な厚顔無恥ではないことも間違いなく、その「黒い」事例は、大きな、良い目標を達成するための柔軟な、一時的な、細部にこだわらない手段であり、適切に理解できることも少なくない。

しかし、その宣伝している善人や良いことは、結果を報告することができず、悪人の災いは富貴で長く、さらに点で概観し、偏在している。個別の特殊な状況の一時的な状況を用いて全面的なほぼ長期的な状況を否定するものであり、全体的に見て、時間を長くすると、基本的にほとんどが善悪に報いがあり、善人には報いがあり、悪人には末路がない。

厚黒学の理論は、忍耐強く、物事をするには果敢に決心しなければならないと提唱していることを学ぶことができるが、その春秋の筆法の内容に誤解されてはならない。

Q4：なぜ善行をしたのか、それとも不幸や失敗をした人がいるのか。

A4：善行をしたら対応する善報福報があるが、対応する善報福報以外にも善報福報をするには対応する善行が必要で、少量の善を行うことができず、全面的に全方位の善報福報を得ることができない。

Q5：ある人は善行をして公益をしたが、落ちぶれたり、事故を起こしたりしても助けられなかった人とみんなの逆の助けを得られなかったのか?

A5：援助を受けた人のほとんどは助けてくれたことに感謝しているが、助けが必要だとは知らなかったり、大きな助けを与える能力がなかったり、大きな見返りを要求することができなかったりすることもある。例えば、少し助けてくれただけでは相手に報告してもらうことはできず、何元かあげたことがあると自分で事故を起こして弾丸を止めるように要求してはいけない。

Q6：叢飛と妻ケイダンの善行をどのように説明しますが、天に恵まれず、病気になったり、意外にも不幸にも亡くなったりしましたか。

A6：この点では個別の現象は主流を代表するものではなく、ほとんどの人が善を行うことは善の報いを受けることであり、一方で他の場所がうまくいかない（公益を高くするのは少しよくない）、そして祖先から蓄積された報いもあるかどうかを見る必要がある。

また、メディアは落差効果を作るために人気を集め、宣伝している数百人の子供や家庭の結果のほとんどが白眼狼であることを含めて、わざと誇張している。中国の

文明はここまで壊れていない。

5 福報の理由とその重要性

善報は善の良い報いであり、福報は善報の一種であり、「福」を得る報いである。

「福」は福、福分であり、「幸福」と理解することができ、それは富（富があるのは「富」にすぎない）だけではなく、事業、富、健康、顔、家庭、子女など多くの面を含む。

一人で幸せになると、いろいろな面で何事も順調になり、運がいいところでいいチャンスがあり、どこにも貴人が助けてくれます。

しかし、一人では福がないか福が足りないと、往々にして多くの不調に直面し、多くのことをするのは常に困難で、意外にも多く、一生心身ともに苦労し、成功することも難しい。

みんなは福があることを期待して、富貴繁栄を追求しようと努力しているが、多くの人は本当に富貴繁栄させることができる原因が何なのか分からない。運命が定められているのは天命に任せるだけだと思っている人もいれば、神に仏を拝み、線香を上げて頭をたたいたり、経を読んで輪を回したり、時を選んで風水を選んだり、お坊さんや道士に頼んだりすることで富貴繁栄と厄除けをすることができると思っている人もいる。多くの人が不幸や不本意なことに遭遇しても、何が不幸や不本意を招いたのかを見つけるのではなく、運が悪いと文句を言うことがよくあります。

前述の善悪に対する報いのある記述を通じて、善悪に報いがある原因を理解することができて、それではどのようにして善報、福報を得ることができて、至る所に幸運、吉祥があって、悪報、災いを避けることができます。

善報があって悪報を避けるには、善心善行が必要であり、福報があり、幸運があり、災厄を避けるには、善徳を修め、仁愛を施し、福田を植え、恨みを少なくしなければならない。数千年前、文王は何をするにしても「徳」が最も重要であることを発見し、「天命靡常、唯徳は輔」を提案し、『史記･孝文本紀第 10』も「天道禍を聞いて恨みから福繇徳興」という観点をまとめた。

貧富の盛衰の原因は自身の徳行にあり、富貴福報は運命ではなく努力と積徳の有無にあり、すべての福は修業して植えたもので、しかも一分の努力と一分の収穫をして、福報を得るには、普段から善義を多く行い、多利他を行い、仁愛を多く施し、公益を多くして功労徳を積み、福田を広く植えなければならないが、神に仏を拝み、法を重んじることは運を改善するのに役に立たない。私たちが事が思い通りにならず、目標に達しないときは、自分の徳がまだ十分に蓄積されていないのではないかと反省しなければならない。欲しいものを手に入れるには福報がなければうまくいかない。

成功は福報に大きく依存している。成功は方向+方法+努力+運にかかっているため、方向、方法は多くの観察と思考を必要とするだけでなく、運の影響も受けて、運が良くて簡単に良い方向の方法を見つけることができ、そして運が良くてどこでも必要な人、資源、機会に出会うことができる。

普段は善願があり、人に優しく、善行を多く積むことで自分がみんなに認められ、祝福され、助けられて福報を得られ、運が爆発する。普段は徳を積むことが少ないと福報が少なくなるので運がそれほど良くなく、発展が遅くなります。さらに、心が乱れ、人を損して自分を利するとみんなに嫌われて福分が失われてしまうと、物事がうまくいかなかったり、思い通りにいかなかったり、壁にぶつかったり、悪運が続

いたりすることがよくあります。

私たちもよく周りの人の中には、悪巧みをしている人がいますが、最終的には何も得られず、巧妙になっている人もいますが、オタク心が厚いということは、かえってあちこちでうまくいって、恵まれていることがよくあります。

発達し、豊かな国を見渡すと、往々にして人民の素質が高く、道徳的品行が優れ、道徳を損なうことをしない、他人に友好的で他人を傷つけることはない、だから彼らは普遍的に福報を得て比較的に楽しく、幸せで、豊かに過ごしているが、貧しい立ち後れた地域には往々にして多くの人が心を鬼にしている、唯利は事をして規則を言わず、道徳の底線もなく、社会的価値観は歪んで笑い、貧困に笑い、娼婦を笑わず、他人に友好的でなく、自分の目上の人に親孝行もせず、盗み、いじめをすることがよく発生し、結果として福報が得られないことがさらに貧しく管仲の言葉を引用して「倉は実で礼儀を知る」と言う人もいるが、「知礼は省エネで福報を得て倉は実」と言うべきだ。

「哀れな人には必ず憎むべき点がある」、「苦難は認識に値する」という面からも、福がない、貧困、運が悪い、災い、苦難はすべて自分の原因があることを説明している。自分の命の苦しみを嘆くよりも、自分が徳が薄いかどうかを反省し、改善したほうがいい。

「しかし良いことをすることを知っていて、前途に問うな」、善行をして徳を積むことがあれば、必ず福報があり、大きな愛と大きな功徳が社会にあれば必ず大きな成果がある（大きな功徳が多くなれば、大きな富も予定通りになり、大きなポストも声望が達するために探し回って物を取るようになる）、もし追求の成功に達していなければ、払うべき仁徳と愛がまだ対応に必要なほど大きくならず、まだ努力を続けなければならない。

何かをして失敗した人の多くは、徳を積むのが足りず、福報が冥冥冥の中の助力に欠けていない場合や、人と善を結ぶ縁がどこにもない可能性があり、いくつかの面で抵抗されて阻まれたり、チームを団結させたり、助手を育成したりしてチームがリンクを外したりする可能性があります。

6 仁義と善は善報、福報を得るのに有利である

仁徳和善とは、慈悲の心をもって、他人と天地万物を大切にし、至る所で利他を尽くし、人と共に勝ち、そして人を哀れみ、衆生を博愛し、助けが必要な人と生物を喜んで助けることである。

仁徳と善こそ善報、福報を得ることができる。なぜなら、

1仁義と優しさは、善縁を広く結び付けて人脈を築き、より多くの発展機会とより多くの助けを得ることができます：

仁徳はみんなからより多くの認可、称賛を得られ、善縁を広く結び人脈を増やすことができ、そのためにより多くの支持と発展の機会を得ることができる。仁徳のある人は人を傷つけないことは誰でも知っているので、付き合うことにリスクがないことや、人のことを考えることができるので、協力することはウィンウィンの保証と各方面の利益の保護に安心することができ、それによってみんなは友達になり、協力することを望んで、しかもこのような気兼ねのない協力は深く、低条件の要求と効率的で、低コストであることができます。また、誰もが仁徳にチャンスを優先するのが好きだ。好意的でチャンスが彼に良い結果をもたらすと信じていることと、誰もが仁徳を助けることを喜んでいることから、必要な時や困難な時に、このような助けは往々にして一人がさらなる発展を遂げたり、苦境から抜け出したりする鍵であり、中国では「貴人の助けがある」と呼ばれている。

不仁不義、愛がなく、薄恩寡義な人であれば、他人のことを考えず、他人と協力して勝つことができない人であれば、みんなは彼が彼と接触したり、付き合いをしたりしたくなくて、至る所でそれを抑圧したり、エッジ化したりするのを避けているので、その発展の機会は自然に少なくなり、必要があっても困難な時に助けてくれる人はいないだろう。

公益に熱心な人ほど事業が順調で、寄付が多い企業も認められ、事業が大きくなるのはこのためだと観察することができます。

だから私たちは必ず仁徳の心を確立して、愛があって、他人の利益と感受性を重視して、誠実に言ってやり遂げることを言って、事をするのは頼りにして安心させて、みんなに広く認められて、発展の機会は自然に増えて、成功の確率は自然にますます大きくなって、これはつまり常言の「事前に人をする」という道理で、人をするのは認められてその事をするのは普通は成功して、人をするのはすべて問題があって、その事をするのは自然に成功しにくいです。私たちの周りでもよく見かけますが、一人、一人の職場で、みんなに認められたり褒められたり、協力したり助けられたりすれば、それは順調に発展し、多くの人に好感を持たれなかったり、よく見られなかったり、衰えを見られたりすれば、一般的には発展しにくいでしょう。

2仁義と善が結集して強力なサポート力を形成し、競争優位性を形成する：

仁義と優しさは各方面の支持を得て、それによってより良い発展を得る最善の方法であり、ビジネス界、政界、その他の分野にかかわらず、仁徳を実行して広範な認可、受け入れ、支持を得て、それによって圧倒的な競争優位を獲得したのである。もし周が商の代わりに天下を得て、田氏が姜氏の代わりに斉国を掌握して、すべて仁徳で広く認められて、多くの力を団結させて、最後に相手より強くて非常に多い絶対的な優位を形成して、それから嚢胞を探るように相手に取って代わった。

政治闘争の中では、どちらか一方に偏りすぎず、比較的中庸で、比較的に優しく、各方面に害のない人も、みんなに選択され、支持されやすく上位にランクされることが多い。

3仁義と善は敵を味方にして対抗を減らすことができる：

仁徳も敵を味方につけ、仁徳で敵対者の承認を得て、敵意を減退させ、感化させて支持の力に変えることができるため、「仁者無敵」という説もある。

敵や悪人に対して敵として扱うのではなく、彼らの難所をよく理解し、彼らの角度から考え、主張し、彼らの状況や条件に基づいて彼らを助けて、物事に対して人に対して、みんなで方法を考えて困難を克服して問題を解決し、互いに言い争ったり闘ったりするのではなく、よくこれらの彼らへの愛を通じて彼らを感化し、敵を味方にすることができると信じている。

4仁義と優しさは、より多くの富を得ることを容易にします。

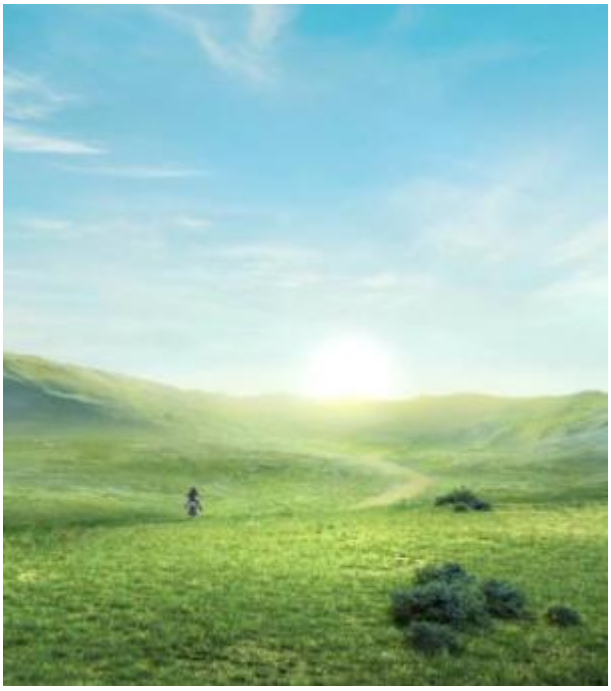
仁徳はまた金を生むことができて、常言の“仁茂財と”、和気、慈悲深い人と職場の金運はもっと良くなることができて、みんなが金を儲ける機会がある時更に仁徳の人と協力したくて、それによって仁徳の人が金を儲ける機会を更に多くならせて、財は人と同じように更に善良で、親和力の良い人に接近することが好きで、そして財は水のようで、水は低い所に流れて、だから謙虚で卑屈な人は他人を尊敬して自分を低い位置に置いて、更に財産を蓄積することに有利です。

5仁義と善こそ富貴を包含することができる：

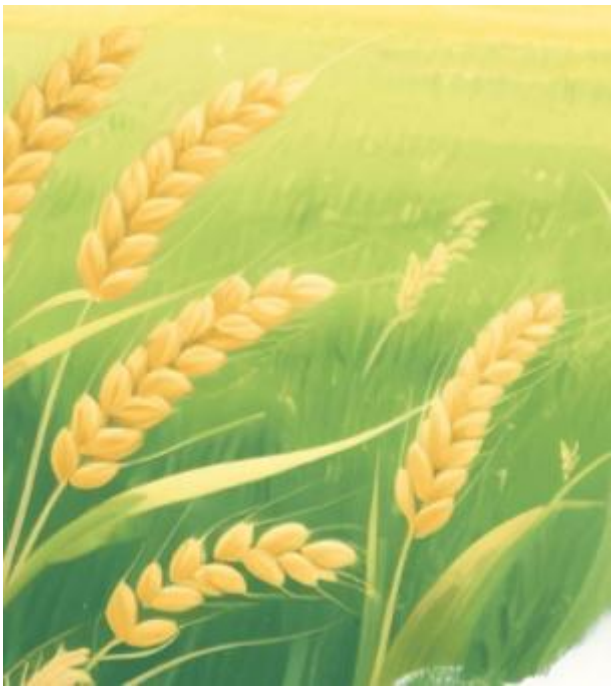
厚徳の積載物は、深い徳行の修養があってこそ、富貴に耐えられるが、徳行が足りないのに高位にあり、大量の富を持っていれば、徳が位に合わず、徳が財に合わず、いずれ災いがある。

つまり、仁義と善が善報、福報を得ることができ、心が寛大で徳が厚く自然に福沢が綿々としている。

筆者自身の座右の銘は「天地万物を敬い、仁を厚くする」であり、天地万物に対して「敬」と「愛」を必要とし、自分に対して「修持」をもっと重視し、すべての人と事に対して「仁厚」を実現し、それで福を得なければならない。



7 多くの善行をして徳を積むことで福報を多く得ることができる



善行は善行をし、必要な人や生物を助け、利他的なことをすることであり、徳を積むことは社会に貢献することであり、社会の各方面の建設に力を入れ、社会の各方面の改良、発展を推進するなど、社会に功徳がある。（注：宗教によっては「功」という概念もあるが、修持した科目、本宗教への貢献を指すだけで、社会に貢献した功徳ではない）

公益、善徳を行うことは、他人の心の力の引き立てを得ることができるだけでなく、天からの配慮を得ることができ、それによって事業がより順調になり、体がより健康になり、家庭がより平安で幸せになり、子孫がより繁栄し、つまり俗に言う福報を得ることができる。

「広種福田」の概念は、「福」は支払い、種を蒔くことによって得られ、善を植えることによって善果を得ることができ、私たちは多くの善行をして徳を積まなければならない。

1 善行をして徳を積むことは運を改善し、運命を改善する最善の方法である：

人によって運、運命が違い、そして運、運命は往々にして努力の程度よりも人の発展に影響を与えることが多く、これは理解しにくいように聞こえるが、多くの事実は確かにそうであることを認めさせている。

それは何が人の運、運命を決めたのだろうか。

中国の伝統的な言い方によれば、「一徳、二命、三風水、四蔭功、五読書」であり、私たちは一つ一つ分析することができ、そしてこの 5 つの要素が実は基本的に「徳」と関係があることを発見することもできる。

まず、トップにランクインしたのは「徳」そのものであり、つまり最も重要なのは自分が「徳」を持つことであり、俗に言う「心が良ければ命がいい」のように、心が良くて、良い徳があって、多くの善行をして徳を積めば、運命は自然によくなる。

次に、2 位は「命」、つまり「命理」で、中国の伝統的な言い方では一人の命理はその誕生日（年月日時）によって形成される「四柱八字」にかかっており、異なる誕生年月日時に異なる「命理」が決定されている。これは科学的な道理で正確性を証明することはできないが、古今の多くの実例から見ればかなり正確である。これは実は理解するのも難しくなくて、異なった時刻で、宇宙の雰囲気の環境はそれぞれ異なっていて、だから異なった時刻に生まれる人の先天条件は異なっていて、例えば 1 粒の種は春と冬の 2 種類の異なった節気、環境の下で発芽して、先天条件の違いはとても大きくて、先天条件は人の一生の影響に対してまたとても大きいです。

しかし、何が人の誕生日を決定したのか、妊娠時間、胎児の発育状況の影響を受ける以外に、伝統的に言えば両親と先祖の積徳が影響の主要な要素であり、両親と先祖には良い積徳があり、子孫は比較的命理の良い時に生まれ、両親と先祖の道徳が悪くなり、運命的に敗家した子孫が生まれるので、この要素も「徳」が決定したのです

が、この「徳」は両親と先祖の「徳」であり、自分の「徳」ではありません。まして先天的な命理は両親と先祖の福徳の影響を受けているが、運命は後天的に自分の努力と修徳によって改善することができる。

それから第3の要素「風水」を見てみると、中国の「風水」の理論によると、陽宅、先祖墳の通風採光、周囲環境、地勢水文などは家族の運気に影響を与えるもので、これも数千年にわたって確かに存在し、効果的な理論であることを証明してきた。例えば、良い、広い風水は人の心を広くし、思い切ってやるが、局所的な風水は人をけちで内向的にさせる。しかし、この誰が良い風水宝地を手に入れることができるかは、中国の伝統的な言い方によっても「徳」にかかっている。徳のある人は無意識に風水宝地を手に入れることができるからだ。あるいは、選定した場所がもともと風水宝地ではなく、その入居によって山移水改が発生して風水宝地になるからだ。徳のない人は苦労して風水宝地を見つけても、自分の徳がこの風水宝地に合わないため、この風水宝地が生んだ福に耐えられず、かえって災難が発生し、最終的にはこの風水宝地を脱退するしかなく、あるいは脱退しなければ、この風水宝地も様々な要素に破壊されて風水宝地ではなくなり、つまり中国「厚徳担物」という言葉は、重厚な徳行がなければ風水宝地というものを乗せることができない。

風水は運の良し悪しの表れであり、運の良し悪しを招く原因ではなく、風水、日を選ぶなどの様々なこだわりで運を改善することはありません。運のほとんどは徳行にかかっています。盛衰を決めるのは自分の徳行で、盛衰は徳にあり、術にありませんので、玄学置物、先祖墳などの風水施設を修築して運を改善することを求めてはいけません。「道」とはつまり仁徳を堅持することであり、より重要で基礎であり、風水、日を選ぶなどの「法術」はせいぜい小さな程度、一時的な促進、あるいは主により良い凶行回避を実現するために使われるが、やましいことをしていない人には、仇を討たれた鬼神、心の力が報復を仕掛けることはない。そのため、もともと凶暴なことはなく、これらの法術も必要ではない。

4つ目の要素「陰功」は、先輩の徳を積むことによる結果であり、徳にかかわるものでもある。

5つ目の要素「読書」は、自分で努力してより多くの知識を身につけて運命を変えることであり、自分で努力して勉強することも自力更生の「徳」である。

運を改善するには基本的に上記の5つの方面を通じて、その他の例えば神に仏を拝むことによっても一時的に運を改善することができるかもしれないが、前述の「天地、神鬼とコミュニケーションし、力を借りるいくつかの形式」の節で述べたように、神に仏を拝むには効果があり、社会に寄付し、貢献するための善の願いを約束して実行する必要があり、また、陣に臨んで仏の足を抱いて神に仏の助けを乞うよりも、普段の表現を通じて彼らの認可を得て彼らの助け

筆者自身も公益をすることがありますが、慈善公益をすると運気が大幅に改善され、大きなリターンを得ることが多く、公益を多くすると各方面が順調になることを深く感じ、公益をすることがリターン率の最も高い投資であり、他のどの投資よりもリターン率が高いことを感じました。また、公益慈善をすることは、生産比最大の投資を投入することであり、多くの場合は1本の利益であり、少しでも投資すれば超多くのリターンを得ることができると言える。公益をするたびに、やがて思いがけない収穫や収益があり、公益をするのは少しの支払いでしかなく、非常に倍のリターンを得ることができます。ゲイツ氏らは、施しをすればするほど豊かになる秘密をよく知っているはずなので、いつも全力を尽くして公益を寄付しているが、結局、寄付によって富が減るのではなく寄付が増える。

2 善行をして徳を積むことは苦境、災厄からの脱出に有利である：

中国の古語で言う「一徳は三劫に至る」には理がある。善になればなるほど順応し、善願、善行のある人は、困難にぶつかってもいつも他人の助けを得ることができ、天からの恩恵を得て、難題を順調に解決し、難関を乗り越えることができる。純粋で至善至徳の人は、しばしば危険を危険にさらすことができ、ひいては災いで福を得ることもできる。

苦境に立たされ、災厄に遭遇し、善心を持って善行を続けることができれば、多くの人の助けを得て、冥冥冥の中の力（天、そして私たちの善行を受けた人とその家族の心の力、ひいてはその先祖の魂を含む）の助けを得ることができて、それによって吉を凶化して、苦境、災厄から抜け出すことができて、あるいは苦境、災厄に遭遇したために受けた損失を減らすことができます。

古今東西いずれもそうだが、パキスタン人がテロリストに捕まったという報道を見たことがある。毎日できることを続けて自分の心を強くし、最終的に幸運にもチャンスを得て脱出したのだ。

だからみんなは困難にぶつかって、がっかりしてはいけなくて、天を恨んではいけなくて、自分で努力してよくして、方法を尽くして対応して、最大の善願を併発して、できるだけの善事をして、加えて天と神々のご加護を祈って、きっと難関を突破して、災難を抜け出すことができます。

3 善行を積むことで家族や子孫を守ることができる：

善行をして徳を積むことは事業と家庭を繁栄させる最善の方法であり、前文でも古来から大家族は善行をして徳を積むことによって繁栄してきたと述べている。

善行をして徳を積むと、恩恵を受けた人は善行をして徳を積む人に感謝するだけでなく、その子孫の愛護にもプラスになり、心の力で善行を積む人の家族を加護し、助力することができ、そうすれば、善行を積むことは自分で報われるだけでなく、家族や子孫も庇護されるからだ。

私たちは普段観察して比較すれば、善良で徳のある人は現在の生活条件の良し悪しにかかわらず、その生まれた子供は往々にして質が比較的に良く、顔と IQ は一般的に他の家の子供より高く、生活が貧しい顔が一般的だが心が素朴な夫婦も、成長が良く、聡明で健康な子供（潮汕の俗語では「マダニ生アカガニ」と呼ばれている）を産むことができ、これも忠誠で徳を積む結果である。

大成功し、大富貴になれる人もいて、本人の仕事の努力があって、善行を重んじて徳を積む以外に、基本的には祖沢がいて、つまり祖先には大きなまたは多くの徳を積む人がいます。

司馬光は「遺子孫に金を積むことは、子孫が守れるとは限らない。遺子孫に本を積むことは、子孫が読むことができるとは限らない。むしろ陰徳を冥冥の中に積むことは、子孫が長く続くと思っている」と述べ、積陰徳が子孫を庇護できることも指摘した。

また善行をして徳を積む人も子孫が繁栄しやすいため、家族が繁栄している人が多いのは基本的に祖先が徳を積むことだと観察することができます。潮州市饒平県では、元代に余英という人がいて、とても親切で、ある時は政府に穀物を渡すことができずに厳しい処罰に直面している多くの民衆に渡す必要のある穀物を渡して、万民を救うことができて、広く称賛されて、その子孫も非常に繁栄して、今まで十数万人の子孫がいて、余姓もそのために現地で大姓になった。

4 善行を積むことは自分の心身を健康にするのに役立つ：

人を助け、社会に貢献したことで、心がなぐさめ、ゆったりし、誇りを感じ、心

身全体が昇華した状態になることは、心身の健康にとって非常に良く、「仁者寿」の言葉のように長生きするのにも有利である。また、私たちが心を痛めたり、落ち込んだりしたときに、愛の活動をすると、気持ちがすぐにスランプから抜け出すことができます。

つまり、善行を積むことは自分にとっても、社会にとっても大きな利益であり、特に自分と家族があらゆる面で福報を得ることができる。

8 慈善公益を多くしてこそ、人生の意義と社会的価値をよりよく体現することができる

私たちは誰もが社会的責任感を持って、功徳を追求する心を持っていなければならない。そのため、できるだけ多くの善行をして徳を積み、多くのお布施をし、多くの公益をしなければならない。中国は古来から社会的責任感、特に儒家の入世精神と対立功立徳立言の追求を強調してきた。人生は自分がより良い生活を送ることを追求するだけであれば、世の中に来てはただ食べたり飲んだりして、何も残っていないだけで、それは人生の意味ではなく、社会に貢献することができてこそ、人生を非常に意味のあるものにすることができる。誰もが生活の平板さを追求しなければならず、人生は平凡ではありません。毎日どのように徳を積んでどのように社会に貢献するかを考えるべきで、名利を追求し、楽しむことを考えているのではありません。

一人がお金を持っているだけであれば、それは金持ちにすぎないが、社会に貢献できれば「高い」ことになり、至るところで尊重され、「豊かで高い」ことは単純な「富」よりも意味がある。

社会の発展の角度から言えば、誰もが功徳を追求する心を持っていて、社会に貢献することを個人の利益の前に置くと、社会はみんなの足を踏み入れて急速に発展するだろう。

9 善行積徳のいくつかの理念、方式、原則

より多くの福分を得たいなら、より多くの善事をし、より多くの徳を積むべきである。では、善行をして徳を積むには誰もが条件と方法があるのだろうか。どのような展開方法がありますか。どうすればもっとうまくできるのでしょうか。

1 誰もが善行を積むことができます：

善行積徳は誰にでもできる条件があるので、自分の実力が小さすぎて、経済などの能力が限られていて展開できないと思ってはいけません。甚だしきに至っては多くの人が善行積徳はお金があって、能力があってこそできるものだと思ってはいけません。実は財物を寄付するのは多くの善行積徳行為の一つにすぎません。多くの善行積徳行為はあまり必要なく、お金を使う必要もありません。例えば、生活、仕事の中には人との便利さ、人を引っ張るのは往々にして一挙手一投足の労にすぎず、また多くの人を危難から救う大きな功徳も往々にしてお金を使う必要はなく（例えば溺れている人を水に引き上げる）、そして正のエネルギーを伝え、人を鞭打って激励し、他人の矛盾を調停するなども往々にして言葉が必要なだけである。

人によっては、自分に合った様々な善行を積む方法があります。例えば、医師が命を救い、傷を助け、患者のために費用を節約し、患者を援助することは、善行をし、徳を積むことである。教師は知識とプラスのエネルギーを広めるために努力し、

学生をより多くの人に育て上げて才能を育てれば、すべて善行をして徳を積むことになる。政府関係者として、庶民に有利な政策を推進し、民衆に有利な発言を多くすることは、善行積徳である。

能力があれば大きな公益をし、能力があれば小さな公益をする。たとえ学生であっても、経済的な条件がなく、能力もまだ一般的であるが、できる限りのボランティア活動をすることによって社会に貢献することもできる。例えば、法律専門の学生は法律的な助けを必要とする人々の問題を処理することができ、これによって社会問題を解決することができ、また彼らに対して鍛錬と向上ができ、医療専門の学生はそれぞれの貧困家庭に行って彼らのために初歩的な医療サービスと健康知識の伝播を提供することができる.....貧困や障害のある弱者であっても、周囲の必要とする人や動物に対してできる限りの助けと配慮や便利さを提供することができる。現在、多くの人はまだ愛に欠けており、積極的で積極的に人を助けることは少なく、公益事業のためにお金を出して力を出すことは広範な参加行為になっていないし、公共交通機関で老人妊婦の赤ちゃんを抱いている人に席を譲るという誰もが簡単にできる行為をしている人は多くないが、これはとてもいけないことだ。

貢献する力が足りなくてもあまり役に立たないことを恐れる必要はありません。一人の力が多くなくても、人が多くなれば少しずつ大きな役割を果たすことができますし、大きな役割を果たすことができなくても、すべての助けは価値があります。被災者の心を温め、喜びを感じさせ、希望を見せ、困難を克服する自信があります。

だから私たちは自分の条件が悪く、能力が高くなく、善行に参加しないことを気にしないでください。たとえ条件が優れていなくても、身を落ち着けて家族を養うことに疲れていても、能力が弱くても、善行をして徳を積む心と努力して力の及ぶ善行をしなければならない。

2 誰もが善行積徳の追求と習慣を形成しなければならない：

私たち一人一人が善行積徳への強い追求を形成し、善行積徳を当たり前のようにすべきこと、つまりすべて善念を持っていなければならない。例えば、役人は幸福をもたらす側、沢は万民に追求され、医者は命を救い、傷を救う追求があり、教師は人を育てる才能を追求し、善念と知識を広める追求があり、慈善活動参加者は貧困を助け、困難を救う追求がなければならない...

そして、これらの追求によって得られた功徳、つまり社会への貢献はお金を稼ぐよりもはるかに価値があることを認識し、より多くの人に幸福をもたらすことを自分のお金を稼ぐ前に置く（例えば、病院は金持ちに奉仕する比較的お金を稼ぐことができる業務だけではなく、貧しい人に奉仕するがお金を稼ぐことが難しい業務も多くしなければならない）。

私たち社会全体も社会に幸福をもたらすかどうか、衆生を成功を評価する主な基準としなければならない。例えば不動産業界に従事して、自分で稼いだものの、住宅価格を推進したのにますます高くなって多くの人々の大きな負担になって、これは失敗して成功したものではなく、医療業界に従事しているが、「診察の高い診察の難しさ」が解決されず、ますます高くなっているのを見て、業界全体も自責しなければならない。

私たちはお互いに功徳を築く心を奮い立たせ、「功徳無量」で挨拶を交わすことをお勧めし、それによって相手がさらに功徳を築くことを奨励しなければならない。

皆さんも普段から善行をして徳を積む習慣を身につけなければなりません。例え

ば、「日行一善、日積一徳」の提唱に基づいて、毎日善行積徳のことを続ける習慣、そして古代には「功罪格」を覚えるやり方があり、学ぶ価値もあり、毎日した善事、功徳、過ちをすべて記録して、このように自分にもっと良いことを促すことができる。また、自宅や職場に「愛の寄付金タンク/箱」を設置して寄付金を集めてから一定期間まとめて寄付したり、寄付を受けた公益団体の入金 QR コードを貼ったりすることもでき、寄付金やスキャンをいつでも投入して寄付金を支払うことができ、寄付の習慣をよりよく身につけ、より多くの家庭や団体のメンバーが寄付に参加することを促進することができます。

3 いくつかの参考になる善行積徳の方法：

善行をして徳を積む方法はたくさんあり、しかも大なり小なりあり、難あり易なり、それぞれ異なる人、異なる状況に適応し、以下にいくつかを挙げて参考にすることができる。

1 社会公益面：

1 社会制度の改良、法治民主の建設を推進し、社会の進歩を促進し、社会管理を改善し、社会を規則的な社会にすることを推進し、社会の消費を減らし、社会の効率を高める。これらは社会全体の人々に利益をもたらし、非常に多くの人に幸福をもたらしたので、功徳は非常に大きく、歴代の賢達が追求してきたものでもある。政府職員は職能権力を利用して政策提案、制定などを通じてこの方面の仕事を展開することができ、一般民衆も建言献策、フィードバック苦情、文章発声などを通じてこの方面の仕事を展開することができる。

2 功を立てて業を立て、国に報いることは、国、社会の各方面の安定、発展、建設に貢献することであり、功徳も大きい。

3 外交和平交渉、説得調停、利益交換とバランスなどの方法を通じて各方面に武闘、戦争の停止を勧告し、戦争を玉絹に変え、社会の動乱を回避し、霊に炭を塗ることを回避し、功徳も非常に大きい。

4 技術、ビジネスモデル、制度などの革新を通じて、さまざまな社会的難題を解決し、民衆に幸福をもたらす。例えば、世界各国で普遍的に存在する診察困難は高い問題であり、新しい体制、技術などでこの問題を解決できれば、それは功徳無量である。

5 生活改善、社会改良に役立つ様々な理論、技術、ソフトウェア、設備の研究と普及を組織、従事、資金援助することも、非常に多くの人に利益をもたらし、功徳も大きい。

6 各種公共施設、設備の建設を発起、組織、資金援助し、みんなにサービスを提供し、便利をもたらす。例えば橋を作って道を作ることは非常に多くの人に便利さをもたらし、公益性病院の設立や資金援助、医療設備や薬品の寄付などの医療サービスレベルの向上は多くの人々により良い医療サービスを提供させ、また水利利用農業の建設も干ばつ災害をよりよく回避し、功徳も比較的に大きく、千秋に利益がある。

7 公共環境の美化、公共衛生の改善を組織し、援助し、より良い公共活動空間を提供することも功徳である。

8 企業を設立し、経済を発展させ、より多くの雇用を創出し、より多くの人の発展を牽引し、より多くの人に生存、発展の機会を与え、社会への貢献と功徳でもある。

9 より良い、より低コストの製品とサービスを創造し、皆さんに利益をもたらすことも功徳です。

2 人の心を教化し人材を育成する面：

香港の有名な玄学の大家である陳朗氏はかつて、「今の世の中はとても悪い。みんなが名声を求め、利益を求めるために手段を選ばない。今の世界で最大の福を植えて、最大の善を行い、誰がやるかによって利益を得て、代々大金持ちになる。」

1 人の心を浄化し、善念を広める。教化民衆は民衆に善従良、廉潔自律自愛、修心養生の行好、社会的責任感を持って積極的に社会建設に投入させ、それによって社会の太平安定とより良い発展に有利であり、功徳が非常に大きく、周公、孔子など歴代の聖賢が追求してきたものでもある。この仕事も長期的な仕事であり、しかもこれまであまりよくできていなかった。「聖に向かって絶学し、万世のために太平を開く」とは、この未完の使命を達成し続けるようにみんなを激励することであり、私たちはこの方面で努力を続け、周公、孔子、釈迦などのように民衆の教化に大きな貢献をし、聖を成仏することを追求しなければならない。皆さんはこの方面でもっと努力して、もっと正のエネルギーを伝えて、誰もが自分の微光を使って、自分のできる限り大きな天地を照らしています。通常のさまざまな人間交流、社会活動の中で善念を多く宣伝することができ、微信モーメンツなどの各種の自メディアでも善念を宣伝する内容を多く発表することができ、また、自分の一部の不動産や工事現場の外壁、自動車の側面にも正のエネルギー、善良を勧める内容や慈善団体が寄付を受けた QR コードを貼り付けることができ、善念を伝えるための書籍、正のエネルギーを伝えるための公衆番号、メディアを印刷することができ、情報を送ったり、手紙を書いたり、役人や社会の公人に錦旗を送ったりして、善良を奨励することもできる（古代に役人に万民の傘を送ったような）。

2 人に悪を捨てて正を守るように勧めるのも、大きな功徳である。特に大きな勧善が成功すれば功徳無量であり、例えば耶律楚才、丘処機が鉄木真に無辜をむやみに殺さないよう忠告して無数の蒼生を救った、また古くから支配者に善から善へ、一方の勢力に暗躍を捨てるよう勧める多くの事例も、大きな功徳である。日常的に人にいろいろな悪い習慣を取り除くように忠告し、心を入れ替えて前非を改め、放蕩息子が振り返って自分が家庭に責任を負い、影響や他人を傷つけることをしないなども功徳である。

3 みんなの思想を啓蒙し、解放する。多くの人はいくつかの古い、立ち後れた、偏屈な、迷信的な思想観念、思考の定勢に縛られ、だまされて、彼らを誤解から導き、思想の束縛を解脱させ、理性、正常な思考、自在な生活、活力を回復させることができて、意義のある非凡な社会の功徳も大きい。

4 教育事業に貢献する。発起、組織、援助、学校運営の支援を含め、学習の進歩の場、施設、書籍、教師の力を提供し、助学、奨学、賞教を提供し、各方面からより多くの人の文化レベルを向上させ、社会のためにより多くの人材を育成することを促進し、公益の深遠な大きな功徳でもある。また教師としても、うまくやれば多くの人材を育てることができ、学生に良い三観を持たせ、知識と技能を身につけさせ、功徳も大きく、お金を寄付する功徳よりもはるかに大きい。成功に向かっている人は、機会があれば周りの人にも多く指導しなければならない。世界最大の功徳は人の悟りを開くことであり、他人の心の明かりを灯すことが一生に与える影響は非常に大きく、多くのお金を与えるよりも役に立つ。

5 人の志と奮闘を鞭打って、励まして自信を持たせる。これは人の心の明かりを灯すようなもので、それによって生活し、よりよく発展させることができ、大きな功徳でもある。皆さんは普段、他人を励ましたり、後輩を教えたり、他人のために力を入れたり、潜在能力を引き出したり、知恵を出し合ったりすることができますが、この方面の善徳を蓄積することもできます。自信の欠如が成功に影響を与え、さらには

卑屈で悲観的で心が苦しめられている人も多い。もし彼らに自信を与え、自信と前向きで楽観的な心理状態を確立させ、良好な心の原動力、心理的暗示を生むことができれば、それもとても良く、多くの中国人は憂鬱で、彼らを楽観させることができても意味がある。

3 危険を助けて困難を救う方面：

1 人を危難に救う。危険に脅かされたり、窮地に追い込まれたりしている人を助けることは非常に意義があり、特に人の命を救うことは非常に大きな功徳である（俗に言う「人を救うことは 7 級の浮屠を作ることに勝る」という）ため、義を見て勇敢に人を救うために傷害を免れ、個人の損得を顧みず命を救うために心を込めて命を救う医者、国を守ることを誓った軍人、命の危険を冒して人を水火で救う消防士などは非常に偉大である。また、災害救援を支援し、大衆を危険から救うことも功徳無量である。

2 医者に薬を贈る。経済的に困難な患者や、世話をしてもらえなかったり、交通が不便だったりして、より良い診療を受けることができない患者に対して、タイムリーでより良い診療を受けるための資金を与え、支援することも非常に意義がある。

3 貧困扶助は困難を救う。貧しく飢え、生活が困難で、世話が不足していたり、避難所を失ったりした人には、財物を施して彼らを引き取って難関を乗り越えさせ、より良い生計を立てるスキルを身につけさせたり、就職や起業などの生計を立てる機会を与えて苦境から脱出させたりすることが大きな功徳である。現在、多くの人は生活が苦しく、多くの地域、国もまだ貧しいので、私たちは貧困を助けなければなりません。さまざまな遊休･廃棄物をできるだけ利用すれば、貧しい人々に必要な古着や古道具をできるだけ集めて後れた地域に送ることができる（この方面ではすでに多くの人が展開しているが、十分にできていない）、家では食べきれないが清潔な料理が壊れていない食べ物、レストランでは売れないが新鮮な料理、お客様が注文したが清潔な料理が食べられていない場合も、まだ衣食を解決していない人に食べることを考慮することができる。寄付するだけでなく、生計を立てるスキルや富を築く方法（つまり「魚を与えるより魚を与えるほうが魚を獲るほうがましだ」）を教え、彼らの立ち後れ、保守的な考え方を変え、富を築く考え方を啓発し、さらに多くの雇用、起業などの生計を提供することもできます。例えば、地元の産業経済を発展させ、地元の製品の販路を開くことに協力し、現地の余分な労働力を地方に輸出したり、地方で材料加工任務を探してみんなにやったりするなど、一人で生計を立てる機会と技能を持たせて、往々にして家庭生活を保証することができます。

4 勤勉で向上心があり、生活が苦しい学生に対して、援助、励ましを行うことは、彼らを助け、温かみを感じさせ、才能を得やすく、そしてこれからも基本的には社会にプラスのエネルギーを満たし、社会に報いる確率が高いことに感謝しています。

5 流浪飢えや寒さ、さらには傷害、捕殺された動物を救護することも、愛と功徳であり、仏教道教が提唱する放生はこの方面の行為である。

4 除暴安良方面：

1 専制独裁残虐政権を倒し、迷信を打破し、邪教に打撃を与え、抑圧され、迫害された民衆を救い、万民を倒懸から救い、功徳は天に添う。例えば劉邦、朱元璋は残虐な前朝統治者を追放し、ベトナム出兵はカンボジア人民を殺害した赤色クメール政権を打破し、また米国出兵はイラク人民を抑圧した残虐なフセイン政権を転覆させた。いずれも歴史に残る無上の功徳である。劉邦、朱元璋の子孫もその功徳のために人民に記念され、感謝され、そして彼らの子孫に後世の享受国の数百年を支持してく

れた（つまり彼らの功徳がもたらした福沢は後世の人々に数百年の栄華を享受させた）。

2 黒を一掃し悪を取り除くことを組織し、展開し、参加し、支持し、人民大衆の生命と財産の安全を保護する。

3 他人と集団を侵害した規律違反･違法行為を摘発･告発し、各種犯罪を制止し、良好な社会風土を守る。

4 役人、裁判官、弁護士などが民のために正義、白人の冤罪、誤りを正す処罰を伸張できれば、功徳でもある。多くの末端民衆は文化レベルが低く、いじめられてもどのように訴えるか分からないが、法律的な援助を提供できれば、彼らにも大きな助けになるだろう。

5 民衆間の様々な暴力や虐待を制止、説得することも徳を積む。一部の家庭に対して家庭内暴力が存在することを含めて、管理部門に忠告したりフィードバックしたりしなければならず、暴力を容認することはできず、家庭内のことだと言って放っておくこともできない。

5 人助けに熱心：

1 厚かましいことをして、様々な協力の中で他人が他人に損失を与えないことと多くの利益を与えることを多く考慮します。例えば、買い物をする時も業者の大変さをよく理解しなければならない。食品を購入するには、できるだけ臨期のものを購入し、新鮮な時期が近いものを購入し、生鮮などもあまり厳選しないようにしなければならない。そうすることで、業者は商品の期限切れ、新鮮ではなく販売できない損失、生鮮の良いものが選ばれて残ったものは安く売るしかないという損失を避けることができる。

2 多くの人を連れて、人に就職、発展、豊かになる機会を与え、人にさまざまな指導、支持、扶助を与えて人の発展をよりよく助ける。

3 人と便利で、他人を成功させ、他人を困らせることはない。

4 お金を拾うこともままならず、落とし主を取り戻すために努力し、失った財物や失った家族を探すために協力します。

5 心温まる言動で人を慰め、導きます。

6 紛争を解決し、他人の関係を説得し、調停する（離婚しないように勧めることを含む）ことも功徳である。

善を行って徳を積む方法は上記のいくつかを除いて、非常に多く、良い利他、利国、利民であればすべて善を行って徳を積む。

そして、お金持ちの資金に余裕があるときは金品の寄付を多くすることができ、経済に余裕がない人には力の面から多くの人を助けることができ、また商人にはより良い低コストと革新を提供することができ、民衆に幸福をもたらす製品とサービスは最も基本的で最も便利に展開される積徳であり、役人には幸福をもたらす側、沢が万民に追求される積徳であり、自分の影響力を利用して大衆に有利な発言をし、民衆に有利な意思決定を推進し、冤罪を伸ばし、紛争を鎮め、公平公正に判決を判定し、厳しい法執行を避けて民衆を傷つけるなど…

4 善行積徳のいくつかの参考になる原則：

1 他人を助ける時はできるだけ親疎、好き嫌いを言わないようにして、自分の親しい人、認めた人は多く助けて、しかし疎遠になって、認めない、好きではない人もできるだけ助けて、このようにしても更に大きな愛を体現することができて、人に好感を持たれない、みんなに認められない人を含めて、多くの時もその存在がみんなに

認められない表現といくつかの欠点があるからこそ貧しくて落ちぶれている（いわゆる「かわいそうな人には必ず憎むべきところがある」、うまく混ざっていない人は往々にして欠点がある）、彼らは更に助けを得る必要があって、彼らに欠点があって、私たちは彼らを助ける過程で彼らを直すように導くことができて、例えば学校の差異生、問題しかし、彼らは家庭が貧しければ、それを援助することもでき、彼らを助けることも往々にして大きな温かみを与え、彼らを励ます効果をもたらすことができる。

2 慈善公益は受益面を追求し、できるだけ多くの人を助けることができ、面が広く利益が大きいことを追求しなければならない。皆さんはできるだけ多くの人に利益を与え、万民を助け、万民を便利にし、万民を益し、万民を教え、万民を教えることができます。例えば、橋を修理して道を作り、学堂を設立して多くの人に利益を与え、被災者を大いに救済して多くの人が難関を乗り越えて生き残ることができます。また、戦争を治めるために乾戈を化け、狂乱を挽回してどのみちをかき回し、外敵の保家衛国に抵抗し、流毒暴乱を平定することは、利益の面が大きいので功徳は最も無量です。また、危険を助けて困難を救うには周囲の人だけでなく、より広い範囲に目を向けることができればもっと良い。例えば、外国、北朝鮮の人々は苦難の中で生活しており、救助が必要とされている。また、アジア･アフリカ･ラテンアメリカの多くの人は貧しくて苦労している。彼らは貧困から抜け出すことを望んでいるが、機会や技能が不足し、観念が遅れていることが多い。もし彼らを救うことができれば、彼らの観念、低俗を変え、彼らに生計の技能とより良い社会を作る方法を教え、彼らに雇用を提供することも功徳

3 救急は貧困救済より優先され、貧困救済は彼らに生計を立てる技能を教えて彼らを自分の努力で生活を変えるように導くことが多い。

4 より多くの人を動員して善行に参加させ、影響が深ければ意味が大きく、例えば、人に善行を勧める本を編纂し、印刷を助け、伝播することができれば、より多くの人を動員して善行を行う役割を果たすことができ、編纂された本が広く、長く伝わることができれば影響が深く、意義が大きく、また自分で手本を立ててみんなを牽引することも、より多くの人を動員し、深遠な影響を形成する方法である。儒家が提唱した立徳立功立言のいくつかの社会への貢献方式の中で、「立徳」、「立言」も重要な方式である。立徳、立言は模範を樹立し、良好な気風を牽引し、民衆を教化し、民の知恵を啓発し、人の心を浄化することができ、功を立てて社会、国家のために貢献するのと同じように安邦治国を促進し、社会の発展を促進することができ、しかも意義がより深く、周公、孔子などの聖賢は立徳、立言をもって歴代の崇拝、記念のためであり、彼らの人類社会への貢献は多くの建功立業の帝王将相よりもはるかに大きい。

5 慈善公益への貢献の大きさ、寄付金額の多さ、労働の多さで一人の愛の大きさを評価することはできない。結局、一人一人の能力、経済力の差が大きく、一人一人の経済力も変動するだろう。もし一人が極度に困難な時に何万元も寄付していたら、愛は大きいが、何百億円も持っている時に二千万元を寄付しても愛が大きくなるとは限らない。豊かな人が寄付しても愛が大きくなるとは限らず、貧乏人が寄付しても多くはないが愛が大きくなるとは限らないので、慈善公益はお金を持って力を出すことを提唱すべきで、形を問わず参加することに重点を置き、能力があるか少ないか、どれだけ重いかは全力を尽くすことにある。善念＝慈善の力を個人の力で割ったものと理解でき、それから公益をするのは主に善力の大きさではなく、善願の大きさであり、善願は個人の慈善の程度を説明している。毎年の慈善ランキングでは、寄付金に

よるランキングのほか、希望の大きさによるランキングも提案されています。

10 得ない、受けない、一切の不義、自分の利益ではなく災いから遠ざかる

不義の財不正利益は人に損失を与えて得られる財であり、損失者に恨みを抱いて呪われた財であり、得て、受けて、使っても災害がある。得なければ不義の金を得ることはできない。受けないのは誰かが私たちに財物を持ってきたときであり、もし私たちが財物が不義の財であることを知っているならば、受け入れないでください。使わないことは確かに断ることができないし、それでは使わないことを堅持して、傷を負った人を待っていたり、確かに返すことができないなら寄付をして公益にすることができます。

一人一人が本分の心を持って、利益獲得の上で自分の労働、貢献に属して得られる利益だけを持って、自分の利益ではなく、他人や集団の安さを占めていない。

得ない、受けない、一切の不義を使わない、自分の財に属さない、ということは多くの人にはできない。なぜなら、利益の前では多くの人がベースラインを守れないからだ。特に、不分だが得やすい利益に対しては、白くてはいけない、白くては取らないと感じがちで、さらに多くの利益を得るために工夫を凝らす人もいる。

そのため、道徳観念の欠如した地域では、監督管理の仕組みがきちんとしていない限り、汚職、リベートの飲食、収賄、不正受給などの集団と社会の公平を損なう行為が起こりやすく、政府部門、公家部門、個人会社、家庭の中でも、上下の様々な人物がそうである。官職権のある汚職、公肥私はもちろん、一般庶民でも、さまざまな政策を利用して多くの清算、多くの不正受給（例えば、医療保険政策を利用して病院までできるだけ多くの開け放し、多くの薬品を受け取る必要がなくても、専門的に回収する人に売るために必要がない）、さらには蛇口を小さく開けてもらう人もいる水はゆっくりと垂らして水を得るために、水道メーターは回転しないで少しの水道代を逃れることができて、脱税や還付金のだまし取りを不当だと思っている人も多いし、盗んだのではなく奪ったのでも傷つけたのではなく、拾ったものを自分のものにして

返却を拒否したり、窃盗、だまし取った、借金を踏み倒し、強奪、強盗などを通じて他人の財貨を手に入れたりしている人もいる。

実はこれらの意図的で、意図せずに非分の利益を得て自分のものにしている人は、非分の利益が持っていることが有害であり、自分に災いをもたらすことを理解していない。自分の財産ではないので、持っていると法律制裁、道徳非難、みんなの憎しみ、天の非難を受けることができる。天も公平で、集団と他人の安さを占めていると返される。汚職、リベートを食べ、政策をだましている人や姦通のために盗みをし、巧みに豪奪している人を観察することができ、たとえ法律に制裁されていなくても、自分と家族が多くの不都合、病気などに遭遇し、家の中に敗者が現れ、それまでの非分所得を使い果たしてしまうことが多い尽きる。

だからみんなはきっと集団、他人の利益を損なうことを占有してはいけなくて、汚職を通じて賄賂を受け取って、盗品をむさぼって法を曲げて、巧みに豪奪して、盗んで誘拐して得た財産はすべて不義の財で、毒があって、占有して使って災いを招くことができます。親友や他人から与えられた不義の金を使うことも含めてはならないし、もらっても一緒に不義の金を得るために受けるべき天罰を受けることになる。誰かが親友から金をもらっても、みんなは不義の金かどうか、出所が正当かどうかを見なければならない。正当な富でなければ決して受け取らないで、確かにやむを得ず受け取らなければならないものは、自分や家族に使わず、公益的に解消することができ、確かに生存に必要なものであれば、生存用を残しておけばいい。そして同時に善行をして報いを受けないようにしなければならない。

また、中国の伝統的な「功がなければ禄を受けない」、「徳は位に合わず、必ず災いがある」というのも理にかなっている。もし自分が相応の功労がなければ、必ず相応の禄を受けてはならない。他人の不満を引き起こし、仇視されるからだ。例えば明朝の皇室宗族俸禄制度では、皇室の末裔であれば俸禄を受け取ることができると規定されており、結果的に明朝後期になると皇室の末裔が確かに多すぎて人民の重荷になり、これらの皇室の末裔は多くの人々に恨まれ、農民蜂起軍は彼らを攻撃目標として虐殺したが、実際にはこれらの皇室の末裔が自覚的に俸禄を拒否し、自力更生すれば、かえって生存の機会を得ることができるだろう。「徳は位にふさわしくない」、「徳は財にふさわしくない」というのは、もし自分の徳行がある官職を担当し、対応する富を持っていなければ、必ず辞めなければならない。そうでなければ、遅かれ早かれ失敗し、家族の命も守らないことになる。中国は古来から徳位の相性を非常に重視し、徳が位にふさわしくないことを避けてきた。及び『菜根譚』が提出した観点は「非分の福を求めず、理由もなく得られることを貪らず」、「むしろ全を求めることがあっても、情の誉れがあってはならない、むしろ無妄の災があっても、非分の福があってはならない」も非常に理にかなっている。

もう1つは、寄付を受けた義援金は自分のものにすることはできないということだ。現在、一部の慈善団体の一部の人はこのタブーを犯しており、寄付を受けても得られた寄付は使いきれず、他の必要な人に寄付すべきだと考えている。

しかし、現在のような自分の利益ではないという考えは多くの人の心の中ではまだ薄く、昇進が必要だ。誰もがベースラインを持っていて、何ができないのか、どんなお金が稼げないのか、心の中でよく知っていなければなりません。参考にしてください。

1 個人の政治や経済的利益のために戦争を起こしたり、武闘を起こしたりしてはいけない。そうしないと、必ず悪報を受け、子孫を絶つことになる。

2 個人の政治や経済的利益のために良心をむさぼることは決してできない。

3 個人の経済的または政治的利益を得るために機密を漏洩したり、土地の割譲に協力したり、侵入協力を提供したりするなど、集団や国益を裏切ってはならない。そうしないと、必ず悪報を受け、子孫を絶つことになる。

4 独裁専制統治を維持するために人を助けてはならない。他国が他国を侵略することを決して支持してはならない。彼らに支持協力を提供し、援助したり、物資を販売したり、彼らに好意を示したり、彼らと同盟したり、彼らのために立ったり、賞賛したり、応援したりしてはならない。そうしないと、必ず悪報を受けて子孫を絶つことになる。

5 自分の仕事の展開や歪んだ管理制度から利益を得るために、厳しく、民衆を陥れる法律や政策、規定の制定に参加し、推進してはならない。多くの規定はますます厳しくなり、厳しいものになっている。往々にして、一部の管理者は自分の権力をより大きくし、より多くの人々を混乱させ、彼らに利益を送らなければならないことをより多く求めるために、推進している。

6 組織が参加できないことを含め、犯罪者の盗品販売や面会、チベット、交通、通信などのサービスの提供に協力することはできない。一部の電気通信サービス会社が利益を得るために詐欺師に大量の電話番号、仮想番号などの電気通信サービスを提供するのは良心の底がない。また、ミャンマー北などの軍閥や政府も非常に底なしで、詐欺師が彼らに金を与えれば、不法詐欺や誘拐虐待をする人を甘やかしたり、支持したり、保護したりするのも理にかなっておらず、最終的には多くが打撃を受けて壊滅した。そして、みんなが普段人と取引をしているのは、人をだましたり、人を傷つけたり、人をだましたりすることはできません。例えば、行ったり来たりの投資詐欺に人を投入させたり、良さそうに見えても注文購入者が購入者に対して非常に割に合わない宝くじや保険を食べたり、ある商品を炒めて自分で現金化して他の人に受け皿を渡す行為は、罠を作り、だまされて富をだまし取ったりするもので、決してしてはならない。また、商品を提供する際には、何度も優を装ったり、偽物を装ったりすることと、過剰な包装、偽りのイメージ、概念を宣伝したり、雰囲気を作ったりしてお客様を惑わせたりすることはできません。そして、一部の人は患者の病気を利用して急いで投薬する心理を利用して、何の役にも立たない器具、薬品、保健品を出して重症の急病の患者にあげて、しかも往々にして価格が高いのはとても間違っていて、これらの患者はもともと悲惨なのに、彼らをだまして、何を考えているのか。超音波診断検査のための高価な使い捨て小枝独立包装無菌結合剤を発売しているメーカーもあり、患者を騙すのに比べて価格が高く（大瓶のものより 10 倍高い）、しかも実際にはほとんどの場合安価な大瓶超音波結合剤を使えばよく、一部の病院では利益輸送で広く使われているが、このお金も心にもないものだ。

7 脅迫したり、恐喝したりしてはいけない。他人の問題をつかんで脅迫したり、報復したり、苦情を通報したりして利益を与えたりすることが含まれています。

8 有害、偽物の研究開発、生産、販売に従事してはならない。麻薬、毒薬、禁止されている武器爆薬はすべて社会に危害を及ぼしており、各種の偽物、偽物、権利侵害の製品はすべて民衆と市場経済に危害を及ぼしている。

9 人の危険に乗じて石を落としたり、火事場泥棒をして経済やその他の利益を得たりしてはいけない。これは非常に不道徳で最も憎まれる行為だ。

10 決して虎のために罪を犯したり、助けたりしない。給料や報酬のために民衆を傷つける任務を遂行することはできない。いくらお金を稼ぐことができても、どんなにプレッシャーを受けてもしないでください。例えば、一部の職業の殴り手、殺し屋、傭兵軍は、お金を与えれば雇用主の要求通りに人を殴ったり、人を殺したり、民

衆を攻撃したりする（例えば、ロシアに雇われて周辺国を略奪したコサック軍人）のは、理にかなっていない。また、公職者、軍警、立ち退き工事隊は、間違っていて、不良で、民衆を傷つける任務を受けた場合、ボイコットすべきか、これ以上だめなら、冠を掲げて辞職して仕事を辞めても、5斗の米のために腰を折って良心に背いて任務を遂行してはならない。役人たちも国に災いし民に災いをもたらす独裁者に会ったら、辞職しなければならないが、良心を捨てて独裁者に追従し続けたり、天害を傷つけることをしたり、民衆をごまかすことを言ったり、犬を舐めて功績をたたえたりしてはいけない。そうしないと、虎のために罪を犯し、助けて虐待する中でも自分のために罪を重ねて後で悪報を受けることになるだけだ。

11 権力を利用して他人の富を奪うことは決してできない。他の人は一時的に蚕食されるしかないが、心の中に恨みを抱いて呪いと復讐の機会を探しているだろう。

12 公益と称して実際に暴利を図りながらもわずかな割合で公益に投入する宝くじもあるなど、高名な名目で他の人の献身をだまし取ってはならない。

13 個人の目的のためにわざと事を起こして混乱させてはいけない。他人や集団に迷惑をかけて利益を得るのだ。

14 各種取引において他人に暗箱操作を実施したり協力したりして利益を得たりしてはならず、社会規則、公平な破壊に対して利益を得てはならない。

15 贈賄やリベートで不当な利益を図ることは決してない。贈賄を通じて注文などの業務機会を獲得したり、料金を減らしたり、利益を上げたりするのは、収賄者とウィンウィンのことのように見えるが、公平な競争を破壊し、他の人の利益や集団の利益を損なう行為でもあり、悪でもあり、決してしてはならない。たとえ収賄を受けたり、リベートを要求したりしても、協力しないで、むしろこの商売をしないほうがましだ。

16 決して権力をもって私腹を肥やすことはできない。権力を利用して利益や資源を横領し、権力を利用して他人を困らせ、カードを手に入れるなど、権力を利用して私腹を肥やすことは役人だけでなく、それぞれの職場、会社、さまざまな職位に存在し、警備員、清掃労働者もある方面の管理を担当する権力を利用して他人を困らせ、打点を得ることができるかもしれない。権力をもって私腹を肥やすことは集団的利益、民衆の利益の損失が深刻であり、また社会の不公平と効率の低下、内部消費の増加を招くこともある。多くの人は、本来緩和できることを故意に厳格化して権力で人を拘束しやすくし、より隠蔽的によりよくどさくさに紛れて私腹を肥やすために、そして追われることを避けるために、簡単なことを故意に複雑化し、権力をもって私腹を肥やすためのプロセスと仕事（例えば、操作した、結果が内定した、会場を歩いた各種の評定、会議討論、会合署名）を多く増やすからだ。

17 他人の財物を占有して返さないわけにはいかない。人から借りたものを速やかに返すことを含め、拾い金は他人の紛失、忘れた財物を返さないようにしなければならない。確かに落とし主が見つからない場合は政府部門に渡すか、あるいは仕方がなければ慈善団体に寄付して自分のものにすることはできない。買い物をする業者は費用を少なくしたり、ゼロを多く探したりしても、業者に損失を与えないように指摘し、十分に払う必要がある。

18 決して公共の利益を損ない、集団の利益を不法に得てはならない。多くの人は国、職場、集団、会社、株式所有者のお金をだますことができて、持つことができて、穴を掘ることができて、ニラを刈ることができて、誰かに借りがあると思っていない、あるいは具体的な誰かに借りがないと思って人を害することはないが、このような実際の影響、借りがあるのは広範な民衆で、積悪はもっと大きくて広い。

19 決して他人と協力する中で他人の得をしてはいけない。人と協力するには、帳簿がはっきりしていて、ウィンウィン共損をしなければならない。帳簿がはっきりしていないか、計算が間違っている場合もはっきりしなければならない。損益の分配、不公平な負担はできない。方法を考えて利益を多く占め、損失を少なく負担することはできない。および信用を重んじ、約束通りにし、利益を得られればよく、利益の最大化のために約束、約束を破ってはならない。

20 政府、商店、他人の抜け穴を利用して羊毛をむしり取って利益を図ることは決してできない。例えば、いくつかの政策を利用して福祉を多く受け取り、医療保険薬を多く取り、業者の販売促進、アフターサービス政策に存在するミスを利用して利益を得る方法がある。

富を創造せず、他人にサービスや利益などの価値を与えず、他人の財物を得るだけのものは、あってはならない。

利益を得るには自分の能力と貢献に依存しなければならない。心が穏やかで、正道から来て、集団と他人を損なわないようにしなければならない。つまり、「君子は財を愛するには道がある」とよく言われているが、他人と集団を損なって得た財物を得ることはできず、ウィンウィンのことだけをしなければならず、人を損なう利益は得られない。みんながそれを守り抜くことができれば、社会は平穏になり、「道は拾わず、門は戸を閉じない」という境界を達成することができるだろう。

第四章 個人の修持、発展と処世における心の力の応用

心の力が内と外に与える大きな役割と個人の発展に大きな影響を与え、善悪に報いることができる以上、私たち一人一人が自分のどのような心の力を育てなければならないのでしょうか。他の人が自分に与える心の力をどのように導き、対応するのか。どのようにして内外の心の力を利用して自分を絶えず向上させ、より良い発展を得て、成功を実現することができますか?

1 内面的に強く、良好な心を育てる

一人一人が自分の心の中に遠大な理想と善良な願望を樹立し、正のエネルギーの三観と念力を確立し、強大な自信、楽観的な精神、強い意志と執着の理念を持って、そして絶えず自分で成功の欲求を奮い立たせ、自己鞭撻して圧力をかけ、自分に大きな内駆動力を持続させ、そして良好な自己暗示が絶えず自分の夢が実現する情景を想像して、普段も多く祈って天、神の加護の助けを得なければならない。

【大志を立て、強く、根気よく追求する】:

一人一人が高遠を志し、遠大な理想と目標を持ち、心理的に自分に対してできるだけ高い位置付けをしなければならない。一人は理想があり、志があり、追求があってこそ、平凡に甘んじることなく、自分をより遠くまで駆り立てることができ、しかも志が遠大になればなるほどいい、思い切ってやりたい、雄才大略、才能が大きくなればなるほど、大きな発展の成果があり、鴻鵠の志があってこそ長空に衝撃を与え、卓越した成果を得ることができる。

そして志に対して強い実現意欲を持たなければならず、成功への欲求が強ければ強いほど動力が大きくなり、志の実現に対して有無を感じ、成功への追求が不安定になり、動力不足を招いて成功しにくい。

そして、このような強い追求も根気よく、たゆまず、努力を続けなければならない。たまには思いついただけで頑張ってはいけない。普段から怠けて対処してはいけない。そうしないと、確率は成功しない。

堅持することは非常に重要であり、成功はいずれも容易ではなく、一歩踏み出すことではなく、過程は往々にして長く曲がりくねっており、堅持してこそ勝利することができ、堅持しなければ成功のチャンスはあり得ない。そして多くの失敗は実際には成功から一歩離れており、動揺せず、諦めずに続けば、臨界点を突破して勝利を得ることができる。

また、粘り強く、困難な挫折を恐れず、いつまでもあきらめないようにしなければならない。困難はあるが、「方法はいつも困難より多い」と信じなければならな

い。

古来、大きな成果を上げた人は、雄志で心が強く、非常に根気強く粘り強い人だった。大志を抱いていない人が大きな成功を収め、長続きすることは少なく、せいぜい簡易的、偶然的、短期間の成功しか得られない。大志があっても成功した人は少数であることが多く、子供の頃も遠大な志を持っていた人も少なくないが、猛烈に追求し、長期にわたって堅持し、最終的に成功した人は多く、全力を尽くして努力しなかったり、一時的に成功しなかったことを経験して理想の初心を忘れたり、安易な生活につぶされて落胆したり、仕事や生活のストレスに疲れて徐々に夢を諦めたり、失敗した挫折にぶつかってうまくいかなかったことに落胆して夢を完全に諦めたりして、最終的には凡庸無為な輩になったりした人も少なくない。いろいろな腕があって、実際にやる能力があまりにも劣っていて、仕事もできない。

現在、多くの人は志に欠けており、目標もなく、自分の方向がどこにあるのか分からず、結局混沌とした生活しかできず、目的もなく波に流され、結局何もできなかった。理想志向はあるが、理想、目標は小さく、大きな追求がなく、大きなことにもなりにくい人も多い。大志はあるが、追求は強くなく、考えただけで実現すればもっといいと思っている人もいるだろう。

誰もが夢を持っていて、自分が成功の材料ではないと思わないで、「夢はまだある。もし実現したら」と思ってほしい。ましてや運命に頭を下げてはいけない。出身、起点がどうであれ、運命をしっかりと自分の手に握らなければならない。誰もが成功のチャンスを持っている。「王侯将相、寧ろ種がある」。強い追求を持ち、日々考え、成功を渇望しなければならない。努力を続けてたゆまず、努力して収穫することを深く知り、より多くの努力を払ってこそより多くの成功を得ることができることを理解しなければならない。挫折して失敗し、苦境に立たされたからといって落胆するのではなく、粘り強く粘り強く、目標を達成しなければやめない、堅持することが勝利だと信じている！

【善の願いがあり、他人を利し、天下を利することをはじめとして追求する】：

「人には善があれば天は必ず加護する」とよく言われるように、天は善が嫌いで、良い機会を善徳、善があれば人に残すのが好きだ。善があれば、善徳があれば人は良い機会を得て、より多くの富とエネルギーを得て、より多くの社会、蒼生に有益なことをすることができることを知っているからだ。一人で善があれば、蒼生に幸福をもたらすことを期待して、甚だしきに至っては菩提の心があって苦難を救うことを望んで、それは天の恵みの神の助けを得て、衆生の加持を得ることができて善の願いがなく、富を得ることは自分の楽しみに使うだけで、自分の能力を搾取、略奪、人を害するために使うことさえできない人に対して、天はきっとそれにもっと発展の機会を与えないで、助けたくなくて、それがもっと多くの機会、財富ともっと高い地位を得ることを阻止するだけで、それがもっと多くの富を得て、もっと高い地位を得ることはもっと大きな害を与えるだけではありません。

仕事の出発点は良いので、成功率が高くなります。良い出発点が良い発展方向をもたらし、みんなの承認と支持を得るからだ。最も典型的な例は劉秀で、その運が爆発的で、天選の子と言える。主な原因は彼が権力を争うのではなく天下を安んずる願望を持っていること、そしてそれによってみんなに呼びかけ、そしてその人が世渡り上手で、各方面の力を団結させることができて、それによって天の加護を得て右往左往し、順風に乗って水に従うことができることである。

みんなは比較を観察することができて、あれらの発展の良い人と企業を発見することができて、すべてとても良い願望、宗旨があって、すべて人類に幸福をもたらし

てみんなの仕事、生活を改善することを望んで、愛情のある人と企業は更に成功しやすくて、そして恒久的に成功することができます。例えば、馬雲がアリババプラットフォームに定めた発展の追求は、「世の中に難しいビジネスがないようにすること」であり、小米の企業理念はコスト削減「より多くの人に科学技術の楽しさを楽しんでもらうこと」である。

何をするにも努力が大切だと言えます。方法はもっと重要だと言えます。方法は効率に影響を与えることができるからです。方向はもっと重要です。方向が正しいからこそ良い結果を得ることができますが、出発点はまた最も重要なのは良い出発点と願望が各方面の承認を得ることができるからです。支持は決して不利ではありません。

そのため、私たちはすべての人、すべての単位が良い、大きな善の願いを持っていなければならなくて、やっと世間の人、天地、神の承認と加護、加持を得て、才能は往路の不利益がなくて、挫折は少なくて、たとえあっても影響は大きくなくて、最終的に成功に向かって、良い結果を得ることができます。

私たちの人生の願望と仕事や起業の初心は、必ず良善的で、崇高で、社会的責任感があり、大衆に幸福をもたらすことを追求してこそ、成功する可能性があり、そして善の願いが大きく、志が高ければ高いほど大きな成果を実現する可能性があり、私たちの仕事の基準は必ず各方面を考慮し、衆生を考慮してこそ、各方面の順調を得ることができる。そして、悪い、他人と社会集団に危害を加える目的があってはならず、発展を追求する過程で悪い手段を採用してはならず、そうでなければ必ず負ける。

多くの人はやはり大きな善願に欠けている。例えば、みんなはお金を稼ぎ、成功することを望んでいるが、ほとんどの人はお金を稼ぎ、成功する目的は自分と家族の生活を改善するためだけであり、ただ生活をもっと楽しむことができることを望んでいるだけであり、財務の自由をもっと早く実現し、もっと早く退職して仕事をしなくてもいいことを望んでいるだけであり、お金を稼ぎ、発展する人はもっと高い人生価値、社会的価値を実現し、より多くの人を助け、人類と社会に幸福をもたらすためであり、これは間違っている。私たち一人一人が発展を遂げたのは、自分や家族のためだけではなく、もっと社会に貢献すべきであり、仕事を減らして早期退職して暇を楽しむのではなく、もっと多くのことをすべき基礎がある。

また、孫中山氏が言った「大事を志すのは大官を志すのではない」というのも、大官がより多くの権力を持つことを第一の目標とせず、大官をするのもただ大事をするためだけであり、大事をするのも必ずしも大官をする必要はない。大官でなくてもできる方法がたくさんあるからだ。そして中国の儒家の教育も、聖賢と呼んで天地のために心を立てて生民のために命をつなぐことを望んでおり、官と呼ばれ、王と呼ばれ、金持ちになることではない。これらもみんなに善の願いを持たせて、社会のために天下のために貢献することを志しなければならない。

もちろん、善願も自然の法則と社会の法則に背いてはならず、実際にそぐわず、そのために善意で悪事をすることはかえって破壊や災難をもたらしてはならず、また実施過程においても各方面の正当な権益を考慮しなければならず、目標を達成するために手段を選ばず、横暴で乱暴で、他の人を傷つけたり、国や民を傷つけたりしてはならない。古来より、王莽改制、王安石変法などの非現実的で急ぎすぎた社会変革運動の多くは、出発点は良いが実際から逸脱し、民衆の利益と感受性を顧みず、法治を踏みにじるあまり、結果として社会に極めて大きな破壊と民衆に大きなダメージを与え、より多くの災難をもたらした。

目標、願望と実施方式は絶えず総括し、反省し、どこが間違っているかを発見したら、速やかに調整し、是正しなければならない。王莽、王安石のように執拗ではいけない。失敗し、社会的災難をもたらしたのに悔い改めない、またカンボジアのポル・ポト熱狂殺人によって全国で何百万人もの死者が出たのに、自分が民衆を救うためにユートピアを構築したとは認めない。

【責任があり、良好な集団精神と家庭、社会的責任感がある】

人類社会は、すべて群居生活であり、集団が一緒に生活し、分業して協力し、集団で暖をとることで、よりよく生存し、発展することができる。例えば生活の上で家族のメンバーが互いに世話をすることができて、もっとよく生活することができて、もっと保障することができて、例えば仕事をして、創業して、一人で一人で戦っているだけでは大きな発展がありにくくて、チームの集団協力に頼らなければもっと良い発展を得ることができません。

集団は私たちにより良い保障と支持をもたらし、それでは私たち一人一人も集団主義精神と集団に対する責任感、主人公精神を持って、集団の存続、発展を維持し、支持し、集団の利益と安全を維持し、集団の建設に貢献し、他の人の集団を損なう言動にも制止を加えなければならない。

家族については、私たちは多くのメンバーのために考えて、彼らのニーズと感じをよく考えて、彼らの世話をして、そして家族のためにもっと多くの財貨を貢献して、そして良好な表現を通じて家族、宗族にもっと良い名声（つまり光宗耀祖）をもたらして、同時に家庭の他のメンバーを良いことから良いことから良いことに従うように導き、教育、監督しなければなりません。子供の養育や目上の人の扶養などの家庭責任を拒否したり、言い逃れしたりすることはできず、自分の利益や感覚だけに気を取られて他の家族を頼りにしたり感情を傷つけたりしてはいけない。

職場に対して、私たちはできるだけ多くの業績、貢献をしなければならないが、職場の足を引っ張ることはできず、職場の利益とイメージを維持し、他の同僚と協力して仕事をよりよくし、内外に問題があればよく協議し、処理できないものは直ちに指導組織にフィードバックし、職場の存在する問題に対しても無関心ではなく、自分のことを気にしないで、意見と提案を多く提出しなければならない。

社会に対して、私たちはできるだけ社会の進歩を推進し、できるだけ民衆に幸福をもたらすようにしなければならない。社会事務、社会管理に積極的に参加し、社会発展のために献策し、声を出さなければならない。無関心で社会事務に熱心ではなく、社会の悪いところを見ていないか、保身のために口をつぐんで黙り込んでいるか、足で投票して移民を争って行ってしまっただけではなく、歴代の多くの社会災害は、ほとんどの人が社会事務に関心を持っていないために積極的にボイコットしない、不良行為を是正しないことに起因していることを知っておく必要があります。文革が公民意識の強い国では起こり得ないように、文革の芽があればみんなで踏みつけられてしまうからです。効きにくく、お節介だと言われることもあります。

もし商業活動に従事して、社会のために製品とサービスを提供する時、できるだけ品質を高めて価格を下げて、それによって民衆を幸せにする方法を考えなければならなくて、わざと価格を高くして自分にもっと利益を得させることができなくて、例えば香港の住宅価格がとても高くて、いくつかの主要な不動産商が市場を独占して価格を上げる原因もあって、このいくつかの不動産商はそのために鉢がいっぱいになって稼いでいるが、もし彼らが社会的責任感があれば恥じて自責を感じるべきで、彼らは香港の住宅価格を下げて民衆を幸せにするのではなくて、住宅価格をますます高く推進して、社会的責任の角度から見ると、これら

国家という大集団に対しても、私たちはもっと一緒にその利益を守り、共に美しい家を建設しなければならない。その侵略を受けた時、誰もが立ち上がって家を守る義務があるべきである。国が侵略されて滅び、皮の毛が生えていないので、国の保護がなければ誰もが侵略者に略奪され、奴隷にされ、殺害される可能性に直面するだろう。その発展が悪く、貧困、立ち後れ、混乱すると、私たち一人一人の生活にも大きな影響を与え、一人一人が良い方向に発展するように努力しなければならない。

中国の伝統文化では、克己奉公、忠君愛国、国憂を忘れない責任感と心に天下を唱え、世界の大同を追求する社会的抱負を提唱してきた。例えば、「身を修めて国を治めて天下を平らげる」、「貧乏はその身を独善し、達すれば天下を助ける」、「天地のために心を立て、生民のために命を立て、往聖に絶学し、万世のために太平を開く」、「先天下の憂いを憂えて天下の楽を憂える」、の安定と発展。皆さん、特に一部の社会エリート層の入世精神に頼って、国を発展させているのです。

中国がこれまで称賛してきた「身をもって国に殉じた」、「城は人がいて、城は人を破壊して死んだ」、「国家の生死に利益をもたらし、災いや幸福のためにそれを避けるのか」という精神も国家に高度に忠誠を尽くす精神であり、より多くの人が身を奮い起こして敵を殺すことを感化した。そして日本の武士道精神も命がけの極めて集団的、団体的価値に忠実な精神であり、粘り強い戦闘力を形成している。ヨーロッパ諸国の社会は強大な公民意識を育成し、社会事務に積極的に参加する伝統を持っており、また貴族層も高い社会担当精神を維持しており、国家が困難な時には先頭に立っている（例えば統計によると、貴族のこれまでの戦争での戦死率は庶民よりはるかに高い）。これらも国家の生存、発展を維持し、社会の絶えずの進歩を推進している。

私たちはこれらの伝統と精神を継承して発揮することを参考にして、国と天下を心から結び、公民と主人公の意識を確立して、集団事務に熱心で、集団のために社会に貢献して、そして集団、大局の利益を自分の利益より上に置いて、大局を考えて個人の損得を少なくしなければならない。

誰もが責任を負って、積極的に家族のために努力して、社会のためにもっと多くの利益を創造して、国家のために納税して服役して、責任を逃れることができません（一部の人が世俗から抜け出して現実を逃れることのない労働を信仰して、甚だしきに至っては家庭の宗教や学説を捨てるのも責任逃れの悪い表現です）。誰もが社会的責任感を持って、社会が良いことを理解しなければならない。個人の生存と発展を追求するだけでなく、できるだけ社会的価値のあることをしなければならない。また、何をするにも自分の経済効果だけでなく、社会効果も考えなければならないし、社会効果をまず考えてから個人の利益も考えなければならない。

社会の大黒柱として、役人もエリート層も社会的責任感と使命感を持ち、時代の発展に応え、社会の進歩を推進する使命を担い、歴史に輝かしい1ページを残すようにしなければならない。役人は民衆に幸福をもたらすことを職責とし、「役人になって民のためにならず、家に帰ってサツマイモを売るほうがましだ」という認識を持たなければならない。

【善良で、仕事には一線がある】：

善良さは一人で最も基本的にしなければならないものであり、善良な心がなければ、心が乱れ、仕事をするには手段を選ばず、発展がうまくいかず、岐路に立たされ、身を滅ぼしてしまうことになりかねない。

すべての人は必ず善良さを守り、仕事をするにはベースラインが必要で、人間性を消してはいけない、他人を傷つけることをしない。何ができるか何ができないか、

どんな利益があるか持ってはいけないか、どんなお金が稼げるか稼いではいけないか、他人や集団を傷つけないことを前提にしなければならない。権力を掌握したり執行したりする公職者、武装者に対しては、不適切な行為で多くの民衆を傷つけないように、各方面の決定は慎重に、多くの異なる意見を求めて穏当で無害にしなければならない。問題のある政策法規と上級命令に対してはフィードバックして修正を促進しなければならないが、修正できなければ柔軟に実行しなければならない。

一人一人は絶えず自分の修養を高め、自分の心を浄化して各種の雑念や歪みを捨て、心が正徳純で、品性が純良であるようにしなければならない。儒家が提唱した「赤子の心」のように、心が乱れず、他人を傷つけたり、良心に背いたりすることをしないようにし、原則と一線を堅持して原則に背き、一線を越え、天害を傷つけることをしないようにしなければならない。

他人を傷つけ、社会を害するようなことをすると、結局は罰せられ、批判され、しかも罰せられる前でも終日おびえて大きな心理的苦痛を受け（例えば、多くの逃亡した犯罪者が逮捕された後、逃亡中に生より死の生活を送っているとフィードバックしている）、また罰せられた後も多くの人に排斥され、社会に溶け込んで発展することは難しい。発見されなかったり、罰せられなかったりしても、道徳や天からの非難を受けて、折福、折寿、災難の報いを受けることになるだろう。

人間として物事をすることは天地の良心にかなっており、やましいことがなければ、心を安らかにし、恨みも後悔もなく、毎日気持ちがすっきりしているし、すべてに直面して堂々と社会に立つこともでき、社会に溶け込んで正常な生活を送ることができ、さらに心が無邪気で、徳に傷がないため、鬼神の付きまとうことを恐れず、罰する必要もない（「やましいことをしないと鬼のノックを恐れない」とよく言われるように）。

ほとんどの人は善良だが、これは実際にはまだ多くの人がやっていない。多くの人が食品をよりよく見て、食感をよくして、よりよく保存するために消費者に有害な添加剤を無制限に添加していることを含めて、日常的に行き来して、取引をして安くして、他人を計算する人も多いが、本当に親切にしてくれる人は多くなく、偽物や粗悪品を販売したり、製品を売って二次的にしたり、物を作って工事をして手抜きをしたりする人も多いが、職場でもデパートでも、官界でも手段を選ばずに互いに殴り合って、落石したりする人も多い。、強盗などの手段で利益を得て、自分の目的を達成するために人をいじめたり、追い詰めたり、拷問したり、人を殺したりするのに手加減しない人もいる。

また、皆さんが見落としがちな悪の 1 つは間接的な悪です。例えば、虐待を助けようとし、虎のために罪を犯すのは間接的な悪で、自分は悪を犯さずに直接他人を侵害する行為を実施していないが、他人を助けて他人を侵害することをしてしまったという間接的な悪は皆さんも決してしてはいけません。極権独裁政権への経済援助や装備の提供、さらには抵抗を鎮圧するための人力による暴政統治の維持、海賊やテロリストへの武器販売による世界への危害、独裁専制国家の核爆弾発展による人類の安全の脅威、さまざまな詐欺、賭博道具の販売、さまざまな犯罪者への物資や場所の提供など。

実際にどれだけのお金を稼ぎ、どれだけの発展を遂げるかは自分の努力にかかっており、あまり重く見てはいけないことをみんなは理解しなければならない。

【積極的に向上し、大胆にやりたい】：

すべての人は積極的に向上して追求があって、自分の運命の主人になることをあきらめないで、平凡に甘んじないで、自発的に出撃して、力を尽くして上流を争っ

て、出世を争って、やっと更に機会があって、更に発展を得ることができて、世の中と争って、無欲で、進取しようとしない人は一生平淡で、平凡で、世の中を遊んで失礼で、自暴自棄な人は更に社会に溶け込んで成功を得ることができません。

そして、心がどれだけ大きな舞台があればどれだけ大きいかを信じて、大胆に考えて勇気を出して、あまり保守的で謹直で、縮こまってはいけなくて、やっと思想の限界を打ち破ることができて、更に突破がありやすくて、大きな発展があって、無限の可能性を実現します。

人は動力や圧力があってこそ、よりよく奮闘し、より大きな進歩を遂げることができ、いくつかの目標を追求する動力があることができ、確かに追求する目標と動力がなく、生活を改善し、子供を育て、目上の人を養う圧力など、自分に圧力をかけなければならない。

【勤勉に奮闘し、努力して奮闘する】：

常に勤勉さを維持しなければならない。誰もが成功するには勤勉さが欠かせない。どの国も豊かになることができるのは主に人民の勤勉さに依存しており、絶えず努力し、耕作を続けてこそ、利益を創造し、より多くの収益を得ることができる。

1分1分努力して1分収穫して、勤勉に多く時間と努力を払ってやっと多く収穫することができて、1人は他の人が休み、娯楽の時にまだ努力していることを堅持して、それはきっと他の人より進歩が速くなることができて、成功の基本はすべて普通の人より何倍も努力を払ってやっと得ることができます。怠惰で、労働の支払いが少ないと自然に収穫が少なく、たまに意外な財に出会っても、すぐに山の空を食べてしまう。

幸運によって富を得たり、発展したりすることはありますが（宝くじに当たるなど）、幸運はたまにしか現れないので、よく起こることはありませんが、1、2回の幸運では大きな成功を達成することは難しく、大成功した人はみな努力を続けて獲得し、多くの大小の成功を蓄積して最終的に大成功に向かっているのです。

また、「努力すればするほど幸運になる」、「天道謝礼勤」、「天助自助者」、「チャンスは準備のある人だけが青くなる」ということわざもあり、これらは天が最も努力を惜しむ人を示しており、努力する人ほどチャンスが多くなる。彼らは絶えずチャンスを探して観察し、考えているほうが発見しやすく、チャンスをつかみやすく、怠惰な人はチャンスがそばに来ても気づかなかったり、気づいたりすることができなかったりしても、成功経験がないために捕まえる自信がないからだ。

【観察と思考が上手で、方向を見つけ出す方法を探して効率を高める】：

何をしても一心不乱にやってはいけない。もっと観察して考えて工夫しなければ、物事の本質をつかんで方向を探し、方法を見つけてより効果的に、より効率的にすることができない。

よく観察して考えて分析して判断して分野を選んで、方向を選ぶのが第一に重要で、やっと発展空間を探し当てて、発展機会を正確に探し当てて、さもなくば領域、方向の選択がよくないと機会が少なくて競争の大きい分野に入ってあるいは自分の方向に合わなくて、成功がありにくくて、甚だしきに至っては選択を間違えて無駄にしてあるいは更に努力の損失が大きくなることができます。

方法も非常に重要で、良い方法は半分の効率で倍になり、簡単で労力がかからず、低投入で高生産性になることができます。

また効率も重要で、一人で成果を上げるには、他の人よりも多くの時間、精力を払って仕事をする（つまり「勤」）だけでなく、効率を高め、同じ時間内にもっと多くのことをする（つまり「快」）、「勤」＋「快」は一人で成功するための必要条件

と加速器である。

【自信、自分に自信を持つ】：

自信の心の力は一人が向かうところ敵なしになり、自分の潜在能力を最大に発揮させることができ、アンソニー･ロビンが言ったように誰もが超人的な力を持っており、成功は心の中の巨人、つまり自信の心を呼び覚ますことにある。

自分に自信がなければ、自分の潜在力は十分に発揮されず、割引され、心理的に失敗を心配する障害があり、結果的に成功する確率は大幅に減少します。私たちが何かが難しくて、うまくいく自信がないと思っているときは、基本的にはそれをうまくできる可能性も少ないでしょう。特に希望を捨ててしまうと、その成功の確率はほとんど見当たらない。

信念の力は無限である。だから私たちは信念で行動をリードし、奇跡を創造しなければならない。自分ができること、目標を達成すること、成功することができることを信じて、何の困難も解決できないことはなくて、自分を倒すことができることは何もなくて、世界は自分のためにもっとすばらしいと信じています。

また、自分の体の健康にも自信を持ってこそ、自分の心を日光に満たし、元気にすることができる。病気に遭遇しても回復に自信を持ってこそ、回復に有利であり、自分を患者として見すぎてはいけず、大きな心理的ストレスをもたらして回復に影響を与えることができる。

【楽観的で、良好な心理暗示がある】：

楽観的で、良い心理暗示があり、何事も良い方向に考えることは、非常に大きなメリットがあります。

楽観は人を喜ばせ、リラックスさせ、良い状態にあり、心身の健康にも有利で、より良い学習、仕事、生活にも有利である。

良好な心理暗示は人に幸運をもたらし、人の各方面をより願い通りに、順調にさせることができ、「心に美しいものがあれば、美しいものに出会える」という意味である。

悲観的で心理的に悪いことを暗示している人は、人を悲しませ、恐れおののくだけでなく、心身の健康に不利であるだけでなく、往々にして「恐れていればいるほど」悪いことがよく想像通りに起こる。

皆さんは周囲を観察することができて、運命の悪い人の多くは心配事の多い人で、いつも悪い可能性を考えて心配事が多くて、未来に対して自信が弱まって、事に対しても心当たりがなくて、すべての事が停滞して進展がなくて、だから運命が悪いことを招いた。

もちろん、これも互いに補完し合っており、順調で成功している人ほど心理状態が良くなり、心理状態、心理暗示が良くなってさらに順調になり、そのため強者は恒強で、順調な人は道を間違えなければますます良くなる。失敗した人は強い心理的忍耐力を持って良い心理状態を維持しない限り、失敗のトラウマから抜け出せなければ、完全に失敗してひっくり返らないことがよくあります。

だから私たちは楽観的な精神を持って、常に良好な自己暗示を維持して、心の中は希望と楽しみに満ちていて、いつも美しいことが間もなく起こることを想像していて、たとえ困難や災害に遭遇して、一時的に困窮して、不公平に遭遇しても、楽観的な向上を維持して、多く生活の中で面白い楽しいことを考えて、多く美しい未来に憧れて、このようにやっとますます順調になることができます。さまざまな競争、闘争の中でも、必勝の意志と勝利の証がある自己暗示を維持してこそ、自分の闘志を高揚させ、血を沸かし、そのために勝利を獲得しやすくなる。

悲観的で憂い、悲しみ、焦り、恐れ、そして心が錯乱し、心が落ち着かず、一歩も進まず、さらに仕事、勉強、生活の正常な展開に影響を与えてはならない。自分を後進者、弱者、貧しい人、世話になった人、被害者だと思ってはいけない。そうしないと、自分をこれらの役に没頭して寝返りがつかなくなる。気分が悪いときは、仕事、スポーツ、娯楽、会話、公益などを通じて、できるだけ早く調整しなければならない。自分が悲観的になったり、周りの悲観に囲まれたりしたときも、できるだけ早く抜け出して、積極的で日光の情報に多く触れなければならない。

楽観的な精神、良い自己暗示、心の育成と試練から来て、そして習慣のように努力して堅持する必要があります。

自己暗示は日常的な暗示を保つだけでなく、時間があるときにぼんやりしたり目を閉じたりしたり、寝る前や目が覚めたときに寝たりして考えたりして、美しい結果、美しい未来に対する瞑想を展開することもできます。

自己暗示は全体的、漠然とした、ぼんやりした暗示ではなく、具体的で詳細な暗示があるほうがいい。例えば、試験の前に自分がよくできて、どれだけ高い点数以上を取っているかを暗示することができて、どんな学校や職場に採用されて、とても試験の超常的な発揮に有利です。

また、疑いを持たないようにするには、当たり前だと思って、争議もなく、必ず、効果もよくなります。例えば、ソフトウェアやツールの操作を学んで、仕事や生活で最も基本的に身につけるべきだと思ったら、すぐに身につけることができます（携帯電話の操作は基本的に誰もがすぐに手に入るように）。また、言語を学ぶのが速い人もいます。この言語は難しくないのは当たり前だと思っているはずです。それは心理的な障害がなく、すぐに身につくことになります。

また、自分がどんな人になりたいのかということであれば、自分をそのような人のような役として、必要な条件で自分に当てはめることも効果的です。例えば、自分が将来大統領になることを望んでいるなら、本当に自分を大統領と見なし、どこでも大統領が達成しなければならないことで自分を要求し、一言一行も大統領の基準に従うべきだ。

【心を磨き、強く強靭な心を形成する】：

強大な内心は社会での立脚と発展にとって非常に重要で、強大な内心があってこそ強大なストレス耐性があって簡単に倒されることはなく、すべての困難と危機に対して冷静に落ち着いて、落ち着いて、余裕があってうろたえることがなくて、陣地を乱して、やっと各種の複雑な人間関係に直面して忍耐して自制して、甘やかして恥じることができて、情緒、闘気のために大事を壊すことはありません。

粘り強く努力してこそ、自分の理想を維持して奮闘することができ、たとえ多くの困難や挫折にぶつかっても、多くの成功は根気よく努力してこそできるものであり（カメウサギ競走の物語は根気よく努力することが成功を決める最大の要素であることを説明している）、しばらく希望が見えなかったり、困難や挫折にぶつかったりして簡単に諦めてしまう人は何もできないだけだ。

強大で強靭な心は往々にして苦労し、挫折し、恥をかくことで刺激し、心を磨くことで形成される必要がある。

苦労をしたことがあり、苦労をすることができることは重要である（「千金では少年を買うのは難しい」という意味で、少年の貧困は人を苦労させることができる）、苦労をしたことがあってこそ、さまざまな機会を大切にし、より責任を持つことができ、（「貧乏人の子供は早く家を持つ」という意味）、改善を求める考えと志をより向上させることができる。刻苦奮闘の精神と苦行僧の生活を維持してこそ、一

人で成功し続け、大成功を収めることができる。

心に刻まれた苦難、挫折、恥辱を経験した人は、倒されなければほとんど成功するだろう。

【のびのびして、気持ちを楽にする】：

自在で、気持ちがゆったりしていて、のんびりしていて、何の心配もなく、堂々としていて、安らかで穏やかで、心の高い境地です。自在になって、心の負担がなくて何をしても簡単に落ち着いて、もっと投入して、もっと状態があって、もっと効率的で、そして毎日春風に満ちて体が健康で、顔が輝いています。

しかし、多くの人は生活に困っている、情に疲れている、他人に左右されている、そして自分の心が多感で、焦りやすい、苦労しやすい、けちで計算している、甚だしきに至っては心が曲がっている、邪念で、すべて自在にできない。

自在も磨かれた心性であり、自在にするには、少なくとも以下のことをしなければならない。

正直で善良でやましいことはできず、やましいことはなく堂々としていて、いつでも敵に報復されることを恐れる必要はありません。

楽しいままで心が乱れて気分が曇ったり、しかめっ面をしたりしてはいけません。そうしないと、体が健康ではなく、仕事がうまくいかなくなります。

ある感情に浸ることができずに退廃的になったり、崩壊したりすることなく、感情をコントロールしたり、調整することができます。誰もが気持ちにつまずいたりすることがよくありますが、迅速に調整することができます。

物事に対しては、人生が思い通りにならないことは十中八九、思い通りにならないことは正常であり、困難、挫折、危機、さまざまな問題に遭遇することも正常であり、天は崩れることはなく、天も絶体絶命の道はなく、生死にかかわる問題でなければ緊張して恐れることなくゆっくりと解決することができる。

他人の損得にこだわらず、損をするのは福であり、人に有利になって少しでも安くしても構わないのは報われるが、他人の悪い言動は、無傷でも構わないのであれば、律法に寛大である。

他人のことをあまり気にしなくても、誰もが自分でやることができます。例えば、目上の人は子孫が多すぎることを心配する必要はありません。「子孫には子孫の福がある」からです。

良い心理状態があり、他人の幸運に対して心理状態がアンバランスではなく、嫉妬したり、目が赤くなったり、人を悪くしたり、人を損したり、自分を利したりしない（人を損して自分を利しなくても、人を損するのは完全に人間性のない悪）、

自分でしっかりしていれば、他人の評価をあまり気にする必要はありません。

自分を追求したり、少なくとも忙しくしたりして、空虚ではなく充実させたりします。

私が書いた「無愁」を送って、みんなに励ましてあげましょう。

心の力はすべて善を尽くして、諸願は自然に成る。

平然と天命に応じて、心配も心配もない。

天下の人を大いに自在にしたい。

抜粋内容：

「善人は長生きせず、悪人は千年生きる」

この俗語の原語は通常、「良い人は長生きせず、悪い人は千年生きる」または「良い人は長生きせず、悪い人は千年生きる」と表現され、民間に伝えられて久しい道徳と寿命の関係に対する観察的なまとめである。その核心的な意味は、善良で正直

な人は自己犠牲や抑圧のために短命になることが多いが、利己的で狡猾な人は遠慮せずに長生きすることだ。以下に詳細な分析を示します。

1.鄒原文の一般的なバリエーションと出典

主流は「善人は長生きせず、悪人は千年生きる」と表現し、元雑劇「敵同士の債権者」の第2割引（「善人は長生きしない、この悩みはどうやって休むか」とよく言われる）に見られる。

別のバージョン「良い人は長生きせず、悪い人は千年生きる」は「命」と「年」の対比をより強調し、現代の解読によく見られる。

2.俗語の背後にある論理解釈

■善人短命の理由：

心理的抑圧：善人は常に道徳を厳守することによって不満を忍耐し、長期にわたって怒りを燃やして健康を損なう。

自己犠牲：英雄が人を救い、焦裕禄式の献上のように、自分の健康や冒険を無視する。

悪人が長生きする理由：

心理解放：悪人睚眦は必ず報告し、感情の流出はより直接的で、内部消費を減らす。

鄒行為に制約はない〓秦檜などの奸臣が権謀を通じて利益を得るなど、規則に縛られていない。

3.鄒文化論争と修正観点

この俗語は善良さを否定するのではなく、「善良には鋭さが必要だ」と警告し、過度な自己消費を避ける。

仏教の「三世因果」などの理論では、表面現象は必ずしも究極の報いを反映しているとは限らないと考えられている。

さらに検討する必要があれば、因果応報、道徳と健康関係などの拡張概念を検索することができる。

【老成は穏やかで、慌てず衝動的ではない】：

老成が穏やかであることは理性的で、経験に富み、綿密に段取りがあり、控えめで気張らず、落ち着いて衝動的ではなく、周囲に妨害されたり誘惑されたりせず、危険に直面して恐れず、簡単に各種の突発事件に影響されて足を乱すことはない。

老成は落ち着いていてこそ大任を担い、大事を成すことができる。そのため、歴代の官吏選び、特に王位継承者も人選が心が成熟しているか、老成が安定しているかどうかを重視している。老成が安定していなければ、さまざまな複雑な状況に対応することが難しく、また気の使い方、衝動などによって災難をもたらしやすいため、例えば崇禎は心が成熟していない、本質をつかむのが下手で、軽重緩急がはっきりしない、定力がなくて足場を乱しやすいため、動揺して進退根拠がなくなり、喜怒無常になる人であり、その上位の為政は明朝の滅亡を大いに加速

【温和で温厚で、イライラしないと怒りにくい】：

温和は性格が温良で穏やかで、温厚は他人に対して慈悲深く、寛容で、仕事が温厚で、短気ではないと衝動的で、興奮して、怒って、それによって過度な言動をしないことができて、心が穏やかで、他の人はどんなにしても興奮して怒っていないことができて、コミュニケーションは怒っていません（多くのけんかと矛盾は怒りによって引き起こされたり、深まったりします）。

それができれば、関係をこじらせずにいろいろな人と仲良くすることができ、み

んなに認められやすく、受け入れられやすくなり、右往左往することができ、より発展のチャンスがあります。

【中庸は平穏で、過激ではなく絶対化ではなく極端ではない】：

自分の観点に固執せず、偏見も傲慢もなく、過激ではなく、極端ではなく、中正で穏やかで、中庸の道と呼ばれている。多様な文化が共存共栄し、和やかで異なる百花が百家争鳴を放つことを許可し、単一、排他的な文化、宗教を行わない。多くの意見が存在することを許可して、共通点を求めて相違点を残して、一言ではありません。そうすれば、よりよく他人と仲良くなり、より多くの人とより多くの力を結集することができます。

中庸の道は非常に重要で非常に有用であり、社会の発展、繁栄、安定に非常に有利であり、中国も中庸の道に頼って繁栄し、生き続け、数千年世界にそびえ立っており、さらにヨーロッパも中世の東学西漸の中で中国の中庸の道を吸収してから元の極端で一元化された思想文化を変え、それによって社会を改良し、ルネサンスの道を歩んできた。現在、世界には未改良の一神教、極権国家があり、中庸を参考に吸収すれば、現地社会の改良にも役立つと信じている。

だから私たちは中庸の道を堅持し、発揚し続けなければならない。自分の人生にも、社会の進歩にも非凡な意味がある。

【自分で考えて、是非を明らかにして波に流されない】：

独立して考えることは非常に重要であり、私たちが接触している情報の多くは真実ではなく、深層的であり、甚だしきに至っては下心のある人が故意に人を誤解させるための情報（例えば、販売員が誇張した宣伝、詐欺師が人をだます嘘、宗教や社会支配者がみんなの思想をコントロールするためにみんなを洗脳するための屁理屈や虚偽の情報）を作り出しているため、私たちは冷静な頭、独立して考える意識、是非を明らかにする能力を持っていなければならず、表面的で真実ではない情報にだまされてはならず、下心のある人に誤解されたり、引きずられてはならず、そのため回り道を少なくし、損失

【慎重で、何事も多く分析し推敲する】：

慎重とは、慎重に行動し、周到に考え、理性的で賢く、保守的で慎重で、簡単に人にだまされたり、誤解されたり、偏屈になったり、だまされたりすることはありません。

多くの場合、社会は環境が比較的に険悪で、各種の陰謀、陰謀はどこにもなく、人を防ぐ心はなくてはならない。慎重にしてこそ、「万年船に気をつけて」、「参深（慎重）は掛け売りをしない」ことができ、自分がだまされて損失を少なくし、回り道を少なくし、安定して遠くに行くことができる。

人をだますものはすべて表面の背後に隠れているので、慎重になるには分析思考が上手で、推理と情報捕捉を通じて、表層の仮象を通り抜けて事の本質を見極め、各種の虚偽情報を見破って排除し、事の源に直行する必要がある。

特に、理由もなく機嫌を取る（何もしないで親切にする）、無料で食べたり遊んだりする福祉、あまりにも情熱的なイベントへの参加招待、リターン率の高い投資、急いで人に金を払ってもらうように誘導する言動など、いつもと違う、常識に合わないものには気をつけなければならない。もっと疑問符をつけて反省推理をしなければならない（例えば、リターン率が高いならなぜ推薦した人は自分と親友が先にしないのか、天下に無料のランチがないのになぜ無料の食べたり遊んだりする人がいるのかは倍のリターンを稼ぐ操作であるに違いないし、「何もしないで親切をするのは姦淫ではない」と他人のお世辞を知ることは利益をだまし取るために多い）あるいは故意

にミスリードしたり、抱殺したりして、唾を吐いて勝つことができるように見える将棋の残局挑戦を見て、局面を振る人が馬鹿にしてお金を送ることはできないことを考えなければならない）、また、相手の名前やそのやり方＋「騙す」という字をネットで検索することができ、ネット上で苦情や暴露をした人がいるかどうかを見ることが多い。

他人が売り込んだものについても、取引を達成するために利益を得るためには良いことだけを言って悪いことを言うことは少なく、良いことを過大に言うことができるので、多方面にわたって分析し、比較し、推敲してから決定しなければならない。

他人が大きな名義で何かを提案することにも慎重になり、目的性のある誘導が何らかの名義を借りているだけであることを予防しなければならない。

他人へのお世辞も度が過ぎているかどうか、わざとしているかどうかによっては、お世辞を通じて人を「抱殺」するように誘導する陽謀者がいることを予防しなければならない。

各種の投入、支払いが必要なものについても、判断をよく考えて慎重にしなければならない。ウサギが鷹を撒かないと明確な見返りがないので投入しないで、費用を払ってもできるだけお金を払って納品し、いくらやっても返すようにしなければならない。

また、欲張り、色心をやめなければならない。人は一緒に欲張り、色心をすると理性を失いやすく、胆の辺から生まれやすくなる。

【融通が利く、融通がきかない】：

何事も死の本を読んで死理を認めてはならず、その然もその故然を知っていなければならず、それから物事の本質を把握して柔軟に融通し、時には取捨選択が必要で利害を考慮して車を捨てて帥を守る必要があり、時には急いで小節に拘るのではなく（魯連仲が言った「小節を律する者は栄名にならず、恥知らずな者は大功を立ててはならない」のように）権力に従う（利害関係を把握する）必要がある。

【時勢を判断し、力に応じて行動する】：

人生は時勢を見計らって、時には風雨を避けるべきで、冒険しないで、自分の力を顧みずに行ってはいけません。

待つべき時は辛抱強く待って、行動する時は決断しなければならない。

2 対外的仁愛の心を養う

1 仁愛の心の重要性：

愛は万善の源であり、すべての善は、結局は愛に由来する。目上の人に愛があれば、目上の人に親孝行をします。後輩に愛情を持つと、幼い子を可愛がったり、若い人を励ましたり教えたりします。他人に愛があれば、他人の利益と感情を考慮し、他人を傷つけることはありません。お客様に愛があれば、お客様により良い製品とサービスを提供し、できるだけお客様のコストを削減する方法を考えます。協力者に愛があれば、信用を重んじ、ウィンウィンを重視する。困っている人に愛があれば、助けて困っている人を助けることができます。社会に愛があれば、天下に社会的責任感を持ち、公益に尽力し、社会に貢献し、社会の進歩を推進することを追求する。国を愛すると、国のために功績を立て、献策し、すべてを捧げるように努力します。蒼生を哀れみ、努力して蒼生に幸福をもたらすことができて、至る所で黎明民の庶民を考慮して、民衆を傷つけることはできません;公共物、万物、自然に愛があれば、故意に物を壊したり、環境を破壊したり、生物を傷つけたりすることはありません。一草一木

に対しても傷つけることはありません……。

一人で自分と人を顧みることができて、誠実さとウィンウィンもすべて愛があって、愛があって慈悲、厚道、熱心で、愛憎がはっきりしていて（人を傷つけることを嫌って嫉妬して恨みのように憎むことを含む）、やっと自分と人を顧みて、誠実さとウィンウィンで、社会の抱負があります。利己的で、人を傷つける、人を害するなどのすべての不良は、愛がなくても悪辣で、手段を選ばないからだ。

一人で愛があるかどうかが最も重要で、愛がないとみんなに受け入れられて発展することはできなくて、よく過ごすことができません。

人が良いかどうかを見るには、愛があるかどうか、本当に愛があるかどうかを細部から見ることができます。例えば、中国は何千年も親孝行を第一位にしてきました。親孝行が自分の最も親しい人に良いかどうかで人の品質を判断することです。秦西巴の縦横無尽の話もあり、人が小動物に対してすべて愛情を持っていることから必然的に慈愛心があると判断した例である：秦西巴は子鹿と雌鹿を分離するのに忍びず子鹿を放し、魯国の君主孟孫は子鹿を放したことに腹を立てているが慈愛心があることも見えたので、息子を教育に託した。また、私たちは普段、飼っているペットや栽培している草花の世話をしている人を見ても、愛がどのようにしているかを見ることができます。

古来より、各学派、宗教は愛を提唱してきた。例えば、儒家は「仁愛」を提唱し、強調した「仁義礼智信、温良恭倹譲、忠孝廉恥勇」及び「誠恤勤雅恒」は、これらを実現するために各方面から愛を持つことを要求してきた。墨家は「愛し合い、相利を交わす」ことを提唱し、つまり博愛と協力･ウィンウィンを強調し、仏家は「慈悲」を提唱し、人々が多くの利他的なことをすることを哀れみ、キリスト教は「博愛」を提唱し、すべての人に平等、自由を求め、そしてイスラム教も「慈愛」を強調してきた（特に明･清朝初期のイスラム儒教）学者馬注がその『ハラールガイド』の中で提出した「骨肉を慈しむことができる者は、それを独善と呼ぶ、同教を慈しむことができる者は、それを兼善と呼ぶ、外教を慈しむことができる者は、これを公善と呼ぶ、鳥や昆虫の草木を慈しむことができる者は、これを普善と呼ぶ」も、大愛を提唱している)。

大愛の面では、範仲淹は私たちが学んだ模範であり、彼は国や社会のために大きな貢献をしているだけでなく、大公無私の愛を持っており、基金会の形式「義荘」（「義田」＋「義宅」＋「義学」を含む）を創始して族人、郷隣の貧困者を救済し、民国時代まで 800 年以上続いてやっと終わり、福沢家、近所、そして前に彼を見たことがある話を聞いても感動的で、風水さんが彼の祖先の家は風水が優れていると言っているのを聞いて、もしここによれば、代々高官が出てきたとき、彼は毅然としてこの宅地を変えることにした近所の子供たちが本を読んでこの地の風水世代の高官の福陰を得るために学校を運営している（この学校は後の蘇州公学、現在の蘇州市景範中学校）、その大きな愛の精神を見ることができる。

2 どのようにして仁愛の心があるのか、私たちはどのような仁愛の心が必要です：

誰もが愛を持っていなければならない。少なくとも家族を愛して家族の世話をし、自分のことを考え、家族のことを考えると同時に、人は他人を傷つけないようにしなければならないが、大きな愛を持っても他人を愛したほうがいい（つまり「老吾老と人の老、幼吾幼と人の幼」）、そして社会のために国のために貢献することを追求し、蒼生沢が万民に幸福をもたらすように努めなければならない（つまり社会に功

徳を立てる）。

そして愛は深く、切迫しなければならないが、ただ軽薄で、上心しない愛ではなく、深く、切迫した愛だけが、本当の、深いレベルの、タイムリーな善を作ることができる。例えば、世界にはまだ多くの蒼生蒙難が救助を待っている。権力、戦争、邪教の圧迫、束縛、奴隷、残害を受け、貧困、不自由、尊厳、飢餓、恐怖の生活をしている人もいるが、私たちの多くはこれらを見ても見ても見ても見ても見ても見ても見ても見ても見ても見ても、助ける行動がなく、彼らを完全に忘れさせ、声を出すことさえできない、さらには彼らの苦難を無視している人も見ても無感覚である（例えば韓国人は数千万人の同胞がまだ水の中にいるのを見ているのに、現状を変える方法を考えることは少ない）。大愛は特に切羽詰った大愛のものだ。

また、愛の対象もできるだけ広く、助けの対象の不足にこだわらず、すべてに愛を込めなければならない。儒家が追求する「世界大同」、仏教が提唱する「衆生を渡る」、キリスト教が強調する「神は世人を愛する」など、すべての人と物は、私たちが愛する対象であり、悪い人でも敵でもある。例えば、一人に欠点があるからといって、問題があるからといってそれを愛してはいけない。人が聖人でないからといって、誰もが過ちを犯すことができないし、かわいそうな人には憎むべきところがある。貧しい人は往々にして憎むべき欠点があって、それで失敗してかわいそうになることが多い。私たちは彼らがかわいそうだからといって彼らを助けると同時に、できるだけ欠点を改善するように誘導すればいい。

もちろん、愛にも度があり、氾濫してはならない。家族を溺愛してはいけない、放縦にしてはいけない、不合理な請求に満足してはいけない、そして縦悪を避ける助けには、本性を変えることができない相手（例えば東郭さんが狼を助け、農夫が蛇を救う）を助けることができないことが含まれる。また敵に対しても断固として闘争しなければならず、「婦人の仁」があってはならない。

そして愛にも技術が必要で、例えば困難な人を助けるには、物質的な助けのほかに、できるだけ自力更生に向かうように励まし、導き、助け、そしてできるだけすべての困難を解決するのを助けないで、適切に自分に解決を残して自分にもストレスを与えて依存を形成しないようにしなければならない。

3 どのようにして仁愛の心を持つことができますか：

人には愛があり、他人が苦難、失敗、災いなどに見舞われたときも、心が痛むべきであり、人の苦しみ、人の痛み、人の急ぎを痛めるべきであり、心を動かさずに人の不幸を喜ぶのではなく、さらにはヤジ（絶望して飛び降りそうな人を見ても飛び降りようとする人を見ると飛び降りようとする）や落石をするのではなく、見物人になるのではなく、できるだけ救うべきである。

私たちは常に人を哀れむ心を持って、人の苦しみを見ることができなくて、そして努力して困難を助けて、公益と社会事務に熱心にして、各方面から蒼生を幸福にしなければなりません。人を哀れむということは、人が苦しんでいるのを見ることができず、人が苦しんでいるのを見ると忍びず、つらい。孟子によると「哀れみの心」があり、王陽明によると「万物をいたわる」という。人が貧しく飢えているのを見て、生活が困難で、世話が足りない、流浪して所を失って、病気が怪我をして、危難に陥って傷つけられて、いじめられて、不公平に扱われて、すべて心が哀れみを生んで、できるだけ助けて、動物が殺されて、虐待されているのを見て、さらに草花や木が踏みにじられて切られているのを見て、すべて心が哀れみを生みます。

私たちは常に自分を目覚めさせなければならない。世の中にはまだ多くの人が苦しんでいる（しかし、世界各地で苦しんでいる人々の写真を事件の前に毎日見てい

る）。そして、私たちがもっと節約して貢献すれば、多くの人を助けることができることを常に考えなければならない。私たちは地蔵菩薩の「地獄は空に誓わず仏にならず、衆生の方証菩提を渡尽する」という理念を学ばなければならない。

私たちは強い社会的責任感、公徳心を持って、喜んで、勇敢に「余計なこと」、つまり社会、大衆にかかわることを多く管理して、社会の絶えず改良、進歩を促進しなければならない。多くの人は社会に無関心で社会の不合理なところに無感覚で、せいぜい文句を言うが、方法を考えたり行動に移したりして改善を促進しようと努力することはめったにない。多くの人は公衆のことは自分のことではなく、自分とは関係もあまりなく、自分が余計なことをする必要はないと思っている。また、社会はなかなか変わらないと思っている自分は環境を変えることができず、自分を変えて環境に適応するしかないと思っている。

私たちは衆生、社会的利益を第一、ひいては大公無私に置く精神を持っていなければならない。古来より多くの英雄豪傑は偉大な功績を称えることができるが、ほとんどの人は主に個人と家庭の功名と利益を追求している。私たちは孔子、釈迦などの聖人を学び、心を浄化させ、衆生を幸せにし、社会を長く太平にすることだけを追求しなければならない。

私たちは人を助けることを楽しみにして、積極的で、自発的で、気前よく人を助けなければなりません。人を助ける上では、富を薄め、善を好み、富をより多くの必要な人に分かち合うことを楽しみ、富を天に恵まれて私たちに与えられた恩沢と見なし、困難な人をより多く助け、つまり延沢をしてより多くの人に天沢を分かち合うようにしなければならない。

3 優れた品格を身につけて衆生と天の認可を得る

私たちはどのように徳を修め、どのような優れた徳を築くのでしょうか。

これは古くから人類が模索してきた問題で、例えば儒家は仁義礼智信、温良恭倹譲、忠孝廉恥勇を提唱し、仏家は慈悲、布施を提唱し、キリストは悔い改め、博愛を提唱してきた。様々な優れた伝統的な思想文化を総合し、時代の発展と結びつけて、次のような品格を参考にすべきである：

【正直、真理、真実を堅持する】

真理と真実は、人類社会にとって最も貴重なものであるが、その最初は多くの人の手に握られているのではなく、強い側の手に握られているのではなく、私たち一人一人が真理、真相を発見したら、他人の真理、真相に対する誤解、隠蔽を堅持し、人々がだまされず、社会をよりよく発展させる責任がある。

特に真理が堅持されなければ社会の発展を妨げ、災難をもたらすことになるならば、コペルニクス、ブルーノ、ガリレオが迫害され、焼死しても真理を堅持するなど、威武の懲罰にも屈しないようにしなければならない。

2020年初めに武漢で新型肺炎が発生し、全国ひいては全世界に影響を与えた。感染症が始まった当初、8人の医師が発見し、対外的に情報を発表して政府と民衆に注意したのは肯定的だが、彼らが政府にデマを飛ばした者として拘束訓戒を受けた後、屈従して堅持しなかったのも残念だ。もし堅持し続け、さまざまな方法で政府、民衆に注意し続けることができれば、疫病の拡散をよりよく阻止することができるはずだが、さらに功徳無量である。

【謙虚で謙虚で、謙虚で傲慢ではない】

謙虚で謙虚であることは卑屈ではなく、他人を尊重することと、自分に限りなく進歩を求め、いつまでも自慢しないことで、自分を虚懐の境地に置くことである。

謙虚に謙遜して自分を低位にし、他人の受け入れを得やすくし、世渡りに有利で無害であり、自分を自慢せずに進歩させることができる。

物事を軽視したり、他人を軽視したりする思想を持ってはいけない。仏教でも戒めを大きな戒めとしているように、妄言や妄言を持ってはいけない。

たとえ自分が正しくて、勝利して、収穫があっても、独りよがりになってはいけなくて、傲慢で、調子に乗ってはいけなくて、たとえ彼らが間違っていて、レベルが悪くて、失敗して、困難に落ちても、人が低いのを見てはいけなくて、他人をからかってはいけません。

【節欲は福を惜しみ、富や物質生活を求めすぎない】

人間の欲望は無限であり、完全に満たされることは難しいので、もっと節制しなければならない。特に富と物質生活への追求はもっと節制しなければならない。

富は適切に十分に使えばよく、多くても役に立たない。生が死をもたらすかどうか、強要しないで、多くの努力をして自然に手に入れればいいからだ。

物質生活では、基本的な衣食住を満たして十分な栄養、衣食住、安全を保証できればいい。

そのため、中国の伝統文化はすべてみんなの節欲、倹約を提唱して、道家の提唱の清心寡欲を含んで、儒家は顔回一簞の食に対して一瓢一陋室を飲んで生活を満たす賞賛、そして墨家の提唱の非楽節用、仏家の提唱は福を惜しむ。その中で福を惜しむという概念は興味深い。つまり、誰もが命理的には先天的な福分は固定されており、福を惜しんでゆっくり食べることができるようになっている。例えば、紀暁嵐は『微草堂ノート』に、兄の息子と家の奴隷の息子が同年同月同日に同じ庭に生まれ、本来は同じ命理であるはずだったが、兄の息子が夭折して奴隷の息子が育ったことを記している。それは、兄の息子がおいしくて飲みすぎて福分が早すぎて使い果たしてしまったため、もっと早く亡くなって、奴隷の息子の生活が簡素で福分がゆっくり消耗しているため、この命が長くなっていることを推測しても無理はない。

現代の西洋でも低炭素生活を提唱し、使用度を節約し、消費を減らす。

物質的な享受と富を求めすぎると、多くのデメリットがあります。例えば、

1資源と時間を占用、消費しすぎて、マイナスになったり、物を弄んだりして、

正常な事業発展に影響を与えたり、

2 暴食暴飲、過渡刺激は、かえって心身の健康を害する。

3 欲望を刺激して膨張させ、欲望が強すぎて満足を得られないと、器用さ、投機、他人と集団の安さを占め、邪道を行く邪念、悪念が最終的に岐路に入る。

4 多すぎる物質消費は社会の後続発展に影響を与え、生態環境を破壊することもある。寡欲で求めがなく、満足しやすく、かえって心を清め、憂いがなく、足るを知ることができて、だから私たちは質素な生活を送ることを提唱しなければならない。

5 節食して暴食暴飲を避けるには、伝統的な養生の道が提唱する腹八分目を食べたほうがよく、さらに適切な飢餓ひいては谷を切り開く練習をするほうが病気を排除するのに有利である、

6 山の珍味を食べず、肉を少なく食べ、野菜や果物や菜食などのより栄養的で健康的で、生産コストが低く、環境生態を破壊する食品を少なく食べる、

7 贅沢品を買わず、あまり大きな家に住まず、名車を運転しない、

8 1 つ 1 つの資源を大切にし、料理の残り物が出ないように適量をコントロールし（中国の都市で毎年発生する料理長のゴミは 6000 万トンに達し、浪費だけでなく環境汚染をもたらし、処理コストを増加させ、目を見張るようなものだ）、各種の物品もできるだけ物を利用して使い果たし、勝手に捨てて新しいものに変えない、廃品もできるだけ他の用途を利用して宝に変える、

9 節約して倹約して、細かく計算して、節約の点滴を軽視してはいけなくて、ちりも積もれば山になるほどもっとよく財産、資源を蓄積して守ることができて、例えば常言の「小富は倹約して、大富は天によって」、

10 良好な富観を構築し、富を過度に追求することなく、できるだけ多くの富を公益（ビル･ゲイツなどの行為）に寄付することで、自分の徳行、福分が耐えられる範囲を超えて「徳不配財」が現れることを避けることができる。

倹約して贅沢品を使わない、高価な食事をしない、贅沢をしない、社会が他人に役立つことをするよりも

苦行僧の生活もいいし、節欲しているし、慈悲心を高めている（衆生はまだ多くの人が苦しんでいるので、自分で楽しむべきではない）

欲張りは多くの悪を招く。多くの権力者は、本来は使いきれないほどの天をかけて富貴であるが、まだ際限なく追求し、深刻な社会災害を招き、最終的に矛盾衝突が勃発して自分も玉石に従って焼かれることになる

【恥を知る】

恥を知ることも儒家が提唱した道徳準則の一つであり、これにも積極的な意義があり、善から悪を捨て、忠誠を尽くし、人生、家庭、社会に対することをしないように鞭打つことができる。

私たちは「厚顔無恥」と表現して、一人で悪いことをして、他人に対することができないことをしても恥ずかしくないことを形容して、一人で名声を重んじて、世論に悪く評価されるのを恐れているのは羞恥心があって、一人一人は自分のしたことが他人、集団に対することに恥じて、後ろめたさを感じなければならない。

中国は現在、恥を知ることについては継承が悪く、多くの人が職務を怠ったり、汚職をしたり、民衆や社会を傷つけたりしている。日本の一部の面での恥を知ることはよくできており、日本では一人でみんなが集団や国に申し訳ないと思っている限り、恥ずかしくて、涙を流した懺悔謝罪、辞任、さらには自裁謝罪をすることになる。

中国では、権力を獲得するために恥じることなく独裁者の機嫌を取り、良心に背

いて独裁者のために賛歌を歌い、独裁者の歓心を得るために独裁者になった走狗の共犯者がそれに従って人民を傷つけることをしても、自分が千古の悪名を残すことを考えない人もよくいる。彼らは、権力が上部の授権だけでなく、人民の承認から来ていることを全く理解していない。そして、権力は短く、名声こそが長く、そして完全に民衆によって判断されている。もし上司の機嫌を取ることだけを知っていて、民衆と乖離し、白黒の是非を問わず唯上の従だけであれば、自分を素位の死体食や身を滅ぼした人と呼ぶだけだ。

人は必ず名声を大切にして、みんなに認められるようにしなければならない。鼻で笑われたり、千古の悪口を背負ったりしてはいけない。

【人に善をなし、一人一人、生き物一人に善を尽くす】

すべての人、すべての生物には生存と発展の権利があり、私たちは彼らの生存権、発展権を尊重し、彼らを大切にし、彼らを侵害することはできません。

誰もが異なる利益とニーズを持っており、私たちはそれを考え、多くの理解と支持、助けを与えなければならない。多くの人の美を成し、多くの人の焦眉の急を解する。

人間社会における競争の中で、私たちは自分の徳行と恩恵を通じて他人の認可と支持を得ることができ（古語でいう「四海に客服する」）、欺瞞、強迫、束縛、奴隷を通じて他人を服従させることはできず、さらに他人が不服だからといってその傷害を肉体から消滅させることはできない。たとえ相手が悪人であっても、私たちは彼を説得し、感化するために努力しなければならない。確かに解決できないから強硬な手段を取ることを考えなければならない。仏家の「殺生戒」のように、さまざまな生物に対しても、新たに流行したネット用語「人畜無害」のように、私たちは勝手に捕殺することはできません。

他人との利益争いもできるだけ避けることができ、私たちは業務分野、業務方式、製品サービスなどでそれとずれて悪性競争を避けることができ、道家が提唱する「世と争わない」に似ている。

他人のことを考え、理解し、他人を助け、他人を困らせず、他人を傷つけず、他人と利益を争わないようにすることで、天地の良心にかない、自分をより多くの力に団結させ、より多くの支持を得ることができる。

しかし、それをするには、難しくないように見えますが、正直な人や弱者を見ることを含めて、多くの人は彼らを尊重し、保護しなければならないと思っているのではなく、自分が強い立場にいていじめ、搾取できると思っているのではないでしょうか。また、心が狭く嫉妬心が強い人も少なくなく、人の冗談を見たり、自分より人がいいのを見たりすることはできません。自分と競争したり、節度や仇を持ったりしている人に対しても、きちんと対処できる人は少ないのではないでしょうか。甚だしきに至っては多くの人は機会があるとわざと人を困らせたり、人のお下げをつかんだりして、人にとって避けられない小さな問題や実質的な悪影響を与えていない問題を放さず、見過ごしたり、オンラインにしたりするのが好きだ。

他にも多くの人が軽視しがちでできていないことは、自分の口徳の修養を重視せず、自分の言葉のために人を傷つけ、俗に「良言一句三冬暖、悪言六月寒」と言われ、言葉も人の心を温めることができ、あるいは人を冷たくすることができ、その他人への傷害は皮肉体の傷害よりも深く、より長く、自分の意図しない一言は一生心を痛めてしまうことがある。だから私たちは他人に対して必ず穏やかに話をしなければならない。意図的に他人をからかったり、勝手に悪口を言ったりしてはいけない。一人一人のことに対しても、事のいきさつがはっきりしていない前に、人を批判した

り、事実と乖離したり、李戴のコメントをしたりしてはいけない。人を誹謗し、中傷し、誣告し、ぬれぎぬを着せ、帽子をかぶり、悪辣な攻撃をしてはいけない。人の言葉は恐ろしく、多くの人の口は金で、一代のセレブの阮玲玉も様々なゴシップや断章の意味を取り、事実を曲解する世論に耐えられず自殺した。また、新型コロナウイルスの流行期間中に上海にいる湖北省出身の女の子を見て、湖北省出身であるため防疫部門に強制隔離され、正常な扱いを受けられず、一緒に隔離された多くの人とネット上で情報を発信して抗争したが、実際の状況を知らず、事実を曲解した多くの民衆の冷たい風が高まり、悪口を言ったりして、心理的には大量の睡眠薬を服用して自殺することに耐えられなかった。

様々な動植物の命を軽視し、生き物一人一人を大切にしていない人も多い。昆虫アリを勝手に虐殺したり、草花や樹木を勝手に踏んだり取り除いたりする。また、天地神の様々な家畜祭に対しても非難されなければならないことは非常にありません。特にネパールのいくつかの宗教祭では、牛などの動物を大量に殺して祭ることが最も誇張されていますが、天地神も生霊を大切にしています。彼らは家畜祭が好きではなく心を痛めているのを見て、家畜祭で彼らを敬うのは逆効果で、幽霊でなければ家畜祭が好きになる可能性はありませんが、幽霊に対しては私たちは使わないし、祭らないでください。

【親孝行、家族に優しく】

良い家族には、平世代、後輩への慈愛、目上の人への親孝行が含まれています。

家族は私たちの最も親しい人で、もし家族に対してすべて良くないならば、それでは他の人に対して良くなることはできなくて、たとえ他の人に対して良いとしても偽りで本心ではありません、目的があります、中国の古い言葉の“百善孝が先”はこの道理を説明して、中国は普通“4 世代同居”で 1 つの家庭を賛美して、同じくこの家庭の老人の寿命が長いと言うのではありませんて、この家庭の関係が打ち解けて何世代も仲良くして分家しないことができることを示して、このような家庭の人は普通はすべて教養が良いです。

親や目上の人に親不孝をしたり、弟や妹や子供の後輩を虐待したり、DV 配偶者を罵倒したり、別居、離婚、相手の困難な晩婚、兄弟の反目など、家族関係がよくない人は、一般的に性格に欠陥があるか品質に問題があるので、気をつけなければならない。

親孝行には、目上の人がご飯を食べてお金を持っていればいいという保証があればいいと思う人が多いだろう。これは確かに法律上の扶養の責任を果たしているが、動物を飼うのと何が違うのだろうか。老人は衣食を得て生きるだけでなく、尊敬を得て尊厳を持って生きる必要があり、感情的な付き添いを得ることも含めて精神的な生活が必要である。生活に心配がないことを保証するだけでは、付き添い、交流に無関心ではなく、老人に暴言を吐く態度が荒い

家族の間でも、あまりにも熟知しているために相手に対して尊重の意識が少なくなりやすく、話をするのも理性を大切にすることを忘れがちで、いつも文句や非難に満ちていて、つい悪口を言ってしまいがちです。だから、外の人とはどうやって仲良くしても仲良くしても、自分の家族とはかえってコミュニケーションが難しいと思う人もいます。これは、配偶者に対しても外の人と同じように遠慮して、謙虚で、心が穏やかであれば、それもコミュニケーションができると考えてみてはいかがでしょうか。

自分も職場や外の人と仲良くしているという人もいますが、みんながよく評価しているのは、家族が悪いから仲が悪いのだという人もいます。実は家族同士の付き合いが長く、長くいると相手の欠点に気づきやすくなるので、嫌悪感が出やすくなります。また、家族同士の直接的な利益関係があると分岐しやすくなるので、矛盾が生じやすくなりますが、他人との付き合いが多くないのは時々一緒にいるだけで、みんなが見ているのは相手の良い面だけで、嫌悪感がかえって少なくなることや、他人との付き合いも一般的には少なく利益もなく、矛盾も自然に少なくなります。だから外の人と仲良くして、外の人から良い評価を受けることは何も説明できませんが、家族と仲良くして、家族に良いことこそ個人の素質、教養を体現することができます。

また、自分が目上の人に親不孝で、家族によくないことには理由があると思っている人もいます。目上の人、家族が彼によくないか、小言を言ったり、思想が固化したりするなど、さまざまな欠点がありますが、曽国藩が言った「小さな悪で人の美を捨てるな、小さな恨みで人の恩を忘れるな」のように、家族がどんなに悪くても欠点があっても、彼らは尊重に値しないほど極悪ではありません。ほとんどの時は私たちにとってもよく、特に両親が子供をかわいがって育ててくれた恩は大きいので、私たちは彼らの美しさ、大きな恩を忘れてはいけません。

家族に良くない理由として自分の経済的困難を挙げる人もいるが、経済的困難は物質的にはうまくいかないとしか言いようがなく、精神的には影響しない。

家族は一人一人の後ろ盾であり、家族の和合は各方面でうまくいくので、私たちは必ずすべての家族を大切にしなければなりません。

世界に親不孝がなく、誰もが目上の人に親孝行をしてすべての老人に老後を安らかに過ごさせ、世界には子供が捨てられたり、家庭内暴力を受けたりすることがなく、すべての目上の人は継父継母を含めてすべて家の子供を愛し、すべての子供は楽しく、幸せに成長することができることを願っています。

もちろん、家族に良いことにも原則がないわけではありません。汚職官吏と同じように自分の能力、資源を利用して家族に公私を損ない、私腹を肥やす機会を提供してはいけません。家族の強姦犯科を甘やかし、かばってはいけません。

【知恩図報、飲水思源】

誰もが他人の助けや恩恵を受けているのだから、本を忘れてはいけない。そうすることでより多くの人に助けられ、支持され、感謝しない人は彼にどんなに良くても役に立たないことを見せることができ、みんなは冷たくて彼から離れることができます。

そして感謝することは、他人の自分に対する優しさをもっと覚えて、他人の自分に対する不足を気にしないことであり、社会構成員、家族構成員の間では互いに感謝し合い、言い争うのではない。

中国の歴史には多くの知恩図報の感動的な物語がある。例えば、趙氏孤児の相前後して自殺し、自分の息子を犠牲にした程嬰と公孫杵臼を保護し、知遇の恩のために助攻した仇を暗殺した豫譲、聶政、荊軻.....

明朝が朝鮮王朝を危険から救って彼らを復国させ、朝鮮王朝も再建の功として永遠に感謝し、明朝が滅亡しても、朝鮮王朝はどのように明朝を回復するかを企図してきたのも、知恩図報の典型的な例である。

【規則を守り、約束を守り、職務を尽くし、忠節を変えない】

信用はこのように重要である。一人、一人の会社は信用がよく、誠実さを重んじ、話をして、やり遂げると、みんなは喜んで、好きで、安心して、優先的に彼らと

協力して、協力も少なくて、条件がゆったりして、しかも協力が深くて、比較的に速くて、機会はますます多くなって、道はますます広くなります。信用を守らなければ再継続される信頼の基礎を失い、協力したい人も少ないだろうし、協力があっても深さが浅く、条件が厳しいので、多くの発展の機会を失い、社会に立脚することもできないだろう。一つの政府にとっても信用は非常に重要であり、政府の信用が破綻すれば、民衆の承認を得られず、民衆に捨てられ、そのためすぐに終わり、清末の朝廷の威光、信用を失ったように、結局その号令を聞く人はいなくなり、すぐに死亡した。馬雲も信用は今後の社会の最大の財産だと言っていたが、確かに一人で信用を持っていれば、評価する価値はない。多くのビジネスの多くの協力は相互不信のために展開しにくいか、多くの保証条件を設定しなければ協力できず、協力の進度を遅らせても協力コストを高め、信用問題を解決すれば、迅速に協力を達成し、協力、取引コストを大幅に下げることができる。私たちは信用、口コミを作り、良いイメージ、名声を確立し、規則を守り、信用を守り、虚偽を弄し、他人を詐欺しないようにしなければならない。昔から大事にできる人は信用がよくて評判のいい人で、柔軟だが信用を守らない人はせいぜいたまに、局所的に利益を得て小利を得るしかなく、背信の基本は良い発展はありません。

みんなが信用を守り、ルールを守り、社会が円滑に運営され、消費量が少なく、国がよりよく発展することができる。もしみんなが信用と通常の行動規則、ビジネス規則を守らなければ、それはトラブルが多くて多くの人力物力を浪費して処理することができるだけでなく、多くの人の仕事が信用と規則を守らない人に遅れて無駄になり、社会全体が無秩序になり、運行が滞り、消費量が多く、国が発展しにくいことにもつながる。先進国が比較的よく発展しているのは、資源がより豊富で、蓄積がより豊かではなく、より重要なのは、社会的ルールを形成し、みんながよく遵守しており、どの企業も、誰もが良い契約精神を持っており、後進国は資源が貧しくなく、自分で開発したり導入したりした科学技術も悪くないが、民度が低く信用が一般的に欠落しており、社会の無秩序な競争、さらにはさまざまな不規則な内乱な内紛内闘に満ちており、内部消費が深刻である。

1つの企業の製品はブランドを作り、市場で売れるには信用のある口コミと販売メカニズムに依存しなければならない。一つの業界では、なぜ欧米や日韓のブランドがブランドになりやすいのか、そして彼らの価格が高くても価格が良くなくてもよく売れているのに対して、中国製品はローエンド市場を占めているだけで、低価格で販売されているだけで、市場占有率も高くなく、中国のメーカーの起点レベルがあまり悪くなくても、時間が近くても、製品は彼らより悪くない。これは、ブランドの口コミをより重視し、製品の品質に対するチェックが非常に厳しく、品質がクリアされていない製品を出荷して販売することはなく、発見すればすぐに全数リコールして多くの損失が大きくても、彼らの製品消費者はより安心して購入し、高くても購入したいと思っているからです。また、彼らの販売メカニズムも信用を重視しており、代理権の授権は厳格に実行され、代理店の利益を厳格に保護し、彼らが販売を展開することを回避することなく、彼らの利益を保証することができ、利益を得ることができるようにすることができます。このようなメカニズムは、各販売段階の従業員が彼らの製品を顧客の前で賛美することを意図的に普及させることができ、市場販売がより容易になります。中国のメーカーの多くはビジネスルールを守る精神が欠けており、利益の前では信用を捨て、各級の代理店の保護を重視せず、さらには契約契約を児戯のように代理店が耕した市場の果実を奪い合うことで、強力で忠実な市場販売ルートを形成することが難しく、市場で成功することも難しい。

昔から戦場では降伏者を殺すことはできないと提唱してきたが、殺すことは不吉だと思っていたが、実は誠実さを追求し、降伏者に対する誠実さでもあった。降伏者を殺すことは降伏者の信頼を欺き、裏切ることであり、降伏を受け入れる際の約束、誠実さに対する背信であるため、

実は中国人は上古では信用を重視していたが、尾生は洪水に直面しても約束を守って出会いを待っていた恋人が橋柱にしがみついて洪水で溺死したのが典型的な約束を守った例であり、今でも大部分の人は名声と信用を重視しているが、契約精神が一般的に弱いだけでなく、小利口な投機をして規則や約束を迂回するのが好きな人も少なくない（典型的な例は田忌競馬であり、実は梁を盗んで投機して規則を守らないが、称賛を得て行動の道具としてまで崇められている）、陽奉陰違背説に慣れている人もいる。これらの信用の欠如は中国社会の各種コストが高く、内部消費が大きく、みんな他人の不信に影響されて多くの精力と財力を消耗して疲れ、社会の発展に深刻な影響を与えなければならない。

また、多くの人は忠誠心、忠節の概念もますます薄くなってきており、給料をもらっているが、担当している職場に責任を負う仕事が忠誠心を尽くしていないことや、食いしん坊なことをしていること、結婚という契約にも厳格に守られていないことから忠節を守ることができなかった。これらの面でうまくいかなかった人も無責任で誠実ではない人で、みんなはできるだけ避けるようにしています。

4 身を修めて反省して悪のために災いを招くことを避けるために絶えず過ちを改める

人は善を行うには、できるだけ悪を行う、つまり悪を防ぐには、是非、善悪をはっきり区別し、何ができるか、何ができないかをはっきりさせなければならない。

積もった悪、罪は災厄を招くので、私たちは良い過ち、悪いことから目を覚まし、常に自分のことを考え、自分の罪を反省し、懺悔し、改善し、絶えず自分を高め、各方面が最善を尽くすことを追求する必要があります。

現実には誰もが多かれ少なかれ不良行為や過ちを犯すことがあるが、あるものは大きいものもあるし、あるものは少ないものもあるが、いくらと大きさにかかわらず私たちはそれを捨てなければならない。小さな悪も悪であり、そして小さな悪が蓄積されても大きな業障壁になる。劉皇おじさんが言ったように「悪を小さくしてはいけない」というように、すべての悪は大きさにかかわらずそれをすることはできない。

キリスト教は懺悔を提唱し、一人一人が原罪を口にし、懺悔を行い、過ちを繰り返さないことを表明し、許しと救済を求め、社会のために他人のために貢献することで罪を償うよう努力する。儒家も、曽子の言うように自分のことをよく考えて「吾日三省吾身」を提唱し、自分の罪を絶えず反省し、懺悔することで、自分を絶えず修正し、向上させることができる。

誰もが自分の不足に直面するのを恥じないで、人に自分の過ちを知られるのを恐れないで、患者が医者に病状を十分に知らせるように、自分を直視して、そして努力して改心して、過ちを知ったら改めるのもみんなと神、天の許しを得ることができます。決して間違ってはいけない。自暴自棄になって缶を破って道を黒くしてはいけない。

特に私たちがうまくいかず、思い通りにならないことに遭遇したとき、自分がどこで間違っていたのか、足りなかったのかを反省しなければならない。すべてに因果があり、運が悪いのは自分のことを考え、境遇が多く修徳しなければならない。各方面がうまくいけば、善行に力を入れて徳を積めば、福報は自然にすべてのことがうまくいくだろう。

災厄に遭遇したときはまず、自分に何か悪いことがあったことを反省してすぐに改善し、善行を多くして災厄を解消しなければならない。古代の帝王と国家に遭遇して災害が発生すると、すぐに災害救援を手配するほか、自ら懺悔し、罪を犯して己の詔を下し、天地を祭って許しを請い、天下を大赦するなどの仁政を実施しなければならないことも多い。

常に自分のことを考えて改善し続けるために、古代の「功罪格」（携帯電話のカレンダー機能を利用して作ることもでき、専門的なアプリを開発することもできる）を学ぶこともでき、毎日過失を反省して記録することを堅持し、しばらくの間統計、分析、総括を行うことができる。

また、悪のために避けるためにも、私たちは是非を明らかにし、それらが悪の行為であることを明確にしなければならない。そしてよく対照して、自分がまだやっている悪があることに気づいたら、急いで直して、特に大きな悪は急いで手を引いて、そして努力して善行をして徳を積んで罪を償わなければならない。

大きな、明らかな「悪」はわかりやすく、前の論述でも多く言及されています（例えば、不義の利益を得ることができないその章の列のいくつか、優れた品格を育むことを論述する章が反対側として言及されたいくつか）、ここでも小さな、明らかではなく見落とされやすい「悪」を挙げて参考にしてください。

**1小さなことでも積もり積もり積もり

・親切で客好きだと思って酒を飲ませ、体を傷つけた。

・時間感覚が悪く、遅刻するとみんなの時間が無駄になる。

・人から借りたものを自発的に返さないことは、信用がなく、無責任で、他人の利益をものともせず、責任を負わない行為であり、他人の迷惑や損失をもたらす悪でもある。

・過渡的なセールス、セールスの電話、広告情報を不要な人に送ったり、みんなと関係のない情報を微信グループなどのコミュニケーショングループに送ったり、悪ではないように見えますが、みんなに迷惑をかけています。特に広告宣伝の電話をかけると皆さんに迷惑がかかり、非常に憎まれています。

・公共環境、公共施設、共有設備を大切にしない、例えば草花を勝手に踏みにじる、また多くの人が共有自転車を壊したり、むやみに捨てたりしているが、やましいとは思わない。

・アリや昆虫を踏み殺すなど、小動物を勝手に虐殺することは、大したことではないように見えるが、生霊を傷つける悪であることも大きな罪である。

・言葉遣いが厳密ではなく、間違った情報を伝え、さらには尾ひれをつけたり、いざこざを起こしたり、人をけなしたりするのが好きで、デマ、虚偽情報、デマが飛び散り、他人や集団を傷つけることになりやすい。

・人に顔向けできず、嫉妬して他人に不利なことを言ったり、他人に不利なことをしたりする。

・在職しているのに責任を果たさず、不作為であることは、背任の悪である。職務を担当したり給料をもらったりする場合は、特別な場合、例えば得られた任務指示が正義ではない任務でなければ、責任を持って仕事をしなければならない。ずるをしたり、仕事を遅らせたりしてはならない。特に公職者に対しては、高位を占め、民衆に祭り上げられた給料を手にしたりしてはならない。

・製品を販売する過程で顧客を欺く。

・不健康、不衛生、有害な食品またはその他の製品の製造、販売。

・弁護士が法律の抜け穴を利用して悪人の責任逃れや処罰を助けるのも正義に反するので、業務に出なくてもやめてください。

・立法と司法の悪：悪い法律、政策を制定すると悪も大きく、悪い法律、政策は非常に多くの人を被害に遭わせるため、例えば一部の地方では一刀両断に禁摩する推進者がいて、また司法判決が不当判決を下すと大きな悪影響を与えることも比較的に大きな悪で、例えば南京彭宇事件は老人を扶助する彭宇に責任を負うと判決した。

このように、他にもたくさんありますが、皆さんは気をつけてやってください。そして、道徳潔癖な人になって、自分が少しでも悪いことを許すことができないようにしてこそ、自分をますます完璧にすることができます。

5 多くの人が称賛したり憎まれたりしないで、自分に有利な外部の心の力の環境を作ります

他人の心の力には巨大な放射線の影響力があり、体力を加えるよりも大きな作用があることが分かった。また、体力の作用は条件に限られて実施できないこともあるが、心の力の作用は時空に制限されていない。善には善があり、悪には善があり、その成因があることが分かった。私たちはみんなに認められ、それによって自分に有利な外部の心の力環境（つまり、周りのすべての生物と天地、神が自分に良い方向性を持つ心の力）を作り上げるように努力しなければならない。祝福する人の心の場の環境。でたらめを言って逆行して人の恨みを買うために人の恨みを買うことはできない。それによって自分を多くの人に嫌われ、呪い、さらには人の神が共に憤慨し、千夫が指す不利な外部心力環境に陥れてはならない。

これらをやり遂げるには、世界のすべてに幸福をもたらすことを目的として、自分の愛、慈悲心を育成し、他人の物のためにあらゆるところを考え、多くの人に仁徳の愛を施し、多くの利他的な言動をし、多くの人を助け、多くの公益をし、徳を修行し、そこからみんなの称賛、助力と尊敬、愛、祝福、感謝、推進、引き立てる心の力を得て、天地の神々の万物のエネルギー加持を得て、自分を不利にすることなく、各方面をよりスムーズにし、成功させ、家庭をより幸せにし、そして困難に遭遇した時に外在的な雰囲気の補助、保護があるために抵抗力、災厄を取り除く（つまり古語でいう「一徳は三劫に及ぶ」）。一人で善願が大きく、善行が多く、善徳が明らかになれば、さらに感天動地になり、より大きな力を得て、より多くの発展の機会を得ることができる。

他人に妨害、いじめ、だまし、搾取、傷害を加えてはならない行為、人に反感、嫌悪感を感じさせないこと、人に批判されないこと、異議、嫌み、嫌み、衰えを見ること、恨み、ののしることを避けること、これらはすべて不利な心力の雰囲気を生み、抵抗が生じて人を不調にさせ、甚だしきに至っては人を攻撃し、人の心身の健康に影響を与えるためである。不良な行為はいずれも業障（罪障）を残し、影のように振舞わずにいつでも障害、災いを生み、甚だしきに至っては一人で悪を行いすぎ、敵を作りすぎ、人々の利益を侵害すれば、多くの敵対的憎しみの心の力に万矢が心を貫くように攻撃され、心身を疲れさせ、急死する。古今東西、民の恨みを沸騰させ、世界を敵に回し、怒りに触れた者も、王莽、袁世凱、ヒトラー、ムソリーニ、ツィオセ

スク（ルーマニアの独裁者）、サダム、ラドンなど、自分を滅亡に追い込む報復を招くだろう。

そしてもう一つ注意しなければならないのは、過ちを犯した人に対する罰も恨みや副作用がないように口をつぐんでおくことだ。

6 矛盾、敵対、衝突の発生を避けるために、より多くの人を団結させる

他人からのより多くの賛美を得るためにできるだけ多くの行を行い、周囲の人と仲良くして、矛盾、敵対、衝突をできるだけ避けることは、良好な外在心力環境を得るために必要なことでもある。

そして、一人で大事業になるには、さまざまな問題や関係を上手に解決することが必要であり、利益の調整をし、利益を適切に自己犠牲にすることでより多くの機会を得、より大きな発展を得ることができる大きな知恵が必要である。

また、誰もがコミュニケーションが上手で、人間関係をうまく処理できれば、社会もより調和しています。実は多くの人間関係の問題は、どれだけ大きな利益の衝突ではなく、コミュニケーション、協調に問題が生じている。例えば、中国で最も顕著な人間関係の問題は嫁と嫁の関係の問題であり、非常に高い割合の嫁と嫁の関係がよくない。これは嫁と嫁は異なる家庭から来ており、それぞれが長期的に蓄積されて形成され、なかなか変えられない生活習慣、理念と物事を見る観点（息子と母、嫁と自分の両親が同じ家庭から来ていればこのような違いはない）があるため、嫁と嫁が一緒になると常に食い違いがあり、この時はこのような食い違いによって矛盾したりケンカしたりしやすい（夫婦の間にもこのような食い違いはあるが、感情があるため喧嘩はしない、舅と嫁にもこのような食い違いはあるが、交雑が少なく矛盾も少ない）ので、皆さんはそれぞれの嫁を見てもいい嫁と嫁の矛盾は利益の衝突には関係なく、あってもつまらないことで、この時はコミュニケーションが上手で、協調が大切です。

1 できるだけ多くの人を団結させる：

最大限に広く付き合う必要があり、どんなに悪くても悪い人でも仲良くすることができ、ある程度の友達や良い面でのパートナーにまで発展させることができます。

そしてできるだけ敵を作らない：あまり多くの人を敵にしないで、友達になれない、仲良くしても敵にならないようにしてください。争いがあっても友好的に処理しなければならない敵対を招いてはならない。相手がどんなに悪くても友好的に関係を処理し、退路がないのではなく余地があり、関係を維持できるようにしなければならない。

また、すべての人を尊重しなければならない。地位が低く、能力が悪く、うまく混ざっていない人であっても、誰かを無視したり、軽視したり、笑ったり、機嫌を損ねたりしてはならない。そうしないと、どんな小さな人物でもトラブルや抵抗を引き起こす可能性がある。

2矛盾、敵対、衝突を回避するために、すべての人と仲良くしてください：

ほとんどの人には欠点、不足、時には間違いがあるので、それぞれの人と仲良くして矛盾、敵対、衝突を回避するのは難しい。

そのためには、私たち自身が簡単に敵対を形成したり、感情が高ぶったり、激しいケンカをしたり、暴力を振るったりするのではなく、謙遜したり、温和にしたりすることが必要です。人に優しく、感情に左右されず暴走せずに行き過ぎた、過激な行動をし、いくら怒っても上品さを保ちましょう。

矛盾を激化させないようにして衝突をエスカレートさせないようにするには、理性的で冷静で感情をコントロールし、簡単に人を傷つけるようなことを言ったり、人を傷つけるようなことをしたりしないようにしなければならない。話をしたり、仕事をする前によく考えてから実行したり、どんな話も口を割らずにバランスを考えてから言ったり、真っ向から対立したり、対立したりするようなコミュニケーション方法をとるのではなく、決して気の強い話、ひどい話、極端な話をしないようにしなければならない。激しい手段で矛盾を処理してはならず、話し合いが崩れたり、けんかになったりしてはならない。

矛盾をうまく解消しなければならない。矛盾の原因を分析して見つけ出すのが上手で、そして多勝の解決方法を採用して、大きなことを小さなことにして、各方面をなだめることができて、“梭先が幼いことを投げます”は各方面の各種の大きさの矛盾を解消して、巧みな言動で対応して他の人の不満意見と恨み、攻撃を円融に解決することができます。

また、小節にこだわらず、人に寛大に接してください。無傷で上品で、大局を考えても構わないのは大きくなくて、しかも人が察するには徒がなくて、あまりにも比較しすぎてはいけなくて、特にいくつかの枝葉末節の上で、他の人のいくつかの不注意と小さな誤りに対して注意すればよくて、もしそれがすでに自分で発見して改正しているならば、適切に見ていないと思ってそれを体面がないようにすることができて、更に些細なことを大げさにしてはいけなくて、上の綱渡りをし人が聖人でなければ誰がどうしようもない。特に文明的で合理的ではない社会では誰もが完璧にすることが難しい言動の中には、本意ではなくやむを得ず、本質を反映しないものもあるので、あまり言い争ってはいけない。および目的と結果が良ければ基本的にいいが、過程の一部の曲直は適切に緩和でき、是非を明らかにし、曲直は譲歩でき、必ずしも曲直と完全に原則に従うことを争ってはならない。

他人に悔しい思いをされ、傷つけられても、相手が心から過ちを認め、賠償してくれれば、人に階段を下りて、人を許して人を許して、恨みを覚えてはいけなくて、いつ恨みを晴らしてくれたのか。

そして忍耐を学ばなければならない。我慢して、相手の怒りを避けて、適当な時

に孫のふりをして、相手が冷静になってからさらに論争することをマスターします。確かに一時的に解決できないのは、争いを棚上げにすることで、往々にして矛盾双方を落ち着かせ、一時的に穏やかにすることができる。相手が理不尽で説得できないのであれば、まず我慢して強硬に対抗しなければならない。そしてほとんどの人が変えることはすぐにできるものではなく、人に対してもすぐに変えることを強要することはできず、緩和空間を与えなければならない。まして理性的で理性的ではない人とあまり言い争う必要はありません。彼らにはできるだけ避けることができ、避けることができないので我慢するしかありません。

3方法を考えて他人と共通認識を形成し、共感する：

共通認識や共感を形成することは、深い相互承認をもたらし、人間関係を処理する最高の境地である。

そのため、コミュニケーションが上手で、多くの人の声に耳を傾け、他人のニーズ、要求を迅速に分析することが上手で、人の話を見て色を見たり、人の心を読んだりしなければならないことや、多くの場合、他の人が持っている話をはっきり言えないことが多いので、人の話に隠されている意味を鋭敏に捉え、理解してから、みんなの共通点を迅速に見つけて、物事に対してそれぞれが納得できる解決策を制定して、それによって共通認識を達成し、共感することができ

もし確かに共通認識を達成できないならば、できるだけいくつかの共通点を探し出して、ある人が100%ある人に対して100%間違っていることはあり得なくて、いつもいくつかの交差点を見つけることができて、共通点を求めて違いを残して、和して違います。また、適切に妥協して譲歩することもでき、意見は保留しておけばよい。

自分の誤った認識に対しても、過ちを知ったら改め、体面と執念のために執拗に、自分の観点に固執してはいけない。

4他人を批判するにはテクニックに注意しなければならない：

人を批判するにも技巧が必要で、まず肯定してから問題を指摘しなければならない。出発点を肯定するのは良いことだということを含めて、出発点が悪い人は少ないからだ。

また、人の過ちを批判することもできるが、他人の欠点を言ってはいけない。

また、あまり直接的に相手を殴っても分からない限り、できるだけ傍観的な方法を採用しなければならない（そのほうが世間体がよく、時には「看破して説明しない、看破して暴かない」必要もある）。

人の面目を失わないように、公の場で人を批判することもできない。

5適切な妥協を通じてより大きな生存空間を得ることができる：

いくつかの場合、道理を説くことはできません。特に譲歩しないと安全が脅かされたり、より大きな利益に影響を与えたりする場合は、まだ無理に担ぐことはできません。まず一時的に譲歩して妥協するしかありません。孫を装う必要があります。それは孫を装う必要があります。戦争中、敵と味方の力の差が大きく勝算がない場合、一時的に抵抗を放棄して逃亡して先に力を保存するのも生存の策略であり、三十六計が逃げるのが得策であるように、包囲されて確かに逃げられない場合は、激しい抵抗を放棄して虐殺、屠殺されるのを避けることを適切に考慮し、力を保存して再び機会を探して報復することができ、もちろん手を縛って勝手に殺されることはできず、さらに敵に頼って敵のために力を尽くすことになってはならない。

自分が本来得なければならない利益であっても、より大きな影響を与えないように関係を調整するためには、適切に譲歩して利益を譲ってもかまいません。もちろん、この妥協は個人の利益に対するものであり、自分の利益を犠牲にして自分と他人

の生存空間を交換することはできるが、大義、集団の利益に対しては、個人の生存空間を交換するために妥協することはできない。

また、後退して前進しなければならない場合もあります。後退することで敵対を減らし、より良いことを処理するためのバッファスペースを得ることができ、後退することで注目され、重視され、大切にされ、より多くの機会を得ることができます。

6 他人の好感を得るのが上手：

他人の好感を得ることは友好関係を築くのに役立ち、協調的に物事を処理するのに役立つ。

そのためには、多くの人の長所を発見し、多くの人を肯定し、多くの人を賛美し、尊重されていると感じさせることが上手でなければならない。もちろん利益を得るためのおべっかを使ったり、曲意を持っておべっかを使ったりするのではなく、誠実な付き合いの中の利益の目的のない肯定と賛美ではない。

良い話を聞くのが好きな人もいれば、多くの美しい言葉を使って安心させてもいいでしょう。

利益、体面、儀式を重視する一部の人に対しても、恩恵を受けて好感を得ることができ、たとえ小さな恩恵であっても、少なくとも尊重されていると感じさせることができ、いわゆる人心を籠絡することができる。また、人と協力することで人のためになることが多く、普段は贈り物をしたり、食事をごちそうしたりすることで、利益を得て好感を持つことができます。

また、他人の利益に影響を与えてはならず、利益の脅威とされてはならないことに注意しなければならない。本当に人と利益競争関係があっても、できるだけ薄めて明らかに感じられないようにしなければならないし、時には策略を重んじて、隠忍して、まず韜晦して、行動してもあまり表現しないで、矢面に立たないようにしなければならない。負けず嫌い、弱音を吐いて強がらず、競争相手や潜在的な脅威とされてはいけない。

7 コミュニケーションが上手：

コミュニケーション能力も一人で社会で生きていくために必要なスキルであり、コミュニケーションが苦手な人や性格がひねくれていてコミュニケーションができない人は、他の人は遠く離れていて、プレッシャーをかけていて、何か発展の機会があっても、生存は問題になります。

コミュニケーションの面では、スムーズにして、さまざまな問題や矛盾を解決し、心のつながりを残さずに相手を納得させなければならない。

1 まず相手を軟化させて、先にそのいくつかの多忙な承認を表明して、距離を縮めることができて、そして努力して自分にも不足しているところがあることを探し出して、承認、謝罪を行って、それによって相手を軟化させて、すべてのけんかはもっと多くて一気にするためで、すべての人は相手に謝りたいと思って、困惑するのは 1 種の態度で、敵対する方を気が良くて、メンツがあってそれによっても敵対を減らすことができます;

2 相手を良い人、相談できる人だと思って、相手を問題があって、わざと対立して、頑固な人に設定してはいけなくて、このようにしてやっと良いコミュニケーションの結果があることができて、さもなくば缶を破って転んでますます騒ぐだけで、

3 自分の意見を表現するのが上手で、表現したい意味をはっきり言って、書くことができます。

4 相手の利益の角度から分析して説明し、それを受け入れやすくしなければならない。一人一人が最も関係しているのは自分の利益であり、理にかなって分析すれ

ば、頑固な人でも言われ、悪事を働く人でも改心する。

5 論争の中で話をするのは中庸で、絶対化、極端化しない、

6 語調が硬すぎて過激すぎて人に不快感を与えてはならず、さらに強いことを言ってはならず、話を決して回旋の余地を残してはならない。

7 多くの人の意見を聞き、深く考え、その一部の要求と需要をできるだけ満たすようにしなければならない。

8 相手に尊厳を与えるには、たとえ相手が間違っていても完膚なきまでに批判することはできないし、公衆の場やプラットフォームで批判してはいけない。

9 他人の関係を調整する第三者に対しては、各方面が各方面から問題を考慮し、誰もが彼を助けるために来たと感じさせることを考慮し、彼に脅威を与えるために来たのではなく、それによって認められ、受け入れられるようにしなければならない。また、円融処理が上手で、各方面の意見に対して同じことを求めることができ、誰もがみんなに空間を持たせることを完全に否定しない。罰も一方を罰するだけではなく、問題があるものは 50 回ずつ板を打ち、一方が明らかに理にかなっているものでも適切に教育を批判し、各方面が心理的に受け入れられるようにしなければならない。

7 人となりが上手で、人に親切で、みんなに認められている

1 誠実で親切な人：

人に対して誠実で率直に接し、事実を正直に反映して嘘をつかず、隠さず（善意の嘘や隠蔽からでない限り）、虚偽の情報で人を騙すことなく、それによって他人の認可と信頼をよりよく得ることができ、「誠意を持って金石を開く」という言葉のように、共同で真実に基づいて物事を処理するのにも有利である。

私たちは率直な人と付き合うのが好きで、安心できるので、心が多すぎて、口が滑っていて、ずるい人と付き合うのが好きではありません。私たちは周りで販売に成功している人を観察すると、誠実でおとなしい人は成功しやすいことがわかります。彼らはお客様の信頼を得やすく、みんなは彼らと協力したいと思っていますが、口がうまい、口がうまいことができることはかえって販売業務の成功の主な要素ではありません。また、接客が厚く、子供も年寄りもだまされていない業者も商売をしている

のは、お客様の認可と忠誠を勝ち取ることができるからです。

もちろん、多くの人は普段おとなしく、厚かましいことをするのは難しくないが、隠すこと、カンニング、嘘をつくこと、だますこと、奪い合うことでより多くの利益を得ることができる時は急いで誠実な厚かましさを頭の後ろに落とし、自分の間違いに遭遇して責任を負う必要がある時も平然と直面して責任を負うことができず、できるだけ隠すことができる。

2 心を込めて他人に接する：

他人の心を得ることは、他人の承認と信頼を得ることであり、それと協力する機会があり、協力の中でも最善を尽くすことができ、他人に心を込めて対応してこそ、彼らを感動させ、十分に認め、信頼することができ、私たちは顧客、パートナー、従業員、家族、親友など、すべての人に心を込めて対応しなければならない。

また、親切に多くの人を助け、いろいろな面で助けられることをできるだけ助けなければならない。

そして友好的で平等に人に接し、卑屈ではなく、傲慢ではなく、人の差を軽蔑しても人の良い顔を見ることはできない。

他の人がより良いことを心から願って、他の人を祝福します。

3 協力の中で多くの人を考慮し、ウィンウィンを重視し、さらに人に有利にさせる：

ウィンウィンこそ協力を長続きさせることができ、他人から認められ、称賛される重要な方法でもあり、何事もウィンウィンの思考で考え、分析し、行動の準則とすれば、必ず事業を始め、人間関係をうまく処理することができる。

利益をもたらすことでより多くの人が協力することができ、ほとんどの人はより多くの、意外な獲得を好むので、他の人に余分な恩恵を惜しまず、本来の利益よりも多くの利益を分配することで、他の人の好感を得てより多くの協力と機会をもたらすことができます。古代の田斉代姜の田氏は、大斗出小斗進などの恩恵を使って民心を籠絡して民衆により支持させたが、李嘉誠氏の協力分配利益については「7点が合理的で、8点でもいいので、私は6点しか取らない」と言うのはもっともで、ビジネス協力、人間としても要求通りにやればいいと思ってはいけない。

多く人に得をするのは良いことであり、いわゆる「損をするのは福だ」と言われているが、決して人の得をしてはならない。意図的であろうと意図的であろうと、そうでなければボイコットや報復を引き起こして後続の大きなトラブル、損失を生み、結果として得をしない。

（他の記事を抜粋：利己的すぎる人は、他人のことを考えず、自分の人生のために余地を残していない。災難が来たとき、誰もあなたを引っ張ることを考えていない）

4 多くの理解と寛容：

観点と利益の訴えが異なるため、人の間には論争、矛盾、摩擦、紛争、衝突が避けられない。これらが現れたら、もっとお互いに理解して相手の角度から問題を考えて合意しやすくしなければならない。大部分の人は悪くなくてもすべて主観的な問題ではなく、一定の客観的な原因があるので、理解して、できるだけ相手を寛容にして必ず報告することはできない。原則的で、悪意的で、犯罪にかかわるものでなければ、どれだけ寛大に処理しても、人を許して、心から悔い改めて、何度も教え諭しても相手に改心の機会を与えるのではない。さらに処理しなければ解決できない場合でも、すぐに悪口を言ったり、暴力を振るったり、けんかをしたりしてはいけない。

特に家族関係ではお互いに寛容に理解しなければならない。

他人を理解し寛容にし、人に寛大に接することは、より多くの力を結集して事業の成功を支援するのに役立ち、敵を作ることで報復されるリスクを減らすことができる。

他人の一時的な過失を許すことで、激しい対抗を避けることができ、恩に着せることもできる。

もちろん寛容は原則がなく、具体的な状況を無視しているわけではありません。悪意のある行為、犯罪に対して私たちは寛容と庇護することはできませんが、憎悪を憎むべきです（この点については後述）。

私たちは刀を飲み込んで剣を食べ、腹の中で船を支えることができる境界まで磨かなければならない。

8 自分と人を顧みて私と公を顧みる一線を守り、過度な私利私欲を避ける

誰もが利益を求め害を避ける本性を持っており、生まれながらにして自分の利益の最大化を追求しているが、私たちは自分の利益を考慮すると同時に他人、集団の利益も考慮し、利己的で人を利し、利私も公を利し、人を損して自分を利し、公を損して私を肥やすことを根絶しなければならない。

他人や他の生物に配慮し、集団や公共環境に配慮することは公徳心であり、最も基本的な人間としてのベースラインでもある。人の善し悪しを判断するには、自分と人を守ることができるかどうかによって判断することもできます。善人のためには、まず自分と人を大切にし、自分を大切にし、自分のことを考えながら、他人の利益と感情を考えなければなりません。人は自分のことも人のことも考えていなければ、他の愛のある表現はすべて偽りで、売名のためです。

自分と人を顧みることもウィンウィンの精神であり、私たちは自分の利益、企業の利益を追求すると同時に、私たちの親友、同僚、取引先、サプライヤー、パートナーもウィンウィンを獲得するように努力しなければならない。そうしてこそ、より多くの認可と支持を得られ、より大きく、より長く、つまり「大人になってこそ自分に達することができる」という道理を実現することができる。多くの企業が生態チェーンの建設を重視して各方面のウィンウィン、共同発展を実現するのも、これに基づいている。

自分と人を顧みることは人と人との付き合いの最も重要な準則であり、共通点を求めて異を残し、哀と共済する共和だけがウィンウィンを生むことができ、簡単で残虐な悪性競争は最後に双負けである。商業上の協力･ウィンウィンを含め、政治上の協力･ウィンウィン、例えば、極権政府は自分の反動統治を守るために愚民、弱民、恥辱民、賤民、貧民の措置を取って民衆を愚弱貧困無独立精神にさせ、結果として社会の発展が停滞して彼ら自身も良い生活を送ることができず、開明した政府はみんなに良い生活をさせ、自分もみんなが多くのことを創造し、納税しているために多くの富を持っている。

利己的で他人を顧みず、自分の利益のために他人の利益をもたらすのは死ぬまで顧みないのは非常によくなく、多くの社会問題を引き起こすことができる。すべての悪、すべての社会問題の問題点は、一部の人が自分の利益、感覚を他人の利益、ひいては命よりも凌駕していることに由来していると言える。例えば、盗み強盗はすべて自分がお金を得るために人のお金を損害し、人をののしるのは自分が腹を立てるために人を傷つけたことを顧みず、子供を誘拐して売買するのは誘拐者が売金を獲得するためで、買収者は自分に子供がいるためにそれを顧みないのは誘拐された子供の家を

苦しめることになる。補助金も自分の利益のために公私を損ね、一部の支配者は、自分がより多くの領土を支配したり、より多くの富を奪ったりすることができる一己の私のために、民衆の死活を顧みず戦争を起こし、生霊塗炭をもたらし、社会が大きく破壊され、また今では、一人一票などの不合理な民主制度が民意を歪めて「ポピュリズム」に変え、真理をつぶすことがよくある。

もしみんなが自分のこと、人のこと、私のこと、公のことを顧みることができれば、社会はすぐに太平になることができます：もしすべての人が自分のこと、人の利益と感じを顧みることができれば、他人を侵害することはできなくて、自分の利益、名誉のために他の人が損失、傷害を受けることはできなくて、社会は強盗、脅迫、いじめなどの各種の問題が存在しなくて、社会は調和がとれて、文明、太平になります。誰もが他人との協力で自分や人のことを考えることができれば、協力の中にウィンウィンの観念があり、至る所でお互いを考えてウィンウィンに努め、そして互いに害を与えないようにすれば、協力はスムーズになるだろう。誰もが私と公のことを考え、社会の集団的利益のことを考えることができれば、公の利益を損なう汚職や腐敗、補助金の詐取、福祉の不正行為はないだろう。すべての役人が民衆の利益と感受性を考慮する心を持っていれば、民を子のように愛し、大衆に奉仕し、民衆に不利な政策や規定を制定することはなく、社会管理、法執行の中でも民衆を乱暴に扱うことはないだろう。どの政府首脳も民衆の幸福や安否を考慮していれば、民衆を奴隷にしたり、勝手に戦争を起こしたりすることはなかっただろう……。

文明的な人類社会と動物世界の最大の違いは、人は自分や人のことを考え、他の人の世話をし、できるだけ一人一人が生存できるようにし、最終的には人類社会の共栄と不休を形成することである。人間社会に生きていて、みんなも共栄がもたらすより良い生活を楽しんでいます。動物は基本的に自分のために多くても子供のためにしか考えていない（「虎毒不食子」の言うように）。加えて、群れで暮らす習慣のある動物は互いに群れのメンバーの世話をし、残りのほとんどの動物の間の関係は弱肉強食のルールに基づいており、他の種類や同類の動物の生活需要や生存需要（つまり生命の維持）を考慮することはなく、常に食うか食われるかの争いを繰り広げているため、動物世界は原始的に遅れている状態が続いている。それだけに、人が勝手に人を傷つけることを考えない良心のない人を罵倒し、「畜生顔負け」の言葉を使うことも多い。

異なる国、異なる同族群、自分や人を顧みる理念の深さも異なり、文明的な国、教育程度の高い民族は自分や人を顧みる理念を重視するだろう。野蛮で立ち後れた場所や人々は、ウィンウィンの考え方に欠けていることが多く、勢いがつけば勝者は食べても生存空間を少しも残さず、他人を傷つけたり殺したりしても何もないと思っている人もいる。

中国社会のこれまでの普遍的な問題は、多くの人が私心が大きすぎて当たり前だと思っている（「人は自分のために天誅を加えない」ことが広く伝播される口癖になっている）ことであり、またしばしば私利を公衆の福祉の上に君臨し、ひいては個人の利益のために道徳の底辺を捨て、何をするにも手段を選ばない人がいるため、社会はいつも常識から乖離した現象が現れ、社会問題も常に多くなっている。現在の診察困難は高く、庶民は病気を軽蔑していることを含め、医療設備、物資、薬品の購入コストが人為的に高くされ、必要ではない、あるいはもともと安くても価格が高いプロジェクトが、患者に負担を増加させるように誘導されたり、患者に押し付けられたりしている（例えば、多くの高価値消耗品、自費診療プロジェクトがそうである）。ま

た、住宅価格の高騰は、一部の政府部門の人や開発者が広範な民衆の生存圧力を顧みず、共同で地価や住宅価格を上昇させたこともある。かつて横行していたマルチ販売活動もあり、一部の人が個人の利益を図るために、洗脳詐欺や拘禁を惜しまず、より多くの人を騙すために協力させるよう強要していた。一部の業界（例えば医薬品、医療機器業界）の従事者は故意に管理部門を推進し、ユーザーの安全をよりよく保証するなどの名目で業界の敷居を高め、競争者を排斥し、それから独占を形成し、それから製品の価格を高めるのも、私利私欲にとらわれて民衆のコストを増やし、民衆を陥れる行為であり、その心は罰せられる。

中国人の海外旅行は、公衆衛生に注意しない、観光地の良い位置を横取りして写真を撮るなどの悪い習慣も、自分のことばかり考えて他の観光客のことを気にしない態度で、よく非難されている。

中国では現在、多くの人が西洋の人権を語ることを学んでいるが、良いことは学んでおらず、社会的責任感を養うことができず、かえって多くの人がより精緻な利己主義になり、さらに自分や人を顧みる意識を失い、権利擁護の中で自分や小集団の権益を強調しすぎて、他の人の、集団の権益を考慮しない。

中国のこれまでの王朝交代の循環も、一部の人が際限なく富を手に入れ、他の一部の人が生存できずに暴力運動を行い、権力を奪った後、その一部の人が際限なく富を手に入れる……だから中国の現在の政治・経済改革の急務は、利益既得団体が民生に配慮して一部の自分の既得権益を放棄することを忠告し、改革の進展を妨げず、最後の玉石共倒れにならないようにすることである（この方面では羅寧は複数の文章を書いているので、参考にしてください）。

自分や人を顧みることを知らない人も、最終的には報いを受けるだろう。例えば、自分や人を顧みない商人は大和をやって長続きすることはめったにない。また、古今東西の民生を考えず、民衆の利益を顧みず、民衆の生命や財産を草のように見てやりたい放題にしてきた支配者は、最終的には引き落とされたりひっくり返されたりして、不始末になる。

自分と人を大切にすることの重要性、必要性を理解したら、どうすれば自分と人を大切にすることができますか。以下は参考にしてください。

1 個人の私欲をコントロールし、私利私欲の思想を捨て、多くの努力と社会に貢献する。個人と家族、小団体の利益は考慮しなければならないが、適切に満たせばよく、際限なく追求してはならない。埋め尽くそうとして他人と社会の利益を侵害する行為をしないように、一人一人が生きている最大の意味は社会に貢献できることであり、自分と家族の基本的な需要を満たした後、他人のために、社会のために価値を創造することを追求しなければならない。

2 他人を損害し、集団を損害することによって自分を利益にするすべての行為を根絶し、他人をだましたり、巧みに豪奪したり、脅迫を強要したり、汚職集団の利益を横領したりしてはならないことを含む、

3 至る所で他人の利益と感受性を考慮し、立場を変えて考えるのが上手で、同理心があって、心を合わせることができて、他人の境遇に対して身を投じて、多く他人の角度から問題を考えることができて、事をするのは多方面の考慮と各方面の細部を重視して、話をするのは人の短さを暴いて、人の痛みに触れることを避けて、それによって意図的にある方面で他人を損害して、傷つけることを免れます;

4 自分の行動や言動が人に影響を与えるかどうか、例えば大きな声で話したり何かをしたりして人を騒がせたり、タバコを吸ったりして隣の人が中古タバコを吸わせら

れたり、言ったことが人を中傷したり傷つけたりしないか、物を置いて玄関に置いたりすることが人の通過に影響を与えたり、隣の人の空間を占有したりするかどうかなど、慎重に行動してください。

5 他人の好き嫌いを分析し、洞察するのが上手で、他人が必要としない、嫌いなものを押し付けない（人の望まないところは人に押し付けるな）、

6 社会資源やお金を稼ぐ機会を過度に占有しない。私たちが複数の人と一緒に食事をするときは、それぞれの料理の量と食事の人数を合わせて、誰もが食べることができるように配慮しなければならないが、自分の好きなものを食べることができないので、人が食べられないようにすることができないようにしなければならない。社会的、経済的な資源と機会の占有においても同様であり、過度に占有しすぎたり、一人で食べたりしてはならず、資源や機会を残して他の人に与えなければならない。

7 至る所でウィンウィンを重視し、ウィンウィンのことだけをして人の利益を損なわず、さまざまな協力、取引、買い物、消費などの活動を行い、関連先の難所を多く考慮し、それを困らせたり、多く消費したり、損失を受けたりすることを避け、できるだけ多くの利益を関連先に譲り、できるだけ関連先に迷惑をかけないようにしなければならない。

8 製品とサービスの供給活動に従事し、製品、サービスの調整、値上げ、操業停止などを行うには、顧客、民衆への影響を十分に考慮し、できるだけみんなへの衝撃を減らす必要がある、

9 管理上は人間本位で、従業員一人一人の発展の将来性、能力の向上、仕事の便利さ、交通の便利さ、十分な休憩、健康保障、家庭の介護などの需要を十分に考慮し、各方面の管理はできるだけ彼らに悪影響を与えないようにしなければならない。

10 政治家は国を治める上で、各級政府は社会を管理する上で、個人の政治目標と利益を実現することを追求すると同時に、民を愛し、民衆を第一にし、仁をゆるめ、民衆に対処し、そして「大国を治めるには小鮮を煮るように」、各種決議は翼に注意し、小さな決定のように見え、一言で多くの人に迷惑をかけ、耐えられない災難をもたらすことを防止しなければならない。

9 天地万物を畏れ、天道に従い、法則と潮流に逆らわない

一人一人が天地、神と衆生、万物に対して、畏敬の心を持ち、天地、神を尊重し、「人は天を作って見ている」、「頭を挙げて三尺に神がいる」ことを理解し、一人一人、生き物一人、物一人を尊重し、理由もなく他人や生き物を勝手に傷つけなければならない。

一人一人も自然のルール、社会の法則を理解し、遵守し、自然の法則に背き、科学に背く意思決定と行為をしないで、世界の発展の流れにも逆行ではなく順応しなければならない。

さまざまな法術を迷信するのではなく、正しい道を歩むことを堅持しなければならない。道はより重要で基礎であり、術はわずかな程度、一時的な促進にすぎない。

天命に応じて天道に従うことを知ってこそ大きな発展が得られ、世界の潮流、それに従う者は昌逆の者は死ぬが、決して逆行して歴史を逆さまにしてはならず、天地の気、つまり万民の心の向かうところに対抗してはならない。そうしないと、万民に唾棄され、最終的に身を滅ぼすだけだ。

中国は古来、天道に従うことを非常に重視してきた。建州女真が天下を得たことも天を敬って福報を得た例であり、彼らは天命、天意、天象を非常に尊敬し、心も天

を敬うことで無限に強くなった。

第五章 管理家の国有企業政治などへの心の力の応用

集団組織には家庭、会社、職場、協会、政府、国際組織などが含まれており、前述のように「人間社会は、すべて群居生活であり、誰もが集団から離れることができず、集団は一人一人の生存の基礎であり、しかも一人一人で一人で戦うだけでは大きな発展は難しく、集団に頼らなければより良い発展、より良い安全を得ることができない」と述べている。心配も心配もなく、家族も職場も国も必要ない可能性があります。

すべての人と集団は密接に関連しているので、集団組織の運営の良し悪しはすべての人の関係にとって非常に大きく、この集団組織がどのように構築され、管理され、運営されるかは非常に重要であり、管理され、組織されていることは、すべての人の積極性、創造力を十分に発揮することができ、そしてみんなを仲良くさせ、みんなの力を結集して発展を推進することができ、全体の利益がよく、発展が速く、みんなの利益が得られ、もし管理され、組織されていなければ、すべての人の積極性が打撃を受け、創造力が制限されるだけでなく、組織がばらばらになり、紛争が絶えず、互いに破壊し、発展の成果を破壊し、全体の集団の利益が悪く、発展

1つの家庭、繁栄することができるのは、良い家風があるためだけでなく、誰もが勤勉に努力しているためであり、家庭内の調和の影響を大きく受けている。調和のとれた家庭関係は仲睦まじく琴瑟と鳴いて、家と万事興、調和が悪く、いつもけんかをして鶏を飛ばして、生活、仕事は大きな影響を受けて、繁栄して発達することは難しい。

1つの企業、企業、管理がしっかりしていなければ、みんな積極性がなくても横になって、責任を負い、さらには心を鬼にして、お互いに邪魔をして、それは良い業績と発展がありにくい。大きく長くできる企業を見ることができますが、技術に優位性があるだけでなく、管理がうまくできているため、チームをやればやるほどビジネスの規模が大きくなり、管理がうまくできていない場合は、人材を引き付けることができず、引き留めることができず、さらに発展することができません。

一つの国では、さらにこのように、政通人和は人民が安らかに暮らし、経済が繁栄し、管理が苛酷であれば、みんなが手をこまねいて経済、社会が停滞に陥り、甚だしきに至っては人の心がばらばらになり、内部の矛盾が重なり合って争いが絶えず、手をこまねいているか、大喧嘩をしているか、社会が動揺していると、大きな破壊をもたらし、ひいては生霊を塗炭することになる。

では、なぜある企業などの団体、ある国は発展がよく、みんな文明が調和し、収入が豊かであるのに、ある国は発展が悪く、貧しく立ち後れているのでしょうか。どのようにして管理を行うことができますか。どのようにして1つの家庭、1つの企業、1つの単位、1つの国を発展させることができますか?

実は管理は人の心を管理し、経営し、核心は人の心に対する協調と統率であり、みんなに広く認められてみんなに信服され、至る所で民意を集め、人の心に沿って力を結集すれば、自然に良い管理効果を実現することができる。

1 心を奮い立たせ、一人一人を奮い立たせる

志を立てることは人生に大きな励起作用があるので、教育の最も重要な点、最も重要なのは人に志を立てさせて、育成、補助、人に触れて遠大で強い人生の理想を樹

立させて、それは人生の理想があって、努力して実現することを熱望して、内駆力があって、自分で強くて休まず、自主的に学習して進歩して、あまり促したり、教えたりする必要はありません。一方、志がなくて自分の追求がなければ内駆力が足りないが、外力で勉強を促すのは難しいし、長期的に督促を必要とする教育も疲れている。

子供を教育する最善の方法は心を奮い立たせ、崇高な理想、遠大な追求を持たせ、追求があれば内駆力があり、放っておいて自分が進歩することだ。人生の理想を追求し、出世し、人生の価値を実現させるには

従業員、民衆を管理することも、明確な目標を追求し、強い利益観を持たせることであり、ドラッカーが言ったように管理は一人一人の善意と潜在能力を引き出すことであり、一人一人の目標の励起と導きをしっかりと行い（通俗的にユーモラスな言い方は「鶏の血を打つ」）、一人一人が努力して業績を追求し、理想を追求するようにしなければならない。

「金よりも自信が大切」ということで、皆さんは自信があってこそ、より楽観的で積極的でやる気が出ます。そのため、ボスは従業員に良い未来を見せなければならず、そのためにやる気があり、政府は人々に未来に憧れを持って投資と消費を楽しむことを見せなければならず、将帥は兵士に闘志を燃やして必勝心を打ち立て、それで勇敢に敵を殺す必要がある（戦争をする前の決起大会はみんなの闘志を奮い立たせるためのものだ）。

2 利益分配をしっかりと行い、利益駆動を通じてみんなの積極性を引き出す

利益にはお金の利益、名誉の利益、短期の利益、長期の利益が含まれます。

いわゆる「天下の雑踏はすべて利来であり、天下の雑踏はすべて利往である」、利益は最も人の憧れと追求を引き付けることができて、そのため利益を得ることをみんなの駆動力として、最もみんなの仕事の積極性を引き出すことができます。

だから利益の駆動ができれば、基本的には天下のすべての人を駆動することができる。

法家は利益の駆り立てと対応を非常に重視する体制建設について、例えば韓非子は「人間性本利」をまとめ、強調し、また商鞅の多くの人間性分析の陳述、社会制度設計も利益の駆動で展開している。

劉邦は気前よく賜物を与え、曽国藩は幕僚に功労や機会を与え、李嘉誠は人と協力して商売をする自分はできるだけ利益を少なくして、すべて多くの恩恵が彼らと協力することがもっと利益があるとみんなに感じさせ、心の底から彼らと協力したいと思っている。

日常的には、ほとんどの人事現象も利益駆動によって説明できる。例えば、公有制で大鍋飯を食べる制度の下では、みんなが多くのことをしても利益がないので、誰も真剣に積極的に仕事をする人はいない。誰もが効率が極めて低く、サボタージュして遅刻して早退し、財物を大切にせずに浪費する現象が普遍的で、私有制請負制を採用して、多くのことをしても少なく、よくできなくても自分で結果を引き受けると、自然と高い積極性、主動性があり、利益観が強くて速くて節約して仕事をし、そして自覚的に一分一分の財物を大切にすることができる。また、お客様が購入を生み出すかどうかは、主に製品が自分にメリットをもたらすかどうかにかかっています。メリットがなければ、メリットが足りなければ、購入したり使用したりすることはありません。一人で知識や技能を勉強させるのもそうですが、肝心なのは勉強して彼に利益をもたらすことを見せることです。彼は頭を削ってあまり教える必要はありません。そうしないと、勉強してもメリットがないか、メリットがあるが理解させていないと、それもまじめに勉強しません。苦労して教えても教えにくいし、教えてもすぐに忘れてしまいます。

そのため、経済体制では必ず私有制、請負制など、みんなに積極性を持たせる制度を多く採用しなければならず、できるだけ公有制を採用したり、鍋料理を食べたりするなど、みんなに積極性を持たせない制度を少なくしなければならない。また、管理上は明確な分業をしっかりと行い、一人一人の責任範囲を分け、できるだけみんなが混ざって同じ事務を担当しないようにし、一人一人の仕事の収益と仕事の効果を結びつけ、多くの労働をしなければならない。そうすれば、みんなは明確な責任圧力と明確な利益駆動を持つことができる。

多くの労働をしなければならないだけでなく、できるだけ働かずに得ることを減らし、怠け者の社会福祉をできるだけ減らし、社会の基本的なサービスと困難な人の救済を主としなければならない。その他の福祉は多すぎるべきではなく、働かずに得た以上、いっそ横になって働かずに政府の福祉だけで生活していると感じる人がいないようにしなければならない。海外には左傾政策の影響を受けて高福祉を実行している国があり、その結果、多くの人が働かずに富を創造せず、高福祉を満たすためには高税収を実行しなければならず、その結果、みんなの投資創業の積極性を挫折させ、投資創業が少なくなり、社会全体の産出も少なくなり、それが物資の供給不足や物価上昇を招き、国は急速に衰退に向かっている。

3 和合・ウィンウィンで凝集団結を実現し、互いに認め合い融合・統一を促進する

1つの集団組織には家庭、企業、単位、協会、国家、国際組織などが含まれており、あるものはますます規模が大きくなり、あるものはますます萎縮して解散し、あるものはみんなが仲良くして、協力して楽しく、あるものは内部矛盾が重なり、内部

闘争が激しい。この中の原因は何でしょうか。

1 和合・ウィンウィンは、メンバー一人一人が自分一人よりも良い発展を遂げることができ、団結することができます：

1つの家族は、それぞれのメンバーが一緒に暮らしていることを感じさせなければならない。家族は分家せずに維持することができる。そうしないと、一緒に暮らしていることが逆に悪くなったり、不平等に扱われていると感じたりすると、遅かれ早かれ分家してしまう人もいる。

1つの会社、会社は、従業員に良いプラットフォームとメカニズムを提供し、従業員がここで発展して得た収入などの収益を自分で単独でやったり、他の会社、会社に加入したりするよりも良くしてこそ、従業員は残ることができます。

一つの国、地方は民衆をここで働き、他の場所よりも良い生活をさせ、そして社会が比較的公平で自由で、包容的で開放的であれば、みんなはもっとここに定住して発展したいと思うだろう。人口流入の多い国や都市は、経済が活発で社会文明的な場所であり、人口流出の多い場所は、経済が悪く、社会が不十分で不合理で非文明的なルールが多い社会である。

1つの国も部下の各地域の発展と利益分配を調和させ、みんなが合併して資源を共有し、長所を取って短所を補い、有無相通ずることができ、団を組んで暖をとることができるようにしなければならない。

多くの地域が独立しなければならないのは、そこの人々が不公平な待遇を受けたり、差別的な圧迫を受けたり、地元の資源や経済成果が多く取られたと感じて得た見返りが少なく、独立したり、分裂したりして別の国会で生活したほうがいいと感じているからだ。統一を拒否する地域があるのは、統一後に経済がもう一方に引きずられてしまうのを恐れているためであり、彼らよりも遅れた政治や経済管理モデルを受け入れざるを得ないからだ。独立国家がソビエト連邦を離れていくのもこの道理だ。ソビエト連邦が彼らにもたらしたのは、略奪と災難のためだ。

米国の西部地域やハワイ、ニューメキシコ州、メキシコ国などが米国に加盟したり、加盟したりすることを望んでいるのは、歴史的に一緒にいなかったのではなく、民族の成分も異なると信じているからだ。

販促のために独立した地域があることを避けるために、ある地域の意思決定に関わることを提案し、その地域の利益と意見をもっと考慮しなければならない。全国全体の利益を考慮し、簡単に全体の投票によって少数が多数に従うことはできない。また、各メンバー間の関係を調和させ、調和のとれた友愛関係を実現し、存在する矛盾をタイムリーに解決し、矛盾が調和できず団結に影響を与えないようにすることもある。

地方が独立するには、自分の内部で決定すればいいわけではありません。国全体の全面的な利益にかかわるので、全体で決定しなければならないのも国際公認の法則です。ある国の中のある地域を住民投票で独立させるように策動するのは不合理で、非合法で、国際的に認められていない。

2 人種的アイデンティティや武力による強制ではなく、経済協力と文化、体制的アイデンティティによる統合：

一つの単位、一つの国、内部の融合統一を実現することは内部が四分五裂してそれぞれが為政することよりも良く、より広い範囲の資源共有を実現することができ、一緒により大きな力を集めてより多くのより大きなことを完成することができ、より良い外悔を防ぐことができる。

では、割拠を分裂させずに融合統一を実現するにはどうすればよいのでしょう

か。

まず、経済的には比較的に多くの往来があり、相互依存が大きくなければならない。

次に、お互いを認め合い、心の底からお互いの理念、文化、体制を認め合うことで、お互いが安心して仲良くなることができます。融合統一の後も、共同で認可された文化、体制の建設を引き続き推進し、融合統一を強固にしなければならない。もちろんこれは平等に付き合い、求同存異、共同派生を通じて新しい文化、体制を形成することであり、一方が他方の文化、体制を破壊し、その民衆に元の文化の記憶を消去させることではなく、さもなくばまた民心を失って認可を失い、再び分裂に向かうことになる。

世界各地間の経済交流がますます深くなり、頻繁になり、良い文化、制度が広く各地に伝播、普及するにつれて、各地の体制、文化と民衆の価値観もますます同じになり、世界はますます一体化しているので、今後は必ず世界の融合統一を実現し、世界は地球村になるだろう。

もちろん、人種の同じことは地域の融合統一にも一定の役割を果たしている。結局、血は水より濃く、同種同源の民族は捨てられない感情を持ち、一緒に歩きやすい。しかし、その影響はまだ経済協力と文化、体制のアイデンティティが大きくなく、経済往来が密接でなければ、文化、体制は大きく異なり、人種が同じであっても、融合統一を実現することは難しく、中国大陸とシンガポールが現在の状態では合併統一を容易に国にすることはできないように。

融合統一も武力によるものであり、古代文明が不十分だった時代には時には可能だったと考える人もいるが、現代社会では適切ではなく、深刻な結果をもたらすだろう。実は古代でもジャングルの法則である弱肉強食のやり方ばかりではなく、古代人は強い瓜は甘くないことを知っていた。武力攻撃で実現された合併統一は一時的に反抗されて長続きしないことを知っていた。文化的アイデンティティと経済、体制的優位性の形成による吸引力でより多くの地域を合併に参加させた、つまり孔子の言う「遠い人は不服で、文徳を修めて以来」こそ、最もよく、最も手間が省け、最も長い方法である。中国の多くの場合、特に漢族王朝の時代も、主に文明伝播による同化周辺地域の同化融合を実現していた。

我が国が現在存在する台湾統一の問題に対しても、両岸の協力融合を推進することによる経済社会共同体の構築、文化理念の更なる同化の推進、両岸が受け入れられる政治体制の協議の方式による統一の実現をより重視してこそ、両岸の民心と国際的な認可を得ることができ、武力、強行の方式を採用して統一を実現してはならない。そうしないと、生霊塗炭、経済社会の深刻な破壊と台湾民衆の反抗、国際社会の排斥懲罰を招くことになる。

総じて言えば、各方面がしっかりとして民心を得ていれば、自然と団結をよりよく凝縮し、融合してみんなを統一することができ、つまり民心が武力で統一するのではなく統一することを決定することができる。

4 人心を得る：スムーズで強固な管理を実現するためにみんなの認可を得る

1 みんなに認められることの重要性

管理の鍵は、管理制度、方案、方式、管理者自身を含めて、みんなに認められ、人の心を得ることにあり、多くのメリットがあります：

1 認可を取得することで、管理をスムーズにし、より効率的にすることができます。管理の要諦はメンバーが組織に対して認可し、組織がメンバーに対して信頼し、組織がみんなに認可されれば、みんなは喜んで自覚的にしっかりし、各方面は規定がなく、管理要求がないところを含めてすべてしっかりし、しかもすべて全力を尽くし、恨みも後悔もなく仕事をすることで、これは各種の規定、審査を用いて管理するより楽で、有効である。しかし、認可を得ていなければ、1 人を職場に縛り付けても、心を込めて仕事をすることはなく、サボタージュや対応的な仕事しかできず、さらには 1 人が認可しない程度が深刻で、反感や抵抗心があれば、何とかして破壊しようとするので、管理が効果的ではなく、仕事も多い。

2 認可を得てこそ、管理を安定的に存続させ、長期的に安定させることができる。恐喝でみんなを怖がらせても権力機構を生み出して管理することはできるが、これは長続きせず、すぐにみんなのボイコットや脱出で潰されるだろう。一つの集団組織の管理機構の存続は主にみんなの認可と支持に依存している。例えば、国家政権は広範な民衆の認可と支持に依存してこそ設立と存続することができ、つまり「民心を得る者は天下を得る」という言葉であるが、家庭、企業、協会などの各種集団組織もそうではなく、ほとんどのメンバーの認可と支持を得てこそ設立と維持を続けることができる。認められれば、組織の管理活動を凝集し、支持し、維持することができ、認められなければ、抵抗し、管理に対抗し、あるいは離散し、管理が円滑に行われない（誰も相手にして実行しない）、混乱（互いに邪魔をし、台を壊し、破壊する）、崩壊（人材、民衆が光を放つ）、激動（武力闘争）することができる。

そのため、みんなの心の中の認可と信頼を得ることは家族、企業、職場、国家などの集団組織の最も重要な財産であり、人の間に認可と信頼があってこそ協力の可能性があり、一方、集団組織の人の心はみんなに認可されてこそ凝集力があり、よりよく運営されることができ、そうしないと、人の心がみんなに拒絶されて抵抗されるのを嫌うことができないと心がばらばらになる。

管理は人の心の管理、統率であり、各メンバーの心の力を統べる最善の方法はみんなの共感を高めることである。例えば政府に対して、主に政府自身と政府の各政策決定に対して高度なアイデンティティを持たせ、怠慢ではなく、各政策の実行にも協力したい。そうすれば、政通人和を実現でき、各級関係が調和し、各政令も陽奉陰違犯、上有政策の下で対策を持ってボイコットされることなくスムーズで力強い実行を得ることができる。国を治めることは心を治めることにあり、人の心が順になれば人の和に通じるが、人の心はみんなが政府を認めないことを治さないと、国はばらばらになったり動揺したりすると言える。

政府は政通人和を実現しなければならず、企業単位はメカニズムが合理的でなければならず、商売をするには幅広く協力してウィンウィンしなければならず、人のためには広く善縁を結び、家庭は琴瑟と鳴を必要とし、そうすればみんなの共感感が高く、向かうところ敵なし、向かうところ敵なし、向かうところ敵なし。家庭、企業、職場、国が不満を多く治め、民心を失ったら、すぐに敗滅に向かうだろう。周武王も

何度も偵察して（孟津観兵を含む）、商王朝が徹底的に人心が離散していることを確認して、みんな（諸侯と庶民を含む）が王を認めずに集結して商朝を攻撃しようとしたことを確認してから、正式に兵を出して商朝を攻撃したのも、この道理を説明した。

2 みんなに認められ、認められ、受け入れられる方法:

次の点を通じて、管理機関、指導者、それが打ち出した制度、政策などをみんなに認めさせることができる:

1管理者、管理機関自体の誕生、着任の合法性、正当性を確保し、みんなの受け入れを得る。

この合法性、正当性は重要であり、うまく処理されていないと不安定な要素が生じやすいため、従来から広く重視されてきた。例えば、管理機関はメンバーの共同決議によって設立されたほうがよく、指導者は推挙、選挙によって当選したほうが受け入れられやすい。武力クーデターによって権力を獲得しようとしたり、暴力革命によって前政権に取って代わったりしようとした者は、民が命を請い、君主側を清めたり、民を弔い、天に代わって道を歩き、民のために害を取り除くことを行動の理由にしたりして、権力を奪取した後は直接自分が後任を宣言することはできず、まず臨時の引き継ぎをして、それから自分の制御可能な禅譲、推挙、選挙などの形で王位を受けたり、自分が顔を出すのが不便であれば、より合法性のある人（例えば、前の合法的な権力者の血縁者や徳の高い人）を傀儡の前にして自分で陰で操ることができるようにする。

1つの単位の管理機関、指導者は一般的にこのいくつかの方法で生まれている:会社は一般的に株主または株主から指定された人が管理者、政策決定者を担当し、家庭の宗族は一般的に徳高望者に家長を担当させ、協会、国家などの組織は一般的に推挙、選挙によって管理機関、指導者（推挙、選挙の参加者が広ければ広いほど合法性とみんなに認められる程度を高めるのに有利である）、あるいは、誰もが認める既定の法則に従って継承されて着任した（古代王位継承では、父死子継、兄終弟及の方式で候補者を限定するのが一般的だったが、具体的にどの人が継承するかは前の帝王が指定した法則を採用するか、あるいは中国のほとんどの王朝が王子同士の王位争いを避けるために混乱を招くのは嫡男継の法則であり、皇帝が嫡男子に継承されるのを嫌って他の子に継承させようとしても難しい場合がある）。

推挙、選挙は重要な合法性、正当性の源であるため、みんなは選挙で勝つように努力し、選挙をコントロールしようとする人もいる。

また相続も合法性、正当性の重要な源の一つであり、継承には血縁継承も理論継承などの方法があるが、どのような方法で継承しても、継承後に統治者になった人は、前任統治者の名声を守るために努力し、前任統治者への個人崇拝を推進し、そして自分が前任統治者を継承していることを強調し、間接的に自分の合法性と認められる程度を高めるために努力する。これまで多くの蜂起、造反者は自分がoo皇帝の子孫だと言うのが好きだったように、継承からみんなの受け入れを得たいと思っていた。

2 社会に大きな貢献をし、みんなに感謝され、推挙された。

管理、統治の合法性は集団の社会への貢献にも由来している。例えば、劉邦は天下の大乱を平定して庶民を倒懸から救うためにみんなを率い、朱元璋は義軍を組織して蒙元暴政を追放したため、天下の民心を得て大位を獲得して皇帝になった。また、誰かが貢献すればもっと話ができて指導者に選ばれやすい職場も多い。

一人で大官を獲得するには、良いことをたくさんして大きな功徳を積めば、自然とみんなが望んで手に入れることができます。

チームを率いて天下を取ると同時に、社会管理、経済効果などの改善をもたらしてこそ、指導者になることができ、そうしないとフクロウになるのは一時的なことになるだけだ。

3 強力な仕事能力、組織力、人格的魅力があります。

リーダー個人の預言者能力、計画能力、組織協調能力、宣伝発動能力、仕事能力、正面からの高大な人格は、自分がよりよく認められるようにすることができる。

多くの人がこの方面を通じてみんなの認可を得たり盲従したりするために、わざと自分の能力とイメージを形作ったり、誇張したり、甚だしきに至っては個人崇拝をしたりして、自分のキャラデザを維持するために絶えずみんなをだまして、みんなもだまされて損害されることを慎重に防止しなければならない。

4 徳と能力を兼ね備え、良好な価値志向と仕事の表現を維持し、みんなの認可と擁護を得ている。

この点が最も重要で、この点はうまくいっていないので、他のことがどんなによくやっても無駄だったり、長続きしなかったりします。

もし仕事の効果が悪かったり、仕事の方向が間違ったりして、やったことが認められなかったり、逆行していると思われたりすると、指導者はみんなに権力を握るのは不合理だと思われたり、合法的ではないと思われたりして、ボイコットされたり、抵抗されたりします。指導者が支持されないのは失敗であり、危険であり、報復清算されやすい。

仕事の効果がよく、国のために国のためにみんなのために考えている、つまり良い徳があれば、みんなに認められ、尊敬されます。徳は、中国では昔から最も重視されており、魯宣公3年、周天子が王孫満を派遣して周疆に臨む楚荘王を慰労した時、楚荘王は王孫満に九鼎の大きさの重さを尋ね、王孫満は「徳にいて鼎にいない」と楚荘王に答え、武力で中央権力力に手を染めることができると思っていた楚荘王に徳こそ重要だと認識させた。

5 みんなの利益を代表する体制を作り、みんなと利益共同体を形成する。

確立された体制はみんなの利益を代表するようにしなければならず、意思決定の制定は情合、合理的にしなければならず、実行することが集団と大衆の多勝に有利であることを保証しなければならない。

そしてみんなと利益の連鎖を形成してこそ、みんなの承認と力を引き出し、強い力を形成することができる。例えば、パートナー制、株式制、上場（公衆株式制）の企業は、より多くの人の心の力を融合させ、より良い発展を得ることができます。

また、多くの労働をして、賞罰をはっきりさせることも非常に重要で、私心のために不公平で不合理なサツマイモの利益ではなく、より合理的でみんなの利益を代表していると思わせることができます。

6 みんなに実益、利益を得させる。

経済などの発展をしっかりと行い、一人一人が発展による成果を享受することで、より高い認知度を得ることができる。

国の経済が成長し、会社は常に配当や配当が多いので、管理しやすい。みんなに衣食と生活の各方面に保障があって、発展があって豊かになることができて、みんなはもっと認めます。もし経済がめちゃくちゃになって、みんなの多くの人が収入が激減して、失業して、破産して、貧乏でお腹がいっぱいにならないならば、与党、指導者はきっとみんなに嫌われます。

7 みんなの利益と感じをよく考えて、利益をたくさん譲って、関心を持って、みんなを感動させます。

人の心は暖かくて管理に頼るのではなく、春風化雨潤物が細やかにみんなを感化しなければならない。すべての管理は人間本位で、被管理者の利益と感受性を多く考慮し、みんなに思いやりを持ち、細部にわたってみんなの世話をし、利益と名誉の分配においてみんなの利益を多くすると、もっと人の心を温めやすく、みんなの認可を得やすくなる。

例えば、春秋時代に斉国の田氏は小斗進大斗出の譲利を通じて人の心を買収し、慈禧は部下の世話をするのが上手で、下人たちによく恩恵を与えるのも、権力闘争の中で不敗の地に立つより多くの人の支持に感謝する方法だ。

また、皆さんの管理にはできるだけ寛大で冷酷ではなく、感謝と承認を得ることができます。

8 仕事は中立、公正を保ち、合理的、公平、公開を行い、公信力を確立し、みんなに認められ、安心させる。

利益の分配は合理的で、賞罰ははっきりしていなければならず、物事を処理するには公平で公正で偏りがなく、多方面の利益にかかわる場合は、各方面の利益を十分に考慮し、協調しなければならず、これを顧みて相手を失ったり、厚かましくしたりしてはならない。

正道を行い、誠実さを重んじ、原則を重んじ、大公無私でなければ、威信があり、公信力を確立し、みんなに認め、安心させることができない。

9 人心の向かうところに順応し、みんなの声にタイムリーに応え、民怨民憤をタイムリーに合理的に鎮めるようにする。

広言路を開いてさまざまな意見とフィードバックを聞き、さまざまな問題がタイムリーに発見されるようにして、自身とさまざまな政策に対してタイムリーな修正と調整を行うことができるようにしなければならない。

常にみんなの声に耳を傾けて応えなければならない。特に民怨民憤があれば速やかに整理して治めなければならない。積怨は多くの問題を引き起こすことができ、大いに人を喜ばせてこそ、みんなは恨みがなくても仕事の情熱が高まることができる。

やることはみんなの期待にかなうもので、人の心に順応し、天道に順応し、世界と歴史の発展の潮流に順応しなければならない。

10 共通の目標、理想でみんなの承認を得て、みんなの意志を引き出して、みんなの力を結集します。

より良い発展を実現するには、みんなの共通の目標を確立してみんなに認められてこそ、みんなが共通の認識を形成して力を合わせることができる。

だから、みんなが共通に認める目標、イデオロギーと文化を作り、みんなと一緒に実践し、それによってみんなのより高い共感を得なければならない。

民衆を導き、教化することによって優れた、近い価値志向を確立し、できるだけ統一された意志を形成させ、それによってみんなの力をよりよく結集させなければならない。

決起大会の宣誓や戦闘中、ドラゴンボート競技中の太鼓叩きなど、いくつかの活動式も参考にして展開することができます。

11 特別な状況、特別な時期などを口実に支持を求めている。

正常な解釈では納得できない状況では、特別な状況（例えば特別な国情）、特別な時期（例えば戦時、疫病対策の時期）で、動乱を起こし、パニックを作り、外敵を立て、戦争を起こしてその目的を達成することさえいとわないように要求する指導者

もいる。

この方式にも一定の効果があるが、あまり効果があっても長続きしない。結局、大衆の目は白く、いつまでもだまされることはない。

12 武力抑圧、人身制御、処罰恐喝を通じてみんなを恐れさせて反対することができなくて従うしかない。

これまで挑戦を受けてきた統治者は、自分の身から問題を探すのではなく、挑戦者、反対者を 2 倍に鎮圧してきた。

しかし、このような方法で権力維持統治を維持しても、短期間では長続きしないだろう。強権を使って異端者に対処するには、もっと大きな怒りを引き起こすしかなく、みんなが抵抗する機会を見つけて、いつかみんなに腹ばいにされるだろう。

ある政権は往々にして自分の高圧政策に自信を持ちすぎて、自分は必ず反対者を打ち負かして専制を維持し続けることができると思って、威張って続けて、それによって死ぬまで専制を放棄しようとしないで、民主で自分を救うことをしようとしないで、結局彼らは失敗に傾かないものはない。

水は舟を載せても舟を覆すことができることを理解しなければならない。いったん怒りに触れると、どんなに権力を握っている人も勢いを失って退陣するしかない。権力はみんなが認めたり恐れたりしてこそ存在するものであり、みんなが認めないで、その権力を恐れないようにすることは存在しないからだ。

高圧政治によって民衆を死滅させるよりも、民衆を納得させることによって自発的に擁護することが、長期的な統治を維持する方法である。

武力と愚民の教育を通じて大衆を制御することは、最終的には効果を奏することはなく、良好な業績を用いて、至る所で大衆のために考える行為こそ、民衆の支持を勝ち取る最善の方法である。

13 迷信を通じてみんなの受け入れを得る

古来から君権神授の伝統的な観念を利用して、天象、災害、さらにはでっち上げられた瑞祥、緯、童謡に合わせて民心を獲得し、相手を攻撃する人もよくいた。

（他の文章を抜粋：儒家の予想に反して、鬼神の説は君権を制することができないだけでなく、むしろ君主と野心的な人に経緯を探して自分自身の不合理な行為を通じて合法的な理由を探すようにさせた。だから。経緯災害説はしばしば権力に左右され、言い訳や助力として、すでに準備されている政治的変化を推進するしかない。）

14 帝と称し、首都を占拠し、国璽を得るなどして合法性を強化する。帝と称して自分を正統だと主張し、民心を引き付けるために、首都を占領することも正統であることをよりよく示すことができ、さらに確かに首都を占領することができなくて、時には新しい首都を創立して、そして伝国の玉璽を獲得しても自分を正統の重みに昇格させることができます（会社の内部闘争もあって、公印を争って主導的な地位を強めることもあります）。

5 集民智：広範な参政議政を許可し、奨励し、広範な利益を考え、力を集め、監督を強化する

1 つの単位、1 つの国の管理はみんなの公共のことであり、一人一人の切実な利益にも関係しているので、一人一人ができるだけでなく、多くの参加をしなければならない。管理機構は政府を含めて、民衆の広範な参政議政を許可し、奨励して、政策決定の上でよりよく考え、仕事の展開の上でより多くの力を集め、そしてみんなの参加を借りて管理活動により良い監督を形成しなければならない。

1 参政・議政が社会/集団全体と各方面の人員に与える利益：

1 参政・議政が社会・集団全体に与えるメリット：

1 社会的/集団的な問題の解決を迅速にすることができます。社会/集団にはいくつかの問題があり、誰もフィードバックしていない、誰も言っていない、管理部門も知らない、あるいは知っているが動力がない、あるいは圧力が速く解決している、もしみんなが参政議政して問題を提起して圧力を与えていれば、問題をタイムリーに発見して再視して解決を加速させることができる。

2 社会/集団の気風の不断の浄化を促進することができる。1 つの社会/集団の気風は絶えず浄化されるか、それとも絶えず悪化するかにかかっているが、実際には全民衆の認知と行動にかかっている。もしすべて公共事務、公共利益に無関心で、公共事務の討論と建言献策に参加せず、存在問題に対して積極的に是正を促進せず、無茶な人には譲歩しても、その社会/集団の気風は必然的に悪化し続けるが、もしみんなが積極的に政治に参加し、集団で正義を守る強大な力を形成することができれば、誰もが恐れて無茶をすることはできず、社会/集団の気風も必然的にますます浄化されていく。

3 社会・集団の体制を絶えず最適化、進歩させ、社会・集団制度を後退させる行為を阻止することができる。みんなが政治・議政に参加し、社会・集団を共同で管理すれば、みんなが共同で意思決定する民主制度を形成、確立することができ、そして制度はみんなが共同で推進する下で絶えず改善、最適化されることができる。また、みんなが公共管理事務を見つめて、政治家たちの不法行為と戦う勇気があって、それらの権謀者、野心家はやりたい放題、逆行する勇気がなくて、みんなの意志に背いて集権専制の体制を実施することができません。みんなの関心と不法行為に対する反抗闘争がなければ、専制は順調に形成され、国民の多くが政治に関心を持っていない国では専制が発生するのは避けられない。専制の出現を防ぐために、私たちは積極的に参政・議政し、民衆の利益に背くすべての行為と絶えず抗争しなければならない。

4 権力をよりよく監督し、権力の乱用を防止し、管理の効率的、透明、廉潔を促進することができる。みんなは多くの力が大きく、各方面から権力に対して全面的な監視と強大な監督力を形成し、権力を日光の下で運行させることができ、各種の怠惰な政治、職権乱用、汚職腐敗行為もすぐにみんなに発見され、暴露され、通報される。

5 賢明な人を上位に権力を握らせるのに有利で、不良な人は権力を盗むことができない。一部の指導的ポストの人選はみんなの意見を求めるものであり、選挙を実行するものもある（中国では村の幹部の選挙は村民の選挙を実行するものであるなど）、もしみんなが選挙に積極的に参加し、賢明な人を推挙、選挙すると、賢明な人は推挙中の声、得票率が最も高い人となり、上位に権力を握ることになるが、もしみんなが選挙に積極的に参加しなくても（中国の村の幹部選挙のように基本的に村人が積極的に参加することは少ない）、それは往々にして功利欲が強く、掘削が上手で横暴な人が権力を獲得したのである。

6 数人か 1 人の知恵ではなく、公共管理を広めることができます。みんなが政治に参加して政治を議論して力を合わせて、ただ人の知恵で画策するよりずっと良くなって、もっと多くのアイデアの構想を考え出すことができて各方面を発展させることができて、しかも異なった角度から多くの方面を考慮して問題を出して意見を出すのももっと良くて間違いを避けることに有利です。曽国藩はかつて「謀は寡黙で衆は不可」と言っていたと言う人もいるが、彼のこの言葉は計画にあまり人が参加しないようにするということではなく、あまり人が参加しないようにすることを決断することを意味している（普段はみんなで議論して最後に少数の人が板をたたくのは間違いな

い）、そして主に戦争に即断が必要な場合を指す。

7 さまざまな意思決定を各方面に配慮して不合理、不平等、不均衡を減らすことができるようにする。みんなはすべて政策決定と関連意見に対して多くの参加を募集して、多く意見を表現して、多く自分の合理的で合法的な利益を勝ち取って、政策決定はもっと各方面の利益と感じを考慮して、一部の人に偏って不合理、不平等、不均衡をもたらすことを免れます。

8 社会的矛盾を緩和し、社会/集団をより調和的に安定させることができる。参政・議政はみんなに訴えをよりよく表現させ、矛盾を協調的に解決させ、重視されていないことを訴えて恨みを生じる人を避け、矛盾が協調的に解決されていないことを避け、恨みがあり、社会/集団に失望したことによるボイコット、社会への報復などの極端な行為を減らし、社会/集団もより調和的で安定している。また、参政・議政において理性的な観念と民主的な手段を通じて問題、矛盾を解決する習慣を身につけることができ、成熟し、冷静で理性的になり、全面的に問題を見ることができ、簡単に扇動され、利用されて混乱を作り出すことに参加することはできない。民主的で文明的な社会では、民衆は一般的に理性的で法に則った抗議活動を行うだけで、暴動や暴力革命の行為がないのもこれらの原因である。

9 社会の活力をよりよく引き出すことができる。政治への参加や議政を奨励することができ、みんなの積極性と創造力を十分に引き出すことができる。みんなが自分の意見と提案が社会発展に積極的な役割を果たすことができると感じた時、もっと積極的に社会/集団の問題に関心を持って、もっと多くの聡明な才知を発揮して貢献して、社会/集団をもっと元気にさせます。

2 民衆/集団メンバーの参政・議政を指導者に与えるメリット：

1 みんなの参政議政を通じて、より多くの有用な情報と意見、考え方を収集することができ、より良く、より合理的で、より現実に合った、より間違いの少ない政策を制定することを参考にした。

2 さまざまな政策の実行過程でみんなのフィードバックを得ることができて、直ちに問題を発見して、誤りを是正して、当事者が異常な状況と問題に夢中になっても自分がまだ知らないことを避けることができます。

3 公衆参加を通じて意思決定の合法性を高め、みんなの支持を得やすく、実行抵抗も小さい。

4 皆さんの力を借りて、いくつかのことの発展、いくつかの問題の解決をよりよく推進します。特にいくつかの大きなことの実施、いくつかの大きな問題の解決は、指導者一人の力だけでは難しいことが多く、民衆の声があるほうがやりやすい。

5 みんなに参政・議政の中でコミュニケーションと協力を強化させ、団結を増進させ、社会/集団凝集力を強化させる。

6 参政・議政の中で政府・管理機構をより理解し、理解し、信頼と認可を生み、政府・管理機構の合法性と公信力を強化する。

3 参政議政が民衆/集団メンバー一人一人に与えるメリット：

7 自分の合法的権益を無視したり侵害したりすることなく、より良い保障、保護を受けることができるようにする。

8 自分を話事人、主人公の一員にして、もっと地位があり、尊厳があるように過ごします。

9 自分により多くの発展の機会を与え、より多くの上司、他の人に注目されるようにする。集団事務に積極的に参加することで、より多くの発展の機会に触れ、獲得することができ、また、上司や他の人に自分が集団事務に熱心で、集団的責任感があ

ることを見せることができ、より高い地位に抜擢され、推挙されやすくなります。

10 個人の成長を促す。参政・議政の過程で、自身の思考能力、判断能力、コミュニケーション能力、組織能力、協調能力を鍛えることができ、また異なる人と観点に触れることができ、視野を広げ、見識を増やし、個人の能力向上と社会交流に積極的な影響を与えることができる。

2 参政議政を積極的に行わないデメリット：

私たちが積極的に参政・議政しなければ、次のようなものだけではありませんが、多くのデメリットがあります。

1 管理上の意思決定には限界があり、エラーが発生しやすい。意思決定は少数の限られた能力、考え方、さらには人が頭をたたいて決めるだけで、限界があり、間違いもしやすい。社会は知恵を集めることができず、ごく少数の人の限られた、間違いやすい知能によって発展を維持するしかなく、社会の発展は緩やかになり、しかも上の意思決定をした人は次の真実を知ることができず、社会問題はますます多くなり、ますます深刻になり、最終的には社会全体が病気になって重くなり、戻ってくるのは玉石を焼いて、散り散り散りにして立て直すしかない。

2 管理政策は民衆の利益と願望を十分に考慮することができず、社会の不公平を招く。

3 さまざまな社会/集団問題は、解決が遅れ、ますます悪化する可能性があります。みんなの共同推進が欠けていると、さまざまな問題の解決が遅くなり、長引けば長引くほど深刻になることもあります。多くの問題と弊害が重なって戻れない場合、多くの矛盾が調和できないまで進み、最後には崩壊に向かって暴動を起こしやすく、玉石共々焼かれ、霊に塗炭されてしまう。

4 専制極権などの不良な体制はボイコットされずに次第に形成され、国や民に災いをもたらし、民主などの優れた制度も皆さんの支持がなければ構築を推進することは難しいだろう。

5 悪人が権力を握りやすくなり、勝手気ままになる。みんなが公共事務に関心を持って参加しないと、個別の投機に長けた人は乗れるチャンスがあり、簡単に権力を盗んで公私を損ねて大いに利益を奪い、排斥、いじめ、略奪、他の人に打撃を与え、野放図に社会/集団をますます悪くすることができる。大きな国、小さな村まで、ほとんどの人が集団管理に積極的に参加しなければ、最後には少数の人が利益を集め、他の人をいじめている。

6 社会管理は非効率的で腐敗しやすい。みんなの参加と監督が不足しており、各方面の管理は基本的に暗箱操作であり、これにより非効率で腐敗しやすい。

7 不規則な利権争いが起こりやすく、社会が混乱し、動揺しやすい。皆さんの参加が乏しく、利益分配は少数の人の中で行われているだけでなく、公開的に透明に行われているわけではなく、不規則で手段を選ばない権力争いが起こりやすく、社会の混乱、混乱を招きやすい。

8 すべての人、すべての民族、その他のグループにとって、積極的な参政・議政がなければ、社会管理と利益分配において発言権がなく影響力がないことになり、これにより、刃物の上の魚の肉として勝手に侵害されやすくなり、華人が海外に行って経済発展だけを知っていて参政結果を重視しないと、いつも魚の肉の対象になるようになる。

3 参政議政の有効性：

参政議政はあまり効果がないと思っている人が多く、参政議政はそんなに簡単ではないと思っている人が多い。これは比較的感覚的な観点であり、思考分析と実践体験を経ていない論断である。

実際には「一分の努力、一分の収穫」と呼ばれており、何事もやっていれば収穫があり、効果があるが、効果が大きいか小さいか、明るいか暗いか、直接か間接か、短期か長期かは異なるだけだ。

そして効果が小さくても、効果があり、同じ意味で非凡である。まさに多くの小さな効果であり、蓄積は大きな効果となり、量変化による質的変化を実現する。多くの人の何度も効果が集まると大きくなり、物事を大きく変えることができ、一人一人が少しずつ推進し、少しずつ前進するたびに、長い間に目標を達成することができます。

表面的には成功していないように見えて効果がない場合もありますが、実際には為政者の思想に衝撃を与え、今後も施政の方向性や方針を変えることができるようにしたものや、他の人がこれからも推進に参加するように啓発したものもあるので、役割もあります。

また、参政･議政は、たとえ体制を改革･進歩させることに成功しなかったとしても、往々にして体制に後退が生じないように確保したり、後退を止めたりしたことも効果的だ。

参政･議政は行動さえあれば効果があり、意義があると信じなければならない。そして、足踏みをせずに千里に至ることがなく、粘り強く金石を彫ることができることを理解しなければならない。広範な参加を発動して一人一人が点滴の力に貢献し、そして諦めずに日々の積み重ねを続けることを堅持すれば、みんながまとめた推進力は社会の発展を阻害する抵抗力よりも大きくなれば社会に前進の変位をもたらすことができ、当量が大きくなれば自然に質的変化を引き起こすことができ、必ず大きな効果を得ることができ、最終的には社会の大きな進歩を促進することができる。

そして、行動しなければ何の効果も得られないことを理解しなければならない。横になって行動しないことを放棄するよりも、努力して行動したほうが、どれだけの効果が得られるかは、ないよりも良い。

4 参政議政の無害無危険性：

参政議政は個人にとっても社会/集団にとっても無害で危険ではないので、参政議政に心配する必要はありません。

1 個人に無害で危険がない：

1 集団事務管理に質問し、参加し、国家事務に対して積極的に参政議政することは、すべての人の基本的な権利であり、法を犯すことはなく、合法的であり、法律に保護されている。政治集会への参加、政府部門への意見の反映などの行為は、公民が法律の枠組み内で自らの訴えを表現する行為であり、すべて法律で許可されている。

2 人に嫌われて仕返しされることはありません。考え方や提案をするのは、より良いことを手伝うためであり、誰もがそれに対して歓迎し感謝し、意見や批判をするのも、問題があると感じ、やり方を改善し、問題を解決したい、出発点も良い、みんなは批判を聞いて不機嫌になることがあるが、心の中では嫌悪感を持たない、そして批判の内容に正しくない点や過激な点があっても、好意的で敵意ではないものであれば、みんなは理解できる。もちろん一部の人が不法に利益を得ようとしていることに影響を与えたり、ケチで鋭い耳障りな話を聞いて腹を立てたりする人に会ったりすることもありますが、社会は今では各方面が透明で、情報の流通も速く、何をするにも

法に基づいて規則的で、誰にもできない、勝手に片付けられない、フィードバックしたり、批判したりする内容が故意に捏造したり、デマを作ったりしていない限り、それまで閉鎖的で情報の流通が遅かった社会のように、「余計なこと」をして片付けられる可能性があるのではないかと心配する必要はありません。

また、実際にはほとんどの管理者は心が悪くなく、多くの政策の本意は良いものであり、問題が多いのは制定時に実際から離れたり、考えが行き届いていないからであり、彼らもより良いことができるように多くのフィードバックを期待し、歓迎している。彼らは政策の悪いところに黙ったり、陰で悪口を言ったりしても正面から出さないことをもっと望んでいない。

そしてほとんどの人はコミュニケーションが上手で、善意、平和、理性的にアドバイスや意見を提出すれば、気まずくなったり衝突したりすることなく楽しくコミュニケーションができます。

2 社会/集団への無害無害：

あまりにも多くの人が政治に参加すると混乱を引き起こすと考える人がいるが、これは間違った観点であり、政治に参加することは決して誰もが理不尽に騒ぐことではなく、暴動や革命ではなく、理性的で平和な政治参加であり、どこが混乱を引き起こすのだろうか。参加中に理性的ではなく衝動的な行為が発生することがあっても、私たちは簡単に法制化で阻止することができます。混乱を招いたのは人々の強い不満と激しい行為であり、みんなの参政議政がみんなの訴えを表現し、対応させることができ、みんなの不満を減らし、かえって社会の安定に有利である。

5 各人の参政・議政権：

1 私たちは国と社会の主人であり、管理に参加する権利がある。国は私たち国民一人一人が共有しており、社会は私たち一人で構成されていますが、政府は国民が国のために日常的な公共事務を行うように委託している機関にすぎません。政府のスタッフは人民の従業員にすぎないので、私たち一人一人は国、社会、政府、政府の主人であり、私たちには参政議政を行う権利があり、個人の意見を発揮して彼らに影響を与える権利があるのは言うまでもありません。皆さんにも本当の、走る権利の主人の意味があることを願っています（私たちがこれまで提唱してきた義務履行だけを強調し、献身に没頭する主人の精神とは異なります）。私有企業であっても、意思決定権は株主の手にあるが、経営と日常管理はすべての人に関連しており、すべての人にも自分の意見や訴えを表現する権利があり、採用されるだけで株主が決めることが多い。

2 参政議政はつまり公共管理に参与することであり、一人一人の基本的な権利である。公民は法に基づいて選挙権、言論の自由などの権利を享有し、参政議政はまさに公民がこれらの権利を行使する重要な方式である。そしてこの権利は誰にとっても平等であり、誰にもその権利を行使する資格があり、文化、地位、社会的地位の高低、富の多寡によって影響されることはありません。ある人は自分一人で権力を占領するために他の人が手を染めることを許さず、他の人が大政を妄議してはならないことを要求し、甚だしきに至っては国事を話さなければならないことを要求し、すべて他の人の参政・議政権のはく奪である。

6 各人の参政・議政の義務：

誰もが社会的責任感を持って、多くの政治・議政に参加し、社会・集団的事務に対して共同で力を入れてこそ、社会・集団の発展・進歩を推進することができ、社会・集団

の利益が侵害され、体制が破壊されて後退することを防止することができる。社会はみんなの正のエネルギーの力が発展を推進する必要があるだけでなく、反動的な力に破壊されて後退することを常に防止しなければならず、社会の発展は水に逆らって舟を進めなければ後退するようなものである。社会/集団とは、各方面の力が順方向推力と逆方向推力を含む共通作用の下で絶えず変化しているものであり、どの方向の力がより大きく、それがどの方向に向かってより多くなるかを見ている。これは物理学における力の合成定理と同じである：物体に作用する複数の方向と大きさの異なる力、1つの物体に対する合力を合成して、物体の運動状態はこの合力に決定して、どの力がもっと大きくて、合力の方向もどの力に偏っている。私たちは一人一人が力を尽くして、社会をより良い方向に発展させる義務があります。

また、私たち自身の権益が侵害された場合、私たちは自分の権益を守ると同時に、他の人、特に弱者の権益を守ることができるように支援し、参政議政を通じて体制から欠員を検出し、みんなの権益を侵害しないようにすることを推進しなければならない。

7 参政議政の必要性と提案：

人々はいつも政治と自分はあまり関係がないと思って、自分の日をよく過ごして、自分の仕事をしっかりすればいいと思って、これはとても間違っていて、実はすべての人の生活と最も関係があって、すべての人に最も影響を与えるのは政治であるべきで、政治がよくなくて、指導者がよくてみんなに与える影響はとても大きくて、昔の人の感嘆のように：“太平犬をして、乱世民をしません。”社会政治の善し悪しはすべての人の生活の善し悪しを決めることができます：政治が良くて、犬もすべて良い日を過ごすことができて、政治がよくなくて、人も良い日を過ごすことができ民主自由が発達している国と専制極権の国を比較してみると、人々のこれらの異なる国での生活は本当に雲泥の差で、最も明らかなのは韓国と朝鮮という2つの各方面の基礎と文化などがすべて同じ国で、異なる政治体制を採用しているため、人民の生活の差が大きすぎる！政治は一人一人の生死にかかわると言ってもいい！政治はこのように私たち一人一人の切実な利益に関係しており、このような大きな影響を与えているからこそ、私たちは政治に対して決して回避することはできません。政治は自分には関係ないと思ってはいけません。政治を他の人のことと思ってはいけません。それを直視しなければなりません。前述したように、参政議政は社会の進歩を推進し、公平と正義を守る重要な手段であり、そして政策決定の質を高め、民主的な発展を促進し、社会の安定を維持するのに役立ち、私たちは必ず広く、積極的な参政議政を通じて社会の民主的、清明な政治の形成を促進し、それによって自分と大衆の生存と発展に有利でなければならない。国民の広範な参政・議政の下で私たちの生活の質は日増しに向上し、社会、経済はよりよく発展している。特に今、私たちは政府の腐敗と社会の様々な弊害に直面して、私たち一人一人がもっと方法を尽くして現状を変えるべきだ。

また、一人で積極的に入世し、社会事務に参加してこそ、より大きな社会貢献をしてより大きな功徳を築くことができることも知っていますが、参政議政は社会事務への参加であり、最高レベルの参加であることも知っています。

一人一人が行動し、積極的に、タイムリーに、良性的に参政・議政し、共に社会の進歩を推進することを望んでいる。

ここでは、次のように提案します。

1誰もが強い社会的責任感と主人意識を確立し、社会/集団の建設、管理に積極的

に関心を持ち、参加し、公益事業に多く参加し、公共事務を多く負担し、集団、社会のために力を尽くすことができる貢献をする。

2 誰もが社会に存在する様々な問題に注意し、「お節介」をしてこれらの問題の解決を推進しなければならない。誰もが観察に励み、思考に長け、疑う勇気を持つ習慣を身につけ、集団（仕事生活がある単位）、社会の様々な不都合、不合理な場所をタイムリーに発見し、記録をしっかりと行い、思考して改善提案を提出し、そして管理部門と公衆、メディアにフィードバックし、改善の実行を推進し、様々な問題の解決を推進することによって単位、社会を良い方向に発展させる。

3 誰もが頭をはっきりさせ、是非を明らかにすることができ、強い正義感を持って、不良で、集団の利益を破壊し、社会の進歩を妨げる行為と実行者と戦って制止することができる。独裁者が社会を後退させる逆行や、社会や民衆を侵害する行為に対しては、決して逆順になったり、プライベートで文句を言ったりするのではなく、立ち上がって反撃して収束させなければならない。誰もが社会のプラスのエネルギーになり、一面を照らす光になります。

4 誰もが自分自身から資格のある社会人になるために争っている。優れた文化的素質と法治精神、民主的素養があり、それによって社会をより文明的にし、そして自身の合法的で正当な権益を侵害されないように守ることを重視し、それによって社会をよりよく正常、秩序、バランスのとれた状態にすることができる。

8 参政･議政への自信を確立する：

参政議政は必然的に効果があるが、多くの人はまだ十分な自信を持って展開しておらず、常に物事を難しく見て、抵抗を大きく見て、いつも失敗を恐れる。実は多くの方面の分析から、私たちは参政議政に自信を持っている理由がたくさんあります。

まず、私たちが直面している抵抗はそれほど大きくなく、社会/集団の発展を阻害する勢力も私たちが思っているほど強くなく、恐ろしいものではありません。実際には抵抗も数人によるものにすぎず、彼らの人数や掌握している資源は広大な民衆のそれほど多くはなく、私たちは抵抗よりも大きな推力を組織しやすく、私たちみんなが心を一つにして、多く彼らと戦う限り、彼らはきっと一撃に耐えられない。

次に、参政議政が成功しなかった事例だけでなく、古今東西の参政議政が成功し、それによって社会が大きく進歩した事例も見なければならない。成功した例は多く、失敗した例よりも多い。

再び、心理的障害を克服して勇敢に着手する一歩を踏み出さなければならない。難しいことではありませんが、やるかどうかの問題があるだけです。何かを変えるのは難しく、現在の状況を変えるのは難しいと考える人もいるが、このような心理状態は政治参加にとって非常に有害である。実際には、なぜ政治活動などで成功した人がいて、他の人がそれを得られなかったのかをよく分析してみてください。実は、彼が勇気を出してやったから、やったからといって他の人がやっていなかっただけです。政治参加もそうだが、効果があるかどうか、肝心なのは、あなたが努力しているかどうか、やっていないかどうかであり、大胆にやれば、必ず効果がある。

最後に、一時的な失敗にあっても落胆することはありません。何事も順風満帆ではありません。一時的な失敗は私たちは必ず見なければなりません。

とにかく、私たちは政治参加に自信を持って、政治参加は必ず成功し、必ず役に立つと信じて、決して抵抗と一時的な失敗に屈服しないで、簡単に諦めないで最後まで辛抱強く堅持しなければならない。

9 参政・議政のいくつかの方向、方式：

参政議政は複雑なことだと思っている人もいれば、どうやって手のつけようがないのか分からない人もいますが、実は複雑ではありません。方向、方式も非常に多様で、ここではよくある方式を挙げます。

1 投票や選挙戦を含む選挙活動に積極的に参加する。例えば現在、末端選挙が推進されているので、みんなは必ず自発的に参加しなければならないし、受動的に投票に参加するだけではなく、積極的に選挙や投票に参加し、優秀な人の当選に積極的に協力しなければならないなどです。また、人民代表大会代表の選挙にも積極的に参加し、規定に基づいて公民は直接選挙を通じて鎮と県級人民代表大会代表を選出したり、間接選挙を通じて県級以上の人民代表大会代表を選出したりすることができる。

2 公共事務の調査研究と意思決定に積極的に参加し、公募提案、公聴会、意思決定討論と採決、公示意見募集などの政府組織の活動に参加し、また民意の調査、収集活動を組織して展開し、政府にフィードバックし、また電話、手紙、メール、ウェブサイト、微信伝言を政府に提供し、意見を表明する。

3 組織を通じて正当な利益をよりよく獲得し、社会目標を実現するために、各種の社会団体、政治党派を参加し、組織する。

4 特定の公共事務の具体的な状況と収支明細を公開し、公共調達の清廉性を監督するよう関係部門に要求するなど、政府に対する監督活動に組織または参加する。

5 政府職員の非行を告発する。見て見ぬふりをするのではなく、不良行為と闘うことが多く、法律法規ないし憲法に違反している人がいることを発見し、苦情ルート、司法ルートを通じて苦情、通報、摘発、通報、起訴を行い、不良行為を適時に制止し、犯罪者を処罰することができる。110 番通報、12345 苦情、12388 規律検査委員会などに電話や微信をかけて現地の 12345 公衆番号、「国務院」ウィジェット、「国家投書・来訪局」ウィジェットの伝言、および規律検査委員会のウェブサイト www.1288.gov.cn、組織部のウェブサイト www.12380.gov.cn などに匿名で伝言することもでき、各級各政府部門のウェブサイトと政務プラットフォームにもインタラクティブコラムが伝言できる。

6 さまざまなメディア、さまざまな方法で自分の意見を発声する。「発声」も参政・議政の方式の一つであり、新聞・テレビなどの公共メディア、インターネットプラットフォーム、自メディアなどに含まれ、提案、批判、呼びかけ、提案を発表することで、推進作用も生まれ、特に多くの人が共通の声を出すことができ、関係部門も圧力を感じて対応調整を行うことができる。

7 民意を示す活動を開始、組織、または参加する。座り込み抗議、デモ、集団署名請願などを含み、みんなを組織して適時に、大胆に意見を表明し、政府が民意をより見ることができるようにし、意思決定をタイムリーに調整し、みんなの利益と感情をもっと考慮する。

各種の政治活動は機会があれば、必ず参加しなければならない。投票ができることを含めて、必ず積極的に投票に参加しなければならない。発言の機会があれば、政治に影響を与えるすべての機会を放棄してはならない。

もし私たち一人一人が社会的責任感に満ちて、積極的に社会の建設に身を投じて、積極的に参政して政治を議論して、社会を良い方向に発展させるならば、私たちの社会は日に日にもっと美しくなります。上述したことからも分かるように、参政議政は実際には神秘的ではなく、困難でもなく、誰もがいつでもどこでも行うことができ、どのような高い文化程度が参加する必要はなく、要職にいてこそ展開することができる。

10 参政議政の効果を高める方法、策略:

1待つ、頼る、求めるのではなく、自ら出撃し、積極的に展開し、行動に重きを置かなければならない。みんなの権益は自発的に勝ち取らなければ得られないものであり、社会に存在する問題も推進しなければ解決できないものであり、社会の不合理なところもみんなが多くの圧力をかけてこそ改善するものであり、独裁的で腐敗に貪欲な指導者もみんなから大きな圧力をかけられてこそ退陣するものである。物理学における慣性と運動法則とは、強力な作用がなければ、物体の運動状態は変わらないということだ。同じように、みんなが力を出して推進しなければ、すべての物事は変わらないし、社会全体が自動的に進歩することはできないし、後退することもある。私たちはすべてに構う必要はないと思ってはいけません。時間が経つと問題が自動的に解決されると思ってはいけません。物事が自動的に調整されて良くなるという幻想を持ってはいけません。社会の発展を阻害する人が急に良くなるという幻想を持ってはいけません。待つこともためらうこともなく行動に重きを置くことは、行動があってこそ効果があり、多く行動してこそ効果があり、早く行動してこそ早く効果がある。

2できるだけ多くの人を動員して展開しなければならない。人が多ければ声が大きく、力が大きく、影響が大きく、より良く、より大きく、より速い効果を得ることができ、状況をグループでフィードバックし、問題を反映し、意見を表現しなければ、管理部門に問題の深刻さと反対力の強さを感じさせ、重視させることができない。そうでなければ、1人や2人が声を出すだけで、ただの他人の意見、ケースの状況だと思われ、重視されることはなく、少数の人が理不尽に騒ぐだけだと思われることもある。そして抵抗があれば、推進力を抵抗より大きくして推進進歩を実現するためには、多くの人が一緒に推進する必要があります。物体が静摩擦力（抵抗力）を克服して動く定理のように：物体に作用する力が物体の静摩擦力より小さい時、物体の静止状態を変えることができなくて、しかしもし複数の力が一緒に同じ方向でこの物体に作用するならば、これらの合力が合わせて物体の静摩擦力より大きい時、静摩擦力を克服して物体を運動させて、そしていったん運動を始めたら、運動の過程で摩擦力は大きい静摩擦力から小さい滑り摩擦力に変化して、物体を運動し続ける力はもとのように大きくならなくてもよい。同じように、私たちの少数の人が1つの物事の発展を推進するのは難しい。推進力は抵抗力より小さいからだが、もし私たちが多くの人を動員して団結して推進すれば、抵抗力より大きい推進力を形成でき、物事の発展を推進することができ、そしていったん物事が発展し始めたら、後であまり大きな推進力を使わなくても発展し続けることができる。だから私たちは困難を恐れて物事の発展を推進できないことを恐れるのではなく、より多くの人とより多くの力を団結させて一緒に物事の発展を推進しなければならない。私たちが十分な力を集め、みんなが心を一つにして努力すれば、最終的には必ず目標を実現することができる。そして、多くの人が一緒に行動することはさらに安全であることができる。少数の人が行動する力が弱く反動勢力に押されやすく、参加する人は片付けられやすく、最も悪いのはばらばらな行動、手分け行動であり、反動勢力にそれぞれ撃破されやすく、人が多くなると力が強くなり、反動勢力は圧迫しにくく、大衆の怒りに触れるのを恐れて圧迫できなくなることが多いからだ。

3適時かつ常態化しなければならない。参政・議政はタイムリーでなければならず、問題を早期に解決し、改善を推進して社会をより早く良くし、しかも早ければ早いほど容易に展開することができる。そうしないと、社会問題が山積みになり、反動勢力が尾を引くことができなくなり、問題を解決し、社会改良を推進しようとするの

はすべて時すでに遅く、困難度も大きくなるだろう。また、参政・議政も日常的に続けなければならず、毎日毎月毎年やってこそ、日々蓄積し、長い間仕事をし、持続的で効果的な効果を形成することができ、三日坊主にすることはできず、普段やらずに情勢が危急になり、眉を焼くまで待ってからやってはいけない。社会が崩壊するまで待ってから社会を改造することはできない。自由を完全に失って動けない時になってから自由を勝ち取ることはできない。飢えと寒さに息切れして抵抗できなくなってから抵抗することはできない。

4 あきらめないで頑張ってください。滴水は石を穿つことができて、堅持することは勝利で、世の中の事は最も恐れているのは「堅持」の 2 字で、参政議政も高いのは堅持して放棄しないことにあり、失敗して落胆しないで、転んで起き上がり続けて、がっかりして自暴自棄になってはいけなくて、中途半端に前の努力を捨ててはいけない。目標に達しなければやめず、一度だめなら分析して改善方法をまとめてから続け、ずっと堅持すれば、ますます成功に近づくだろう。問題の源についても、法律の制定、政策の制定、事項の承認による問題がある場合は、これらの部門に調整を要求するなど、土鍋を破ってとことん探してこそ、より的確に行動することができる。1 つの部署を探しても解決できない場合は、もっと多くの部署を探してください。解決に協力しない場合は、上級部門や規律検査委員会、組織部などの監督部門にフィードバックして圧力をかけることもできます。参政議政は何事も同じように難しいに違いない。簡単に効果を得ることはできない。長期的な闘争過程が必要であり、私たちが大胆で積極的で長期的な参加を堅持してこそ、最終的に目標を達成することができ、最初は明らかな効果がなくても、長期的には大きな効果を達成することができる。

5 姑息にしてはいけない、悪があれば必ず取り除き、問題があれば必ず正す。多くの人は不合理な場所、不公平な扱い、権益が侵害されていることを発見して、いつも問題が大きくないと思って追及しないか、あるいは自分に危害を及ぼさずに放っておくか、そして損失があって損失が大きくないと思っても、これはとてもよくありません。多くの悪いもの、悪いものは小さい頃から大きなものに発展していることを知っておく必要があります。そしてそれを直ちに止めなければ、自分が影響を受け、侵害されるだけでなく、もっと多くの人に影響を与え、侵害して、簡単に見逃して、勝手に計算しては姑息になるだけです。

6 参政議政のルートと方法を熟知させ、より多くの参政議政のスキルを身につけさせます。多くの人は自分の権益を守る方法を知らず、自分の権益を守ることができることも知らず、対応する文書の作成、意思疎通、安全防護の能力も不足している。

7・新しい技術やツールを多く利用する。例えば、インターネットやソーシャルメディアは民衆により便利で、より効果的で、影響力の広い参政議政方式を提供し、また多くの参政議政の仕事もインターネット、ソフトウェアなどの技術を通じて効率を高め、より参加しやすくすることができ、例えば投票はウェブサイト、ウィジェットなどのオンライン方式を通じて展開することができ、より便利で迅速で不正行為を防止することができ、また前述の苦情、投書訪問などはウェブサイト、ウィチャットウィチャットのウィジェット伝言者を通じて現場に行かなくても便利で、低参加コストが多い。

11 参政・議政の行為規則（注意すべき点、避けるべき誤解）：

参政・議政も、悪影響や副作用を避けるために、いくつかの行動規範を遵守しなければならない。

1 参政・議政の行為は、政府や指導者の要求に応えるためにしたのではなく、他人

に惑わされ、買収されたのではなく、自主的、自発的、自由でなければならない。

2 理性的で熱狂せず盲従せず利用されないようにしなければならない。扇動されて熱狂してはならず、自分で考えずに盲従してはならず、当時の紅衛兵のように政治闘争の道具として利用され、さらに利用され操られる大衆運動に発展してはならない。

3 合法的に秩序立てなければならない。法律法規に違反してはならず、法律手続きに従って規範的に展開しなければならない。無理に騒いではいけない、合法的な方法を避けて騒ぎを起こす方法を採用してはいけない、法で大衆を責めないことを盾にして集団で騒ぎを起こして法を守らず、理不尽にしてはいけない。

4 公共の利益や個人の正当な権益を高めるためでなければならず、参政議政の活動を利用して集団や他人に個人の非分の利益を得るよう強要してはならず、公報に私的に参政議政を利用する手段を強要して他の人を打撃してはならない。

5 混乱を作ったり破壊したりしてはいけない。自分ができないことも、人を扇動しないことも含めて。

6 民衆間の矛盾を作り出したり拡大したりして分裂を激化させ、団結を破壊してはならない。矛盾を挑発して拡大化するのではなく、各方面の対話の合意を促進しなければならない。

7 すべての人を守り、尊重する。一人一人の権益とプライバシーを守り、一人一人の観点を尊重し、他人に害を与えない。

8 虚偽の情報を流布し、誤って悪影響を与えることを避ける。情報の真実性をもっと吟味し、事実を根拠に参政議政を展開し、デマを流さずデマを流さず、そのために公衆を誤解し、社会や他の人を傷つけないようにしなければならない。

9 過激で暴力的なやり方を避けるためには、温和で友好的でなければならない。表現方法を含めて、穏やかに遠慮し、他人を尊重し、感情的になったり極端になったりしないようにしなければならない。および批判のテクニックに注意し、アドバイス、会話、注意の方法を採用して、批判、風刺、罵倒、人身攻撃の方法を採用しないでください。ある批判はできるだけ公開しないで人の体面を立てるようにして、確かに効果がないと言って圧力を与えてから公開する必要があります。まだいくつかの問題があっても大げさに処理してはいけない。そして最も重要なのは非暴力の原則であり、論争があったときは顔を赤くしても太くしてはならず、問題があっても様々な方法で解決できなくなっても暴力的な方法で解決することを求めてはならず、一部の組織、一部の人に対しては暴力的な対抗を採用せず、協力しないことをボイコットするなどの非暴力的な抵抗方式を採用することができる。

12 政府などは、みんなの参政議政への打撃を阻害するのではなく、良好な参政議政メカニズムを構築しなければならない。

政府を含む集団にとって、広範な参政議政を発動することによってより多くの力を結集し、より多くの知性を結集して社会/集団の絶えずの改善、発展をより良く推進する必要があり、そのためには良好な管理参与メカニズムを構築し、みんなの参政議政を阻害し、打撃するのではなく、奨励しなければならない：

1 できるだけ多くのルートを開放して参政議政を行い、各ルートが滞りなく通じることを確保し、民衆がより容易に、より低コストで、より効率的に参政議政できるようにする。現在の中国の各政府事務を含む提案の権限は人民代表大会代表、政協代表だけが持っており、提案の権限を広範な民衆に開放することも考えられるので、より良い提案を集めることができるはずだ。

2 広く動員し、参政議政を奨励し、良い提案、意見を提出した場合には奨励を与えることができる。一部の企業では合理化提案賞が設けられており、政府も同様の賞を設けることができることを提案している。

3 民衆の参政・議政意識を高める。公民意識を多く宣伝し、主人公になる意識を含み、社会組織の発展を積極的に支持する。

4 批判を許し、歓迎し、討論、議論を奨励する。みんなの議論に対して妄議大政のレッテルを張るのではなく、許しと励ましを与えなければならないが、もしみんなの議論が間違っていると思ったら、みんなと議論を繰り広げることができて、真理は話せば話すほど明らかになり、議論を恐れてはいけない。また、メディアが自由に意見を発表できるようにするためのルートもあり、メディアの審査やコンテンツのフィルタリングを行うことはできません。ネット上での情報の公開を制限することはできません。みんなが発表した情報を削除したり、ブロックしたりすることはできません。

5 苦情や起訴などの正当な方法で社会の進歩を促進することを奨励する。みんなにいろいろな便利さと協力を提供します。

6 参政議政者の安全を確保する。情報の秘密保持と安全保護措置をしっかりと行い、みんなが心配して表現できないようにしてはいけない。

7 みんなの参政・議政を阻む行為や打撃を避ける。例えば、フィードバック苦情のルートを閉鎖したり、脅迫や報復苦情者を攻撃したりすることは、根絶しないでください。

13 中国人参政・議政の伝統、現状、存在する問題、西側との差：

1 中国人参政議政の伝統と事例：

中国の主流の文化儒家文化は非常に WTO 加盟を提唱しており、各人、特に士大夫、知識人は社会的責任感を持たなければならず、功を立てて徳を立てて言を立て、国を治めて天下を平定し、人を哀れみ、天下を兼ねることが求められている。儒家文化の薫陶の下で大部分の人も強い社会的責任感を持っており、社稷利蒼生を守るために天下の大同を追求するために湯水に赴きたいと思っている。立派な参政議政の伝統。

多くの人は参政・議政の過程でも常に上層部の統治者に屈従し、支配層の核心的利益を変えることに触れることができず、さらには支配層の利益を守る前提に限定されているが、やはり強大な力を形成し、社会管理、国家管理の絶えずの進歩を推進し、多くの感動的な事例が現れた。

各級の役人が死を冒して皇帝を諫めた例は非常に多く、道義と礼儀、祖先制を守るために、あえて皇帝の機嫌を損ね、皇帝の杖、大牢に入れ、免職、家宅捜索などの厳しい処罰を受けても惜しまず、さらには道義、礼制を堅持して皇帝に処罰されたことを誇りに思って、忠義の名声を残すことができると思って、最も典型的な例は明朝嘉靖年間、多く皇帝を怒らせて左順門に群がって大声で泣き叫ぶのは、死理を認めながらも非常に気骨があると言える。地位が低いのに敢えて書を出して皇帝を諫言したのは、最も有名なのは明朝の海瑞だろう。彼は自分の言葉の軽さを顧みずに嘉靖皇帝に直接書を書いたが、内容は非常に遠慮せず、嘉靖を罵倒して目を覚ました。また、宋代の鄭俠も身分が低いのに皇居に押し入って諫書と流民図を宋神宗に渡し、宋神宗に王安石のような実際から離れて民を退屈させる変法措置を中止し、人の頭で保証し、変法を中止すれば民の恨みを静めて大雨を降らせて当時の干ばつを解決することができることを保証した。

民間が上層部に上書し、陳情したのは、例えば北宋の王安石変法期間中、東明県の農民千人以上が集団で上京して天子を演奏し、王安石住宅の前で陳情をし、不合理な新法の廃止を要求した。また有名な例としては、清末のバス上書、康有為など各省の在京会試挙人が連名で維新改革を求める上書が挙げられる。また、当代にも例がある。1962年に湖南省の女の子劉桂陽が中南海を訪問し、家や故郷の多くの人が餓死したことを訴えたことで、中央上層部は状況の深刻さに気づき、政策をタイムリーに調整し、当時の最高指導者毛沢東を批判させて二線退却を表明させた。また、民衆、学生、メディア人の各種請願、陳情活動も時々発生し、規模はまだ比較的に大きく、成功は多くないが、多くの有識者の奔走と死傷事件が社会の怒りを引き起こした下で、収容制度、労働教育制度が廃止され、また新型コロナウイルス期間中の不合理で厳しい封鎖民衆の措置も、みんなの抗議と突破の下で最終的に解除されたが、残念ながら覚醒と抗議が遅すぎ、解放が遅すぎて、国と民衆はすでに大きな被害と損失を受けた。

2 中国人の参政議政不足の現状：

歴代専制極権独裁者は権力を独占するためにも、民衆の参政議政を排斥し、抑圧し、阻止しようとしてきた。

数千年来の統治者が儒家が合理的で適切な尊卑を強調することを神聖で疑うことのできないものとし、権力のますます緊縮して集中して民権を許さない存在として、みんなを権力の外に排斥し、また苦言を呈する者を妄議として厳しく打撃し、みんなを恐れさせた。今では再会し、公共管理に問いかける人はほとんどいない。誰もが身震いし、保身、絶対服従を知っているだけで、さまざまな不合理な管理に対しても逆戻りし、恥を忍んで声を飲み込み、やり過ごすことに慣れているだけでなく、政府との正常なフィードバック、コミュニケーション、意見提案をすることさえもできない、できない。加えて、歴代政府は商鞅の方法に従って貧困民、疲労民、愚民政策を強力に推進して、みんなが家族を養うために必死になって公共事務を顧みる気がなくて、そして独立して考える能力と習慣がなくて、大部分の人は公共事務に無関心で、無感覚になった。また、もともと民衆の利益を得ることができる一部の人も買収されたり、脅迫されたりしやすい（例えば、康有はバスで本を読む活動で買収される可能性があると推測されて、みんなの要求を犠牲にして個人の功名を取った）。また、多くの高居廟堂の臣下は腐敗などの過失を把握された取柄の結果、個人の利益の安全を心配しすぎて、民のために声を出すことができなくなり、末端の役人は服従し、言うことを聞かなければならないという考えを植えつけられた後、ほとんどの人は上司の指示に従って仕事をするだけで、積極的に政治・議政に参加しない。

中国には民衆と各級官僚の広範な参政・議政が非常に不足しており、これはまさに中国の今日の政治腐敗が深刻で、社会封建の残存、文革の遺毒が深刻で、社会的弊害が生い茂り、現代民主社会になかなか進出できない重要な原因の一つであるため、広範な参政・議政の発動は必要であるだけでなく、極めて緊迫していると言える。

3 中国人の積極的な参政・議政に不利な理念：

中国人の多くの理念は非常に消極的で、そのため多くの人が参政議政を行うことができず、勇気がないことを招いた。

1 是非を明らかにすることはできず、強い正義感もない。独立して考える習慣や疑問の精神がないので、是非を明らかにしないことが多い。そして正義感に欠け、悪いものに直面して、いつもしびれて、無関心で、断固としてノーと言っていないで、嫉妬して仇のように取り除いてからすぐに。一部の人のでたらめな行為に対しては、構わず制止せず、野放図に勝手気ままにして、その勢力が絶えず強大になるようにし

ている。

2 強権を恐れ、臆病で物事を恐れる。中国は人生性が弱く、しかも歴代の強権統治者の残害、恐喝の下で、強権を非常に恐れ、統治者と各級の役人に対して鬼神のように扱い、彼らを非常に恐れ、彼らに対していつも慎重で、少しでも彼らを不快にさせると彼らに報復され、社会管理への参加に少しの考えも持てず、政府の明らかな誤りに遭遇しても指摘することができず、身震いして、すべて上級官僚と権貴が計算したので、悪いことがあっても反対することができず、保身、泣き寝入り、逆戻りして、最も陰でひそかに議論し、文句を言ってののしって、政治に冷淡すぎて、しびれていて、話が変わるのを恐れている。

3 社会的責任感が乏しく、集団事務に無関心である。多くの人は集団をよくしてこそ、一人一人の仕事と生活に有利になることができ、人生を追求するには社会的価値が必要だという理念がさらに不足していることを理解していない。そのため、集団事務に無関心で、社会的責任感がなく、集団事務を改善し、社会の進歩を推進する活動に参加することはできない。集団的、社会的な事務に対しては、どんなに乱れていても、どんなに公を害して私腹を肥やしている人がいても、自分に直接影響を与えていない限り、自分のことは気にしないと思って放っておく。何をするにも自分の利益と損得だけを考えがちで、集団全体、社会全体から考えることは少なく、自分の損失を避けるために集団、社会の利益が破壊されても損失を受けることができる。

4 社会管理上主人公としての主人意識がない。中国人は何千年も子羊や奴隷に慣れており、一般的に公民意識がなく、自分が社会の構成員や主人の一人だとは思わず、支配者や役人に勝手に指揮され、制限され、振り回されてもいけないとは思わなかった。画地を牢屋にすると雷池の半歩を越えることができず、何もできないと言われたらおとなしく何もできず、いくら不合理な政策法規でも疑問やフィードバックを出す人はいないが、誰もがおとなしく実行して損失が多くならないように自己調整をすることができ、みんなが理由で曲解した「その位置にいなければその政をはからない」という観念を植え付けられていると、社会管理の事務を過問すべきではないと感じている（実際には私たちは誰もが社会の主人であり、社会管理に参加する権利があり、しかも「その位置にいなければその政をはからない」この言葉の本来の意味は、俎に代えて自分の責任の範囲に属さないことを管理しないように各自の職務を司ることであり、故意に誤魔化してはいけない、つまり本分を超えて行動してはいけない、役人がいなければ社会管理に参加できない、統治者は権力を独占して大家に手を染めないために、自分のやりたい放題をして反対されないために、わざとこの言葉を誤解して広く民衆に注ぎ込んで、みんなに正直にして、余計なことをしないようにすることである）。

5 社会環境を変えることができることを知らないで、そして自分が社会環境を変えることができないのだと感じます。社会はもともとみんなが共通の影響を与えて形成された結果であり、みんなは社会のどこが悪いと思って社会を変えてそれをもっと適応させ、みんなのニーズを満たすことができて、社会環境を変えることができないと思ってはいけなくて、自分を変えてすべてを求めて社会環境に適応するしかありません。不合理な社会政策に対しては、単に対策を探すのではなく、政策を変えるための工夫をすることもできる。卑下しないで、自分の社会に影響する能力に自信が足りないで、自分が虫けらだけで社会に影響できないと思ってはいけなくて、自分の努力が大局を変えることができないと思ってはいけません。実は前に述べた参政議政の有効性のように、行動に努力があれば、誰でも社会に影響を与えることができ、闘争を堅持し、より多くの人が一緒に行動すれば、比較的大きな参政議政効果を得ることが

できる。

6 反抗精神も勇気もない。専制政権に何千年も高圧統治されてきたため、中国人はますます反抗精神がなくなり、背中を折られて全く気骨がなく、どれも軟骨で、人にいじめられても声を出すことができず、少しも血性がなく、男ではない。どんなに侵害されても、抑圧されても泣き寝入りして、逆順に受けて、まだ口がある限り生きていけるのであれば、間に合わせに暮らして、ご飯がなくて飢え死にしそうになっても抵抗することはめったにありません。強大な横暴な人に会うと度胸を失ってしまうおとなしく手を縛ってひざまずいて許しを請うだけで、勝手に殺されても必死に抵抗することはありません。追い詰められた時に反撃報復を選んだのではなく自殺を選んだ人が多いのは、とても悲しい弱腰で無能です。悪人が悪を働き、独裁者がでたらめを言って逆行することに対して、基本的には誰もノーと言う勇気がなく、誰も制止妨害をする勇気がなく、意見があっても不満があっても陰でひそかに悪口を言うだけで、婉曲なものを含めて安全ではない表現をする勇気がなく、大声で叫んだり器物をたたいたり笛を鳴らしたりして抗議を表明したりすることもできず、反対を表現する勇気のあるソーシャルメディアの内容に対していいねと転送をしたりする勇気もなく、誰も頭を縮めるカメになるだけだ。そのため、絶えず出現する独裁的な悪党に勝手に蹂躙され、これらの悪党がみんなの首にロープをかけて絞れば締めるほど、強敵に侵入しても、いつも勝手に虐殺されている（最も典型的なのは、満州入関の大規模な屠城と日本の侵略者が中国の勝手な殺人を掃討しても、何の抵抗も受けていない）。知識人は見識、自覚、能力の比較的良いエリート層として、本来は社会の道義を守る中堅とすべきだが、悪に抵抗するためのリーダーシップを主導的に担うことは極めて少なく、常に支配者に操られ、さらには支配者の欺瞞、欺瞞、民衆の抑圧を主導的に支援している。そのため、野心家の中には常に隙があって簡単に独裁統治を構築し、勝手に天下を害し、いつも長い間続いてもあまり抵抗されない人もいる。中国人がこのように臆病で反抗精神や勇気がないからこそ、中国人は何千年も豚や犬のように過ごしてきたが、私たちはその不幸を悲しむよりも怒っているとしか言いようがない。

4 中国人と西洋人の参政議政上の対比と存在する差：

西洋人の政治参加に熱心な精神と勇気に感心し、彼らもそれによって素晴らしい生活と民主的自由の環境を勝ち取っている。これらは中国大衆の政治に対する無感覚、恐怖、誤解の奇形心理とは対照的である。

中国人は政府が何を言っても仕方がないと考えるのに慣れている。西洋人のように政府と議論するのが好きではないので、西洋は絶えず進歩し、最適化するが、中国はいつも悪化している。

西洋人の政治参加に対する表現は、鄭振鐸氏が『山中通信』の中で述べたように、「彼らはある場所に着いて、見慣れないことは、何とか改革しなければならない。どんなつらいことがあったら、大声で（これらの訴えが有効かどうかにかかわらず）訴え、個人、公共と妨害されたり不便な場所があったら、手紙を書いたり、自分で騒いだり、質問したりしなければならない。誰もがこのような関心を持って、個人と公共の幸福と勢力、当事者の自然な会議は毎日小さな改良をして、みんなのニーズに適応して……自然と個人と公共の安全と幸福に気づくだろう」。彼らのこのような積極的な参政・議政、さまざまな事務に介入してこそ、物事は常により良く改善され、個人と公共の権益は侵害されないことに加え、公益事業に対する関心とそれぞれの力（『山中通信』に書かれている「この英米貴族」がお金を出して公共施設を寄付して

いる）を加えることができ、「私たちは彼らの勢力をうらやましく思っているだけで、これらの福、これらの勢力は、彼ら自身が要求して、創造したものだ」（鄭振鐸『山中通信』）

西洋人はこのように、ほとんどの人は「余計なこと」をするのが好きで、目に砂を揉むことができなくて、何か悪いことがあったら必ずよくしなければならないので、みんなのグループと努力を続けているうちに、社会はますますよくなってきました。

私たちは？鄭振鐸の『山中通信』が述べたように、「私たちは自分で要求しない、創造しない、幸福と勢力は、自然に天から降ってくることはない」。西洋人に比べて、「私たちは自分の公共との幸福に関心を持っていることにこのように気づいているだろうか。考えてみてください。私たち自身が恥じてもさすがです！」（引用同上）

西洋社会の参政議政の伝統はやはり私たちが学ぶ価値があり、多くの人が積極的に知恵を出し合い、悪いことを見ると批判し、苦情を言うので、社会はますます改善されてきた。

「私たちはいつも怠け者で、今はやらなければならない！できるのはいい人で、一緒に前に出て、公共のために尽力できるのはいい人で、私心のために人の仕事を阻まないことができるのはいい人だ！」（鄭振鐸『避暑会』の一文から引用）

6 民意に従う：民主的政策決定制度の必要性

1 民主主義のメリット：

1民主主義が国全体に与えるメリット：

1より最適化され、より完全で合理的な意思決定を生むことができる。みんなの共同参加討論、採決の下で、よりよく知恵を集め、各方面の利益の要求をよりよく集め、意思決定をより最適化し、より完全にし、ミスをより回避し、よりみんなの利益に合致し、一人の人だけが独断で行うよりもはるかに良い。

2 不良な意思決定結果の発生を防ぐことができる。民主は意思決定に偏り、極端な意思決定が生じることを防ぐことができる。民主的な体制の下では、各方面の力が互いにバランスを取り、意思決定がどちらに偏りすぎないことを保証し、極端な意思決定もみんなの同意を得て行うことができないからだ。民主主義は必ずしも最善の意思決定を生むとは限らないが、最悪の意思決定を避けることができ、必ずしも最高の指導者を選ぶことはできないが、悪い指導者を選ぶことは避けることができると言える。そのため、みんなは民主国家に対して比較的に互いに往来して協力することができて、みんなは民主国家が異常な極端な決定が現れることはできないことを知っていて、交際し終わって、協力して危険があることはありません。独裁独裁独裁独裁国家に対しては、みんなは深く付き合うことも協力することもできず、常に警戒している。なぜなら、みんなはその指導者がいつ頭が熱くなって極端な決定を下すのを恐れているからだ。

3意思決定をスムーズに実行することができます。みんなで決めた決定は、実行するのに抵抗が少なく、スムーズになります。

4権力の腐敗とわがままを減らすことができる。民主制度の下では、権力は比較的分散し、互いにバランスを取り、相互に監督し合い、権力が大きすぎて専制独裁ややりたい放題に走るのを避けることができる。社会事務の各方面はみんなに公開して参加して、比較的に透明で、各方面はすべて多くの人が見つめていて、誰も無茶をす

る勇気がありません。

5 政府をより合法的に、より多くの人々に認められることができる。みんなが選んだ指導者とその組織された政府は、比較的合法的であり、受け入れられ、認められている。

6 みんなをよりよく団結させることができます。民主制度の下では、誰もが国の主人であり、国の発展による利益を享受していれば、心が離れ離れになったり、人の心が散らばったりすることなく、心が一つになって考え、力を一つにして使うことができる。

7 一人一人の創造力をよりよく解放し、経済文化の繁栄を実現することができる。民主制度の下では、誰もが公平な発展の機会を持っているので、不公平を受けたり、排除されたり、利益を奪われたりして失望したり、消極的になったりすることなく、より勤勉で創造力があり、経済、文化活動もより活発になり、より速く発展し、社会は活力に満ち、より速く繁栄を実現することができます。2024 ノーベル経済学賞を受賞したダーロン・アシモグルー（Daron Acemoglu）、サイモン・ジョンソン（Simon Johnson）、ジェームズ・ロビンソン（James Robinson）の核心的な観点は、国家経済の繁栄に対する制度の決定的な役割、社会の公平さ、包容力、財産が保護されてこそ、みんなは積極性を持ち、経済は持続的に発展することができるということだ。また、すべての民主国家は基本的に経済が発達し、文明が盛んな国であり、専制的で不明瞭な国は基本的に貧しく立ち後れた国であることを見てもいいだろう。

8 社会の消費をよりよく避けることができる。民主的な制度の下で、各方面の仕事はすべて規則があり、みんなはずっと各種の暗闘、明銃暗矢を防ぐ必要はなく、何があってもデスクトップに置いて、みんなは多くの工夫を凝らして他人の本当の考えを推測したり、探求したりする必要はなくて、そして人間関係もすべて簡単で直接的で多くて、みんなは多くの時間を協調関係のバランスの利益の上で使う必要はありません。

9・社会の安定をよりよく保証する。民主制度の下では、暴力闘争を通じて訴えを実現するのではなく、討論、協議、採決を通じて処理することができ、社会はより安定するだろう。

10 各級の役人に競争の圧力をかけて仕事に励むことができる。民主的な選挙では、有能な人は凡人の下で、よくやってみんなの承認を得てこそ当選して留任することができ、よくない人は退位するしかないので、専制体制の下で主に上司のご機嫌を取るのではなく、仕事をしっかりして良い仕事の成果を勝ち取るように努力します。（だからこそ、民主に反対する人は能力がなく、競争に直面できない人たちだ）

2 民衆へのメリット：

1 財産はより良い保護を得て、権益はより良い保障を得ます。

2 自由で公平な環境で生活し、より快適で楽しい。

3 より多くの教育、雇用、発展の機会を得る。さまざまな機会は少数の人に占有されず、全国民に開放されている。

4 迫害される心配もなく、何の心配もない。

5 みんなの民主的な投票によって選出された各級の役人は、民衆の票を獲得するために至る所で民衆の利益と感受性を考慮し、むやみに民衆を傷つける勇気がなく、このように広範な民衆の利益はより良い保障を得ることができる。

3 為政者個人へのメリット：

1 より良い執政の合法性を得る。民主は最大の執政合法性の源であり、選挙で当選して執政し、権力はみんなの採決結果に基づいて与えられ、合法性はたゆまず、み

んなに疑われることはない。

2 より良い安全保障を得る。民主制度の下ではすべての政治活動は公開され、透明であり、誰もが法律と広範な民衆の監督を受けなければならないので、誰もむやみにすることはできず、誰も法律以外の手段を用いて他の人を攻撃することはできない。これは、退位しても手に権利がなくなっても、他の人にむやみに攻撃されず、安全ではないことを含めて、みんなが政治活動に従事する安全性を保証する。専制制度の下での政治活動はすべて秘密で、人に会うことができないのではなく、さまざまな陰険で、悪辣で、食うか食われるかの闘争手段が次々と現れ、その結果、為政者が毎日危険な状況に直面していることから、毎日びくびくして、慎重にしなければならず、退位すると他の人に報復され、清算されやすい。

3 仕事はもっと楽でストレスがない。権力が分散し、仕事が楽になり、責任も少なくなり、いつも神経を張って仕事をする必要はなく、リラックスして休暇を過ごすことができる。

4 各級官吏へのメリット：

民主的な選挙を実行することで、権力は上級者からの投票ではなく、各級の役人も仕事をして民衆に奉仕すればいいだけで、指導者に命を握られたからといって指導者の顔色をうかがったり、指導者の鼻息を仰いだり、どこからでも唯上のことをしたりする必要はなく、指導者の機嫌を取るために心にもないことを言う必要はなく、官界全体の生態もよくなるだろう。

5 各政党へのメリット：

民主主義は政党のより長期的な発展に有利である。民主主義を実行することで、政党や現在の支配集団が大衆のニーズに合わないために政権を失う可能性があるが、競争の圧力の下で絶えず自己更新され、長期的に発展することもできる。集権、排他の専制を採用して自分の執政地位を維持するのは遅かれ早かれ失敗することができて、しかも 1 つが失敗すると、政党全体、集団は絵が崩れて、寝返りが難しくて（ソ連共産党は良い例です）、長期的に生存することができません。この両者のどちらが優れているか、どちらが劣っているかはここから分かる。

2 非民主的なデメリット：

後の治国編の「極権専制の危害」の章の内容を参考にする。

3 民主主義と専制の比較：

民主主義と専制のどちらが優れているか、どちらが劣っているかをグループで比較するだけでわかるかもしれません。

1 専制なのか民主なのか生産力を発展させ、社会の発展に有利なのか。

専制はみんなを互いに矛盾させ、心を鬼にし、結果として各種の資源、エネルギーを統合することができず、甚だしきに至っては相互闘争、争奪のために多くのエネルギーを損耗し、結果として社会の協力と発展に不利である、民主的な制度の下では、すべての人は平等で、誰も誰に束縛されず、歪んだ人間関係は現れないので、株式制が各方面の経済資源を統合できるように、各方面の政治資源を統合するのに有利であり、しかも人々のエネルギーは内消費ではなく、仕事に費やし、それによって社会の発展に有利である。

専制の下で、統治者は統治を守るために人々が自分に不利だがみんなに有利かもしれない活動に従事することを禁止することができて、しかも彼の手には絶対的な権力があってこのようにすることができて、このようにして多くの社会に有益な仕事も

展開することができなくて、人類は十分な発展を得ることができません；民主と自由は人々を皆の利益を損なわない限り、すべてのことに従事させることができ、民主が人々が皆の利益になることを禁止することは不可能である。その意思決定者は大衆であるからだ。専制がみんなに不利なことをすることを禁止することができれば、民主主義もできるし、専制のように個人の判別と意志で禁止するのではなく、みんなの決議と正当な法律手続きを通じて禁止することができる。

専制は社会を不公平にし、結果的に人々の積極性に大きな打撃を与えた、民主主義の下では、みんなの共同意思決定の下で、利益分配制度をますます合理的にし、それによってみんなの積極性を大いに引き出し、すべてのエネルギーを空前の解放にした。

専制はみんなの表現を表現することができず、それによって非常に抑圧され、潜在能力を発揮することができず、すべての人の能力を十分に発揮し、さまざまな資源を利用することに不利である、民主主義は人々に表現の機会を与え、気持ちよく、潜在能力を最大限に発揮させる。

専制の下で、指導者には生殺しの大権があり、人々は指導者の顔色だけを見て話をし、実事求是を重んじないようにした。民主主義の下で人々はより高い利益を求めており、それは人々が事実に基づいて真実を求めなければならないことを要求している。

専制は革新に不利である。専制の下で長期的に指導者の見方を絶対的に認め、指導者に対して少しも異なる意見を言う勇気がなく、徐々に革新の能力を失うことになるからである。民主主義の下では、人々は自由にいかなる異なる意見を表現することができ、その結果、革新的で有用な思想と理論を含むより多くの思想と理論を生み出すことができる。

専制下の意思決定は 1 人または数人が言っただけなので、知恵を集めることはできず、意思決定を最も可能性の高いレベルにすることはできない。民主主義の下ではみんなで意思決定をするので、一人一人の意見、提案が考慮され、知恵を集めることができます。

同様に意思決定をする人が少ないため、聴取する意見は必然的に少なく、加えて人々は指導者とは異なる意見を表現することができず、結果として意思決定が綿密ではなく、抜け穴や誤りが発生し、最終的にはミスを招きやすく、集団を危険にすることが多い。民主主義には多くの意見があり、異なる方面の意見が参考になり、結果はより十分に考慮でき、誤りを避けることができる。

専制は最も才能のある人に最も重要なことをさせるのに役立ちません。専制の下で選挙が行われていないため、賢明で有能な人は指導部に入って人民のために仕事をしたり、仕事をよりよくしたりするのは難しいからです。民主党の下の指導者はみんなで選挙したので、みんなの要求に最も適応できて、最も能力のある人が当選することができます。

世界各地を見渡すと、特別専制、権力が特に集中している場所はすべて貧しい場所である。民主、自由を実現した国は豊かな場所だ。

専制は社会と事物、生産力の発展に不利であるだけでなく、それはまた各種の事物と生産力に対して巨大な破壊を生んでいる：統治者は勝手に散財して、浪費して、勝手に殺戮して、戦争を挑発してそして極大な破壊を生むことができます。歴史を見渡すと、生産力の発展と文明に対する専制の抑制はいかに深刻であるか！

このように、民主主義は専制よりもこのように多く、大きな比類のない優位性を持っているが、専制はこのように不利で、社会とすべての物事、生産力の発展に有害

である。

2 専制か民主かはみんなの利益を守ることができる。

意思決定の傾向は意思決定者の利益によって決定されるに違いないので、個人の他人によって決定される専制体制は、その意思決定に有利な個人の政策だけを決定することが多いに違いない。その数人が聖人でなければ、どこにいても、常に大衆のために考えることができるが、これはめったにできない。民主主義はみんなで決定するので、みんなの民意を代表することができます。

専制は権力が数人の手に握られているだけでなく、権力の絶対服従性、権威性を強調し、専制体制の下では、支配者はやりたい放題で、大衆の利益は保障されることはできない。民主と法制があれば、権力を握った人もむやみにすることはできない。人民も任期途中解任など、民主制度を通じて制約することができるからだ。例えば、腐敗の発生と管理の困難は、専制によるものであり、彼らは少しの制約も受けずにやりたい放題をして、結果的に腐敗が生い茂っているに違いない。

専制には権力が 1 つしか存在せず、結果的にそれに対抗できる力は何もなく、これによって支配者がやりたい放題になる確率が高まり、最終的にはみんなの利益が危険にさらされる。民主主義は複数の権力が共同で存在することを許可し、それによって各方面の力が互いにバランスを取り、さらに誰もやりたい放題に行動することができなくなり、それによって人々の利益を守ることができる。

3 専制か民主かが政権、社会を安定させるのか。

独裁は政権を頻繁に変えなくてもいいと言う人もいるだろう。まず頻繁に変化しなくても、人々の自由、より良い選択を犠牲にし、社会の発展を犠牲にした上に成り立っている。第二に、独裁下では政権の転換が頻繁ではなく、いくつかの極度の集権国家を除いて、ラテンアメリカやアフリカのような非民主国家の多くはクーデターや動乱が頻繁に発生し、彼らの政権交代は非常に頻繁である。再び、長い間政権交代を生まなかった極度の集権国家を堅持しても、その安定は一時的なものであり、一時的に矛盾を押し下げただけで、最終的に矛盾は爆発し、しかもその時の爆発は激しく、破壊的で強いので、いずれ動乱と政権交代が発生しなければならない。例えば、ラテンアメリカ諸国が入ってきて激しい社会不安が爆発したのは長期的な矛盾の蓄積によって激化した原因であり、暴政、悪政、人民に不利な政権は最終的に長期的に維持することはできず、必然的に放棄される。例えばソ連の着台は良い例である。逆に、民主制度の下でだけは、みんなが生活しているほうがよく、さまざまな矛盾が隠され、抑圧されて現れないのではなく、適切かつタイムリーに処理されており、民心に大きな変動はないので、政権はより安定した基礎を持っている。加えて民主主義の下では、さまざまな権利の相互バランスによって、各方面が妄動することを恐れず、動乱を避けることができ、また民主制度の下では、政権が交代しても、制度的、プログラム的、比較的温和な方法で行われ、動乱や破壊は生じない。

また、専制は強い排他性、非包容性を持っているため、人々は友好的で円満に付き合うことが難しい。民主は公平、共和、非暴力を強調しているので、みんなは仲良くできて、社会も安定しています。

4 専制なのか民主なのか、一人一人の発展に有利なのか。

専制の下では、人々は自分が最も好きな仕事に従事することができず、それによって自分の長所を発揮することができず、人々の発展に不利である、民主主義の下では、違法ではなく、他人の利益を侵害しない限り、すべてを自由に選択することができ、すべての行為は制止されないので、私たち一人一人が自分の大好きで最適な仕事に従事することができ、最大の可能性を得ることができます。

専制は社会を不平等にし、それによって一人一人の積極性に打撃を与え、これは社会全体の発展に不利であるだけでなく、私たち一人一人の自身の発展にも不利である、民主主義の下では、みんなの共同介入と監督の下で平等がもたらされ、それによって誰もが自分のより大きな努力を通じてより多くの収穫を得ることができ、非常に積極的になり、最終的には自分も発展したほうがいい。

専制は私たち一人一人を非常に抑圧し、物事に興味を失い、潜在能力を発揮できなくなった、民主主義はみんなが自由に個人の意見を表現することができて、自分の社会に対する影響を加えることができて、すべての人が誰にも干渉されないようにして、だから気持ちはすべてとても心地よくて、前に最大の発揮を得ることができて、大いに個人の発展に役立ちます。

排他性、独占性を専制しているため、みんなの発展に供する機会は少なく、結果的にみんなは争奪者の限られた機会のために、激しい相互闘争を行わなければならず、最終的には各方面の大量のエネルギーと心を損耗した、民主主義は誰もが自分を実現し、功を立てて事業を立てる機会を得ることができ、みんなは時間、工夫、エネルギーをかけて発展の機会を争う必要はなく、主な精力を仕事に集中することができ、それによって一人一人の発展に有利である。

専制はみんなを団結させることができず、一人一人が自分の力で奮闘するしかなく、結果的にうまく発展することは難しい。民主主義はみんなが他の人をよりよく団結させ、協力を展開し、力を強め、それによって個人の発展に有利になることができるようにした。

専制は社会の発展を阻害し破壊させ、それは誰にも利益がない。民主主義は社会をより速く発展させ、結果は誰もが有利になる。

専制はまた人々に理性を失わせ、人々の長期的な反感のために専制者の様々な行為は、徐々に様々な物事に過度に敏感になり、最終的には理性と極端になる;民主主義はみんなを落ち着かせ、理性的にするだろう。

5 専制なのか民主なのか、世界を融合させることができるのか。

専制は武力によって拡張され、一部の地域をより迅速に結合させることができるが、この結合は強制的であり、人々の心から発するものではなく、表面的な結合だけであり、本当の融合ではなく、再分裂しやすい。また専制は排他的で、他の人を許さないものであり、長期的にみんなを融合させることはできない。またこのような地域融合を促進する手段は武力戦争によって達成されたため、世界に大きな破壊、ダメージを与えることになる。

民主、協議、交流、協力の方式を通じて地域の融合を促進することは、温和で非暴力的で、共和国の強制的ではなく、高度な共通認識と相互承認を持ってこそ、深く、安定して、長期的な融合を達成することができ、どちらにも害を与えることはありません。

6 専制なのか民主なのか、国が国際関係をうまく処理し、世界平和に有利なのか。

・民主国家は世界平和の力であり、世界平和に有利である。大多数の人はやはり平和を望んでいるが、一人の人は戦争を通じて不法な利益を得たり、個人の不法統治を維持したりしたいと思っているので、大多数の人が共同で決定した民主国家の決定は一般的に平和に有害ではない。そのため民主国家は往々にして世界の平和に有利な力であり、一人の人が計算した専制国家が平和に有利かどうかはその支配者の個人道徳にかかっており、これは危険であり、世界の平和に危害を及ぼす確率はかなり大きいだろう。多くの人が共同で決定し、核兵器を乱用する確率は非常に少ないが、独裁国

家が核兵器を持つことに対して国際社会は非常に忌避している。これらの国の指導者がその日の気分の変動を恐れて核兵器発射ボタンを押すのを恐れているからだ。

・世界は普遍的に民主化しているので、民主化も一国が普遍的に民主化を提唱している世界で国際関係をよりよく立脚し、処理するのに有利である。

・民主国家の外交政策はより先見性があり、付き合いやすい。専制国家の政策決定は外交政策決定を含めて統治者が決めるものであり、統治者の個人的利益と感情の影響を受けやすく、飄々としていることが多い。民主国家の重要な政策は広く代表的な民意であり、多くの人が共同で検討しているので、一般的に偏ったところは現れず、それによってさらに予見性もあり、その民意と常識からその決定を大まかに推定することができ、それによって付き合いやすくなる。

7 コスト投入と代価支払いにおける専制と民主の比較：

民主党は選挙と採決の過程で多くの活動費と人力、時間の投入を増やしたが、この投入は新しいオンライン投票、オンライン投票などの技術を利用するにつれてますます低くなっている。

専制は意思決定のコストがより低く、意思決定の議論や採決に活動費、人力を費やす必要はなく、時間も節約できるが、結果として生じる政策はミスをしやすく、権力が制約されずに無茶をしやすく、民衆の仕事の積極性に打撃を与えるなど社会にもたらす代価はより大きく、社会の発展が遅くなるか、不況、激動に向かうこともある。

専制体制の下では、君主が開明、つまり開放的で包容的で様々な意見を聞けば、政治的で清明な社会が大いに治まるが、もし昏睡した君主が現れたら、社会全体が災いするだろう。

8 専制と民主主義の効率向上とエラー確率制御、およびもたらす損得の比較：

民主主義は意思決定の上で非効率的でタイムリーではなく、みんなが知恵を出し合ってより迅速に良い意思決定案を考え出しやすく、意思決定が比較的に良いものであれば、多くの人の支持を受けてすぐに採決に合格することもできる。

専制的な意思決定には時間がかかり、意思決定の効率はやや高いように見えるが、エラーの確率は非常に高い。しかし、エラーが発生すると、フィードバックや是正行為の存在を許さずに無条件に服従することを要求し、エラーを引き起こすことも全面的に実行され、エラーも発見されず、停止されないことが多い。専制制度、特に商鞅が設計した制度は、民衆が牛馬だけで木を使わなくてもフィードバックを許さず、調整の可能性を塞いでいることだ。

例えば、一部の専制国家では、多くのプロジェクトの意思決定が馬に乗ることと建設速度が非常に速いが、多くの危害が大きく馬に乗るべきではないプロジェクトや投入産出比が低いプロジェクトも急速に馬に押されており、大きな損失は効率的にもたらす利益では補えない。民主国家では投資の比較的高い道や橋を建設するには、十数年から数十年にわたって議論しなければならないことがある。これも悪いことではない。議論が多く、議論が長いということは、その投入産出比が高くなく、緊急に必要なものでもないことを示している。そうでなければ、緊急に必要で明らかに有利であれば、みんなに共同で承認されやすく、迅速に決定することができ、適時に迅速に馬に乗っていなくても盲目的に馬に乗って建設した後の利用率が高くなく、資源の浪費

そのため、専制が意思決定に時間を節約しても、時間を節約するために意思決定のより科学的で合理的で正確な面での追求を犠牲にすることはできません。

4 民主的有害性の観点に反論する：

民主は有利であり、専制は有害で利益がないが、この時は民主もいくつかの面で有害だと言う人もいて、このようにして民主を否定し、専制を維持しようとする人もいるだろう。ここでは、彼らの意見に反論します。

1 反駁民･主は紛争、動乱を引き起こしやすいという論断。一部の国では民主制度が実施された後、社会の群れが引き裂かれ、紛争が増大し、社会が動揺したことを例に挙げて、民主が紛争、動乱を起こしやすいことを説明する人もいる。このような論断は論理を混同しており、これらの国は民主を実行してさらに動乱している。主に政治秩序と法制が確立されていないため、民主がもたらした競争が規範的に制約されていないため、みんなが手段を選ばずに無秩序に競争していることに起因している。また、民衆の資質が比較的に低く理性的ではない原因もあり、民主が招いたのではなく、法制の基礎が比較的良く、民衆の資質が良い国が民主を実施しても動乱を増加させていない。また、民主を旗印にした専制独裁国家もあり、内部の紛争動乱も民主の頭には入れられない。

2 民主主義を論駁することは、政府が無能で社会をコントロールすることができず、より有害な論断を招く。1980 年代のラテンアメリカの民選政府、文人統治者は一般的に非常に無能で無為で、社会を効果的に管理することができず、役人の腐敗と社会の混乱を抑えることができず、民主が政府の弱さと無能さを招き、国を管理することができなかったという人もいる。実際には、当時のこれらの国の民主政府の弱すぎる無能さは民主制度によるものではなく、さらにこれらの国の反動勢力（一部の軍事勢力を含む）が強すぎると同時に、法制を欠いてこれらの勢力を制約し、民主政府が多くの牽制を受けたことに加え、これらの国の民衆も普遍的に素質が高くなく、民主意識が弱く、民主政府への支持力が足りず、利益誘導と左傾思想の扇動の下で民主政府に反対しやすいため、民主政府は民衆を強力な支持の後ろ盾とせず、さらに弱くなり、政令を強力に推進することができなかった。多くの軍閥、黒悪勢力も政府が社会をうまくコントロールできないタイミングに乗じて大乱を起こし、結果として百害が生い茂った。

3 民主主義を反駁することは国の対外的な弱腰を招くという論断を招く。民主主義は国家組織の弛緩を引き起こし、対外的に弱体化すると言われているので、集権専制を通じて力を統合しなければ強大な国家力を形成できない。民主は組織的であるが、専制のように暗く、腐敗し、権力を極めるのではなく、組織の方式がより明確で、公平で、公開されているだけで、民主こそ各方面の資源と力を統合して外敵に対抗することができる。ポーランドの歴史上、民主的自由の実行によって国が弱腰になり、周辺国にしばしば侵入され、領土を分割されたという人もいるが、これも間違っている。ポーランドは過度な無政府主義によって国がばらばらになり、貴族たちが一票で意思決定を拒否できることによって国が何をしても成し遂げることが困難になり、民主は無政府主義ではなく民主を通じて団結し、有為な政府を提唱し、一票の拒否権ではなく共通認識を求めることを提唱している。

5 専制に有利な論調に反論する：

上記の分析を通じて、民主主義は社会にとっても個人にとっても非常に有利で無害であり、専制は大きな有害性、破壊性を持っていることが明らかになったが、この時も専制を堅持する人がいるのは有利な側面がある。以下はこれらの論断に反論してみよう。

1 専制効率の高い論断を論駁する。専制の方が効率的だと言われており、民主的

なように議論に時間をかけずにすぐに意思決定ができる。私たちは 1 つの意思決定の効率を評価するには、意思決定の時間の長さと実行の効率を見る必要があります。実は民主は専制よりも効率的で、より多くの時間をかけて意思決定を議論しなければなりませんが、意思決定を実施するには多くの人の支持を得て迅速かつ徹底的に実行することができます。一方、専制方式による意思決定はしばしば反対されているため、結果的に迅速に実行することは難しい。

2 専制管理コストのより低い議論に反論する。専制はよりコストを節約でき、選挙、採決、会議に多くのお金を使う必要はないと考える人もいるが、専制による汚職、腐敗、浪費など社会に与える破壊がいかに大きいかを見て、両者を合わせて計算すると、専制のコストはずっと大きくなり、人民はより多くの代価を払わなければならない。私たちは選挙や会議にお金を使ったほうがましだが、これだけのお金を節約するために汚職、腐敗、浪費などによる損失を交換したくない。また、民主的にこの費用を多く投入することで、より賢明な人を執政させ、良好な意思決定を発生させ、より多くのリターンを得ることができ、専制は汚職、腐敗、浪費などがなくても、最も良い人を執政させることができず、最も良い意思決定を発生させることができないため、管理効果を減少させ、リターンを小さくすることができる。

3 反駁専制は人々をより多くの成果を生み出す論断に有利である。専制体制の高圧的な管理は人を弛ませずにより多くの産出ができるようにする、と言う人もいるだろうが、実は高圧的な管理がもたらすのはみんなが圧力にさらされ、できるだけ要求通りに仕事を完成することを恐れているだけで、生産創造の情熱と積極性を持たせていない、画期的な創造はない、さらに抑圧されて不満になって仕事を磨くことができるときはできるだけ磨き、破壊するときはできるだけ破壊する。民主、自由は、みんなが制限されることなく、思う存分才能を発揮でき、抑圧されることなく、仕事の収益の大部分は自分のものであり、仕事は情熱と積極性に満ち、結果として生まれた成果はもっと多くなるだろう。古今東西、民主制度の下で民衆の創造力は非常に巨大で、古代の仁政期の中国、現在の欧米は、すべて良い例である。

4 専制を論駁することは経済発展を加速させる論断に有利である。ある人は、東アジアの一部の社会主義国家が早期に工業化を迅速に完成させるのに有利だと宣伝しているが、それが大衆の美しい生活を犠牲にし、大衆を苦痛に陥れることを前提としていることを知らず、生産力を発展させる真の趣旨である「人民の生活水準を高める」ことに背いており、またこのような生産力を発展させる方法が望ましくなく、虚偽の水分を多く持ち、持続可能ではないことも知らない。計画経済などの専制手段は国家基礎重工業を発展させたが、人々は自由を失い、生活水準を低下させ、重工業以外の経済もかえって十分に発展させられず、人民は厳しい抑圧と貧困な生活に耐えている。人々の生活は向上していないのに、工業が発展して何の役に立つのか。この時、工業が発展すれば国の経済を独立させることができて人に束縛されないと言う人がいるが、人民の生活が保障され、向上することが重要なのか、それとも国の経済を独立させることが重要なのか分からない。実際には自由な経済政策を用いることでかえって工業化をよりよく完成することができ、例えば中国が建国してからそれらの集権、規制の方法を使わなければ、政治民主、経済自由、株式制度などを用いても同様に経済を発展させ、工業化を実現することができ、しかも元のように民衆（特に広範な農民）の生活水準を犠牲にして工業を発展させることができ、結果も発展していないのではなく、人々の生活の向上に有利である。さらに、文革の社会的、経済的発展は多く、多くの数字をリストアップして、これは奇跡だと言って、だから私たちは極端専制の文革を否定することはできないと思って、私たちは知っています：どれらの

数字がでたらめに作られたのか、国家経済レベル、人民生活レベルが文革期間中に極めて悪いのが事実で、2つ目は重工業のいくつかの発展があっても人民の利益を犠牲にして人民の消費を圧縮して得たのです。

5専制を論駁することは社会の発展を速めることができるという論断。例えば秦の始皇帝が高圧的な権力を用いて全国の文字と度量衡を統一させたのは因果論理が乱れており、文字と度量衡統一は民衆も支持し、望んでいるものであり、専制によって推進されたものではなく、民衆が必要としなければ、どんなに強力な政策も推進できない。民衆が必要とするものであれば、強権を使わなくても実現できる。

6専制を論駁することは国家の発展に有利な論断である。ある人は歴代の中央集権による富国強兵の例で専制の利点を説明して、例えば秦国は中央集権を実行した後に急速に台頭して、これも論理混乱の論断で、まず集権は専制に等しいわけではなくて、秦国は権力を更に中央に集中して、しかし中央決定システムはやはり集団討論と各方面の権力を採用して互いにバランスを取って、次に秦国の発展を加速させるのは主に集権のためではなくて、いくつかの列の体制改革の最適化を通じて各方面の資源を活性化してみんなの積極性を高めて、しかも秦国は後に権力が集中しすぎて、皇帝あるいは権臣の一人は綱紀の独断で、その国の機械がすぐに殻に引っかかって急速に古今東西、集権を強化することでより成功した政権は、少数の1人2人の手に集中するのではなく、権力を民主的に運営し、互いにバランスを取り、集団的に意思決定する中央政府に集中することであり、それらの「集権」は各方面の協調、管理を強化することであり、専制を推進するのではなく、分散、混乱した地方専制を比較的完備し、秩序正しく、比較的民主的な中央集権に集中することである（例えば朝議は集団討論であり、民主的な含量を持つ制度である）。また、米国が各州の相互闘争の混乱を減らすために連合を連邦に変更したのは中央集権を強化したが、集権は決定権ではなく法制管理権であり、連邦政府を三権分立が互いに均衡しているより民主的な政府に変更した。また、シンガポールを例に挙げて、権威政治は国の発展に有利だと考えている人もいるが、シンガポールの権威は主に意思決定管理の権威ではなく、各種の違法行為に対する処罰が強く、意思決定管理にはエリート層に適切に収縮しているにすぎない。彼らは一党独裁ではなく一党独裁であり、自由選挙もあり、さらに彼らは厳格な法治と良好な役人選抜、考課制度を持っており、歴代の指導者も比較的開明で民のために考えている。これこそシンガポールが発展できる本当の原因であり、専制がシンガポールを発展させたとは言えない。民主、法制、指導者の素質と道徳、人民の素質などの面が一つの地方を発展させた原因であることも知っている。専制も存在する地方が発展したのを見て、これは専制の功績だと言って、他の要素がもたらした発展を無視することはできない。シンガポールに法治を実行させながら民主を実行させたら、もっと良くなるのではないかと考えることもできる。答えは肯定的だ。また、シンガポール人は豊かな生活をしているが、専制の圧迫の下で抑圧されており、政府に反対する声も出られないため、多くの人がシンガポールを離れることを選んだ。

7専制を論駁することは社会の安定に有利な論断である。専制は更に各種の矛盾と意見を鎮めて社会を落ち着かせることができて、しかしただ矛盾、意見を強力に抑えて解決していないだけで、ただぐずぐずして最終的な社会動乱の爆発を免れることができません。

8論駁専制は文明の発展を加速させる論断に有利である。生産力レベルが発達していない場合、専制を実行することは一部の人が肉体労働から解放されて頭脳労働に従事するのに有利であり、文明の発展を促進したと考える人もいる。しかし、歴代か

ら見ると、支配層は肉体労働を減らしたからといって頭脳労働に多く従事し、文明の発展を促進したわけではなく、むしろ養尊処優の後に善逸悪労は体力も頭脳労働もしなくなり、ぜいたくを極め、正業に就かなくなることも多い。むしろ広範な労働人民が生産、生活の中で大量の文明的成果を創造し、支配者ではなく労働人民が文明を推進したのである。専制はかえって文明の発展を阻害し、常に労働人民を圧迫し、殺害し、労働人民の創造革新を大いに制限し、妨害したからである。

9 専制、腐敗を論駁することは経済、社会の発展に有利であるという論断。専制、腐敗は一部の人が先に急速に富を蓄積し、より良い投資を展開して経済の発展を牽引することができると考える人もいる。これはでたらめで、このような資本の蓄積は資産をより経済発展を促進するために資金を利用することができる人の手に集中していないため、往々にして経営の下手な腐敗分子の手に集中して、彼らは往々にして手にした資金を利用して経済に貢献するのではなく、散財したり隠したりしている。そしてこのような不公平な富の分配方法は人々の不満を引き起こし、多くの人の積極性を大いに打撃し、また商人たちは官商癒着を通じてこそより良いお金を稼ぐことができ、誠実に働いている人たちはかえって排除されて経済を破壊し、甚だしきに至っては人々にも誠実な労働ではなく投機的な営みの手段で富を得ることを学ぶよう促し、経済発展に非常に不利である。

10 専制を論駁することは技術の奇跡を創造する論断に有利である。古代の専制こそ古代の多くの建築などの奇跡を生み出したと考える人がいて、民主制度の下では資源を集めてそのような奇跡を生み出すことはできないと考えている（李方の『民主の限界』を参照）、それによって専制の利点を説明する。これは是非を転倒させるもので、これらの奇跡は専制体制の下で組織して創造することができるのではなく、民主社会でもっと創造することができて、確かに社会の必要であれば、民主社会の下でもみんなの力を集めて創造することができます。そして専制体制の下で創造されたこれらの奇跡の大部分は社会が確かに必要とするものではなく、支配者に過度に享受したり、支配者の統治を維持したりするために使われているにすぎない。それらの奇跡を創造するのはもっと浪費と言うべきで、社会全体にとって非常に割に合わない。なぜなら、これらの工事には多くの財力人力が必要であり、千万の命を犠牲にする必要があるからだ。

11 論駁専制は緊急、危険な状況に対処するための論断に有利である。緊急、危険な場合は確かに迅速な意思決定が必要であり、専制も民主よりも迅速な意思決定ができることが多いが、緊急、危険な状況に対処するためには、長期的な専制ではなく一時的な専制が必要であり、しかもこのような一時的な専制は、これまで民主であった上に構築され、平素から民主を実行し、平素から民主選挙を通じて選出された人が緊急時にリーダーを務めてこそ、この一時的な専制があまりにも大きな危害を及ぼすことを避けることができる。新型コロナウイルスの予防と治療は最良の例であり、最初は専制国家は危機への対応に体制的優位性があると思っていたが、結局専制の害はすぐに、大きく現れた。

12 反駁専制管理は強力な戦闘力が戦争で勝利する論断を形成するのに有利である。専制なのか民主なのか、人々をより戦闘力にすることができるのか。ある人は、専制の圧迫の下で、軍人は圧力に迫られて戦闘力を高め、さらにいくつかの残酷な戦闘任務を遂行することができ、民主体制の下であれば、兵士は強い圧力を受けていないとばらばらになり、そんなに必死に残酷な戦闘任務を遂行することはできないと言うだろう。しかし、高圧（往々にして一定の嘘と愚民教育を加えて補助する）による戦闘力は長続きしないことが多いことを知っておく必要があります。兵士は強制的に

戦わされており、自発的に積極的に戦闘に投入するわけではありません。すぐに士気が低下し、できるだけ戦闘任務を回避する方法を探し、機会があれば反逆して一撃をくらわせることもあります（督戦隊を設立して脱走兵を射殺することで兵士を命がけにしても、兵士は督戦隊を反抗して殺すことも含む）。民主的、自由、人権を重んじる方法で軍隊を組織すると、兵士は比較的自由で自在になるが、戦争が正義であり、正義で呼びかけられる限り、ほとんどの兵士は正義感を持っており、義理堅く戦闘を展開し、みんなが敵愾心を燃やし、戦闘力もあり、持続的に戦闘力を持つことができる。そして民主的な制度は人々を結集することができ、外敵に抵抗するためにより広い力を統合することができる。私たちは皆の利益を守る目標と正義感で兵士を戦闘力にするのではなく、高圧で彼らを戦争中に必死に駆り立てるのではない。歴代の戦争において、民主、文明、仁義の一方が勝つ確率はやはり専制野蛮の一方よりはるかに高く、民主文明がより広範な支持を得やすく、より強力な戦闘力を形成し、戦争に勝利しやすいことを示している。

6 反論は専制を実施しなければならない言い訳：

社会生産力がまだ発達していない、民衆の文化的素質がまだ高くない、国が戦争や災害に直面しているなど、専制管理を実施しなければならない口実になっていることが多いが、実際には逆で、これらの状況では民主がもっと必要だ。

1 生産力が遅れていることに反論するには、資源を集中して生産力の発展をよりよく促進するための専制が必要だ。生産力が遅れている場合、社会は専制を実行しなければならない。そうすれば資源が集中し、生産力の発展をよりよく推進することができ、生産力が一定のレベルに達してから民主を実行することができると考える人もいる。実際には、資源を強制的に集中させることによって生産力を発展させるやり方はみんなの積極性を発揮することはできず、資源が集中しても何の役にも立たず、また集中されても本当に必要ではない場所に使われやすいが、民主はいつでも生産力の発展に最も有利なメカニズムである。それはみんなの積極性を引き出すことができ、みんながすべてのエネルギーと資源をよりよく発揮することができ、そして各方面の力を団結させ、統合することにも有利であり、それによって資源、力を自発的、合理的に集中させ、より大きな効果を生むことができる。民主はこれまで必要であり、経済状況によって決定されるのではなく、生産力が低下すれば専制が必要であり、生産力が発展すれば民主が必要だというのではない。

2 抗戦、災害、疫病などの特殊な時期における資源不足を論駁するには、資源をよりよく分配し、よりよく難関を乗り越えるための専制が必要であるという論断。戦争、疫病、災害、飢饉などの特殊な状況の時には物資が非常に不足することがよくあり、この時は専制を採用したほうがいいと考える人もいる。例えば、李氏は『民主の限界』の中で、「食糧が普遍的に不足している時期のように、専制は民主よりも効果的になるに違いない。強制的に節制し、分配する必要があるからだ。それはほとんど全員を不快にさせるだろうが」と述べた。しかし、分配者が最も多くの人の生存を守るための方案に従って不足している食糧などの資源を分配しなければ、分配者自身が大量の食糧などの資源を過度に占有し、浪費しても、より多くの人が食糧を得られずにさらされるお腹すいた？このような現象は専制社会ではよく見られ、歴史上多くの飢饉餓死者は食糧が集中的に統制され、切実な民衆に与える必要がなかったために発生した。例えば、1950 年代末に中国は多くの人を餓死させたが、多くの食糧が輸出されたり国外に援助されたりした。また、1932-1933 ウクライナの飢饉で大規模な餓死者が発生したのも同様の状況だった。人はみな利己的で、限られた資源を利己的な個

人の人が分配し、集団に有利であり、個人に有利であるように分配することは決してできない。逆に、民主体制を通過しなければ、みんなの共同決議の下で公共の資源を最も必要な場所に使用し、少数の人に単独で占有されることを避けることができないが、個人が持っている資源のいくつかについても、市場交換、説得を通じて国が必要とする場所に自発的に借りることができ、同様に調達することができ、専制を通じて強制的に呼び出す方式よりも良い。

3「国情特別」に反駁し、一党独裁、個人無期限指導などの専制体制で国の論断を管理しなければならない。この論断も自分の専制統治を維持するための口実を探しているだけで、異なる国の社会のほとんどの特性は似ていて、民主的で自由な体制は四海に放ってすべて準拠していて、特に特殊な国情がなくて民主を実行することができない。

7 民主主義の必要性、傾向、必然性の結論：

民主主義はみんなに有利で無害であり、実行可能であり、ほとんどの時にほとんどの場所に適しているほとんどの国情であり、実践も、いつでも、どこでも、本当の民主主義を実行することは繁栄と発展をもたらすだけで、危害をもたらすことはないことを証明している。専制は一利もなく百害あるが、今でも人類の生存と発展に危害を及ぼしているので、早く専制を捨て、民主を実行し、共に民主の広範な実施のために奮闘しよう。

民主、自由、法治、公民意識、権力の相互バランス、政党の相互競争、メディア世論の開放による日光の透明性と十分な監督の実現、これらはすべて社会改良進歩の良薬であり、西洋でも東洋でも多くの国で実施されているが、一部の国が操作が不当であり、民衆の資質が不足して一時的に問題になったことを除いて、ほとんどの効果は優れている。

民主に対しては、実行すべきかどうか、いつ実行すべきかという問題ではなく、できるだけ早く、すぐに実行しなければならない。

歴史の発展過程は専制から民主への過程であり、間にも紆余曲折があったり、のこぎりを引いたりする部分が多いが、永遠に一つの必然しかない。それは最終的に民主へ向かうことである。

民主の普及は世界の大同であり、どの国も政治改革を加速させ、世界の民主的潮流に順応し、民主という先進的な政治文明を抱擁しなければならない。

中国以前のここ数年、私たちはずっと民主自由の実施操作が悪いことによる副作用を恐れて民主から意図的に離れ、さらに民主自由をやらないことを強調し、民主自由を宣伝できないことを要求し、民主という道の上でかえって後退しているような気がして、これはとてもいけないことで、実はこの数十年来我が国の教育は可能な現在の私たちの国民の素質は向上してきて、そして人の心もこれまで以上に民主自由法治にあこがれて、今は条件があって逐次民主自由を実施することを加速して、操作が適切で、私たちの国をこれらの方面で急速に発展させることができて、公民意識を育成して、参政議政の意味からみんなに主人公がいることを提案することができます精神社会的責任感が始まり、民主、自由、法治、憲政の精神と方法、そしてメディアの開放とみんなの広範な自由討論討論討論討論に協力して、みんなのこれらの方面の認識と素養をさらに高めて、大部分の人は理性、自制をやり遂げて、これらの基礎があれば、政治改革をちくじ展開してそして転覆を避けることができます。また、私たちは今、権限委譲、分権、権力の相互均衡を推進するのではなく、権力がますます集中している。実際には、分業権限委譲はより多くの人の力を動員して仕事をよりよくする

ことができ、指導者もより簡単に、より責任を減らすことができ、さらに多くの人が参加して意思決定を議論することで、より多くの人がミスを回避することができる。そうしないと、あまりにも集中すると、仕事上では相手のことを考えたり、意思決定上の不備を考えたりしてミスをしたりしやすく、党指導者のすべてが権力をまた、私たちが任期数制限を捨てて無制限再選に変更したのも、民主的な道に背を向けて走った弊害が利益よりはるかに大きく、任期数制限制をできるだけ早く復活させたいと思っているが、実際に任期数が下がっても、参政議政を通じて影響を発揮し続けることに貢献することができ、ルールを壊して悪い評価を招いたり、抵抗や対立を招いたりする必要はない。

8 反論回避、民主化を遅らせる口実とやり方:

民主主義は確かに専制より優れているが、この点はますます多くの人に認められている。民主主義のメリットと必要性を否定し、専制の有利さを宣伝する説はますます人々に見抜かれ、市場がなくなりつつあるが、専制を利用して自分の不法統治、不法利益を擁護しようとする人は簡単に専制を放棄することはできない。彼らは必ず様々な言い訳を利用して専制統治を維持し、民主の実現を遅らせる。私たちはこれらの言い訳とやり方と徹底的に闘争し、一日も早く民主を実現するために、彼らの言い訳とやり方は往々にして以下の通りである:

1 耳を隠して鈴を盗んで民衆を欺く。いつも民主的自由を実行していると主張しているが、実際には少しも進歩しておらず、さらに専制的になり、民衆のコントロールがますます厳しくなっている。専制を推進する制度は民主を推進していると主張し、全過程的で真の民主であり、改革の道に逆行して改革を深化させていると主張し、欺瞞を隠すことで民主を推進していると思わせている。

2 経済改革だけを実施して政治改革は避けている。実は政治改革はもっと重要で、政治改革がなければ経済改革は根本的に展開しにくく、持続的に行う保証も得られず、「百日維新」の失敗は一例である。

3 民主改革は急ぎすぎてはならないと強調し、民主の実施には過程が必要で、時間がかかり、長い時間がかかり、民主の実行を遅らせた。実際には、改革にはそんなに長い時間が必要ではなく、急速に展開することができ、改革には長い時間が必要であることを認めているが、この「長い時間」とは、長い時間を経てから最終的な目的を達成することを意味し、長い時間を経てから改革を行うことを意味しているのではなく、私たちの改革はもちろん急ぎすぎてはいけませんが、これが急ぎすぎてはいけないということは、実施の過程が急ぎすぎてはいけないということではなく、思いつきと始めからゆっくりしなければならないということではなく、ゆっくりしてから改革を始めるということではありません。

4 法制が未熟で民主改革が社会混乱を招くことを恐れていることを理由に民主改革を遅らせている。法制は民主の推進の下で改善されなければならない。民主と法制の両者は互いに補完し合っているので、民主を実行せずに良好な法制がないわけにはいかない。そうすれば民主が形成できないだけでなく、法制も永遠に真に形成できない。民主と法制を同時に推進するしかなく、最終的には両者が形成される効果を達成することができない。

5 経済を発展させて経済的基盤ができてから政治改革をしなければならないという理由で民主的な実施を遅らせた。政治は経済的基盤の上に構築されなければならないと強調することで、現在の経済的基盤が民主化に適していない、民主化は私たちにとってあまりにも先行している、といった観点を植え付けることができます。これは

故意にみんなの屁理屈や邪説を誤解させただけで、実は徐水良さんが指摘したように：経済は政治形態を決めることができなくて、政治形態は人の承認によって決定して行為を勝ち取って、例えば古代ギリシャの民主と米国の民主はすべて私たちの今よりずっと遅れている経済の基礎の上で創立したのです。

6民衆の素質が高くないのに民主的な論断を実施するのには適していないと反論した。孫中山氏を含めて当時から民衆は未熟だと考えており、まず自分の政党が政治家政婦で国を管理し、まず軍政、訓政を実行し、条件が成熟してから憲政を実行しなければならなかった。このような論断は個人集権専制を守るためだけであり、実際には民衆の目は雪あかりであり、故意に誤って洗脳されない限り、大部分の人も是非を明らかにすることができるので、民主的な実行には民衆のそれほど高い文化的素質が必要ではない。現在、私たちは農村という民衆の素質が低い農村ではかえって全国民選挙村の指導者を実行しているが、民衆の素質が比較的高い都市では全国民選挙を実施していないことは、民衆の素質が民主を実施するには適切ではないという論断が矛盾していることを示している。

私たちは、これらの回避、民主化を遅らせて専制を継続している言い訳を突き破って、これらの言い訳にだまされたり、ばかにされたりしないようにしなければならない。私たちはすべての専制主義の扇動者に反対して、専制が必要だと言っているすべての人が専制のために弁護しているだけで、専制統治を維持し、不法な利益を得るために維持しているだけであることを認識しなければならない。

9 民主制度の早期確立をどのように推進するか：

民主制度の早期確立を推進するために、私たちは次のような面からいくつかの仕事を展開することができます。

1民主主義の目標と方案を明確にする。民主主義を実現するには、まず明確な目標が必要であり、漠然とした考えだけではなく、どのような点でどのようにして1つ1つをリストアップし、みんなが奮闘する目標を持って1つ1つを実現しなければならない。

2民主的実施のプロセスシートを作成する。民主制度の確立には段階的に実施する過程が必要であり、しかも良いステップ戦略があってこそ抵抗が小さく効率が高く効果がよく、まず何をしてから何をすれば良いのか、そして実際の状況に基づいて何が容易で、条件が成熟しているのかを見ることができ、すべて良好な判断と科学的なプロセス表を制定しなければならず、道理に従ってこそ半分の効率が上がる。

3 民主的な方案をたてる。最終的に民主化を実現するには、どのような案を採用するかを事前に明確にしなければならない。国によって状況に違いがあり、土地や時宜に応じて適切な民主化案を制定しなければならない。古い体制を取り除いてから新しい体制をどのように設置するかを考えなければならない。そうすれば、間に合わないし、間違いがありやすい。また、民主案を事前に制定することで、将来の利益と地位がどのようになるのかを事前に知ることができ、民主の実現を推進する行動に参加したいと考えている。

4 民主体制の構築に有利な経済体制を構築する。民衆は経済的に独立して自由であってこそ民主を築くことができ、さもなくばみんなの経済的に人に支配され、人の鼻を仰いで生きるしかなく、何にも考えも見方もできなくなる。そのため、市場化、私有化の経済体制を構築することは民主的な構築に有利であり、公有制、計画経済の経済体制は民主的な構築に非常に不利である。

5民衆の素質の向上とそれによる生活の質への追求に力を入れている。より高い

教育を受け、良好な素質を持つ人は生活の質にもっと追求し、コントロールされたり奴隷にされたりしたくありませんが、文化レベルが低く、技能が不足している人は自信がなくて牛になって馬になったり、人の言いなりになったりする傾向があります。これも古来から多くの専制者が故意にできるだけ愚民で、民衆にあまり教育を受けさせない原因であり、彼らは民衆の素質が高くなるとそんなに言うことを聞かなくなることをよく知っているからだ。また、各級の官僚も高い素質を持つ必要があります。そうでなければ、低学歴で低素質な人たちが社会を管理していれば、民主体制を形成し、維持することはできません。私たちは民衆の素質教育に力を入れなければならない。新世代の素質の高い民衆が成長するにつれて、民主はさらに水路に水を加えて構築されるだろう。

6 民衆の思想的自覚の向上に力を入れる。民主体制の構築と運営には広範な民衆の支持が必要であるため、民衆の思想的自覚の影響を比較的に受けている。大部分の人が是非を明らかにし、悪を捨てて善を高めることができれば、公民意識を持ち、公共事務に熱心になることができ、民主体制は比較的容易に構築され、安定して運営される。中国は現在、官民平等の観念が欠けている人が政府高官にフィードバックして公共事務を議論する勇気がないことを含む多くの悪い認知と思考習慣を捨てる必要があり、根っこには依然として政治の強い人を推賞しているが、唯上は従って、地位の高い指導者だけを考えて意思決定班の他のメンバーは存在しないと考えている。そのため、学校や各種メディア、その他のルートを通じて、自由、平等、民主、法治、公民の政治参加などの良い意識と理念を植えつけなければならない。

7 より多くの人を動員し、組織して民主を支持し、民主建設に参加させる。広範な支持と参加がなければ、民主的な実施を推進する力は弱すぎて勝利を得ることができず、民主がより良い実施を得ることができず、後退する可能性もある。そのためには、民主の自由のメリットを多く宣伝し、各階層のメリットに対して、民主を認め、民主に憧れ、人々の心が変わる状態を達成し、特に役人に対するメリットを宣伝し、彼らも民主の政治改革の実施を支持するように努力することができる。また、民衆に行動し、積極的に参政・議政し、民主的な実施への支持を実現するよう呼びかけなければならない。中国はまさに圧倒的な大部分の民衆が積極的に参政・議政しないため、団結と専制勢力との闘争が苦手で、大衆の民主に向かう力が結集され、強大な力が形成されていないため、民主は遅々として誕生することができず、歴史上も多くの民主革命運動は大衆のごく少数の参加と冷ややかな包囲観のために失敗したり、民主の追求の成分が圧縮されたり（辛亥革命、新民主革命などを含む）、さらに行動を起こして民主を支持し、巨大な民主を追求する力を形成し、統治者に専制統治を放棄させ、社会に民主政治の実行を推進させる必要がある。

8 さまざまなルート、手段を利用して民衆に対して民主的知識の宣伝と技能の訓練を展開する。多くの民衆は民主に詳しくなく、宣伝訓練をしっかり行う必要があり、一部の民主国家の成功した民主啓蒙運動は参考に値する。宣伝訓練の内容は民主的な内容、方式、方法、および民主に背くよくある行為とこれらの行為と戦う方法などの知識を含むことができて、宣伝訓練の方法は各種のメディア（ソーシャルメディアを含む）とネットプラットフォーム、およびメールの群発、メールの群発とオンラインオフラインの講座、ポスターの貼り付け、チラシの配布などを通じて、宣伝訓練の形式は知識科学普及、物語の語り、歌の歌い継ぐ、実技の実践などを通じて(通って)ことができます。中国では、多くの人が選挙という民主的な方法に慣れておらず、候補者、候補項目がどのように発生したのか、候補者が公開演説をして有権者を引き付けることができるのか、また官僚を罷免することには全く概念がなく、これらは宣伝

訓練を行う必要がある。

9 新しい技術をうまく利用して民主体制の構築をよりよく推進する。例えば、オンラインサイト、ウィジェット、アプリを通じて世論調査と投票を行うことで、効率的でプライバシーをより保護し、不正行為をより回避することができ、また、上記のソーシャルメディアの配信やメール、メールの一斉送信を通じてより迅速に情報を伝えることができます。ある人はいくつかの投票ウィチャットなどで検索することができ、立候補範囲を設定することができ（例えばグループ内でメンバーが参加できるか、公開人が参加できるかに限られる）、投票時に匿名かどうかを設定することができ、みんなも利用することができ、誰かを応援するために投票することができること、何かを応援するために投票することができること、および連署動議、連署の罷免などの請願用にも使用できることなど、民意をよりよく調査し、表現することができる。

10 民主改革を推進する活動費の調達をしっかりと行う。民主的な実施を推進するには多くの人的･物的力が必要であるため、多くの経費が必要であり、十分な経費を集めることができれば、民主改革活動の展開を加速させるのに役立つだろう。広範な民衆と華僑同胞への募金、政府交付金の申請、国際組織の支持の申請なども考慮できる。

10 民主主義の十分かつ効果的な実施を保障するいくつかの措置:

民主主義の真の実施を保証し、長期的に良好な運営を維持するためには、少なくとも次のような措置を講じる必要がある。

1 民主活動に幅広く参加し、できるだけ直接参加するようにしなければならない。利益関係のある人ができるだけ参加できるようにし、利益関係のある人には公に透明にしてみんなに知ってもらい、参加しなければならない。プライベートや小規模な選挙投票だけではいけない。直接参加できる人もできるだけ代表者を通じて間接的に参加しないようにし、特に少数の操作された人が広範な民衆を代表してはならない。

2 すべての偽りの操られた民主を根絶する。いわゆる「民主制度」の中には、実際の民主制度ではなく、同額選挙、唯一の候補者選挙、暗黙のうちに非公開開票を操作する選挙など、すべて虚偽または操作された偽民主制度を含む民主主義を旗印とする専制制度がある。投票が不正に操作されないようにしなければならない。このような発生は多すぎて、多くの独裁国家は選挙を操作している（投票を操作して投票に細工をしたり、匿名ではない投票方法を通じて銃剣で脅したりして投票者を操作しても要求通りに投票しないようにしたりすることを含む）。最良の例はフセイン、カダフィの常に非常に高配で当選していること、そして大ロシアとその召使国の選挙には明らかな操作の痕跡があったり、投票者を恐喝したり、選挙人を排除したりすることがあり、バイデン候補の多くの郵送選挙票も細工されている可能性がある（開票の最後の瞬間に投票数が急に暴騰して当選させたのはおかしい）。)、一部の小国の選挙は彼らの大国の操作を制御しようとしているが、現在の東欧のある国を含む選挙も近隣の大国の介入を受けることが多い。

3 集団で意思決定を討論する際、意思決定圏の人数はできるだけ多く、各分野の各階層の各派閥をできるだけカバーし、各メンバーの利益と運命は他人に支配されずに自分の意思で採決できる。

4 候補者が言い訳をして出馬資格を奪われたり、脅迫されて出馬できなくなったりするのを避ける。一部の独裁者は、競争力のある候補者の出馬資格を行政や司法権

力を利用して恣意的に奪い、さらには刑や暗殺などの打撃手段を通じて競争力のある候補者を選挙から退出させるしかなかった。

5 投票情報の隠匿をしっかりと行い、真実の意思を伝えることができるようにする。例えば、挙手採決は投票情報を隠す方法ではなく、誰が手を挙げたかどうかもはっきりと見られ、投票者は自分の本当の意志を真実に伝えることができないことが多い。また、単一候補に賛成票を投じる人は投票用紙に何も書かずに投票箱に投票すればいいが、その単一候補に反対票を投じるために他の人に投票する人は、「投票区」に行って専用のペンで自分が選びたい人を書く必要がある選挙もある。これも単一候補に反対する投票者を暴露させ、清算されるのを恐れて反対票を投じることができないことが多い。

6 投票者と被投票者を確保するには、対立を排斥するのではなく、利益に応じなければならない。投票された人に利益がある（投票された人の仕事の結果に利益が影響される）人に投票させるのではなく、投票された人の仕事の結果に利益が影響されない人、投票された人のライバルに投票させるのであれば、オンラインショッピングは業者の同行に評価させるのではなく、顧客に業者を評価させるようなものだ。役人の表現の良し悪しも、主にその管轄利益を受けてその仕事の表現の良し悪しに影響された民衆が評価しなければならない。利益があまりその仕事の表現の良し悪しに影響されていない上司だけが評価するのではなく、そうでなければ役人は上司の機嫌を取るだけで、民衆の利益や感じを管理することはできない。中国では数年前にいくつかの部門が民主的な評価、投票活動を推進したことがあり、かえって多くの人が得失者を少なくしないために、普段の仕事ではできるだけ少なくしないようにしているのは、投票者を間違えているからだ。ある例として、李源潮が江蘇省で民主改革を推進したことが挙げられ、この行為は民衆の熱烈な支持を受けたが、党内で投票して評価した時に高得点を得られなかったのは、党内で投票して評価したのは彼の民主改革に恩恵を受けた民衆ではなく、彼と競争関係にある同僚だったからだ。

7 民主主義を十分に実施するためには、十分な民主活動の流れが必要である。例えば、選挙人に演説などの活動を通じて自分を十分に見せることや、有権者が自分の高低をよりよく見分けるために選挙人同士の議論を展開することができるようにすることなどが挙げられる。

8 完全な政治秩序と法治を確立し、民主政治に参加するすべての人の安全を保証し、さまざまな人為的な混乱を防止する。民主は政治競争を提唱しているが、政治競争には制度つまり政治秩序が必要であり、そうしないと混乱になる。民主的に失敗した国は、政治競争を開放したが、競争を規範化する制度がなく、結果的に混乱し、暗い政治闘争と権力争いになったからだ。法治は民主政治にとっても重要であり、誰もが他人に勝手に打撃を与えられないようにすることができ、そうすれば誰もが他の人に勝手に打撃を受けずに安全な保障を受けることができる。法治の欠如した社会では、政治闘争は非常に残酷であり、政治家たちは往々にして相手を死地に置き、関係者を徹底的に一網打尽にしなければならない。そうしないと、後で逆算され、復讐される危険性が残るからだ。また、一部の国の民主的な実行が徹底的ではなく全面的ではなく、全体の過程を貫かず、多くの専制の体制と勢力が残っており、残存する専制勢力は常に未完備な法制の抜け穴を利用して波風を立て、社会を混乱させることを防止しなければならない。長い間専制に抑圧されて爆発しなかったさまざまな社会的矛盾は、民主化が実施された後も爆発するが、良い法制保障があれば、表現や実施の推進などの規範化を求めても、動乱を招くことはない。法治のない民主の基本は偽民主であり、例えば文革のいわゆる「大衆独裁」の「大民主」は、むやみに人を乱闘させ

たり、人権を踏みにじったりする茶番劇である。

9民主を破壊する行為には処罰が必要だ。指導者が民主を破壊したことを含めて、みんなはそれに対して弾劾、罷免、公開非難、攻撃を行うことができて、裁判所はその刑を言い渡すことができて、一部の指導者が恣意的に民主を破壊することはできなくて、みんなはそれを仕方がないと思っている。例えばエリツィン氏が議会を武力攻撃して民主を破壊した行為は、罰せられず、ロシアはまた極権専制に向かった。

10元の利益を得た旧勢力を適切に処理し、民主政治改革の抵抗を減らす。民主的な実施は元の利益分配を打破し、元の利益既得者がいくつかの利益を失うことになり、彼らは必然的に民主政治改革に反対し、大きな抵抗をもたらし、民主的な実施を遅らせ、民主的な実施を失敗させた。古今東西の多くの民主政治改革の失敗は、その国（地域）の専制伝統が深く、旧勢力が強すぎて、彼らが適切に処理されなかったことに大きな抵抗があったからだ。そのため、すぐに彼らを追い払うことができないことを含めて、彼らに活路を持たせ、新しい活路を与え、必要ならば適切に彼らと妥協し、利益の交換をすることができるようにしなければならない。

11 一部の地域での民主主義の失敗をどう見るか：

民主主義がこのように有利で無害である以上、なぜ一部の地方で成功しただけで、一部の地方での実行に「失敗」したのだろうか。多くの場所でかえって社会的動乱の原因になっていると非難されることも多いのではないでしょうか。民主が普遍的ではなく、多くの場所で不適切で通用しないことを示しているのではないでしょうか。

一部の国が民主を実行するのに失敗したのは、多くの原因がある。1つは、新生民主勢力が往々にして成熟しておらず、民主を実行する過程でいくつかの過ちを犯し、さまざまな関係をうまく処理しておらず、最終的には民衆の広範な支持を得ていない、一つは、改革の過程で人民の期待が急速に高まることが多く、改革は一時的に大衆を満足させることができず、それが彼らを不満にさせ、民主政権に反対することである。もう一つは、古い反動勢力が権力の舞台から退出しようとしないことだ。彼らは民主がもたらした成果を絶えず破壊し、民主主義者を迫害し、結果として新生民主勢力は大衆の非難と旧勢力の圧迫の下で簡単に失敗した。

私たちはいくつかの民主的実践の失敗を見なければならないが、このような失敗や失敗などによる混乱も一般的には一時的なものであり、民主は最終的には成功するだろう。まず、間もなく、みんなの後押しで社会が急速に発展する一方で、民衆の期待はみんなが冷静になったことで低下し、一定のバランスに達し、大衆と民主政権の矛盾が静まる。第二に、民主政権は皆さんの共通の圧力の下でより成熟し、経験があり、能力があり、それによって政府をより良くすることができます。再び、みんなの共同の努力において、旧勢力という民心を得られない勢力は必ず遅かれ早かれ排除され、民主勢力は彼らの代わりに完全に役割を果たすことができる。

だから、私たちは民主の一時的な失敗とそれによる一時的な衝撃と悪影響のために、民主を否定し、民主に対して自信を失うことはできません。私たちはもっと自信を固め、自分の民主意識と習慣を高め、自分の政治的鑑識力を強め、多くの旧勢力と戦う必要があります。私たちは、民主は世界のどこでも必ずいつか成功すると信じています。もちろん、これはみんなの共同支持と努力から離れられません。

（抜粋内容：一国の民知が開かれ、多くの場合、主流民意は正しい方向を代表する（ただし、場合によっては主流民意が間違っている可能性があることを覚えておく）。このような状況の下で、広範な人民大衆も歴史創造に真剣に参加した。つま

り、民智が開かれた場合にのみ、主流意識と主流民意に実質的な意味があるということだ。20 世紀末から 2015 年前後にかけて中央アジア、東欧の多くの国で発生したいわゆる色革命後、これらの国では国民総選挙と国民投票が行われた。ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリー、リトアニアなど成熟した国もあり、国民総選挙は彼らが健康な社会に向かうのを助けた。逆に、国民総選挙で選ばれたのはロシア、エジプトなどの新たな問題指導者だった国もある。国外の軍事介入を経たアフガニスタン、イラク、リビア、セルビアなども国民総選挙を行ったが、結果は芳しくなかった。また、1 つの国の民智開放にも動的な過程が必要だ。韓国でも 1980 年代までは全国民総選挙があったが、実際には独裁専制政治だった。1980 年代以降、民主政治は少し始まったが、人民が選んだ国家指導者人事の後、このような個人の品格と国家統治能力の欠陥問題が複数存在していることが分かった。タイでは国民総選挙が何十年も行われてきたが、今になっても色あせていない。民選政府はいつも軍や泰王を不満にさせ、かなりの国民も不満にさせ、この国に一定期間ごとに軍事クーデターを起こさせている。）

12 民主主義に存在するいくつかの限界：

実践が証明しているように、民主は現在最も人類社会の安定と発展に有利であり、社会のほとんどの形態の下で、ほとんどの場合、すべて最適な体制選択である。しかし民主主義は万能ではなく、いくつかの限界もある：

1 民主主義が存在する個別の不適応の状況。民主はいかなる状況にも適しているわけではなく、場合によっては非民主的な方法を適切に採用するほうが時宜にかなうことがある。例えば、緊急事態が発生した場合、民主的な手続きを適切に減らし、迅速な意思決定を行い、よりタイムリーに対応することができます。いわゆる緊急従権です。また、戦争中の戦闘指揮の意思決定は、柔軟で迅速で秘密にしなければならず、広範で十分な議論を通じて発生することは適切ではなく、つまり曽国藩が言った「謀は衆寡であってはならず、衆謀は漏らす」である。しかし、このような一時的な専制的な決断方法はできるだけ少なく、緊急独断的な意思決定者は以前に民主的な方法で生まれた民主的な前提の下に構築されなければならない。

2 民主は一方だけで社会を動かす妙薬ではない。民主を実行するのは一般的に民主を実行していないよりはましだが、民主が万能だと思ってはいけない。民主を実施すれば社会の急速な発展を推進できると思ってはいけない。社会の発展を推進するには民主体制が必要であるだけでなく、公共事務への広範な参加、法制体系の十分な確立、人材の大量育成、指導者のレベル向上などの措置にも共同で協力する必要がある。

3 現在の民主制度はまだ十分ではなく、さらに改善すべき点が多い。ギリシャの古代民主制度から現在の現代民主制度に至るまで、民主は絶えず発展し、整備されているが、現在はまだ多くの面で改善を続ける必要があり、民意をより十分に表現し、民意の役割をよりよく発揮することができ、各方面が多くの人に有利であると同時に一部の人を傷つけることもなく、効率と公平をよりよく両立することができ、現在の民主体制のいくつかの不備もしばしば一部の民衆の紛争を引き起こしている。

4 民主主義はみんなの広範な参加が欠けていれば、操作されやすく利用されやすい。悪いことをするために利用される恥を避ける布を含めて、例えばいくつかの悪い法律、政策が操作された投票活動の採決を経て正真正銘、合法的に規則化され、さらに民主は時に他国を侵略する手段として利用され、例えば北方のある国の慣用的な方法は、他国を侵略して占領された地域で操作された投票を行い、元の母国から独立し

て侵略者に志願した国の決議を行い、侵略を歓迎され、分裂を公投があることを裏書として合法にした。そしてこれらの民主的なメカニズムを利用して行った悪事は、その流れがコンプライアンスであり、みんなで投票して決定されるため、投票が指示されているかどうか、脅迫されているかどうか、および指示されているかどうか、脅迫されているかどうかの割合がどれだけ多く、証明するのが難しいから、否定するのはもっと難しいだろう。

13 民主制度に欠陥があるか、民主的手段が歪曲利用されて弊害が生じることをどのように回避するか：

民主体制が設計されていないのに欠陥があれば、また民主的な手段が下心のある人に歪曲されて利用されると、いくつかの弊害が出やすいので、避けなければならない：

1 票を獲得するためにわざと矛盾を激化させ、集団団結に影響を与える人を避ける。民主投票の際、票を獲得し、競争相手を攻撃するために、わざと民衆に集団を分け、異なる集団間の矛盾を引き起こし、それによって社会が引き裂かれて団結に影響を与える政治家もいる。例えば、一部の民衆が他の政治家を支持せずに自分を支持するように民族主義を扇動する政治家がいる。差異を強調し、衝突を引き起こすやり方であり、自分の利益を得ているが、団結を破壊している。この方面の行為を警戒し、適時に発見し、露出と非難を行い、拡大を防止しなければならない。

2 党内選挙の相手を圧迫するために民主的な手段を利用して故意に阻止し、正常な公共事務の展開を遅らせる人がいないようにする。競争相手の社会貢献を減らして民衆の支持を得る機会を減らすために、わざと率先して仲間を組織したり、投票で競争相手の提案が利国利民であっても阻止しようと扇動したりする政治家もいる。そのためにも、集団的利益の犠牲を顧みず反対だけの行為を暴露し、非難しなければならず、必要ならば弾劾に対して投票権を取り消すことができる。

3 民主制度の設計が複雑すぎて協調メカニズムが不足しているため、意思決定の効率が低下したり、意思決定の好機を逃したりすることが困難になることを避ける。民主的な意思決定プロセスが複雑で時間がかかることが多いと効率が低下し、協調メカニズムが不足して各当事者を協調させることが難しいと、常に議論が絶えず、決してできず、いくつかのタイミングを逃すことになる。そのためには、プロセスをできるだけ簡略化し、オンライン投票などの新しい技術を利用して効率を高める必要がある。また、政治的権益の均衡、権力の相互バランスをしっかりと行うだけでなく、各当事者が互いに肘を張って意思決定を形成しにくい

4 集団共同責任、非長期勤務の場合、役人の責任感が足りず、長期的な考慮が足りないことを避ける。民主的には集団事務の複数人が共同管理に責任を負うことや、長期勤務ができないことを要求することが求められており、独裁を避けることができるが、共同責任は誰もが責任感が強くないことが起こりやすく、みんながお互いに期待していることや、短期勤務だけでは長期的な計画をあまり考えずに短期的な目標を追求しやすくなるという弊害もある。古代皇帝は江山が自分のものであるため、国を大切にすることが多いが、民主体制の下では政治家の中にはかえって社稷に無関心で、いざという時には責任を負わないことが多い。また、近代のいくつかの寡頭が共同で指導する半民主半独裁体制は、かえっていくつかの寡頭がそれぞれ個人の利益を得ようと努力して国益を顧みないことが起こりやすい。そのためには、社会的責任感が強く、責任のある人を指導職に選び、彼らの行為を透明化してみんなの監督を受けることが必要で、民主体制を実行するメリットを得ることができるだけでなく、民主

体制の下で人員の責任感が足りず、短視の弊害を避けることができる。

5 民主主義を過度に重んじて無政府主義に陥ることを避ける。民主主義は権力を檻に入れることができるが、権力を完全に無作為に制限することもできない。公権が完全になくなってもよくないので、無政府主義になり、社会全体がばらばらになって、誰もが集団に従って大局に従うことなく勝手にしている。個人の行動が集団全体に影響を与える場合は、個人は集団服従管理に従う必要があります。例えば、疫病が発生したら、みんなが隔離して感染拡大を防ぐべきなら、やはり隔離しなければなりません。完全に管理に従わないわけにはいきません。ポーランドが強さから衰えたのは、民主、自由を強調しすぎて無政府主義になり、国がばらばらになったからだ。

6 多数に従う少数の民主的意思決定原則をツールとして利用して少数者の合法的かつ基本的権益を侵害する人がいることを避ける。民主主義の基本原則は少数が多数に従うことであり、ある人はこれを利用して人数が比較的少ない集団に不利な法規と政策を制定し、人数が比較的少ない集団に占める利益を侵害し、甚だしきに至っては多数の名義を借りて少数の人に暴政を実施する。文明が十分でない国の中には、南アフリカの黒人が人口数の優位性を利用して民主制度を通じて権力を奪取した後、白人に利益のはく奪と暴政を実施したことや、東南アジアの一部の国では、民族数の優位性を利用して少数民族、特に華人を迫害する政策を次々と打ち出している政治家もいる。このような状況の発生を避けるためには、各グループ、各人の基本権益の保障をしっかりと行い、ある基本権益は侵害や奪うことができないことを明記し、強調しなければならない。また、いくつかの政策法規は全体的に多数の人が通過するだけでなく、人口が少数を占めるグループの一定の割合の通過を得なければならない。（もちろん少数者の権益のために集団映像を犠牲にしすぎる効率も避けなければならないし、多くの場合、人権が少数者の利益を重視しすぎてみんなを遅らせることを重視しすぎて、多くの監督管理が少数者の極小確率のリスクのために多くの人に機会を失わせることを含むので、少数者に大局的な配慮を求めることもある）

7 政治家が票につままれるのを避け、票を失うのを恐れて悪人の機嫌を損ねることができず、悪人を罰することができず、一部の社会の邪悪な風潮を打ち破ることに挑戦することができない。

8 政治家が公共の利益を損なうことを避け、集団の気前よく不合理な利益を有権者に送り、票を取り替える。多くの選挙の中で、特に有権者の質が悪い国の選挙では、集団の富を一部の有権者と利益交換して票を獲得する政治家がよく現れ、票を引くために一部の有権者に自分が当選した後、過度な優遇政策や利益を分配することを約束し、結果として理性的で、全体の利益を維持して曲意を持たず、原則的に一部の有権者の機嫌を取る候補者は落選することが多いが、集団の利益を顧みず集団の気前よく利益票は候補者に不合理な利益と引き換えに強要し、最後に政治生態全体が奇形になり、これらの低素質な有権者も、自分の努力で富を得るのではなく、票で福祉を得ることに依存している人を育成し、集団/国家の利益はこれらの有権者に勝手に分配され、最後は山の空に座り込み、経済が崩壊し、ベネリラと南アフリカが最良の例である。そのためには、社会貢献に対して多くを請求しない低素質有権者の選挙権を縮小し、彼らに対して基本的な権益票だけを与えればよいと考えることができる。（他の記事を抜粋：政治家が選挙に勝つためには、宋楚瑜が「選挙になるとサンタクロースになる」と言ったように、福祉の成長が経済的負担を上回る結果になった）

多くの民主制度の欠陥と抜け穴があり、それによる弊害は、いくつかの民主政策決定制度が不合理であることによってもたらされたものであり、具体的な分析と解決方法は、『現在の投票政策決定制度に存在する問題と改善の提案』の章で述べられて

いる。

7 良好な意思決定制度の確立：現在の投票意思決定制度に存在する問題と改善された提案

良好な意思決定メカニズムは集団にも各人の利益にも有利な意思決定を行うことができ、一部の人の利益に有利であるだけで集団の利益を損なったり、他のメンバーの利益を損なったりする意思決定は現れず、意思決定の際に各人の意見を十分に考慮して広益に考えることができ、多くの人の意見や感情を顧みずに意思決定を行うことはできず、共通の意見を求めることができ、大部分の人を納得させることができ、紛争が絶えず混乱に陥り、暴力を振るうこともなく、常識に反する低級な誤った意思決定も現れず、時間や機会を逃すことを回避する効率的な意思決定効率がある。

では、どのようにして良い意思決定メカニズムを構築するのでしょうか。

一言堂、一人または少数の独断専行の意思決定メカニズムは、一部の場合は効率的であることが利点だが、間違いやすい、全面的ではないことを考慮するなど、多くの弊害がある。現在は独裁統治の場所と特殊な緊急時にしか採用されておらず、ほとんどの国、会社などの集団組織は、ほとんどの時間で、みんなで議論して決定する民主的な意思決定メカニズムを採用している。

しかし、民主的な意思決定メカニズムはどのように設計すればよいのだろうか。現在一般的に実行されている少数服従多数の意思決定原則と、基本的には一人一票投票権に基づくやり方（会社が株式比率で投票権を持っていることを除く）も、明らかに多くの欠陥を持っており、特に有権者の資質が低いところではその弊害が明らかになっている。

まず、少数は多数の原則に服従し、これは合理的で、当たり前のように聞こえるが、人数の多い利益集団が票の多さで決定権を掌握し、人数の少ない利益甚だしきに至っては集団全体の利益を侵害し、人数の少ない集団の正当な利益は保護されず奪われ、それによって矛盾が生じ、混乱が発生し、集団と各メンバーの発展に影響を与える。例えば、南アフリカの人口の多数を占める黒人グループが白人グループの富を奪

う政策を推進し、経済の混乱と急激な衰退を招いた。また、農村で実施された村の幹部選挙では、大宗族が人数の優位性を利用してより多くの票を獲得して権力を独占し、小宗族をより深刻に排除し、それによって群れが引き裂かれ、社会が調和していないことや、企業内の大株主が採決を操作して会社全体の利益と小株主の利益を損なうこともしばしば発生し、それによって会社内の紛争が絶えず、会社の発展が影響を受け、さらに衰退に向かうこともある。

次に、1人1票のやり方は、1人1票の決定権は同じで、非常に公平に聞こえるが、1人1票の場合、集団全体の利益に反する決定結果が発生しやすく、利益の割合が高い人の利益を損なうことになる。これは合理的ではなく、集団組織に問題が発生する可能性がある。例えば、企業でも株式の多寡にかかわらず1人1票の決定メカニズムを実行すれば、一般社員の人数が多く、小株主の人数が多く、投票数も多く、投票結果は絶えず政策を出してみんなの広範な従業員に給料を加算し、福利を発生させ、小株主により多くの配当を与えることに違いない。食い倒れになって企業が倒産してみんなで遊んでしまう。国の意思決定に1人1票を採用することも多くの国を苦しめた。政治家は多くの有権者が票を獲得するために国の懐を厚くし、当選後に福祉を大きくすることを約束したため、結果として多くの人が票の権利などの福祉で仕事に積極的ではなく、最後に国が軽くなると経済が疲弊して人民が怠惰になり（ギリシャなどの東欧諸国や、西欧、米国も大規模な救済、福祉だけを待つ集団を形成した）、重要なのは国全体が山の空、インフレ、社会不安（ベネズエラなど）を食べているからだ。また、国連の投票は国ごとに1票で、国の大きさにかかわらず、明らかに不合理で、投票結果は往々にして世界全体の利益、主要国と主要民衆に対応する利益を反映することができず、いくつかの大国に拒否権を与えることで補うことがあるが、やはり弊害が大きく、票を売ることで利益を得ることができる小さな国もよくある（中国はそのために票を買って援助、借金免除で他の小さな国の票を取ることが多い）。また、文化的素質と専門性が高く、経験が豊富で思想が成熟し、合理的な票数が多い人もいます。例えば、専門試合の評定投票のように、専門家投票の権限は一般視聴者の投票権限よりはるかに大きいに違いありません。つまり、専門家投票、採点は評定結果全体に大きな割合で影響を与え、素質の高さ、専門的な熟知度、思想の成熟度を無視した一人一票も多くの悪果をもたらします。を選択します。1人1票の制度は公平に見えるが、多くの弊害があることがわかり、四方を基準にしているのではなく、普遍的な価値観として普及･応用することはできない、できない、ふさわしくない（ここでもついでに、思想が未熟な青年が未熟な思潮に惑わされて社会の側に1人1票を強要しないよう注意する）。1人1票のやり方はすでに多くの国を泥沼に引きずり込んでおり、南アフリカ社会の混乱を招いた黒人の利用者数の優位性が白人をむやみに侵害して国家の混乱と経済の急激な衰退を招いたことや、ベネズエラの人々が一般的に食いしん坊になるのを待って国家の福利厚生を待つことによって山や空の国が衰退したこと、またヨーロッパの一部の国も有権者の機嫌を取るために社会福祉を向上させ続けて国家の赤字を招いて破産経済に陥っても高福利を支えるための高税収に活力を失ったこと、米国、ヨーロッパの多くの国の政治家が人口の多いローエンド人口の手元にある票に縛られて社会も錯乱、奇形に向かっているだけだ。

このための提案は、伝統的な民主的意思決定メカニズムに存在する上述の問題を解決するために以下のいくつかの方法を参考にすることができる：

1 完全に一人一票で投票選挙と意思決定を行うのではなく、各人の納税や社会建設などにおける貢献の大きさ、資産利益の大きさ、学歴の高さ、専門性の高さ、地位の高さ、年齢の大きさ、社会管理の経験の豊富さなどに基づいて異なる投票権（票

数）を与えることができ、救済を受けた者に対する最善の票数は正常な人よりも低い。社会への貢献は負であり、汚職など集団利益を侵害した罪を犯した者は票を与えない。それは社会の利益を代表できないため、より科学的で合理的であり、政策決定の結果は全体の集団利益と各人の合法的利益をよりよく反映し、保障することができる。ベネズエラや南アフリカのように低素質で低社会貢献の集団が人数の優位性に依存して、低素質で低社会貢献者の機嫌を取るだけの劣悪な指導者を選ぶことも避けたほうがいい。国連でも、国ごとの人口数、経済的重量、世界への貢献度、国連経費への負担割合などに応じて合理的な投票権（票数）を与えなければならない。実はアメリカの政治家たちも早くから一人一票ではいけないと認識して意思決定をしていたので、大統領選では誰が全国で最も得票して当選したかを統計的に見るのではなく、それぞれの州が人口や経済などの状況に応じて不均等な選挙人票を持ち、候補者がある州の投票に勝つとその州の選挙人票を獲得し、最後に誰の選挙人票が多いかを見て当選した。意思決定のメカニズムは利益の関係を真実に反映しなければならないので、大きさの異なる利益も合理的に異なる意思決定権（票）を持っている。ケディネットユーザーの司馬明氏は、「米国の最高裁判所は国会で可決された法律を否決することができ（これは 9 人が多くの人の意見を否定する）、大統領も国会で可決された決議を否決することができ（これは 1 人が多くの人の意見を否定する）、民主主義が常に少数で多数に従うわけではないことを示している」と述べた。

2 各人の票は複数の部分にカットして異なる候補者、決定オプションに投票することができ、これによってより真実で、みんなの意向を十分に反映することができます。各人は誰かの選択肢を 100%支持しているわけではありませんので、一般的にはどちらかが一番だと思う人がいて、もう一人もいいし、もう一人もいいですが、投票するときに票をいくつかの部分に分けて自分の支持している人や選択肢に投票することができれば（いくつか多い人も少ない人もいる）、もっといいです。

3 投票者にも否定的な意向、つまり否決に反対する票を持ち、得票を逆算できる票を投じていることも考えられ、非常に嫌いな候補者、意思決定オプションに対してこの否決、減点票を行使し、さらに当選を阻止することができる。このように候補者、候補者はできるだけ多くの人の支持を得るだけでなく、強く反対されることをできるだけ減らす必要があります。

4 異なる団体がそれぞれ適切に通過する投票決定法を採用して各団体、各株主群の利益を保護し、ある決定を採決するには、集団支持率の過半数を要求するだけでなく、少数票の少ない小団体と株式の小議決権の小さい小株主群の内部でも支持率を低くすることはできない。例えば、前述の農村選挙では、村全体の範囲だけでなく、小宗族の範囲内でも一定の割合の通過を要求することが規定されており、小団体、小株主群に不利な決定は通過しにくい。この方法は、これまで広く採用されてきた累積投票制度（実際には、手持ちの票を複数の候補者、選択肢に分割して投じることができるようにし、複数の選択肢が当選する場合にも、小団体の小株主が自分の可能な候補者、選択肢をできるだけ多く推進して当選できるようにすることができるようにすることができるようにすること）や、地域の異なる業界に一定の当選枠を与えること（例えば、議員選挙は一般的に異なる地域の異なる業界にそれぞれどれだけの枠を割り当てるか、またアメリカの大統領選挙も選挙人団制、つまり州ごとの所有と人口経済などの要素に対応する異なる票数を採用し、そして誰が州での支持度が高い人が州全体の票数を持って州ごとの利益を保障すること）、また、アラブ首長国連邦の国の首長が各部族の首長が交代で村に座るなど、複数の部族や政党が交代で村に入る方法もあり、各団体、各株主層の利益を保護するのに有利である。もちろん、この方法に

は欠点もあります。自分の利益を重視しすぎて、集団全体に有利な意思決定が通らないようにわざと集団で反対する団体もあります。そのためには、各団体、株主グループの内部で採決が必要な賛成割合を 50%を使わないように規定することができます。例えば、30%でいい、あるいは提案はその団体の人数が全体の人数に占める割合と同じにすることができます（ただし、最高で 50%を超えない）、少数の人のために大きなことを遅らせることを避けることができます。

附：「投票制度に関するいくつかの改善構想」（本人が 2004 年に完成した一文）

投票制度は民主制度の重要な構成部分であり、民主の保証、民意の表現に有効な手段を提供した。投票制度は長期的な発展を経て、すでに非常に豊かな形になり（決して多くの人が勘違いしている 1 人 1 票だけでなく、投票枚数だけで結果を決める形式）、ますます改善され、投票者の決議への意向や物事の発展へのニーズを反映することができるようになった。

しかし、現行の投票制度にも十分ではない弊害が多く、投票者の意思や物事の発展に対するニーズをうまく反映できず、紛争を引き起こし、各利益団体が決裂して武力闘争に至ることもあることは疑いの余地がない。もちろん、単純な投票民主には弊害があるが、投票民主をしないことではなく、弊害のある制度を改革することが必要だ。

では、現行の投票制度にはそれらの不足や弊害があるのだろうか。私たちはどのように避けるべきですか。以下に私はその中のいくつかの不足と弊害を挙げて、一つ一つ分析して改善の構想を提出します。

「それぞれ適切に通過する投票決定法」を実行することで、各利益団体の関係をよりよく調整することができる

現行の投票制度の弊害の一つは、全体的な投票結果を見るだけの採決方式では、各利益団体間の関係をうまく調整できないことだ。

現行の投票制度では、投票結果の確定は全体的な投票結果だけを根拠にして、各団体の投票状況を考慮していないことが多い。そうすれば、全体の利益の大部分を考慮しても、各団体の利益を両立できず、必然的に小団体に対する不公平で各団体間の利益関係をうまく調整できず、各団体間の紛争が絶えず決裂に向かうことになる。例えば、複数の利益者が協力する企業、組織の中で、全体的な採決の状況だけで意思決定を行うため、企業、組織は大株主、大団体の制御の下にあり、小株主、小団体は大株主、大団体の制圧を受けているが、この時小株主、小団体は意思決定の紛争があると全体を脱退することはできず、最終的に各利益団体の間に衝突が発生し、組織は混乱、麻痺、分裂に向かい、協力は成功的に行うことができない。このような現象は非常に多く、多くの制度が整備されている株式会社も同様である。多民族、多利益対立団体からなる多くの国も、現行の全体的な投票結果だけを見た投票方法では小民族、小団体の利益を保障できず、各民族、団体の間で利益の協調をうまく行い、最終的には内部紛争、人種衝突、社会不安、戦乱、さらには国家分裂を招いている（現在、世界の多くの地方で民主国家を含む局所的な地域と少数民族が独立を騒いでいる現象は、現行の投票政策決定制度の下で彼らの利益が保障されていないためだ）。全体的な投票結果だけで採決を行うことで、これまで少数の人が多数の圧迫と排除の下にあり、多数の人が少数の人に対する不合理な侵害をもたらしてきたため、歴史的にも現在でも私たちの周りにも多く、この問題はよく「多数の暴政」と呼ばれている。

分析：1 つの集団の中で、避けられないのはいくつかの利益が明らかに異なっていて、甚だしきに至っては互いに対立している団体があり、この時彼らの間の利益関

係を調整し、処理する必要があり、投票制度もこの協調の必要性を考慮すべきである。調和をよくするには、各方面の利益を十分に考慮しなければならず、全体の利益だけでなく、各団体の利益も考慮しなければならず、大団体が意思決定を制御して小団体の意見が表現されず、利益が体現されないことを防止しなければならない。しかし、現行の全体的な投票状況に基づいて投票結果を決定する投票制度には、全体的な利益しか保証されておらず、各団体の合法的な利益については考慮されていないため、団体間の利益関係が協調できずに紛争が発生し、さらには大団体が小団体の利益を任意に占有し、損なうことができるようにしている。例えば、中国が全国民の税金を受け取ってどこに投資するかを全国民の投票で採決させると、人口が最も多いため、毎回河南省に投票されて投資されるに違いない。これは、現行の投票制度の下でも様々なトラブルや混乱が発生する原因であり、異なる団体の利益に大きな影響を与える意思決定には、全体の投票状況だけを見て採決するのではなく、協調する方法を見つけるべきだということだ。

解決方法：このような団体間の紛争を防止し、大団体、大多数の人の小団体、少数の人に対する抑圧、侵害を防止するために、従来からいくつかの措置を採用して、このような弊害の危害をできるだけ避けるか、または最小限に抑える：

（1）各団体を交代で座らせる方法、例えば、一部の国、地域は今回の指導者をこの民族の人が担当することを規定しているが、次は別の民族の人が担当することになっているが、これは科学的ではなく、民族矛盾をうまく解決することができないだけでなく（それぞれが自分の任期中に自民族に奉仕することによって民族間の矛盾を深めることになることもある）、逆に全体の大多数の人に支持され、全体に有利な人が民族出身の制限を受けて当選できない可能性があるなど、全体の利益に対する考慮を失っている、

（2）複数の職位を各団体が分担することも協調手段の一つであり、例えば政府の複数の指導者はそれぞれ各民族の人が担当し、大統領がこの民族の人であれば、総理は別の民族のものであるべきだと規定し、それによって集団間の利益を均衡させるが、これでは利益の衝突を完全に解決することはできず、ただバランスを取っているだけでなく、それによって矛盾を表面化し、それによって闘争がより激しくなる可能性がある、

（3）いくつかの制度、法律を制定することによって各団体のいくつかの基本的権益を保障し、つまり法律を通じて現行の投票制度を補充して利益分配をより公平、均衡させることができるが、これらの法律は全面的ではなく、事の発展にもついていけないので、結局は小団体、弱者の利益を保証することができない。

（4）資源、人口の総合比率に基づいて相応の比率を決定する決定権力を規定するものもあり、例えば人口、資源などの総合の 70%を占めて 10 の議案の 7 つを決定することができるが、このように誰がどの議案を決定するかは定かではなく、やはり紛争がある。

この弊害を本当に解決するには、「それぞれ適切に通過する投票決定法」で実現できると思います。それぞれ適切に可決された投票決定法は、総票数の 50%以上（または最多得票）を獲得することを求めた上で、各グループにおいても適切な割合で可決させること（または各団体で上位得票を下回らないこと）を求めている。

これには多くのメリットがあります。

（1）各方面の利益を適切に保障することができる。各当事者にはそれぞれ採決する権利があるため、各当事者の利益は単独で体現することができ、獲得可能な本団体での可決の割合の限界は比較的に小さいが、少なくとも各決議は本団体のかなりの部

分の人が賛成しなければ採択できないようにし、決議が同グループの利益に対して大きな損害を与えないことを保証し、多数、大団体が少数、小団体に対する侵害をある程度回避した、

（2）各方面の力の協力と団結をよりよく促進し、社会全体の発展に有利である。各方面の利益が適切に体現されているため、各方面は合わせて利益が調和しないことを心配する必要はなく、協力の自信を強め、協力後各方面の利益が保障され、よりよく団結することができる。例えば、株式会社の中でこのような決定方法を実行すれば、各株主の利益関係をよりよく処理し、調整することができるため、株主により良い協力と再投入を行うことができ、会社はより多くの資源を統合し、発展を加速することができる、国家の中でこのような政策決定方法を実行すれば、分裂を回避し、国家の統合統一を加速させることができる（この投票方法は統一と協力に有利であると言える）、

（3）衝突を回避し、各方面が仲良くなるようにする。各方面の利益を保障し、投票･採決の結果がある利益団体に偏りすぎて他の利益団体が受け入れられなくなる現象を防止し、意思決定、利益分配の際の争いが大きすぎて衝突することを回避し、それによって各方面の円満な付き合いに有利である、

（4）混乱や動揺を減らす。各団体の利益を体現する制度を提供したため、各団体の利益争奪はより良い規範を得て、秩序、理性、文明の情況の下で行うことができて、それによって混乱、動揺をもたらすことを避けることができます。

もちろん、これにはいくつかの問題があります。

第一に、どのように団体を分けるかという問題です。どのようにグループを分けるか、まずどのようにしてグループを作るかという問題であり、何人もの人がグループを作ると言うわけにはいかないだろう。そして投票のたびに彼らの中の一定の割合を通過しなければならないだろう。そうすれば、グループの分け目が細かくなり、意思決定が複雑になり、投票の効率に影響を与え、投票が進まなくなるだけでなく、人々がその場に乗じて妨害し、正常な意思決定を破壊するための手段を提供することになるだろう。だから団体を分け、団体を構成するには、各小団体が総人数の数パーセント以上を占めなければ、独立して決議を採択する権利がない（だからここでも効率の問題を考慮し、ごく一部の人の反対によって良い決定が通らないことを防ぐために、少数の団体の世話ができない）という条件があるはずだ。次にグループの原則であり、どうすれば異なるグループになるのか、ここではボランティアグループの原則に従ったほうがいいと思います。複数の人が他の人とは異なる利益志向を感じていれば、組織して独立議決権を申請し、事前に制定された基準に基づいてグループの条件に達しているかどうかを判断し、全体的に採決、協議を通じて承認するかどうかを決定することができます（協議はもちろん紛争をもたらすが、協議が確定してから長期的な紛争回避をもたらすことができる）。

もう一つの問題は、各団体の通過限界（つまり、どのくらいの割合を通過すべきか、または得票が上位を下回らないべきか）がどのように決まるかという問題である。これは、団体の総合的利益（人口、資源、産業などを含む）が大きくなればなるほど、その中で通過する割合が大きくなる（または得票順位が上位になる）という原則に従ってこそ、その団体の利益を十分に保証することができ、一部の団体がこの投票制限条件を利用して団体の不合理な利益を満たす目的を強要することを防止し、各方面の利益を過度に考慮して議論がまとまらず、良い案が一部の人の妨害によって通過できなくなることを防止することができると思う。具体的な割合は、各方面が協議しなければならず、各方面の利益を真に保証するために、30%などの下限も規定しな

ければならない。もちろん、最も公平なのはすべての側で50%を通過しなければならないことだが、多くの案が通過できない現象が生じやすいようにするのは難しいので、適切に50%未満の割合がいい。

最後にもう1つの問題は、どの決議が全体の半数を通過すればいいのか、どの決議が各団体で適切に通過すべきなのかということです。これは、全体の投票結果だけで決定する際に紛争があるかどうかを見るべきだと思います。全体が半分を通過し、各団体が異議がないと感じ、通過できると思うなら、全体の投票結果に基づいて決定すればいいのですが、各団体の半数を通過すべきだという異議がある限り、それぞれ適切に通過すべき投票決定法を実行すべきだと思います。

このやり方は実際には米国にも似たようなやり方がある。米国の全国民投票は全票の過半数ではなく、州ごとにそれぞれ通過し、ほとんどの州が同意して通過するのは、州ごとの利益をそれぞれ考慮するためだ。また、私たちが実行している上級が直接大衆を任命して通過させたり、大衆が上級機関を選挙して承認したりするなどのやり方も、意思決定中の投票者を上級機関と大衆の2つの大部分に分けて通過させる方法と言えるが、私たちのこのやり方には明確な操作方法はなく、しかも形式に流れて上級機関の専権の覆いとなり、かえって民主を破壊して上級機関と大衆の間の争い、強制、不満、混乱などの現象をもたらした。私たちはここでさらにこのようなやり方をまとめ、改善し、普及させていると言えます。

不均等票分配法の分析、必要性の検討、革新的な応用

現行の投票制度の弊害その2：1人1票の票の分配方式は多くの場合、利益関係と物事の真実を合理的に反映することができず、そのため人々の利益が公平に扱われず、物事のより良い発展に影響を与えている。

このような弊害の影響を受けているケースは多く、その中では株式会社の意思決定メカニズムとその他の個別の状況の中でのみ株式の多数決権を通じて大きな票の分配方法について回避されているが、多くの場合はやはり1人1票を実行しているため、このような弊害を回避することができない：国連の中の3分の2の多数の国は世界人口の10%しか所有しておらず、合わせて5%の予算しか寄付していないが、彼らはいずれも大国と同じ票を持っているために国連をコントロールし、彼らの観点を国連総会に押し付けることは考えにくい、このように採決された結果が世界の大多数の利益に役立つ、多くの底辺の人々が金持ちの財産を自由に奪うことを許す人は、投票者の多数を占める底辺の有権者の支持を得て選挙に勝利することが多い（アフリカの一部の国がそうである）。私たちの普段の多くの投票では、大きな単位や団体も1票しか占めておらず、彼らの利益が十分に反映されていない。下級幹部の選抜において、委任制ではなく投票を採用すると、自分の利益や仕事が下級幹部の選抜に影響を受けている上級者が、それ以上の票を持っていないことが多いのも合理的ではない……これらは、票が完全に利益状態によって分けられているのではなく、合理的ではない現象である

分析：上から見ると、私たちの現行の投票制度は票の分配の問題自体に不合理な点がある。このような1人1票の投票額分配方式は多くの場合合理的で平等であるが、場合によっては特に各投票者と投票結果の利益関係の大きさが大きく異なる場合、利益関係を合理的かつ正確に反映できなくなる。往々にして様々な不公平な現象が発生し、人々の積極性に打撃を与え、各投票者の利益関係を合理的に体現できず、人々の紛争を引き起こし、物事の実際の状況を真実に反映できず、物事の発展の必要に最も適応できる決定を生むことができず、物事をより良い発展させることができな

い。

実際には、1つの集団の中で1人1人、1人の投票者は財産、利益、名声などがそれぞれ異なり、投票結果が1人1人に与える影響は大きく小さいため、1人1票、1人1人が投票結果に与える影響の大きさが同じであることは合理的ではない。このように表面は平等であるが、実際はかえって不公平であり、人々の利益を保護するのに不利であり、また社会の主要な構成部分である大きな利益モジュールの発展要求が十分に反映されないため、物事、社会の主要な方面が発展しないことにもなり、最終的には物事、社会の全体的な発展に影響を与える。

解決方法：上記の弊害を解決するために、私たちは「投票結果との利益関係の相対的な大きさによって投票額を分配する」ことをやり遂げるべきだと思います。投票者と投票結果との利益関係が大きい投票額は多く、関係が小さい投票額は少ない（投票額さえない）。利益との関係の大きさによって投票額を決めるのは、株主総会のような「占有株式の多さによって議決権の大きさを決定し、株式のないものは議決権がない」という採決方式の引用である。利益関係者だけに投票させなければならず、利益関係の大きい人はもっと多くの票を占めなければならない。例えば、ある工場では、工場全体の利益と自分の利益関係が最大ではない労働者に投票させて工場長を選ぶだけであれば、彼らは工場により多くの利益をもたらす人ではなく、最高の待遇を与える人に投票するに違いない。そうすれば、株主は損失を被ることになる。例えば、家族の中で家族の内部に関することを決定するには、家族の親、兄弟、嫁は家族の財産の創造と占有に対して異なるため、採決に与える影響の程度も間違いなく異なり、家族の利益関係がないため採決に影響を与える権利がないのではなく、もう1つの地域が独立するかどうかは、他の地域には直接的な利益関係も投票に参加する権利ももちろんありません。地方・団体間の票の分配に再導入するには、人口数だけでなく、地方・団体が占有する資源、経済比率などと関係がなければならない。このような額面分配制度は「不均等額面分配法」と呼ぶことができる。

投票結果との直接的な利益関係の相対的な大きさで票を分配することは、前述の株式会社の株式分配決定権の決定方法、さらには米国の連邦議会における州ごとの占有席数は人口だけでなく、州の面積の大きさ、経済状況、歴史的地位などに関連しており、州ごとに大統領選挙の「選挙団開票方式」で占有する票の割合も州ごとの資源、経済の割合などの異なる状況で決定されている場合がある。しかし、私たちはここでそれを再まとめ、いくつかの分野での必要性を強調しなければならない。私たちは平等を重んじるだけでなく、合理的な利益関係も考慮しなければならない。平等のために公平、合理を捨ててはならない。この原則が必要な場合には、より十分に、広く実行されることを望んでいる。例えば国連の中で、人口が多く、経済的な重みを持っている国は、投票結果に与える影響が大きいように、多くの票を占めなければならない。また、このような制度をより必要な状況に導入し、普及させ、革新的に応用したいと考えています。

（1）集団意思決定において、投票結果が一般メンバーに与える影響よりも上司に与える影響が大きいことを考慮し、上司の意見をより大きく体現するために、上司が他の投票者よりも多くの票を持つように、上司が適切に票を集める投票制度を実行することができる。このようにすることは、通常の1人1票よりも上級意見の相対的な重要性を体現しているだけでなく、上級指導者と大衆の多方面の意見を十分に体現することができ、より合理的であり、また、これまで実行されてきた上級直接任命、上級指名大衆の通過または大衆選挙の上級承認などのやり方よりも、上下意見の不一致による争い、強制、不満、混乱などの現象を回避することができ、各方面に受け入れ

られやすく、民主を実現しやすく保証することができる（もちろん、この民主は妥協の民主や変形の専制ではなく、その票数の不均等が合理であるため）。

（2）集団で意思決定を行う場合、物事の本質をより把握できるようになるので、専門家もより多くの票を持つべきであることがあります。

もちろん、このような額面分配制度を実施するには、以下の点にも注意しなければならない。

（1）利益関係の大きさの評定は全面的にしなければならず、決して富の多寡、税金の多寡だけから評定してはならず、多くの方面の利益関係、影響要素を考慮しなければならない、例えば公衆に関わる投票の中で、この時は更に一人一人の生存権、発展権を考慮しなければならなくて、富、地位、名声は考慮の一部だけを占めなければならない（このように評定すると一人の投票額の差はそれほど大きくない）、

（2）票の分配に影響する利益関係は他の投票者と同じ性質の利益関係であるべきで、例えば選挙結果が候補者に与える影響は他の人より大きいに違いないが、この影響は個人的であり、選挙結果がみんなに与える影響とは異なる性質であり、比較可能性を備えていないので、票の分配に影響する要素としてはならない。

（3）額面分配は確かに本当の、実際の直接利益関係の大きさによって行わなければならず、実際の状況に背いてはならず、不公平な現象を引き起こしてはならない。

（4）このような利益関係に対する考慮も適切であればよく、合理的な分配を前提として、多方面の意見が十分に反映されることを保証するために適切な調整を行い、弱者に対して配慮を行い、少数の人が多くの票を持って大部分の人を制御する現象が現れないようにし、さらに資本が強すぎて大衆の生存権を侵害することに注意し、民生を保護するために資本を適切に制限することを実現しなければならない。

「一票を複数の候補（候補）に分割して投じる投票法」によって投票意向の非単一性が表現される

現行の投票制度の弊害その 3：投票では投票者が候補（候補者）に投票することしか許されず、結果は有権者の意思を正確に反映できない。

分析：実際には、1 人は 1 つの候補（候補）を 100%単独で支持するのではなく、複数の候補（候補）を同時に支持するかもしれないが、支持の程度がそれぞれ異なるだけ（例えば、どちらかが良いと思っているが、同時にもう一方も良いと思っている）ので、1 つの候補（候補）に投票することしか許されない投票方法は、投票者のすべての投票意向を完全に、正確に体現することはできず、投票結果も正確ではない可能性がある：投票者は比較的支持する側に投票するしかなく、支持面は小さいが非常に支持する人が多い方が当選する（通過する）可能性がある）、そして広く支持されているが非常に支持している人が比較的少ない方はかえって当選できない（通過する）、これではいったい誰が総支持を受けているのか、まったく表に出てこない。

解決方法：そのために、私は「1 票を複数の部分に分けて複数の候補（候補）に投じる投票法」を提案した。1 人の投票者が自分の票を複数の部分に分けて複数の候補（候補）に投じることができ、そして分かれた各点は大きさが異なる（例えば 10%の票を甲に投じる、90%の票を乙に投じる）ことができる。このようにすることで、投票者の意向をより良く、より正確に、完全に体現することができるだけでなく、ある一方の投票意向を実現するために他の方面の意向を犠牲にしなければならない（甲を選ぶと同時に乙を選ぶことができない、彼が同時に乙を支持するとしても）ことはなく、同時に投票結果をより正確にすることができる：投票結果は純粋な支持率であり、誰が得た支持率が高い人が当選する。

また、ロシアなどの大統領選のように候補者が 1 回目の選挙で得票率が半分を超

えなければ、もう1回の選挙を行うことが規定されており、このような「1票を複数の候補（候補）に分割して投じる投票法」のやり方では、1回投票するだけで、いずれも純粋な支持の部分を得て、誰が支持を得ているかが多ければ当選するということを避けることもできる。

また、このような投票法は選挙区区分の矛盾を解決するのにも有利である：一度に複数の被選挙人を選出する時（例えば議員選挙）、各選挙区を比較的に大きく分けるならば、1つの選挙区は複数の定員を持つことができて、この時主流の民意を代表しない人は当選定員の最後の1人に達するだけで当選することができて、しかもこの最後の1人は時にはかなり少ない（現在、数人がすでに大部分の票を占有している時）、それによって素質の高くない人も賄賂選挙などの不法な手段で当選することができる現象が発生しやすく、一方、選挙区が小さいと、有能な人も当選しない選挙区もあり、人材が少ないために能力のない人も当選できる選挙区もあります。どちらの方法もだめで、これも現在の投票制度の弊害の一つである。「一票を複数の候補者に分割して投じる投票法」の投票選挙法によれば、選挙区別に選挙を行うことができ、そして人々は一票をいくつかの部分に分けて複数の人に投じることができれば、選ばれたのは主流の民意を代表して、本当に多くの人の支持を得ている人だ。

もちろん、このような1票が複数の候補（候補）を選択する投票方式は、これまで以上に多くの仕事量を統計的な得票量にもたらしているが、投票、開票技術の発展に伴って大きな迷惑をかけることはないはずだ。

また、上述の投票の弊害を解決する方法もある。有権者は複数の候補者（候補）を同時に選ぶことができるが、これでは各候補者（候補）に対する有権者の支持度の違いを示すことはできない。

「一票多志望投票法」を用いた多選挙回避

現行の投票制度の弊害その4：ロシアなどの大統領選のように候補者が1回目の選挙で50%以上得票する人がいなければ、50%以上得票する人がいるまで再選挙を行うことが規定されており、選挙コストが大幅に増加している。

解決方法：上記の弊害を解決するには、前節で述べたように「一票を複数の部分に分けて複数の候補（候補）に投じる投票法」を採用して解決することができるほか、「一票多志望投票法」を採用して複数回の投票活動を回避することもでき、大学入試の第1志望第2志望のように、投票用紙の上に第1支持、第2支持（第1支持が淘汰されれば有効）、.....があり、これにより複数の候補（候補）が過半数を占めていない場合はもう1回の選挙を行わず、第2回選挙の条件に合致しない候補（候補）を淘汰し、票を再計算すればよく、つまり複数の選挙を組み合わせて同時に行うことができる。

より多くのレベルの票を設定することで有権者の意思をより十分に表現する

現行の投票制度の弊害その5：私たちの現在の投票は、単一の候補（候補）を採決する際には支持、反対、棄権の3つの選択肢しかありませんが、複数の候補（候補）がある場合には、誰の選択を支持するかだけでは、有権者の多層的な意思を十分に反映することはできません。

分析：有権者の意思は往々にしてどの程度であるか。

解決方法：単一の候補（候補）を採決する際には、非常支持、比較支持、やや支持、不支持、反対（棄権）、やや反対、比較反対、非常反対などの多層的な票を設定することができ、これにより有権者の意思をよりよく表現することができる。

また、複数の候補（候補者）がいる場合は、投票時に支持票を1枚発給するとと

もに反対票を 1 人 1 枚発給することができ、有権者は特に反感を持っている人に対してさらに反対することができる（もちろん、有権者はそれを使用しないように選択することもできる）。最後に開票する際に支持票から反対票を差し引くと、候補（候補）ごとに得票数が得られる。これで有権者の声がよりよく反映されるだろう。この点は後に米国がいくつかの選挙ですでに「反対欄」を設けていることを見た。

第六章 心力の平天下への応用

多くの国は良い制度や文化がないため、良い発展を得ることができず、資源が豊富でも貧しい状態が続いている。内乱が頻発すれば、いくら資源があっても役に立たないからだ。

どのようにして良い体制と文化を構築し、国を太平、文明に向かわせ、それによって急速に発展させることができるのだろうか。

1 理順人心：怨念が溜まって悪気になるのを避ける

一人、一人の組織はすべて周辺の人の心の場を経営して、各方面はみんなの認可と支持を得ることができて、やっと各方面はもっとスムーズになることができて、1つの政権もそうで、民心を経営して、政治通人と国家はやっと安寧で、繁栄することができます。

社会が太平であるためには、まず人の心を整理し、民衆の心の中に恨みがないようにしなければならない。さもなければ、怨嗟の声や多くの人の苛酷さが重ければ、社会は必ず危機に瀕して狼煙を上げて安寧にすることができず、各方面の怨嗟が比較的大きな量に蓄積されれば、社会は崩壊して動乱に陥るだろう。

そのためには、少なくとも次のようなことをしなければなりません。

1 一人一人の生存が保障され、飢えや寒さに迫られることなく生活を送ることができ、さらに良い生活への追求も基本的な満足を得ることができ、常に向上していないわけではなく、未来がより良い希望を持つことができることが望ましい。

2 誰もが仕事をしてお金を稼いで、失業せずに焦りや絶望に陥り、庶民を楽にして社会を安定させることができます。

3 各人の基本的権益は抑圧され、侵害されることなく保障されている。

4 一人一人の利益は保護されなければならず、感じは考慮されなければならず、声は重視されなければならない。

5 誰もが公平で公正に扱われ、不公平な扱いを受けて憤慨することはありません。

6 政府などの社会管理機関は、すべてのことを道理に則って処理しなければならず、誰もが納得することができないが、あることの処理は天理の人の心に背くものであり、また民衆に道理を説く場所を設立しなければならない。例えば、裁判所、投書部門などは、不公平な被害を受けた人が訴訟、苦情などを通じて道理を説くことができる場所であり、そしてみんなの起訴、苦情に対しては、制圧、調和のとれた方法で処理することはできず、重視して真剣に処理しなければならない。また、政府部門に対する苦情に対しては、被苦情部門よりも高いレベルの部門や平級だが関連のない部門が処理しなければならず、被苦情部門が自分で処理することはできない（現在では投書･来訪が困難になることが多い）、

7 政府は法を執行する際、誰にも理由なく処罰させたことを濡れ衣を着せてはならず、過ちを犯した人を処罰しても原因を説明し、弁明の機会を与え、それに誤りを認識させ、自ら処罰を受けさせなければならない。裁判所が公平な弁明と判決を通じて犯罪を受けた人が自発的に罪を認めて伏せることもできることを含めて、恨みがあることはなく、処罰の上でも合理的な程度を超えて受け入れられないことや、法執行処罰の過程は粗暴ではなく、穏やかに意思疎通しなければならない。

2 人の心を教化する：民衆を善と合格の社会公民にする

1 人の心を教化する重要性と伝統：

前述のように、人自身の運命は自分の心と徳行と密接に関係しているだけでなく、国家の時運もすべての人の心と徳行と関係があり、国家、社会の隆盛と吉に向かって凶を避けることも社会の各階層の民衆の徳行に依存している。

1つの社会は、誰もが善に向かってこそ繁栄し、災難を避けることができることを文明化しなければならない。もし多くの人が道理をわきまえずに自分で悪事を働いたり、他人の悪事を黙認したり支持したりすれば、社会には遅かれ早かれ大部分の人を苦しめる災難があるだろう。

少数の人が大多数の人を支配していた古代、儒家には為政者の道徳修養が国家の運勢の鍵であり、多くの開明の君も自分が仁徳をしっかりしてこそ天の加護を得ることができ、天命開国や延祚を得ることができることを知っていた。例えば周文王が言ったように「天命は常ではなく、徳だけが従である」。社会管理に広く参加している今、一人一人の徳行のまとめは国の運勢にさらに影響を与えている。

民度が高く、みんな理知的で慈愛深い国は発展し、民度が低く、社会的な気風が悪くなった国の地域は貧しく、暴動になる。中国人はいつも工夫を凝らして他人や集団の安さを占めるのが好きで、このようにすると福報が不足するだけでなく、安ければ安いほど各方面がうまくいかなくなり、人もかえって貧しくなり、そしてみんなのモラルの底なしな行動傾向も社会問題を非常に多く引き起こし、国もそのために貧困を蓄積して弱体化し、国運もそのために比較的よくないので常に災難に見舞われている。

1つの家庭、地域は気風が比較的に良い人だけを輩出することができて、これらの人は大発展して親友の発展を牽引して、全体は繁栄してきて、もし家庭、地域の気風がそんなに良くなくて、一部の普通の人は甚だしきに至ってはいくつかの負け犬と是非をする人を出して、それはすぐに衰退します。地域発展の例として、蘇州は周囲より資源、交通がどれだけ良いかではなく、文風が盛んで社会人文が比較的に良いので、能力があり、社会的責任感のある人材が多く出て、これらの人材は再び地方の発展を牽引した。

一つの社会には、進歩的で公益に熱心な人が多く、頑固で残虐で利己的で手段を選ばない人が少なくなれば、社会はより速く進歩することができる。

また、前述のように天災も人災によるものであることが多いが、観察分析してみると、さまざまな自然災害が多く、大きいのは、国が遅れ、民衆の質が低く、社会が混乱している国であることがわかるだろう。社会文明、政治通の国や地域も、シンガポールが台風の多発地にあるのに被害が少ないなど、より風向きがよくなることが多い。

また、貧しく動乱している国を見渡すと、民衆の多くは愚かで利己的であり、彼らの愚かさ、利己的さのために悪人が反対されず、制裁されず、むしろ支持されて政権に就いているため、「彼らの思想は彼らの受けた苦難に合う」という言葉があるのは間違いない。

特に社会の気風が乱れ、甚だしきに至っては人の心が殺すことができる時、社会の災いは必ず次々と現れ、災い、災い、災難は絶えず発生するだろう。例えば、経済危機の発生は、その前のしばらくの間、みんなが実務に就かず、贅沢三昧を誇張し、山の空を食べていたことによる悪果であることが多い。また、太平天国や文化大革命

がもたらした災難のようなものもあり、みんなが邪教や有害な思想に抵抗できず、さらに多くの人が支持し、その活動に参加したことによるものであるため、鄧小平が言った「文化大革命のような内乱は、欧米諸国では起こり得ない」というのは理にかなっている。

歴史を見てみると、人の心を浄化し、純化することができる儒教文明が失われた年代は、道徳が失われ、統治者がでたらめを働いた年代であり、南北朝時代はそうであり、孔打廟の近代もそうであることがわかる。

また、古代中国は上から下まで徳を修めることを重視し、これによって大きな発展を遂げて世界を数千年リードし、武力脅威ではなく徳を感化することで四海を屈服させて多くの周辺国に宗主国として崇められたが、残念ながら後世は次第に陥落し、君臣民衆の大部分は道徳信義を失い、利己的で福沢は浅薄で、心を鬼にして内耗が深刻で、最終的には貧困の積弱と立ち後れを招いて殴られた。

世界はすべての人の修身によって徳を養うことができてこそ美しくなることができて、もし世界の人が善を行って徳を積んで仙になるならば、世の中は仙界になって、もしすべての人が悪を行って魔になるならば、世の中は魔界になります。

中国人、ユダヤ人が世界各地に移民し、他の民族の人よりも大きな割合で成功することも多いが、実は教育を重視し、優れた、向上した家風と文化的素質のある教育がすべての人を才能にするか、少なくとも自力更生で悪くない発展を実現することができるからでもある。逆に、世界各地であまり発展していない人種、例えば黒人を見ると、彼らは愚かなDNAに問題があると言う人もいるが、実はそうではなく、良い家庭の伝統と教育が欠けていることが多い。彼らの中には教育や文化を受けた人も非常に優秀で、一部の人が混ざっているのは、積極的に生計を立てずに放浪するなどの救急に慣れているからで、救急を待たずに強盗をしたり、早婚で早育したり、子供をたくさん産んだりして、子供が育てた家庭の伝統にもかかわらず。

中国の発展の歴史は、より野蛮な場所を絶えず教化して文明に溶け込ませることであり、世界の先進国も文明を他の後進国に輸出し続けてより多くの国の発展を牽引してきた。その中で中国は歴代、民衆の教化を非常に重視し、礼教、文徳の教化を通じて野蛮な人を文明開化の人に変えることができ、周辺地域の賓客服に対しても、まず攻撃を受けない限り武力を用いて反撃することは極めて少なく、一般的には文徳の出力を通じてその感化を通じて文明社会に溶け込ませる（「遠い人は不服で、文徳を修めて以来」）。

また、西洋諸国は近代において自由を博愛し、科学を重視する精神理念を形成し、それによって現代文明を確立したが、中国はますます蒙昧になり、立ち後れ、多くの人も感情を失って集団に関心を持たなくなり、信用を重視せず、衛生も重視しないため、国もずっと発展していない。

民衆を教化することは確かに非常に重要で、多くの悪人は子供の頃から悪い兆しを持っていて、タイムリーに教化されれば、大人になって悪事を働いて社会を害することはありません。よく発展していない人たちも、能力と徳行の欠陥のある人たちであることが多い。いわゆる「かわいそうな人には憎むべきところがある」ということは、彼らに欠点を改めるように教える必要がある。また、一般の人も聖人ではなく、歪んだ執念、不健康な理念、悪い人生観の価値観があり、教化を通じて彼らを高める必要があるなど、心理には多少問題がある。

誰もが教化されることができます。例えば、古代には、本文のレベルが低くて野蛮な少数民族が多く、儒家などの先進的な文化を受け入れた後も、教化されて知識文化を勉強して才能を身につけ、非常に優れた社会貢献をしました。極悪非道な殺人狂

魔も、教化され、感化されて「屠殺刀を置いてすぐに成仏する」ことができる。

2 人の心を教化する内容と目標:

人の心を教化する仕事は非常に重要ですが、私たちはどのような教化の仕事を展開して民衆をどのような人に教化するのでしょうか。儒家は万民に仁義礼智信温恭しく倹約して忠勇孝行を廉恥にするよう教えたが、今の社会では、次の教化の内容と目標は参考にすべきである:

1統治者と各級の役人には、民を子のように愛する心を持たせなければならない。帝師、国師、各級政策顧問、各級秘書、各級が役人に接することができる学者は、機会があればその方面をうまくやるように努力することができる。

2 一人一人の三観を高める。誰もが良い価値観、人生観、世界観を持っていて、良い追求目標があって、どんな利益に対して何を持っても何を持ってもいけないのか、非常に理解しています。

3 誰もが世界に対して、人間として働くことに対して正しい認識を持つようにします。一部の人は悪いことをするのは心が悪いのではなく、問題を認識しており、自分の言動が他の人にとって、集団にとって悪いことであることを認識していない、甚だしきに至っては人災国が民に災いしたのに自分が国に大きな貢献をしたと思っている、そして執拗に批判されて挫折して南の壁にぶつかっても悔い改めない、だから彼らの認識を変えなければならない。

4 一人一人に向上心を持たせ、積極的に向上させる。

5自分の利益のために他人や集団の利益を傷つけることなく、誰もが自分のことや人のことを考えることができるようにします。

6一人一人に責任ある精神を持たせ、自分の行為に責任を負わせる。今では多くの人が自分の行為に対して最後まで責任を持っていない。人に借金をしたり、会社を経営破綻させて借金をしたりしても、返すことができないと思っている人もいれば、返すことさえ考えず、追われても態度が悪いのはよくない。

7 一人一人が着実に仕事をさせる。安逸享楽をむさぼるのではなく、楽して大金を稼ぐことだけを考えず、勤勉に努力し、地道に基礎から始めなければならない。

8すべての人に良い性格を持たせて、温和で、気前が良くて、寛容で、事をするのに余地を残して、怒りやすくて、乱暴で、残忍で、絶情することはできません。

9 誰もができるだけ中庸で過激で極端ではないようにしましょう。同じことを求めて異を残し、中庸で人に接することができ、それだけでなく彼も黒でなければ白ではない。

10 すべての人を理性的に、道理を説いて、むやみに付きまとうことはなく、感情が暴走して理性を失うことはなく、他人の野次馬に従って理性を失うことはなく、野次馬になることもなく、人の言うことを聞かないこともない。

11 すべての人に社会道徳を守らせ、仕事にはベースラインがあり、天理を傷つける行為をしない（自分ができないことも含め、指示されたときに抗命したり、陽奉陰したりして実行しないことも含めて、確かに実行しないことはできないならむしろ退官して職を取って行く）。

12 一人一人に多くの人に親切にして、人に善を尽くして、人の美しさを楽しむようにします。

13 一人一人に極端な利己主義を取り除き、自分と人を顧み、立場を変えて考えることを重視し、人をよく考えることができるようにします。自分のことを顧み、人がお互いに考えて損害を回避し、他人に影響を与えないようにする理念を養うことができれば、社会は管理しやすくなり、社会問題も大幅に減少し、社会はすぐに太平にな

るだろう。

14 君子は金を取ることを愛し、利益を追求するが、利益だけを追求してはならず、不義の金は取ることができないことを誰にも理解させる。

15 誰もがより義を重んじるようにする。みんなが貧乏を笑って娼婦を笑わないようにしてはいけない。

16 誰もが恥を知り、悪いことをしたら過ちを認めて謝罪し、罰を受けて速やかに改正しなければならない。他人や集団を傷つけたり、国や民に災いを与えたりしてはいけないのに、自分が間違っていないと厚かましく思ってはいけない。

17 誰もが自力更生し、利益を生み出す意識を持つようにする。誰もがどんな社会的役割、どんな地位から出ても、強い利益観を持って、自分の創造した利益が消費した富より大きいことを追求して、誰もが社会に貢献することができて、少なくとも社会の重荷になって社会を引っ張ることはできません。家で横になって老いぼれている若者が就職し、起業することを奨励し、労働力がありながら救済生活に頼っている人が社会に出て自力更生することを奨励し、定年退職者も引き続き余熱を適切に発揮してより多くの価値を創造することを奨励することができる。

18 一人一人の契約精神を養う。信用を重視し、信用を重んじるようにしなければ、社会はより秩序正しく、紛争の内費を減らすことができない。

19 一人一人のルールを守る精神を養う。中国人はルールを守るのがあまり好きではありません。何事も近道をしたり、赤信号を回ったり、裏口を歩いたり、関係を探したりすることを考えています。これらは往々にしてルールを破壊し、社会が不公平で正常ではありません。

20 みんなが自分で考え、物事を処理する精神を育成し、盲従せず、絶対に服従しない。中国では長い間、家長制、官本位、唯上是従など、服従を強調しすぎる伝統が民衆に独立の精神を失わせてきた。変化が必要で、一人一人に独立して考えさせ、役人など他の人に頭を下げるのではなく、独立した自分を作ることができなければならない。

21 一人一人に愛を打ち立てるように励ます。そして、自分の家族だけでなく、他の人にも、万物にも愛があるように、大きな愛を持ったほうがいい。特に公職者には愛が必要であり、愛を公職者として選択するための第一の要求と入社後の毎年の審査の第一の基準を持つことができ、民衆の利益と感受性を考慮せず、民衆を尊重せず、勝手に民衆を傷つける公職者は一概に任用できない。

22 一人一人の正義感を養う。正義を追求することを奨励し、悪いことを見たら反対を表明し、他人や集団が傷つけられているのを見たら制止しなければならない。

23 一人一人の公徳心を養う。中国では昔から多くの民衆は善良であったが、大部分の人も利己的で公徳心に欠けており、多くの人は自分の利益だけを最高にして、自分の行為が公共の利益に影響を与えるかどうかを考えず、甚だしきに至っては公の利益を損なうのはよくないとは思わず、公の利益を損なう機会があると何とかして得をしようとする。例えば、資源を掌握する権利がある人は利益を貪るが、一般の人々も医療保険でできるだけ多くの清算を享受し、保険カバーを騙す方法を考える。

24 一人一人の自己権益保護の意識を高める。一部の特殊な時には、大局に気を配り、私心のない奉仕を提唱しているが、普段は公私をはっきり区別し、一人一人の権益を守り、一人一人の権益が正常に効果的に保護されてこそ、社会は正常に向かうことができる。そうしないと、集団が個人の権益を無視しすぎていることを強調しすぎて、みんなもあるべき権益を勝ち取ることができず、ある人に集団の名義でみんなの権益を奪うことになる。

25 みんなの楽観的な精神を養う。特に中国人は多感で、小さなことや小さなストレスを常に心配している。これは心身の健康に不利であり、仕事や生活にも影響を与え、楽観的で闊達な人々を導く必要がある。

26 虚栄心を減らし、より確かになるように導きます。虚栄は投機的な業者に IQ 税を取られやすくなり、不必要な社会的財産の消費を増やすことになる。

27 みんなの良好な衛生習慣を育成する。多くの人は衛生習慣が悪く、環境と民衆の健康に影響を与えている。

28 民衆の公民意識と参政議政技能を育成する。民衆に政治参加の意識を持たせ、政治参加を展開する技能を身につけることで、より多くの力を公共事務に参加させ、公共事務のために力を尽くし、公共権力の良好な運営を監督することができる。

29 一人一人の社会的責任感を養う。誰もが人生に功徳を追求すべき、つまり社会に貢献する理念を確立させ、功徳を追求することを個人の利益追求の上に置くことができるようにしたほうがいい（例えば、役人は多くの業績を追求し、多くの人々を幸せにすることを出世を追求する上に置く）。儒家は WTO 加盟と建設事業や立徳立言の追求を提唱し、修身に努めて国を治め天下を平定することを提唱したが、聖賢の書物を読んで理解した人はこれまで強大な社会的責任感と功徳心を育成し、社稷、蒼生を念頭に置いていたが、大部分の人は特に一般的に社会的責任感がなく、大部分の人は門前雪を掃くだけで他人の瓦の霜を問わず、社会公共事務を問うことを余計なお世話だと思っていた。提唱した「貧乏は独善であり、達すれば天下を兼ねる」。

30 社会のさまざまな思想的害毒を取り除き、思想的害毒を持つ役人を追放する。大部分の社会問題は不良思想の害毒によるものであり、例えば経済大恐慌、社会大激動、文明大後退は、すべて誤った思想に由来する害毒である。民衆の愚昧さと官僚の愚昧さ、混乱、無謀さはいずれも大きな破壊と災難をもたらし、私たち一人一人が冷静さを保ち、独立した思考能力を持って是非を見分けることができ、そして多くの声を出して世論を形成し、思想動機を不良にし、国家を災いし、人民を災いさせた官僚の思想転換や権限委譲を含む様々な方法を通じて行わなければならない。一部の国では中国を含め、現在では左派的な思考を持っている人も少なくなく、甚だしきに至っては非常に愚かで無知であるだけでなく、今でも文革を懐かしみ、支持している人もいる。本当に魯迅先生の言うように、その不幸を悲しんで怒っても争わない。彼らが今苦しんでいるのは当然のことであり、左傾管理による災いの痛みを受けなければ、目が覚めない。また、ポピュリズムの屁理屈や邪説にも警戒しなければならない。古代の貧富の平均的な暴動者や現代の左派の人々は、民衆の利益がすべてを上回っているとして規則や法律を勝手に踏みにじっており、社会に極めて大きな被害を与え、しかも往々にして彼らは民のためだけの旗を掲げて自分の利益を得ようとしていた。

31 一部の人の野蛮で残忍な獣性を取り除く。例えば、モンゴル人の強力な集権、強者政治、および残忍で乱暴、侵略を愛し、土地を占有し征服することを好むという民族特性を継承しているロシア人がいるため、彼らを教化して改良させなければならないが、彼らの強情な性格によれば、彼らを圧迫すればするほど彼らの強い対抗を招くことになるが、侵略ではなく正義を守るために彼らを導くことを考えると、ロシア人も実はメシア（救世主）の民族だと考えており、獣性を抑制してあえて闘争する精神を利用できるように導く使命感を持っている。

32 すべての人の論理的思考を育成して、みんなが物事を理解できるようにします。袁偉時氏が「中国伝統文化の第二の問題は思考方法の欠陥であり、論理規則を知らない」と述べたように、多くの人は道理をわきまえず、事の善し悪しや間違いに対して原因や責任の所在を分析判断することはできず、人を判断してもその行為ではな

くその立場だけを見て、つまり論理を言わず、立場だけを見ている。これにより、物事の本質がつかめないことが多くなり、そのために是非を判断することもなく、自分に対して正しくないのに自分が間違っていると思っていることもあります。（他の記事を抜粋：論理学の欠如は、必然的に深刻なマイナス影響を与える。論理的思考がなく、人々は日に日に論理から乖離したコミュニケーション方式を身につけている―感情に訴え、伝統に訴え、暴力に訴え、故意に他人の観点を歪曲し、論理の代わりに攻撃を用い、特例を用いて自分の誤りを解放する……ソーシャルメディア上のキーボードマンが例証であり、多くの公共の話題の討論は、参加者が基本的な論理常識に欠けているため、すぐに無意味な引き裂かれたよだれ戦になってしまう）

33 民智を開き、みんなを目覚めさせて愚かではなく是非を明らかにすることができるようにする。私たちは愚民に反対し、思想統制に反対し、民智を開き、思想を解放し、みんなを目覚めさせ、良い是非判断能力を持たせる必要がある。一つの国では官民の愚か者が多く賢者が少ないと、国は自然と発展、変革を得られない。甚だしきに至っては多くの人が愚かであれば、民心の背を向けるのも間違いでありやすく、この時に民心民意はかえって反作用となり、国を誤った方向に動かすことになる。最も深刻なのは、第二次世界大戦前のドイツの民衆がヒトラーに洗脳され扇動されて理性を失ったことで、ヒトラーのユダヤ人虐殺と周辺国への侵略戦争を支持したことだ。昔から独裁者は民衆の心を低下させ、よりよくみんなをコントロールするために工夫してきた。特に中国の清王朝は愚民の上で頂点に達し、過度な愚民は人民の素質の極悪さを招いて何の悪に対する制約もなく、社会は極度に糜爛し、同時に国家もそれによって非常に貧弱になった。私たちは今のところあまり悪くありません。前の数十年の教育が比較的に良い発展を遂げたおかげもあります。大部分の人の素質はまあまあで、まだ基本的にはっきりしているので、悪いものは大部分の時に大胆にやりたい放題をする勇気がなくて、必ずやり過ごすか足りないか、それともかなりの人がまだ愚かな状態にあるか、そして大部分の人はいつも社会のことを聞かないで、これは社会が絶えず進歩しているのではなく、常に逆行されて常に悪化に向かっている現在、中国の現代化民主化に影響を与える主な要素も民衆の愚弱であり、啓蒙教育を通じて変化する必要がある（邱震海氏の抜粋：80 年代の中国の思想啓蒙運動は中華民族の精神と思想史であり、いずれも極めて多元的で素晴らしい 10 年を残し、今も多くの人に称賛されている非常に素晴らしい瞬間となった。しかし思想啓蒙運動は 80 年代末に中断され、90 年代以降の中国の知識界、思想界は元のすばらしさから後の不況まで、早年の思想追求、真理追求から、後の恐怖思想と恐怖真理まで、早年の啓蒙を誇りとし、後の少なくとも一部の知識人堕落を誇りとする変遷)。

34 誰もが善悪に報いることができ、人は天を見て信じて疑わないようにする。人間性は悪であり、権力も人間性も檻の中に閉じ込めなければならない。法律や制度で人を監督制約するだけでなく、道徳や信仰で制約することもできる。善悪には必ず報いがあることをみんなに理解させなければならない。だから多くの善行をして良い報いを得ることができて、人を害して悪い報いを得ることができなくて、報いはみんなを脅して無茶をすることができなくて、誰もが罰せられることを恐れて悪事をすることができない。頭を挙げて三尺に神がいることを理解させるには、朱元璋が全国各地に城隍廟を建てて城隍神を通じてみんなが悪いことをする勇気がないように威嚇する方法を参考にすることもでき、当時は争いの当事者や犯罪の疑いがある人を城隍廟に毒誓を立てることを提唱し、毒誓が当たるのを恐れてうそをつく勇気がない人も少な

くなかった。すべての人に対する制約は本当に重要であり、人は何の制約もなく何の責任も負わずに好き放題に振る舞うことができ、善悪に報いる観念も神への畏敬の心理もないと、悪魔になる。例えば、法律の理屈を言わない紅衛兵、民間人を殺すことを奨励され民間人を殺すことを処罰する必要のない侵華日本軍、五乱華中獣性大発のさまざまな雑胡狂魔、同治回乱中に異教徒を殺すことを教護された暴民、戦争中に城門に攻め入って勝手に略奪され、民衆を虐殺する兵士、そして高度な集権が制約されていない漢武帝、鉄木真など独裁暴君は、すべて無限獣性の悪事の限りを解放し、人間をひどく害した。

35 学校と家庭に励ましの教育をさせる。教育の核心は一人の心と志を激励し、それによってその潜在力を引き出すことにあり、一人一人に理想を立てることを志させ、人は志があれば自発的に努力を追求し、督促しないで努力する。それぞれの好み、特技、願望などに基づいて遠大な理想を打ち立てるように導き、子供にこれから何に従事し、どんな人生の目標を達成するかを考えさせ、夢を持たせることができる。人には崇高な理想があり、人を利する利己的な人生価値観が良好であれば、自ら努力し、光を追う境界に入るだろう。

36 各家庭に教育を重視する家風を確立させ、エリート教育を追求させる。教育を重視する家庭は人材を育成し、個人も家庭もより良い発展を遂げることができる。そして普通の人材ではなく、子供をずば抜けた社会的エリートに育てることを追求し、出世できるように子供を励ましなければならない。現在の家庭では、子供が健やかに成長し、将来安定した仕事ができることを望んでいるだけで、個人、家庭、国の発展には不利である。欧米などの先進国を見渡すと、彼らが高度な発達と文明に向かうことができるのは、多くの社会エリートがいるからだ。ドバイでは、地元の人の 15%を除いて、欧米人の 5%が素質の高い人で、多くの面で一人前で社会の核心的な位置を占めても大量の富を掌握しており、10%を占める中国人のほとんどは文化レベルが一般的で、主に小さな商売をしたりオフィスで働いたりしているが、南アジア（インドとパキスタン）人の 70%は文化が低いために苦労して働いていることが多く、素質の高さが一人の社会的地位に決定的な役割を果たしていることも明らかになった。

3 人の心を教化する方法：

人の心を教化するのにも一定の難しさがある。王陽明が言ったように「山賊を破るのは心の中の賊を破るのが難しい」ので、忍耐強く、方法的に仕事を進めなければならない。

1 理論はわかりやすく、科学と論理を組み合わせて説明し、よりよく理解し、受け入れられるようにしなければならない。中国には優れた伝統文化があり、長い間人々に人間としての仕事を教える上で積極的な役割を果たしてきたが、ある理論は分かりやすくなく、科学的、論理的に説明できず、信従する人はますます少なくなってきた。例えば善悪には報があり、今の人は虚無で迷信だと思っている人が多いが、心力物理学と社会科学からうまく説明すれば、良いことをすると感謝され、祝福されて助力される心力が加持され、自分が他人に認められてより多くの発展機会を得ることができることを知ってもらうことができ、逆に悪事をすると嫌な呪いを受けてこれらの心力の攻撃を受けることができ、みんなに認められず、協力しないことを選択されて道が狭くなればなるほど、善悪の報の理論を受け入れやすいことがわかりやすくなる。

2 内駆力の動力によって、自発的に勉強して自分を高めることができます。動力がある（例えば利益を得たり、興味を持ったりする吸引力がある）、あるいは切実な需要がある（例えば病気、トラブルなどに直面して対応する医学、法律知識を身につ

けなければならない）、それでは内駆力が自発的に努力して勉強して、圧力を与える（例えば勉強していないと淘汰されたり、除名されたりする）あるいは説得するだけで効果があるので、まず教化を受けて自己を高めることができて自分の各方面のレベルを高めることができて、より良い発展を得ることができて、教化の仕事は

3やることに寓しなければならない。理論は実践と結びつけて、やりながら学ぶのが一番早く覚えていて、しかも的確さと効率がもっと高いです。

4 教育が知識を教えることに偏重しすぎて、学生の品格を育成することが少ない伝統を変えなければならない。学生を育成するには良い道徳、価値観、性格、情商、志があり、知識を伝授するよりも重要であり、学生に対する評価は成績だけを見るのではなく、道徳情操三観に対しても審査と採点評価をしなければならない。

5 民衆を教化する教師陣をしっかりと建設する。教師、両親などの家庭の目上の人、社会の賢者などを含めて組織され、他人を教化する力になっている。

6 ･処罰の手段を適切に組み合わせる。道理を説く教育が効果がなければ、罰を通じて教育するしかない人もいる。

7 誰もが基本的な教育、つまり教育を受ける義務があり、厳格な審査を受け、誰もが合格した国民になることを保証することが求められている。

8 できるだけすべての子供に良好で、暖かい成長環境を作り、生活環境の悪い人に配慮するようにしてください。多くの犯罪者、国家に災いをもたらし民に災いをもたらす政治家は、子供の頃に悪い家庭環境で暮らしていたために心理的な影を残し、大人になって心理的な歪み、価値観の歪曲、そして心の鬼になった。ある文章を見て、「もうすぐフセインは10歳になり、義父と朝夕に10年間付き合って、フセインはほとんど毎日義父の拳や蹴鞠の中で生きている。このような成長環境は、フセインが善良とは何かを知らずに虐待され、無視され、貧しい生活はほとんど彼のすべての子供時代を貫いており、彼の将来の多くの行為に伏線を張っている」と書いた。一人一人に暖かい環境を与え、生活に希望を持たせ、プラスのエネルギーに触れる人やことを多くすることが、より良いことであることがわかります。特に心が成熟していない子供たちを、ねじれ、絶望、暴力、理不尽な環境の中で生活させてはならない。学校でいたずらをしている、幼い心のアンバランスな学生を重点的に注意し、邪道に向かって大人になって社会のくずになるのを避けなければならない。幼い頃から紛争、暴力、苦しい暗い環境で暮らしてきた人や、社会で弱い立場にあり、比較的落ちぶれている人に対しても、心が歪んで社会を害する要素にならないように配慮しなければならない。

4 人の心を教化するための切迫性:

世界各地には中国を含め、多くの民衆は非常に愚かであり、多くの不良で有害な思想はまだ市場に広く伝えられており、そのため多くの国が暗黒専制の支配または貧困、動乱の状態にあるため、人心を教化する仕事は非常に任重く道のりが遠い。

ルソー、ペインなどのような思想啓蒙作家が必要とされ、より多くのより良い、より多くの人々に受け入れられやすい理論を創作して人々を教化し、より多くの人々が教育、啓蒙の仕事に参加し、国民の覚醒と素質の向上を推進する。

3 純化民風：良好な社会文化、気風を育成する

国は良い文化を持ってこそ、人文隆盛の人材を輩出し、それによってより良い発展を得ることができ、社会は良い気風を持ってこそ、気風清らかで、それによって良好に運営することができる。

もし国家文化が衰退し、人員が愚かで野蛮で、社会の気風が悪くなれば、国家全体が必然的に立ち後れ、世界に捨てられ、社会は必然的に災いが尽きず、甚だしきに至っては大きな災難が発生するだろう。

1 良い文化と気風：

1 知識の伝統を尊重する。1 つの社会はトップダウンで知識を尊重し、専門を尊重しなければならない。各方面は知識の促進の下で絶えず向上し、知識と専門を尊重しないことを重視しなければ、甚だしきに至っては「知識が多ければ多いほど反動的」という観念が流行し、その各方面は没落に向かうだろう。秦の始皇帝、洪秀全、毛沢東などは儒学などの優れた伝統文化と各種の知識を憎み、書籍を廃棄し、読書人を敵視し、辱めて殺し、その結果、巨大な社会災害を招いた。

2 団結と調和のとれた雰囲気。一つの社会は団結しなければならない。ばらばらになってはいけない。みんなは和気あいあいとしていて、心を鬼にしたり、お互いに攻め合ったりすることはできない。

3 暴力ではなく文明を尊ぶ習性。みんなの矛盾は文明的な理屈で解決し、暴力に簡単に訴えることはない。

4 百花咲き乱れ百家争鳴。各業界、各分野は、さまざまな力、さまざまな派閥が多元的に存在し、十分に競争することを許可し、統一を追求せず、画一化を追求しない。

5 包容して蓄える収容度。社会はさまざまな学説的観点を包容し、さまざまな人を包容し、明らかな危害がない限り、排斥されることはありません。包容力には多くのメリットがあります。みんなを生存させることができるので、その中の一人が良い役割を果たすことができるかもしれません。孟嘗君が鶏や犬を盗んだ門人も引き取ったように、結局、後に一度難を逃れた肝心な時には、鶏の鳴き声や盗み上手な門人が

助けてくれました。

6異なる意見を許容し、反対する政治的雰囲気を容認する。特に各級の指導幹部は、批判、風刺、罵倒を含む他人の様々な方式に対する反対を許容するために、異なる聞き苦しい声の存在を許容する胸を持たなければならない。反対の声と人に無傷の上品さを持たせることは危害があるわけではなく、むしろ多くの人に異なる角度から異なる意見を出させることが仕事の改善に役立ち、自分の当事者がぼんやりして状況を把握できないことを避けることができる。そしてこの寛容忍耐もゆとりのある政治、社会の雰囲気を醸し出すことができ、社会はさらに暴走、動乱することはなく、まるで異見の人々に対する姜経国の寛容のように、台湾が戒厳令を解除して民主に向かう過程で政治的エネルギーの突然の放出が社会の暴走を招くことはなく、台湾の民主的変革は非常に穏やかで理性的で、世界では珍しい。

7友愛互助の気風。善行を好み、多くの人を助けることを提唱し、さまざまな愛の公益活動の展開を奨励しなければならない。誰もが困っているときに、助け合いは一人一人の組織がより遠くまで行けるようにします。そして、一人で他人の助けを得ることは、自分の外部への愛を増やすことができます。助けられると社会に感謝し、機会があれば他の人を助けることができるからです（少なくとも困らない、危害を加えることはありません）。つまり、愛も伝染します。助けられた人は、感謝して後でできるだけ人を助けるのが普通です。一人の社会人が互いに配慮し、助け合うことを考えていれば、社会には何の問題もなく、より速く発展することができます。人間も友愛互助のためにこのように発展してきたが、他の動物は互助さえなければ弱肉強食は永遠に強くならず、人間の中の弱肉強食の集団も草原の部族のように最も強く発展することは難しい。

8誰もが善行を追求して徳を積み、福報を得る気風を求めている。みんなが競い合って善事をしたり、橋を作って道を作って貧困を救済したりするなど、福沢氏は他の人も自分と家族のために福田氏を育てている。

9悪を行ってはならないという普遍的な認識。誰もが悪事を働くと悪報が出て、不義の金が取るに足らないことを知っていて、「家を閉ざさず家を閉ざさず道を拾わず」という社会的気風を形成して、社会を非常に安全にします。

10誰もが平等であるという理念と習慣。特に官民の間では、官僚主義の等級が厳しく、官大1級で人を圧死させることはできない。この点は中国では、多くの人が抑圧され慣れているため、官本位の文化はまだ濃厚で、確立するのは難しい。

2 悪い文化と気風：

全体の集団（会社、家庭、国）が雰囲気が悪く、みんなが正業に就かずに暗闘したり、心を鬼にしたり、労働分配、論功行賞ではなくおべっかを使ったり、レポートを打ったりして昇進したりすると、軍心がばらばらになり、問題が生い茂ってよく各種の蛾が出てくる。

もし誰もが怠け者で、まともな仕事をしない、投機的で、鶏を盗んで犬を触ったり、仇で金持ちになったり、人に会うことができなくて人につまずいたりすると、必然的に貧乏で立ち後れてしまう。

もし民衆が貧困を笑って娼婦を笑わず、事をするにはベースラインがなく、勝者が食べても他の人に少しの機会を残さなければ、社会は必ず災いが生い茂り、非常に安全ではない。

もし民衆が国民の意思を持たず、公共事務に関心を持たず、役人を恐れているなら、国は必ず専制極権とそれによる腐敗に向かうだろう。

もし役人の汚職が横行して大量の富を占め、さらに民衆に対して乱殺を乱罰すれ

ば、国家は必ず危機に瀕し、民衆は遅かれ早かれ暴動を起こし、役人を清算するだろう。

3 民風を純化する方法：

悪行を大いに処罰し、さまざまな善行善行を表彰し、宣伝し、さまざまな悪行罪を暴露し、厳罰に処す。また、歴史的に国に対して社会的功徳を持っている人の事跡を多く宣伝し、称賛すると同時に、歴史的に国に災いし、民に災いをもたらした人物を非難する行為を多く展示し、みんなが是非を明らかにし、善に悪を捨てることができるようにする。

以下の「悪を懲らしめ善を上げ、民衆の善心、功徳心、恥辱感を引き出し、良好な社会道徳気風を樹立する」章節の内容を参考にすることもできる。

4 共和を実現する：各方面を配慮し、協調し、みんなの利益、心の力のバランスのとれた調和を達成する

一つの社会は与野党共和、地域共和、華夷共和、民族共和、教派共和、上下内外の各方面と哀が協力してこそ、穏やかで、四海清平を安定させることができるが、もし混乱して各方面が互いに混戦しても安定しないし、炭を塗ることもできない。

そのためには、各方面の利益を調整し、様々な矛盾を調整して激化を回避し、闘争を招く必要がある。

また、問題点についても、過剰に処理することなく適切に処理しなければならない。例えば歴史上多くの場合、統治者は権力を放棄したくなくても、権力を失うと清算されるのではないかと心配している。もし近代の一部の国が立憲君主などを通じて民主共和党に向かっているように、皇室を適切に処理して皇室から権力を渡すことができれば、対立双方の硬直によって社会がさらに動揺し、それによってより大きな損失をもたらすことはないだろう。

歴代以来、政治の仕事も主に大局的と各方面の利益を調整し、社会矛盾を適切に処理し、政治の仕事が比較的によく展開されると、社会は政治通人和になり、政治のアンバランスと混乱が発生すると、必然的に社会災害ひいては天下の大乱を引き起こす。

1 各方面をうまく調整し、社会共和を実現するいくつかの方法：

1 共栄共同発展の社会をつくる。誰もが共有精神を持ち、他の人も生存し、発展し、誰も、どんな集団も排除せず、空間や機会を残さずに一人で食べてはいけない。社会も一人一人が努力すれば発展できることを保証し、努力も運命も変えられない。そうすれば、誰もが未来に希望を持ち、絶望して自暴自棄になったり、社会に報復したりすることはありません。

2 一人一人の集団の基本的権益と合法的利益の保護を重視する。欠陥のある、問題のある人や犯罪を犯した人、少数のグループであっても、誰のいかなるグループの基本的権益や合法的利益を侵害、踏みにじってはならない。

3 各方面のコミュニケーションをよくする。コミュニケーションは最も良い矛盾を処理する方法であり、矛盾が発生したらコミュニケーションの方法で処理し、何か異なる意見、異なる要求があればみんなで提出し、一緒に相談し、協調して解決することができ、往々にして存在する矛盾と問題を適切に処理することができ、各方面は矛盾を減らし、調和して付き合い、さらにいくつかの闘争、戦争の中で、コミュニケーションを通じて敵を味方にし、干戈を玉絹にすることもできる。コミュニケーショ

ンが不足すると、お互いを理解したり、お互いの要求を考えたりすることができなくなり、より多くの矛盾が爆発しやすくなり、さらにさまざまな方法で相互傷害を引き起こしやすくなります。

4 みんなが多く協力して共に勝つことを提唱する。誰もがウィンウィンの精神を持ち、何をするにも多角的なウィンウィンを重視しなければならない。社会/集団メンバー間の協力とウィンウィンは最も良く、誰もが長所を発揮し、より良いリターンを得ることができる。各種の社会事務、集団管理事務は、さらにウィンウィンを必要とし、順調に展開することができる。そうしないと、一部の人が利益を得ずに被害を受けたりすると、必然的にボイコットが発生し、激しい抵抗暴動を引き起こすことになる。もし確かに一部の人の利益を損なう必要があるならば、利益の交換をしたり大義を知ったりして、自分の意志で一部の権益を放棄させたりしなければならなくて、強く来てはいけません。

5 みんなが率直に付き合い、友愛助け合うことを提唱する。集団/社会のメンバーは率直に付き合い、何かあったら率直に表現し、討論しなければならないが、互いにだましたり、心を鬼にしたり、互いに計算したりしてこそ、社会をより調和させることができる。誰が困っているのか、災いを喜んで、落石するのではなく、友愛して助け合うべきだ。

6 みんなが競争の中で秩序正しく余裕を持たなければならないことを提唱します。社会/集団メンバーの間で競争しても、競争相手を追い払わずに秩序正しく余裕を持っていなければならない。狼であっても、狼の群れの中では最も獰猛な狼がリーダーを務めるのではなく、各メンバーを調整し、構想を持ち、みんなをよりよく生きる狼をリーダーにするのが上手で、狼の王が入れ替わると、新しい狼の王は古い狼の王を追い払うことはなく、その子孫を殺すこともなく、狼のメンバー間で闘争が起こり、一般的には相手を死地に至らせることはなく、相手が弱音を吐くと戦闘を停止することが多く、これらは狼の群れが内部闘争のために人員を減らすことなく、メンバー一人一人が生存し続けることができ、集団のためにも役割を果たすことができるようにする。むしろある人類政権、特に野蛮な部族の政権は、内部闘争の中で互いに滅び、殺しに来て、最後には全体が衰退し、消滅してしまうことが多い。

7 過去の紛争や恩讐を葛藤して適切に処理するのではなく、未来の利益と発展をより重視することを提唱する。過去の多くのものには客観的な原因もあり、過去のことを考えすぎると和解するのが難しくなります。過去の問題を淡々と処理することで、より良い未来を手に入れることができます。例えば清末は皇室を優遇し、過去のことは問わないと約束したが、皇室が遜位を宣言し、対抗を停止したことで、中国はわずかな代価で共和国に向かった。現在、多くの国の改革が利益集団の強いボイコットを受けているのは、利益集団が利益を失うことを恐れても清算されることを恐れているからであり、彼らを適切に処理し、抵抗を放棄した功労で彼らの過去の罪を相殺することを許すことができれば、それもより良いことである。彼たちは抵抗を放棄し、それに対抗することによるみんなの損失を大幅に減らすことができ、改革を加速させて早期に豊かな改革配当をもたらすことができ、これはよりお得である。

8 社会は包容して蓄えなければならない。個性化、天馬行空、革新的、異端的な存在を許可し、整然とした画一を要求せずに同じものを求め、最終的にはみんなで争って金を出し合うことができる。

9 社会管理は公平で公正でなければならない。不公平を受けて社会を恨み、社会に報復する人を避ける。

10 社会の各方面は道理をわきまえなければならない。誰も威圧を通じて人を屈服

させることはできず、道理で人を服従させなければならない。確かに道理をわきまえない人が現れて、道理をわきまえて、道理をわきまえてすべてのことを処理して、一人一人を服従させなければならない。

11 社会は誰もが平等でなければならない。昔からほとんどの人は貧困にならず不均一になり、不平等は貧困よりも不満を引き起こしやすい。各方面の資源と機会はすべての人に開放され、公共利益の分配は平等でなければならない。また、規則と法規は誰もが誰にも例外ではなく、誰が誰に従うことを要求するのではなく、みんなで秩序を維持しなければならない。

12 社会には矛盾調停メカニズムが必要であり、矛盾の激化、拡大を避けることができる。誰かが故意に矛盾を挑発し、激化させることを根絶し、それから矛盾が発生したら適切に処理し、誰もが喜んでいるようにしなければならない。どちらかを処罰しても道理をはっきりさせなければならないが、一部の人はまだ恨みを残してはならない。歴史に存在する問題と恩讐についても、できるだけ捨てて、過去を考えず、未来をよく見なければならない。

13 社会にも恨みや怒りを晴らす道がなければならない。吐き気がしないで、何か心の中で不快なことがあれば、心の中で極端になることはありません。そのためには、一人一人の言論の自由を保障し、誰もが表現の機会を持ち、表現が重視されるようにしなければならない。

14 社会は各方面の力の相互バランスをしっかりと行い、力のバランスを保たなければならない。バランスを取ることで社会の安定を確保することができ、歴代の政治家はこの点を重視してきた。例えば、米国などが三権分立を採用しているのは、社会がバランスを保つためであり、権力のバランスがとれていないために独裁的な悪魔が常に発生している体制を早期に取り除くためだ。（他の記事を抜粋：米国の父たちが3カ月間密談し、民主ではなく共和を目的として創建した「三権分立・相互均衡」制度。米国の「建国の父」は、「共和政体」の構築に力を入れていると主張しているが、「民主政府」や類似の文字は出てこなかった。なぜ？当時の米国の上流社会では、「民主」という言葉は暴力的だった。だから制憲会議代表の多くは民主に好感を持っていなかった。そして民主の罪を大声で批判しており、彼らが制度を作った目的の一つは民主を制限するためだった。徳の高いベンジャミン・フランクリンも同様に「私たちはみな民主による迫害と不公正を受けたことがある」と痛烈に認めた）

15 集権独裁を防ぎ、共和を破壊した。国家の権力を含む組織に対しても、各方面の分配、共有、共有をしっかりと行い、少数者、少数民族が権力を独占してはならず、共和を敵とする独裁独裁独裁政権が現れてはならない。そうしないと、共和を深刻に破壊し、災いが止まらない。

16 政府と指導者は人の心を得てこそ、内乱を避けるために団結することができる。政府が人の心を得れば天下が安定し、人の心を得なければ必ずみんなが心を離れて社会が崩壊して最終的に動乱に向かう。そのためには立国、治国理論の正当性を確保し、広く受け入れられなければならず、指導者の選任に合法性があることを確保しなければならず、施政の方針政策が認められなければならない。

2 武闘、戦争など社会共和を深刻に破壊する暴力行為をどのように回避するか：

1 中央政府は各地方を統べることができなければならず、地方が中央に挑戦したり、中央と法廷で対立したりしてはならず、社会の崩壊動乱を避けることができる。まず中央政府自身が民心を得て、道義的な頂点を占め、地方が中央に対抗する考えがないことを認め、中央に対抗する考えがあっても適切な理由が見つからないようにしなければならない。次に中央政府は十分な実力を備えているか、各地域の力を集めて

強大な力を形成し、中央に対抗する地方勢力が中央に対抗したら処罰されることを心配させなければならない。周朝朝廷は最初から天下から後の諸侯に号令することができてますます言うことを聞かなくなって、朝廷の力が日増しに弱くなった原因があって、後の多くの周天子がいつも自分で規則を破壊して、日に日に人の心を失ってみんなが離反して、礼制が崩壊する原因があります。清末の慈禧のでたらめも中央の権威を失い、東南の相互保証各省が次々と独立を宣言し、国も崩壊に向かっている。

2 文明の非武力を提唱する政争。危急でやむなく正義のために、武力、武装闘争などの非常規な方法で政治闘争を展開しないようにしなければ、民国の二次革命のように武人干政の局面を開き、民国時代の軍閥混戦の局面をもたらし、かえってよくない。また、古代の遊牧民族は共和の理念に乏しく、常に一山二虎を許さない観念と一言が合わないと殴り合いをする習慣があり、常に内部闘争で食うか食われるかのように暗く、結果的に部族は永遠に強大になれず、時には繁栄してもすぐに衰える（建立された王朝は長く維持されず、「胡人の運は百年にすぎない」という説がある）。

3 軍隊など武装勢力の国家化と統一管理をしっかりしなければならない。私的武装を確立したり、国の一部の武装勢力を個人の指揮に従うように変更したりすることは許されず、軍閥の混戦をよりよく避けることができる。

4 ある人を追い詰めて生きるために亡命者になることを避ける。人はいったん窮地に陥ると、暴力行為を含む非理性的な行為をして危険を冒すことが多い。そのため、弱者や生活の仕事が失敗して苦境に陥った人に注目し、社会に危害を与えないように配慮しなければならない。また、中国の古代中原と北方の遊牧民族が戦争を起こしたのは、中原側が国境貿易をキャンセルしたためで、これらの遊牧民族は市場取引を通じて生存に必要な食糧塩鉄などの物資を得ることができず、南下武力で必要な物資を強奪して生存を保証するしかなく、国境貿易市場の双方が十分に相互市を設立した年代には、ほとんど戦争が発生しなかった。

5 私利私欲やわがままを言って戦争を引き起こす政治家を避ける。従来の戦争は基本的に少数の人が自分の利益のために発動したものであり、集団全体の利益から戦争を考えるのは非常に割に合わないため、集団で決定すれば基本的に戦争を開始することはできない。これらの少数の為政者はより多くの土地と財産を強奪するために、常に民衆を犠牲にしないように戦争を始め、ある者は個人独裁の高圧統治を維持するために、わざと戦争を通じて緊張を作り、みんなが無条件に従わなければならないようにし、さらに権力集中を高め、さらに他の人に絶対服従を要求し、甚だしきに至っては幽霊を抱く者もいる。加えて、多くの独裁者は権力が非常に大きいため、個人のわがまま放題のために一言も合わなかったり、突発的に戦争を起こしたりしやすい。多くの戦争は人為的に推進されており、もともと回避できるものだと言える。民主国家では、戦争を起こす権力が会議にあり、いかなる政治家も大統領が勝手に戦争を始めることはできないので、比較的安全であり、独裁国家では、戦争を挑発しやすい。統治者の頭が熱くなったり、怒られたりすると、戦争を始める行為をする可能性があるからだ。統治者の素養が高く、人を傷つけることに夢中にならない限り、自分のことを利する戦争行為には熱心ではない。古今、多少の生霊塗炭、文明破壊を招いた戦争は、多くの人が本来、各方面、特に各方面の指導者が自分や人のことを考え、良い処理方法を採用すれば避けることができ、小さな利益や個人の私利のために社会全体が玉石を燃やすことはできない。（『戦狼劫国の代価：八国連合軍の出兵顛末』を抜粋：これこそまさに中国の歴史の最も悲しませるところである――どれだけ生霊を塗炭しても、すべて個人の権力の得失によるものである。）

6 宗教的熱狂による戦争を避ける。世界の多くの宗教戦争、極端な宗教テロは、社会に災難をもたらし、中国清末の同治回乱は宗教矛盾民族矛盾による人種虐殺であり、数千万人が死傷し、その教訓は極めて痛ましい。そのためには、熱狂的で歪んだ宗教思想と行為を一緒に打撃しなければならない。

7 村と村の間、人種間、宗族間の相互闘争、さらには集団殴り合いや暴力的な虐殺を避ける。中国の清朝末期から民国にかけて、農村部では民間の集団武装闘争がしばしば発生し、社会に大きな破壊をもたらした。そのためには法治社会を築かなければならず、また各村や人種、宗族の間では互いに排斥され、水火相容れないいくつかの立ち後れた観念を捨て、共存、共栄に向かわなければならない。

8 下心の悪い一部の外来勢力にそそのかされ、操られて動乱を引き起こすことを避ける。外来勢力は利益を得ようとしたり、目的を達成しようとしたりするために、利益を得ようとする一部の勢力を明中、ひそかに支持することがあるので、外来勢力に対して良い選択をしなければならない。

5 良好な社会制度を確立する：社会を秩序正しく、安定し、スムーズに運営させる

社会が太平を実現するには、良好な社会体制を構築することが非常に重要である。良い社会体制があってこそ、すべての事務は正常で、安定して、秩序正しく、スムーズに運営でき、容易に錯乱することはなく、各社会のメンバー、グループの間も紛争が絶えず平和に付き合うことができる。

体制文明、民主的な社会では、生活が豊かで安全が保障されているほか、人々も率直で友好的に付き合い、みんなは楽しく自由自在な日々を送っている。誰もが自分の才能を思う存分発揮し、より大きな発展を遂げることができ、制限や打撃を受けることはありません。指導者は能力と徳望で公平な選挙を通じて上位にランクインし、さまざまな険悪な政治闘争に直面する必要はなく、引退しても清算される心配もなく正常な生活を送ることができる。各級の役人も選挙と競争を通じて職を獲得し、地位の任命を得るために上司の機嫌を取る必要はない。みんなは分業が違って、みんな平

等で、しかも従属関係がなくて誰も誰に頼って食事をしないで、眉をひそめる生活をしなくてもいいです。

体制が立ち後れ、専制的な社会では、誰もが非常に息苦しく生きており、指導者や各級の役人は明攻暗算、食うか食われるかの政治闘争に直面しなければならないことを含め、各級の役人は上司の顔色をうかがい、上司に取り入る必要があり、そのためにしばしば心にもないことを言ってはならない。

では、どのような体制が良い体制なのでしょうか。少なくとも次のような点が含まれていると思います。

1人員の素質に依存しない健全な運行メカニズムが必要である。優れた能力を持つリーダーに頼らなければうまくいかないのではなく、どんなリーダーも悪い能力の悪いリーダーであっても影響を受けない。昔から、大部分の時に社会の善し悪しは指導者の素質の善し悪しに大きく影響され、明君を出すと、社会は何年も、昏君暴君を出すと、社会は大きな影響を受けてすぐに万難に向かった。現代の一部の国は徐々に逆転し、良好な体制を構築することで、誰がリーダーになっても差が大きくならないようにしている。

2 自己誤り訂正の仕組みが必要です。悪い人や事が出てきたら、指導者や各級の役人が不適切で不適任なものがあれば速やかに罷免され、入れ替わることができ、また悪い政治運動（例えば中国の文革）が始まらない、あるいは誰かが発起してすぐに芽が出たばかりの時に、政策や法規が実行されて実際の状況に合わないことが社会に有害であり、急速に調整され、改正されたり、廃止されたりすることができる。そのためにはさまざまな異なる声を包容しなければならず、各方面は十分な討論、激しい議論を提唱し、提案と批判を許可、歓迎し、異なる意見を持つ者を保護し、建言献策者を奨励しなければならない。

3十分な監督メカニズムが必要である。すべての公権力運営の日光化を含めてみんなの監督を受け、すべての競争も公開的で透明な競争でみんなは互いに監督することができて、すべての人はすべて表現の自由があって異なった意見、批判の意見を表現する自由を含んで、メディアも自由を開放しなければならなくて規制、圧力を受けることができません。十分な監督があれば、政府も国有企業もより良く、より効率的に運営でき、さまざまなミスを避けることができます。

4 民主的で自由でなければならない。民主体制は、より多くの人を公共事務の管理に参加させ、集団で知恵を出し合い、物事をよりよく、より間違いを少なくし、そしてみんなの広範な死角のない監督を通じて、さまざまな姦通犯科の行為をよりよく制止することができる。専制社会はみんなの潜在能力の発揮を制限して、しかも民衆は発言権がなくて逆戻りするしかなくて、社会は誤り訂正能力がなくて、間違いをしても何度も間違いをして収拾がつかなくて、殻に引っかかって崩壊しやすいです。

5規範的で秩序正しくなければならない。1つの体制は非常に規範化されていなければならず、勝手ではなく、無茶ではなく、各方面の事務には規則があり、法がある。古代の礼制、現代の法律は、すべて各方面を規範化させるためであり、特に古代の礼制は、読書人の目には崇高な権威があり、誰が皇帝であっても乗り越えてはならない。最も典型的なのは明朝の左順門事件であり、群臣は嘉靖皇帝が生みの父を皇帝に追封することに必死に反対した。

6 すべての人、特に権力者を拘束することができなければならない。すべての法律と規定はすべての人が守らなければならず、むやみにしてはならず、違反者は処罰されなければならない。指導者であっても庶民と同罪である。政治競争のバランス、権力分立などさまざまな方法で権力を制約し、法律･法規上で権力を制限し、勝手気ま

まな権力を持ってはいけない。権力を檻に入れてはいけない。

7 管理が厳しすぎて、みんなの活力や創造力を制限しないようにしなければならない。無傷で主観的ではない問題や間違いに対しては適切に緩和することができ、厳しすぎてみんなが足を縛って活力と創造力を失ってはいけない。イノベーションはインセンティブによるものではなく、制限を減らし、試みを許すことによって放出される。

8 国の権力と資源が少数者に独占的に支配されることを避けることができなければならない。良い社会は各階層の各グループ、各人の利益を考慮し、保護しなければならず、各人が努力すれば発展の機会があるようにしなければならない。国家の権力と資源が少数者に独占的に操作されることを防止し、歴史上よく登場する一部の閥世襲家、勲貴家のように大部分の権力と資源を独占し、社会を搾取し、贅沢浪費の生活を送ることを回避しなければならないが、一般民衆は困難な生活を送っており、いくら努力しても運命を変える機会がなく、多くの人は行き詰まり、餓死者が野にあふれている。このようになると、社会内部の矛盾が鋭く激化し、遅かれ早かれ暴動が発生し、我慢できない民衆は暴動を起こし、利益集団を倍に清算し、最終的に玉石共倒れになるからだ。勝者が食い通し、強者が弱い者が弱い者が弱い者が強いことを避けるためには、資源の享受と教育機会、就職･起業の機会の開放をしっかりと行わなければならない。また、社会保障システムをしっかりと構築し、民衆がどんなに悪くても生きにくくならないようにし、社会不安の要素にならないようにしなければならない。もう一つの社会はだまされやすい場合、道徳教育が行き届いていない原因があるほか、通常の発展機会が少なく、上昇通路が塞がれている要素もある。だまされた人は一般的に賢い人で、社会は彼らを吸収し、良い発展軌道に導いていないため、道徳観念の欠如に加えて、邪道に従事することになりやすい。

9 暴力にあふれているのではなく、穏やかな文明でなければならない。メンバーとグループ間の業務競争、利益紛争、政治闘争などは温和で、文明的で、ベースラインがあり、余地があるものでなければならないが、悪質で、相互に害があり、残虐で、手段を選ばず、余地を残さないものではなく、そうすればみんなが共生共栄することができ、あなたが死んでも、私が死んでも、共倒れになることはない。

10 寛容で情あり義ありでなければならない。過ちを犯した人に罪を償い、更生する機会を与え、人を追い詰めないで缶を破って転ぶしかないことを含め、過ちを犯したが能力のある人が社会のために輝き続けることができるようにした。また、さまざまな法律の制定と執行においても、客観的な要素を多く考慮し、義理があって温度があり、冷たくて一刀両断にしてはならないようにしなければならない。

6 一人一人の仕事、移動、交流などの基本的な権利を保証し、一人一人が自由に生きることができるようにする

一人一人の基本的な権利を保証しなければならない。一人一人が自由に、尊厳を持って生きることができ、依存したり、命を聞いたり、他人にコントロールされたりする必要はなく、誰もが最低限の正常な生活をしてこそ、社会全体が太平になることができる。

誰も他人の基本的権利を侵害してはならず、いかなる国も、言論の自由、選挙、被選挙などを含む様々な理由で国民に基本的権利を与えないことはできない。他人の基本権を侵害し、制限する行為については、誰もが家族や国家内政ではなく干渉を拒否することができないように干渉し、制止しなければならない。

人権は主権より大きく、いかなる国も主権を維持できないという名目で勝手に人権を侵害し、国連も各国を監督し、強制的に要求し、組織が人権法規を遵守する役割を果たすべきである。

他人の基本的権利を無視し、勝手に他人の基本的権利を踏みにじる人は、極めて悪い人であり、他人の基本的権利と自由を奪うすべての人や組織は、厳罰に処されるべきである。

いかなる政府も通信業界を独占し、民衆の通信の自由を制限し、一部の人の通信権利を奪ってはならず、また民衆の移動の自由を制限してはならない。外出の自由を制限してはならないことと交通機関に乗る自由を制限してはならないことを含めてはならない。そうしないと、様変わりした民衆の行動を軟禁し、民衆の表現の自由を制限してはならない。

7 一人一人が基本的な経済、安全などの条件を持ち、生存を維持し、独立を維持できることを保証する

天は人類に火と各種のツールを掌握させ、それによって食べきれない状態から抜け出すことができ、生存線にもがく必要はなく、余裕のある生存状態にあることができ、衣食を解決する努力のほか、精神文明の建設に従事する精力があり、人類文明もそれによって発展することができる。世界的にも豊かな国は往々にしてより文明的に発達していることが明らかになった。

1 なぜ一人一人に基本的な生存発展の経済、安全などの条件を持たせなければならないのか：

1 人は生存が保障されてこそ、独立した人格を持つことができる。商鞅の「貧しい民」のやり方は民衆を腹がいっぱいにならせることであり、生存を求めるためには独立性を失うことをコントロールするしかない。また、みんなの経済的自立を奪って権力者に頼るしかなかった公有制を推し進めた近代政権や、多くの公務員や兵士が給料を稼ぐために脅迫されて民衆をいじめる愚かなことをしていた。そのため、経済条件は一人で独立自主するための最も重要な条件であり、一人一人が基本的な経済条件を持って独立できるようにしなければならない。そのためには公有制をできるだけ減らし、一人一人が生存の圧力を持たないように社会保障システムを構築し、一人一人が独立できるようにしなければならない。

2 人は良い経済条件があってこそ、腰をまっすぐにすることができる。「人は貧しく志は短い」、「銭は英雄漢を倒すことができない」ということわざがあり、経済的条件がなければ自尊心を持つことは難しい。

3 人は豊かな生活を送ることができてこそ、もっと知識を身につけることができる。いわゆる「倉稟実は礼儀を知っている」、「貧乏は奸計を生み、富は良心を長くする」、「貧乏は悪水が民をいじめる」というのは、ごく一部の教養のある人を除いては貧乏で楽で、貧乏でも無茶をすることはなく、ほとんどの人は生活に落ちていないと飢えて何の悪い行為もできます。例えば清朝後期には民衆の生存空間を大幅に圧縮し、大部分の人を乞食や匪賊に変え、大部分の人は飢えても食べ物を選ばずに底なしになった。そのため、皆さんに良い生活をさせ、皆さんに生活のストレスを与えないようにしなければならない。（他の文章を抜粋：一般人は食事も満腹にならない場合、どのように人生の意義、道徳規範を話し、物質的な基本的な満足がなく、民衆と道徳を話しにくい）

4 一人一人が良い経済条件を持っていることは社会の安定に有利である。いわゆる「恒産者には恒心がある」ということは、良い経済条件があり、一定の財産があると、安穏を求めて冒険的なことをしないし、社会の安定維持にも協力する。

2 どのようにしてすべての人に良い生存発展条件を持たせますか：

1 政府や少数者がほとんどの機会を独占するのではなく、誰もが生計を立て、お金を稼ぐ機会を持つようにしなければならない。管仲が我が国の歴史の上でした最大の悪事は国家が「利出一穴」を出すべきだと提案することであり、天下の利はすべて王者に帰し、利益を得る穴、道は一つしかない、つまり国家は政治経済の法律手段を採用して、すべての生計を立てるルートを制御して同時に社会の富の分配を独占して、それでは人民が生存と発展を考えて、必ず何事も君主（国家）の恩賜に仰がなければならなくて、このように君主はその統治下の民衆を思うままに奴隷にすることができます。このようにすることで政府は民衆をよりよくコントロールすることができるが、民衆は発展の機会を失い、ほとんどの人は創造の潜在能力を発揮することができず、国全体が経済の疲弊、いわゆる「管仲の罠」に陥るに違いない。公有制を実行し、政策を公有制に傾斜させ、国の進民退却を推進した近代国家を見てみると、すぐに経済の疲弊に陥っている。また、歴代の統治者は「利出一孔」を実現するために、塩鉄専営などの一部のコア業界諸国の独占を常に推進し、重要物資を独占することによって、統治者自身が社会全体を制御する経済的命脈を実現し、莫大な社会的富を獲得した。また、重農抑制策を故意に採用し、民間の商売に打撃を与え、民衆に苦労して低利益の生産に正直に従事させ、高利益の商業に手を染めてはならず、国の官製が商業を独占してはならない。そのためには、私たちは一人一人に良い生存発展条件を持たせ、必ず公有制を捨てて私有制を推進し、市場の制限を開放し、各種経済独占、特に行政権力を通じた経済独占を根絶しなければならない。

2 社会の富を分散させ、民に豊かにしなければならない。政府の手に集中するのではなく、民衆に社会的財産を分散させることで、民衆の生活をよりよく自立させることができるだけでなく、さらに民心を得ることができ、民衆は政府をより擁護することができ、国が外敵の侵入を受けたときにも民衆は自分の財産を守るために敵に必死に抵抗することができる。もし富が政府の手に集中していれば、外敵が来ても、民衆はどうでもよくて、しかも災難を喜んで見物するだけで、8カ国連合軍が清朝軍を攻撃したときのように、民衆はみな見物して歓呼し、敵を助けるだけだ。（他の文章を抜粋：昔の人にはもう一つの知恵があった。お金を人民のところに隠して、敵が侵略してきたとき、国家を一気に空っぽにすることはなかった。逆に人民が貧しく、抵抗能力がなければ、彼らは手を挙げて降参した。荀子はよく言った：集まって者を集め、敵を肥やし、国を滅ぼし、身を危険にさらす道も、だから明君は従わない。最も良いゲームのルールは人民を豊かにし、人民に豊かにし、敵が犯せば、人民は自然に組織して抵抗する）

8 宗教、学説の管理をしっかりと行う：その良い役割を発揮して悪人の心を傷つけたり、民衆の精神的足かせになったりすることを防止する

宗教は人類社会に普遍的に存在し、人類は古来非常に多くの宗教を持っており、多くの信者が少なく、ある生命力が比較的に強く発揚され、ある者はすでに消滅し、そして社会に大きな影響を与え、ある者は人類社会に積極的な役割を果たし、ある者は消極的で破壊的な役割を果たした。

実は宗教は心の力の産物であり、すべての宗教は、基本的に信者に心の力、精神の導き、導き、あるいは制御を行う。

宗教は基本的にいくつかの神や聖人を形作り、崇拝し、人々のために精神的な寄託と魂の居場所を見つけるよう努力し、処世の準則と考えられる教則を守るよう説得し、多くの人に精神的な慰めとして心の安らぎを求めるために使われている。

宗教の発展情勢からも世道の変化を見ることができる：例えば中国では、人々が儒教のような積極的に社会に参加する教義を多く信奉している時、社会が繁栄している段階にあることを説明して、人々が仏教、道教、雑教、さらに邪教を多く信奉している時、社会が混乱している時期にあることを説明して、命相館がたくさん開いている時は民衆が社会に失望して努力しても無駄だと思って運命に希望を寄せることが多く、社会が衰退に向かう兆しである。

1 良い宗教、学説がもたらす積極的な役割：

1人々に畏敬の念を持たせ、規則を守るには一線があり、天や神に罰されるのを恐れて無茶をする勇気がない。

2人々をより安らかに、善良にするために、ほとんどの宗教は信者に姦通して科を犯すことができないように要求しており、多くは善行を提唱している。

3人々の心をより強くし、さまざまな困難や災害に対処することができます。

2 悪い宗教、学説による危害と破壊：

1一部の神棒や独裁者に利用されて民衆を制御し、抑圧されるだろう。一部の悪党は宗教指導者になるのが好きで、自分を神にして、それから宗教を通じて民衆を管理するのが好きで、このようにして自分はもっと最高で好き放題にすることができて、しかも誰もそれに疑問を持ってはいけなくて、さもなくば教規や神の意志に違反して、勝手に処分されることができて、宗教指導者は一生制ができて、甚だしきに至っては世襲することができて、国王になるよりずっと良いです。

2宗教による国家統治、宗教虐殺などの巨大な社会的災難をもたらす。古来、立ち後れた文化、野蛮な文明、極端な宗教は往々にして疫病よりもはるかに大きな災難を人類にもたらした。特に宗教は特に、ヨーロッパの中世宗教による社会の暗黒支配、中国の太平天国邪教暴動による社会の文化破壊と大量の民衆への殺戮を含む、古今東西で多くの宗教による災難が発生し、清朝同治年間の西北部の極端回教徒暴動によっても大量の庶民が虐殺され、経済社会が極度に破壊された。

3社会の正常な管理に影響を与え、社会を混乱させる。宗教の中には、信者たちが教主だけに耳を傾けて政府を聞かず、教則だけを認めて法律を認めず、社会の正常な管理に深刻な影響を与え、さらには信者が異教徒を迫害し、殺害し、文明社会をテロ攻撃するよう扇動する宗教もあり、社会の安定に深刻な影響を与えている。

4民衆は理性を失った。特にいくつかの邪教は、人々の人生観、価値観、世界観を深刻に歪め、迷信、沈滞、独立精神のない人々に振り回され、思想行為が奇妙で、衝動的で怒りやすく、冷血暴力……

5一部の人が民衆をだまして蓄財を実現するための道具になっている。宗教を利用して信者に寄付金を寄付するよう働きかけている人もいるが、私腹を肥やしている。

3 宗教、学説の良否を判断する方法：

今日の文明社会では、宗教、学説は少なくとも以下の要求に合致しなければ社会、信者に有益で無害であることができない：

1信者がよりよく暮らせるようにしなければならない。信者が宗教を信じ、宗教組織に加入し、宗教活動に参加するのは、知識、知恵を学び、心の慰めを得るなど、より良い生活を送るためであり、信者、信者に多くのコストを払っても彼らに提供す

ることができないか、わずかな助け、サービスを提供することができないか、あるいは欺瞞的で幻的な助けを与えることができない場合は、すべてよくありません。

2 社会のために価値を創造できるものでなければならない。信者を世に入れ、労働に従事させて物質的価値や知識、精神的価値を創造したり、信者を避世させたり、労働に参加しなくても物質的価値を創造しなくても他の社会的役割を果たしていないことを奨励するのではなく、優れた道徳を広めたりすることを含む。歴史的に三武一宗の滅仏が起こったのは、仏教に引き込まれて労働成果を創造することができず、かえって社会的な供養が社会的負担になるのを見て、宗教建築、宗教活動が多くの人力・物力を消費し、経済発展に影響を与えていることを参考にして再発を回避しなければならないからだ。

3 法に基づいて規則に基づいて宗教活動、学説の伝播を展開しなければならない。法律は社会の最高の準則であり、いかなる宗教の教則も法律に違反してはならず、さらに法律の上を越えてはならず、各種の活動は法律の規定に合致しなければならず、違法な活動に従事してはならず、宗教を理由に政府の正常な法執行を妨害してはならず、宗教の規定を法律に代わって信者を処罰してはならず、特に私刑が存在してはならない。

4 伝播する宗教、学説の内容は健康的で有益で違法ではないことが必要である。

5 本宗教信者でない人にも友好的でなければならない。異教徒や本宗教を信仰していない人を制限したり、排斥したり、搾取したり、攻撃したり、傷つけたりすることはできません。その宗教を信じていない人が、彼らに本教の教則や風習に従うように要求したり、排他的に、自分だけの存在を許可したり、他の教派/学説を攻撃したりすることを求めたりすることはできません。

6 他人が本宗教/学説を評論し、批判することを許可しなければならず、また他人が本宗教/学説を尊重しない言動をすることを許可しなければならない。誰もが異なる見方を批判し、発表する権利があり、他の人の他の団体に対して尊重または尊重しない自由があり、他の人の他の団体の正当な権益を侵害していない限り、問題ない。他人の言動が自分を侵害していると感じたら法律に訴えることができ、他人に反対されたり、尊重されなかったりして他人に報復したり、暴力的に攻撃したりしてはいけない。ある宗教とその信者は、他人が自分に不利なコメントをしたり、自分が持っているが本教に関係するものを廃棄したりしているため、上述の言動をした人に対して興師動衆が圧力をかけたり攻撃したりすることは、非常に悪いことであり、法律では決して許されないことであり、不当な批判を受けて反論することはできるが、暴力的な報復をしたり、大衆を集めて騒ぎを起こしたりすることはできないと考えている。

7 信者と信者が本宗教教義教経、本学説の主要な理論に対して質疑、議論を行うことを許可しなければならない。質疑を許さない、議論を恐れている教義、理論はすべて自分に問題があり、暴露を恐れているためであり、本当に良い宗教、学説は質疑と議論を恐れていない、そして質疑と議論を通じて絶えず改善、調整されることを喜んでいる。

8 神を信者を凌駕するのではなく、人間神の平等を提唱しなければならない。神は皆さんがより良い生活を送るために、逆に神に従うこと、神に振り回されることを要求することはできません。良い宗教には皆さんを凌駕する神がいるべきではありません。人の神が不平等だと主張するのは、神の名義と目的を装って自分の利益追求を実現しようとする人がいることが一般的だ。英国の栄えある革命は、人と神の平等の実現を促進し、人々が「神」（つまり神の意図を偽った神棒）の奴隷から解放されることを促進することである。

9 内部の平等を提唱しなければならない。信者の間には年功や道行に違いがあるが、誰もが教内資格、地位、等級などの違いで人を一等にすることはできず、誰もが平等である。この点ではキリスト教は比較的よくできており、みんな兄弟姉妹で平等であるが、信者や信者が高レベルの宗教家を過度に尊崇し、服従することを要求する宗教があるのは正しくない。

10 誰も神格化しない。すべての教主、信者も神ではなく人であり、神格化されたり、自己神格化されたりすることはできません（例えば、「神の使者」、「活仏」、「救世主」を自称したり、受け入れたりする）。活仏と呼ばれるものは真仏ではありません。すべての神格化されたある人の行為は、偽りの欺瞞であり、個人の利益目的を持つものであり、宗教そのものの精神に背くものでもあります（例えば、「活仏」と呼ばれる行為を自称したり、受け入れたりすることは、仏教では「妄」の表現です）。

11 多世輪廻など、人が苦労して苦労したことを上世の罪とみなさせる報いを宣伝せず、誰もが遭遇するのが運命だと宣伝しない。これらの内容を宣伝するものがあれば、基本的にはみんなに自責し、命を認めておとなしく話を聞いて、いじめを受けて、逆順に受けさせるためだけで、下心が非常に悪い。

12 あまり宗教的な儀式はありません。宗教には適切な儀式があるのはいいが、儀式が多すぎると、別の企みがあることが多く、信者の精神を制御するための邪教である可能性も高い。（他の記事を抜粋：強い心理暗示を与え、儀式的な行為を加えると、人は徐々に卵を引っ張る教派に転向する）

4 有害な宗教、学説の発生を防ぐ方法：

1 社会の歪みを防ぐ。社会がある程度歪むと、奇妙な学説、宗教が生まれ、それを大いに行うことができる。例えば、太平天国運動の出現と急速な発展は、当時の中国社会の発展が深刻な不均衡で、多くの人が腹いっぱい食べられず、しかも異常に愚かで、洪秀全などのでっち上げられた邪教に虚構に乗じて多くの信者を引きつけられ、さらに多くの人を巻き込んで暴動を起こした。（他の文章を抜粋：マルクスは『中国記事』の一文で太平天国蜂起の社会的原因を分析した後、鋭く指摘した：「実際、今回の中国革命で奇異なのはその体現者にすぎない。王朝交代以外に、彼らは自分たちに何の任務も与えていない。彼らには何のスローガンもない。彼らが民衆に与えた恐怖は、古い支配者たちに与えた恐怖よりもはるかに大きい。彼らのすべての使命は、醜い破壊だけで停滞腐敗と対立しているようで、この破壊には建設作業の兆しがない」太平天国の殺人、強盗、強姦、恐怖製造などの悪行を列挙した後、マルクスは総括した「明らかに、太平軍は中国人の幻想が描いた悪魔の化身だ。しかし、このような悪魔は中国にしかいない。このような悪魔は停滞した社会生活の産物である。''）

2 みんなが認めた文化などの精神文明を建設し、それによって人々はすべて良い精神的寄託と追求を持っている。特に中国は現在非常に精神文明建設に欠けており、人々の精神は非常に虚しく、システムが良い精神文明を構築する必要がある。

3 社会に明らかに有害な異端者に対しては管理と制限をしっかりと行わなければならない。確かに牛鬼蛇神である人は、法に基づいて管理と制限をしっかりと行わなければならない。そうしないと、韓国のように救世主を自称する神棒が多く、あちこちでだまされ、信者の精神をコントロールしているが、効果的な管理、制限、懲罰を受けていない。

5 宗教、学説による様々な危害を防止する方法：

1 民衆の信仰の自由を守り、宗教が民衆の不信仰、改宗、脱教の自由を侵害することを禁止する。規定は人に信教を強要してはならず、いかなる宗教的要求も人を信教に引き付けるだけで、人に信教を強制してはならず、すべての脅迫、他人の信教を威嚇する行為は、心理的傷害をもたらしていないからといって厳罰に処さなければならない。誰もが脱教、他の教を信じる自由を認めなければならない。宗教を信じるかどうかは一人一人の自由であり、不信教を維持することができ、また宗教を信じた後に信仰を放棄して宗教から離脱することもでき、それらは脱教を許さず、甚だしきに至っては脱教教徒を背教として処罰することは違法な行為であり、また信者が脱教後に他の宗教を信仰することについても尊重しなけれ信教をプライバシーにしてこそ、真の信仰の自由を体現できると言う人もいるが、それには一理ある。そうすれば、一人で信教があるかどうか、何を信じているか、他の人は知ることができず、確認することができず、干渉することもできない。

2 未成年者への布教は禁止されており、家庭の圧力や生活の必要性を提供しないために未成年者を信教させることは許されていない。未成年者に宗教書を読むように要求したり、宗教メディアに接触したり、未成年者を宗教活動に連れて行ったりすることができないことを含む。未成年者の知的未成熟はまだ是非を明らかにすることができず、成人してから宗教を宣伝し、自主的な選択をさせることができるようにしなければならない。

3 宗教が信者や信者に対して自由を制限することを禁止する。宗教を誰よりも凌駕してはならず、信者の言動規範に対しては忠告するしかなく、制限や懲罰をすることはできない。法律は信者の言論の自由を含むすべての言論の自由を厳格に保護し、信者の結婚や恋愛に対しても干渉して自由を確保することはできず、さらに信者に対して人身や精神の制御を行うことはできない。

4 有害な情報の宣伝を禁止する。宗教伝播の内容は管理部門に記録し、監督を受けなければならない。社会監督と評論も公開して受けたほうがいい。もし伝播が法律の規定に違反し、人心を傷つけ、社会を破壊する内容は制止と処罰を受けなければならないならば、教義、教経中の愚かな迷信、法律違反、暴力の宣伝、不健康な生活の宣伝、教護のために人を傷つけることができるように鼓動した場合、一概に削除しなければならず、信者が教護のために人道と法律に背くことをし、信者が異教徒を傷つけることを奨励し、殺すことを法律違反の言論を宣伝する宗教的な場所が発見され、すぐに閉鎖、閉鎖、違法な資料の収集などの宣伝ツールを行い、有毒な教義宣伝に毒された民衆にも再教育を行う。チベット地区の多くの民衆は地元の宗教に毒され、誰も進取しようとせずに積極的に仕事をしない。愚昧は頭をたたいてひざまずいてばかりいて、神の哀れみと助けを得ることができると思っているだけでなく、神を崇拝する以外にも「上師」（つまり各級の神棒）に非常に崇拝し、服従するように教えられている。宗教機関に寄付することで罪を償うことができるなど、社会管理に不利なことを宣伝することを禁止する考え方もある。悪を行った後に施しをすることで災いを解消することができ、盲目的に悪事をすることを促進し、後で寄付すれば罪を償うことができるから犯罪も大丈夫だと思っているからだ。（抜粋『三武一宗四次滅仏運動、仏教に対する規範であり迫害ではない』：経済的な理由で禁仏の観点があまり全面的ではないのは、経済が結局は政治であるからだ。しかし、ここの政治は宗教団体の権利闘争ではなく、世俗政治と宗教の角力である。唐武宗が禁仏する前、杜牧は仏教を批判していたが、当時の仏教は宗教人の善への目的を実現していなかったと指摘した。多くの仏教を信じる人は、日常生活の中で姦通して科を犯した。自分が有罪であることを知りながら、寺に金を寄付し、「有罪罪が滅び、福がない」ことを望ん

だ。そして寺もこのような人の心に積極的に協力し、大いに蓄財。その結果、「福を買って罪を売る。左の契約を持っているように、手を取り合って払う」ことになった。欧州の中世教会が発行した「贖罪券」を思い出すああ、どんなに罪を犯しても、殺人罪であっても「贖罪券」で罪を償うことができる。ヨーロッパでは 16 世紀にマルティン・ルーサーが登場したことで、このような宗教的悪行が変わり始めたが、中国は早くからこのような現象を強力に根絶したのは本当に幸いだ。）

5 宣伝と現代文明の相反する理念を禁止し、民衆の人生の積極性に影響を与えてはならないという理念と公義精神を追求する理念を含む。例えば仏教の一部の理論は人に命を認めるように言われて、努力しないで真実を比較しないようにして、それは不公平、不幸に見舞われることを恐れて、これはただ支配者と強権者が社会を管理しやすくて、個人と社会の発展に不利で、

6 暴力を尊び、鼓吹する宗教を禁止し、暴力的な信者を教化し、厳罰に処す。

7 各宗教の自己整備革新を導き、かすを取り除き精華を残す。例えば仏教のいくつかの迷信、虚無の内容は次第に放棄することができて、イスラム教もいくつかの過激な理論を改良して取り除くことができて、今のようにみんなに非難されないように極端なテロリストを生みやすいと言っています。

8 邪教を断固として処罰する。怪力乱神を宣伝し、民衆に自身を危害し、他人を危害し、社会を危害する行為を誘導すること、及び主要人員が民衆を制御し、社会を制御する悪い傾向があり、及びその他の有害な邪門の宗教に対して、断固として禁止し、処罰し、社会の災いと呼ばれることを避けるべきである。

9 宗教には過度な普及が求められている。多くの宗教は教友を扇動して宗教を宣伝し、宗教を宣伝することを使命や高尚な行為としている（例えば、キリスト教は布教を「福音を伝える」と呼んで布教する人に他人に幸福をもたらしていると感じさせている）、そして人生の見返りを得ることができる功徳として（例えば、いくつかの新教徒を発展させることでどれだけ功徳を増やして多くの幸福を得ることができるか）、これは多くの人が宗教を広めることに熱中しすぎて、時には過度に広める宗教は主に良い利益をもたらす理論によってみんなを引き付けることを提案して、過度に普及しないでください。

10 すべての宗教が法律管理を受け、すべての宗教活動が法律を守らなければならないことを確保する。宗教は人が創造したものであり、下心のある人が他の人を制御したり、愚弄したり、奴隷にしたりしやすいので、法律や信者の自由な権益、利益を凌駕することなく、法律の枠組みの下で実行させなければならない。宗教活動も内部管理も法律に合致しなければならず、宗教場所は法外の場所にはならない。また、違法な宗教行為に対しては断固として処罰しなければならず、有害な宗教活動も断固として禁止すべきであり、政府管理部門は個人の信仰の自由を侵害してはならないという理由で違法な宗教活動を放置してはならない。また、宗教内部の人々の間に矛盾があり、話し合いで調停できない場合は、法律で解決しなければならず、教法、内部判決、リンチなどで解決することは許されない。

11 法律監督を通じて宗教内部の人々が平等に付き合うことを保証する。現在、多くの宗教内部者の間では非常に不平等であり、教主と各クラスの教士を上から上まで置くことを禁止し、監督を行い、違反行為に対する通報を受けるべきである。

12 すべての宗教に対して質疑と反対を許可し、反対されるために反対者に暴力的な報復を発動したり、大衆を集めて騒ぎを起こしたりすることを禁止し、厳罰に処するよう求めている。報道されているようなバングラデシュのイスラム教徒は、仏教の男の子がコーランを燃やしている写真を見て、数十の仏寺を燃やしたり、多くの仏教

徒を傷つけたりすることはできない。これらの報復暴行は厳罰に処し、より多くの倍の賠償を払うべきだ。もし他の人に批判され、反対されたら、意見があれば、正式なルートを通じて反論し、声弁し、他人の反対を受けたために暴力行為を起こし、大衆を集めて騒ぎを起こすことを厳罰に処すことができる。

13 宗教が政治的に利用されることを防止することは、民衆を愚弄し、制御し、抑圧し、害する道具となる。宗教は政治的に利用されると往々にして大きな悪影響を与え、多くの宗教は信者が従順で反抗しないことを提唱し、これは統治者が独裁的な管理を行うのに有利であるため、多くの統治者は宗教を利用して民衆を制御するのが好きである。また、ある統治者も常に神を装って鬼をいじめることで民衆を愚弄し制御することは、社会にとって非常に有害である。また歴史的には、清政府がモンゴル地域でラマ教を強力に推進し、多くの人が労働や出産をせずに宗教を信仰するように要求したように、宗教が政府に利用されて民族の戦闘力が低下し、人口が激減したこともある（康熙氏はモンゴルに駐留軍 1000 人に勝るラマ教寺院を建てると言った）。

14 宗教が支配者によって民衆を奴隷化することを防ぐ。宗教は統治者によって統治をよりよく維持し、民衆をおとなしくさせ、抑圧されるのも合理的だと感じ、統治者の要求を果てしなく満たすことを望んでいる。宗教は統治者に有利であればあるほど提唱され、強力に推進される。例えば、イスラム教はしばしば一元集権統治の精神的ツールとして利用され、統治者が国教の全面的な強力な推進に選ばれる。仏教の不反抗精神も統治者に利用されて民衆を飼いならし、民衆をより従順にさせ、特にラマ教の絶対服従上師のやり方は民衆を制御するために利用されている。例えば康熙氏はモンゴルにラマ教寺院を建てた方が駐留軍 1000 人に勝ると言っているが、石虎が仏教を推進するのも漢人をよりよく奴隷にし、消滅させるためである。儒家もしばしば利用されて民衆を束縛し、臣僚、民衆に絶対に君主に愚忠でなければならないと感じさせ、君主の政権のために無償で奉仕しなければならないと感じさせ、民衆が虐げられているのは当然のことだと感じさせ、統治者に搾取されてもその功績をたたえた。（『梁啓超：中国政治の不発展は中国思想の凝固にある』（文 / 沅湘）：百家の説、墨家平等主義は専制独断に最も不利であり、封建社会の等級が森然とした宗法制度にも合わない。道家は自由を放任することを主張し、干渉にも不利である。法家の利も急に現れたが、その弊害も深い。孔子は忠孝を言明し、君と仁政を言明し、民と服従を言明し、その道は長く、その法は容易に行うことができる。法家の言術は、術を得て行いやすく、去勢は一歩も動かない。また法家は君臣関係を赤裸々な利用関係と見なし、君主が強ければ可、君権が弱ければ乱となる。...儒家がその不良を一統にした結果、民権は狭くても政本は立たず、一尊は定まっても進化は停滞した。）

15 政教分離を実行し、宗教が独裁統治の強化に利用されることを防止する。一部の統治者はまた、政教合一を通じて独裁統治を強化し、教主を自任し、立ち後れた不健全で不合理な教規を普遍的価値のある文明的で先進的な法律の上に凌駕することを好み、これにより法律制定と執行権を用いて自分の権力を強化するだけでなく、宗教の発言権を用いてみんなに無条件に言うことを聞かせることができる。そのためには政教分離を実行し、すべての政教合一を禁止しなければならない。

16 宗教を通じた政治への参加を禁止し、宗教を利用した政治目的の実現を防ぐ。多くの教主も、多くの信者を利用して社会管理に手を染める政治的野心を実現したいと考えており、歴史上の五斗米教、太平天国の偽キリスト教、白蓮教などが群衆を集めて謀反を起こして権力を奪うための道具として使われることを防ぐために、宗教が権力を奪うための道具とされている。

17 寺院や教会などの宗教的な場所の建設を制限する。これらの場所を建てるのはすべて労働者が財産を傷つけるために利益が少ないので、これらの場所の建設を制限して、それからみんなに資金をもっと社会に有利な公益事務に使うように誘導するのがもっと良いです。

18 宗教に営利行為があることを禁止し、宗教資金の財産使用の監督と反腐敗をしっかりと行う。宗教が利益を得たり、お金を集めたりする道具として扱われないようにするには、これは中国では現在非常に一般的で、特に多くの仏教寺院が営利の場に転落しており、一部の人は寺を産業の拡大とチェーン管理の新設を続けている寺にして、名目を巧みに立て、さまざまな誘導穴を通じて信者に多額の寄付金を騙してもらい、それからほとんどが自分とグループのメンバーの懐に落ち、お金を手に入れたり、酒飲みに花を咲かせたり、三妻四妾の生活を送ったりしている。このような行為は宗教に積極的な意義を失わせ、民衆を騙す道具となり、そのためには管理と規範をしっかりと行い、できるだけ民衆が寄付をして直接助けが必要な人に寄付することを奨励しなければならないが、宗教機関が寄付を受けるプラットフォームとしての役割を減らすことができ、また個人が寄付を受けることを禁止することができ、基金を設立しなければ寄付を受けることができないことを要求することができ、信者が自発的に寄付した財物に対しては、登録、公開、受け入れの各方式の使用監督をしっかりと行わなければならない。

19 宗教家には、多くの労働者が社会的価値を創造しなければならないことが求められている。生産創造労働に従事することを含め、優れた文化を宣伝する努力が人の心を浄化し、人を善に導く社会的役割を果たす。そして苦行僧になることを提唱して、贅沢な生活を楽しむことができなくて、生産が消耗より小さくて、社会の寄生虫にならないようにします。（『三武一宗四次滅仏運動は、迫害ではなく仏教に対する規範である』を抜粋：四次禁仏の後、中国で最も盛んになった仏教の派閥は禅宗である。これは一理ある。禅宗の歴史には有名な百丈懐海禅師がいて、その時代は仏教に反対していた韓越とほぼ同じ時期にあった。百丈禅師は『百丈清規』を制定し、出家者に戒律を守ることを誓ったほか、高広ベッドに乗らない、歌舞娼妓に近づかない、線香をつけて身を塗ったり、金品や宝石を蓄えないなどを要求した。最も重要なのは、人々が今、最も覚えやすい言葉は、「一日にしない、一日にしない」。インド仏教の手を伸ばしたご飯を食べる伝統を変え、出家者に自活し、社会の寄生虫をしないように要求した。それ以前、インドから来た仏教は労働を軽視し、僧の労働に反対し、僧は供養を受けるか、物乞いを功徳とすべきだと考えていた。また、禅宗は経典に頼らず、仏像に頼らず、仏殿の建造を主張しない。禅院から禅師個人まで、簡素さを誇ります。上述の様々な特徴は、すべて禁仏時期、仏教に存在する様々な怪象の反省と是正であり、それによって禅宗は禁仏事件の中で、ほとんど影響を受けず、そして後日中国で盛んに発展することができるようになったようだ。現在のいくつかの宗教的現象を比較すると、百丈禅師は確かに尊敬されている）

6 有害な宗教、学説に対処する方法：

時には宗教が自分に奉仕する人になって、味が変わって、この世界の多くの宗教はこのようにして、最後には少し有害な成分になりました。

社会にもしばしば有害な宗教、つまり邪教が現れ、社会管理の厄介な問題となり、太平天国が 1 億人の死と社会経済を大きく破壊したなど、人類の文明と安全を脅かしている。今も多くの邪教が人類社会に危害を及ぼし続けている。邪教をどのように解くか、いくつかの考え方が参考になるかもしれません。

1 邪教を瓦解させる方法。多くの邪教も長期的な存在と発展を支援する人が多い

ので、彼らを瓦解させるのは主にその存在の文化的基礎を取り除き、できるだけ多くの人が彼らを認めないようにすることだ。宣伝を通じてその正体を暴露し、信者たちにその本質を認識させることができ、そして広く、開放的で、透明な議論を通じて、みんなに物事の道理を理解して悟らせ、それによってカルトを支持することはできなくて、カルトの大衆の基礎を減らして、それから全面的に厳しい法律に基づいて処罰して取り除くことができます（カルトはすでに大衆の基礎を失ったため、この時処罰して、取り除くのは何の抵抗もありません）。

2 その信者の切実な考えから彼らに有利で、彼らを救うための政策と規定を制定し、彼らの認可を受けて歓迎し、彼らの誤解と敵視、対抗を解消する。

3 捕虜を捕らえるにはまず王を捕らえること、まずその主要指導メンバーに対して説得教育と法に基づく処罰をしっかりと行い、その思想を転換させて改心させ、そして歪門邪論の散布を停止させる。宗教に問題があるのは往々にして主要指導メンバーが問題を起こし、宗教を利用して悪事を働いて波風を立てる下心があるので、宗教に問題があるのは彼らを取り締まることであり、教派全体が打撃を与えるのではない（そうでなくて難しい）。

4 すでに惑わされ、洗脳されて社会を害する行為をし、勧告を聞かず頑迷な信者に対して、法に基づいて隔離と処罰を行う。

5 正常な法執行を保護し、理不尽な騒ぎをしたり、関係部門の法執行を妨害したり、犯罪教徒を処罰したりする公務者に厳罰を科したり、大勢で騒ぎを起こしたりして法執行部門に圧力をかけたりして、法執行部門が一部の違法な信者を処罰することを放棄しようとする勇気がないようにしたりする。

7 誰もが良い宗教修持方法を持つことを提唱する：

1 主に宗教の理念を実践することであり、各種宗教儀式の活動を重視することではない。宗教活動には適切な儀式があってもよく、儀式を通じて理念を深めることができます。例えば、礼拝の礼儀は先生をもっと尊重し、もっとまじめに勉強することができますが、形式に浮いて本当に学ぶこと、やることを忘れてはいけません。例えば、仏教を信じる人の中には、仏教の慈悲を重んじ、人と善をなす、利他共勝、善行を重んじ徳を積むという理念ではなく、毎日焼香、打頭、読経、輪廻などの宗教儀式を重んじている人がいるが、それは逆行している。特にチベット族の地域では儀式に力を入れすぎており、頭をたたいて何キロもたたく距離や、何度も回転する経綸を含めて、守ってもらえる人もいるので、不幸にも怒っているのではないかと悲しくなります。実は多くの宗教自体も形式化に反対する活動であり、仏教の主要経典である経文金剛経を含めて形式化に反対する見解である https://www.zhihu.com/question/287783577/answer/468438874 多くの真の得道高僧も儀式ではなく理念を実践することを提唱しているが、多くの人が誤解して形式化しすぎているだけでなく、キリスト教の人は仏教徒が形式とひざまずいて像を拝む行為を非常に非難している。

2 塑像崇拝に別れを告げ、宗教を心の中に置く。神仏は心の中でいいので、神仏を精巧な塑像にしたり、荘厳な寺に置いたりする必要はありません。

3 焼香ろうそくの紙銭、供え物を用いて神仏に拝むのをやめた。天地、神霊、万物などに対して拝むのではなく敬い、さらに重要なのは儀式や祭物を通じて彼を喜ばせるのではなく、神様が生前提唱した精神理念を実践することであり、彼らは私たちがその品格、精神を受け継ぐことをもっと望んでいる。神仏は紙のお金や食べ物などの生贄には必要ありません。彼らは肉体の人ではなく食べ物を食べる必要はありませんが、紙のお金は本当のお金ではなく人をごまかす偽札です。そして神仏は汚職官吏

のように誰が得た利益で誰かを助けるのではなく、誰が与えた贈り物が多いからといって誰かを守ることはありません。

4 普通の、無欲な気持ちで宗教を信仰する。宗教はただ人にもっと精神的な寄託をさせ、落ち込んだり焦ったりする心理を調節し、バランスを取ることができるだけでなく、宗教を信じるからといって何か報われるわけではなく、報われるには主に自分の努力と他人に良いことが必要だ。

5 自分をよくして、神のご加護を祈ることに希望を託すことはできません。特に汚職など他人を侵害して集団を侵害しているのに、神頼みをして平安を守ろうとするのはおかしい。

6 自分の精神をより託すことができ、より心の慰めを得ることができ、より自在に生きることができる宗教を選び、自分に心理的負担をかけ、さらに精神的足かせをかける宗教を捨てる。キリスト教が信者に自分の罪を懺悔させ、改めることで安心と新生を得られること、仏教が信者に悪を捨てて善を上げさせ、善行を積むことで心の自在を得ることは、いずれも悪くない。

7 教内の他の人を卑下せず平等に扱う。他の人を尊重すればいいのであって、上の人に従順になったり屈従したりしなくても、下の級の、新しい人にあごを使ってはいけない。

8 公共の場では、他人に悪影響を与えないように宗教的な服装をしないほうがいい。

9 宗教機関に寄付しないで、必要な貧しい人々や機関に寄付してください。そうしないと、宗教機関に寄付するのは多くが飲み込まれてしまいます。

8 宗教的被害を受けた人々を救う必要がある：

今の世界では、多くの人が文明社会に住み、気楽に暮らしているが、私たちは依然として多くの人が不良宗教に毒され、迫害され、依然として水の中で暮らしていることを忘れてはならない。

宗教によって自由が失われ、富の損失をもたらした宗教の抑圧、迫害を受けている人は、世界中にまだたくさんいる。現代社会の文明と対立する宗教の中には、依然として世界で大活躍しているものもあり、いくつかの宗教国家が依然として存在し、民衆を深刻に迫害しているものもある。

9 天下泰平を保つために全力を尽くして悪を退治する

1 悪を懲らしめ悪を取り除く必要性、緊迫性：

すべての衆生の合法的かつ正当な権益侵害に対する言動や思想は悪と呼ぶことができ、悪はみんなにとって脅威であり、みんなの損失をもたらし、みんなの自由、安全、命を傷つけることさえある。

悪と善も対立しており、悪の存在と発展は必然的に善の存在を阻止し、破壊する。悪が1寸進むごとに、善は必ず1尺退く。

そのため、揚善はまず悪を懲らしめなければならず、できるだけ悪を取り除き、できるだけ悪の存在を減らし、根絶しなければならない。

そして、悪はそれに従って強がり、食髄知味も急速に増加し、膨張するが、被害者の反抗の力も悪に侵されるにつれてますます弱くなるので、悪に対する反抗は必ず早めに、タイムリーに、さもなくばそれが膨張してきたら、それに勝つのは難しくなる。例えば、さまざまな圧迫を受けて、生存空間がないことを免れ、圧迫実施者の鼻息を仰いでこそ生存できる時、その時は抵抗する力がありにくくなり、奴隷になって奴隷主の恵みでしか腹を満たすことができない時のように、奴隷主に対抗することは全くできない。

また、悪はできるだけ早く取り除かなければならない。そうしないと、被害を受ける人はますます多くなるだろう。私たちは最も切実な心理状態で悪を扱い、憎しみを憎み、最もタイムリーで最速の速度で悪を取り除き、悪を実施していないか芽生えていない状態で消滅させたほうがいい。

悪に対する懲罰も厳しくしなければならない。

悪に対しても決して寛容ではなく、悪意のない過失や過ちを犯すことに対しては寛容ではあるが、悪意のあるものに対しては寛容ではない。悪に対しては寛容で、甘やかすことでやりたい放題になるからだ。悪党は最初から悪党だったのではなく、悪行をして罰せられなかったからこそ、もっと野放図に悪党になったのだ。大きな皇権に対する悪の忍耐があれば、皇権はますますやりたい放題になり、社会の専制はますます深刻になり、また一部の人が歴史を逆行する行為に黙っていても、それがさらに

やりたい放題になり、深刻な悪果をもたらし、一部の悪法、不良政策に反対しなかったり、個人だけが声を出したりする（例えば、以前は農村の手続きの不備な家を一刀両断に解体しても、実際の状況にフィードバックして運動を停止する人は極めて少なく、また最近はネット番号法を推進し、意見を求める公示を発表する必要があり、みんなはよくないことを知っているが、意外にも少数の人は声を出して、数人の教授だけが声を出す）。実行して、順調に実行して、沈黙と陰で文句ばかり言う国人に対して、確かにその不幸を悲しんで怒って争わない。嫌がらせの売り込み電話のような小さなものは、基本的には拒否しているだけで、悪口を言ったり、さらに通報したりしていないので、ますます氾濫しています。また、以前のバス輪姦の女性を略奪して他の人が黙っていた事件や、山東省の入室強盗強姦による夫婦虐殺事件も、抗争に遭遇せずに極度に釈放された人はいなかった。

寛容さを通じて悪人にも感化されることがあるが、悪行をした人が自分が間違っていて感化されて悔い改める可能性があることを認識していない限り、私たちは適切に「徳をもって恨みに報いる」ことができ、それでも恩を着せ、罰を受けて過ちを認識させながら適切に寛容にしなければならない。

また悪に対しては根絶しなければならず、決して悪事を繰り返してはならず、最後まで闘わなければならず、悪事を尽くして後患を絶ち、一気に追い詰めなければ、悪は残存し、喘ぎを得て能力を回復した後にまた巻き返してくるだろう。真に受けて、悪事を除いて尽くす、。

私たち一人一人が正義を堅持し、憎悪を憎み、衆生を保護し、混乱や災厄を受けずに社会の良好な運営を確保しなければならない。

悪に対してもまぐれ心を持ってはいけない。人を傷つけるだけで自分を傷つけることはないと思って、それを十分に実行すれば止まると空想して、悪は止まることなく強くなるだけで、できるだけ多くの人を傷つけることができる。

様々な邪悪や不良行為に対して、私たちは憎しみを憎んで決して容赦せず、被害を受けたのが自分ではないとしても断固として制止しなければならない。エドモンド・バークが言ったように「邪悪が盛んである唯一の条件は、善良な者の沈黙だ」としたため、ナバルニも「邪悪が勝利を得るために必要なのは善人の不作為だけだ」と述べ、私たちが不作為、適時に邪悪を制止しなければ、邪悪は膨張し、横行し、盛んになり、私たちもいずれ被害者になり、幸いにも直接被害者にならなかったとしても、邪悪な氾濫の被害が大きすぎて社会が崩壊し、社会全体が玉石焼失し、巣の下に卵がなくても、私たちは間接的な被害者に姑息姦通罪を設立し、悪い行為を見せるためには制止し、制止できないものは警察に通報することを立法することを提案し、そうしないと姑息姦通が処罰されることになる。例えば、誰かが公有財産を横領したり、他人を傷つけたり、他人の人身の自由を制限したりするなどの悪質な行為を見ても、制止しなかったり警察に通報しなかったりするのは、姑息であり、懲戒されなければならない。

悪の勢力に対して原則のない忍耐と姑息な養奸、発生した各種の不公平に対して正義を伸張せず、不合理なものに対してその改善を推進せずに遷移し、社会はますます悪化し、最終的には一人一人が被害者になるだろう。中国の各王朝は往々にして成立したばかりの頃には政治通が和んでいたが、次第に汚職や腐敗、悪事を働いている人がいて、みんなは我慢して無視して、自分に迷惑をかけたくないと思って、結果的に社会は腐敗を悪化させ続け、最後にはみんなが生存できなくなって、この時になってやっと少数の人がやむを得ず抵抗したが、利益既得者はほとんどの富の占有に譲歩しないことに慣れているため、抵抗する人は暴力抵抗を採用してこそ効果があり、結

果的に暴力抵抗は社会の激動と生霊塗炭の災難をもたらし、社会が最後にリセットされて秩序を回復することができても、暴力革命の中で暴力革命の必然的な結果が生まれる――新たな拘束されない独裁政権、社会はまた新たな悪循環に入るだろう。欧米の社会では、悪い点があるとみんなが提案、議論、批判、暴露、苦情、訴訟、抗議、抗争などの様々な方法で反対、ボイコットを行い、悪い点が彼らに関係なくても彼らはいつも「お節介」をして、結果的に社会はますます浄化と改良を行い、みんなもっとよく暮らしている。また古今東西、多くの宥和政策、特に第二次世界大戦時のヒトラーに対する宥和政策は、いくつかの利益を犠牲にして悪人の一時的な満足を取り替えることができると思っていたが、結局は悪人をさらに野放図にし、より大きな災難をもたらすだけだった。近年、世界は北方のある国の独裁指導者に何度も譲歩し、それぞれの悪行を阻止しないことで、野心がますます膨張し、さらにあちこちで波風を立て、しばしば他国を侵略して領土を強奪してきた。私たちはこれ以上調和を重んじてはいけない。調和すべき時は調和し、闘争すべき時は必ず闘争を堅持しなければならない。そうすれば社会の良好な発展を保証することができる。

もし私たちが悪を止めずに発展に任せていたら、最後に私たち自身も被害を受けていたら、私たちも当然のことです。「雪崩の時に雪が一枚もなかったのは罪がない」というように。前述の太平天国、文化大革命などの社会的災難のように、みんなが被害を受けたのも、それを止めずに協力した結果であり、ある程度は自業自得と言える。

私たちも外部の力に期待して私たちの正義を伸ばすことはできません。外部の力が正義を伸ばすのは難しいし、彼らと利害関係がないのに、なぜ彼らは私たちを助けなければならないのですか。

まして神様だけに頼って悪人をやっつけることはできない。天道はすぐに悪を懲らしめることはできません。特にみんなが悪を憎んでいないときは、私たち一人一人が悪を憎んで、自愛して罪に対処しなければなりません。天道だけを待って悪人を収めることはできません。多くの場合、天まで待って片付け、報いを受けなければなりません。悪人はすでに無数の人を傷つけ、生霊を塗炭することにもなりました。

2 中国の嫉妬は仇のようだが、人は臆病で、弱いものをいじめて強いものを恐れる伝統：

中国の歴代には恨みのような多くの事跡があり、凶暴で残虐な敵と反動勢力に直面して、威武は屈することができず、富貴は淫すことができず、威迫を拒否して利益を誘い、死を見て帰すことができず、仁義を捨てて義を取り、文天祥、譚嗣同などの事跡は心を打たれた。甚だしきに至っては嫉妬して仇のように親疎を区別せず、自分の身内、家族が悪事を働いても厳重に処罰し、大義は親を滅ぼし、春秋時代の衛国パラフィンが王殺しの簒奪活動に参加した息子を斬殺したことを最初に記載したように。

仏教、キリスト教には、敵を許して寛容と愛で敵を感化しようとする逆順な教えがある（典型的には『マタイ福音』の内容「誰かがあなたの右の顔を殴って、左の顔も回して彼が殴った」）が、中国では伝統はあまり提唱されていない。儒家が「徳をもって恨みに報いる」ことができるかどうかを議論したとき、孔子の答えはだめで、「直に恨みに報いる」必要があるように。

しかし、数千年の封建的な極権統治の圧迫、恐喝を経て、いくつかの宗教の洗脳を加えて、多くの人はますます臆病になり、強大な勢力の前では万馬斉喚、唯唯諾諾、さまざまな非行の行為の前で多くの人はすでに見て見ぬふりをして、無関心で、

無感覚になり、ただ見物人になるか、自分も脅かされているときは逃げるだけで、自発的に抗争することはめったにありません。弱腰をいじめる悪習にも染まり、おとなしい、弱い人をいじめる。その結果、中国社会はいつも悪化、沈滞に走りやすく、回復するには誰かが力を入れなければならないか、崩壊に向かって再び盤を洗うしか秩序を回復することができないほど、一定の時間で崩壊してしまう。

儒家文化は被支配層が優劣をつけ、柱をすり替える中でも元の尚武、仇のように嫉妬し、暴虐を取り除き、良識を安らかにする血性を失い、臆病になり、権勢を崇拝し、集団の対外戦闘力が激減した（他の非漢族の民族を含め、去勢された儒家文化を施行すると、元の戦闘力が強く、比較的弱体化する）が、内欺軟弱、唯上従、唯権は従である。

多くの人は自分の安全だけを求めて、社会がどうであれ、社会の環境浄化を推進したくなくて、社会が良くなったことを考えないで一人一人が安全でより良いことができます。

甚だしきに至っては、（恥をかかず、はばかることなく）者はかえってより多くの利益を得て、よりよく生きることができる。それは、みんなが善良に服従しても悪と戦うことができず、悪が恣意的に成長して他人を侵害することに任せているからだ（例えば潮汕の言葉が「横暴であれば勝つ」という意味でもあり、横暴であれば勝利する）。考えてみて、誰が無茶をしても、道理をわきまえなくても、みんなが一斉に攻撃していたら、悪い人が勢いを得ることはできないだろう。

臆病で戦う勇気がないと、いつも姑息で悪事を養うことになり、憎悪を憎み、強力に悪を止め、悪を取り除き尽くすという理念を通じて、さまざまな悪を芽に摘み取り、根絶させなかったため、いつも多くの悪を生み出し、悪が善良な罪を害することに任せた。

中国秦漢以来の社会階層の区分は基本的に愚弱な人と一握りのやりたい放題の人と極めて個別の正直な人で、一握りのやりたい放題の人はいつも簡単に極個別の正直な人を負かして他の多くの愚弱な人を踏みにじるので、ずっとヘーゲルが言ったように「中国の歴史は悪党が交代で座っている」のだ。

仏家の対象を問わず、区別のない慈悲文化は、中国で広く流行した後も、悪に対しても慈悲深く、厳しく罰せず、原則的に譲歩しないようになった。

ルールを語らず人道を語らない江湖の義も広く流行し、暴力団の生存ルールを認め、尊重している。求めている義気とは、利己的で小団体の利益のために他人の正当な利益と生命の安全を無視することができることであり、これも弱いものをいじめ、硬いものを恐れる文化を激化させ、大きな危害をもたらしている。

また、政治的、国際関係において、秩序の調和を強調しすぎ、小回りの利益交換とバランスを強調しすぎ、団結を強調しすぎ、集団のイメージを維持しすぎ、闘争にこだわらず、徹底的な闘争をしないのもよくない。往々にして矛盾を隠して表面を和ませ、イメージを維持させたが、悪にしかるべき懲罰を与えず、悪が今後ますます激しくなるために禍根を埋めた。最も典型的なのは梁武帝の侯景に対する姑息な養奸、および近代的に発生したいくつかの無原則な政治的妥協であり、すべて災難の結果を招いた。

東北地方の社会文化の中では軟弱をいじめ硬直を恐れる気風が特に際立っており、悪に対しても異議を唱える人は少なく、姑息に悪事をさせて野放図にさせ、社会の公平と正義を守る上で政府も比較的役割を失い、社会の気風を壊し、ひいては社会の停滞、後退を招いた。

中国人は本当に悲しんで、ほとんどの人は少しも反抗精神がなくて、これまで強

者に対して百人百人百人の言いなりになることしかできなくて、何か悪いことを受けると泣き寝入りして勇気を出して努力することしかできなくて、甚だしきに至っては殺される時にもほとんど少しも反抗していません。これは内部の専制統治を育成しただけでなく、外敵が侵入した時も全く抵抗力がなく、日本が中国を侵略した時のように、多くの日本兵が1発1発で郷鎮を占領することができ、数人は1つの田舎に行ってでたらめをすることができ、しかも持って行った銃を放っておいても、誰も抵抗する勇気がなく、あらゆる侮辱を受けても抵抗することはできない。甚だしきに至っては多くの人は全く気骨がなく、日本が中国に侵攻している間にそんなに多くの売国奴、傀儡軍がいたとは、これは本当に民族の恥辱、国家の悲哀であり、飢え死にし、殺されても裏切り者、走狗をしない気概は消えてしまった。

最近（2024年7月）に発生した温州の李晟医師の殺害も、多くの人が犯人が李医師を追い詰めるのを見て止められず、前に出ようとしても家族に事故を起こすのを心配されて引き戻され、結果的に李医師が凶徒のナイフの下でしか死なないようになったことから、社会がいかに義理堅い人であるかを見ることができ、その時誰かが止めたり、みんなが大声で叫んだりして犯人を怖がらせたりすれば、李医師は救われる可能性があった。

3 悪を懲らしめ悪を取り除く提案、悪と戦う勇気を育成し、悪を懲らしめ悪を取り除く精神を追求する：

悪を退治することには大きな非凡な意味があり、私たち一人一人が努力して追求し、努力して行う価値がある。前述したように、社会のために悪を退治しても福を積むことができ、一悪を除くと多くの人を救うことができるので、十善を行うよりもましだ。

世界にはまだ多くの人が悪の抑圧、残害、拷問、惨殺を受けていることに直面して、私たちは心を痛めなければならない。そして、これ以上しびれたり、黙ったりしてはいけない。これ以上自分のことではなく、無関心だと思ってはいけない。これ以上悪を恐れてはいけない。一緒に行動して、悪を退治するために全力を尽くしなければならない。

みんなはすべての悪いものを見つけ出してそれと戦って、みんなが行動して努力しさえすれば、社会の悪はますます滅ぼされて、私たちの無関心と譲歩のために悪が何の束縛もなく膨張して多くの人を侵害することはありません。

そして悪を小さくして除かないでください。前に友人が広州に来てタクシーに100元以上迂回されたことがあった。私は彼に苦情を言いに来ると言った。彼は100元以上ならいいと言ったが、私は最後にその運転手は処罰されたと主張した。この人は苦情を言わずにもっと多くの人を陥れようとしたが、苦情を言った後は収束し、周りの人にも警告したので、これは100元以上のことではなく、社会全体にかかわることだ。

みんなは悪いことに悪いことを言う習慣を身につけなければならない。悪に出会っても、あえて抵抗しなければならない。激しい反抗は悪を恐れて二度と犯すことができないようにすることができる。そうしないと、弱さは弱音を吐かれて軟土に深く掘られるだけになる。

みんなも率先して悪に対抗するために銃で頭の鳥を撃たれる心配はありません。さらに、悪人は柿を選んで柔らかく握っていることを理解しなければなりません。強硬であれば勝手に握られず、弱気であれば勝手に片付けられます。

また、訴訟の難易度を下げることや、過度に煩雑な手続きを多く設けて悪を懲らしめることが難しいのではなく、より簡単に悪を懲らしめることなど、政府も協力し

なければならない（例えば、訴訟を通じて悪を懲らしめようとするのは非常に難しい非常に面倒なことである）。さらに多くの不合理な制限が存在して、悪に手を焼くことができないと嘆くしかない。

社会全体も孔孟の社会のために功徳をなす正道を尊び、偏狭で利己的な小団体の江湖義気を尊ぶことは少ない。

もちろん、長年にわたって社会に蓄積されてきた悪は非常に多いため、悪を懲らしめることは大きなプロジェクトであり、みんな一人一人が行動し、力を出せるだけ力を出し、できるだけ多くの面をし、できるだけ多くの仕事をする必要があります。

私たちも、悪を懲らしめ悪を取り除くことは自分が福報を得ることができることを信じなければならない。例えば、前に悪を取り除き安良を福報を得ることができる善行積徳の一つとして述べたように、悪を退治し、悪を取り除くことも功徳であり、しかも大功徳である。悪を退治し、悪を取り除くことはより多くの人を傷つけることが少なく、民衆と集団を保護し、社会の安定を確保することができるため、社会的意義は非常に大きい。特に、黒悪勢力や不良官僚と戦ったり、悪政権を倒したりすることができれば、多くの人を救うことができ、功徳は非常に大きい（劉邦、朱元璋なども、そのために大きな功徳を立てて自分の名を青史に残し、福沢の多くの世代の子孫を例に挙げた）。

悪を除くことはみんなの支持と天の神の称賛を得ることができて、自分をもっと順調にさせることができて、悪人が悪人に嫌われるのを怒らせることもできますが、このような憎しみは天道の支持を得ることができなくて、傷つけることはありません。

悪を懲らしめ悪を取り除き、誰もが悲しみに暮れ、誰もが義を尽くして参加しなければならず、誰もができる、誰もができる、誰もができる、力を出すことができる、法に基づいて全面的に悪を徹底的に懲らしめる新時代を開きましょう！

4 悪と戦うための様々な方法：

悪と善は対立していて、ずっと対抗しているものがあって、特に私たちは悪を懲らしめて、悪を取り除くと、さらに悪の対抗を引き起こすことができて、それではどのように悪と戦うのですか？ ここではいくつかの方法、方法を挙げて参考にしてください：

1 悪を行う者に対して助言、勧告を行う。

周囲の人、特に高官には悪を捨てて善に従うように忠告する。

悪を行う者は往々にして自分の利益、体面を追求するため、あるいは単に不正確で、誤った執念を認識するために悪を行った、つまり集団や他の人を傷つけた行為であり、それらの追求を放棄し、その執念を変えることを勧めることができれば、あるいはその行為が皆に強く反対され反撃されることを理解させ、自分の損失をさらに大きくし、身を滅ぼしてこれらの行為を続けることができないことを理解させることができれば、彼らは悪をやめるだろう。

心の悪辣さではなく、誤った認識があり執着心を形成し、結果的に他の人の正当な権益を傷つけることをした悪い人もいます。彼らも彼らが正しい、偉大だと思っています。王莽、王安石が壁にぶつかって深刻になっても、自分が正しいと思っているのは他の人がわざと反対していると思っています。数百万人を殺したカンボジアの赤いクメールの頭のポル・ポトは死ぬまで自分が間違っているとは思っていません。このようなまず最も重要なのは、彼らの認知と思想を変える方法を考えることです

提案、勧告の方式は比較的温和で友好的で、比較的悪を行う者の対抗と報復を招くことはなく、法律手段、対抗闘争手段を通じてより良く、損得者を少なくし、悪を

懲らしめる最も得策である。

忠告は必ずしも有効ではないが、方法が適切で、言うことが理にかなっていれば、大部分の悪行者は多少耳に入ると信じている。誠意を持って金石を開き、愛で悪を施す者を真心で感化し、その利益と感受性、懸念から利害関係を分析し、それのためにより良い生存発展案を提出し、受け入れられると信じている。例えば、ウクライナ侵略戦争を起こしたロシアとプーチン大統領に対しても、彼らのニーズを多く分析し、彼らの考えに耳を傾け、彼らの間違った、悪いニーズに対して是正を勧告し、誘導し、彼らの無傷のニーズに対してできるだけ満足したり、満足したりする案を示したり、彼らの行為が世界に対して同時に彼ら自身にも壊滅的な結果をもたらすことを理解させたりすることができ、それは彼らに改心を勧める可能性もあるかもしれない。

忠告するとき、最も重要なのは利害関係を明らかにし、起こりうる結果を分析してこそ、悪行を行う者をよりよく説得することができる。例えば、民衆を抑圧したり、民衆の利益の感覚を無視したりする統治者に対しては、逆行すると大衆の怒りを引き起こして後で清算され、社会的災難を招いて最終的に玉石が焼かれて自分や家族も逃げられないことを理解させなければならない。社会や歴史の発展、ひいては国家や人民に災いをもたらす権力者に対しては、情勢を硬直させ、権力を必死に握るよりも、早く辞任したほうが、遅かれ早かれみんなに追放される（袁世凱や最近のバングラデシュのハシナ首相を含む歴代の多くの例も）、その時になって身を滅ぼすのはかえってよくない。国を空っぽにした腐敗分子、権力者利益集団に対して、天網恢々疎にして漏らさずともいずれ摘発され、処罰されることを理解させるには、できるだけ早く手を引いて改心しなければならない。虐待を助けようとするタカ犬の手先に対しても、その行為が清算され追責されることを理解させるには、非行をやめ、できるだけ早く主を捨てなければならない。体制に寄生した不労所得が民衆の負担になるだけの人に対しても、いずれ寝返りを打つ民衆に清算させなければならない。

また、悪を施す者に三観を正しくするように忠告し、人間としてより重要なのは社会に有利であり、功績があり、少なくとも社会に有害ではないことを理解させる必要がある。そして、一人で食べたり飲んだりしても富を使うことはできないし、贅沢すぎるとかえって負担が体を壊しやすくなります。富を求めすぎてはいけません。ほどほどにして、利益を得るために手段を選ばずに集団や他人の利益を損なうことはできません。さまざまな名利は道があり、不法な方法で得ることはできません。権力者とその従属者一人一人に、貪欲ではなく、妄ではなく、功業を追求して社会に貢献する人生観を確立させ、名声を重視し、千古の芳香を追求し、個人の私利にばかり目を向けてはならず、手段を選ばずに権力を争い、万年の悪臭を避けるようにしなければならない。

また、善悪有報の法則を通じて悪行を行う者を勧めることもできる。確かに善悪には報いがあることを理解させるには、悪を施したり、不義の財を手に入れたりしても良い末路はないことを理解させなければならない。すべて報復され、罪を治されることになる。そして、自分と家族は不調、財を崩し、病気になり、傷つけられ、急死し、子孫が愚弱、さらには後を絶つなどの悪報を受けることになるので、それは収束する。

また、宗教、礼教、道徳を通じて人に仕事を勧めるには、赤い線を超えてはならない。神と良心にかなって、規則と道徳の一線に合っていなければならない。

勧告の形式には、提案、注意、勧告、報告、提案などが含まれ、方式のは面と向かってコミュニケーション、電話、メール、メール、公式民意収集ルートを通じて伝

言、手紙、ファックス、報告（上疎）、上書、公開状、提案書の発表、文章の発表などができる。

より良い説得効果を形成するためには、勧善団、勧進隊を設立するなど、組織を動員してできるだけ多くの人を参加させることが考えられ、施悪者の家族を動員して施悪者を説得することもできる。また、説得対象者の連絡先をもっと集めてまとめて、多くの人に共有することもできます。

2 法律･法規を通じて悪を懲罰し悪を除く。

個人、集団の利益が侵害され、誰かが法律法規ないし憲法に違反していることが発見された場合、みんなは法律ルート、政府ルートを通じて苦情、通報、摘発、通報、起訴を行い、不良行為を制止し、犯罪者を処罰することができる。

110 または各司法部門への電話通報、12345 市政ホットラインまたは微信による現地の 12345 公衆番号のコメント検索、国務院へのフィードバック（微信による「国務院」のウィジェット検索）、投書･訪問局へのフィードバック（陳情または投書または微信による「国家投書･訪問局」のウィジェットのコメント検索）、規律検査委員会 12388 ホットラインまたは規律検査委員会のウェブサイト www.12388.gov.cn へのコメント、組織部のウェブサイト www.12380.gov.cn へのコメント、裁判所への提訴など、各級各政府部門のウェブサイトと政務プラットフォームにはインタラクティブコラムがコメントで反映されている。

3 監督権を行使して悪行を暴露させる。

例えば、官僚に財産、収入の登録を行い、公開し、監督を受けるようにする政策を打ち出すことができる。

また、すべての公民は法に基づいて政府部門にいくつかの事務、支出を公表、公示、解釈し、登録して検査、監督を受けるように要求することができる。

また、行方不明になった子どもの家族と DNA 照合を行うことで、誘拐した子どもが逃げ出せないようにするために、養子縁組した子どもに DNA 検査と登録を義務付けることも提案されている。

4 見解を示し、悪説に抗議デモをしない。

みんなはすべての悪に対して麻痺して無視したり、逆さまになったりしてはいけない。理路整然といいえと言ってこそ、みんなが反対していることを知ってもらい、みんなに反撃されるのを恐れて勝手気ままになって収束することができない。

みんなは大胆に各種の悪に反対する観点と立場を表現することができて、いかなる公民も表現の自由があって、正式、正規の方式を通じて表現して偏見を持たないで、攻撃を持たないで、問題とリスクがあることはありません。

皆さんの表現も断固として、義理堅くしなければ、悪を施す者をもっと強制的に退けることができません。そうしないと、あまり譲歩しなくてもいいと思わせることができます。

説得、法律、表現などの通常の方法が無効な場合は、声を出して抗議したり、声を出して抗議したりすることもできます。

以下に参考になる表現、抗議方法を示します。

公共メディア（フォーラム、新聞など）、自メディア（微信モーメンツ、ビデオ番号とブログ、微博、ドトーン、今日のトップ、フォーラムなど）で文章、ビデオ表現の観点の立場を発表し、自分の声を出したり、自分が声を出さなければ認められた文章、ビデオに対して称賛、返信、トップ貼り、転送を行うことができる。

公開の場では、一部の人のことを支持したり反対したりすることを含めて、自分の意見や意思を大声で読み上げます。

陳情書や嘆願書を当事者や上級管理部門に渡し、複数人で連署して署名して渡すことができる方が効果的ですが、徳望の高い人やお年寄りを一緒に参加させることができれば効果的です。

公共の場で携帯電話のネットワーク共有を開き、ネットワーク名を自分の意見を表すスローガンに設定し、周りに wifi リストを開く人がいると表示されます。

自分の名前や別名を明示したり、自分の名前を変更する手続きをしたりします。

衣類にスローガンを印刷したり（つまり服をスローガン付きの文化服にしたり）、あちこち歩いて他の人に見せたり、スローガンやロゴが印刷された傘を作ったり、スローガンや意思が書かれたラベルを作って自動車に貼り付けたりするなど、さまざまなアウトドア用品をアピールするために、用品を通じて訴えを表現します。自分がそうする以外にも、プリントシャツを配布したり、他の人に販売したりするなど、他の人に配布するように組織的に作成することもできます。また、応答する人には多くの支持を得ることができます。例えば、業者がスローガンのラベルを商品に貼っている場合は、彼らの商品を多く購入することを奨励します。

自分（個人や会社）のウェブサイトに声明を掲載して立場を表明し、暴行を非難する。例えば欧米の多くの企業がウクライナ侵略を非難し、ウクライナを支持し、ロシアに製品を売らないという声明をウェブサイトに掲載しているが、これも提案、声援の役割を果たすことができる。

施悪者の入り口、公共の場、または自分の場所の外周に横断幕、挙手札を引いて表現する。例えば、ベランダにバナーを掲げて開発者に抗議する住民もいれば、店があれば、入り口に声明を貼ったり、スローガンを貼ったりすることもできます（例えば、誰にも売らない、何かを支持するなど）。

施悪者の入り口、公共の場で座り込み、集団散歩デモをして抗議デモを示す。

悪を施す者の入り口や公共の場で際立った注目を集める行為芸術、例えば怪奇装束、怪奇行為（お尻を見せるような）をする。

公共の場で自傷して自殺する。

投票、採決に積極的に参加し、悪い候補者、候補者を票でブロックする。

虚偽投票、採決に反撃する。投票、採決が操作されている場合は、票を受け取って公開的に引き裂いて影響を与えるか、票に訴えを書いて問責して投票することができる。

より多くの方法で民意を表現する。例えば、投票がなければ、自分で投票（オンラインでもオフラインでも可能で、実際に有効であることを確保する）、世論調査を組織し、これらの投票、調査結果で影響を与えることができる。

ひげを伸ばし、ひげを生やして志を明にする。例えば梅蘭芳は公演を拒否するためにひげを伸ばし、抗日勝利までひげを剃らないことを表明した。

断食は抗議を表し、特に広く注目されている有名で焦点の人物がそうすることで抗議の効果がある。

表現の仕方はまだたくさんあり、どこでも、いつでも何とか表現することができ、表現を続け、表現する人が多くなれば、影響を与えることができます。

5 批判して糾弾する。

悪を施す者に対して公開または非公開の批判、問責、叱責、非難、糾弾、糾弾、罵倒を行うことができる。これにより、悪を行う者に大きなストレスを与えることができます（特に多くの人が同時に世論の波を形成する際には、悪を行う者は心を砕くことができます。袁世凱はみんなの反逆的な親離と強い糾弾の中で憤慨して射殺したのです）、悪を行う者を飽きさせて悪を続けることを放棄させることもできます（例

えば、みんなが広告迷惑電話をかけてきた人を罵倒しに来て、電話を切るだけでなく、多くの人を退却させて就職して広告電話をかけないことができます）。

皆さんは悪を行った者の連絡先を多く収集し、ブラックリストとして公表し、拡散し、多くの人に連絡し、情報を送って注意し、問責し、批判させることができます。

しかし、批判は往々にして反撃や報復を引き起こすこともあり、匿名であることができるときはできるだけ匿名にするなどの防止と対応策を講じなければならない。

6 様々な方式の野次否定。

嘲笑、風刺、鞭打ち、反語を言って明らかに意味の反対の褒める、陰で下品な赤明褒貶を中傷するなどが含まれている。

面と向かって、公開して、直接的にヤジを飛ばして否定する以外に、詩、小説、演劇、漫才、コント、なぞなぞなどの文芸作品の芸術創作を通じて展開することもできて、および古代から現在を風刺して、以外に内を風刺して、桑を指して槐を罵って、天を指して地を罵る方式を通じて展開して、それによって更に巧妙で相手に報復される弱点を残さないようにします。

7 故意に高い帽子をかぶって警告を与える。

例えば、汚職の権力者に「清廉公正」な看板を故意に贈ることも、清廉公正でなければならないことを注意する役割を果たすことができる。

古代の役人は邸宅を建てたり、両親の墓を作ったりすることができたが、もし過ちを犯して免職されたら、これらも撤去して破壊しなければならなかった。そうすれば、役人はいくつかの栄誉が奪われて名誉が汚れるのを避けるために、名誉が汚れるのを避けるために、相対的に無茶をすることはできなかった。

また、政府と民衆のために役人のために祠を建て、功徳碑を立て、万民の傘を送ることもあり、表彰内容と逆のことをしないようにしなければならないというプレッシャーもある。

つまり、栄誉の輪に乗っている人は相対的に無茶をする勇気がなく、崩壊し、身を滅ぼすことを恐れている。

8 悪人の悪口や悪行を記録し、公開し、伝播することも、恐れさせることができる。

悪人に対する悪口や悪行は、事件の発生過程や交渉過程を含めて録音、録画を行うことができ、証拠を残して罰せられるのを恐れて無茶をすることができないようにすることができ、携帯電話などの設備を通じて録画を録音することができ、監視カメラを設置し、録音ビデオを公開することができ、陰で録音することができる。

また、普段も善し悪しの記録や様々な証拠、痕跡の収集を多く行い（ただし根拠のない噂、デマを収集しないように境界を定めなければならない）、さらには人肉捜索を行ってさらにその醜さをかき分け、悪人が後で清算されるのを恐れて悪事をすることができないようにしなければならない。ドイツが東ドイツに分かれていた間、民衆は東ドイツ政府の軍政者に「変天帳」をつけていたが、一定の効果があった。

これらの記録については、悪を行った者に配布して収束させ、改めることができ、それを聞かない場合は、公表し、拡散することができる（ただし、報復されないように隠蔽し、防護しなければならない）。例えば、メディアに発表し、いくつかの公共の場所に掲示し、そして消去が難しいブロックチェーンに記録し、公開し、より多くの人に知ってもらい、そのイメージと評判に影響を与え、みんなの糾弾と法律の懲罰を受けることができる。

9 友好的に扱わない。

各種の言論、行為の上で悪行を働く者に対して交際しない、握手を拒否する、一緒に活動に参加することを拒否する、一緒に写真を撮ることを拒否する、見上げて蔑視する、目を凝らして見る、周りを集める、冷ややかに笑う、大声でちぇっちぇっちぇっ

足で投票することは、独裁国家の民衆が次々と移民したり逃げたり（東ドイツの民衆がベルリンの壁を越えて東ドイツを脱出したり、北朝鮮の民衆が脱北したり）、資本が次々と撤退して移動したりするなど、悪を行う者から逃げたりすることであり、捨てられたと感じさせ、寂しくて自分を反省させる抗争でもある。

また、辞職したり、軍隊になったりしないのも一種の離棄であり、誰も悪を施したり、専制反動的な人と伍したり、彼らのために仕事をしなかったり、彼らの発起、組織の活動に参加しなかったりして、彼らを孤立させ、彼らを孤立させ、悪人を光の司令官にしたりしている。

一部の人を組織から追い出すことも、宗族に対する孤立である。例えば、張氏宗族大会が復活した張勲を除名して宗族を追放すると宣言したのは孤立であり、宗族から与えられた圧力を感じさせる。

また、一部の場合、みんなに避けられず、握手もせず、写真も撮らず、孤立し、ウクライナ侵略を起こしたロシアの指導者は、多くの場合で正義感のある他国の指導者にこのように扱われている。

12 全面的に排斥し、能力を喪失させ、一歩も歩けず、麻痺して運転できないようにする。

誰もが組織と離れても生存することはできません。彼らは社会衣食住などの資源とサービスを得なければ生存と運営を続けることができないので、もし私たちが彼らに反対するならば、それを孤立させ、ボイコットし、方法を尽くして阻止することができて、その効果は非常に効果的です。

悪い人、悪い行為、悪い政策法規は、みんなが認めてボイコットしない限り、彼らは何もしない。強大に見える上から目線の権力も、みんなが認めて服従しているからであり、もしみんなが認めず、従わず、抵抗し、抵抗し、協力せず、協力しなければ、権力は存在しない。

悪人が害をなすことができるのも、多くの人が一緒に悪事を働いているのを雇用し、コントロールし、脅迫し、惑わしてこそ実現することができる。本当に悪のために働く人は多くありません。彼ら自身ではあまり大きな害をすることはできませんが、彼らには助けてくれる人がたくさんいて、彼らを強くしてやりたい放題にしています。つまり、虐待を助けてくれる人が多くて、それが強さをもたらしています。（例えば香港のホー氏が物資制裁を避けたり、ぜいたく品の調達を手伝ったりするのも、恥知らずな幇助行為だ）

反動政府に対して、政府関係者、軍人などを含めて誰もが与えられた五斗米のために腰を折らず、助けず、彼らの鷹犬の足をしなければ、彼らはすぐに光竿司令官、張り子の虎になるだろう。

悪を行う者のために任務を遂行し、助けを提供し、衣食住などの供給を提供すれば、虐待を助長し、罪を深くすることになり、必ず根絶しなければならない。誰もが自分の利益を得るために彼らに近づかないで、彼らの機嫌を取って、彼らに協力して、すべて目を覚まして、彼らに仕事をして、彼らの活動に参加するように指示されないでください。悪いものには参加しない、協力しない、実行しない、足手まといをすることができます。例えば、すべての掘削機の職人が違法な強制解体に参加することを拒否しては、違法な強制解体は展開できません。また、軍人が民衆を弾圧しないことに抵抗すれば、鎮圧できないし、みんなが赤い歌を歌わないか、参加させられても、できるだけ声を出したり、わざと歌ったりしないと、赤い歌を歌う運動はできません。

ボイコットには公開の正面からのボイコットが含まれ、公開不買、従わない、実

行しない、明確に反対する、破壊する、辞職するなどが含まれ、ソフトボイコット、つまり陽奉陰違背、サボタージュ、つまり故意に仕事を磨き、つまずいて、手伝いをするなども含まれている。

公職者に対して、不合理な政策にぶつかっても、フィードバックしても変わらない場合は、できるだけ実行しない、実行を遅らせる、あるいは実行力を最小限に抑える（例えば民衆を弾圧する銃口を 10 センチ高くする）ことができ、そのために辞職することさえ惜しまない、例えば漢朝禄福県令尹嘉は、趙娥が父の仇を討つ事件を処理する上で不合理な法律に対して、職に就き、世論と一緒に中央政府に処理案を調整させた。

みんなは悪人のために働かず、すでに雇われている人はできるだけ早く辞めて（励ましとして、みんなの企業がこれらの辞めた人を優先的に採用することを提唱している）、あるいはしばらく辞められないままサボって、仕事をしないでわざと仕事を台無しにして、面倒を見ている。そして、彼らを見たときには笑顔が少なく、怒りの目が多く、彼らの話には拍手が少なく、ブーイングが多く、彼らの要求には応対が少なく、ごまかしが多く、冷遇されていることを感じさせる。

また、悪人が製品やサービスを購入するための注文を受けないでください。このお金を稼ぐことはできません（不正なお金を稼ぐと悪報を受けることがあります）。製品やサービスを提供しないこと、食品を提供しないこと、必要な用品を販売しないこと、特に犯罪道具を提供しないこと、交通、輸送、医療などのサービスを提供しないことを含む。断供行動を実施することで、悪人の組織を動かすことができずに潰散するしかない。誰かがまだ供給を続けていることについては、みんなも制止することができる。

かつて、「人民の人数ははるかに彼女の統治者に似ている。もし人民が何か食べても無駄な物資を統治者に与えず、相手の軍隊に参加せず、最後まで彼らと戦い、彼らを人民の海に沈めてしまえば、百年どころか 1 ヶ月で政府を転覆させることができる」と言う人を見たことがある。政府が反動すれば、確かに人民はそれをひっくり返しやすい。

誰もが彼らを軽蔑している限り、彼らは罪を犯すことはできません。今では彼らが悪いと思っていない人や、彼らが彼らに従うことを恐れている人がたくさんいます。彼らに与えられたり、彼らと共謀して利益を得ようとしたりするために機嫌を取る人もいます。

13 あらゆる所に困って、悪人や悪人を片づけて、誰もが叫んで殴って、処罰して殺します。

衣食住や医療などの需要の提供から悪人悪人に迷惑をかけ、何とかして彼らを収拾することも含まれている。

皆さんはできるだけ彼らに製品サービスを提供しないだけでなく、組み立てて従順に提供することもできますが、故意に提供する過程でトラブルを起こすこともできます。例えば、彼らを診療する際に故意に誤った診断をしたり、故意に治療を遅らせたり、有害な治療を採用したり、さらにはそれを方法を考えて障害を治したり、死を治したり、彼らに食べ物を提供する際に有害な食べ物を供給したり、故意に食べ物の下で有害な有毒成分を供給したり、散髪サービスを提供する際に故意にミスをして刃物で傷を負わせたり、喉を切られたりすることができ、交通サービスを提供する際にはその時間を遅らせたり、事故を起こして死傷させたり、安全保障サービスを提供する際には故意に安全保障を緩めて襲撃しようとする人に乗じることができる……つま

り悪人悪人悪人に対しては、誰も処罰し、処罰し、処罰し、収拾、悪人人が叫ぶようにみんなに痛撃された。

いくつかのやり方は非正規的な方法ではあるが、他の方法がない場合は、やむを得ず採用するしかない方法であり、誰が悪人や悪人を取り除くことができるかは、社会に対する大きな功徳であり、小節にとらわれたり、個人の利益や危険を考慮しすぎたりする必要はない。

14 呪いを通じて心の力を借りて衝撃を与えることで、悪を行う者の心身の健康に影響を与える。

悪人が災いし、急死することをみんなで祈ってもいい。天地の力と衆生の心の力を借りることで、その衰え、滅亡が加速すると信じている。すべての悪人を呪って、すべての極権暴君はすぐに悪報を受けてすぐに殺され、受難同胞、兄弟姉妹が一日も早く救われることを祈っています。仏教は恨みを鎮める超渡法会を組織するだけでなく、鎮悪法会を組織して、すべての悪人の災厄死を呪うことができ、他の宗教も同様に悪人が天罰と神の処罰を受けることを集団で祈ることができる。

15 制裁、制限を実施することで、悪を施す者が立脚しにくくなり、挙動が困難になる。

不良な人員や組織、政権に対して、さまざまな制裁を実施し、さまざまな制限を設けることも、生存と発展を制限させることができるため、より大きな圧力を受けて混乱を収束させる方法である。

また、悪人や不良組織に製品やサービスを提供している業者や個人にも制裁を加え、悪人や不良組織に対する自白を断つべきだ。

16 内部外部の矛盾を誘導し、刺激して激変させる。

悪行を行うのはすべて人の心を得ず、不法であり、悪行を行うグループの内部及び彼らと他の人は必ず矛盾しており、その内部及び外部の矛盾をさらに爆発させ、激変させることができる。

17 暴力による強力な抗争。

暴力抗争はできるだけ提唱しない。暴力は多くの失敗をもたらすからだ。

しかし、非暴力的で道理をわきまえた方法で行っても無駄であれば、暴力による強力な抗争も考慮するしかない。

18 外部正義の力を導入して悪を退治するのを助ける。

外部正義の力を導入することで、交渉、非難、制裁、武力介入を支援し、悪を施すグループの内部変革や打倒、転覆をより迅速に強制することができるなど、悪をより迅速に、よりよく懲らしめることができる。

5 悪を懲らしめ悪を取り除く闘争に対する自信を確立し、確固としたもの：

邪は正には勝てず、正義は必ず邪悪に勝つので、私たちは必ず悪を退治することができると信じなければならない。

専制反動の強権を含めて、私たちも恐れる必要はありません。前述したように、権力には反動を含む権力はすべてみんなの認可と服従から来ており、もしみんなが彼を認めなければすぐに何もないので、どんなに強大な権力でも、反動であれば、私たちはみんなにはっきりと目覚めさせて彼らが彼らを認めて服従しないことを認識させるだけで、彼らはすぐに崩壊するだろう。誰もが「独裁は必ず死ぬ」という信念を持っていなければならない。独裁がすぐに滅びることを暗示し、独裁を倒した後の素晴らしい光景を想像し続けることができる。

邪悪な力は広範な善良な群体、広範な民衆の力と比べると、取るに足らないものであるため、邪悪な力は一般的に恐喝を通じて大部分の人を沈黙させて抵抗すること

もできないし、声を出すこともできないので、私たちがみんなを起こして抵抗すれば、彼らはすぐにみんなの巨大な力に潰されるだろう。

私たちは戦略的に邪悪な力を軽視しなければならない。すべての邪悪な力、専制極権者は張り子の虎であり、みんなが一斉に反対する限り、尻尾を挟んで逃げるしかない。

もちろん、戦術的には重視しなければならない。闘争の方法技術を重視し、より良い効果を達成すると同時に自分の力をよりよく保存するために。

6 悪を退治するための戦略、テクニック：

1 攻撃心を第一にして、できるだけ正面的で暴力的な対抗を採用しないようにします。

やむを得ず暴力的な対抗を採用しない限り、できるだけ説得、批判、抗議、ボイコットなどの方法で悪行を行った者に自分の過ちを認識させ、悔い改めさせたり、みんなが報復に反対するのを恐れて悪行をすることができなかったりする。

2 方式は先礼後兵、先易後難、順を追って漸進、柔軟に応変し、人によって法を施し、多く管理して斉下する。

採用する方式もまず温和で容易なリスクの小さいものを用いて、更に一歩一歩対抗して難易度の高いリスクの大きいものを採用することができて、例えば先に提案の説得を行って、役に立たなかった後に法律の手段で処理して、まだだめなら批判、抗議、ボイコット、そして強力な抗争をすることができます。

そして柔軟に変化しなければならない。抗争は難しいことが多い。特に悪の実行者はより高い地位にあり、実力が強いが、それは抗争する勇気がない理由にはならない。方法は困難よりも多く、抗争の方法はたくさんあるので、適切な方法を選べばできる。例えば、相手が相談の余地があるならアドバイス、注意を与えることができ、アドバイス、注意が届かなければ、文章を投稿したり、ニュース事件を作ったりすることでそれを見せることができ、それと戦う必要がなくて自分の実力が足りないなら、より多くの人と協力して抵抗することができ、そして最も仕方がないのは、実行が困難になるように協力せずにボイコットすることです（例えば、すべての人が自分の命令や要求を実行せずに仕事ができないようにすることや、生活に影響を与えないように物資を提供することなど）。

人によって法を施すことも大切だ。異なる人に対してその訴えと執念を捉えて異なる処理方法を行う。社会の発展を阻害する人をリストアップし、彼らを改造する方法を考え出した。例えば、良心のない人には、すでに良心がなく、自分が他人のことを考えていないことだけを考えて、悪人、悪吏になっている。悪吏や悪人の共犯者は、利益を得るために虐待を助けようとしているので、悪党を捨てて善に従うように忠告し、他の道を探すようにしなければならない。勧められずに悪を放棄する人には、プレッシャーと罰を与えるしかない。

できるだけ多くの管をそろえてより良い効果を得ることができます。複数の方法を同時に行うことでより効果的になり、あらゆる面から悪を施す者に迷惑をかけてこそ、早く負けてしまうことができる。特に強力な邪悪な力、極端な政権、宗教組織を含め、力の差が大きい場合は、多方面からの圧力を四面楚歌に感じさせるために、多くの方法を同時に展開しなければならない。

悪を除くには手段にこだわる必要はなく、出発点と結果が良いことを確保し、手段と過程は柔軟に応変することができ、目標の実現を確保し、目標の実現を早くすることができることを第一にし、時には非常軌を逸した手段を必要とすることもでき、道徳規範を心の重い足かせにして手を束ねてはならない。例えば、胡林翼が言った

「菩薩の心腸、屠殺夫の手段」のように、特に理不尽なごろつきに対しては理不尽な非常軌を一にし、少なくとも霹靂手段でそれを止めてから道理を説いてそれがさらに大きな危害を及ぼさないようにすることが

3 点をつけて打つと、先小後大先易後に次々と撃破するのは難しい。

複数の処罰の対象があれば、分割して攻撃し、力を集中して一つ一つ撃破することができる。

そして弱小で扱いやすいリスクの小さいものは先に対処してから強大で扱いにくいリスクの大きいものに対処して、例えば個人の存在する悪に対してから組織の存在する悪に対して対処することができます。

4 賊を捕らえるにはまず王を捕らえる。

邪悪な行為は往々にして少数の人が計画し、発動し、組織したものにすぎない。政治学者『暴君はどうやって倒れたのか』の著者マルセル･ディルスが言ったように、「政治制度が民主的でなければあるほど、権力者はごく少数の人の支持によって権力を維持する」。主な責任はこの少数のコア要員が負うのも合理的であり、彼らが張本人であるからだ。

捕虜を捕らえて先に王を捕らえるのも良い策略で、効果が良くて代価が小さい。邪悪な勢力の首謀者を撃ち落とせば、集団を悪に駆り立てる力を瞬時に解消することができる。そして、この少数の人に対処するだけで簡単になり、代価が小さくなります。ある人や何人かが戦争を始めたら、できるだけ指名手配や斬首などを通じてこの戦争の張本人を処罰すればいいのに、その統制された武装勢力と戦争をすることで彼らを制圧し、労力がまだ効果がないようにしなければならない。

主な悪の首領に対しては、速やかに斬首を実施してこそ、世界の安寧を迅速かつ低コストで回復し、迫害された千万人の民衆を救うことができる。ヒトラーやスターリンを斬ることができれば、世界はどれだけ被害を減らすことができるだろうか。最近のイスラエルのテロリスト首領に対する斬首行動も、「捕虜を捕らえるにはまず王を捕らえる」ことの表れである。

もし確かにしばらく元凶を打ち落とすことができなかったら、すぐに倒れる雰囲気を醸し出すことを宣伝しなければならない。もし彼らが倒れると感じたら、彼らの翼、特にその共犯者の殴り手、手先たちは自信と闘志を失うからだ。

5 羽を切って弱点を打ち、悪を施した者の家族、従者を罰し、攻撃し、恐れさせて悪を続けることを放棄する。

その家族、従者、従者は、悪を行う者と同じように安全に保護されておらず、罰されやすく、攻撃されやすいのが弱点で、彼らの 7 寸を打つことに相当するからだ。

彼らの家族、従者、従者は彼らの悪行に忠告せず、彼らの悪行の成果を享受したので、合理的に罰せられた。これらの家族は皆に攻撃されたくないことがあれば、悪を行う者との関係を断絶し、その罪を公に非難し、彼らの生活から離れて物資や援助を受けないことを公に宣言することができる。

翼を切り、協力者に打撃を与えることは、これまで広く採用されてきた闘争方式である。李鴻章が肘を打ち、左宗棠に打撃を与えるために左宗棠を支持する金袋の胡雪岩を先に倒すのが典型的な例であり、相手の側近、部下、家族を処罰することで相手を打撃する政治闘争も多い。

また、バングラデシュの 2024 年の民主運動はこの方法を採用し、誰が大衆を弾圧すれば、大衆は誰の家族を攻撃し、どの高官が民衆に不利な命令と反動的な論調を出したのか、その家族はすぐにみんなに探し出されて処罰され、さらには人に滅ぼされ、最後には役人たち、軍警たちは家族を守るためにこれ以上大衆を弾圧し続ける勇

気がないようにした。

6 悪があれば必ず取り除き、悪を取り除き尽くす。

悪い行為と結果があれば、断固として追及し、見せしめにして再発を根絶しなければならない。孔子が提唱した「恨みに直接報いる」は、悪いものに対しては道理にかなってそれから単刀直入にどのように処理すべきか、厳重に処罰しなければならず、心が弱くて軽く許してはならず、さらに寛容ではなく、態度も厳しく断絶しなければならず、温情脈を持ってはならない。

例えば、現在の司法部門は確かに忙しくて手が回らないのか、それとも何が原因なのか、多くの事件は引きずっていて決着がつかず、うやむやになっている。これは犯罪者が彼らを罰するのが面倒で難しいことを見て、野放図になって、犯罪が多くなって、司法部門もまた忙しくなっていることを見て、司法部門はやはり人手を増やし、効率を高め、悪を取り除き、厳しく罰することを提案して、犯罪活動を収束させることができて、今年（2024年）のマレーシア裁判所がキャンパスいじめの悪意の拷問を実施して同級生を死亡させた5、6人の学生に死刑を言い渡したことに比べて、これからキャンパスいじめを実施する勇気が少なく、国を治めるための重典と言える。

また、日本のトップダウンの軍政関係者は中国などの国を侵略して滔天の罪を犯したが、戦後の彼らに対する処罰力ははるかに不足しており、さらに多くの人、特に最高指導者が処罰されていないため、今後も軍国主義思想を再燃させ、他の国に危害を加えやすいだろう。

また、悪の繁殖を回避し、悪に対する防御をしっかりと行い、天下に悪がないようにするためにも、制度をしっかりと確立しなければならない。

7 討伐と慰めの併用を採用し、悪人悪人に改心できることを見せて抵抗を放棄させる。

ただ主要メンバーを重く処罰し、追従者は悔い改めさえすれば軽く処罰することができ、そしてすべて功罪を償うことを許可してこそ、抵抗力をよりよく減少させ、瓦解させることができるが、格殺勿論、殺無寛容の方式は必死に抵抗することを招き、そして処理の難度を高めて処理時間を延長し、例えば太平天国の処理当時より広く降伏を受け入れた場合、抵抗に遭遇した場合よりも少ない匪賊討伐の代価が低い。

加害者に絶望せずに必死に抵抗する自助の機会があることを見せる。私たちは憎しみを憎んでいるが、極端な心理を持ってはならず、過度な懲罰を採用してはならず、悪に関わる人をすべて死に追いやって殺し尽くすことはできない。

国家を統治する皇室、利益集団は長期的に利益を獲得し、清算されることを防止するために、いつも全力を尽くして反動統治を維持し、どのように彼らを処理し、彼らに社会改革を妨害させないようにするかは重要であり、彼らの改革（政権交代を含む）への支持を交換するために対抗しないで、彼らに待遇を保留し、彼らの往来を追及しないことによって彼らを譲歩して対抗しないようにすることができ、これは多くの国が民主的な転換の中で常用し、かつ効果的な方法であり、中国清朝末期に清皇室を譲ることを含めてもこのようにする。

また、悪人悪人の体面にも気を配り、できるだけ階段を下りるようにしなければならない。

これも城を囲んで闕闕を残す道理であり、人を追い詰めないで隅に逆らうしかなく、人に余地を残し、階段を残しなければならない。

8 邪悪な思想の根源を清算することは特に重要である。

悪行を生む思想に対して批判をしっかりと行い、良い思想の害毒を一掃してこそ、悪が絶えず発生することをよりよく避けることができる。例えば、商鞅に対する

暴政的な社会管理思想はできるだけ早く暴露と批判清算をしっかりと行い、文革思想の遺毒とマルクス列の中の反人類的な思想に対してもできるだけ早く清算批判をしっかりと行わなければならない。

9 宣伝悪の言動ややり口を多く暴露し、推薦悪を取り除く目標を整理することが多い。

悪人悪人はできるだけ自分を隠したり、飾ったりして、悪人悪人であることが見えないようにして、まるで泥棒は自分の顔に泥棒の字を書くことは絶対になくて、甚だしきに至ってはみんなにそれが本当に善美だと思わせるように装って、みんなのためにひいては国のために民のためになって、彼らがしなければならない悪事はこっそりやって、確かにこっそりやることができなくて、堂々とした言い方で物事を大きな包装にすることができます。

私たちは悪の様々な言動とトリックを暴露し、公開し、その正体を認識させ、二度とだまされず、明確に正確に抗争しなければならない。

また、悪退治を推奨する目標を多く整理して発表し、参加させることで、力をより統合し、悪退治をより迅速に行うことができます。例えば、北東アジアのある国では何代もの独裁者が非常に凶暴で、血が借金だらけで、できるだけ早く取り除かなければならないが、多くの人に罰に参加するように呼びかけることをお勧めする。操作上はクラウドファンディングと同じパターンを採用し、クラウドファンディングで悪を取り除くことができます。イスラエルが除去しなければならないテロリストをトランプに整理したことや、国外から脱出した指名手配者の一部もトランプに整理したことも、悪の除去目標を推奨するやり方だ。

10 抗争の力をできるだけ多く発動し、育成し、凝集させ、圧延性が邪悪な力を超えるようにする。

大衆の力に頼って、できるだけ多くの人が一緒に努力して行動し、強力な行動をしなければ、より良く、より速い抗争効果が得られない。少数の人が声を出したり行動したりしているだけではいけません。そうしないと、力が弱くて抗争効果があまりにも得られません。特に罪の大きい悪の極大な力の強大な悪行をする者に対して、更に全国民とその闘争を発動して、誰もが得て殺してしまうことを奨励しなければならない。また、集団集結デモ、連署署名訴願書など、みんなを団結させて強い力を形成する方法でもある。

力が敵よりも大きく超えてこそ、必勝の自信がある。そのため、より多くの人が悪を懲らしめることに参加し、悪を懲らしめる方法、テクニックなどの訓練をしっかりと行い、優れた強大な力を育成し、さまざまな志を同じくする力に対しても団結統一戦をしっかりと行い、最終的には転圧性のある力の優位性を形成しなければならない。

多くの国が行き詰まりを打破できずに民主的自由に入った理由は、専制、利益集団の力が強すぎるためであり、彼らは資源を少し分配することで彼らを引きつけたり、奉仕したりすることができる多くの資源を掌握しているからだ。行き詰まりを打破するために必要な条件は、利益集団の力よりも民主的自由を追求する力が大きいことだ。

11 できるだけ自分を隠し、防護をしっかりと行い、焦らず、自分の力をよりよく保存する。

抗争の過程では匿名でできるだけ匿名で、匿名ではいられないものもできるだけ陰に隠れて露出を減らすことができ、対抗があまり明らかではない行為をできるだけ採用して、悪人に反撃されることをできるだけ減らすことができる。

そして、善悪の悪人が反撃する様々な措置を予想し、みんなとプラットフォームをよりよく保護するために十分な対応の準備をしなければならない。

また、急いではいけない。辛抱強く、短時間で目標を実現できるわけではないことを理解し、長期的にそれを図らなければならない。まず安全に注意し、実力を保存してから、徐々に目標を実現しなければならない。

12 真理と正義を弁護し、正義の力を多く助ける。

物事を恐れて真理と正義が惨害を受けているのをみすみす見て放っておくことはできない。そうしないと社会が後退するだけでなく、真理と正義が失われた後、自分も惨害を受けて戦うことができないことを保証することができる。

7 悪を退治する力をより多く発動し、統合する方法:

より多くの力を集めるためには、宣伝活動をしっかりと行い、より多くの人を目覚めさせ、悪の存在を認識させ、悪と闘わなければ自分をよりよく生きることができないことを知って、他人事だと思っているのではなく、明哲保身だけを知っているのではなく、良い社会はみんなにとってより保障されていることを知って、悪に対しては抗争だけが収束させることができ、すべての勝利は自分の努力によって得られることをみんなに認識させなければならない。悪行をする者がいつ満足したり、良心に気づいたりして悪行をやめたり、悪行をする者同士も庇い合っていると空想してはいけない。悪行をする者の上司が悪行をする者を片付けに来ると空想してはいけないし、外来の力が助けに来るとはあまり期待してはいけない。外来の力自身にも多くの問題があるので、対処しなければならないし、自信がないし、コストの代価が大きすぎても助けに来ないからだ。悪を取り除くことも善行であり、より幸せになることを知ってもらい、悪を退治する活動や、悪を退治するための義務を果たすためにできることを喜んで寄付することができます。また、悪を退治する方向、目標、方法を指導し、訓練し、対応するスキル、ルート、ツールを身につけさせなければならない。

また、悪を懲らしめる組織を設立し、系統的に仕事を展開し、資金と資源を調達し、募集し、訓練活動を展開し、各種運動を発起し、組織することができる。

各階層の人々は団結できる力である。異なる階層、異なる役割の人はそれぞれの役割を果たすことができます。例えば、社会的エリートは組織、力を出す役割を果たすことができ、弁護士の大部分は正義感のある人たちが悪を退治するための法的支援を提供することができ、教師や宗教関係者は彼らの影響力を借りてより多くの人に善から影響を与え、豊かな階層は物を出すことができ、お金を出すことができない人は少なくとも声をかけて応援することができます……。

『悪を懲らしめ悪を除く』の 4 字歌

衆生を傷つけることは、すべて悪と呼ばれ、
悪は一寸進み、善は一尺退き、
全力を尽くして悪を取り除いてこそ、太平になる。
悪は常に善を偽って、惑わされないで、
暴露して隠しにくくする。
悪があれば必ず取り除き、悪を取り除き尽くし、
憎しみを憎み、最後まで戦う。
早めに悪を取り除くのは難しいが、

その害を減らすためには急速にしなければならない。
決して緩和してはならず、宥和してはならない。
無視して黙認すれば、悪は必ず膨張する。
悪を懲らしめ悪を取り除き、誰にも責任があり、
方法は多く、誰もができる。
アドバイス、苦情通報、
公示を監督し、伝播を記録し、
抗議を表明し、批判し、糾弾し、
否定を揶揄し、注意を警告し、
敵意をもって対処し、孤立を捨て、
咆哮を上げ、圧力をかけて威嚇する。
制裁規制、動きにくくする。
全面的に排斥して、どこも困って、
奉らず従わず、怠慢で遅れ、
雇われず、必要に応じず、
絆を破壊し、麻痺させ、
それを得て、何とか片付けて、
呪いは衰えを歌い、強力に抗争する。
法に及ばず、大衆はこれを処罰し、
海に陥れて逃げられない。
邪は正に勝てず、正義は必ず勝つ、
戦略的に軽視し、紙虎を恐れない、
戦術重視、技巧重視。
自分を守り、実力を温存し、
力を合わせて、必勝を確保する。
先にその心を攻撃して、力を尽くして良からと忠告して、
礼をして後兵になり、多くの管理をして斉下する。
分けて打ち、一つ一つ撃破し、
賊を捕らえ王を捕らえ、首を切ることを提唱し、
従属を罰し、弱点を打ち、
撫撫を討伐して併用し、対抗を減らし、
悪理を一掃して、遺毒を絶つ。

10 法治に関するいくつかの思考

法治とは、一部の人の意思に基づいて勝手に処理するのではなく、さまざまなことを法律に基づいて、道理を説くことである。

私たちは必ず法治を追求し、人治に別れを告げ、防止しなければならない。現在も一部の政治家は人治に熱中しており、運動式法執行、指標式法執行、大衆（非専門家）法執行に熱中しており、これによって法律と法定手続きを回避して個人の目的を実施するために、みんなは戒めなければならない。

（抜粋：文革発生の基本的特徴、最も顕著なのは中国の特色ある文革の思考と制度である：1つは「階級闘争を綱とする」、実質的に階級闘争を包装した「人を敵とする」（本当の「人を本とする」ではない）、第二に、リーダーの絶対的権威を迷信し、実質的には為政者個人の絶対専制を守ること、第三に、法も天もなく、憲法を蹴って、党が国を治める、第四に、集団による包装人治、運動による国治）

1 法治のメリット：

1 法治は一人一人の安全を保証することができ、法治がなければ誰もがいつでも安全ではない可能性がある。法治の社会はすべて道理を重んじ、法律に則って、誰も法を越えることができず、勝手に人を片付けることができないので、誰もが安全である。法治がなければ、あるいは法治が健全でなければ、法律を守らずに勝手に片付けられる人もいるだろう。この時、庶民も各級の役人も安全ではなく、役人を含めていつでも最高統治者や他の役人に片付けられ、暗算され、謀害されるリスクがあるが、最高統治者であっても、自分の安全を保証することはできない。法律以外の方法を見つけて処理する人がいるからだ。（他の記事を抜粋：『斯偉江：中国司法の前世今生』）https://mp.weixin.qq.com/s/ZWb1hIHeCR_okfrJEFi9og：重慶のブラックアウトはついにその本領を現し、公権力を利用して社会のすべての階層を破壊し、私営企業級、警察、役人を問わず、安全な人は一人もいない、王立軍でさえ、一人だけが最も安全なようだ）

2 法治こそ社会秩序、政治秩序が混乱しないことを保証することができる。法治がなく、法律や規則を勝手に守らない人もいる。そうすれば、社会事務、国家管理事

務が乱雑になり、廟の上も互いに轢かれてめちゃくちゃになる。

3 法治こそ権力のわがままを防ぎ、腐敗、専制になることができる。法治はすべての人を拘束することができて、権力者を拘束することを含めて、たとえどんなに大きな官がどんなに大きな権力を握っても、誰も勝手にすることはできなくて、このように腐敗、専制を避けることができます。

4 法治こそ誰もが自由に生きることができる。法治は一人一人をむやみにしてはならないと制約し、それによって一人一人の自由な生活、自由な仕事、自由な移動、自由な言論などの基本的権益が他の人のむやみに侵害されないことを保障し、そのため一人一人をもっと自由に生きることができるようにした。

5 法治は人治よりも社会管理の効果を保障することができる。人治の社会は開明な指導者に会わなければ社会をより良い管理を得ることができないが、これは容易に出会うことができない、人治の社会の大部分の上位に立つことができる指導者はすべて勝ち気で物事をするにはベースラインが足りない人で、しかもたまに個別の開明な指導者に会うことができて、権力に腐食されやすくて、すぐに制限や懲罰を受けずに任意のことができることを発見した。逆に、法治の下では、社会の誰もが各方面で順序を追って展開しており、社会管理は指導者の良し悪しと能力の高さにあまり影響されない。

2 法治を実現し、保証する方法:

社会はどのようにして法治を実現し、保証することができるのだろうか。少なくとも次のようなことをしたいと思います。

1 ほとんどの民衆の素質と覚悟が必要だ。誰もが法を知って法を守り、法に基づいて仕事をすることに慣れなければならない。自分でやることができず、原則を守らずに法律を守ったり、他人の無茶をしても反対しないようにしたりすることはできない。社会は法治の管理モデルを構築するのは難しい。

2 社会は比較的民主的でなければならない。民主社会の下でこそ法治は順調に形成され、貫徹されるが、非民主体制の下では法治は確立されにくく、確立されても専制統治者の勝手気ままなことに破壊されやすい。

3 司法の独立を確保しなければならない。司法が独立してこそ、法執行官は牽制されずに権力者にならないことができる。

4 法の制定、法の執行は透明で公開され、民衆とメディアの監督を受けなければならない。このようにしてこそ、暗箱操作を避けることができ、規範的ではなく、無茶な操作がみんなに露出され、制止される。

5 法律を凌駕する人や組織があってはならない。誰も、いかなる組織も法を守らなければならず、権力を握るなどの理由で法を守らないことはできない。

6 すべては法律に準拠している。政策や指示による法律の代替を禁止し、違反者は違憲、違法の審査を受け、処罰を受けなければならない。中国では多くの場合、まず権勢を重んじ、次に関係を重んじ、それから規則、法律を重んじ、そして権勢と関係の前で、規則はすべて融通、無効にすることができる。多くの役人が事故を起こしたのは、「職務上の便利さ、あるいは職権と地位が形成した便利な条件を利用して、他人のために利益を図る」などの問題であり、これからも権勢の役割がいかに大きいかがわかる。いつか権力を恐れず、各方面が指導者の手に握られなくなり、主管部門や指導者に靴を履かれるのを恐れる必要がなくなり、社会は法治社会に入ることができる。

7 民衆が法に基づいて権利を守る難しさとコストを下げなければならない。訴訟

の費用を下げ、訴訟の難易度を下げ、訴訟の手続きやその他のトラブルを減らし、訴訟や訴訟などの法的手段を通じて合法的な権益を守ることを奨励することが含まれている。裁判所と各政府管理部門ができるだけ簡単な訴訟、調停プログラムを発表し、いくつかの権利を簡単に迅速に処理できるようにすることを提案します。そうしないと、裁判所のプログラムは複雑で操作が難しいです。中国は今、訴訟が難しく、訴訟に勝っても結果を得るのが難しいとして、訴訟を通じて問題を解決する努力を放棄している人が多いことも、頼りにならない原因の一つだ。特に民訴官の行政訴訟は、非常に難易度が高く、占有しても訴訟に勝つ確率は非常に低く、変更が必要だ。

8役人の不作為を防止して法治の実現に影響を与えた。また、多くの過ちを犯すのを恐れて常に手をつけない役人もいる。民衆の権益要求に対して、いつも押してしまうことができるのはできるだけ押して、遅くすることができるのはできるだけ遅くして、判定しないことができるのはできるだけ判定しないで、これも解決しなければならない、社会の各方面が十分に、タイムリーに法律に基づいて、道理を説くことができるようにしなければならない。

9法律を普及させ、より多くの人に法律を知ってもらい、法律で権益を守ることが上手になり、必要な人に法律援助を提供しなければならない。多くの民衆は法律を知らず、法律で権益を守ることも知らず、侵害されても泣き寝入りしたり、ひそかに悪口を言ったりするしかない。また、政府の法執行に遭遇した場合、多くの民衆は政府に対して逆風を受けることに慣れており、政府の法執行や管理部門が何を言っているのか、違法だと言ったら違法ではないと言っているのか、政府の決議や判定が正しいかどうかを疑問視する人はいないが、たとえ間違っているか不合理だとしても、自分のために法律などの方法を用いて政府の不合理な行為を弁明し、制止することができず、どのように訴え、再議し、訴訟することができず、あるいは知っているが臆病で、報復を恐れて勇気がない。多くの政府関係者、特に末端の人々は、法律や法規になじみがなく、法律を用いて自分の権益を守ることを知らず、むやみに手を出したり、困ったり、民衆を脅したりすることを利用している。そのためには、広範な民衆、特に末端の民衆に対して法律援助をしっかりと行い、人員を設立して彼らのために無料サービスを提供し、彼らが法律で自分の権益を守ることができるように助ける必要がある。

3 法律を制定するためのいくつかの原則：

1制定された法律は、誰もが平等でなければならず、誰もが守らなくてはならない。つまり、州官だけが火をつけて庶民に明かりをつけてはいけないということだ。

2脆弱性が利用されないように、比較的綿密に作成しなければならない。法律の抜け穴を利用して利益を得ようとする人がよくいるので、法律はできるだけ綿密に作らなければならない。

3 複雑すぎたり、厳しすぎたり、コストを守りすぎたりしてはいけない。ある役人は自分で管理しやすく、問題が発生するのを減らすために、自分が管理不足の責任を負わなければならない。一部の管理規定を非常に厳格に定めて、みんなが恐れて、恐れて、関連業務と活動の展開をできるだけ減らすことが好きで、甚だしきに至っては「むせび泣くために廃食する」ことは直接みんながいくつかの業務と活動に従事することを禁止して、このように業務と活動が発生しなければ管理のリスクと責任がなくて、彼らは完全に枕を高くして安心することができて、庸政怠惰政のやり方である。また、当局者は故意に規制要件を増やし、みんなの仕事の難易度とコストを高めて、自分がもっと民衆を困らせることができるように利益を求めることができて、こ

の方面は特殊な許可証の申請、消防の要求、環境保護の要求などの分野でよく発生しています。また、一部の役人は、よりよくどさくさに紛れて自分の違法行為をより隠蔽し、よりよく人の目を隠すために、わざと複雑な法律法規と手続きを制定し、さまざまな形式化されたプロセスと集団決議を通じて、自分の法に違反し、規律を乱し、利益を図る行為を隠す。

4 機械化、教条化することなく、合理的でなければならない。ある法律法規は、室内が空間利用を増やすために中間層を加えるなど、常に道理に基づいて安全を保証すればよく、使用面積に合わない計画を理由に制限するべきではなく、道理に基づいて、国土部門は土地などの空間を売却し、すでに面積と高さの要求を定めており、購入者は規定の面積と高さの中で使用し、安全を保証すればよく、中は何層か隔てても制限を受ける必要はない。また、環境保護の要求から、養豚数が 500 頭以下の養豚場を閉鎖しなければならない場所もある。この小規模な養殖場は実力が劣るが、必ずしも環境保護が劣っているわけではなく、具体的には要求があるかどうかを見て規模で一刀両断にできない。

5 法的境界線を明確にしなければならず、あいまいさがあってはならず、あまり大きな人為的な操作空間があってはならない。中国の多くの法規はあいまいで、法執行者の裁量の幅が大きいため、役人は多くの方面から簡単に民衆をいじめることができ、行も不も、対も非も彼らが言ったことだ。

6 制定過程と実施後、フィードバック収集、総括分析と審査討論、及び時に不合理、不適切な場所を発見し、適時に調整することが望ましい。すでに実施されている法律法規を含めて、時間が経つと実際の状況が大きく変化したために、いくつかの場所がタイミングに合わなくなる可能性があるので、フィードバック収集と定期的な分析、討論を多くし、調整すべき場所を見つけてタイムリーに調整しなければならない。これは自動車の年審に似ており、毎年 1 回審査してどこが適切でないかを見なければならない。特に中国には現在、合理的ではない法律法規が多く、全面的なシステムの法律法規の整理を開始し、提案をフィードバックし、できるだけ早く不合理な点を改善することを提案している。

4 司法法執行のいくつかの要件：

政府の法執行がうまくできるかどうかは、専門、合理、公平、公正などができるかどうかを含めて、非常に重要であり、うまくいかなければ大きな社会矛盾を引き起こし、社会問題や社会不安を引き起こすことになる。

どのようにして司法の執行を行うことができるのか、少なくとも次のような要求を達成しなければならないと思います。

1 誘導的な政策が法律法規として実行されることを避ける必要がある。いくつかの指導政策、規範指針、提案を法律として民衆に強要する人を防止するためには、すべての政策、指針、提案はみんなに参考と誘導を与えるだけで、自分の意志で実行するかどうかを選択することができ、法律の要求として受け入れ、強制的に実行することはできない。例えば、前の計画出産政策はもともとみんなの希望的な実行を誘導する方法で推進すべきだったが、大部分の地方はそれを法律法規として民衆に強制的に実行し、多くの家庭が被害を受けているのはよくない。また、近年、国は不動産企業、環境保護にかかわる企業、教育機関などの管理政策もしばしば強制的に実行されており、突然停止し、企業、機関も、すべきではなく、大きな経済損失と民生、社会問題をもたらした。

2 明確で十分な根拠がなければならない。十分な証拠がなく、口から出てきただ

けの言い分では、結論を下すことは、受け入れられず、納得することはできない。法治ではない時代、特に古代の皇帝、役人は、他人に対して勝手に生殺与奪することができ、他人に対して勝手に罪を犯して陥れることを含めて、歴代の皇帝が一人を殺そうとするのは勝手に理由を言えばいい、例えば宋高宗は莫須の罪で岳飛を処刑することができ、甚だしきに至っては多くの特務を囲んで常に秘密裏に人を処刑して人を死なせ、地方の役人のもそうで、勝手に人を死地に置くことができ、例えば清末広東水師提督方耀が商人楊俊光を江洋大盗に陥れて斬首し、林乾泰を「外地人」と懸命に排斥し、林乾泰がヘタンを占拠して水利を妨害したことを口実に没収し、その後、林氏の「借金返済」で祠を閉鎖し、舗屋（『陳暁平：孫中山と翠亨村楊殷家族』参照）https://baijiahao.baidu.com/s?id=1743095439933362463&wfr=spider&for=pc）。現代社会では、すべての法律の執行には明確で十分な根拠が必要であり、勝手にでたらめを言ってはならない。

3 公正で合理的で、えこひいきのある、歪んだ法執行と司法判決を根絶しなければならない。公正で合理的なことができなければ、広く、深遠な悪影響を招くことになる。例えばある事件では、転倒した老人を起こした人はかえって誣告され、無実の罪で老人を倒して賠償しなければならないと判定され、それ以来誰も転倒した人を助けることができなかったが、確かにベーコンが言ったように「不公正な判決は 10 回の犯罪よりも悪い。不公正な判決は水を汚染しているからだ」。

4 公平、平等を追求しなければならない。まず、法は尊いものではなく、司法の執行は権力者に譲れず、王子が法を犯して庶民と同罪にならなければならない。次に、民衆に対しても 1 杯の水を平らにし、公平で公正な法執行を図り、個別の対象だけを処罰し、処罰対象を選ぶ時に柔らかいつまみだけを選ぶことを避けるようにしなければならない。いくつかの歴史的、客観的な原因のため、しばしば規定に違反する人が多く、この時は一般的に大きな影響を与えないように個人だけを処罰し、多くの法執行者はより容易に処罰を実施するために、最も深刻な最も典型的な対象を選んで処罰するのではなく、最も弱く最も抵抗する能力のない人を処罰する（例えば、農村部の土地を取り壊して耕作を再開する多くの場所は比較的小さい世帯主が貧しくて抵抗能力のない家を選んで撤去する）。これにより、民衆に不公平で不公正で、甚だしきに至っては弱いものをいじめて硬いものという印象を与え、政府に対して畏敬を感じず、かえって鼻で笑っている。そのため、法執行者に規則違反の主体が多すぎて全面的に規定通りに処罰できない場合、できるだけ全面的に実施できる処罰措置をフィードバックし、協議することができるが、確かにまだ完全に処罰することができない場合、鶏や猿を殺して見せしめにするには、最も深刻で典型的な違法者を捕まえなければならない。

5 簡単に乱暴してはいけないが、真剣に事実を明らかにし、責任を細かく定義しなければならない。多くの法執行は執行面、執行速度などの指標を追求し、法執行者は手間を省くために、いつも簡単で乱暴で、頭ごなしで、各種の客観的な要素を考慮しないで、甚だしきに至っては一部の事件はひょうたん僧がひょうたん事件を判決して草のように解決した。

6 監督を受けるために公開しなければならない。法執行過程の記録をしっかりと行い、法執行官が法執行官の恣意的な法違反をすることができないように透明に監督を受けなければならない。法執行官には、警察が装着している法執行記録計のように、持参した設備を通じて全過程の録音・録画をしっかりと記録し、アーカイブをアップロードしなければならない。アーカイブもネット上に置いて公衆の閲覧を提供し、公開・透明に各方面と民衆の監督を受けることを実現しなければならない。また、国安

部のような秘密の部署であっても、勝手に人を調べたり、人を捕まえたりする権利があってはならず、またその法執行も監督を受けることで秘密を理由に審査や監督を受けないことはできないと公開しなければならない。

7 タイムリーで迅速でなければならない。警察はすぐに出動しなければならず、消防長火のように急いで処理しなければならない。通報を受けてもできるだけ早く立件するかどうかを確定し、立件後も速やかに事件を解決しなければならない。そうすれば、違法を早期に制止し、違法による被害を早期に減らすことができる。

8 長期にわたって全面的に展開し続けなければならない。不合理な法律法規であれば不合理なところを取り除き、問題のない法律法規であれば、やはり真剣に実行しなければならない。一日に三日坊主をしてはいけない、一陣風の運動式法執行をしてはいけない、時々典型を捕まえるだけではいけない。

9 誰の指示や要求に左右されてはならない。司法執行官は仕事をするベースラインを持っていなければならない。すべては法律と道義に基づいて行い、誰の指示や要求にも従わず、権勢を恐れずに規則に違反して司法執行する。

10 違法がないようにするためには、指標的に法を執行することはできない。中国では末端の法執行の不力を防止するために、政策・法規を定着させるために、指標的な法執行を行うのが好きで、1 つの地方、1 つの単位にいくつかの違法なものを捕まえなければならないことを要求して、結果として実際に違法なものはなく、いくつかのものを手に入れなければならない。例えば、前に右派を捕まえるには、人数の 3%で十分な数の右派の人を捕まえなければならないと規定していたが、結果的に多くの人に濡れ衣を着せられた。また、数年前に農村の解体・復耕も各地域にいくつかの民家を解体しなければならないと要求したが、結果的に解体されてはならないものも多く取り壊されて任務を達成した。また、医療分野では病院の有害事象監視システムを推進しており、意外にも病院が毎年いくつかの有害事象を報告しなければならないと規定していたが、結果はもともとなく、いくつかの報告書を作成しなけれ

11 病気を治して人を救うことを目標にして、死を追い払うことを目標にするのではありません。できるだけ適切な処罰と教育を加えて過ちを犯した人に是正させるようにし、特に害が少なく主観的ではない行為に対しても教育を中心にしなければならない。

12 処罰は合理的でなければならない。処罰は法律に従うだけでなく、情と理にも合致しなければならない。時には理にかなっているが非合法な場合があるので、その時は適切に情と理を考慮して調整しなければならない。すべての間違いは法律に基づいて裁量するだけではなく、他人と集団を傷つけたかどうかによって、他人と集団を傷つけなかったのは間違いではなく、処罰されなければならない建物もあります。例えば、手続きが不備ではありますが、もし悪影響がなければ（計画や市の様子に影響を与え、安全上の危険性があり、使用すると邪魔になる）、そして他人や集団の権益を侵害していなければ、建築違反や撤去を要求されるべきではありません。

13 処罰は寛厳で度量があり、できるだけ厳しくしないようにしなければならない。特殊な時期に迅速に混乱させるために、重典を乱用する以外に、適切に厳しい処罰を用いて法律の威厳を確立することができて、普通はやはり法執行対象を厳しく処罰することに適していない、例えば国内では広告法違反に対して 20～100 万の罰金を科すことは、確かに偏りがある。重罰を軽くしたり、厳しく処罰したりしてはならず、法執行対象者の心を不服とさせ、缶を破って転んでより大きな危害を与えてはならない。また、生存できないために犯罪を犯した場合、さらに重罰を科すことはできません。なぜなら、彼らは生存に必要とされているからであり、どんなに深刻な罰を

受けても彼らの生存の需要を止めることはできません。このように重罰を科すと、かえって社会のさらなる混乱を引き起こすことになります。事件に原因があり、強制された犯罪に対しては、処罰を軽くしなければならず、恨みを蓄積するのではなく、主観的な欲望だけの犯罪に対しては、処罰を重くし、それによって天下を見せしめにしなければならない。

14 温和で人情味がなければならない。社会は道理を重んじる社会にならなければならず、人情味のある社会にもならなければならない。特に法律も万能ではなく、全面的ではなく、絶対的に正しいわけではなく、主観的ではない悪意のある、論争のある、当事者が困難であるなどの過ちを処罰する際にも人情味があり、情状酌量しなければならない。一人一人の生命と財産、社会の財産は、法執行の過程ですべて大切にしなければならない。

15 機械化した教条化の硬直した硬直を避ける。多くの場合、実際の状況は非常に複雑であり、司法の執行は実際の状況に応じて適切に柔軟に実行しなければならない。司法の執行対象の主観がどのようなものであるかを見なければならないことを含めて、もし確かに窮地に追い込まれて違法行為をさせられたのであれば、あるいは法を知らずに関連規定があることを知らずに初めて過ちを犯したのであれば、適切に処罰を減免しなければならない。故意に犯したことを知っていて、やらなくてもいいのにやったことに対しては、重罰を加えることができる。客観的な要素が存在する問題、あるいは歴史的な原因が残した問題についても、責任者を明確にし、軽く処罰し、適切に処理しなければならない。例えば、農村の一部の住宅用地、建設手続きは完全ではないが、これは基本的に主観的な原因によるものではなく、客観的な原因と歴史的な原因がある。建設中に関連部門の管理が完全ではないので、建設違反として一括して強制的に解体することはできないが、深刻な計画、生態的な影響を与えていない場合は、再処理手続きを通じて費用を追納して解決することができ、確実に解体しなければならない場合にも賠償と配置をしなければならない。

16 裁判所の判決の執行力を高めなければならない。多くの判決は実行されていないが、特に経済賠償は強制的に実行されていないことが多く、処罰されることを心配せずにやりたい放題になっている人もいる。

17 急いではいけないが、みんなに過度な時間を与えることができる。社会問題の中には根強く、あらゆる面や民生問題にかかわるものもあるので、すぐに解決するのは難しいので、急いで要求してすぐに転換することはできず、少しずつ移行する時間を与えることができる。

18 徹底的な実行を求めすぎてはならず、適切に余地を残すことができる。私たちは「法があれば必ず従う」ことを強調していますが、時には完璧を追求することもできず、人が改心の機会を与えずに絶体絶命することを理にかなってはいけません。近年よく耳にするいくつかのことに対する「ゼロ容認」。これは正義感があり政治的に正しいように聞こえるが、何を考えても特殊な状況が存在する。ゼロ容認は理想化絶対化の考え方であり、実際に合わないことと災害を招くことがある。実際には無傷のものについて深く追求する必要はなく、ささいなものについてはともかく、俗に「水が清ければ魚人が察することができなければ徒がいない」と言われているが、社会は適切なゆとりを維持してこそ、より活力がある。歴史的に厳しい刑罰と厳しい法によって社会を管理し、励まし、ひいては民衆が互いに密告してお下げをつかみ合うように強要した時期は、往々にして大治を得ておらず、かえって人心の乖離によって社会問題が多くなり、最後には社会全体が崩壊に向かった。

19 社会秩序に動揺しないようにし、社会のバランスと調和を確保する。社会がま

だ発展・成熟しておらず、大同が実現されていない前には、さまざまな利益集団と勢力が存在するが、互いの間に態勢のバランスが形成され、社会は一定の秩序を形成し、調和がとれている。以前から胡主席が言っていた社会秩序が法律よりも高く、社会秩序が乱れると社会が大乱するというのも一理ある。

20 司法執行部門は独立して介入、制御を受けなければならない。司法執行部門を含む人員は非司法執行システム官僚の管轄と任免、派遣を受けず、部門の経費は非司法執行システム官僚の制御を受けない。司法執行官の任期は適切に長くても有利であるが、米国の最高裁判事の終身制は最高裁判事の独立性を守るためであるなど、司法執行官はより独立性を持っている。中国では、規律検査委員会は司法機関としても独立性を維持し、他の部門や指導者に頼らずに生存し、異端者への打撃に利用されないようにしなければならない。

21 法執行者の権力が大きすぎることを防止し、法執行の合理性、専門性を保証するために、法執行者の審査、裁判所の判決を通じて責任と処罰案を判定することが多い。法執行者の権限に対して制限を設けなければならない。例えば、現在、法執行者の 1 人または少数が法執行対象者に対して巨額の罰金を科すこと、企業を停止すること、巨額の財貨を没収または廃棄すること、価値の大きい家屋建築を取り壊すことなどを決定することができる。これは問題になりやすい。特に現在の法執行権の下で郷・鎮の街に置かれている場合、法執行者の法律専門性は一般的であり、彼らに小さな、通常の法執行を完成させることはできるが、利益価値が高く、状況が複雑で論争のある法執行彼らの権力が大きいと危害が大きい。一部の法規には金額価値の大きい処罰に対して法制審査手続きを踏む必要があるというリストがあるが、規定の大部分は不明確で強制性が足りず、法制審査手続きを踏むかどうかは少数の人が自由に把握しているかどうか、法制審査は法執行部門の内部で行われるだけでも指導者の意見に左右される。規定を改善してほしい。金額、価値が小さい（限界を明記できる）場合を除き、法制審査を行う必要があり、法制審査は法執行部門の人員だけが参加することはできないが、金額、価値が大きい（例えば罰金が 10 万を超えたり、撤去価値が 10 万を超えたり、面積が 50 平方を超えたり）場合は、裁判所の訴訟判決に任せて再執行することを要求している（実際には、以前は撤去価値の高い家は裁判所の判決によって再執行されていたが、現在は多くの地方では手間を省くために裁判所の判決を出さない）、金額が大きくなくても執行対象に異なる意見があっても、行政再議を行うことができるほか、裁判所の判決を求めることもでき、敗訴した場合は必ず負担しなければならない訴訟費用でいいです。

22 司法執行部門は信用に重きを置いて、言うことは実行して、朝令暮改して勝手に変更することはできません。約束した通りに実行して、しばらくしてから調整して、すぐに変更することはできなくて、みんなをどうすることもできなくて、それで損失を受けることもできません。例えば、ある地方の環境保護法執行では、養豚場の移転が要求されており、半年の間に移行して徐々に移転すると約束していたが、数日もしないうちに突然養豚場を強制的に解体しに来て、豚が山いっぱいになってしまった。

23 司法執行部門の効率を高めなければならない。例えば、現在、裁判所が多くの事件を処理していないため、権利擁護者はいずれも長期にわたって列に並んで待つ必要があり、これは一部の人を絶望させ、権利擁護を放棄するしかない。

24 司法執行陣に対しては、事件解決率ではなく、事件解決件数で審査することができる。そうしないと、事件解決率が低いのではないかと恐れて、本来立件すべきものをわざと立件しない。

25 法執行者の素質を高め、規範に基づかない、ひいては悪意のある法執行行為に対する処罰を強化しなければならない。多くの法執行者は法律知識が不足しており、事実の比較的明確化、正しいことの区別、主観的客観的要素の分析、責任主体の判定ができず、客観的事実に反し、責任主体を取り違えた誤った法執行が容易に現れ、ある仕事は積極的に手間を省くために具体的な状況を区別せずに一刀両断に法執行し、法の流れを踏まずに迅速に法執行し、またある仕事は法律条文の本意と目的を理解していないで柔軟な融通を知らずに教科教条の硬直化、機械化して法執行することしかできず、あるものは民衆の利益、感受のために考慮する思想が不足して簡単で乱暴で、ゼロ容忍法執行は柔軟で適切に処理せず、情状酌量の余地を残さの頭の中でわざと民衆をいじめること、ひいては民衆を恐喝することを通じて、選択的な法執行により賄賂を要求したり、公報を脅迫したりして他人に報復したりすることを実現したり、一部の指導者は法執行の実績を完成させたり、上級機関から法執行の不備と認定されないように迅速で乱暴な法執行を強硬に推進したり、時間を急いで流れを歩まず、民衆に弁明の機会を与えなかったりして、甚だしきに至っては法執行事項が自分の問題に関連して死体を滅ぼすために強硬に法執行し、責任を他人に押し付ける（例えば、反乱復耕作中に末端幹部が自分の土地違反であることを隠すために建設違反を招いた事実を隠すために土地違反の責任を追及されないようにし、民衆の家を迅速に撤去し、温情、専門家ではなく、規範ではなく悪意のある法執行はすでに民衆を深刻に傷つけ、政府のイメージを深刻に損害し、政府と民衆の関係を深刻に破壊し、民衆の恨みを招き、社会と政権の安全を危害し、根絶する必要がある。

26 専門的な司法執行が必要であり、大衆の法執行への参加を提唱しない。大衆は法執行を監督することができるが、一般的な状況では法執行に参加するのに適していない。法律には比較的強い専門性があり、司法の法執行はやはり裁判官などの専門家が司法の法執行を展開しなければならない。これまで楓橋の経験を提唱し、文化大革命などの大衆運動と大衆の独裁を提唱したのも利益よりはるかに害が大きく、法律法治を語らずに罪を乱定し、人をむやみに捕まえ、物を乱打し、法律に専門でない人に法を執行させ、権力を無限大にすれば、大きな災難を招くことになりかねない。ある政治家は大衆運動を起こし、大衆の法執行を専門的な司法法執行システムの代わりにし、大衆の衝撃を利用し、自分の政敵を打撃するなど、人に言えない政治的目的を達成するために多くの政治家がいる。

27 司法の執行ミスを回避し、不当な扱いを受けないように、法執行対象者に十分な機会を弁明し、異議を申し立てなければならない。弁明してこそ、物事のいきさつをよりよく明らかにし、責任をよりよく定めることができ、そして確実に法を犯した人に弁明してから反論を得て、自分の間違いがどこにあるのかをよりよく理解することができ、それによってより説得力がある。法執行の際には、まず法執行対象者と異議申し立ての方法を読み上げ、法執行者と事実を陳述し、観点を弁明し、意見を提出することができ、関係部門に行政再議を提出し、行政訴訟を提起することができることを民衆に知ってもらう必要がある。また、行政再議受理部門、つまり司法局、裁判所などを拘束し、行政再議、行政訴訟を提起した民衆を積極的に接待し、協力し、速やかに彼らの訴えを処理しなければならない。法執行部門、指導者の意図に左右されて故意に受理せず、行政再議と訴訟の処理を遅らせてはならない。そうしないと、通報や苦情を発見した場合、巡査が違反者を発見した場合は重罰を科す。また、投書・来訪部門に対しては、民衆が法執行の問題をフィードバックし、誤りを是正する部門として、投書・来訪の処理においても、現在のやり方のように投書・来訪問題を当事者の法執行部門の同級地方政府に任せてはならず、その上級政府に任せなければならな

い。そうしないと、彼らは役人の保護が自分と部下部門に誤りがあることを認めず、投書・来訪者を脅して投書・来訪を取り消させることもあるに違いない。

28 法執行対象の基本的権利を保証しなければならない。発言する権利、発言しない権利、飲食と休憩の権利、通信の権利を含めて、現在は審査された人が判決を下さずに通信の権利を奪って、甚だしきに至っては正常な休憩と飲食を与えないことに対して、正しくなくて、強制的に屈服させられて法執行人の要求に従って自白することをもたらしやすい。

29 法律普及の宣伝をしっかりと行い、法規に慣れていないために民衆が違法になることをできるだけ減らす。法律法規はすべて広く宣伝して人がすべて知っているようにしなければならなくて、宣伝しないで厳格に実行してはいけなくて、できるだけ誰かが故意に法律を知らないだけで過ちを犯して罰せられることを防止します。現在、多くの法規の宣伝は行き届いておらず、法執行対象の多くは処罰されるまでこれらの規定があることを知っている。例えば、多くの違法な耕作処分を受けた民衆は、自然資源部にまだ「八不許」の規定があることを知らない。規定を知らず、主観的で故意ではないために法律に違反して罪のない処罰を受けることを減らすために、新たに改正された行政法も、最初の違反は罰せず、主観的な過ちは罰せず、処罰しないことを強調しているが、これは執行されることは少なく、法執行の中で情状酌量されることが多い。

このような措置を通じて、各級の各種行政法規の制定と執行をより合理的、公平、公正にし、そしてみんなの認可を得て、民衆が処罰されても不満がなく、それによって社会に報復して社会の安定に影響を与えることができないようにすることを望んでいる。

中国では、関連制度がまだ十分ではないことに加え、責任者の素質がまちまちであることから、現在、司法の法執行には多くの問題が存在し、問題の回避と是正をしっかりと行う必要がある。

5 法律の限界と対応：

法律には次のような制限があります。

1 法律は完璧にはできない。法律法規がどんなに周到で周到であっても、やはりバグの抜け穴があるのは避けられない。できるだけ完全にするしかなく、法律を完璧に想像することはできない。

2 法律は全面的に適用することはできない。社会の実際の状況は複雑で、多くの特殊な状況があり、どの法律も基本的には 100%四海をすべて許可することはできず、常に適用されない場所がある。そのため、法律の実施は一刀両断ではなく、実際の状況に応じて適切に処理することもある。

3 法律ではすべてカバーすることはできません。社会は非常に複雑で、法律ではすべてをカバーすることはできず、カバーできないところが多い。そのため、法律があれば社会が太平になるとは期待できない。いつまでも法外な不良行為がたくさん存在するので、法律の不備な抜け穴をつかまえて悪事を働くなという道徳を通じてみんなに言わなければならない。法律を利用してすべてをカバーすることができない人もいて、「法は禁止しなくてもいい」と思っている人もいますが、これは間違っていると思います。禁止していないところは「ため」としか言いようがありません。対応していない法律は管理し、当事者は法律で処罰される必要はありませんが、道徳的非難、世論の口誅、孤立排斥、横眉冷眼、唾棄、むせび泣く叱責、復讐撃など、他の方法で処罰することができます。

4 法律は現実に遅れている。現実的には動的に発展しており、いずれ新しい状況が次々と現れることがあるので、新しい状況があるかどうかを定期的にチェックして、法律の内容を追加する必要があるかどうかを決定したり、法律が適切ではなく修正またはキャンセルしなければならないかどうかをチェックしたりしなければならない。

5 過度な法律は災難を招く。誰もが完璧にすることはできません。よく探せば誰もがいくつかの問題をつかむことができます。ある人は法律や法規を悪用して、わざと人を挑発してお下げをつかむことができて、大きな社会問題を引き起こすことができます。そのため、法律を極致に使わず、社会が過渡的な法規制に拉致されて袋小路に入るのを防ぐことを提唱しなければならない。

6 法律には道徳教化の重要性はなく、社会管理においても道徳教化ほど使いやすく、有効で低コストではない。社会の平和を守ることができるのは、法律ではなく道徳だ。このような法律は全面的にカバーすることができず、どこにでも適用されるわけではないし、抜け穴があることを避けることができないので、法律だけで社会秩序を維持するのではなく、道徳的制約を持って補完しなければならない。また、法律によって社会秩序を維持するのは面倒で、操作コストも比較的に高いため、社会は主に道徳の制約、理念の教化によってみんなに各方面で自覚的に良いことをさせて、それから少数の人ができていないことに対して法律の制約を採用して、法律がまだ法制化されていない場合は再び戦争を使用して、つまり先に刑を礼してから兵を行うことで、社会管理は半分の功倍になる。

6 お互いに和解するように説得し、法律的な手段を過度に悪用しないようにしなければならない：

1 ともすれば法律に訴えるのではなく、民衆の間で多くの意思疎通と協調を奨励する。法律を通じて問題と矛盾を解決するには、みんな疲れてコストが高いので、最善、最低コストの方法はやはりコミュニケーションと協調を通じて和解を実現し、問題を解決して矛盾を解消する。裁判所も大家族の前でできるだけ訴訟を調停することを奨励している。また、各管理部門が他の人や職場に対する苦情を受けても、まず直接苦情処理プログラムに入らず、双方を調整して和解することができ、苦情者の情報が暴露されるのを恐れている場合は、中間で彼らに伝言して苦情者が現れないようにしたり、身元を暴露したり、匿名の情報交換グループでコミュニケーションを取ったりすることができるようにすることを提案している。実際には、誰もがコミュニケーションを取ることができます。十悪非道な人や愚鈍で頑固な人でも、各方面の要求点を見つけ、できるだけ合理的な要求を満たし、不合理な要求を退けるように工夫すれば、紛争は解決されます。確かに相違はありますが、できるだけ理解し合い、寛容になり、同じことを求めて大きなことをし、小さなことをするようにしましょう。

2 人々が法の手段を悪用して人を傷つけたり、自分を利したりして人を不利にしたりする行為をしないようにしなければならない。法律は決して完璧で社会全体をカバーすることはできないため、いつもグレーゾーンがあり、それによっては縁取りボールをする行為をしたり、法律の境界線内になったりする人もいますが、もしこれらの行為が集団の利益や他の人の個人の利益を侵害しておらず、悪影響を与えていない場合は、追及せずに美になることをお勧めします。よくある団地では、公共区域を多く近くで使っている人もいますが、これらの区域は使っても他の人には影響しませんし、他の人もこれらの区域を使うことはありません。この時、ある人は成人の美を抱いているのではなく、人によく見えない、他人が手に入れたのに自分が得られなかっ

たことに嫉妬し、苦情を取ってそれを阻止することは、人に損をしても自分に損をする行為であり、非常に不道徳です。関係部門が苦情を受けた場合、法律に照らし合わせて苦情の内容を評価するほか、苦情の指す内容が集団や他人の権益に確実に影響し、侵害されているかどうかを確認し、もしなければ受理しないことができる。そして、人を傷つけて利己的ではなく、人を不利にする苦情をよくする人には、故意に人を困らせたり、社会管理の仕事量を増やしたりしないように、指導、処罰しなければならない。

第七章 国を治めるための方策（国を治めるためのいくつかの見解）

政府管理の良し悪しは極めて重要であり、政通人和は百業共興であり、体制が不合理であり、政府管理が行き届いていないか、過度にあるいは錯乱しており、政治紛争が絶えず各方面で混乱し、調和がとれていなければ、国家に深刻な社会危機が発生し、経済が停滞し、不況になり、戦乱を引き起こす可能性さえある。

どのようにして政府の管理をしっかりと行い、比較的に良い治国効果を達成することができますか？国を治める方角的な人と事はどうすればいいのだろうか。ここではいくつかの観点を述べて参考にすることができる。

1 政府機能のいくつかの提案

政府は天下の公器であり、その価値は民衆の利益を代表し、維持し、社会発展の法則と実際の状況を結合して適切な政策を制定し、推進することができるかどうか、および各種の状況に基づいていくつかのタイムリーで、適切で、有効な行動措置をとることができるかどうかにある。

社会の発展に伴い、政府の機能は日増しに改善されており、その中で以下のような機能を重点的に行うことを提案している：

1 各方面の人材を吸収し、団結して各方面の力を集める：

国や地域を管理することは企業を経営することと似ており、より多くの人を引きつけ、より多くの資源を集め、さまざまな資源を動員し、一人一人の積極性を引き出して才能を発揮させ、強くすることができる。

人材は組織にとって最も重要で、良い人材が仕事を動かすことができるので、政府は必ず人材の誘致をしっかりと行い、優秀で適切な人材を行政システムに吸収しなければならない。前に一例を見たことがあるが、皇太極が人材を誘致するために工夫を凝らし、さらには14歳になった天才少年劉兆麒を含めて「略奪」（硬軟兼施の誘致）人材を南下することもよくあった。その後、劉兆麒も多くの功績を上げたが、これはファーウェイが近年高給で天才少年を誘致したのと少し似ている。

人材以外にも、各方面の人員、力も重要で、不可欠であり、各種の人員、力が来ても異なる価値を創造し、各方面の各レベルの異なる社会需要と問題を解決することができ、そのためにも誘致、吸収をしっかりと行わなければならない。特に資金資本についても、投資、消費が経済と各方面の事業の発展をよりよく牽引するように、重点的に誘致をしっかりと行わなければならない。

人材と各方面の力を引き付けるためには、文化の多元化、開放的な互換性、管理の緩和的で自由で、開明で友好的で、人を使って型破りで、前を気にせず、小さな隙間を気にせず、国/地域を大人にして発展の機会があり、安住して仕事ができ、十分に役割を発揮できる場所にし、内部の人が幸せを感じ、誇りに思って外部の人があこがれ、殺到しているホットアースにしてはならない。発展の機会が少なく、生存難、排外、不公平、隠れた危険が多く、みんなに魅力がなく、不安を感じて離れていく場所にしてはならない。人を発展させることは人材を引き付ける最大の方法であり、人がここに来て就職し、起業して良い発展を遂げてこそ、人材を引きつけ、引き留めることができるが、人が来ても発展しないことに失望したら、人材が来ないので、来てもじっとしていられない。

良い人材と各方面の人員、力を引きつけ、団結してみんなを結集させ、自由開放でみんなが手を放して発展を図り、人の心を得てみんなが力を合わせて国を建設すれば、必然的に急速に発展し、繁栄するだろう。米国の前の成功は、世界中の多くの優秀な人材と多くの資金を吸収することに成功し、繁栄を実現したものであり、ある国の人材、資金が絶えず流出し、逃げ出し、必ず衰退を招くに違いない。

国家、政権間の戦争、闘争、競争の中で、各方面の人材を吸収して団結して各方面の力を集めることはさらに重要であり、毛沢東が言ったように「私たちの人を多くして、敵の人を少なくする」必要がある。

2 自由な環境を構築し、維持し、民衆の活力、創造力を引き出し、解放する：

自由な環境は創造の温床であり、人は自由な環境の下で自分を放し、思う存分発揮し、無限の潜在力を放出し、驚くべき成果を生み出すことができる。

自由でゆとりがあり、制限が少ない経済管理は、みんなが自由に就職し、起業することができ、経済はより十分に発展することができ、古来、盛世つまり経済発展が比較的に良い時期は政府が経済管理に比較的にゆとりを持って民衆を休息させる年代であり、例えば文景の治、開元盛世、そして富甲世界の宋代である。

自由で包容力のある学術環境は、百家争鳴を形成し、百花斉放を実現することができ、例えば中国の古代思想文化が最も輝かしい時期を創造するのは、春秋時代、民国時代などの社会の最も自由な時期である。しかし、これらの時期の多くは、政府が思想管理に明るいからではなく、基本的には内外の紛争によって政府が社会を管理する余裕がないことや、国民が異なる割拠政権によって制御されている異なる地域から遊離することができ、ある政権によってしっかりと制御される必要はありません。（政府が強すぎるのは往々にして良いことではなく、社会を過度に規制し、抑圧することで社会、経済、文化の発展を阻害することもある）

自由な環境はさらに人材、資源の到来を誘致することができて、香港が国際自由港の位置づけによって、自由開放の優位性によって台頭して発展してきたように。世界各地、基本的に繁栄している場所も自由な場所です。ここ数年、中国経済が不況に向かっているのも、規制が厳しくなり、自由が少なくなっている理由がある。

そのため、政府の重要な機能の 1 つは、自由な社会環境の構築、維持に努め、起業、商品流通、思想交流などの各方面での制限と規制を最小限に抑え、異文化の異なる人々に対してもできるだけ包容し、蓄え、できるだけ社会全体をできるだけ自由に、ゆったりさせることで、すぐにみんなの活力、創造力を解放し、社会の繁栄を実現することができる。

しかし、民衆の自由は一定の角度から言えば政府を弱体化させ、強力な政府と公共の意思決定を形成するのに不利である。かつてポーランドは、過剰な自由と拒否権によって集団事務が阻害されやすい国が弱体化し、現代の一部の国も個人の利益と自由を強調しすぎて、多くの政府プロジェクトが円滑に行われていない。個人の自由を過度に保護することによって集団の大局的利益と公共事務に影響を与えることを避けるために、個人の利益が集団の利益と公共事務と衝突した場合、個人に対して基本的人権、生存権の自由に関連していない場合にも、適切に制限し、多くの人々が少数で多数に従わなければならないようにしなければならない。また、政府もより多くの人の心が認められるようにしなければならない。このように集団の大局的利益の前では、民衆のほとんどの人は大局を重視して一部の自分の自由と利益を譲るだろうし、緊急、特殊な時期にも政府の周りに緊密に団結してばらばらではないだろう。

3 民衆の革新精神を提唱、育成し、全方位的な革新の促進を奨励する：

革新こそが新しい価値を創造し、難問を解決し、激しい同質化競争を避けて消費

を減らし、社会、経済、文化などあらゆる面での発展は革新を必要とし、絶えず発展することができるため、政府は社会革新の気風を導き、奨励し、みんなが多く革新することを提唱し、促進しなければならない。

中国では、多くの人が革新の精神に欠けていたり、革新に投資しなければならず、リスクがあることを懸念しすぎたりして、他の人の製品を模倣するのが好きで、簡単な差別化もしないで、結果的に同質化が深刻で、みんなはお互いに内巻しています。日本では、あまりにも保守的で、謹直な文化もょくなく、多くの人は思想が束縛されていて、大胆に責任を負う勇気がない。の

みんなに思想を解放させ、大胆に考え、大胆に突破し、革新させなければならない。

もちろん、革新の提唱は提案、表彰、奨励だけで行えばょく、具体的にはみんなが自由に選択して、指揮、命令、強要をしないで、政策の傾斜などの行政色のある措置を採用しないで、しかも方向選択の上でできるだけ広範な評議と意見募集に基づいて、少数者の提案だけに基づいてこの少数者が専門家であっても、専門的な意見、実際の状況を多く結合して感覚で空想してはいけないという想像はもちろんです。

また、ハイテクだけがイノベーションだと思ってはいけないし、ハイテクのイノベーションを提唱するだけではいけない。どんな製品やサービスでも、新しい価値を創造したり、コストを下げたりして効率を高めることができるのは、革新であり、サポートすべきであり、重点的にサポートするかどうかは、創造した利益の大きさによって利益をもたらす人の数であり、技術が高いかどうかを見るのではなく、

日本はいくつかの文化の上であまりに謹直で、革新的な突破の精神をも制限して、参考にしなければならない。（他の記事を抜粋：日本ではルールを守ることが最も重要です。革新と発展のために破壊が必要なので、ここは活気に欠けていることを認めざるを得ません。完備した堅苦しい制度の下で、先進社会は呪われているように見えますが、他の場所では、この呪いは日本ほど深刻ではありません）

4 人口の繁栄を促進し、生産創造にできるだけ多くの人を参加させる：

人口は生産力であり、人的資源は社会の最も貴重な資源の一つであり、より多くの人口があってこそより多くの生産創造ができ、そして人的コストを下げることができる。そのため、政府はできるだけ人口の繁栄を促進し、社会を生き続け、動力を奮い立たせ、発展の底力を十分に発揮させる方法を考えなければならない。

同時に、ほとんどの人が生産創造に参加するようにして、一部の人が少ない参加、労働に参加しないことを防止して、生産比消費が大きく、社会の負担、純粋な寄生虫になることを防止しなければならない。例えば宗教の人は往々にしてみんなの供養に依存しているが、かなりの部分の人はあまり社会的価値（精神文化的価値を含む）を生まないか、あるいは消費する資源よりもはるかに価値が多いため、古来から一部の政権は宗教の発展を制限してきた（例えば、中国で発生したいくつかの滅仏運動と韓癒の諫言仏骨が大きいのは、宗教を見た人が多すぎて誰も苦労せずに手に入れ、社会的財産を占有しすぎて経済創造をし、民衆が宗教活動に使う時間が多すぎる）。また、欧米の多くの国が左傾思想の誤解を受けて国民に過度な福祉を与え、貧しい人や難民に過度な配慮を与えていることも、社会救済生活に依存して平然として働きたくない人が産出していないことを招いており、これを正さなければ、引き続き大きな社会問題を引き起こすことになるだろう。また、社会も富を生むのではなく資源を消費する人が多いため、政府関係者や軍人の数をできるだけ減らす必要があります。また、彼らは富を創造するのではなく、欺瞞を通じて他人の富を占有するだけで、物資の価格を高めて利益を得ることを意図的に宣伝している人に打撃を与えなけ

ればなりません。中国は多くの人が富の創造に参加せず、大きな割合の社会的富を奪っているため、社会の一般大衆が苦労して働いているのに生活が苦しいという生存圧力が大きい。

5 一人一人のリソースを十分に活用し、誰もがその才能を発揮できるようにする方法：

人はその才能を尽くしてこそ、より多くの社会的財産を創造することができ、そのために政府は多くの民衆に対して提案指導を行い、組織の手配を行い、みんなを率いて一人一人の資源を十分に発揮し、利用し、一人一人の創造価値、利益を追求する観念を多く育成し、管理の面でも市場経済などよりよく配置し、資源を利用できる管理モデルを多く採用することができる。

例えば、ビジネスプラットフォームは人力物力をより良く、より柔軟に組織し、遊休人力、物資の十分な発揮と利用を促進することができ、多くの提唱を行うことができる。

また、普段暇な時間がある人も忙しくさせています。例えば、精力的な在校生は、彼らを組織して社会実践労働（各方面で仕事をしたり、困難な家庭を支援したり、義診義教、法律援助などの公益活動を展開したり）に参加させたり、社会に貢献したり、実践の中で知識を身につけたりすることができます。また、軍人は戦争や訓練のほかにも労働に参加しています（古代の耕戦制度、屯田制度、近代延安の軍隊が自分で衣食運動をしたりするようなもの）。退職者は、余熱をよりよく発揮するために再雇用したり、社会的な職務を奨励したりすることができます。また、貧困地区の多くの人は普段も暇なので、「労働による救済」道路工事、環境改善などの仕事を展開する。

さまざまな設備、物品、資源についても、利用率を高めるために共有利用を奨励することが多く、共有は最も利用率を高める方法であり、バス、地下鉄、タクシー、飛行機などは共有交通であり、ホテル・旅館は共有宿泊であり、レストラン・レストラン・レストラン・レストランは共有レストランであり、共有資源を十分に利用し、みんなの使用コストを削減することで、共有の範囲をさらに広めることができ、例えば近年最も成功した共有自転車を推進し、自動車賃貸も共有するにはまだ十分に展開されていないだけでなく、多くの科学研究、実験、生産設備も常に遊休しており、共有を推進できれば大きな空間がある。多くの自家用車や住宅の部屋も常に遊休しており、共有することで十分に利用できるようにすることも考えられ、住宅の部屋はすでにアイビーなどのプラットフォームを組織してみんなで利用して賃貸を展開するのも一つの傾向である。

土地については、現在、譲渡時に今後毎年一定の生産額を達成し、十分な坪効果を実現しなければならないことが多く、そうでなければ費用を追納しなければならないことも、土地利用率を高める方法を考えてもらうためである。

いくつかの法律法規の上で、みんなに対して多すぎる制限を避けて、みんなに影響を与えてもっと十分に発揮して、資源は更に十分に利用して、例えば室内は階をプラスして、安全を保証しさえすれば多すぎることを管理しないでください、さもなくばみんなが十分に空間を利用することを妨げました。

6 十分な供給を保証し、十分な競争を促進するなどの方法を通じて、みんなの生活コストを下げる：

政府は皆さんの生活コストを削減してこそ、皆さんが生きやすくなり、良い生活、発展を得ることができ、そのために出産、投資などの各方面の積極性がある。

現在、多くの国では養育コストが高すぎるため、多くの子供を産むことも子供を

産まないこともできず、養育コストを下げなければ出産を促進できない。

また、多くの国では診察困難が高く、民衆の治療コストが高く、病気で貧困になることも多い。

住宅コストが高いことも多くの国と地域に存在する問題であり、民衆の資金を深刻に占用したことで、みんなの生活の質が低下し、生存も資金もなく創業投資を展開することが困難になった。

一部の国では、労働力不足、労働法の要求が高すぎる、労働組合が強すぎるなどのため、労働コストが高すぎるため、みんなの経営コストが高くなり、起業や経営拡大に投資する勇気がない。

また、一部の国では、環境保護の要求、製品とサービス基準の要求などが高すぎるため、企業の経営コストが大幅に増加し、企業の経営難度を高めるだけでなく、製品、サービスのコストも押し上げた。

これらを待って、すべて政府が解決しなければならない問題です。

では、どのようにして各方面のコストを下げることができますか。

まず、民衆の生活、生産に必要な資源、材料に対してできるだけ十分に、供給を開放し、故意に供給を減らし、制限してはならない。例えば、住宅の需要が大きく、土地の供給が必要な地方がある場合は、供給量を故意に制御することなく、より多く供給する方法を考えなければならない。供給が不足すると供給が追いつかず、供給者が座って価格を上げたり、資金を持ったりして価格を上げたりすることになります。

次に、各業界に十分な市場競争を形成させなければならない。参入を開放し、敷居を下げ、競争を維持し、独占や参入制限など競争に影響する要素の存在を防止するために最大限の力を尽くす。競争は効率を高め、コストを下げ、それによって価格を下げる方法を考えさせることができ、真の、十分な競争があれば、コストを下げることができない製品やサービスはありませんが、十分な競争がなければ、非効率で高コストになるのは必然的に高価格につながることになります。一部の国では、ガソリン、電力、通信、タバコなどの独占経営が価格を高めている。また、多くの国では、医療サービスも公共サービスとして公益性を強調されているため、主に政府が医療保険料の支払いをコントロールし、政府が多くの公立病院を設立し、資源や政策をこれらの公立病院に傾斜させすぎて、民間資本が医療サービスの分野に入りにくくなり、入っても不公平な競争に直面し、どこも肘を張って経営しにくいため、医療サービスも十分な競争に欠けている（中国では健康診断業界を除いて特例であり、十分な競争を実現し、健康診断サービスを非常に安くすることがある）。だから各国が困難な医療改革を行っているのは、本質を捉えていないためであり、医療サービスをより市場化し、開放化し、十分な競争を形成する方法がないためであり、民衆サービスの理由は政府が医療資源と人事の大部分をしっかりと掌握し、多くの医療資源、人員が自由に流動し、組み合わせられず、医療サービス経営が堅苦しく、公平で透明な競争が不足していることに加え、安全の名目で薬品、機器の審査要求と医療サービス経営の参入障壁を過度に高めて医療サービスの供給が十分ではなく、結果として医療費は下がりにくいままである。

最も悪い状況は管理制御、独占、市場化であり、結果的に競争が不十分であるだけでなく、市場化の利益追求と権力の腐敗によって価格を押し上げた。例えば、多くの国では医療は独占を管理し、市場化しており、その結果、ほとんどが国の投入を利用して建設されているが、市場化を利用して営利し、ほとんどの営利を購入腐敗などの方法で少数者のポケットに流入させている。サービス価格と費用もその購入腐敗などの潜在的なコストが非常に高いため、競争なしに価格を任意に引き上げ、任意に多

くの検査をし、多くの点滴をし、多くの入院などの過剰な医療を行うことができ、非常に高くなり、庶民の診察の高額な診察難はますます深刻になっている。また、教育も主に政府の手に握られており、競争が非常に少ないため、資源不足にもつながり、教育の良い学校はさらに少なく、一部の人はまたこのような不足と手の権力を利用して大いに利益を得て、みんなの学校、特に良い学校に通うコストが非常に高いことを招いた。多くの人は医療、市場は市場化できず、より公益化すべきだと思っているが、そうではない。公益化は役所のように競争がなく、より効率的でコストが高くなる。逆に、より十分に市場化してこそ、十分な競争をもたらし、コストと価格を下げることができる。また、交通分野にもこのような状況があり、例えば、広深鉄道の運賃や広深一部の道路橋の料金が高すぎると感じる人が多く、同類の競争が不足しており、基本的には公私合資で私有株式を持っているため、より利益を追求している理由もある。

十分な競争を保証するには、独占の出現を防止しなければならない。独占には行政独占と資源独占、技術独占などが含まれ、行政独占は政策を利用して他の人の進出を制限することである。例えば、いくつかの国はいくつかの業界で国計民生に関係することを理由にみんなに参加させずにいくつかの国有企業に経営を与えているが、資源独占については、香港のいくつかの不動産寡占が備蓄土地の大部分を占有して独占を形成しているように独占を形成しており、技術独占は主にコンピュータ、インターネットなどのハイテク業界に現れており、米国は常に市場競争を促進するためにいくつかの大手企業の一部の業界では、大企業が小企業をアウトに追い込むためにわざと超低価格で市場を奪い、小企業が存続できないようにするなど、競争に好影響を与えないように注意しなければならない企業もあり、適切に制止しなければならない。

また、競争は全チェーンの競争でなければならず、支配し、独占している部分もあってはならない。そうしないと、競争による値下げができないだけでなく、競争による価格の上昇も招くことになる。例えば、病院に売って購入した設備、消耗品、薬品など、サプライヤーはますます多くなってきて、サプライヤー間の競争もますます大きくなってきているが、これらの製品はますます安くなるのではなくますます高くなってきている。病院は基本的に独占的に経営しているからであり、病院の中で購入決定権も少数の人の手に握られているからだ。これらのサプライヤーはこれらの数の少ない病院を奪い、これらの病院の中で購入した決定者に販売機会を得るためには、これらの決定者へのリベートを絶えず大きくしなければならない。価格（新しい、価格の高いモデルの発売を含む）、また、サプライヤー側の競争が大きくなっただけでなく、リベートコストが高くなっているだけでなく、落札成約率も少なくなってきているが、毎回最後に落札されなくても、前の広報担当者たちの費用は少なく、返品できない。このようにして、サプライヤーは少量の成約書を何度も未成約の取引を償却できる広報コストを稼ぐことができるようにしなければならない。例えば、10年以上前に大病院がハイエンドカラースーパーを購入した場合、1台あたり200万以上はすでにすごい。近年、国が推進している医療収集も、購入価格を下げるためだが、病院が競合していない場合、病院内で医療用品の購入、使用を少数の人手に抑えると、後の価格は上昇し、サプライヤーたちは現在価格を抑えられているモデルの供給を徐々に停止して新しい高価なモデルを発売する。

再び、企業に対するさまざまな管理と振り回されを減らす必要があります。皆さんに対する管理が多ければ多いほど、皆さんの経営は妨げられてスムーズではありませんし、管理を満たすためには必然的にコストが増加します。例えば、不動産屋さんに受け取った住宅代金、訓練機関に受け取った訓練費を監督管理口座に入れて使えな

いように要求すると、経営者の資金を占用して皆さんの資金投入、回転のコストが増加します。また、不動産業界の多くの規制政策も、不動産業者の経営が規制されて元本に戻るのが遅くなり、各種のコストが増加し、最後には住宅価格を低下させることはなく、むしろ羊毛が犬に出て不動産業者が増加したコストを住宅価格に割り当てることで住宅価格が逆に上昇した。また、ますます要求が高くなり、厳しい環境保護、労働、社会保障、税収などの政策も、みんなの経営コストを絶えず向上させている。そして、右往左往したり、大きくなったりするいくつかの政策要求は、さらにみんなに大きな混乱をもたらし、対処に疲れて経営に影響を与え、対応と適切に処理するコストを増加させ、例えば、前に突然教育業界を厳しく圧迫したが、後にまた開放し、奨励したことで、多くの経営者が大きな損失を受けた。

最後に、一部の宣伝に惑わされて買い占められて物価が上昇しないように、民衆にもっと理性的にしなければならない。例えば、一部の高級タバコや酒は、民衆が体面や人情を求めすぎて、価格が高く押されているため、また、前の住宅価格の虚高もある商店が宣伝して民衆が風に乗って買いあさって高くなる要素である。

要するに、政府は資源の配置をしっかりと行い、十分な供給を保証し、各方面の制限を開放して十分な競争を実現し、各種の過度な不必要な監督管理を減らし、政務などの事務プロセスを簡略化し、各種の労働者が財産を傷つける振り回されないようにし、各種の経済発展に影響する障害を一掃しなければならない。

7 さまざまな無秩序や不合理による社会的な消費を最小限に抑える：

1つの国の内部には規則がなく、無秩序で不合理な場所が少ないほど良く、社会の不要な内部消費を減らし、国と一人一人に様々な理不尽な損失を回避させることができる。

まず、ルールに従って仕事をする習慣を身につけさせなければならない。例えば先進国は往々にして商業規則が比較的よく確立されており、人々は一般的に信用を守り、規則に基づいて仕事をすることを約束しており、またいくつかのブランドが構築できるのも商業規則を守り、各段階のウィンウィンを重視した結果であるが、いくつかの国では、多くの人が規則精神がなく、信用も重視せず、短期的利益と自己利益の最大化を追求するために信義に背き、各段階の協力者に多くの迷惑と損失をもたらし、社会の内消費をもたらしている。

商業取引プラットフォーム、信用プラットフォームを構築することは、社会ルールを構築して消費量を減らすために多くのメリットがあり、多くの展開も可能である。信用観念の欠如した環境の下で、プラットフォーム化された取引がなく、業者は往々にして投機的に顧客をだまし、最大で顧客の利益を搾取することが好きで、そのため以前は各種のぼったくり現象が非常に多かった。プラットフォーム取引を採用すると、費用は顧客が満足して業者を確認しなければ受け取ることができないが、顧客が満足していない場合は返金するにも業者の確認が必要であり、取引双方の様々な行為に記録があり、互いに評価することができるので、みんなはむやみにすることができず、みんなはお互いに防ぐ必要はなく、手間が省け、お互いに消耗しない。

第二に、社会秩序を維持し、さまざまなだましや他人（例えば広告迷惑電話などの過度な売り込み）の邪魔をしないようにしなければならない。これらの行為の実行者自身が社会的価値を創造しているわけではなく、他人が彼らの行為に対応するために時間をかけなければならないことにもつながり、深刻な社会的消費を招いている。

また、一部の人、特に政府関係者が、どさくさに紛れてより隠密に私利を図るために、簡単な問題を故意に複雑化させて社会の消費を大幅に増加させることを防止しなければならない。

中国では、多くの人が生活に疲れているが、主に社会はまだ比較的無秩序であり、様々な詐欺が多く、様々な不確定要素が多く、様々な無端損失にもよく見舞われ、また一つのこと、特に政府、公立単位と付き合うことはいつも複雑すぎて難しい。

8 民衆の悪い認識を取り除き、悪習を取り除く：

民衆は常にいくつかの不良認識が存在し、そのためにいくつかの不良な行為、習慣がある。

政府にも教育、宣伝を通じて民衆をより理性的、文明的、実務的にする義務がある。

例えば、多くの民衆は善行や徳を積むことを重視せずに神像を祭ることを重視しており、神像を祭ることが幸運をもたらすと考えており、そのために多くの費用を費やしている。

また、男尊女卑の観念もあり、宗族の利益を重視しすぎて社会の公平を顧みず勝手に弱体化している観念も、すべて取り除くように誘導しなければならない。

9 悪を懲らしめ善を上げ、民衆の善心、功徳心、恥辱感を引き出し、良好な社会道徳気風を打ち立てる：

一つの社会には善から悪を捨て、功徳を追求し（社会に貢献することを追求する）、負の社会や他人の気風を恥じることがあってこそ、安定して穏やかで、日増しに向上することができる。

政府はこれらの面でいくつかの仕事を展開する必要があります：

まず、暴虐安良を取り除き、各種の悪行を厳しく、適時に処罰し、いかなる悪行も放縦にしないようにしなければならない。中国では現在、司法部門の人身傷害に対する刑事犯罪の捜査処罰は比較的適切であるが、経済上の犯罪に対して悪意を含めて他人の財産を横領する面での処罰は非常に不行き届きであり、経済詐欺を含む行為の多くは処罰されておらず、しかも大部分は裁判所に処理され、当事者に訴訟を通じて権益を守るよう要求しているが、起訴された場合はさまざまな理由で立件されないことが多く、立件されても処理の流れが複雑で周期が長く、判決されても強制執行されないことが多く、一部の人が野放図に他人を陥れる結果となった。実際には明らかに詐欺や悪意のある行為の多くが、刑事犯罪に基づいて迅速に処罰できるはずだ。そうしないと、民衆の権利擁護が難しく、悪を行う人も処罰されることを心配せずに野放図になる。

次に、民衆が善から悪を捨て、功徳を追求する価値観を提唱し、育成しなければならない。民衆に道徳の最低ラインを守らせて良心を消してはならないこと、他人や集団を傷つけたり、天理を傷つけたりすることをしてはならないことを含めて、利他的で、社会に貢献する行為をしたほうがよく、人が天を見ていることを理解させ、頭を三尺挙げて神がいて、善悪に報いることができて、不義の財を得ると災難があり、善行を積むと福をもたらすことができて、運と福陰自身と家族、子孫を改善することができて（寄付箱の中には「種福箱」と名付けて、寄付が福を得ることができるという認識を提案することもできる）、社会に有益なことをすると、千古の芳香を流して社会を今の人はたとえ上層部の人物であっても、自分と家族の利益のために自発的にあるいは脅迫されて天道の良心に背くことをして、断固として悪いことをしないようにしていないで、主に悪報を受けることができることを理解していないはずで、万年の悪臭を残すことを心配していない。

再び、善から悪を捨てることを提唱するために、名声から激励したり処罰したりすることができる。善跡を宣伝し、悪跡を披露することを強化することができ、例え

ば、明朝は全国各地に「旌善亭」と「申明亭」を設立して現地の一部の人の功徳と罪を記録し、よくできたものとよくできないものを公開して多くの人に見せるようにし、現在は徴信記録に記録を行うのも一種の披露方法であり、一部の人の犯罪、失信行為を公共の場に置くスクリーン放送も一つの方法である。また、善行をして徳を積み、社会に貢献した先進者と、他人が社会にダメージを与えたり損失を与えたりする主要な人とことを評価するために功罪評価を行うこともできます。

最後に、正のエネルギーを伝播することを提唱し、負のエネルギーを伝播する者にも警告、懲戒を与え、風清気正の社会雰囲気を形成し、各種の悪俗、有害な思想の害毒を根絶する。

10 民衆の健康を維持、促進する：

民衆は健康であってこそ、よりよく生活し、より幸せで、より創造的な産出ができ、病気治療の費用を減らすことができる。政府は積極的に民衆の健康を守る必要があり、疾病の予防とコントロールをしっかりと行い、民衆の良好な衛生、飲食、トレーニング習慣（過度な飲酒などの良好な習慣がない場合は医療保険の清算割合を減らすことができる）を育成し、また安全ではない不健康食品（ビンロウジ、強い酒など）に対しても規制をしっかりと行い、また人に酒を勧める行為に対して批判、処罰を行う必要がある。

11 法律法規と政策を絶えず最適化する：

法律法規と政策は実施状況、社会発展に応じて絶えず最適化、調整し、社会発展と逆行しないようにしなければならない。

例えば欧米では出産を奨励し、補助金を支給しているが、結果的に質の高い人は補助金に頼らず、やはり出産が少ないが、黒人（米国）、イスラム教徒（欧州）は必死に子供を多く産むことで家族を養い、そして生まれた子供も教養がないという社会の逆淘汰を招いている。この時、政府は出産手当政策を調整し、出産を奨励するには人材の育成を奨励し、教育ができていない子供を処罰し、出産を制限しなければならない。

12 災害救援、弱者支援をしっかりと行い、社会救助、保障システムを構築する：

誰もが困難や危難を抱えているとき、助けられなければ発展の機会を失ったり、事業が失敗したりして寝返りを打つことができなかったり、生命の危険や病気に直面して救助されなければ障害を負ったり、死亡したりする可能性があります。そのため、これ以上家族や社会に貢献することはできませんが、助けられたり、救助されたりすれば、より発展の機会があったり、事業や生命の上で存続できたり、今後家族や社会に貢献することができます。

政府は皆が助け合うことを提唱し、そして自身も救助、保障システムをしっかりと構築し、誰もが困難や危険に直面してもタイムリーで効果的な助けを得ることができるようにしなければならない。

貧困民衆に対しては、救助方法として、経済的な救助のほかに、貧困の原因を分析し、原因について解決するのにも助けなければならない。例えば、能力の問題であれば、より多くの仕事を身につけ、生計を立てる技能、つまり「魚を授ける」ことを訓練し、怠惰で勤勉でなければ、労働への参加を促し、雇用の機会が足

りなければ、何とかして彼らに仕事の機会を提供し、様々な方法で自分の血を作ることができるようにしなければならない。

2 政府活動ガイドラインのいくつかの提案

1 規則に従って仕事をしなければならない

政府の行為はいずれも大きな行為であり、影響が大きいので、自然、経済、社会、人間性などの法則に合致するように慎重に（大国を治めるには小鮮を調理するように）しなければならない。

まず、各種工事建設や農業生産などの面で自然法則に従わなければならない。建設工事は自然の法則に背いて馬に乗ってはいけない。例えば、低い土地に都市部を建設すると、浸水しやすくなるか、浸水を防ぐために多くの大きな代価を払わなければならない。また、深刻な自然災害を引き起こす恐れがある工事もできるだけ展開しないようにしなければならない。自信のないものはできるだけやらない、少なくする、遅くしなければ、損をして、危険が尽きない。農業生産は、天時の節気と地の利に背いてはならず、農業の常識に基づいて生産を展開しなければならない。例えば、近年一部の地方で現れた山を掘って田んぼを造る行為は非常にでたらめだ。

次に、経済管理の上で、必ず経済法則に従わなければならない。例えば、苗を摘んで大躍進を助長してはならず、実際に高大、非現実的な目標を追求してはならず、需給状況を無視して盲目的に生産能力を拡大したり減らしたりしてはならず、市場に自己バランスを調整する機能があることを無視して過度、過度な行政介入をしてはならない。

また、各方面のコスト削減と効率向上を促進する上で、競争が最も価格、コスト削減と効率向上の法則であることを理解し、行政介入を通じてコスト削減と効率向上を実現することを考えずに、競争を促進する方法を考えなければならない。例えば、行政介入を採用して医療改革を推進すると、結果は改革すればするほど複雑になり、医療システムの各段階は多くの管理制御の規定に適応するためのコストがますます高くなり、民衆の診察はかえってますます高くなっている。数年前に推進された医療消耗品医薬品購入2票制を含め、流通段階と対応するコストを削減しようとしたが、市場の法則に反しており、メーカーの操作難易度とコストが増加したが、コストは結局患者に転嫁されるだけで、競争が減少して価格がさらに上昇した。政策を制定した人は本質を捉えていないとしか言いようがない。本来はメカニズムを変え、病院の運営モデルを変えて市場主体にしなければ、市場化、競争化を実現し、コストを下げることができないが、逆行している。

また、民間企業が経済効率で国有企業よりはるかに高いという法則を認識しなければならない。国有企業は非効率で市場の公平な競争を破壊することが多いが、民営経済は活力が最も良く、効率が最も高く、内部の腐敗が最も少なく、家電、携帯電話、自動車、インターネットなどの業界は民間企業に十分に開放された後も効果が非常に良く、業界は急速に発展している。私たちがこの間、国の民退を推進したやり方には、一部の政策が民企業に不利で国有企業に有利であること、例えば不動産などの多くの業界が現在も国有企業に優先的に供給し、国有企業により多くの支持を与えていること、および現在の多くのインフラ入札、医療物資の供給が大型国有企業による供給機会の占有、独占落札に向かっていることなどが含まれており、これも間違いであり、広く懸念されている。できるだけ早く調整して、各経済分野はできるだけ民間企業の参加に十分に開放し、優先的に民間企業を支持し、政府の背景や関係を利用し

て市場の公平な競争に影響を与えないように、国有企業ができるだけ参加しないようにしてほしい。

もちろん、市場化、私有化は人を利に向かいすぎて悪を行うと考える人もいるが、これは論理的ではなく、市場化は富を流動させてみんなにより大きな誘惑を形成し、実際をより重視して利益に向かうようにしているが、一人が悪を行うかどうかは、自分の三観と自己制御にかかっている。その利に向かう程度によらず、三観と教養の良い人は、利に向かうほど他人により良い製品とサービスを提供するために努力することで利益を得ることができるができるが、一方、心の悪い人は、周りの富が多くないか少ないか、自分を損ねて利益を得ることを考えている。

再び、社会管理上は社会法則、人間性の法則に従わなければならない。市場経済の形式を採用してこそ、みんなの生産意欲をよりよく引き出すことができ、人の駆逐性を無視してみんなの利益がなくて仕事の積極性がない仕事と分配のメカニズムを実行することはできない。民主自由があってこそ、みんなの創造力をよりよく解放することができ、世界の民主自由への発展の流れに順応し、民主自由社会をできるだけ早く構築し、流れに逆らって施政・治国することはできない。また、ほとんどの人は利益追求性を持っており、多くの人は拘束しなければ無茶をしない必要があり、誰もが良い人、聖人として国を治めることを理想化するのではなく、さまざまな姦通犯罪を防止しなければならない。歴史上には法則に反して失敗した治国例が多すぎる。例えば、王莽の新政と王安石の変法は、理想化して政治、社会運営のメカニズムと法則に反した結果、いずれも大きな災難を招いた。また、近代にかつて実施された全国民の財産共有化、資本主義の尾を切る、人民公社共同労働、大食堂の平均分配なども人間性の利を追う性に反する体制であり、誰もが積極性を持っていないか、誰もが仕事をすることができず、最後には生産能力が極めて低下し、その失敗も必然である。（他の文章を抜粋：数千年の帝国政治と社会運営のメカニズムと原理に対する深い洞察力と理解といえば、王安石は司馬光よりもその差は足元にも及ばない。司馬光の王安石変法に対する反対は、帝国歴史の脈動に対する正確な理解と把握の上に成り立っている。これは彼の反対をもたらし、極めて強力な基礎と畏敬の力を持っている。）

人の利を追って害を避ける本性は、法家が数千年前から詳しく説明しており、この法則をうまく利用してこそみんなの積極性を駆動することができる。確かに利益駆動があってこそ積極的に仕事をすることができ、利益駆動がなければ積極的に参加したり、陰で抵抗したりすることはありません。そのため、各種管理政策の制定、社会的任務の組織展開は、例えば、これまで国が末端に医療設備をよく調達してきた結果、いつも使わずに隅に積もってほこりができていたことに気づいた。実は、末端の医療スタッフがこれらの設備を使用することは収入を増やすメリットがなく、仕事量と仕事の責任を増やすだけであるため、使用する力がないからだ。

公有制がなぜ非効率なのかは、みんながやり損なっても自分とは関係ないので仕事をしていない積極性が原因でもある。請負制、損益を自負する市場経済はみんなの積極性を引き出すことができて、誰もが方法を考えて効率を高めてコストを下げて、できるだけ人がその才能を尽くして自分の利益をもっと得ることができるようにします。また、さまざまなことができて、さまざまな投資ができて、誰もが深く考えて分析して慎重に行うことができて、このように誰もが頭を働かせて、責任を持って考えて、公有制よりも少数の意思決定者が考えて、しかもこの数人の利益と意思決定の良し悪しはあまり関係がないので、頭をたたいて意思決定をするのではなく、強くなりすぎて、そのため、市場経済の体制は現在の配置資源が最も効果的で、最も効率的な方法である。

つまり、さまざまな法則は逆らうことができず、従う者は栄逆する者は死ぬ。世界の多くの社会主義国は、自然法則、市場法則、社会法則に従わないで国を治めて施政し、公有制、国有独占、計画経済などを推進して、すべて貧困と失敗に向かって、およびいくつかの欧米諸国も左派勢力の影響を受けて均等を強調し、社会福祉を重視しすぎて、結果はすべて経済衰退を招いた。また、これまで公有制を重視して計画経済を採用し、法治を重視しない管理経済、社会の方法と路線は、比較的左寄りで過激で社会法則に反するものであり、甚だしきに至っては一部のやり方はみんなの人間性を消し、天道に反するものであり、歴史もそれが通用しないことを証明し、甚だしきに至っては有害であることを証明しているが、鄧小平同志の改革開放と市場経済を重視する路線こそ、社会経済の発展を促進する効果的な現在も将来も、計画経済、公有制はすでに非効率で腐敗を起こしやすいことが証明されており、これは変えられない法則であり、これ以上推進することはできないことを常にはっきりさせなければならない。

2 民心に順応して仕事をしなければならない

政府が仕事を展開するには必ず民心に順応しなければならず、民心民意に逆らって故意に逆行してはならず、指導者も個人の好みと意志を民衆に押し付けることはできない。そうしないと、民衆から反感を買い、認められず、仕事が進みにくくなります。

民衆に誤解や認識の誤りがあると感じたら、宣伝、議論を展開して認知を正すことができ、みんなの全体的な認識、意見が逆転してから関連政策を実行することができ、もしまだ逆転していないならば、できるだけ強硬に民意と向き合ってはいけない。

民心と民意によりよく順応するためには、通常はさまざまなルートを通じて民衆の意見と声を聞き、多くの民衆の実感を理解し、そして各方面はできるだけ投票などの民主的な意思決定方式を採用して意思決定により多くの人の総合的な意見を体現させる必要がある。古代の個人訪問、現代の世論調査と設立反映、通報、苦情ルート、巡察調査研究は、皆さんの異なる意見をよりよく理解し、収集するためであり、中国の各政府部門のウェブサイトにはコメント欄があり、皆さんにメッセージを残すのも良い点である。ただ、皆さんのメッセージに対して返事をしていないか、テキスト通りにいくつかの規定をごまかしているだけで、的確な返事ではなく、改善する必要がある。

政府の指導者としても、異なる意見を多く聞き、真実を多く理解しなければならない。自分の世界だけではなく、自分の観念に執拗になってはならない。良い話や吉報だけを聞き、心配しないようにしてはならない。実際から離れて民意に背くことをしてはならない。

3 意思決定の上では専門を尊重し、調査研究を十分に検討し、よく考えて行動しなければならない

多くの仕事は専門性が強く、素人が玄人をリードするのではなく、専門を尊重し、専門家の意見を多く聞いたり、意思決定に参加させたりしなければならない。

そして、十分に議論して知恵を集め、調査･研究の確認をしっかりと行わなければならない。

また、料理小鮮のような大国を治めるには、さまざまな決定に慎重にならなければならず、衝動的に頭をたたいて決定するのではなく、よく考えてから実行しなけれ

ばならず、最初は小さな範囲の試験をしてから徐々に全面的に推進することもできる。

4 民衆の利益を優先し、人民と利益を争うのではなく、人民に利益をもたらすよう努めなければならない

孟子が言ったように、「君は社稷次の民を軽んじる」というように、政府は民衆の利益を第一に考え、支配層の利益をより重視することはできず、支配層の利益のために民衆の利益を損なうこともできない。

民を子のように愛し、民衆を大切にし、民衆の財産も大切にし、至る所で民衆の利益を守らなければならない。

そして、民衆に幸福をもたらし、民衆がより多くの利益を得るのを助け、民衆が利益を得て豊かになることを嫉妬するのではなく、先富、大富を許し、奨励し、決して富を均すために抑圧し、豊かになる民衆を打撃し、民衆が利益を得る機会があるのは妨げられず、護衛を守り、できるだけ民の美を助けるようにしなければならない。

民衆と協力する際には分配の面でできるだけ民に利益を与え、一部の分野で民衆の利益と衝突することが発生した場合も多く民衆に譲歩し、民と利益を争うことなく、民衆の発展空間を奪うことはない。

それができれば、民衆を安心させ、政府を認め、政府と心をつなぎ、共同で国を建設しようとするだろう。

もし国の民退、国有企業の優先など民と利益を争い、民企業を圧迫することを推賞すれば、民衆は政府を排斥し、嫌って逃げたり、横になったりするだろう。

5 政権と社会の安定、安全を確保しなければならない

政権が安定し、安全になってこそ、社会は長期的に安定することができる。そうしないと、政権は不安定になり、交代が頻繁になると、社会政策は不安定になり、さらには政権交代で大きな紛争が発生して、各方面が互いに台を取り壊し、さらには互いに攻撃し合い、大喧嘩をすることになり、社会全体の激動は戦争につながり、社会と民衆は災難に見舞われ、玉石が焼かれて炭を塗ることになり、「太平犬になって乱世民にならないほうがましだ」というのがこの道理だ。

そのため、鄧小平が提起した「安定がすべてを圧倒する」のは理にかなっている。政府はまず政権の安定を確保し、指導者や政権チームの交代があっても安定、平和的な移行を確保しなければならない。

指導者交代において、現代の民主選挙は基本的に競争者が結果を受け入れることができ、理由もなく民意に背いて紛争を引き起こすこともできないが、古代にはまだ民主選挙がなかった時代（古い指導者と主要大臣の小規模な議論推挙もあったが現代民主選挙のように定量化されていなかった）、論争なく穏やかに指導者を交代させるために、通常は前の指導者が後継者を指名する方式を採用し、時には後継者が他の人に攻め殺されて代わられるのを避けるために、秘密にして古い指導者が退位したり死んだりしてから公表するが、中国のほとんどの王朝では「嫡男子継承制」を採用し、嫡男ではない他の人に非分別の考えを持たないようにする相続権を争い紛争を減らすために来ないでください。また、古い指導者がこの法則に背くことができず、後継者の人選を勝手に変えることができないようにする（背くとマナー違反だと強く反対する人が多い）ことで、後継者の人選を変えることによる人心の不安定さを減らすことができる。嫡男は立賢ではなく、多くの人に理解されず非難されているが、古代の現代民主選挙がまだ行われていない背景には、指導者の交代を確保して紛争を回避する

ことができる政治的知恵がある。立嫡は非常に明確で明確で、立賢は誰もが自分の方が賢明で適切だと感じており、不服、悔しい、紛争を引き起こすのは避けられない。時には、皇帝に跡継ぎがなく、後継者が指定される前に亡くなってしまうこともあります。その場合は、大臣たちが皇帝の傍流族から後継者を選ぶ必要があり、争いや争いが起こりやすくなります。

指導者交代だけでなく、政府の日常的な運営にも様々な意見の食い違いや争いがあり、混乱や暴力の争いも避けなければならない。必ず政治文明を形成し、文明の論争、提案、動議、弾劾、起訴などの政治闘争形式を許容し、法制、規則を通じて悪口、暴力攻撃、暗算、暗殺、司法権を利用して他の人の政治権力を奪い、さらには他の人の死刑を言い渡すなどの攻撃的で手段を選ばない、食うか食われるかの政治闘争方式を根絶しなければならない。（陳雲氏が提案した常務委員級の死刑判決を受けない規則的提案が一例である）

各国、各地で長期的に形成されている政治規則、権力バランスなどの社会秩序に対して、たとえ法律にこだわることがあっても、できるだけ大きな打破をしないようにして、徐々に移行調整して、社会の振動を起こさないようにしなければならない。この点で胡書記は重慶事件を処理する際、社会秩序を守ることは法律を守ることよりも高いと述べたことがある。

政治家間の紛争のほか、民衆の一部の行為は政権や社会の不安定さを招くこともあり、環境破壊、人を惑わす欺瞞、国家機密の漏洩、政府機関や人員を攻撃する行為なども含め、管理、拘束をしっかりと行う必要がある。しかし、この面でも度量を把握し、民衆に厳しく接しすぎてはならない。そうしないと、みんながどうしようもなくパニックになり、うっかり規定に抵触するのではないかと心配しなければならない。そして政府も、政府の安全に影響を与えることに反対しないようにするためには、厳格な制御によって実現されたのではなく、厳格な制御は表面的で、一時的に政府に反対することができないようにするだけでなく、経済を発展させるために努力しなければならない。

また、世論に対しては、偏りがある人は誘導をしっかりと行い、誤って民衆を誘導しないように是正し、過激な人は温度を下げて群情が荒れ狂うことでより多くの人が理性的ではなく野次馬にならないようにしなければならない。

歴代の支配層も内部の矛盾や紛争を隠すことを重視しており、内部闘争が激しくても隠すことをしっかりと行い、安定した団結のイメージを維持し、そして過ちのある指導者に対する民衆の質疑を許さないことを維持し、民衆に対する高圧的な態勢を維持し、それによって民衆が混乱し、騒ぎを起こすことができず、うごめく反対の力を度重なることができないようにすることも、社会を安定させるためのやり方であり、多くの民衆がまだ理性的ではない社会環境の下で、必要性と政治的知恵がある。

6 効果的な管理とサービスを確保するために積極的に

いくつかの基本的な分野では、例えば国を守り、インフラを建設する上で、政府が責任を持って組織する必要があります。

そして社会秩序の維持にも。多くの人の人間性は悪であり、人を損なって自分を利するので、拘束しなければ表現されず、拘束しなければ、多くの人は勝手気ままに悪魔になってしまうので、政府は民衆、官吏、軍警を規律を守って法を守らなければならないことを含めて社会秩序を守らなければならない。例えば、元朝放牧式の粗放な社会管理は、各地方を各役人に「請け負う」ことで管理されているが、これらの役人には彼らが無茶をすることができるように制約されておらず、またこれらの役人は

民衆に対してもきちんと管理されておらず、助会や民間武装が勝手に発展しているため、社会がめちゃくちゃになってすぐに天下の大乱を引き起こすことになる。また、現在アフガニスタンやミャンマー国内で混乱している紛争も、社会全体を効果的に管理できる政府が形成されていないためだ。近年、欧米の一部の国は社会管理上、姦通犯科に対して厳しい打撃を与えずに寛容で、放任したり管理したりすることができず、治安が悪くなり、強盗が流行している。

社会問題の解決においても、政府は積極的に主導し、実行を推進しなければならず、横になってはならない。現在、多くの地方では多くの問題が発生しています。例えば、各地には渋滞が頻繁に発生しており、これらの問題は本来は何とかできるものですが、各地政府が積極的に何とかしようとしているのは見られず、まるで彼らとは関係がないかのようになっています。

管理部門は立場があって責任があり、管理しなければならず、明らかに問題があれば人を捕まえて処罰しなければならず、当事者自身に法律の手続きを押し付けることはできず、悪意があれば処罰すべきであり、厳格で完全な証拠を必要としてはならない。今は事件、紛争が非常に多く、公共検査法は忙しく、問題を解決しないだけで、悪人は野放図にして、問題はますます多くなっている。

（他の記事を抜粋：ポーランド以前の無政府状態の記述：無政府状態はどこまで続いているのか？国王の政令はワルシャワを出ず、小貴族は領地で酔っ払って夢死し、都市は萎縮し、大貴族は富を競い、私は風を成した。農奴は畑に丸め込まれて一日中働いた。民は国を知らず、国も民を知らない。軍隊は完全に廃れ（サクソン国王に廃止されたが再建されていない）、どの国の軍隊もポーランドで自由に通じる。無政府状態のポーランドはもはや国ではなく、地名となっている。これが分割される前の連邦の現状です）

7 政府機能を最小限に抑え、管理ではなくサービスをより際立たせる

政府は各種の不良行為を制約し、社会の安定を保証し、公共サービスをしっかりと行い、大規模な仕事を組織することができるが、機能が多ければ多いほど、細やかに管理すれば多いほど良いというわけではなく、逆に、社会機能の分野では、政府はできるだけ少なく管理し、放っておいたほうがかえって良いという面が多い。

政府の管理にはコストと副作用が必要であり、管理が多ければ多いほど管理コストが高くなり、通常の人々に妨害や束縛を与えやすくなり、管理の権力を利用して利益を得る人も出やすくなるからだ。

政府はあまり気にしないで、かえって多くのメリットがあります：

まず、政府の管理が少ないことは、手を束ねることなく、社会の活力をよりよく解放することができる。管理が多ければ多いほど制限が多くなり、各方面で発展と突破が難しくなり、管理が少ないと主観的な能動性と創造力を存分に発揮できることが実証されている。

次に、政府の管理が少なく、政府の支出を減らすことができ、社会組織による自己管理の効果がより良い。いくつかの業界管理は業界協会、学会などの民間組織に任せることができ、および農村は郷紳士郷賢に管理することができ（古代中国の末端農村はすべて郷紳士によって管理されていた）、政府は対応する人員と財政支出を減らすことができ、社会管理コストを下げることができ、しかもこれらの民間組織は一般的に被管理者との親密さ、長期的な関係を気にして勝手なことをすることができず、管理、サービスをよりよくすることができ、またいくつかの地方、領域はまた複数の民間組織を同時に競争させることができ、管理、サービスをよりよく向上させること

ができる。

また、政府の管理が少ないことも、腐敗を減らすのに役立つ。役人の道徳レベルがまだ一般的に高くない場合、彼らに汚職の欲望を放棄させることは難しく、高給で福祉が高くても彼らの欲望を満たすことはできない。彼らは汚職をむさぼる機会があれば何とかして汚職をむさぼることができる。資源資金があれば、彼らは彼らに毛を残して自分のために何かをするように手配し、厳しく処罰しても彼らを恐れさせることはできない。彼らをもっと隠蔽して摘発を避けるだけでなく、汚職を防ぐ方法もあれば、天衣無縫で解決され、対応することができる。そのため、行政を簡素化して権限を減らし、役人の権力と支配する資源、資金を減らし、彼らが経済活動に介入する機会を減らし、汚職を食い止めることができる。

確かに、政府は主に社会の基本的な秩序と基礎的な公共サービスをしっかり維持すればよく、できるだけ多くのことを気にしないで、多すぎる資源を占有したり支配したりしないで、もっと良いです。

政府はみんなの経済社会活動に対して企業経営も含めて護衛をしっかりすればよく、あまり指示、誘導、介入をしないで、みんなは何をすればよく、どのようにすればよく、すべて自分の身近な利益に関係して、慎重に選択し、把握して、政府の心配と指導を必要としない。また、政府も自分の考えをみんなに押し付けることはできません。各業界の多くの規制や促進のための措置は、当然のことを考えて制定され、実際から逸脱しやすく、制定や実行の中で一部の人に利用されて歪んでしまうことが多いので、参加や介入をせずに、市場や社会を自己調整すればいいのです。

「小政府、大市場、大社会、大民衆」という観念を確立し、できるだけ管理することができ、できるだけ放置することができる。主に核心の急な問題をつかむにはいいが、眉毛やひげをつかむことはできない。

老子が提唱した無為無為と良かれと思っている政府と指導者は、民衆にその存在を感じさせない（「太上、これを知らない」）べきであり、それでこそ民衆を休養させ、より自由に生活し、発展させることができると考えている。

中国の歴史上、漢の文景の治と明の万暦在位期間はすべて無為に治し、結果もすべて盛世と繁栄を実現し、特に万暦の無政府主義による国家統治方式は人民の自由度が高く、幸福感が非常に高い。

鄧小平が提案した生産力解放とは、生産力の生産要素に対する規制を減らし、経済活力を解放することである。また、以前広東省委員会の汪洋書記は、すべての社会組織が「うまく接することができ、管理することができる」ことを彼らに任せ、当時広東省民政庁も社会組織の制限を緩和することを表明し、公益慈善類と社会サービス類の社会組織に対して「脱行政化」と「脱独占化」改革を推進し、登録制を採用することも政府管理を減らす理念であると述べた。

しかし、近年では政府が社会のことを細かく管理する家政婦的な管理傾向も現れ、その結果、骨が折れることができず、人的財力が巨大な財政に投入されて重荷に耐えられず、政府関係者は一般的に忙しくて疲れているが、多くのことはかえって民衆の苦情を管理していないことが増えている。

また、「管理-改服」という観念も必要であり、政府は管理ではなくサービスを行うことがもっと多い。例えば、民衆は規範に欠けているものがあり、督責や処罰ではなく、誘導し、助けるべきだ。

8 社会管理をできるだけ簡略化し、緩和する

1 管理がシンプル化された柔軟なメリットと方法：

仕事の手続きや流れが多くなり、複雑になると、効率が低下し、人件費などの各方面のコストも多くなる。

そのためには、さまざまな関係を整理し、さまざまなプログラムを簡略化し、さまざまなプロセスを削減し、繁雑さを簡略化しなければならない。

また、行政を簡素化し、権限を委譲しなければならない。大きくない事項の決定には、次の人に決定を把握させておけばよく、多くの層に指示を仰ぐ必要はない。そうしないと、効率が低下し、時間がかかり、承認プロセスの人件費も多くかかる。

また、政府管理機構部門も簡素化しなければならず、機構が肥大化してはならず、一つのことをするには多くの部門を協調しなければならず、複数の部門が互いになすりつけ合い、人員が多くて人が浮くことが起こりやすい。

また、プログラムや規制を設けることで腐敗を防ぎ、コストを下げることができると考えていた政府もあり、効果が得られなかっただけでなく、プログラムを増やしてコストを押し上げた。例えば、政府の調達要求に対して入札プロセスを実行することで、入札を通じて調達価格をより低くすることができ、透明な入札を公開することで腐敗を回避することができると考えていたが、思惑に反して、結局これらの入札は官製談合の下でほとんどが通過しただけで、結局は内定したもので、誰の家を買うのか、誰の家を買うのか、取引を円滑に進めるためにロックを操作しなければならないパラメータを増やしただけでなく、相手を探して、マークをつける専門家やマークをつける監督部門、納品時に検収する人など、入札をしないときに調達を決める権利のある1、2人を打つだけで非常に多くの費用がかかり、歩きすぎたプロセスは多くの人を投入してフォローアップし、また、資金繰りコストも大幅に増加するためには、プロセス全体が完了するまで待たなければなりません。多くの政府や病院などの公立機関が購入した物資、設備、サービス、工事は、本来は高くないが、入札募集をすると価格が何倍にもなる。販売段階が増えすぎてプロセスが長すぎてコストが増え、打点が必要な人も多いので、入札募集をしないで直接購入したほうがいい。

さらに一部の役人は、自分の権利をよりよく隠すために、購入プロセスをできるだけ複雑にして、できるだけ各種製品の評価、専門家の選考、会議の討論などの各種の一環を増やして、これらの一環に対して芝居が場違いになるように操作して、それから自分が内定した購入行為をこれらの一環で隠すことができてから、自分は安全になりました。

実際には購入コストを下げて腐敗を避けるためには、そんなに多くのプロセス手続きを行う必要はありません。全体のプロセスを透明化して公開化し、公衆の査読と質問を受けさえすれば、自然に価格を上げたり、控除を回収したりする人はいません。また、主に病院など一部のサービス機関を含めて体制とメカニズムを変える必要があります。確かに公有制であれば、購入結果が購入意思決定者の利益に大きく影響するように設定しなければなりません。そうすれば、購入意思決定者は方法を尽くして購入コストを下げることができます。

2 管理の自由のメリットと実行可能性：

社会管理は寛厳に助け合い、寛大さを主としなければならない。社会が極度の混乱に陥らない限り、安寧回復を加速させるために適切で厳しい（つまり乱世用の重典を治す）ことを考慮することができる。

まず、厳しすぎて厳しい管理はできません。現実には不変ではないことが多く、多くの仕事は実際の状況に応じて適切に柔軟に処理しなければならない。規定が細すぎて、厳しすぎて、不合理で、手足を縛られて柔軟性のない枠になることがよくある。例えば、現在の医療改革は医者に多くの枠を設定し、厳しくて注意しないと罰せ

られ、仕事を展開するのが難しくなる。そして今は自由を求める社会であり、まだ何も管理されて死ぬことを望んでいない。あまりにも管理されていると、強い不満とボイコットを引き起こすに違いない。新型コロナウイルスの後期の厳しい制御が多くの人々にボイコットされ、突き破られたのがその例だ。私たちは必要ではなく、誰もが言うことを聞くことができません。ほとんどの人の理念、目標が一致すればよく、厳密な管理と厳密な制御によってこの目標を達成するのではなく、統一戦を通じて達成しなければなりません。

次に、厳しい管理をする必要はありません。大きな問題や隠れた危険性がなく、無傷であるか、問題が発生する確率が非常に小さいか、問題が発生してもより良い対応方法があれば、監督管理が厳しすぎる必要はなく、100%正規化することができない場合も多い。そうしないと、かえってみんなの積極性と革新を殺すことになる。いわゆる「水から清まで魚がいない」。

また、厳しい管理にはデメリットが多い。監督管理が多すぎて、厳しすぎて、みんなは多くの面で大きな制限を受けて、みんなに対する要求も非常に多くて、多くの要求を満たすことは大きなコスト、人力投入の増加をもたらすことができます。また、過度な監督管理により、各業界の運営コストが高効率で低く、各業界の発展に影響を与え、また政府が管理する人員配置、物資投入などのコストが高く、そのため社会的扶養の負担が大きく増加した。また、民衆に過酷に厳しく対処すると、みんなの心がパニックになって手をこまねいて、うっかり規定に触れるのを恐れて、ひいては社会全体も活力を失い、社会の発展が停滞したり不況になったりして、また多くの人が不注意で厳格な措置に触れやすいと罰せられることを恐れて次々と外に出て逃げてしまう（近年の香港と内地のいくつかの状況は最も良い証拠である）。

社会は管理的に適切に緩和してこそ活力がある。宋仁宗と明万暦時代の緩和管理が例であり、当時は経済、文化の盛んな発展と人民の自由と幸福の時期であった。

全面的に厳しい社会制御は逆効果であり、秦の始皇帝は最も良い例であり、みんなは全面的、厳しい制御、督責の下で自由を失い、生計を立てる機会を失い、最後にすべて強烈な不満で天下暴動を引き起こし、また漢武帝と乾隆の時期は、すべて社会に振り回されすぎたり、人民に厳しく制御しすぎたりして、人民の最も幸せではない年代であり、加えてすべて長期政権であり、長期にわたって国家に大きなダメージを与え、国家は崩壊に瀕し、衰退に陥っており、私たちはこれらを参考にしなければならない。

そのため、政府は民衆、各業界に対する監督管理を緩和し、手足を放すことなく、身軽に行動することができるように、各方面の要求をできるだけ減らすべきだ。

社会のガバナンスは、強硬で強力な措置が必要でこそ容易に成し遂げることができるが、教化、導き、王道、覇道を組み合わせて併用しなければならない。そうしないと、厳しすぎて、強勢は人の心を大きく失い、広範な対抗を引き起こすことになる。私たちは無傷の問題が適切に存在することを許すべきで、歴史的原因の客観的要素による問題に対しても適切な寛容を与え、主観的客観的要素に基づいて責任を判断し、そして功罪を償い、貢献を減免して処罰されることを奨励し、それによって団結してより多くの人を統一し、より多くの力を集めることを許可し、奨励しなければならない。

管理が緩和されると社会が暴走し、安全ではないリスクがあることを全く心配する必要はありません。安全観をよく持って、安全は厳格な制御によって獲得されたのではなく、みんなの承認によって獲得されたものであることを認識しなければなりません。人の心が認められれば、破壊、敵対的な行為はありません。政府はみんなを失

望させ、公信力がなくて人の心が認められないようにすれば、みんなは至る所で政府を排斥し、あらゆる方法を尽くして破壊し、いくら管理制御しても人の心は暖かいことによって管理されておらず、みんなに優しく、サービスがよく、邪魔が少ない、そしてみんなに良い生活と良い発展があれば、みんなは自然と満足して認められ、社会は安定して安全になるが、みんなを困らせ、みんなの経済を破壊し、社会の後退を招き、みんなを生かせなくなると、みんなはきっと憤慨しているに違いない。この時いくら厳しくコントロールしても政権の安定、社会の安全を確保することはできず、せいぜい一時的に短時間の平静を得るしかない。

自由を手放すことで国家政権が旧ソ連政権の崩壊と同じように転覆することを恐れる必要はありません。ソ連政権は権力を集めすぎ、厳しく管理され、庶民に悪すぎて民が退屈で民心が生まれないから解散されたのです。私たちは民衆が良い生活を送れるようにすれば、みんなが感謝して政権に敵対することはありません。

私たちは現在、安全を強調しすぎて、全面的なコントロールを強調しすぎて、経済民生を犠牲にすることさえ惜しまないのは間違っている。近年新たに導入されたり、グレードアップされたりした国安法、スパイ法、秘密保持法を含めて、多くの人の多くの資本を恐れて中国からの脱出を加速させ、多くの国民が移民し、非常に多くの富を持ち去り、外資も対中投資を減少させ、さらには撤退させ、特に香港が最も深刻で、撤退、移民の割合が高く、経済、金融の発展が大きく落ち込んでいる。また、現在では組織の指導を受けなければならないと強調しており、組織の指導を強化しなければならない。至る所に民間企業を含めて組織の支部の設立を要求しており、さらには死角のないカバー管理のために、グリッド化された管理を推進している。各小区域にはグリッドマンが途切れることなく巡回管理を行っており、各方面に対して厳格な制御を追求している。これにより、後の各方面が多くの厳しい規制を受けることを恐れて、新たな投資を増やすことができなくなり、さらにはすでに投資も収縮し、撤退し、社会全体が停滞し、人員が大量に失業し、経済不況ひいては崩壊の瀬戸際に陥り、人民はまた、前の疫病発生期間の厳格な制御措置によって、多くの人の生計にも影響を受け、厳しい制御の下で収入源を失った生存圧力が大きすぎて自殺した人も少なくなく、多くの企業もそのために大きな損失を受け、倒産した人も少なくなく、多くの人と資本が失望して中国を脱出した人も少なくない。これらはすべて教訓をくみ取らなければならない。

また、中国では、管理業務を削減し、管理責任のリスクを回避するために、管理分野を厳しく管理して、その分野の業務への参加を減らすために、管理分野を厳しく管理する官僚がよく現れており、予防、根絶のためにも厳しく取り締まらなければならない。

（抜粋：法家は厳しく、法によって拘束され、往々にして一世で尽き、その身を逆食し、商鞅、王安石、張居正のように、儒家の外は広く内は厳しく、理によって拘束され、千年伝えられ、孔孟、程朱のような聖賢として崇めることができる。）

9 仕事面では実用を追求し、形式、見栄え、体面を追求しない

国家、社会の管理はままごとではなく、すべては国の経済と民生に関係しており、しかも勝手な動作はすべて大量の資金、利益に関連しているので、実用に非常に重んじなければならない。

「白猫でも黒猫でもネズミを捕まえることができるのはいい猫だ」というのは、誰もがよく知っている実用主義的な観点であり、形式や名義にこだわらず、どの方法が使いやすいのか実用的なのかを指摘している。

すべては実用を追求し、そろばんをはじかなければならない。

仕事の目標に含めて、民衆がより幸せな生活を送れるようにするという実用的な目標を第一に追求し、その他のGDP総生産などの発展指標を第二の目標とすることができる。また、債務投資を通じて得られるGDPの上昇は、企業がどれだけ利益を見るかではなく、どれだけ利益を見るかではなく、一部の地方はさらに資金を逆さまにするなど、本当に発展を牽引して利益を創出する方法でGDPを牽引する行為にすぎない。GDPを牽引するために消費を奨励することはできません。特に資源を消費する消費に対しては、あまり奨励する必要はありません。皆さんは低炭素生活もよく、しかも資源を節約し、資源を消費しない類似のサービス業界では、多くの消費を奨励して資金を流動させればいいのです。

また、すべてのことをするには、実際にお得さを追求し、投入産出比を重視しなければならない。さらに数年前にはイメージ工事の体面工事に熱中していたところもあり、実用的ではなかった（もちろん、中には一部の人が建設を推進することで建設過程で利益を得ていた可能性もある）。

また、一部の政策では、各方面の投入コストも考慮し、車の購入を奨励し、家電の買い替えを推進するなどして経済発展を促進することも、GDPの上昇を牽引したが、民衆と政府にとっては、これらの消費によるGDPの上昇のために、莫大な費用がかかる（民衆はもともと公共交通やタクシーに乗っても同じ効果でお金を節約することができたが、政府が道路キットを投入し、補助金を購入するのにも非常に多くのお金がかかる）のも、割に合わないし実用的ではない。

いくつかのプロジェクトに対する支持の上で、実際の使用性を評価して、どれだけの利益をもたらして、どれだけの人を幸せにすることができて、ただ大きなプロジェクトに聞こえるだけに傾いてはいけなくて、大きい上ではありますが実用的ではありませんそれはあまり意味がありません。

10 文明的に施政し、あらゆる強硬、暴力、テロの社会管理手段を断固として根絶する

1つの社会の文明は、支配層が被支配層の文明に施政することから始まる。そうでなければ、民衆の文明を要求するだけで、政府は文明ではなく、社会は文明ではない。

政府が文明的に施政してこそ、民衆の心の中に良い印象を残して民衆の受け入れと信頼を得ることができ、民衆は政府を味方と見なし、文明的に施政しなければ、民衆のパニックを引き起こし、政府は民衆に敵と見なされ対立と機会を探して報復攻撃を受け、後で倒台しても清算されて倍の報復を受けることができる。だから、暴力的でテロ的な施政を強硬に行い、民衆の敵視を引き起こして怒りを奮い立たせないことが望ましい。

古今東西の多くの時、支配層の民衆に対する管理も、刑罰を少なくし、拷問に反対する教化を多く採用することにこだわっていた。暴君が昏睡統治していた時期だけに、自白の強要、拷問、虐待、暗殺虐殺などの施政管理手段が多かった。最も誇張されているのはカンボジアの赤色クメール統治時代であり、民衆の大量の肉体消滅を通じて彼らが追求する社会管理目標を達成するべきだ。

現代社会では、一人一人を尊重し、強硬、暴力、さらには恐怖の管理手段を根絶しなければならない。必ず多くのコミュニケーション方式を採用して問題を処理し、多くの教育方式を採用して民衆を誘導し、できるだけ処罰を減らすようにしなければならない。確かに処罰が必要なのは、できるだけ文明的な方法を採用することだ。

現在、さまざまな法的根拠がなく、不当な拘禁と拷問による自白強要の捜査は比較的少なくなっているが、新たに「留置」、「精神治療」など明らかに非合法な人身自由制限方式がまだ多く存在し、是正と昇格が必要である。

11 財産を守るには責任があり、国の一銭一銭をうまく使う

政府は大量の国富を掌握している。これらの富は容易ではなく、国民からも使わなければならない。政府関係者は国富の一銭一銭を大切にしなければならない。

まず、自分の使い道ではお金を無駄にしないようにできるだけ節約しなければなりません。自分のオフィス、出張、接待などに含まれる費用は、倹約して無駄にせず、さまざまな対外接待の上で、情熱を示すために適切に盛大であるが、ほどほどにして、贅沢を根絶しなければならない。また、政府や大学などの各公立機関では、オフィス環境の建設や設備の購入にも多くの投入後に使用率が足りず、比較的遊休している無駄がよく存在している。

第二に、プロジェクトの建設においては、むやみに投資して馬に乗ることを避け、そのために多くの資金を消費しなければならない。さまざまなインフラストラクチャは確実に必要であり、十分な経済的、社会的利益を生み出すことができなければならない。これまでは多くのプロジェクトが低出力よりも投入され、馬にも乗っていたことや、多くのプロジェクトが大柄で節度がなく、監督を厳しくコントロールせずにお金を使っていたことから、多くの投入も分割されて一部の人のポケットに流入していると予想されています。

また、対外（他国への）援助は適切であればよく、確かに貧困や災害に見舞われたために援助が必要な国･地域は、適切に援助することができ、十分な見返りのある投資をすることができ、他には、国際的な場で私たちと一緒に立ったり、私たちに賛歌を歌ったりするために彼らを喜ばせるためだけのものを含めて、意味があるわけではありません。

また、国が一部の企業･事業体に与えた奨励、扶助、補助金についても、毎年非常に多くの資金が費やされているが、多くは分配の段階でカスタマイズされたガイドラインと内定された、操作可能な選考を通じて特定の一部の人に操作され、少数の人に分割された、そして多くの与えられた対象は頼りにならないもので、材料を大きく書くだけで、最終的には十分な社会的、経済的利益を生み出さなかった。この方面の投資を減らすことを提案して、確かに投資しても先にお金をあげてから仕事をする方式を採用してはいけなくて、申請者に先に仕事をしてから資金を受け取ることができます。あるいは、先に与えなければならないこともありますが、検収に失敗した場合には、前に与えた資金を返却させることができます。もし返済できる資金がなければ、債務を背負って返済するか、株式譲渡で控除することができます。投資会社が投資家に賭け契約を要求しているのと同じです。あるいはローンの形式に変更して、しかも利息をつけないで、ただ彼らが銀行で金を貸すことができないと思って彼らにローンを貸して（ベンチャー投資の呼び方に倣って、リスクローンと呼ぶことができます）、このようにお金はむだに持っているのではなく元金と利息を返すので、最終的には実際に仕事をしていない人は申告することができません。

12 効率的な運用を重視し、コスト削減と効率化に努める

利益観は個人、家庭、会社、単位、地方、国において、すべて同じであり、一人一人の単位はすべて投入産出比などの利益を重視しなければならず、政府は自身の運営、社会管理などの上で、強い利益観を持たなければならない。

政府は自身の運営上、すべてのことの効果と利益に注意し、投入するコスト、人力をできるだけ抑え、できるだけ一人一人の仕事の効率を高め、できるだけ少ない人でできるだけ多くのことをし、できるだけ少ない費用をかけなければならない。政府部門や学校病院などの公立事業体では、人員の冗長性が多く、仕事が足りないことがよくあり、一人一人がより大きな価値を発揮できるように向上させることができる。また、政府も表面的で形式的な仕事をするのが好きで、みんなは多くの人、時間、費用を投入して、あまり価値と利益を生み出さなかった。

社会管理の上で、政府部門もできるだけプロセスを最適化し、新しい技術手段を採用して民衆に便宜を提供し、それによって双方の効率を高めなければならない。例えば、多くの仕事は現在発達しているインターネット技術を利用して、できるだけオンラインで処理できるようにすれば、効率を大幅に向上させ、交通出張などのコストを節約することができ、現在一部の地域の一部の部門ですでに一部実施されており、全面的に推進するにはまだ大きな向上の余地がある。

また、国全体の経済管理、組織においても、政府はむやみに国民を苦しめ、国民を苦しめ、国民を困窮させ、経済危機を招くことを避けるためにむやみに指揮することを避けなければならない。例えば、その年の大躍進、公社化運動は利益観念がなく純粋にでたらめで、結果はすぐに元の社会の富がすぐに振り回し終わって、しかも新しい産出が少なくて、それから数年みんなは腹が減って大きく腹が減って死んだ。

全体的に言えば、政府はまだ企業、特に民間企業のように実際に利益を重視しているわけではありません。もし政府の運営が企業の経営と同じように利益を重視して真実を重視することができれば、利益は多く向上することができます。あるいは、いっそいくつかの仕事を企業にアウトソーシングすることを提案しても、大幅に効率を高めてコストを下げることができると信じています。また、前述のように、政府はできるだけ仕事を少なくして、一部の管理機能を社会に分けて管理することができて、効果はもっと良くて、政府に対応する管理コストを節約させることができます。

また、政府部門が効率を高めてコストを削減することを促すために公衆監督を導入することも提案されており、各部門が作業計画と進捗、支出をリアルタイムに公表し、コメント、質疑、提案を行うことができる。

13 内部人員、党派間の悪性闘争が全体の仕事に影響を与えることを避ける

政府内には人員が多く、人事・人間関係が複雑で、意見の相違や利益の衝突がよくある。

集団が大きくなると、人員が分立していくつかの派閥、政党を形成し、党派を通じて活動と利益の争奪を行うこともある。1つの国には一般的に複数の政党があり、1つの政党の中には複数のギャング（陳独秀が言った「党内には派閥がなく、奇妙なことが多い」のように）に分かれていることが多く、1つの職場や1つの会社の中にも、同じようにギャングを組んでグループを形成する異なるギャングがよくいる。

1 内部者、党派が互いに闘争する現象：

政府内の人員の間、各政党と派閥の間に利益の相違があり、そのために対立して争うことになる。闘争の方式には、観点論争、利益と機会の奪い合い、他の人の他の党派の仕事を妨害し、弾劾や暴力などを通じて他の人を攻撃するなどが含まれる。

2 内部者、党派間の闘争のメリットとデメリット：

良性のある人員、党派間の競争、闘争は政治の相互均衡に有利であり、一方だけが人の制限がなく極端に走りやすいことはない。

しかし、悪性、底なし、手段を選ばない闘争であれば、互いに排斥し合い、破壊

し合い、人身攻撃、武力攻撃さえすれば、各方面と集団全体にとって非常に有害であり、以下を含む：

・互いに肘を打ち合うことで意思決定と管理の効率が大幅に低下し、多くの良い機会に直面して意思決定ができずに機会を逃すこともある、

・互いに台を取り壊して内費を増やし、不必要な破壊をもたらし、国力を大幅に弱体化させた（例えば北宋、明朝の末年の国力衰退には党争があまりにも深刻で、各派が互いに衝突して国を誤って民を誤って経済文化を深刻に破壊する原因があった）、

・各方面はお互いに責任を負い、疲れて仕事を遅らせるために多くの精力を使わなければならない。

・過度な紛争は、国が不和を引き裂き、暴動を引き起こすこともある。

3 人員、党派闘争が悪性に走る成因：

人員、党派闘争が良性ではなく悪性に向かう原因は主に公正で厳正な政治規則、規律法規の確立が不十分であるか、実行が無力であるためであり、皆は勝手にむやみに行動することができ、責任を負う必要はない。次に権力授与者（上の任命を通じて上級指導者は君主のように、選挙を通じては有権者のように）が正気ではなく、理性的ではなく、政治家たちは競って権力授与者を欺くことで権力を獲得し、能力、品行、業績を通じて権力を勝ち取ることができる。もし君主が昏睡したり、有権者が愚かであれば、彼らに欺かれたり、愚弄されたりしやすく、彼らの党が同じように攻撃したり、排除したりして人を打撃したりすることができる。

4 人員、党派間の闘争文明の秩序を確保し、悪性に走ることを回避しなければならない：

まず、大局を重視し、集団利益をしっかりと維持してから個人利益を考慮し、集団利益の前でみんなが一致しなければならないことを要求した。もし誰かが自分の利益のために集団の事務を妨害したり、他の人に反対するためだけに他の人の提案や仕事が集団に有利であっても反対したりする場合は、暴露、非難、処罰されなければならない。

次に、文明的で平和な政治闘争規則を確立し、すべての党派闘争が理性、秩序、平和の中で行われることを確保する。各党派の間では、自分の意見と利益の訴えを保留しながら、他の人と友好的で平和的な付き合いを維持し、すべての排除、他人に打撃を与える行為と、故意に台を壊して他人の良いことを破壊したり、肘を張って他人を成功させにくい行為、および他人の非文明的な言語攻撃と人身攻撃に対して、違反者は露出、非難、処罰を行わなければならない。

再び、人治ではなく法治の仕事の仕組みを構築し、役人が他の人に翻弄されたり、暗算されたりすることなく仕事をすることを追求するだけにしなければならない。中国では、ずっと人治社会であり、官場もそうであり、各役人は各級の同僚との関係に対処するために多くの時間を費やさなければならない。悪性の党派闘争もしばしば相手とその部下と親友を打撃する方法を採用している。そのため、法治の仕事のメカニズムを構築し、すべては規則、プログラムに基づいており、しかも公開的で透明で、誰も意地悪できず、私を公報することができず、悪性の人員、党派間の闘争も少なくなる。

14 強力で効率的、公共を民とし、清廉で正直な作業チームを構築する

政府は良い仕事の効果を持って、強大な仕事のチームを離れることができなくて、そしてチームの人員を一心に公のために民のためにならせて、国家、人民を損なう行為が現れないようにしなければなりません。

そのためには、より多くの優秀な人材を公務員陣に招聘しなければならない。人員の選択の上で、最も良い要求は比較的に愛があることでなければならなくて、政府の仕事の多くは公益性で、広範な民衆に関連して、愛のある人材は心を尽くして仕事をして、しかもする過程は民衆の利益と感じをよく考慮します。管理職を担当する人には、政府経験者以外にも社会経験が必要な人、つまり政府以外の社会企業や事業体で長年働いた経験がある人を選ぶようにしてください。彼らは外で働いたことがあり、社会状況や民衆の政府管理サービスに対する要求をもっと理解しているからです（アルゼンチンはミレが登場した後、公務員に応募するには社会で長年働いた必要があります）。

人員の育成の上で、各人の強大な仕事の能力と実行力を育成して、そして独立した仕事の能力があって一人前になることができます。

人員の作業組織の手配においては、分業を明確にし、仕事の手配を比較的に充実させ、効率の向上を重視し、一人一人が最大限の価値を発揮してできるだけ多くの仕事の成果を上げ、人が才能を発揮できるようにしなければならない。そして、利益創出の切迫感を持たせるために、人員の給与福利厚生などのコストよりも価値を創造することが負担にならないように、強い利益観を植え付けなければならない。

人員考課の上で、各人に強い責任感と責任感を持たなければならず、自分の仕事の職責をしっかりと責任を持って明るい業績を作らなければならず、職務を怠ってはならず、平になってはならず、功を求めず、過失を求めてはならない。契約制、競聘上職、最下位淘汰制を推進することができ、仕事の効果が不合格な人員に対して適時に淘汰を行うことができる。また、審査は煩わしい細部に陥らないようにし、管理のより人間的な観点から、働き方の要求と仕事の過程の監督管理を適切かつ柔軟に緩和し、結果を重視する審査に変更することができる。

人員激励の上で、企業の管理を参考にして、みんなにもっと高い非キャップの激励をあげることができて、よくやって良い仕事の効果があって高い価値を創造しても高い業績の報酬をあげることができて、このようにしてみんなを奮い立たせて努力してもっと良い仕事の価値を創造することができて、そして更に多くの優秀な人を公務員の隊列に参加させることができます。

また、人員に対して制約をしっかりと行い、清廉に奉公しなければならず、集団と民衆の利益を侵害し、民衆の仕事と生活を妨害し、権力をもって私腹を肥やし、社会の公平と正義を損なうなどの不良行為を決して許さない。また、一人一人にサービス精神と態度を高め、官僚的な作風を根絶し、民衆の政府に対する満足度を高めることが求められている。

前述のように社会が管理を緩和することを提唱するとは、一般大衆の管理にとって、役人などの権力行使者に対しては、権力と資源を掌握しやすく、悪を行うと害が大きくなるため、「権力者を厳しく管理し、無権者を緩やかに管理する」ことを意味している。私たちが「国を厳しく治める」、「国を治めるための重典」と言うのは、主に権力を握っている役人に厳しい制約を厳しく要求することであり、危害のない一般民衆に対しては管理を緩和することであり、古くから多くの政権の敗亡は基本的に役人に対して放縦で民衆に厳しいためである。『すべて王安石が引き起こした災い』の一文にも、「帝国政治の構造の下で、最も治めるのが難しいのは実は民ではなく、官である。狼のような王家と官吏が民をかき乱さず、清らかにすることができれば、官吏たちに庶民を魚にする機会を与えず、職責を守って無茶をしないようにして、官安の位を守り、民はその業を楽しむことができれば、中国人はマジックのように、無尽蔵の物質的財産と精神的財産を生産することができる」と書かれている。

十分な監督管理監督は公務員の無茶を防止し、効率を高めることに重要であり、役人一人一人に畏敬の念を抱かせ、無茶をしないようにし、そして全力を尽くして仕事をしなければならない。

公務員への拘束には多くの方法がある。政府内の自己監察は一定の誤り訂正と権力のわがままを制限する役割を果たすことができ、我が国は商朝から徐々に監察制度を確立し始め、歴代の御史台のような機関、そして現在の監察局、規律検査委員会まで、監察制度はますます改善されている。政府内の各部門の事務関連形成の相互監督、政党間の競い合いや弾劾などの各種政治力による相互監督、官僚の行為に対するメディアの公開報道形成の監督、民衆の目と評論世論による政府関係者に対する監督も重要である。

しかし、権力が分立していなければ、政府内で相互監督を形成するのは比較的難しく、より多くは相互援護だけでなく、政治が開放的で自由ではない場合、互いに十分に競争する政治力を形成し、彼らの間で相互監督を形成することはできない。また、透明で日光化した情報開示と自由なメディアを公開しなければ、政府関係者に対する民衆の監督を形成することはできない。そのため、権力分立、党禁の開放、役人の財産の公表、メディアの独立自由は、まず実現しなければならない。

政府職員や人員の状況の透明な公開を推進し、メディアの監督に力を入れる。各級政府のほとんどの収支詳細（特に購入した内容の数量価格）を公開してウェブサイトに公開し（収支が小さいか、機密に関する条件に合致しない限り）、閲覧、監督、質疑を受けて、腐敗をよりよく避けることができる。また、役人の財産公開制度も、腐敗防止に有利である。

世論監督の役割も非常に大きく、メディアをより独立させ、自由にし、メディアがより広く、より全面的な監督の実現を支援することは、社会の絶えずの改良、政府活動のより規範化と権力のわがまま放題を減らすための良い方法であり、規律検査部門よりも広く、より全面的でタイムリーな監督の役割を果たすことができるが、中国では、現在、多くの政府部門がメディアの監督を忌憚し、排斥しているように見え、多くのメディアが多くの規制、弾圧を受け、さらには停止を余儀なくされ、そのため、罰せられるのを恐れて慎重になり、各方面の問題に声を出すことが少なくなっている。、主観的で悪意のある過ちでなければ勝手に処罰することはできない。

また、役人に勤務中に承諾書を署名させ、規律違反や汚職、収賄などが法律よりも厳しい処罰を何倍も受けたいかを約束することも考えられ、その時に本当に発生すれば処罰を実行することができ、また、汚職などの行為があれば何か悪辣な報いを受けたいと天に誓うことを常に要求することもでき、（陝西省の観光地袁家村が各業者に入り口に「偽物を売ったら家族全員が永遠にホームレスになる」などの毒誓を書かせるように）、処罰や悪報を恐れて汚職を恐れる人も多いはずだ。

そして、伝統文化を含む公務員への教育もしっかりと行い、頭の 3 尺を挙げて神が何をするにも神と天が見ていることを理解させ、不義の財は持ってはいけないことを認識し、持っては法律の制裁を受けるだけでなく、天罰を受けて災いを受けることができるだけでなく、権勢を利用して人をいじめて略奪することはできないことを認識させなければ、憎しみに呪われて悪報を受けることになる。

15 理性的に責任を問い、仕事中のミスを適切に処理する

公務員に対しては厳格に管理し、監督、審査、賞罰をしっかりと行い、仕事中に発生したミスに対しては理性的に適切に処理し、各人が納得し、仕事の積極性を維持し、勇敢に行動するようにしなければならない。

まず、間違いの原因と責任を明確にし、適切な処罰方法をとる必要があります。職務怠慢や背任などの主観的な要素であれば、厳しく処罰することができ、客観的な要素であれば、仕事量が多くなると避けられない確率以内に現れる場合は、軽く処罰することができ、また仕事に慣れていないために初めてミスをした場合は、軽く教育警戒できる処罰を主とすることができる。

仕事中に発生したミスに対して、不公平で不合理な処罰がみんなを失望させ、いっそ横になって仕事をしないようにして、ミスの確率を減らすために、結局やりすぎると必ず間違いが多くなるので、いっそ少なくして、やらないで、功を求めないで、過ちがないようにしなければならない。また、各方面の仕事の上で、一部の登録承認が必要な製品（医療製品など）に対して、社会の既存製品と差がない限り承認されやすい（承認部門は一般的に登録された製品を比較して類似の結論を出して承認することを要求することもある）、新型製品は近似的で登録された製品がないため、承認されるのは非常に難しく、検査が安全で合格であっても、みんなの革新を制限している。

また、政府関係者は、受けた不合理な問責、処罰を社会の人々に伝えることもできます。それは、プラスコードが自分が管理する分野を規制するのは非常に厳しく、手続きが非常に複雑で、業務を展開するのは非常に難しいため、国民はこの分野に入ることができません。例えば山西省の炭鉱業界では、一刀両断の、幾重にもコードアップされたますます厳しい管理の下で、少数の国有企業を除いて引き続き行うことができ、その他の民営炭鉱は基本的に休業しているか、国有企業に売るしかない。また、消防管理も、管理部門が責任を問われるのを恐れて階層的にコード化の要求が高まっているため、社会全体のこの面での投入コスト、受けた影響（使用空間の減少による損失を含む）は非常に大きい。

次に、仕事のミスやミスに対する処罰はあまり厳しくしてはならない。李斯が提出した督責術説に従って軽罪重罰を実行することはできない。これにより人々はパニックになり、恐れおののくことになるが、小さな過ちでも極端に重罰を加えると、缶を破って投げ捨てて死体を滅ぼしたり、最後まで間違いを犯したりすることになる。陳勝呉広蜂起のように不蜂起で必ず死ぬのであれば、蜂起のように戦ったわけではない。

再び、あまりにも悪意のある過ちではなく、棒で打ち殺さずに更生の機会を与え、功罪を償うことを許可し、以下の仕事の貢献を減免処罰に切り替える。これにより、より良い人員を利用し続けることができ、感謝と贖罪のために努力することができます。

16 言葉遣いが円滑であることを保証し、討論と批判を奨励しなければならない

1 円滑な言葉遣いの必要性：

1つの単位1つの国は、調査・討論チャンネル、建言・献策チャンネル、状況フィードバックチャンネル、監督・批判チャンネルなどを含む、円滑な言葉遣いを確立し、阻害されないように維持しなければならない。

意思決定の際にはより多くの議論が参加でき、アイデアを集めて意思決定をより周到にし、ミス・ドレインを回避することができ、また、実行中には問題があればすぐに発見し、調整を解決することができるように十分かつタイムリーなフィードバックを得ることができ、つまりより多くの人の才知とミス訂正防止のメリットがあるというメリットがあります。

社会に異なる声を持たせることはとても良くて有益で、異なる角度から異なる考

えを与えることができて、みんなをもっと冷静にして警戒を保つことができます。

社会が許すのは、一つの思想と一つの声だけで、議論を許さないのは、終わりから遠くない。1つの集団が指導者の一言であり、他の人が黙り込んで意見を言えずに反対するなら、破裂し、過激で、さらにはぼんやりした低劣な政策を立てやすい。これらの政策に冷血で横暴で、相談の余地のない強力な推進が加われば、大きな災難を招くことになるだろう。

人は権力が高ければ高いほど影響力が大きくなり、そのため認知ミスがあってはならないが、認知ミスを避ける唯一の方法は「兼聴すれば明らかになる」ことだ。

さまざまな悪い、不利な発言を恐れず、さまざまな角度から異なる観点を発言させ、たとえ不十分なことを言っても間違っていても、良いこと、悪いこと、正しいことのさまざまな異なる発言が衝突しても、良いこと、正しい観点を見つけ出し、抽出することができ、真理とは弁明すればするほど明らかになり、政府は公共部門として異なる意見を出して十分に討論し、論争することを許可し、奨励しなければならない。みんなの討論、論争を通じてかえって政府の公信力を高めることができ、政策をよりよく理解させるために政策の実行をよりスムーズにすることができる。

議論を恐れ、許さない人は、その言動が疑問に耐えられないからだ。彼らが自称する真理は、疑われることが許されなければ、必ず偽の真理である。

そして民衆の思想と言論は禁固することはできず、昔の人は「民を防ぐ口は川を防ぐよりも大きい」ことを知っていた。まして今はインターネット時代であり、情報、思想文化の流通が速く、至る所に達している。言論を制止するのは言葉を絶つだけで、批判を遮るのは耳を塞ぐだけだ。

また、みんなに禁言することは、みんなをさらに不服と絶望させ、ボイコット、破壊、武力攻撃などの対抗に追い込まれるだけだ。

みんなが時政について議論して妄議のレッテルを貼って処罰することや、下品な赤を中傷することを隠すことを許さないなど、さまざまな形の批判風刺は間違っており、みんな表現の自由があり、実際に妄議しても、友好的でなくても、悪意のある批判をしても大丈夫で、しかもみんなが議論しても、批判するのは私たちをもっと良くするためで、私たちに対して熱い愛を持っているので、愛のせっかちは責任を負うことができて、また私たちに対して議論して、批判することは私たちに対してまだ期待を持っていることを説明して、もしみんなが私たちに対して徹底的に失望しているならば、議論して、批判するのではなく黙り込んで、さらに私たちが間違って方向を倍にしていく。

2 どのようにして言葉をスムーズにするか：

まず、情報伝達とコミュニケーションを円滑にしなければならない。これまで多くの上層部の統治者は次の実際の状況を知らなかったし、次の政策の歪曲を無視して実行し、さまざまな対策で政策を実行せずに解消し、政策の興風を利用して私怨を晴らして異端者を打撃した。また、情報システムが発達していないと、悪いことをした人も多く知られていないため、より良い処罰や悪いことの継続を止めることができません。特に支配層、意思決定層と末端とのコミュニケーションは重要であり、多くの大衆のために考えなければならないだけでなく、末端の情報はしばしば中間の人に歪曲されたり漏れたりしやすく、上層部は下層の様々な真実を理解できなくなり、支配者が自分と異なる意見を聞きたくない、聞きたくないということを加えると、異なる意見は妨害された有害な騒音だと思うと、危険であり、上層部の意思決定と末端が一致しないために災いが尽きず、天下の大乱を招くに違いない。

情報伝達とコミュニケーションを円滑に維持するためには、良好なインタラクテ

ィブコミュニケーションチャネルを構築する必要があります。政府が政策を疑問視したり、問題をフィードバックするルートを設けなかったり、設置したが対応をごまかしているだけでは、誤りが適時に是正されず、問題が適時に解決されないことになる。古代政府は諫官を設置して意見を求めていたが、現在多くの政府機関では投書・来訪受付部門の設置やウェブサイトにインタラクティブなコラムを設置しており、意見や問題をよりよくフィードバックするためである。しかし、処理する部門は当事部門自身であるため、当事部門が適切に処理する圧力は大きくなく、結果的に対応をごまかすことが多く、上級部門や同級の監察・規律委員会などの部門が彼らの処理状況を監督したほうがいいと提案している。

次に、議論と批判を許す。議論や批判を制限したり抑圧したりしてはならず、みんなの議論批判を妄議と定義して罰を加えたりしてはならない。また、みんなが鋭く、専門的ではなく、正確ではない批判を許してはならず、「あれば改めて、なければ努力する」という度量を持たなければならない。

再び、異議を唱える人々を迫害して、社会が異議、反対の力と声を持つようにすることはできない。反対の力を追い払うことはできない。反対の声と力を自分たちを進歩させる鏡と見なし、彼らの存在を許し、歓迎し、そして彼らが結社して党を結成して専門性の強い異議、反対の力を形成することも許さなければならない。宋のような不殺言官の規定は、意見の異なる言官を罰することを避けるために、みんなが口をきかなくなったことだ。声に合わせて功績をたたえるだけの人が好きで賞を打つよりも、問題を選んで意見を言う人を大切にし、励まし、保護したほうがいい。千人のノーは一士がくがくに及ばない。

最後に、民衆に疑問や発声の精神と習慣を身につけなければならない。多くの民衆、特に中国の民衆は、命令に従って考えず、逆風に乗って反対することができないことに慣れており、質疑、発声の精神と習慣が非常に不足しており、でたらめな政策でもしばしば疑問を抱く人が少なく、あるいは疑問を抱いても口に出すことができない人がいる。だから政府は必ずこの方面の精神と習慣を奨励し、育成しなければならない。

17 改革は柔軟に、順を追って漸進的に、そして良い方面に配慮しなければならない

いかなる改革にもプロセスが必要であり、良好な制度は甫一から確立されてから徐々に改善されてから軌道に乗って良好に稼働するまで、長期的なプロセスが必要である。苗木が植えられてから徐々に成長するしかないように、少し大きくなると根が深くなり、根が多くなるほど養分を吸収し、木も早く成長し、最終的には枝が茂ることができます。

歴代の改革、変法の失敗の例は多すぎて、ある主に方案の設計が不合理で社会にかえって危害をもたらして、親切に悪いことをして、しかしもっと多いのは実行の問題の上で出て、往々にして成功を急いで、しかも細部をしっかりしていないで、各方面の利益を適切に処理していないで、最終的に失敗して、とても惜しまれます。

経済、政治などの改革は、利益面が非常に広く、操作が非常に複雑なプロジェクトであり、慎重にしなければならない：

1 理想化したり、考えが周到でなくて現実から離れたりすることはできない。実際に即し、かつ改革目標は社会発展、人民の需要の深さと一致しなければならない。王莽変法の復古の一途は典型的な非現実的な社会法則に反する変法であり、最終的にはみんなに捨てられて広く反対され、ボイコットされた。

2 できるだけ柔軟にし、ハードランディングを採用して社会や民衆に大きな衝撃と傷害を与えないように、移行を調整する時間を与えなければならない。例えば、中国では数年前に教育、不動産などの調節があまりにも猛烈で、衝撃が大きすぎて、多くの企業が短時間で適応したり調整したりすることができず、次々と立ち止まったり倒産したりして、損失が大きく、比較的大きな経済、社会問題、ひいては社会的振動をもたらした。

3 成功を焦って一歩を追求してはいけない。混乱をかき分け、狂乱を挽回する緊急時でなければ、快刀乱麻を断ち切らなければならないが、一般的には大刀を振るいすぎて大出世を招いてはならない。改革措置は最初から完全に設計することが難しいため、試験を経ていない前に大面積に普及することはできず、改革措置の存在する間違いによる大きな災難と収拾のつかない局面を回避することはできず、また各地の状況もそれぞれ異なり、試験が検証されてもすぐに全面的に実施することは提案されず、毎回の推進程度は 30%のマスを超えないことを提案し、間違いがあっても根本を傷つけることがないようにする。改革に必要な人力物力の投入も比較的に大きく、さまざまな問題の積弊は軽重緩急によって逐次解決しなければならず、また多くの問題は互いにつながっているので、先にいくつかの問題を解決してから他の問題を解決するために条件を創造しなければならず、逐次解決しなければならない。王安石氏は、北宋の貧困蓄積の弱体化の局面を変えたいと切望しており、蘇軾氏らが提案した変法を顧みずに長期的に検討できるという提案により、適切ではない措置をとり、しかも急きょ全国に全面的に普及させ、国と民衆に大きな危害を与えた。清末戊戌の変法も成功を急いで、短期間で大量の旧法を廃止し、大量の新法を公布したが、結果的に多くのやり方は議論を待たなければならず、多くのことが適切に処理されなかった（例えば、冗員を削減したが活路を整えなかった）、変法は多くの人の支持を得られず、多くの人に反対されたことも失敗の原因の一つである。

4 急いではいけない。十分な条件を備えなければ実施できない。民意の基礎、経済の基礎、文化思想の基礎が必要で、実行チームを組織し、必要な資金と財貨を準備してこそ、展開することができ、軽率に実施することはできない。

5 過激で極端に走ることはできない。物事はすべて存在すると往々にしてその一定の合理性があり、道義法規に合わなくても、一般的には各方面のバランスの結果であり、すべての改革措置は一般的に徹底的なやり方をとることを提案せず、実際の状況に応じて余地を残し、いかなる物事が価値のある場所を残したり参考にしたりすることを徹底的に否定してはならず、誰も徹底的に殴ってはならず、その良い面を肯定し、改革に対する支持を得るように努力し、対立面に立つのではない。

6 綿密で万全な実施案、手順が必要である。物事の本質を分析し把握し、さまざまな社会状況を熟知し、効果的で時宜に適した実施案と手順を制定し、細密に漏れを回避し、それによって功を失うことを避けるために、忍耐強く、無鉄砲ではなく穏健でなければならない。

7 各方面を適切に処理して各方面の利益を考慮しなければならない。各関係者の利益関係と考え方を把握し、できるだけ各方面がウィンウィンになるように協調し、改革が大部分の人の支持を得られるようにする知恵を持って、反対の力を減らすために多くの人の機嫌を損ねないようにしなければならない。改革は基本的に権力、利益の再分配を招くものであり、既存の権力、利益のバランスを打破し、一部の人が権力、利益を減少させ、さらに失って、利益の損失を受けた人に対して、慰めと補償を与えてこそ、彼らの反対を減らすことができる。

8 しっかりしていることを見定めなければならない、左を見たり右を見たりして

はいけない。政策が何度も何度例えば、以前は退耕して林を返すように要求したり、経済作物の栽培を奨励したりしていたが、今では食糧保護のために果樹を切り落として田んぼを回復するように要求したりして、多くの農民が大きな被害を受けている。

9 実施過程は低調で広がらず、動静を減らして民をかき乱すことを減らす。改革の方案は多く調査研究、討論をしなければならないが、実施過程は勢いが大きくなる必要はなく、利益関係者に心理的な圧力を与え、民衆に妨害を与えないようにし、できるだけ潤物が声を出さずに知らないうちに方案を実行して改革を完成した。

18 率先して信用を重んじ、信頼力を維持しなければならない

政府の信用は非常に重要であり、政府が信用しなければ、社会全体が信用を守る人はいない。

現在の政府はよく言っても信じられず、さまざまな約束ができないと言って、さまざまなお金はいつも滞納していて、さらにはセットでやると言って、さらに法律や法規に背いて行動して、自分の公信力は消えて、社会全体の気風を壊してしまった。

19 外交の道：信義を優先し、口コミを構築し、各国と協力し、ウィンウィンを図る

1つの国の外交は1人の社交と似ていて、義理を重んじて信用があってそれでみんなに認められて、そして広く友達を交際して、多方面のウィンウィンを重視して、やっと道はますます広くなります。

1信義を第一に考え、信用を重んじ、道義を重んじなければならない。信義がいかに重要であるか、一人でも国でも、信用を重んじず、利益だけを求め、利益を見て義を忘れると、みんなに唾棄されて社会に立脚できなくなるだろう。利益も重要だが、信義はもっと重要であり、利益第一を追求して信義を勝手に踏みにじり、「永遠の友人はいない、永遠の利益しかない」と奉行し、利益のためにいつでも顔を翻して友人を裏切る人や国は、必然的にみんなに嫌われて道が狭くなる。特に現代社会では、弱肉強食はみんなを衰退させ、文明的に付き合って協力し合ってこそ共栄に向かうことができ、信義はさらに人間と立国の本であり、信義を重んじないことが殴られる主な原因であることが分かっている。「弱国無外交」は基本的に間違っている。「信義を重んじない国無外交」であるべきだ。古くから春秋時代、言うまでもなく文明の程度が比較的高い今の社会では、多くの小国が道義を堅持することで尊重され、保護され、長く発展してきた。一部の大国は道義を失って脅威とみなされ、集団で攻撃されて敗れ、今の世界のほとんどの国も弱国であり、弱肉強食されることなくよく存在している。信義が欠けている国は、往々にして発展が非常に悪い国であり、中国の清末の腐朽した政府のように、そして今の世界のいくつかの独裁ならず者国家は、世界中から唾棄され、孤立し、ボイコットし、制裁され、世界各国と協力して発展する機会を多く失い、受けた損失は彼らが信義に背いて得た利益よりはるかに大きく、そのため貧困で立ち後れた状態にある。一部の国は常に道義の重要性を認識していない。一部の国が物資の支持、国連投票の支持、私たちの敵を制圧し、国際社会の私たちに対する注意力と非難をそらし、自分たちが統一を追求する戦争を起こすことに呼応するなどのために、彼らの対外侵略、混乱、対内の極権統治を支持し、彼らの他の国と自分の国内の民衆に対する極度の傷害と世界の平和に対する破壊を無視するの

は、とてもいけないことであり、そのため世界から唾棄され、孤立して国際社会では一歩も踏み出せず、経済的に私たちは必ず教訓をくみ取り、道義的な頂点を占め、世界の尊重を得るようにしなければならない。世界の潮流、民心に逆らうようなことを天下の大不韙を冒してはならない。独裁統治、神権統治、テロ攻撃、他国侵略など世界から唾棄された政権や政治組織に対しては、離れて切り離し、鮮明に反対しなければならない。彼らと仲良くしたり、近すぎたりしても国際社会に認められず、捨てられ、孤立したりしないようにしなければならない。一方、ある国を支援するにも、中の独裁的で腐敗に貪欲な支配者が民衆に憎まれないように統治を鎮圧するのを助けることはできない。を選択します。また、国際社会で影響力があることを求めて主導的な役割を果たすには、より良い評判、徳望が必要で、みんなの支持を得ることができます。そうしないと、口コミが悪く、評判が悪いと、みんなに非難され、ボイコットされるだけです。

2 国を十分に開放しなければならない。一つの国は世界に対して十分に開放され、さまざまな制限を取り除いてこそ、世界各地の資源と人材を吸収して発展することができ、そして自分が優位な製品、サービスも世界に売れてより多くの収益を得ることができ、それによって国をより繁栄させることができ、鎖国は内部の力だけで国を建設し、内需内の循環だけで経済効果を創造し、発展の限界動力が比較的不足し、最終的には貧困と衰退に向かうだけで、中国清朝は最も良い例である。また、開放的な相互市も国の安全をよりよく保証し、他国との間に私と私の中にあなたがいて、互いに対立することなく相互依存を実現することができ、国もより安全であり、多くの戦争も常に一方が他方の資源を獲得するために貿易で獲得することができず、武力で獲得することしかできない。例えば、北方の遊牧民族の中原地区への攻撃、西側諸国の清政府への攻撃など、これらの戦争を解決し、衝突はしばしば開放市場貿易を採用することが武力で対抗するよりも効果がよく、また、貿易交換を通じて武力で戦争を通じて必要な商品と利益を容易に、より低コストで獲得することができることを発見している。例えば、漢が国境市を設立して匈奴が貿易交換を通じて武力に訴えることなく必要な物資を手に入れ、国境を安寧にする主な措置でもあり、明朝の隆慶皇帝も開放貿易を通じて倭寇とタタールがしばしば侵略に来る問題を解決し、「隆慶スイッチ」は海禁を開放し、海外貿易額を上昇させただけでなく、倭寇が繁殖する土壌を徹底的に根絶した。

3 韜晦謙遜で控えめで低姿勢でなければならない。鄧小平は私たちが韜晦をするのは理にかなっていると強調し、私たちはまだ条件もなく、強がる必要もなく、私たちの多くの面ではまだ遅れていて、いくつかの場所に優勢があるだけで、この他の場所にも隙がないわけではありません。腫れた顔をしてデブになるな。姿勢を低くすることは尊重されていると感じさせ、往々にして存在する矛盾をよりよく解決することができる。低調は私たちを退屈させて大金持ちにして発展させることができます。そうしないと、高調は人に不服、気に入らないことを見せて私たちへの支持を減らすだけでなく、わざと私たちにつまずいてしまうこともあります。

4 広く交わることを実現しなければならない。国も人と同じように、友人は必ず多くのことをしなければならない。そのためには、国際関係の処理において、コミュニケーションを上手にして他人の理解を得、他人の好感を得るために多くのことを考え、尊重しなければならない。中国はここ数十年来、相手の機嫌を損ねないように行動してきたが、やはり比較的に良い。このようなやり方は我が国が国際社会で立脚し、発展するのに有利であり、私たちが引き続き伝承し、発揚することを望んでいるが、戦狼式、四方に敵を作る外交行為と過激な言論を根絶し、あえて闘争することを

奨励し、闘争に優れた冷戦的思考とやり方を捨て、外交は主に闘争ではなく交渉を重んじていることを理解しなければならない。ほとんどの国は私たちと多く協力してウィンウィンを望んでいるが、本当に敵対しているわけではなく、ただ国家間の有利な利益、観念上の紛争と衝突は避けられないが友好的な協議を通じて、互いに譲歩し合い、共に良い原則を守ることで、すべて良い関係を処理することができます。また、他国の私たちに対する批判や非難に対しても、興奮してはいけない。侮辱されたり攻撃されたりして気まずい関係になってはいけない。私たちには確かに問題があるのは、多くの自己反省と謙虚な改善であり、私たちには問題がないのは批判者に対して多くの解釈、コミュニケーションをしなければならない。私たちは現在、国際的に他国から孤立し敵視されており、特に西側諸国との関係が悪化している。これには他国のいくつかの原因があるが、私たち自身が国際ルールに違反したり、道義に背いたり、温和で謙虚ではなかったり、コミュニケーションが下手だったりする問題もある。

5 異なる国に対して親近度の異なる付き合いを採用する。国家外交は人と社交するのと同じように友を選んで交際しなければならず、多く発達している、文明的で、豊かな国家と交流して協力して、それによって協力の利益を得やすく、もっと高い利益を得ることができて、しかも協力は比較的に少ないことを保証して制御不能な要素があることができて、貧しい、立ち後れている、人員の素質が比較的に低い国家と協力することを少なく重視して、利益を得ることが難しく、甚だしきに至ってはよく損をして彼らに輸血して、協力の過程で制御不能な要素がまた、信義を重んじ、国際的に評判の良い国と付き合い、評判の悪い国、例えば北方のある野蛮な侵略成性の国と一緒にいてはならない。私たちも国際社会に彼らと同じ穴のムジナでも悪い国だと思われないように、もし彼らと接触することがあれば、彼らにだまされないように気をつけなければならない。

6 金元外交をできるだけ減らす。金元外交を通じて得た友人はほとんど本当の友人ではなく、基本的に羊毛をむしり取るために来ただけだ。ここ数年、私たちはいくつかの小さな、後進国の国際的な場で私たちを支持するために、常に援助、建設支援、無条件低利無利子貸付、留学生を受け入れ、補助金を与えるなどの方法で彼らを喜ばせてきたが、結果として多くの資金、資源がこれらの国とその国民に費やされ、結果として生じるプラスの効果は非常に小さく、投入産出比は低すぎる。また、援助の金額の多くはこちらの援助担当者とあちらの援助受け入れ担当者のポケットに入っており、対外援助を推進することに熱中している人もいる。私たちはできるだけこの方面の行為をやめてこの方面の出費を減らすべきで、各国と協力してウィンウィンし、信義を重んじて認可を得て他国との良好な付き合いを実現することを採用しなければならない。

3 政府の首長の推挙、選任、監督、罷免をどのように展開するか

政府の首長の推挙、選任は政府運営における重要な仕事であり、よく展開され、比較的に良い人選を選ぶことができ、しかも推挙の過程で異なる観点の争い、利益の争いによって紛争や戦乱を招くことはない。政府指導者に対する監督は、仕事をよりよくして間違いを減らし、無茶を避けることができる。また、首長を続けるのに不適切な指導者を罷免すれば、悪影響を減らすためのタイムリーな調整を実現することができる。

政府の首長の推挙、選任、監督、罷免は比較的に複雑な仕事であり、しかも関連

する利益は非常に大きいので、いつも激しい闘争を避けることができなくて、人類社会は昔から今までもこの方面で苦労して、国内外の歴代は指導者の人選を確定し、争奪するために常に大きな社会的危害と損失をもたらしている。

どのようにして政府の首長の推挙、選任、監督、罷免の仕事をより良く、より効果的に展開させるのか。

まず、秩序、平和、文明の進行を保証しなければならない。首領の推挙選任は混乱した紛争に陥ってはならないし、地位を奪うために互いに争ったり、暴力を振るったり、戦乱を起こしたりしてはならない。首領選挙の各方面が、事柄を起こしたり、波風を立てたりしないようにしなければならない。中国古代の中原王朝の大部分（基本的には漢族王朝や漢化が儒家文化を受け入れた少数民族王朝）のように、紛争を減らし安定を保つために、嫡男子の王位継承を黙認する仕組みを採用しており、紛争に巻き込まれないようにすることがほとんどだ。一方、一部の塞外遊牧民族の政権には匈奴、蒙元などの政権が含まれており、権力者の何兄弟、叔父甥を争うために戦争をしていたことが多く、その結果分裂と内費を招いてすぐに政権全体が盛衰した。また、首長の罷免、変更も平和的な政治的手続きを通じて行わなければならず、暴動、クーデターを通じてはならない。そして首領に変更があっても、関連する殺戮を避け、社会を文明に向かわせ、食うか食われるかではなく、競争の敗者を生存させなければならない。古代の新首領が登場すると、自分に隠れた危険を抱えている人を大虐殺し、特にクーデターを起こした人は、政敵を家族や部下と一緒に切り株して後患を絶つことがよくあった（典型的な例は、李世民玄武門の変後、李淵に李建成、李元吉の子供も殺し、外来ライオンがライオンの座を奪った後、老ライオンのすべての子供を噛み殺すのと同じ）。母親や親戚が後に政治をするのを防ぐため（最も典型的なのは漢武帝が劉弗陵に伝位した時も母親の鉤弋夫人を殺した）、さらにオスマン帝国は残忍で、長い間親殺し相続法が施行され、1人が後継者になると、兄弟姉妹などの王位競争者が殺され、スーダンに跡継ぎがいないことを防ぐために帝国が跡継ぎを失うリスクに直面することになったが、他の兄弟姉妹も軟禁され、出産できないか、子供を産んでも殺され、紛争のリスクを最小限に抑える必要がある。

次に、推挙、選任、監督、罷免に参加する人は、自分の利益ではなく、何千万人もの人民の福祉を考慮しなければならない。古来、指導者の推挙は、最も優秀で最も国に有利ではなく、自分の個人や小団体に有利な利益で推挙されることが多かった。また、将来的には賜物や権力を獲得するために擁立の功を得るためだけに（特に本来上位の機会が小さい人を擁立すると非常に高いリターンを得ることができる）、これはしばしば災いをもたらした。例えば、唐の長孫無忌は李治が甥であることから、自分がより多くの権力配分を持つことができるようになった私心から、最適な人選ではない李治を皇位継承者として推挙し、国を強く弱くした。また北宋向太后は個人的な考えから、他の優れた人選を故意に排除し、性格能力が適切ではない最高指導者を断固として支持した趙佶が新しい皇帝になり、北宋滅国のために雷を落とした。近代においても、古い指導者が自分と家族の利益を守るために、新しい指導者を推挙するのは、人物が自分の派閥に属しているかどうかを考えたり、自分のコントロールに従っているかどうかを考えたりするだけで、徳と才能を兼ね備えているのではなく、結果として欠陥のある問題のある人が上位にランクインし、能力がある人はかえって落選することがよくある。歴史はいつも少数の人の私心のために良い方面に行かなかったので、本当にため息をつくことができて、後でこのような情況を根絶することができることを望んで、首領の推挙に参与する機会のある人、きっと大義を重視して、利益の損得を放棄して、やっと人民に歴史に申し訳が立つことができて、やっと千古の悪

名を背負うことができません。また、政党、異なる政治勢力間の相互監督、相互罷免も、自分の利益のためだけに何でも邪魔をしたり、相手が何をしても反対したりしないように、公心に立って道理を説いてください。

再び、候補者と選挙人の顔を広げなければならない。指導者の出馬面が大きくなってこそ、良い人を見つけることができ、何人かに限定することはできない。また、推選、選挙は多くの人が参加すればするほどよく、小回りした選挙ではなく、より多くの人が異なる角度から考えて、不適切な人や悪い人を選ぶのをもっと避けることができます。つまり全国民自由選挙が最善であり、このメカニズムは長期的に進化し、広く検証された方が良い。もちろん前述した投票制度の改良のように、選挙の際には1人1票の均等化には賛同せず、政治や政府の専門家（老指導者などを含む）は一般の人々よりも多くの票を集めることができ、やはり彼らはより専門的で熟知している。

最後に、指導者に十分な監督を受けさせ、適切ではない場合には速やかに罷免されることができるように、指導者を監督し、罷免する仕組みを構築しなければならない。また、どんな職場でも任期制限があり、終身勤務を続けることはできない。特に罷免の仕組みは、憲法などに明文化された規定と手順が説明されてこそ、悪い指導者が現れても適時に平和的に退陣することができないことを避けることができる。昔から人類は悪い指導者をタイムリーに調整できないことに苦労してきた。これまで、指導者は昏睡したり残虐になったりして、国と人民に大きなダメージを与えてきたが、なかなか退陣させることができず、長期的にその害に耐えたり、クーデター、暴力革命、戦争を通じて退陣させたりするしかなかった。指導者が支配する抵抗力が弱い場合を除いて、権力者に追放されて失脚することは平和的な罷免の方法だが、このような追放された指導者は往々にして悪い指導者ではなく、常に弱い争いだけで権力者にすぎない。

4 政府指導者を務めるための条件要件と選択上の注意事項

政府の指導者は往々にして高い権力を持っており、多くのことを叩き、多くの資源の分配を決定することができ、甚だしきに至っては集権が過度になると国家事務に対して独断的に綱渡りをし、他人に生殺与奪する権利を持つため、政府の首領の良し悪しは国家の興隆と人民の幸福に大きく影響するだろう。また、政府の指導者の交代は困難であることが多く、特に罷免メカニズムがなく、任期制限もない状況では、人選を間違えて指導者になると、大きな、永続的な災難をもたらすことが多い。制度が不健全で良い文化が形成されていない国や地域では、指導者に制約のないメカニズムや気風があり、悪い指導者は国や民に災いをもたらし、いつもやりたい放題で他の人は彼を仕方がないと思っている。

そのため、政府の指導者は比較的良く、適切な人が務めなければならない。

では、どのような人が政府の指導者に適しているのでしょうか。つまり政府の指導者を務める条件は何ですか。次の要件を参照してください。

1 良い三観を持たなければならない。一人の人生観、価値観、世界観はとても重要で、自分の一生に影響を与えて、一人の指導者の三観は更に重要で、その価値志向、仕事のやり方は国家と民衆に対して非常に大きい影響を与えます。

2 強い社会的責任感と使命感が必要だ。社会に貢献し、民衆に幸福をもたらすことを追求し、自発的に責任を負い、社会の進歩を推進する使命を追求するために努力しなければならない。

3 愛が必要であり、そして大愛の心でなければならない。一部の人だけを愛するのではなく、すべての民衆を深く愛し、異なる民族の異なるグループの人を愛し、問題のある人や敵にも愛を知って敵を味方にすることで、各方面の力を結集して大団結を実現することができる。そして、自分の子供を愛するのと同じように（つまり「民を愛することは子供のようなものだ」）、心から愛して、このような人材は本当に至る所で人々がよりよく多くの人々に幸福をもたらす方法を考えて、やっと民生をいたわり、人民の利益、社会の財産を勝手に損なうことなく民生を大切にしなければならない。愛があるかどうかを公職者採用の第一指標とするには、愛が不足し、大衆の利益を無視し、国と社会の富を大切にしない人に対して、各級、各部門の指導者を選択、任命することはできない。そうしないと、多くの人が社会全体を危険にさらすことになる。採用された公職者に対しても、毎年審査の重要な指標として、引き続き多くの考察、育成、誘導、奨励を行う必要がある。人民に対して愛があっても人民の愛をよりよく得て成功することができ、そうしないと人民に認められて受け入れられない、例えば宋仁宗は散歩口が渇いていて、仕事が遅くてお腹がすいているのに我慢できない、ということは、部下に迷惑をかけることを恐れて仕事ができないと思われて罰せられることを考慮して、オタク心は民を愛して子のように厚い、そのため彼は広範な民衆に愛され、記憶されている。多くのことから見ると、蔣介石と宋美齢は人民を愛する心の上で十分ではなく、個人の利益、個人の権利欲、個人の享受を比較的に重視し、しかも常に無原則に側近と家族をかばいすぎ、大陸での失敗にもこの方面の原因があるはずだ。

4 哀れみの心を持たなければならない。かわいそうな人には哀れみの心があり、他人が苦労しているのを見てはいけない。このような人は民衆の苦しみを重視して民生の改善に急ぎ、民衆が苦労して苦労しないように努力してこそ、社会の弱者の世話をし、扶助することができる。現代のある人は自分の支配下で多くの人を餓死させたことに罪悪感を感じず、またどの王朝が飢えていないと言ったのは典型的な反面例であり、このような人が指導をすることは確かに国に深刻な災難をもたらした。また、民衆が貧しく、経済が緊縮しているのは飢餓療法がむしろ良いと感じているのも、民衆の生活が苦しいことに対する共感が欠けており、民衆の苦しみに同情が欠けているのもある。

5 自分や人を顧みる心がなければならない。同じ道理心を持って、立場を変えて考える習慣があって、至る所で一人一人の利益と感じを考えて、このような人材は至る所で自分の言動、決定が民衆を傷つけることを免れて、自分の功業を追求するためだけに追求しない功業は民衆の利益を犠牲にすることができて、自分の虚栄のメンツだけに気を取らないで、民生を見下ろして民生の困難を心配しないでください。

6 大人っぽく落ち着いていなければならない。指導者としては老成して重んじなければならず、成熟した心を持っていなければならない。結局、国家の事務事は重大で児戯ではなく、無謀で結果を度外視してはならず、頻繁に政策を変えることもできない。歴代の官吏選びや王位継承者も、心が成熟し、行動が落ち着いているかどうかを重視してきた。例えば、北宋向太后が私心から宋徽宗を新帝に強行しようとしたが、宰相の章惇は宋徽宗の軽薄な誇張は適切ではないと指摘したが、残念なことにこの意見は受け入れられなかった。また崇禎も典型的な未熟で穏やかな人で、各方面は常に進退して根拠を失い、亡国を招いた。

7 決断を下す決断力が必要だ。意思決定にはしばしば論争があり、指導者が選択する必要があり、この時はあまりにも引っ込み思案になってはいけない。責任を負い、決断する勇気が必要で、特に緊急時にはタイミングを誤らないように優柔不断に

してはいけない。

8 性格が温和で衝動的に怒りっぽくならないようにしなければならない。個人の処遇は時には比較的適切で血気盛んであるが節制しなければならず、政府の指導者としては怒りやすく衝動的に意地を張ってはならない。指導者の怒り衝動は往々にして極めて大きな危害をもたらすが、最も誇張されているのは「天子の怒り、伏死百万、流血千里」であり、少なくとも怒り出すと下が混乱してしまう。もし指導者が常に怒り出すと、部下は自分の意見や考えを出すことができず、主観的な積極性を発揮して仕事をすることができず、上司の好みに順応するために規則に反することをするだけであり、この方面で怒りやすい崇禎は良い例である。

9 強い心理的素質、定力が必要です。毅然とした意志、強大な心理素質がなければ、大任を担うこともできないし、事を成し遂げることも難しい。そうしないと、定力がなくて左右に揺れることも大きな問題になる。

10 比較的寛容で人に寛大でなければならない。他人の非主観的、無傷の上品さ、初めて現れる過ちと不足を容認することができて、あまり厳しくなくて、しかも他人が過ちを知ったら改めて、功罪を償って、道理にかなって人を許さないことができて、このようにしてやっと多くの人を団結させることができます。

11 他人に友好的でみんなを団結させるのが上手でなければならない。すべての人に友好的で、人畜無害で、誰とも対立せず、ほとんどの人と仲良くして、劉秀のように各派閥に広く受け入れられるようにしなければならない。指導者として君子派ではなく、素質の高い人と仲良くするだけではなく、長袖善舞、いろいろな人と仲良くしなければならない。

12 優しく謙虚でなければならない。そうすれば、人に親しみやすく尊重され、より多くの人に受け入れられ、認められ、助けられていると感じさせることができます。

13 謙虚で謙虚でなければならない。独りよがりで傲慢であることは、自分を停滞させたり物事をはっきり見えなくさせたり、他の人に反感を持たせたりして、問題があっても指導や注意を与えず、謙虚で謙虚であってこそ、絶えず反省し、他人の長所を発見し、学習し、絶えず進歩することができる。

14 豊富な知識と経験が必要です。知識と経験が足りないと、世界が物事に対して事実と合わない認知を生み、それによってミスを招くことができ、知識が豊富で比較的に多くの経験を経てこそ、物事の本質をよく把握し、情勢を判断し、問題を洞察し、各問題を適切に処理することができる。

15 原則を重んじて大局を顧みなければならないが、基本原則を保証する前提の下で適切に柔軟に融通し、情状酌量して事を処理するのが上手である。

16 身をもって模範を示し、模範的な役割を果たさなければならない。そうすれば大衆に服従し、みんなに従ってもらうことができる。

17 信用を重視し、信用を守り、言うことは実行しなければならないが、信用を重視しない言動が一致しない人ではいけない。

18 問題を隠すのが好きな人ではなく、勇敢に問題に直面しなければならない。

19 私心があって小団体の利益ばかり考えているのではなく、小団体の利益のために多くの人の利益を犠牲にしているのではなく、多数の人の利益を代表しなければならない。

20 人としての扱いが上手で、みんなに広く認められなければならない。大部分の人との関係が良好で、各方面との関係がこじれないことを含めて、仕事のやり方はみんなに認められて、仕事の結果もみんなの大多数の人の期待に合っている。みんなに

認められてこそ、みんなをスムーズにリードして仕事を進めることができ、みんなに裏切られたことを認められないと、各方面の仕事がみんなに抵抗されることになる。

21 法治精神を持たなければならない。仕事は自覚的に規定通りに手続きを踏んでいるが、指導者がやりたい放題をしているとは思えない。

22 仕事をするにはベースラインが必要だ。手段を選ばない人を指導することはできないし、政治闘争の中で陰謀や手段を弄して他の人に毒手を下す人も国と人民に手段を弄して国に災いをもたらすだろうし、残虐非仁が自分の権力のために民衆を惨殺する人に権力を握ることはできない。例えば、薄某は多くの企業家や役人を迫害し、自分が管理する都市で 3000 人を殺して威光を立てると言ったこともあるが、幸いにも権力と上位を続けなかった。そうしないと、どれだけの人が落着するか分からない。

23 言行を慎まなければならない。指導者の軽い一言、簡単な要求は、部下に過度に解読され、実行されることが多く、部下と民衆は困っていて、面倒で、損失が大きいので、指導者として話すことはもっと慎重にしなければならない。

24 中庸を比較するには、容易に極端に偏ってはならず、仕事をするには余地を残すことができ、そうすれば各方面をバランスよく調整し、より多くの人を団結させることができる。

25 屈伸できるようにするには、必要なときに妥協して譲歩することもできるが、あまり強硬に無理に担ぐことはできない。このようにしてこそ、時勢を見て適切な方案を採用して実力を保存し、利益が限られた条件の下でできるだけ多くを獲得し、さらにみんなに受け入れられやすく、各方面の力を調整することができる。

26 他の人との争いにあまりこだわらず、恨みを覚えず、報復心が強すぎて必ず報いることができず、報復の目的を達成しなければやめない。そうすれば、他人との摩擦や対立を減らし、あちこちに敵を作らないことができる。

27 名利を淡泊にして権力と利益を軽視しなければならない。自分の権勢、地位、利益、功名を追求しすぎてはならない。そうすれば、権力を弄して国に災いし、民に災いすることなく、清廉で公私を損なわず、個人の損得にこだわることができない。野心があってはならないし、権力がなくても大きなことができることを追求しなければならないし、個人の権勢や名利を追求するのではなく、民衆に幸福をもたらすことを追求しなければならないことを理解しなければならない。

28 仕事をするには強要せず、成功を焦らない。実力によって何ができるかはただ何かをするだけで、しかも人が何をするかは天にあり、一心に仕事をすればよく、どうやって強要できないか、そして文武の道が一枚一弛緩して適切な仏系ももっとよくて、みんなが仕事を難しくしないようにすることができて、事は水を求めて自然に成熟し、それに従って自然に法則に背かなくてももっと良い。諸葛亮は急いで成功を求めて時勢を見計らっていなかったが、自力で祁山を出て、国力を費やして失敗した。また、台湾海峡統一も経済文化融合を通じて徐々に推進しなければならず、成功を急いで武力に訴えることはできない。そうしないと逆効果になる。

29 偏執、執拗、認識できない、失敗を受け入れることはできない。歴史的には王莽、王安石のように、非常に執拗で、失敗を自分の原因ではなく他人が破壊したと見なし、間違いは深刻だが南の壁に頭をぶつけても戻らない、近現代にもこのような指導者は少なくない。

30 横柄で独断してはいけない。多くの昏君は国を治める方法がなく、傲慢で独断的で、他人の意見を考えたことがない。強すぎるもの、一言堂のものを選んではいけない、さらに意地悪で手段を選ばないものを選んではいけない。（他の記事を抜粋：剛直で妥協が足りず、功を急ぎ、利益を得て、また既存の制度を破壊する変革者は、

必ず巨大な災難を招く。道徳至上と礼儀作法の先天的な不足を加えると、必ず失敗する）

31 志が大きくて才能が疎かではいけない。そうしないと、才疎学浅の各方面が分からないが、志が高くて物事を管理するのが好きで、むやみにでたらめなことを指揮して、気を失って頻繁に出てきて、もっと大きな危害をもたらします。

32 見栄を張って見栄を張ってはいけない。そうでなければ、虚しくて実がなく、民を労して金を傷つけるという決定を下し、奸の小人にお世辞を言われて利用されるだろう。控えめに、実務的に、自分の功績を宣伝するのではなく、自分の不足を常に反省し、自分の能力を高め、より多くの功績を出して自分の地位にふさわしいように努力しなければならない。強すぎて大喜びの指導者は国と人民にとって災いだ。例えば、漢武帝は国を自分の野心と権力欲の道具に変え、民間経済を破壊し、法制を破壊して刑法を重くして冤罪を招くことが極めて多く、社会が互いに告発し、陥れる気風を奮い立たせ、好戦、大喜功、驕奢奢淫逸は民衆の負担を非常に重くし、文景盛世が蓄積した国富を使い果たし、人間を地獄に変えた。また楊広は大喜功を好んで、傲慢で淫逸で天下が疲弊し、庶民が流離し、世界が崩壊した。

33 人より一段上の感覚と名誉の追求があってはならない。リーダーもただの持ち場で、みんなと分業が違うだけで、みんなより一段上ではありません。自分の感覚が高ければ、きっとみんなにサービスできなくて、みんなにサービスされるべきだと思って、甚だしきに至ってはいじめて、みんなに打撃を与えます。自分にはそれほど能力がなく、徳があまりにも高い栄誉に対応できないことを知っておく必要があります。劉主席は当時の指導者を批判したことがある。「独りよがりで、恥も知らずに党員に彼を尊重し、擁護するように要求した……彼はうぬぼれで、人を教訓にし、人を指揮し、いつも人の上に登りたい……、名高い悪根は取り除かれていない。彼は自分を「偉大な人物」と「英雄」に見せようとし、さらに彼のこのような欲望を満たすために手段を選ばない」。

34 心や性格に欠陥があってはいけない。仇富心理、人に顔向けできない心理など、歪んだ心理を持ってはいけないことを含めて、このような人はみんなを共同貧困に引き寄せることができて、またある人は社会に報復する心理があってもし指導者になるならばわざと社会を害することができます。愚かで愚かで愚かな知力が不足している認識の限界や、孤高で偏屈で頑固で頭が固いなど、指導職やいかなる公職にも向いていない。

35 精神錯乱があってはならない。例えば、歴史上「肉のミンチを食べないのか」という晋哀帝は、精神的に問題のある人が妖後らに勝手にコントロールされていること、また王莽は後期にも精神的に錯乱して様々な奇妙で、人を笑わせる行為をしていた。

36 あまり負けず嫌いではなく、困難を知って退くことと成功して退くことも知らなければならない。指導者として、もし国や地方を治めることができなかったら、必ず上にも下にもできるように自覚しなければならない。不適切ではなく、多くの人に反対されても退陣しないようにしなければならない。自分が適時に退陣しないと、民衆の怒りを引き起こし、民衆のボイコットを招き、社会の不況や激動などの社会危機を招くことを理解しなければならない。清室が遜位すれば、全国で暴力革命が全面的に勃発することを回避し、漢武帝が罪己の詔を発表し、徐々に退位することで、一部の民心が天下の激動を回避したことを挽回し、唐玄宗は自分の代わりに太子の早期即

位を黙々と受け入れたことも最後の賢明な行為であり、袁世凱のそして、殺戮を覆される辱めを受けないようにする。また歴史上の多くの君主は、本来は前の段階でよくやっていたが、早く退位すれば歴史に良い名声を残すことができるが、功成を知らずに退き、権力に執着して退位しないまま、年を取ってもぼんやりしてぼんやりしていて、でたらめを言って、最後に身を滅ぼして、唐玄宗を含めてもその一例である。

37 貧しく、苦しく、苦難を経験したことがあるほうがいい。このような人材は実務的で、下層の民衆に対してより同位心と思いやりがあり、漢明帝劉病己が幼い頃から刑務所と民間に流れ落ち、社会の下層の状況と民衆の苦労を深く知っていたように、その後非常に開明して民衆のために考えていた。

38 自分の経済力、経済的基盤が優れている人が望ましい。このような人は役人になることで利益を得る必要はなく、かえって腐敗しない。そうしないと、家庭が貧しければ、役人になると権力で利益を得る考えや行為が生まれやすくなる。

39 社会、経済分野で長年働いており、指導者と比較的成果があることが望ましい。このような人は経験が豊富で、社会、経済の各方面の情況を熟知して、また比較的に管理経験があって、更に政府の指導者になるのはもっと良いです。例えば、多くの人を成功させ、管理している企業家に、政府を管理してもらうことで、一般的にもうまくいくことができます。

40 思想開放、信用重視、気風の良い地域を優先する人は、民風の悪い地域を選ぶ人は少ない。例えば、筆者は以前ある会社に勤めていたが、ある部門のマネージャーは西北のある省の人で、非常に愚かで頭が悪いので、部門を鶏が飛ぶように管理していた。また、電気詐欺の組織者の大きな割合は銀行信用評価システムの中で得点の低い東南のある省から来ており、同省のベースラインに出没しやすい人は、できるだけ同省の人をリーダーに選ぶことは少ない。

41 特権や特別待遇を享受する環境で育ってはならない。そうしないと、特権的な思考、特別なことに慣れた思考、自分のことだけを考えて民衆の利益や感情を考えない思考がある。

42 あまり老けないほうがいい。幹部指導者は若くしなければならない。60 歳を超えたら指導職にならないように要求したほうがいい。せいぜい顧問になればいい。そうでないと、年を取って耳が閉ざされ、思想が硬直し、いつも現実から離れ、好意的に悪事をし、心に余裕があって力が足りない、さらに昏睡して気絶するなどの問題が起こりやすい。また、ある程度の年齢になると、通常は異なる程度のアズハイマー症があり、アルツハイマー病である。この症状が出てから、最も主要な症状は安心感が大幅に低下し、リーダーを務めると他人への不信、何かを疑い、打撃を受けやすくなる。

43 結婚家庭が円満か、少なくとも正常な人、できるだけ結婚、感情が異常な人を選ばないほうがいい。結婚家庭が円満な人は一般的に性格、人間関係の処理能力が比較的に良い人であり、結婚、感情が異常な人（特によく相手を変えるクズ男クズ女）は往々にして三観、性格にも問題がある。

要するに、指導者は高位にいて権力を握っており、善し悪しの影響が大きく、選択には慎重で慎重で、かっこいい人材に適しているから首長になり、将校に適しているだけで広範囲の管理をせずに一人前になり、普段も監督、注意、メディア批判などを通じて指導者が常に良い心理状態と認知を持っていることを確保しなければならない。

5 極権専制の危害とどのように出現を防止し、どのように解決したか

1 極権専制の危害

極権専制とは、少数の人が無限の権力を持ち、管理上の家長制、意思決定上の一言である。

極権専制の危害の大部分の人は深い感銘と認識を持っていて、特に数千年の専制統治を経験した中国の民衆。梁啓超氏は、「その不良を一統にした結果、民権は狭くても政本は立たず、一尊は定まって進化が滞っている...」と述べた。

1社会の発展を遅くし、後退させた。極権専制の下で指導者はすべての資源を掌握してやりたい放題で、他の人は指導者の賜物を乞うことをめぐって絶対に指導者に従わなければならない。すべてのことは指導者一人が計算しただけで、他の人が異なる考え、観点を持つことは許されず、みんなが提案、意思決定、仕事などの面で自主性がなくても機能できず、知恵を集めることができず、社会全体の一人一人の聡明な才知を発揮するのではなく、少数の指導者の知恵だけではなく、各方面は非常に限られ、発展が遅い。

2社会を不公平にし、みんなの積極的な創造力を低下させ、国の弱い民を貧しくさせた。極権専制は少数の人が機会、富の分配を決定するだけで、大きな不公平を招きやすく（少数の人は権力を通じて巨大な富を掌握し、大部分の民衆は生計を立てる機会が少なく、往々にして小さな利益のために血流を争う）、みんなの仕事の積極性を大いに打撃し、多くの人が寝そべったり、抵抗したりして、社会創造力が大幅に減少して、経済が停滞して、世界のすべての専制国家が貧しいのはこの原因だ。

3 社会の効率が低下し、内部消費が深刻化し、体制が硬直化した。専制統治者は基本的に売春婦をして鳥居を立てなければならないことと、その行為をみんなに理解されないように反対することで、多くの繁文縟礼をして、簡単なことを複雑化して、それによって人の目を隠して、水を濁して魚を触って、結果として大きな、不必要な人力物の消耗と効率の低下をもたらして、彼らの利益を隠すために社会全体の利益を大きく損なった。また、権力が集中した後、核心指導者だけが決定権を持っており、ほとんどの人は決定権がなくて実際の状況に基づいてタイムリーに物事を処理することができず、しかも何度も指示する必要があり、効率が非常に低く、物事を処理するタイムリーさも非常に悪い、そして誰もがどこかから不満をリードすることを恐れて罰せられることを恐れて慎重になり、仕事をすることが非常に硬直し、硬直しており、万一のことがあっても柔軟に変えることはできない。

4 大部分の人を貧困、卑屈、愚か、無頼、自由と安全がないようにする。極権専制は必然的にみんなの反対を受けて、権力者は統治を守るために広大な民衆の覚醒を恐れて、必然的にできる限り抑圧して、束縛して、だまして、誤解してみんなを導いて、多くの人をだまされて甚だしきに至っては愚化させて、しかも至る所でみんなを貧困にして実力がなくて反抗させることを制限して、多くの悪法を制定してすべての人に弱点があっていつでも片付けられて人を危険にさらすことができるようにして安心感がなくておとなしく言うことしかできなくて、反対する勇気のある人に対して更にその厳しい打撃を受けて、このように多くの（他の文章を抜粋：『中国国民性進化過程』国民性は不変ではなく、春秋から唐宋、明清に至るまで、中国人の性格は滝のように直下し、ますます悪化してきた。春秋時代は単純で素朴で、唐代は雄健で日光があり、尚武の精神があった。明清に入ってから、ごろつきの気はますます重くなってきたが、この流れは専制制度の発展と密接な関係がある。）

5 国の閉鎖を招き、他国との関係が緊張している。極権専制は国際社会から批判され、干渉されることを恐れ、鎖国を選択し、他国との衝突を作り出して外部の敵を樹立し、彼らに対する憎しみを外部に移す。比較してみると、民主国家と政権が故意に戦争を挑発したのは極めて少なく、戦争を起こしたのは反撃を余儀なくされたが、世界で紛争を起こしたのは基本的に専制統治の国と政権だった。

6 理性的ではなく、常識に反し、自国と世界を傷つける意思決定が起こりやすい。専制国家は少数の人だけによって決定され、この少数の人の考えが不行き届きで、衝動的で、個人の好き嫌いと意地、個人の利益を考えて不良で、国家と民衆及び国際社会の決断に不利で、そのため専制統治国家の多くの政策は大きなランダム性があり、偏っていて、甚だしきに至っては奇妙で、またみんなは専制国家が突然でたらめで、トランプの理に基づいてカードを出さないことを心配して、民主国家が決定を下すのではなく、複数の人が十分に討論して決定する基本的に理性的で、明らかに間違った決定はありません。

7 深刻な腐敗を招く。権力が大きいほど腐敗が起こりやすく、絶対的な権力は絶対的な腐敗が現れる。

8 悪人が上位に入りやすいようにする。集団主義は時に英知と効率を体現することができるが、歴史の進化は善人より悪人の権力者になることが多い。これは、集団目標が個人の上昇目標になると、手段を選ばずに達成しなければならないことが多く、野心がなく誠実で善良な人は通常できないからだ。組織内は絶えず同調し、最後に権力者の中では善人はますます少なくなり、悪人はますます多くなるだろう。ハエック氏はかつて「ソ連のスターリン主義は、中央計画経済から個人の集権、ファシズムの変遷に至るまで、必然的である」と断定し、47 年後の結果の真言の中で、「私たちが全力を尽くして崇高な理想に基づいて私たちの未来を創造してきた時、私たちは実際には知らず知らずのうちに私たちが奮闘してきたものとは正反対の結果を作り出していた」と感嘆せざるを得なかった。

9 社会人の優劣をつける。専制的な支配下では、盲従して言うことを聞く人が必要で、奴隷だけが言うことを聞くことで認められ、抜擢されるが、本当に能力のある人は基本的に他人に対して百依百順ではなく、原則的に背を向けて卑屈に良心に背くことはできないという主観があり、角があるために冷遇され、排除され、打撃を受ける。

10 専制は施行者本人や所属政党にも大きな害を及ぼしている。専制を実施する統治者自身にも有害であることを含めて、その身を破滅させ、末永く汚名を残すからだ。政党に対して独裁者が出てきたら、政党全体を押しつぶして壊滅に追い込むこともあるだろう。

要するに、専制統治は社会の進歩と経済発展を大きく阻止し、破壊し、みんなの生活と発展に大きな危害を与えた。最も頂点に立ったのは清朝で、数千万人を虐殺しただけでなく、中国経済の衰退を前の 6%に萎縮させ、中華文化を破壊し、大興文字獄は思想の自由を制圧し、民衆を愚かにし、識字率を 20%から 1%に低下させ、民衆を自由に移動させないことも外国に移民することもできないことも含め、大量の領土を喪失させた……そして近年の左折と横暴な管理も中国の経済を急速に衰退させ、外交を孤立させた……

（他の文章を抜粋：専横な権力が猛威を振るう地方では、文明は式微、野蛮は道となり、人民は災いを受ける。文明が発達して栄えるかどうかは、表面的には経済の

発展にかかっており、実際には統治者の馴化にかかっている。個人の自由、生命、財産を尊重しない地方では繁栄した経済があるはずがないからだ。民主ではない国が先進国になることはできない。専横な権力が横行する国は文明の国ではない。）

（他の記事を抜粋：1989年6月16日、鄧小平氏は何人かの中央指導者との談話の中で、「今のところ、私の重みが重すぎて、国と党に不利で、ある日危険にさらされているように見える。国際的に多くの国が私が病気になったり死んだりしているのではないかということを念頭に置いている。私は長年この問題に気づいてきた。1つの国の運命は1、2人の声望の上に築かれている。健康ではなく、危険だ。何かが起きなければ、何かが起こると収拾がつかない」と述べた）

2 専制の形成と民主と専制の闘争の歴史

人類が家庭、社会を構築した後、権力は初級のレベルから後になってますます組織性があり、管理の範囲がますます大きくなり、権威性と集中性がますます高くなり、独占され、拘束されなくなり、頂点に向かうと、一言堂つまり極権専制が形成された。

中国では、最初の記録は大禹の時代にすでに専制が形成されていたはずだ。例えば、防風氏が会議に遅れただけで、何かの原因があったが、大禹個人が怒って勝手に殺すことができたことや、大禹が後に禅譲制を変えて自分の息子に伝えたことなどが含まれている。秦の始皇帝は専制極権を一つのピークに押し上げ、子孫の支配者のために踏襲を模倣してきた。漢代から、統治者は民衆をよりよく麻痺させるために、食べ方が醜いことを民衆に見られないようにし、儒教法の中の方式も採用し、儒家が提唱した礼教、道義を用いて人を食べる人治を隠す。例えば、『なぜ中国は二千年の封建専制を経験したのか。誰が帝王の権を制定したのか。謎はこの人にある』という一文は、「天下の人々に宣伝したのは忠君愛民の儒家である。本当に役割を果たしたのは皇権至上の法家であり、儒家思想は万民を教化したものであり、法家思想は政策決定用を指導したものである。、前漢はこの制度に美しい新装を着せて、それを光明で美しいものに見せた。だから、仁政を話して、王道を言って、儒家を尊ぶ。しかし、専制をして、覇道を行って、法家を尊ぶ」。

ほとんどの民衆は、専制行為に無感覚であり、報復の打撃を恐れて反対する勇気がない。反対などの制約を受ける権利はなく、手綱を外した野馬のように、ますます専制的になってきた。

専制施行者は権力を集めるためには何の役にも立たないと言っても過言ではない。いずれも方法を尽くして反対の力を抑え、潜在的な反対の力を芽生え状態から消滅させ、さらに他の力が集結することを許さない（例えば後漢の「党束縛の禍」は結党の禁止と打撃）、できるだけ多くの権力を握り、できるだけ無期限に権力を握り、たとえ権力を握らなくてもその嫡男や側近に清算されないようにする権利を渡す。

権力の膨張、野蛮な成長に伴い、ますます勝手気ままになり、民衆と社会の権益がますます侵害されている。何千年もの間、政治的な強権者やフクロウが現れ、国に災いし、民に災いをもたらすことがしばしばあった。

古今東西においても多くの仁人志士は専制の危害を見て、権力に対する制約案を絶えず提出し、周公、孔子の徳治強調、礼法遵守、天命順応から、孟子の主張「君軽民貴社の次」、さらに西側から興った「権力を檻の中に閉じ込める」という理念まで、権力を制約するために努力し、直言する勇気のある諫臣、造反を余儀なくされた蜂起民衆の多くも、自らの危険を顧みず、極権統治者と戦うために努力している。しかし、功を招いて個人の利益を得るために、専制のためにより効果的な方案制度（最

も悪辣で危害が深いのは愚民弱民貧民疲れ民を提案する商鞅）を絶えず設計し、専制の太鼓持ちとして世論観念（忠君思想など）を作り続け、専制施行者としての腕利き、犬の足もある。

古今東西数千年来の歴史の大部分は専制と反専制のシーソー闘争である。一部の人は民衆の利益や国家の安全を顧みず集権を強化し続け、一部の人も身を顧みず積極的に彼らと戦っている。しかし、前の数千年、特に中国では、反専制は依然として下風にあり、社会はますます専制極権になり、専制の体制はますます厳密になり、力はますます強くなり、人民は圧迫されてますます息切れし、抵抗の道と力はますますなくなってきた。中国の近代史から見ると、反専制の力は確かにますます弱くなり、慈禧専制の数十年とその後のある暴政者専制の数十年になっても、意外にも反対されていなかった。専制の思想は多くの人の思想の中でも根強く、最初は民主共和を追求していた孫文でも専制を追求する傾向があった。（他の文章を抜粋：中国大陸の学界の主流とは異なり、劉暁波の孫文に対する評価は否定的であり、国民党と共産党が彼の「中国の偉大な革命の先駆者」としての普遍的な推崇とは異なり、劉暁波は孫文の本当の政治遺産は暴力革命と民主集中制政党であり、その次は「一国、一国主義、一党、一指導者」の「党国体制」、つまり政治独裁であると述べた。孫文は思想的にも行動的にも急進的な革命者と覇道の専制者であることを証明した大量の史料がある。劉暁波は孫文が死ぬ前のしたことに基づいて、もし孫が中国を統一すれば、彼を実行しないと考え約束した「三民主義」は、一代の極権君主である可能性が高い。中国政党史において、孫中山は党派至上、君子師合一、党建軍、党訓政の伝統を切り開いた、中国新聞史において、孫中山は喉頭舌思想の始業者であり、孫中山の目に映る新聞は党の宣伝ツールであり、新聞と記者は党派思想の宣伝員である）

昔から、専制独裁に走りやすく、自分の力で天下全体を恣意的に害し、多くの庶民を奴隷にして殺害する人がよくいた。反専制の力はいつも弱すぎて、みんなで団結して、巨大な力を形成して専制を抑制していく必要がありますが、その芽が出たときにそれを消したほうがいいです。

3 専制、腐敗の発生を防止する方法

専制極権とその必然的な腐敗の危害は非常に大きいので、私たちは全力を尽くしてその出現を防止しなければならない。

では、専制的な極権、腐敗の発生をどのように防ぐのでしょうか。制度的に専制的傾向のある権力野心家の上位をどのように防止するか、権力者に専制的な欲望と機会を持たせないようにするか、権力者に対してどのように制約と監督を行うか、そして文化的にどのように民衆に強権を認めずに軽蔑させ、強権と戦う勇気を持って専制極権を生存させる土壌を持たないようにするかを含む。

その中で制度は特に重要で、悪い制度は専制を生みやすく、一度形成されると、それに反対し、排除することは難しいが、もし良い選挙、政策決定、監督、任期制限、罷免制度があれば、専制の発生を避けることができる。文化的には根源であり、専制的な文化土壌を取り除いてこそ、死滅しないようにすることができる。

1 指導者とその従属者の認識と三観を正しくする：

民主自由制度を通じて社会を発展させることで、自分も利益を得ることができ、専制制度を用いて民衆を制限し、自分が利益を得ることができるようにするよりも良いことを指導者に認識させなければならない。

指導者に名声を重視させ、社会の開放、民主、自由を推進し、それによって民衆に幸福をもたらすことを認識させなければならない。于右任が蔣経国に贈った書道に

書かれた「計利当計天下利、求名当求万世名」を学び、大公無私、千古流芳を目指す。

2 権力と権力によるメリットを最小限に：

権力をできるだけ民間に返して民間が自治するようにし、政府は権力と資源の利益分配をあまり掌握しないように秩序維持を主に行うと、権力は比較的少なくなり、所有する権力にも甘いものがなく、多欖権を考えたり、権力から利益を得たりすることはできない。権力に甘いものがないようにすることは特に重要で、さもなくば権力に甘いものがあれば利益があれば、誰かが何とかして権力を手に入れて利益を得ることを阻むことはできない。味のあるものはハエが付きまとうように、味がなければ自然に散ってしまう。

政府が掌握し分配する資源、利益をできるだけ減らし、汚職腐敗の機会をよりよく減らす。現在、政府が分配を掌握し参与する資源、資金が多すぎて、インフラ建設、科学研究支援、産業支援、社会保障、対外援助などの大量の資金、および鉱物などの自然資源、医療、教育などの資源、そして政府が掌握する業界と経営の大量の企業、これらは管理と利益分配の上で非常に多くの汚職腐敗の情況があり、しかも根絶するのは難しいので、政府はこれらの方面の掌握と分配を減らして、他の方式を採用することに変えても同様に政府がこれらの資源資金を掌握して国の経済と生活を保障する効果を達成することができて、例えば民間に任せて政府にしてやることができてただの結果、効果によって補助金を与えるだけでよい。腐敗の機会がある限り、腐敗を避けることは難しく、いくら捕まえても捕まえきれないのに役人たちは形を変えて腐敗するだけで、監督管理を逃れるために腐敗方式になるとますます複雑になりコストがかかるので、メカニズム的に腐敗可能な機会を減らすほうがましだと言える。

そして、権力によって仕事をするのではなく、政治家が能力、声望によって仕事をするようにしなければならない。能力があり、声望がある者はどんな地位にあっても、権力によってみんなを動かして大事をすることができ、権力によってみんなを指揮するのではなく、権力によってみんなを指揮することができる。

3 できるだけ権力を弱め、権力を制約する：

権力は大きすぎてはいけない。できるだけ弱体化し、できるだけ最小化しなければならない。そうしないと、権力者の権力が大きすぎると、他の人の職務、待遇、さらには生活、発展条件、ひいては他の人の生殺しの大権を掌握することができ、他の人は彼に反対することができず、おとなしく話を聞いて、宰領とお世辞を言って、彼の機嫌を取ることしかできなくなり、権力者が無茶をして少しも反対意見を持つことができないからだ。

『韓非子』は指導者が賞罰の権利をしっかりと手に入れなければならないことを提案し、この権限を放棄して、爪を失った猛虎のように、部下の一致を左右することはできない。確かに、人はみな利益を追求することを目的としている。最も恐れているのは、自分の利益を左右できる人、つまり自分に対する賞罰を握っている人だ。そのため、賞罰の権は一人の手に握られると、専制をもたらしやすいので、私たちは専制を防ぐために、賞罰の権を集団共同決定に帰すべきであり、大きな賞罰があれば、大きな任免、利益分配、賞罰を含めて集団で協議して決定するべきであり、このように指導者は自分一人で勝手に他人を左右することはできず、専制を形成することもできない。

ペンホルダー（メディア）、ナイフホルダー（監察、司法、軍隊、警備など）も独立しなければならず、権力者に操られてはならない。そうしないと、権力者は勝手に他人の名誉と安全に影響を与えることができ、他の人はそれに対抗することができ

ない。その中で司法の独立は特に重要で、誰もが法律の制約を受けており、現在多くの法律、制度が指導者に関わると、真に実行するのではなく、指導者の意志、要求に位置させ、すべて指導者の意図に従って手配し、誰も「ノー」の字を半分言う勇気がなく、このように長期的には指導者にバランスを取ることができ、専制をもたらすことはできない。

権力が制約や監督を受けずに好き勝手にできるようになれば、どんなに良い指導者も悪魔になり、誰もが勢いになれば制約がなければ基本的に手綱を外れた馬のように壊れて飛ぶことになる。

だから制度の上で権力者を飼いならすには、権力を檻に入れ、いかなる権力も制度、流れ、その他の力などの制約を受けなければならない。現在、私たちの権力に対する制約は非常に弱く、権力者は制度によって行動するのではなく、自由に行動することができ、甚だしきに至っては多くの権力の行使は明確な制度がなく、最終的には必ずそのやりたい放題をしても誰も管理することができず、根拠も管理されず、腐敗、専制などはすべて抑制されないことをもたらした。

必ず制度上で政治強者の出現と成長を防止しなければならない。確かに横暴な政治強者が現れて、みんなが適時に群がって攻撃して廃棄しなければならない。

また、権力に範囲があり、聖域があり、民衆の基本的権利を傷つけることができないようにするために、限られた政府を設立する憲政制度を確立しなければならない。

中国には昔から制約のある政体はなく、昏君のでたらめを制止する人はいなかったため、昏君が出ると国は必ず万丈の深淵に陥り、またやりたい放題の体制の下で、多くの指導者は自分を見失いやすくなり、すぐに開明から昏睡へと進むことができた。中国は昔から指導者一人のために国の発展が阻害されたり、天下が大乱になったりすることが多く、教訓は非常に痛ましいため、政治改革を展開し、完全で安定した政治的バランス体制を構築し、これ以上わがままな権力が現れないことを保証する必要がある。

4 指導者に対する任免、任期の制約：

すべての指導者は上にも下にもでき、適切でない場合は速やかに免職し、指導者を弾劾、罷免する仕組みを設けなければならない。

そして、指導的なポストはすべて任期制を実行しなければならず、4、5年ごとにそれから最大で1回再任し、長期的な職務を行うことはできず、傀儡が一定の時間に就任して自分がまた引き続き務める方式を中間的に制御することによって、様相を変えて長期的な職務を実現することはできず、さらに無期限かつ終身的な職務を行うことはできない。

このように離任の可能性と予想があると、権力者は離任後に清算されるのを避けるために勝手なことをする勇気がなく、悪い指導者に会っても、みんなは恐れずに、罷免を推進することができて、あるいは最も方法がなくても、その任期が離任するまでもう少し我慢して待つことができます。

5 複数人の共同指導を実行し、集団的な意思決定メカニズムを確立し、個人またはごく少数の独裁的独断を避ける：

1つの単位は複数の人が共同で指導し、指導グループを形成し、指導グループのメンバーは平等な関係でなければならず、上下関係や君臣のような不平等な関係ではない。私たちも民主集中制を実行して集団指導と政策決定を要求しているが、トップは往々にして他の指導グループのメンバーの利益と安否に大きく影響するため、指導グループのメンバーの間は常に君臣関係になり、何を招いたのかはトップが決める。

小さな意思決定をしない限り、集団で意思決定を議論しなければならない。「指導者（首長）の承認」、「中央の承認」ではなく、「指導者グループの議論によって決定」、「会議によって決定」でなければならない。

もう一言、一人、あるいはごく少数の独裁独断で言ってはいけない。そうでなければ、いつも個人の考えが不行き届きで、ミスや悪い目的の決定によって深刻な災難をもたらしている。

（他の文章を抜粋：蘇共モデルに基づいて設立された政党は実は委員会制度であり、権力の分立とバランスがないほか、その具体的な運営にもプログラム性と制度性の規定がなく、非常に自由性があり、党内トップの性格と能力が党内と国家制度の特質を決定した。）

6 権力分立と相互均衡をしっかりと行う：

権力分立と相互バランスは政治の中で極めて重要であり、ある権力が大きくなり、膨張して暴走するのを効果的に防止でき、政治の安定に有利である。

西側に源を発する三権分立は、立法、司法、行政の三権を独立させ、互いにバランスを取り、相互に監督し合うことであり、また古くから多くの指導者は、一部の権力を分け与えた部下を互いにバランスさせ、相互に牽制し、よりよく制御される目的を達成することを好む。

私たちの国には、古い指導者もいくつかの意思決定の議論やコンサルティングに参加し、離任後もしばらく事務室を残しておくというやり方があります。これも新しい指導グループの偏り防止を支援し、適切にバランスを取る役割を果たすことができます。

7 監察、監督を最高指導者を含むすべての官僚にも作用させる：

非民主国家では、政府内部のほとんどの監察は各級の役人、職員を監察するだけで、最高指導者に対して監察の役割を果たしていないことが多く、官僚間、メディア、民衆などの監督も最高指導者をカバーすることが少なく、最高指導者がいかなる監察、監督も受けられないようにすることができる。

私たちは制度的に役人、特に指導者に寛容で放任しすぎて、初心を忘れて悪くなりやすい。

8 十分な諫言制度を確立する：

リーダーが皆さんの意見を十分に聞き、受け入れることができれば、比較的良い誤り訂正の役割も果たすことができます。古代の多くの朝廷は諫官を専門に設立し、皇帝によく諫言していたが、一般的には大臣の上疎、民衆の上書を皇帝に許可していた。また、現在の多くの政府機関では投書・来訪受付部門の設置やウェブサイトにインタラクティブなコラムを設置している。それは、異なる角度から問題を見て異なる意見を出すことをよりよく奨励するためである。しかし、皇帝や最高指導者が強すぎる、個人の権威を強調しすぎることも多く、それに対するみんなの諫言を逆鱗、攻撃と見なし、諫言者に厳しい処罰を受けることもある。

だから、あえて諫言する人を守り、諫言する人を罰せず、報復しないことを保証しなければならない。この点では、宋太祖は子孫が官を殺してはいけないと警告することを誓ったのは比較的よくできており、現代社会はもっとそうすべきだ。

歴史的には、諫言を容認し、積極的に聞く指導者は往々にして功業と英名を達成することができ、最も典型的なのは唐太宗である。異なる意見を許さず、反対者をむやみに殺害した指導者は、往々にして悪名を残す気絶した暴君となり、最も典型的なのは南北朝時代の多くの暴虐、むやみに殺戮した皇帝である。

もし異なる意見を妄議と見なし、批判者を制限し、打撃し、みんなが異なる意見

を出すには慎重にしなければならず、権力者を批判する人もいなければ、この政権は終わり、ますます悪化するだけだ。

為政者は諫める風格を持ち、「千人の諾は一士がくがくに及ばない」ことを理解し、臣属も子思の言うように「その君の悪を恒称する者は、忠臣と言える」（君主を批判する勇気がある者こそ忠臣だ）べきである。

9 情報の透明性、流通、言論、メディアの自由を保証する：

透明な日光化は、民衆に政府の事務をはっきりさせ、監督に参加させることができ、大衆の目は明るく、しかも人は非常に多く、単独で監察、規律検査部門に頼って監督の仕事を完成するよりも、はるかに強いだろう。

情報が透明になり、メディアが自由になると、専制施行者はみんなを騙すことができなくなる。これは多くの独裁国家がなぜニュースプラットフォーム、コミュニケーションソフトウェア、さらにはインターネットなどの使用を制限しなければならないのか、彼らは真実を隠し、欺瞞的な嘘を維持し、情報の流通を制限しなければならない。

大衆が離反することは統治者が倒れるための必然的な条件であり、メディアはこの条件の形成を加速させ、成熟させるための主要な道であるため、専制者はいつも方法を尽くしてメディアを制御し、反対者にメディア空間がなく、彼らに対する反対を非常に困難にする。

そのため、極権専制を避けるには、情報の透明性、流通、言論、メディアの自由を禁止、制限するなど、さまざまな理由（疫病のコントロール、戦時管理など）で誰もが禁止したり、制限したりすることを断固として許さない。

10 政治文明を確立し、食うか食われるかの極端な政治競争環境を変える：

民主文明制度が確立するまでは、政争は食うか食われるかのように行われ、闘争は政敵を肉体から消滅させ、根を切って親友や側近を皆殺しにする。そうしなければ、報復される可能性があるからだ。

このような政治生態は、大部分の従政者が悪辣でなければならず、規則的ではなく、ベースラインがなく、逆淘汰を形成し、悪貨は良貨を駆逐しなければならない。悪ければ悪いほど政治闘争で勝つことができるからだ。

これも極権専制を招いた原因の一つであり、闘争の勝者は集権、高圧的な統治を維持することで自分の安全を守るしかないからだ。

このような状況を変えるには、政治文明を確立し、公開的な議論と競争を提唱し、役人のすべての不良な権力闘争の手段を禁止しなければならない。混乱を作り出して行動を得る口実を作り、紛争を起こしたり、他人を攻撃したりする（例えば、数年前には国の複数の都市で化学爆発が権力闘争のために意図的に作られたと言われている）ことや、洗浄、恐喝、拷問、暗殺などの手段を通じて権力を争うことに対して、露出と厳しい懲罰を行わなければならない。

例えば、1970年代末、陳雲氏が提案した常務委員級の死刑判決を受けない規則は、法治精神にとらわれているが、食うか食われるかの闘争とそれによる魚死網破をよりよく避けるための結果でもある。

11 民主建設を推進し、権力を民衆選挙の授権に由来させ、意思決定は民意に左右される：

民主は各方面の力をよりよく団結させ、知恵を集めることができるだけでなく、極権専制をよりよく防止することもできる。

民主体制の下では、すべての権力は民衆からの選挙によって授権されているため、権力を獲得し、権力を守るためには、政府の指導者は意思決定をし、行為の上で

至る所で民衆の利益と感受、意向を考慮しなければならず、事実と法則に背くこともできず、個人の好き嫌いだけででたらめをすることもできない。

もし民衆に民主的な選挙、罷免、採決の権利がなくて、権力はただ個人の他人、少数の人の手の中で彼らが勝手に手配して言っただけで、それは自然と異なる程度の専制的な極権が現れて、指導者はいくつかを開ければまだ少し良くて、もし自分の利益、性格がひねくれていて、喜怒無常で、認知と観念が遅れているならば、それはむやみに、混乱してしまうだろう。

最高の指導者、役人は名声だけでなく、その仕事の審査結果と報酬の待遇も、民衆の評価の影響を受けているので、彼らはもっと努力して民衆に良くして専制の横暴で民衆をいじめないようにすることができます。

12 支配者に対する民衆の制約を形成する：

良い強大な公民組織と力を形成し、民間の力が集結して強大な力を形成し、指導者をバランスさせることができるようにしなければならない。ばらばらな砂を集めることができず、一人一人が屈従し、それぞれ支配者に振り回されることしかできないのではない。

強い民間の力があれば、指導者は無茶をする勇気がなく、確かに悪いことをしても反対されて改めるか失脚するしかない。

一部の独裁国家では、政府の声だけがあり、民衆は身動きができず、社会は専制から抜け出すことができないほど抑圧されている。

13 文化観念などの専制、腐敗が繁殖する環境を取り除き、人民を目覚めさせ、統治者にも自覚的にしっかりさせる：

腐敗、独裁を根絶するには、まずその繁殖の土壌を取り除かなければならない。中国人の多くは民主に害を及ぼし、専制に有利な思想意識があり、すべて腐敗、独裁が繁殖する土壌であり、専制の極権と腐敗が頑固に存在し、民主の発展を深刻に阻害している。

特に中国では、中国は民主を非常に必要としており、民主体制を実施するのに適していないこともない（例えば、台湾地区での民主の成功的な実施が良い例である）が、中国民衆の多くの意識、観念は確かに民主の発展を深刻に阻害しており、大部分の地域はいまだに非民主体制の下に長期にわたってしかいない。

これらの好ましくない考えには、以下のものが含まれるが、これらに限定されない：

多くの民衆や役人、指導者も、現代の政治文明観念に欠けているが、例えば、

1 民衆は専制独裁を見過ごし、無感覚であることに少しも反感を持っていない。何千年もの専制統治によって、ほとんどの民衆は専制独裁に慣れ、黙認してきた。統治者が勝手に専制独裁をしても反対する人は何人もいない。

2 民衆には集団観念がなく、積極的に参政・議政したことがなく、政治、国家管理は自分とは関係がないと感じている。ほとんどの人は、自分が生きられないようにならなければ、支配層の愛はどうでもいいと思っている。

3 「家天下」、「地を率いる浜は王土ではないか」という観念。支配者は往々にして天下を自分のものと見なしているという思想観念があり、そのため他の人が国家管理に手を染めることを許さず、厳しく罰しているが、広範な民衆も反対するのではなく本来そうであるべきだと思っているので、結果的に少数の人が国家を私器と見なしている現象がよく見られるようになった。

4 政治強者の理念を推賞する。多くの人を含めて、政治の強者が国を管理する必要があり、より良いと感じて、社会を鎮めて社会の安定を確保することができ、国益

をよりよく守り、国が外敵に侵害されないようにすることができ、断固として悪辣な人を殺伐することは雄才大略と見なされ、人民に優しい指導者はかえって臆病と見なされ、これは強者が勢いを得やすく、勢いを得て上位になった後、やりたい放題をしてもみんなの反対を受けないようにすることができ、最終的に彼らはしばしば敵、悪人に対して強いだけでなく、内部の善良な民衆に対してこの点は中国やロシアなどで特に深刻で、両国の民衆もこれまで強者に支配されてきた。

5 指導者はただ一つの誤った考えしか持っていないと考えている。多くの人が伝統説の「一山に二虎は許されない」、「天無二日」を認めており、同時に複数の指導者が共同で指導することができ、またそれぞれの指導者の間でバランスを取りながらより良いバランスを実現することができることを知らない。そして多くの人は最大のリーダーとしか思っておらず、何も最高のリーダーに準じて、他の意思決定メンバーを存在しないと思っている。

6 官職を恐れて上司の考えを恐れる。指導者が掌握する権力を過度に忌み嫌うため、ほとんどの人はいつも指導者を恐れて、たとえそれが間違っていても注意することができなくて、甚だしきに至っては善意の建設的な提案をすることさえできなくて、更に専制独裁の行為と戦うことができなくて、社会は身震いして静まり返って、すべて臆病で、男ではありません。

7 民主に好感が持てず専制に賛同する。多くの人は曲意の宣伝の影響を受けて、民主は往々にして政府の軟弱さをもたらし、効率が悪く、民主で社会を組織することができないと考えている。さらに多くの人は専制が必要だと考えており、社会が複雑で、強硬と非文明的な手段で社会管理と政治闘争を行うことができ、より効率的で効果的だと考えている。

8 官民平等の観念が欠如している。等級観念は根強く、多くの人はリーダーをみんなと平等な位置に置いておらず、どんな資源、利益、功績があってもリーダーが勝手に多く占めている。加えて、資源、権力分配権が指導者の手に握られているため、多くの公職者は甘んじて奴隷を指導し、ひいては犬の足を指導する思想を持っており、仕事は職責、業績を中心とすることはなく、指導者の利益と感受を中心としている。

9 唯上は従、盲従指導の観念。いつもすべて指導者の意見を基準にして、指導者は言って、指導者の言うことはすべて正しいので、誰も勇気がなくて、誰も指導者の観点を疑って、反論することができなくて、いかなる疑問も勇気がありません。

10 指導者を崇拝し、神格化する。指導者を完璧な人、さらには聖人、神人と見なすことは、疑いも反対も許されず、ある者は指導者が天子であり誰が指導者になるかは天に定められており、天の手配に従うべきだと考えている。

11 指導者が終身勤務できるという観念。指導職には「期」、「任」の認識はなく、「代」の観念だけがあり、選挙、交代の概念はなく、指導者は一人で十分になることができ、指導者は定年まで地位を占め、老死してから退位しても反対し、反対する人はいないと考えている。

12 是非を問わず、道義を認めず勝敗を認める。ほとんどの人は「勝者は王、敗者は寇」という観念で、その価値観や手段にかかわらず勝者を崇拝している。結果的に勝ちやすいのは、道義を重んじず規則を重んじない卑劣な者であり、道義を重んじて規則に一線を画している者は、失敗しやすいのにみんなに軽蔑されることが多い。

13 気骨がなくて道義を重んじず、骨を賜るために上役に迎合して媚びる。いつもいくつかの奸の小人が力を尽くして曲意を持ってお世辞を言って指導者にお世辞を言って、指導者を飄然とさせて歩きやすくして、みんなのお世辞が千々に許す下で、指

導者たちは独りよがりになって無法にならないのはおかしいですね。専制は多くの場合、人々が推進した結果であり、袁世凱が専制帝制に戻ったことを含めて、より多くの報酬と世襲権力の俸給を獲得するための奴隷たちによって推進された原因もある。もしみんな気骨があってベースラインがあって道義を重んじて、他人の逆行に制止を施すことを言わないで、少なくとも協力しないで、とても多いことができて、しかし中国の悲しいのは歴代がいつも奴隷の走狗を輩出して、骨を討つためにいつも人間のベースラインがなくて主人に媚びて、曲意が迎合して、至る所に迎合して、主人のでたらめに協力します。

14 非常に忘れっぽく、歴史から教訓をくみ取るのが苦手なので、中国はいつも人為的な災難に向かって避けられず、低級な歴史を繰り返し、何度も専制極権に傷つけられているが、専制強権の再発を避ける方法を反省したことはない

15 主人公としての精神と自分の利益を守る意識の度胸が欠けている。国民は世界と争うことはないが、かえって極端になり、主観的な能動性が少しも発揮されなかった。そして、一人一人に有利な集団の利益を勝ち取るどころか、自分の利益も争わなくなった。自分の利益が侵害されても黙っていられないし、自分の利益が損なわれても我慢できるし、万やむを得ず抵抗することはない

16 現代政治の理念に乏しい。中国人には民主的な思考習慣はなく、古い政権を倒しても君主制で政権を組織することしか知らず、結局は新しい専制に向かうしかなかった。国民には民主的に物事を処理する習慣が欠けており、絶対的な権力を持つ人に社会を管理させることしか知られていない。なぜすべての指導者が決めるのか、何かあれば必ず指導者一人が承認しなければならないことがあり、保護者の作風、専制行為に対してはよく見過ごすことができ、甚だしきに至っては大いに称賛し、抑圧され、専政されることを我慢するが、専制に積極的に抵抗し、民主を擁護し、民主的に集団を組織し、管理することを知らなかった。

17 これらの悪い観念、文化に対して、私たちは以下のような面から、変化を推進するように努力しなければならない。

18 リーダーに対する合法性の源を重視させる。投票ではなく指導者になることに対してみんなを変えるのは合理的ではなく、権力は民衆の選挙から来ていることを堅持し、選挙で出てきたものが権力を占有できないのではない。

19 統治層に思想を転換させ、自分を国家、民衆のために奉仕する人員と位置づけ、国家、民衆の主人ではなく、民衆に国家の利益を勝手に占有し、浪費する行為に強く抵抗させなければならない。

20 権力は私有してはならない。儒家のヒエラルキーが専制をもたらしたのではなく、独裁専制の人が政権を独占してみんなにヒエラルキーを与えてもみんなに分配する権利がなかったのだ

21 強い人の上位を根絶し、権威を強調することを根絶する。実際には、温和で柔軟性があり、ルールを理解してルールを重んじ、横暴ではなく、民生に配慮している指導者がもっと良い。対外的には卑屈にならず、悪人には卑屈にならなければいいが、横暴ではなく、強勢ではなく、横暴で強勢では必然的に対外的に他国、単位を怒らせ、国内に対して民衆の利益を侵害する。

22 目標、体制、文化の承認を通じてみんなを団結させることができて、個人の権威と魅力を通じてみんなを団結させることを提案しすぎません。そして老子が言ったように「あまりにも上で、それがあることを知らない」、良い政府と指導者、人民は彼の存在を感じられず、最も良い管理は潤物が細かく声を出すことである。

23 みんなの民主意識を高め、民主で社会を管理するほうがいいと認識した。実は

民主主義は最も組織的で最も正規であり、資源の最も効率的な統合を招くだけだ。

24 みんなが専制を憎み、専制に対して姑息ではないという理念を育てなければならない。独裁専制の非合法を認識して反対し、専制の砂を目に入れてはならない。

25 さらに、専制を恐れず、あえて闘争し、闘争を続ける精神を養わなければならない。みんなが闘争する勇気がなく、制度があって人々の安全を保証できない原因をもたらし、もっと多いのはみんなの観念、習慣の原因である。人がいて、できるだけ多くの人が顔を出して責任を負うことができなければならない。専制に抵抗しなければスムーズに形成され、専制を防ぐためには絶えず抗争する必要があることを理解してください。

26 権力者に人民が引き起こしにくいことを知ってもらい、善悪にも報いがあり、無茶をして、国に災いして民に災いをもたらすと清算され、悪報を受ける。失脚されて評判が悪いよりは、あまり強権的で、逆行してはいけない。

27 指導者だけが従であり、尊であり、正しいではなく、実は指導者は私たちと同じであり、私たちよりも実際の物事に触れることが少なく、間違いが多くなることもあります。指導者を何でもできると思ってはいけない、決定権をすべて指導者に譲ることはできない、なぜ指導者の言うことだけを聞いてはいけない、指導者の言うことは何でも干渉できない、少しも指導者の意図に逆らうことができない、指導者の利益要求に対して不合理でも反対することはできない。

民衆の覚醒はこのように重要であり、民衆の頭の中で専制を生み出すのに有利な思考は根絶しなければならず、専制を芽生えにくくすることができない。啓蒙を通じて目を覚まさせ、専制、文革が欧米でも中国でも起こらないようにしなければならない。

他の文章を抜粋する：ある国の人民は、彼女の政府が搾取階級的、反動的、売国的な政府であることを知り、そしてこの政府を倒すために奮闘しているが、往々にして十数年、数十年、さらには百年を経て勝利することができる。なぜこんなに遅いのでしょうか。本来ならば、人民の人数ははるかに彼女の統治者に似ている。もし人民が何の食べても無駄な物資も統治者に与えず、相手の軍隊に参加せず、最後まで彼らと戦って、彼らを人民の広大な海の中に沈めなければ、百年どころか1ヶ月で政府を転覆させることができる。しかし、事実はいつも人々の予想とはかけ離れており、政府を倒すにはいつも長い時間がかかる。これは主に人民が彼女の分散性と遅延性を持っているためであり、これはまた彼女の弱点の一つである。人民は大智大慧で、明察秋毫ではなく、彼女には彼女の知識の限界と思想の限界がある。ある国は数千年に及ぶ封建社会を維持したり、ゾンビ思想に数千年統治させたりしたが、その人民はその中の不合理な場所を発見していなかった。時には、多くの国の思想家、文学者、芸術家はかなり長い間彼らの祖国の人民に認められなかったが、宗教という反動的で立ち後れた精神アヘンは長い間この国の人民に受け入れられてきた：これらはすべて人民が彼女の知らないところがあることを示している。

4 専制がどのように解読されたのか

専制が現れたら、みんなは急いで行動して、直ちに介入しなければならない。専制行為に対する警告、処罰を含めて、確かにだめなら専制実施者を罷免する。

また、従属者を動員して虐待を助けようとしないようにしなければならない。犬の足が悪をしないようにし、良心を曲げずに賛歌を歌うのではなく、できるだけ説得し、抵抗しなければならない。確かにだめならば辞職したり、辞められなかったらで

きるだけ命令を実行しないようにしなければならない。

専制実施者を罷免することができない場合は、前述の「天下を平定するための心の力の役割」の「専制独裁という世界最大の悪に対処し、専制実施者をボイコットし、転覆させるために全力を尽くして悪を退治する」の章の内容を参考にしてください。

5 専制統治者の手口を見破って対応策を講じる

専制統治者はすべて方法を尽くして専制統治を維持し、同時に自分の本質と行為を隠し、自分を開明で、公私無私な人に装って、自分の行為を民心に順応し、情理にかなって、法に基づいて規則に従って包装して、民衆がその反感を持たないようにして、そして厳しく打撃して、脅してあえて反対する人はみんなを抵抗させないようにします。

専制統治者が自分を偽装し、民衆に恩恵を与えて好感を得るための手段:

1 自分を非常に高く包装する。賊や詐欺師が自分たちを賊や詐欺師とは見えないように偽装しているように、専制統治者も自分たちを国のために民のために、自分のために公のために、献身的に働く良い指導者として包装し、人民に好感を持たせ、彼らに感謝している。

2 自分を神格化し、個人崇拝を推進する。物語をでっち上げ、一部の部下が先頭に立ってスローガンを叫んだり、功績をたたえたりすることで、自分を神聖化し、民衆にそれを神として見てもらうことができ、彼を疑うことも反対することもない。

3 国家の特殊な状況、国家の特色を強調して普遍的価値を避け、人民の代表を自任し、人民が主人公であることを主張し、大衆運動を用いて法治を回避して不法な目的を実現し、集合的公有の名義で少数者の財産使用分配権の独占を実現し、公平共富の名義で他人の財産を任意に分配するために口実を提供し、組織指導の名義で個人集権を強化し、保家衛国の名義で実際に自分の利益を図る戦争であることをみんなに従わせ、自らより科学的、より全過程、より質の高いことを標榜するなど、自分の卑劣な目的と行為を包装する。

4 偽りの約束をして美しい青写真を描くことでみんなのフォローを得る。民衆に約束することはみんなを率いてoo主義を実現し、素晴らしい未来に向かうことができて、これらの美しい未来はすべてユートピアですが、いつも多くの人を引き付けることができて、みんなにあきらめて彼らに従って勝手に支配されて、あるいは少なくとも彼らが救世の良い人だと思って、彼らに好感を持っています。

5 経済を発展させ、経済的成果を少しでも国民に分配することで、みんなに利益を与え、好感を持ってもらうことができ、さらには彼らの功績と恩賜だと感じ、彼らに感謝している。そして、彼らは経済発展指標が民心を安定させるための宝であることを知っているので、経済発展の業績を誇張したり、将来の発展のための空手形を常にみんなにつけたりすることがよくあります。

6 たまにはみんなに小さな恩恵を与えて、みんなに感謝させます。普段はみんなを管理し、ひどく虐待しているが、たまにはリラックスさせることを放風と見なし、そして奪った多額の利益を少し出して分けてあげることもある。砂糖を与えてあげるように、民衆に無視され、苦痛を忘れられて涙を流すことが多い。特に中国の民衆が最も忘れっぽく、数日もたつと喜び勇んですべての苦痛、すべての経験と教訓をきれいに忘れてしまう。（前の指導者の言葉を抜粋する。「もし...江山は代々伝えられて

きたら、下層の人々を豊かにしてはいけない。さまざまな運動で彼らを振り回し、さまざまな政策で彼らのすべての権利を奪い、それを歯磨き粉のように少しずつ与えなければ、下層の人々は私たちに恩を感じることができない。彼らが基本的な生存のために忙しく奔走し、利益を争う時、理想と民主の自由を顧みる暇はない。その時、民衆は身を翻して私たちに救世主のように道徳の高みに立って社会秩序を維持しなければならないと要求した。そうして江山は後顧の心配もなく私たちの次の世代に伝えられることを保証することができる。それは.....知恵に満ちているの国家統治の方略。」）

専制統治者は自分の執政地位と行為をより合理的で合法的な手段にする：

1「国情特別」「非常時」などの口実で専制統治を実行するのは合理的だ。「国情特別」を含むため、通常の国のように民主、自由体制を実施するのに適しておらず、民主、自由が今の世界の潮流であり、四海のすべてに準拠している体制ではなく、当たり前だと思わせるのに適していない。自然災害、大疫病、戦争などの特殊な状態は、資源をより集中して災害、戦争に効率的に対応するために特殊な状況に応じて処理する必要があり、権力はより集中しなければならず、例えば国民党は特殊な時期を理由に「訓政」の管理モデルを実行し、最後には台湾も何年も続いた後、1991年に正式に「訓政」を終了した。多くの専制統治者は非常事態を利用して手にした権力を強化することを好み、非常事件を圧倒的なものとし、対応するためには、他の人に絶対服従しなければならないことを要求し、自分の権威をさらに高め、非常事件が過ぎ去った後も余威を続けることができ、そのためには故意に災害や戦争を製造したり拡大したりすることを惜しまない。だから、私たちは誰かがさまざまな言い訳をして専制を推進する行為を警戒し、警戒し、誰も特殊ではないことを要求し、特殊な状況に遭遇したときにどのような意思決定がどのように緊急対応できるかを明確に規定し、事後にできるだけ早く意思決定討論手続きを再処理し、不適切な意思決定に対して是正を行うことを要求しなければならない。

2投票者を操作した、または形式化された、通過する投票手続きを通じて、自分の執政と行為に合法的なコートを着せた。投票者をうまく操作するためには、投票者数をできるだけ減らして、言うことを聞く人だけを代表として選んで投票します。そして一般的には匿名投票ではなく、賛成した人が投票しなくても賛成しない人が大勢の人の目の前を歩いて投票箱を通って投票する方式を採用し、投票者が報復を恐れて反対票を投じることができないようにする。形式化され、通過する投票には、投票しても投票しなくても結果が同じ等額選挙（つまり、当選者数と候補者数が同じで、1人を選ぶときに候補者が1人しかいないことを含む）、投票が手足を作られ、航空券にも手をつけられない選挙などが含まれる。また、競争者を刑に処し、監禁し、追放して選挙の機会を奪い、肉体を消滅させるなどの方法で排他的な選挙を実現し、自分を安心させて当選させる専制独裁者もいる。民主的手続きはすでに彼らに恥知らずに独裁専制を擁護し、逆行逆行する道具として利用されており、彼らは隣国を横領し、隣国の選挙にも介入し、操って言うことを聞く傀儡を選出し、さらに隣国の一部の地域で組織の少数者を操っていわゆる「国民投票」を行い、「採決」して独立を宣言し（中国の外モンゴルはこのように独立した）、そしてその「自発的」で自国に加入して併合した。

専制統治者が民衆の反抗意識、考えを低下させる手段：

1情報を制御することは、彼らが実際に悪いことを知らないようにする。報道の自由を制限し、メディアの内容を厳格に審査し、民衆の間のチャットなどの社交情報

を監視し、「不実な情報」を流した者を罰し、自分に不利な情報を封鎖し、世論が自分のニーズに合うようにすることを確保する。

2 愚民政策を実施し、民衆の心を低下させ、民衆を無知にさせ、物事の本質が白黒の是非を区別しないことがはっきり見えないようにし、論理的思考と推理評価能力がなく、曲直の原因が分からない、麻薬を打たれたようにしびれて思考ができない、まるで生ける屍のように、さらに鶏の血を打たれた死体のように熱狂し、偏屈では統治者が統治者の命令に盲従してむやみに人を噛むだけだ。

3 教育、宣伝を通じて統治に有利なイデオロギーを注ぎ込み、忠君愛国、綱紀倫理、組織服従、絶対忠誠、国家と主義のためにすべてを捧げるなどでみんなを洗脳し、みんなに規則に従って、おとなしく言うことを聞かせ、手配されて、すべての苦難に逆らって順応したい。

4 一切の批判、為政者の思想と言論に反対することを禁止する。文字獄を大いに興し、言論不当でみんなを有罪にし、反抗的な思想と言論を断ち切らせた。

5 北朝鮮が飢饉を「苦難行軍」と美化するなど、苦難の生活包装コストをそのままにして意味がある。

6 邪悪な反対側の人物を洗いざらい正面の偉大な人物に包装し、自分がこの邪悪な反対側の人物と似ている行為は悪いことではなく、包装宣伝と同じように偉大だと思わせる。スターリンと文革とその始業者を改めて肯定し、推賞することが、この方面の目的である。

7 他の国が貧しいことや災害が深刻であることを宣伝し、民衆が水の中で暮らしていることを宣伝し、自国民にすでに幸運で幸せであることを感じさせ、例えば北東アジアのある国はこのような方法で民衆に自分が世界で最も幸せであることを感じさせる。

8 故意にいくつかの社会的危機、激動を作り、それを自分で強く押していくことによって、みんなに強い支配者を尊重して喜ばせ、強い支配者を受け入れることに慣れさせ、強い支配者に依存し、強い支配者のすることは大きくはないが社会管理に必要だと感じさせた。この手法はエリツィン、チャン介石、他にもよく使われている人がいる。

9 内部矛盾を激化させて内部闘争を作り、外敵を樹立して対外衝突を作ることで民衆の視線を引き、民衆の自分に対する反対をそらす。内部の矛盾を故意に拡大して対立と闘争を形成し、心の力を内闘に費やしたり、海外で批判や反対意見を持つ国を献身的で不死の敵対勢力と宣伝したり、国内の様々な問題や困難の成因をそのせいにしたりしている。時には故意に他国との衝突や戦争を挑発し、全国民共通の外敵を樹立し、イランやイラクがこれまで長年続いてきた戦争のように民衆を扇動し、外敵を樹立するために両国の指導者が国内の悪い状況に対する国民の不満を移転させることもある。（他の文章を抜粋：執政者は民衆の視線を引き、民衆が政府の誤りにあまり注意しないようにするために、いつも民衆の前に外来の敵を立て続け、これらの敵がいかに憎悪であるかを誇張し、それによって民衆がもっと言うことを聞いて自分のそばに団結して、これらの敵と戦うことを要求する）

10 不合理な法律や制度を通じて、誰もが弱みを握られ、報復されることを恐れて抵抗できないようにする。不合理で厳格で主観的な操作空間を持つ法律を制定することによって、一人一人が仕事や生活の中で簡単に規定に合わない処罰を受けることができる場所を作り、そして一人一人、特に異議を唱える人、役人の様々な問題を収集して把握することによって、大家族がいつでも逮捕されて処罰されることを恐れさせ、それによってみんなは心配して統治者に反対する勇気がない。

11 民衆を脅して抵抗できないようにする。厳しい法律を制定して広く宣伝し、強力な監視と民衆を弾圧する特務システムと武装力を構築し、彼らに反対する人を厳しく処罰し、処罰の過程と結果を民衆に見せる（最も誇張されているのは朝鮮が今でも民衆の現場を取り囲んで拷問、死刑を行うことが多い）ことで、支配者に反対する者がもたらす深刻な結果を民衆に見せることで、恐怖の雰囲気を作ることで民衆を恐れさせ、専制独裁者に反抗する考えがあっても反抗する意志を失ってしまい、専制独裁者によってあらゆる抑圧、凌辱されても抵抗することができなくなった。専制独裁者はまた、最初の者を痛烈に打撃することで一罰百の効果を達成し、恐喝の仕事の展開を半分の功倍にし、例えば、その年の古い指導者が彭、劉など批判する勇気のあるいくつかの人に厳しい打撃を与えたことで、他の人はもう声を上げることができなかった。

12 連座制度を実施し、民衆は他人に巻き添えにされたり、自分の行為が親友に巻き添えになることを恐れたりすることを恐れ、抵抗する勇気がなく、親友が抵抗しているのを見ても忠告し、阻止することができる。連座制度は北東アジアのある極権国家ではまだ深刻な存在で、1 人が処罰されても家族は一緒に処罰され、家族は一緒に収容所に送られたり殺害されたりすることがよくあり、他の国でも家族は入隊できない、公職に応募できないなどの残存がある。これらは民衆を極度の恐怖の中で生活させ、簡単に統治者への不満を表現することができない。

専制統治者が自分の統治力を強化するための手段：

1 集権を強化し、圧倒的な権力と資源を自分で掌握させる。自分でより多くの行政、司法、軍事、経済、文宣などの権力と資源を掌握すること、つまり銃の棒、ナイフの柄、財布などをすべて自分の手に掌握して、その他の人、各地域はすべてこれらの権力と資源を動かすことができなくて、つまり有効な反抗力を組織することができません。

2 功労者家族、門閥旧家、皇親国戚などの影響力のある力を結集し、彼らの経済、政治的特権と利益分配に参与する機会を与え、彼らの支持と引き換えに、特権利益集団を形成し、統治基盤を強固にする。これらの利権者は往々にして門下生の古吏が各地に散らばっており、勢力は侮れない。

3 白黒の是非を問わず道義をわきまえず、自分に対して絶対的に忠誠心に従い、民衆に対して冷血非情な従属チームを作り、そしてチームメンバーに腐肉を投与してそれをもっと望んでも共犯にならなければならない。専制独裁者自身の力は非常に限られており、タカ犬の手先の群れによって支配を維持している。専制独裁者は、道義を問わず自分に絶対的に忠誠に従う奴隷を選び、重用するが、言うことを聞かない臣下を排斥し、打撃し、謀害する。彼らは部下に道義を追求するかどうかを明らかにすることを要求したのではなく、絶対的な忠誠を要求したことがある。また、専制独裁者はこれらの鷹犬の手先に対して腐敗肉を与え、特権を与え続け、彼らに国家の富を横領し、社会の富を奪い、権力を借りる機会を与え（専制統治者は汚職に反対しないし、汚職に打撃を与えても言うことを聞かない役人に打撃を与えるだけで、汚職だが言うことを聞く役人には動かない）、これらの鷹犬の手先に巨額の利益を与え、そのため専制独裁者に恩を感じ、さらに擁護し、また彼らは賊船に乗って汚点を残した後も清算されれば自分も一緒にされることを懸念し、専制独裁者の統治を守るためにいっそう尽力する。このように作られた従属チームは、すべて狼心狗肺と血に飢えており、民衆の略奪と鎮圧には悪辣だ。

4 巨大な軍警と安定維持要員の隊列を建設し、先進的な監視、法執行装備を配備し、軍警と安定維持要員を洗脳して、それが思想がなくなるようにした。

専制統治者が民衆の反抗能力を弱め、反抗力を打撃する手段：

1 様々な方法で民衆を経済力がなく、経済的な苦境に陥れ、能力がなく、抵抗する勇気もない。専制者はいずれも商鞅の提唱する貧しい民、弱い民、労働者を受け継ぎ、民衆の経済発展空間を極力圧縮し、民衆ができるだけ財産を掌握しないようにし、そのため抵抗力がないほど容易に制御され、甚だしきに至っては民衆が生存のために奔命に疲れて暇がなく、無心に反抗活動を組織させる（土地の供給を独占的に制御して住宅価格を高めることを含む）。彼らは経済資源を独占することを通じて、例えば公有制を推進し、いくつかの業界に対して国家独占経営を実施し（例えば古代の塩と鉄の国家独占、近代的な石油電力電信は市場に開放されていない）、民衆を経済的に依存させ、彼らの鼻息を上げて生きるしかなく、それによって彼らに反対する勇気がない。彼らは民衆が豊かになってから言うことを聞かないことを避けるために、むしろ社会全体を貧しくしても民衆が金持ちになる機会を望んでいない。例えば、重農抑制策、鎖国政策は民衆を貧しくしても国を貧しくするやり方だが、彼らは惜しまない。また、莫大な税金、強力な超発貨幣も、民衆の富を奪い、民衆が貧困を維持して生存線にあえぐためである。

2 民衆の自由を制限し、民衆の行為を制御し、民衆を厳重に監視し、民衆が反抗活動を展開できないようにしたり、反抗意図があったりしてもすぐに知られて殺され、弾圧されたりする。独裁者の支配に不利な民衆の自由、行為に対しては、言論の自由を制限する世論の制御、禁止、デモの禁止、さらには戸籍制度と通行証制度を通じて民衆の自由な移動、移動を制限することもある。民衆をよりよく制限し、制御するために、独裁者統治者は至る所に特務機関を設立し、耳目を駐在させ、そして監視電子眼、チャット記録 AI 分析監視などの科学技術手段を利用して、隅々まで深く入り込み、民衆に対して厳密な監視、監視を行い、

3 民衆、臣下の結集を防ぎ、抵抗力を分化させる。独裁者は民衆結社の結党を制限し、民間組織を禁止または厳格に監督管理し、反抗力の結集を防止し、さらには故意に人種、宗教などの違いを利用して内部矛盾を引き起こして分裂を作り、内部闘争を引き起こし、民衆を分化させ、民衆を団結させて強大な反抗力を形成することができない。臣下たちに対しても、専制独裁者は往々にしてみんなの集結を防ぎ、みんなが互いにバランスを取り、さらには互いに闘争し、漁夫の利を得てみんなをよりよく制御する目的を達成することが好きで、林立果は指摘した：専制者は矛盾と分裂を製造することを通じて、甚だしきに至っては国家の機械を相互に殺し合う道具に変えて、彼らが分割して統治し、それぞれが自分の統治地位を破壊し、強固に維持する目的を達成する。

4 抵抗する人を厳しく打撃する。抵抗する勇気のある人に対して、専制独裁者はすべて手加減せずに報復を行い、民衆の拘禁、重罰、残酷な刑、処刑、鎮圧、残虐な殺害、臣下と政敵の排除、帽子のボタン、免職、功名俸禄の追放（名誉と待遇の撤廃）、廷杖、留置、収監、死の賜物、暗殺などを行う。また、これらの報復攻撃を実行するのは、しばしば特務機関が実行し、道理や法律をわきまえず、当事者に抗告をしない、通常の司法手続きを経ないことが多い。また、法律では、民衆に抵抗するために支配者が便利な「口袋罪」、つまり罪の抽象的な罪状があいまいな多くの罪を中に入れることができ、最も論争されているのは騒動挑発罪だ。また、反抗者への処罰と同時に、独占的な発言権を利用して被処罰者の名声を汚し、身を滅ぼして知らない民衆に恨まれることも多い。独裁者による報復攻撃の手段がますます豊富になり、ますます巧妙になり、ますます隠蔽され、ますます全方位に死角がなくなり、反抗者のけんかが無力になり、さらに対抗しにくくなったと言える。これは秦朝が高圧政策を

実施したがすぐに民衆に反制されて死亡したが、現代の一部の専制極権国家（例えば東北アジアの世襲国家、中東の某宗教国家）がより高圧的な政策を実施したが、民衆が大きな反抗を形成しにくい原因の一つでもある。

5 戦争を作り、敵の刀を借りて自分に反抗する力を消滅させる。専制独裁者は往々にして戦争を起こすのが好きで、内部の矛盾を移すだけでなく、自分に反対する人を戦場に送り、突撃してより強力な敵にぶつかるように命令し、敵の刀を借りて彼らを消滅させることができる。楊広が高麗戦争を発動すると、戦争を通じて不服従者の力を弱める目的があり、明清と民国でも統治者や権臣が政敵、非直系部隊を戦場に駆り立てて卵を作って石に触る事例がよく見られ、両伊戦争の両国指導者も戦場を利用して自分に反対する多くの人を整理した。

以上のように、独裁者は非常に狡猾であり、みんなが一致団結して、みんなが心を一つにして、力を合わせて、一緒に行動しなければ、彼らのトリックを解決して、彼らを抑圧することができない。みんなは彼らの本質が彼らにだまされず、彼らに支配されず、彼らの手配に協力せず、物資やサービスを提供せず、彼らの犬の手先をしない限り、彼らはすぐに一人ぼっちになり、継ぐことはできない。

専制独裁者は必ず自分を認識しなければならないことを忠告し、欲望の谷が埋められず、権力と富を求めてはならない。いつまでも人民の頭に乗ってはならない。人民と対立してはならない。民衆の反対に直面しては、民衆を傷つけることなく自分の原因と問題をもっと探しなければならない。そうしないと、遅かれ早かれ民衆に倒され、身を滅ぼして汚名を残すだろう。

第八章 商道などの立業の道：いくつかの就職·起業の心得

——成功と豊かになるためのいくつかの方法

以下はいくつかの個人の長年の就業と創業の従商の心得で、みんなにいくつか参考を提供することができることを望んで、みんなにこれらの心得を読んでいくつかヒントを得させて、自分に適した成功と金持ちになる方法を見つけて、できるだけ早く事業、財産の上で成功します。

1 起業の必要性を追求する

一人で仕事に参加するには、就職して出勤しても、ビジネスをして起業しても、役人のために政治に従事しても、職業を立てることを追求しなければならない。つまり、事業を成し遂げることを追求しなければならない。そうしないと、事業を成し遂げることができなくても、必然的に得られるリターンは少ない。

2 どうすれば事業を立ち上げることができますか。

一人で事業を立てるには、まず一つの分野で深く耕作することを堅持しなければならない。決して簡単にやめて絶えず転職してはならない。各分野は長期的な模索を通じて中の道、奥秘を把握する必要があり、そのために他の人よりも優位なものを作ることができ、技術、資源、顧客、ルートなどの各方面の豊かな沈殿、蓄積があって、最終的には事業を成功させることができる。次に必ずまめに、つまりまめ+はやく、まめはもっと時間をかけること、はやくは効率が必要で、そうしてこそ、より多くの労働をし、よりよく先手を打つことができる。

3 就職か起業か、適切な起業方法を選ぶ

一人は会社のプラットフォームでアルバイトをして良い業績を上げ、それによって多くのリターンを得るか、それとも自主的に起業して成功を勝ち取るかを選ぶかは、本人の能力と現在の条件によって決まる。

もし1つの業界に対してもまだ熟知していないならば、自分や異動できるチームの力はまだ全面的に操りやすく、1つの露店の各方面に対応することができなくて、あるいはまだ創業に必要な各種の資源を備えていないならば、先に出勤してアルバイトをすることを提案します。

業界に精通しており、自分やチームを作ることができる各方面の能力も十分に強く、短板がなく、各方面の条件も成熟していれば、起業を選ぶことができます。

4 「プラットフォーム+個人」を活用した人員組織、協力モデル

今後、「プラットフォーム+個人」の経済組織モデルはますます「会社/職場+従業員」の経済組織モデルに取って代わるに違いない。「プラットフォーム+個人」はすでに保険業務、パートナー制の律所財所、柔軟に仕事を使う旅行社など、そして現在

流行している外食網、ネット予約車プラットフォーム、代行運転プラットフォームは、すべて「プラットフォーム+個人」の人員組織、協力モデルである。このモデルは会社にとって固定養生を使わず、ストレスが少なく、収益が出てから労働提供者に分けられるので、勝つか負けるかで安定して稼ぐことができ、経営のストレスはありません。個人にとっては、出勤時間の制限を受けず、時間があればオンラインで多くのことをすることができ、時間がないか、休みたいならオフラインで注文を受けなければいい、そして、やるだけでいくつかのことを分けることができ、業績要求によるストレスがなく、また、自分の所長と身につけた資源を十分に発揮してより多くの価値を創造することができ、自分の所長と身につけた資源を複数の雇用主の上に使うこともでき、例えば、ある仕事の技能を熟知していれば、この方面の仕事の技能を必要とする複数の単位にサービスすることができ、ある取引先を熟知していれば、複数のメーカーがこの取引先に製品を販売することができ、また、昼の食事時に他の時間を出前して夜に代行するドライブ。「プラットフォーム+個人」の経済組織モデルは、人が才能を発揮し、物が役に立つようにすることができると言えます。

5 より発展し、より自分の発展に適した場所を選ぶ

起業して発展する場所を選ぶ上で、人生の追求があれば、できるだけ大きく、発達した地域に行くことを提案します。生活、発展コストは高くなりますが、成功率はもっと大きくなりますし、稼ぎも多くなるのでコストが高くなることを恐れません。例えば、店を借りてにぎやかな場所に行くと家賃が高くなりますが、商売はもっとよくてお金を稼ぎやすく、辺鄙な場所を借りるのはコストが低いが、お金を稼ぐのはもっと難しいです。

また、外国人の場合、自国ではあまり優位ではありませんが、中国に英語の外国人教師として来て、英語に熟練していることで人気者になることができます。

6 就職のいくつかの良い理念

1 強い利益観を持たなければならない。多く創造してこそ多くの報酬を得ることができることを理解しなければならない。多く創造しなければ必然的に賃金待遇は向上しない。どの会社も従業員がどれだけ創造して報酬を与えるかによって報酬を与えるが、多く創造すると、会社にもっと報酬を要求する条件があるからだ。会社はこれだけ創造すると報酬をもっと与えることになるのを見て、確かに与えなければ他の報酬をもっと与えることができる場所に転職することもできる。現実には多くの人が会社がいくらくれば私は何をするのかという考えを持っていますが、私が何をすれば会社にいくらを与えることができるのかという考えはあまりなく、修正しなければなりません。

2 先に創造してから見返りを話す必要がある。会社は誰がうまくやって誰に給料を上げるかを見ているので、従業員は先に払ってから会社にもっと良い待遇を要求するともっと簡単になりやすくなり、会社がもっと高い待遇を与えてからもっと多くのことをするのを待っていて、それは永遠に待つことはありません。

3 会社とのウィンウィンを重視しなければならない。会社が私を雇用する上で利益があるか、少なくとも損をしないようにすれば、会社との長期的な協力を得ることができ、つまり仕事が安定することができます。そうしないと、長期的にコストを費やして産出よりも大きく、会社の足を引っ張ると、いつか首になるに違いありませ

ん。

7 創業のいくつかの良い理念

1 お客様に十分な価値を創造するための強い理念が必要です。製品やサービス物に値を超えさせなければならない。すべての製品とサービスはお客様のために価値を創造しなければならず、お客様に選択を考慮され、購入を決定させるには十分な価値を創造しなければなりません。この点には、アップル、小米などが含まれており、彼らの製品は価格や物の価値に完全に対応しており、ユーザーの期待を超えてユーザーを絶叫させることもよくあります。お客様が購入行動を起こすかどうかは、主に製品やサービスが自分にメリットをもたらすかどうかにかかっており、メリットやメリットがなければ購入しないことを理解しておく必要があります。製品やサービスは、機能、性能、品質、価格など、お客様の要求や期待を超えて満たさなければ競争力がありません。

2善い願いと良い仕事をする準則がなければならない。人は善願天必佑之を持っていて、すべて良い願望と出発点があってこそ天の加護を得ることができて、商売をして商売をするのもそうです。愛を企業にし、世界の人々がより良い生活を送るために製品を作り、サービスをすることで、成功しやすい。そして道義的な本分を堅持しなければならない。商人は「みんなにサービスと利益をもたらし、それから自分もついでに少し稼ぐ」という原則を忘れてはならない。

3人付き合いも大切なので、人間になる必要があります。一人で成功するには、努力と運が必要であるだけでなく、人付き合いも重要であり、古人は天の時に地の利を求め、貴人の助けがあることを重視するのは理にかなっていると強調した。高貴な人が助けたいと思っていて、一般的な同志の友人が知恵を集めて考えを拡大し、互いに支え合ってより多くの力と資源を借りて、それは半分の功倍で、より成功しやすく、発展も速い。もしいつも悪い状況に遭遇して、各方面はいつもうまくいかなくて、しかも誰も助けたくなくて、それでは成功しにくいです。良い運気と他人の助けを得るには、多くの善行を行い徳を積み、人を助けて福報を得て運を改善しなければならない。

4もっと慈善をして、もっと社会に貢献して、もっとお客様の承認を得て、もっと良い運を得なければなりません。ビジネスをするには、お客様、サプライヤ、パートナーの承認と信頼を得るためには、あなたが社会奉仕をしたいと思っているからです。それは間違いなく人を陥れることはありません。自然にあなたに認可と信頼が生まれ、さらにあなたと取引したり、協力したりしたくなり、さらに多くのサポートをしたくなります。さらに、あなたが頼りになっていると思って、他のお客様やビジネスの機会をより多く紹介することができます。「小富由俭約大富由天」、「小智依謀大智依徳」ということわざがあるが、大徳の人材が大富を得るのも、誰もがどのようにして天がずっと見ているのか、誰もが自分が稼いだお金をもっと社会に献上しようとする徳があれば、天はあなたにもっとお金を稼ぐ機会を与え、もし一人でお金を稼いだのは自分が享受したり、毒を買ったりする不良行為をしたり、天害を害することさえすれば、天はもっとお金を稼ぐ機会を与えず、元の富を回収するからだ。ゲイツや李嘉誠などは寄付すればするほど豊かになるが、ケチをつければするほど人を計算するボスは商売をすればするほど萎縮していくのを見ることもできる。良い運があることは本当に重要です。そうでないと、何かをするのに多くの不調があったり、ミスが多かったりするので、努力すればするほど損失が大きくなりますが、慈善公益を多

くし、善行を積むことが運を改善する最善の方法であり、一人でもっと正しいことをしたいと思って、長い虹をかけることができます。

5 目標はもっと高く遠くに置くことができます。遠大な企業の発展目標を定めることができ、大きな目標には大きな目標がある。不可能ではなく、常に必要な資源を集め、目標を実現する方法を見つけることができ、それによって大きな成果を得ることができれば、目標が小さくなれば、いくら実現しても小さな成果になるだけだ。

8 ビジネス起業のいくつかの法則

1 需給状況をしっかり把握しなければならない。ビジネスをするには、需要があり、現在とそれほど競争していない分野や対応する製品、サービスを選択しなければなりません（例えば、難易度が高くても他人が勝手に入ってこないものがあれば、競争を維持することができます）。これにより、お客様に頼むことなく自分を主導的にすることができます。1 つの分野の需給状況を知らずに早合点して投入してはならない。そうしないと、作られた製品、サービスは誰も欲しがっていないか、誰かが欲しがっているが供給者が多すぎる顧客が選択できる多すぎて競争が大きくてやりにくい。顧客に他の人を選ばずに自分の製品、サービスを選ぶように頼むしかない。この時は値下げし、顧客に借金を払い、義理の難関を展開しなければ顧客を獲得できず、疲れてお金を稼ぐことができない。

2 お客様の承認と信頼を得る方法を考えなければなりません。お客様の信頼を得ることはお客様の協力を勝ち取る第一の重要な任務であり、お客様があなたを承認し、信頼すれば、取引や協力を達成しやすくなり、何でもあなたの言うことを聞くことになりますが、もしあなたに不信を認めなければ、あなたはお客様にどんなに良い製品をあげても、どんなに安い価格をあげても役に立たないので、お客様はかえってあなたがどんな方法で彼をだましているのかと思ってしまいます。お客様に承認と信頼を与える方法はたくさんありますが、最も重要なのは、お客様に信用、頼りがい、責任を持っていると思わせ、安心してあなたと協力することができ、そしてあなたは協力精神があってウィンウィンを重視して人を陥れることはないと思っているので、各方面の人間としての仕事は必ずしっかりしなければなりません。

3 作戦を練る。商売をうまくやるには、必ず計画を立てなければならない。多くの考え方を持ち、新しい製品、サービス、チャネル、顧客を絶えず開拓しなければならない。製品やサービスを企画し、構築し、発売された製品やサービスが競争の中で優位であり、絶対的な優位性があれば、成功しやすく、自分を不敗の地に立たせることができることを保証しなければならない。

4 業界の方向を選択するには。「郎は間違った行を選ぶのを恐れている」、正しい業界を選んで、市場が大きくて、競争が小さくて、価値の高い業界に入るともっとお金を稼ぎやすくなります。そうしないと、間違った行を選んで疲れてお金を稼ぐことができません。例えば、運搬をして、三輪車を踏んで生計を立てることを選んで、全力を尽くしてもあまりお金を稼ぐことができません。人が入りやすい業界はなるべくしないようにしましょう。今はやりやすいとしても、すぐにはやりにくいからです。また、できるだけ市場が飽和していないようにしなければならない。成熟した飽和した市場からビジネスを奪うよりも、市場のギャップを埋めるほうが簡単になるだろう。また、市場が飽和しても、お客様にはまだ満足されていないニーズがあります。それは、お客様をより満足させることで成功することもできます。例えば、服装の競争は白熱していますが、より高級な服を着る必要がある、ある活動や運動に適し

ているなど、お客様の細分化されたニーズを見つけ、適切な製品を発売することに成功した人もいます。

5 良い方法を見つけて使用しなければならない。ビジネスをするには、適切なビジネスモデルを採用し、迅速に市場に参入する方法を採用し、競争の中で巧みな製品配置、価格定位戦略を採用するなど、良い方法が必要です。

6知恵を絞って方法を考えなければならない。何をするにも常に考えて観察し、工夫しなければならない。ビジネスを営む創業はなおさらだ。現在、お客様が選択できる製品やサービスは多種多様で、同じ製品やサービスの中でも同業者との競争が大きく、ビジネス経営も容易ではないため、何をするにも知恵を絞る必要があり、経営をよくすることができ、これまでの相場が良い競争が小さいのに勝手にすれば成功するわけではありません。

7実用を重視し、見栄を減らす。商売起業は多くの真金白銀を動かす活動であり、何でも実用を第一にしなければならない。古来から商売を「経致実用の術」にしてきたのはこの道理である。節約できるのはできるだけ節約して、儀式や見栄えを気にする必要はありません。また、より効果的な方法を採用することも多く、どのようにすればより良いことができるかは、枠にこだわらずに行うことができます。また、お客様を引き付けるためにいくつかの方法ではなく、お得な方法でお客様を引き付けるために、本物で理性的でなければなりません。

8できるだけ源を開き、コストを下げて効果を高める。個人、家庭、企業、単位、国を問わず、源を開いて節流し、コストを下げて効果を高める必要があり、経済効果を重視するビジネス創業活動にとってはなおさらだ。比較を見ると、多くの個人、家庭、企業が豊かではなく、貧困にあり、収入が足りず支出が大きいことがわかります。そのため、支出の節流は非常に重要で、必ず方法を考えて多くの資源を利用して多くの利益を創造して、多くの製品とサービスを出して、多くの取引先とルートを開拓して、多くのビジネスモデルを考えて、それによって多くの利益を実現して、同時に各方面も節流して、できるだけ人員、活動などの各方面の支出を減らします。多くの人を招いたが効率が上がらず、一人当たりの生産性が高くなかったことや、報酬コストの高い役員を多く設置したことで、源流を切り開くことができなかった会社もある。競争が激しい今、コストダウンの効果は特に重要で、コストダウンの効果が出てこそ、より多くの利益空間を捻出し、より多くの利益を得ることができ、価格を下げてお客様に購入する方法があり、それによってお客様に購入を誘致することができます。コストダウンを極めてこそ、ボリュームのある市場で他人を巻き込みながらも自分は生き残ることができる。コスト削減と効率化のためには、各トランザクションを簡素化して展開コストを削減し、展開の効率を高める必要があります。また、すべてのリソースを十分に活用して、一人一人が才能を発揮できるようにしなければなりません。インド人はコストを削減する上で私たちが学ぶべき方法もあり、彼らは往々にしていくつかのものを極めて安く安くすることができる。

9投入する前に業界に精通し、綿密な調査観察と思考推敲をしなければならない。

新しいビジネスに投資する準備ができているので、まず対応する業界をよく知っておく必要があります。この業界にしばらく出勤することができれば、この業界の詳細をよりよく知ることができて、この業界の経営のいくつかの方法、コツを知ることができます。よく調べて観察し、調査する際には、興ざめされたくないからと言っている人の不快感をフィルタリングしておく必要があります（人によっては、あなたがとても考えがあって親切だとほめてくれる人もいますが、普通は悪く言わないので、

彼らの相槌に頭を奪われないでください）、事前に購入したクラウドファンディングを通じてビジネスを展開するのも良い市場調査方法です。参加する人はお金を出すので、彼らは真剣に考えて良いか悪いかの意見を出すことができます。また、多くの業界の人と交流して教えを請い、彼らの実践経験、教訓を多く得て、自分が回り道を少なくすることができるようにしなければならない。また、1つの業界に入るには、まずアルバイトや貿易をすることを選んだほうがいい。切り込みやすく、コストが低いことや、リスクが小さく失敗しても損失が少ないことから、よく知ってから研究開発、生産の段階に入ることができる。

9 いくつかの効果的な経営方法

1新製品の創造、新市場の開拓、新モデルの発売を通じて競争を避ける。商売をする上で最も望んでいないのは競争にぶつかることで、競争になったら値下げ、顧客の借金の許可などを通じて顧客に購入を求めるしかなく、成約機会が減少しただけでなく、利益も低下したからだ。では、競争を避けるにはどうすればいいのでしょうか。方法はたくさんあって、1つは新しい製品とサービスを出すことができて、製品の上で同業の製品と差別化を形成して、同質化を免れて、きっと市場の既存の製品と同じ製品をすることができなくて、必ずいくつかの違いをして、たとえ色、外観、配置が異なっても、このように市場の既存の製品と比較性があることはできなくて、取引先に往復して価格を抑えることはできません。もう1つの方法は、製品やサービスが新しいものを発売できなかったり、発売しなかったりすることです。それでは、新しいお客様、新しいチャネル、新しい市場を開拓し、より多くの需要のあるお客様を見つけたり、新しいお客様と協力してより速い販売を実現できるチャネルを見つけたりすることです（例えば、お客様の他のベンダーを通じて自分の製品を販売することは、自分でお客様を攻略するよりも速い）。もう1つの方法は、製品を販売することでお金を稼ぐことができ、製品を販売することでお金を稼ぐことができず、さらには無償で送ることができ、その後の消耗品、サービス、広告などでお金を稼ぐことができます。これは、「羊毛が犬から出てきたら豚が注文する」という考え方です。とにかくあらゆる面で革新を堅持しなければならない。無理に人と競争しないで、他の人ができることは他の人にして、自分は革新的で、もっと価値のあることしかしない。欧米や日韓などの先進国の人は、1つの製品が売れているのを見てもやりたいと思っています。一般的にはもっと良いものを作ることができませんでした。それでは、ある方面に特色を持って市場を細分化することを専攻し、価格も一般的に市場の既存の製品より高く売れるのですが、中国人は常に同じかもう少しで作って、価格を割って市場を奪い取ることがよくあります。潮汕人は苦労に耐え、細かく計算するのが上手だが、革新の欠如は差別化を重視せず、互いに模倣し、価格を壊すのが好きで、同じ分野で互いに必死に戦っている点も改善が必要だ。

2ブランドを構築することで顧客の認可を高め、市場をより安定させ、利益を高める。市場の競争は、製品、価格の競争だけでは、利益が高くなく、市場も他の人に奪われやすく、ブランドのイメージを確立し、ブランド精神を形作るなど、ブランドを構築し、顧客の心を占領し、顧客にブランドを認めさせ、このブランドのものが良いと感じさせることで、顧客は簡単に奪われることなく私たちの製品を買い続けることができ、市場はそれでは多くのことができ、各方面で責任を持って顧客に保障されているブランドがあり、その価格も合理的に高い。ビジネスはすべて認可、信頼に基づいて構築され、製品とサービスも顧客の認可と信頼によって生存、発展することが

でき、ブランドは認可、信頼のキャリアであり、ブランドが構築されれば信頼問題が解決され、顧客は優先的に選択し、安心して購入することができる

3 より多くの資源を利用し、より多くの力を自分のために稼ぐことに長けなければならず、自分の手だけで稼ぐことはできない。字が出ないで、自分の働いた工賃だけを稼いで、それはいくらもありません。従業員を利用して仕事をしたり、販売業者を利用して販売を手伝ったり、銀行の資金を利用して投資をしたりするなど、より多くの人、より多くの資源を統合して利用して仕事をしなければ、より多くの利益を得ることができません。

4 大鍋飯を食べることを避け、利益代理と請負メカニズムを確立し、みんなの責任感と積極性を高める。どのようにしてもっと多くの力を利用して一緒に仕事をすることができるのは比較的に技巧があって、最も主要なのは利益でみんなを引きつけて駆動して、みんなに積極性と全力を尽くして仕事を尽くすようにさせて、このようなを達成するには、利益代理請負制を採用するのが最も良くて、例えば市場、顧客を各業務員や代理店に分けて責任を負わせて、彼らに良いリターンをさせてうまくできないと圧力があって、すべて心を込めて自分の 1 ムー 3 分の土地を耕作して、会社はみんなの共同の努力の下でもっと良い収益を得ることができます。成功した会社は、市場分業、代理システムの構築と保護、管理において比較的よく行われており、販売員、代理店が非常に多く、分業が明確で責任がはっきりしており、価格統一と交換防止を行うことができ、各代理店を保護して支払いが報われるようにすることができる。また、販売員は低賃金で高賃金になることが多く、低賃金で主に大釜飯を食べることで積極性が高く、管理も容易になります。また、一部の会社は生産、販売、人的資源などの部分を自分で管理するのではなく、外部の会社に委託しているのも、アウトソーシングをした人がコストを下げるためにもっと工夫をしているからであり、結果的にはより多くのことができます。実際には、利益代理請負制は市場管理の向上に有効であるだけでなく、社会管理にもよく使われている。例えば、公社化集団労働から包産まで農家の積極性が大幅に向上した。また、歴代王朝も各地域を請負する方式を採用して国（例えば分封制、土司制）を管理してきた。

5 製品はシリーズ化されなければならない。高校の低レベル、および異なる配置は、異なる顧客を満たし、同じ市場の異なるディーラーに異なる製品を与えて競争を避ける。

6 できるだけ標準化された製品とサービスをします。標準化された製品とサービスは無限に複製することができ、より容易に大きくすることができ、利益は相対的に低くなるが、全体的な利益は非常に高くなり、非標準的な製品とサービスは毎回カスタマイズしなければならず、疲れて複製することができず、利益は一般的には高くても量的には来ない。

7 できるだけ量があり、価値が低くなりすぎず、競争が大きくならないような製品やサービスを売ってください。市場の容量が大きいか、小さすぎてはいけない製品やサービスを選んでこそ、大きくなりやすい。同時に、できるだけ価値が低くないものを選ぶようにしています。価値が低いのは多くの量を作るだけでなく、総額も少ないし、利益も低いことが多いからです。また、選択した製品の競争もあまり大きくしてはいけません。そうしないと、お客様に購入をお願いするだけでは市場にはなりにくいでしょう。

8 できるだけ金持ちの商売をする。金持ちのお金を稼ぐのは貧乏人のお金を稼ぐより簡単で、例えば欧米人のお金を稼ぐのはインド人のお金を稼ぐより簡単で、もちろん金持ちの製品とサービスに品質と特色の上で要求が高くなるので、具体的には自

分の製品とサービスがどんな顧客に適しているかに合わせて決めなければならないが、できるだけ金持ちの商売をするように努力しなければならない。また、家族の中でお金をたくさん使うのは女性であることが多いので、多くの業者も女性の商売をしたいと思っています。

9 品物を遠くに売れば売るほどいい。市場は有無相通ずることであり、製品を遠くに売る場所はもっと良い。各地の物産の異なる遠くの場所ではこの製品が不足し、理解されていないことが多いため、古代の中東人の中には中国に来て、多くの人が金持ちになった。彼らの成功は主に近くで買って売って互いに通じ合って商売がよく、しかも高い値のジュエリー、香料を作っているので利益が多いからだ。特に貿易に従事するならば、できるだけ距離の遠い市場を開拓して、距離が遠いほどこちらの貨物と有無相通ずることが少なくなって、このようにこちらの優位性のある貨物は向こうに行って比較的に機会があって、例えば新疆の特産品は、遠くまで売るほど相対的に少なくなるので市場の機会があって、もし地元や周辺の省へ販売するならばすでに比較的に多いために市場を開くのが難しいです。

10 人的入れ替えを展開するビジネスにも大きな市場がある。現在、欧米の人件費は高く、特に技術活動にはエンジニアや医師、弁護士などを含む人員のコストが高いが、中国の人件費はまだ低いため、中国産の技術者連れのコストが比較的多い製品やサービスを欧米に売ることはコストメリットが大きいため利益がある。

11 異なるレベルの製品とサービスを行うには、適切なセットと運営方法に対応しなければならない。例えば、弁当箱ファストフードを売る場合は、屋台の環境と人員によってセットにするしかなく、高級レストランを開くセットによってファストフードを売ることはできません。

10 創業者が備えなければならない能力、素質、観念

1 自分やチームには総合的で包括的な能力が必要です。自分やチームには総合的で全面的な能力が強く、起業してこそ成功しやすいが、能力が弱いか、ある方面の能力には短板があり、起業の成功率はかなり低くなる。その場合は、就職を選ぶこと、つまり成熟した大手プラットフォームと協力することを考えることができる。

2 内外の資源を統合し、団結してみんなの力と協力を引き出すのが上手だ。

何をするにも自分一人の力だけではなく、内外の様々な資源を統合し、多くの人と団結して協力し、誰もが共通の事業に情熱を燃やしてこそ、より速く行うことができ、発展することができる。

人間は品格がよく、人間としての能力があり、みんなに認められ、団結できることが成功の鍵である。

歴史上、劉邦、劉秀、李世民、朱元璋、皇太極などの開国の君が成功したのは、みんなに認められ、人材を団結させるのが上手で、みんなは緊密に協力するのが好きで、やっと成功に向かった。例えば、劉邦は自分の各方面はそれぞれの部下に及ばないと言ったが、自分の強みは彼らを統合することができて、清朝の開国者も多くの明朝のトップ人材を統合して支配下に収めたが、項羽、王莽、崇禎、洪秀全などは、各方面の力、人材を団結させず、人材を殺して敵陣営に頼るしかなかった（例えば韓信、陳平、英秀全など）布、彭越などは項羽側から劉邦に振り向いたが、残りの範増も追い詰められて悲しんで亡くなった)。

ビジネスの世界でも、資源や人材を統合するのが上手な人こそ、大きな成功を収めることができます。李嘉誠氏はいくつかの資金を使って持ち株株主位で会社を設立

し、この会社でより大きな会社を持ち株し、それからさらに大きな会社を持ち株することで、少ない資金で層別持ち株を通じて大きな資金盤を制御し、多くの、大きなビジネスを展開することができる。また、万達グループの王健林氏も資源統合の達人であり、各地の土地資源を巧みに統合し、活性化させ、土地資源と万達広場の建設青写真を再利用して多くの業者の協力を誘致し、不動産分割などで建設業者の立替建設を誘致し、最後に自分でわずかな資金でプロジェクトの建設と運営をこじ開けた。また、不動産業界は巨額の資金を投入する必要があり、土地資源、銀行資金、オーナー資金などをうまく統合する必要がある。

そのため、ビジネス起業はより多くの資源、力を統合し、誰もが、どの資源も最大の役割を果たすことを学ばなければならない。

必要なすべての資源と人材、社会は基本的に既存のものであり、統合して組織してうまく運営する能力があるかどうかにかかっている。資金不足を含め、多くの場所で借り入れができ、人材が不足している。それは良いプラットフォームと分配メカニズムを構築し、みんなが来て発揮され、高収入を得ることができれば、すぐに必要な人材を集めることができ、販路が不足し、良い製品と市場分配と保護メカニズムがあれば、多くのディーラーが参加して一緒にやることができる。

人を使う面では、必ずチームで仕事をして、一人一人に対して分業をして、みんながそれぞれ所長を発揮して互いに協力して、みんなに共通の目標と理念を持って、意志を統一して、力を合わせてください。

普段もみんなとのウィンウィンを重視して、みんなが払っても十分な収穫を得ることができるようにして、みんなに対してもっと利益を譲って、もっと配慮して、大度に寛容にして、恩を薄くしてはいけなくて、このようにしてみんなの承認を得て、人の心を凝集することができます。

協力したいパートナーには、協力者、サプライヤーなどが含まれており、投資が少なく、事が少なく、利益が高く、利益が少ないようにしなければならない。そうすれば、彼らは多くの協力を喜んで来ることができる。

3 常に強い利益観を持ち、勤勉を維持している。

いかなる個人、家庭、会社、職場、国も消費よりも多くの生産をしなければならず、徐々に利益が蓄積されないと、山の空を食べてますます貧しくなるだけだ。

多くの生産を行うには、強い利益観を持って、さまざまな方法を尽くして利益を創造しなければならない。そして、すべてのメンバーが勤勉に奮闘し、その才能を発揮するようにしなければならない。誰もができるだけ利益を創造するのではなく、一部の人が利益を創造するだけではなく、一部の人が利益を創造することもなく、ぶらぶらして足を引っ張るメンバーがいてはならない。そしてすべてのことをするには

利益を創造することは各企業の経営の最も重要な点であり、利益のある企業は生存して発展して強大になることができ、利益がないか利益が悪い企業は受動的な水がいずれ枯渇して運転を続けることができない。また、企業全体の 1 人当たりの生産額が比較的高く、企業が生存しやすいようにすることもできます。資本投資を導入した場合は、収益を増やして投資家に分配しなければ、協力を維持することができず、資本は撤退して投資収益の賠償を要求するため、より多くの利益を生み出す方法も必要になる。

4 誠実さを重視し、良好な口コミを構築する：

市場競争の最後は製品とサービスだけではなく、口コミであり、誰がより誠実で信頼できるかで勝利を得ることができる。

多くの会社の成功は主に製品やサービスの特別な優位性ではなく、信用の成功で

あり、信用があって信頼されていると、各方面でやりやすくなる機会も多くなります。

誠実さが失われればすべてが終わり、頼りにならない、口コミが悪い、物がどんなに良くても誰も欲しがらない。

前述したように誠実さについても、ある企業の製品はブランドを作り、市場で売れるようにするには信用のある口コミと販売メカニズムに頼る必要があると述べています。一つの業界では、なぜ欧米や日韓のブランドがブランドになりやすいのか、そして彼らの価格が高くても価格が良くなくてもよく売れているのに対して、中国製品はローエンド市場を占めているだけで、低価格で販売されているだけで、市場占有率も高くなく、中国のメーカーの起点レベルがあまり悪くなくても、時間が近くても、製品は彼らより悪くない。これは、ブランドの口コミをより重視し、製品の品質に対するチェックが非常に厳しく、品質がクリアされていない製品を出荷して販売することはなく、発見すればすぐに全数リコールして多くの損失が大きくても、彼らの製品消費者はより安心して購入し、高くても購入したいと思っているからです。また、彼らの販売メカニズムも信用を重視しており、代理権の授権は厳格に実行され、代理店の利益を厳格に保護し、彼らが販売を展開することを回避することなく、彼らの利益を保証することができ、利益を得ることができるようにすることができます。このようなメカニズムは、各販売段階の従業員が彼らの製品を顧客の前で賛美することを意図的に普及させることができ、市場販売がより容易になります。中国のメーカーの多くはビジネスルールを守る精神が欠けており、利益の前では信用を捨て、各級の代理店の保護を重視せず、さらには契約契約を児戯のように代理店が耕した市場の果実を奪い合うことで、強力で忠実な市場販売ルートを形成することが難しく、市場で成功することも難しい。

5 細かく計算するのが上手でなければならない。

商売をするには、大金を稼いで小銭を稼がないだけではいけない。結局、大金を稼ぐ機会は多くない。もっと多いのは小銭を稼ぐ機会で、それからたくさんの小銭を稼いで積み立ててこそ、海納百川が渓流を選ばずにその大きさになるように。

また、各方面でコストを抑える必要があります。ここでもっと使ってはいけません。そうしないと、あちこちでたくさん使ってしまうと利益が出にくくなります。

【総括イニシアティブ】

心の力の存在と強大な役割、そして修身立業持家による国平天下の治世などの各方面での応用を理解した後、善悪には報いの必然性と原因があることを理解して、私たちは一人一人がどのようにしてもっと良く、もっと良く暮らせるかをさらに考えることができます。少なくとも次のようなことをしなければならないと思います。

1 遠大な理想を打ち立て、抱負を持ち、平凡に成功を追求することに甘んじず、そして自分に厳しく要求し、忍耐強く、自ら努力し続けなければならない。そうすれば、自分を駆動して絶えず前進して大きな成功を得ることができる。

2 身を清めて自愛し、本分は規律を守り、欲張らず姦通せず、不義の財を受けず、天理を傷つけることをしず、悪報、天罰を受けないようにしなければならない。

3 心は善良で、誠実で親切に人に接し、他人とのウィンウィンを重視し、良心があれば決して人を傷つけることはなく、自分や人のことを気にして傷害や他人への影響を避け、他人の恨み、呪いを受けて他人の心の力に攻撃され、自分の運や健康などの各方面に影響を与えないようにしなければならない。

4 人のためには、多くの人が称賛し、憎まれないようにしなければならない。それによって、自分に有利な外部の心力環境を作り、処世には人と善成人の美に処し、寛容に人に接するのはあまり気にしすぎず、人と仲良くして、それによって良好な人間関係を作る。

5 自己素養を高め、社会に迷惑をかけずに社会のプラスエネルギーになるために、資格のある社会公民にならなければならない。

6 生計を立て、仕事に励み、経済は自立して家庭、社会の負担にならないようにしなければならない。家庭、社会に貢献し、社会のエリートになって社会に大きな貢献をし、永遠に芳しいものになるように努力したほうがいい。

7 福を大切にし、倹約して暴食暴飲せず、低調で低炭素生活は贅沢浪費を求めず、贅沢をせずに物を浪費することを知らなければならない。

8 苦行僧になって苦労して世を救う心を磨くことを提唱し、衆生がまだ良い生活をしていないうちに、自分は良い生活を享受しない。一方では福を惜しむ一方で、多くの人がまだ困難な中にいることを常に体得し、記憶することができる。

9 神を畏敬し、ひれ伏して線香をあげてお経を読むなどの形式を重視するのではなく、多くの善行を通じて神の賞賛を得ることで神の助けを得るのではなく、神を祭って神に賄賂を渡して助けを得ようとするのではなく、神が社会と人民に幸福をもたらすための遺志を実践するよう努力しなければならない。

10 善の願いを持って、功徳を追求することは社会を追求するために貢献して、自分を社会的価値、家庭的価値、仕事の価値があるように生きることであり、生ける屍のように食べるだけではいけない。

11 愛、慈悲、哀れみの心を持って、各方面から他人、特に弱者、困難者に助けを提供し、衆生万物を大切にしなければならない。小さなことから愛を育てなければならない。野外で小動物を捕まえて家に帰って飼うのではなく、例えば小魚をすくって家に帰って飼うのは残酷だ。小動物と家族を分離させ、捕まえて飼うのは一般的に長く生きられることは少ないからだ。

12 善行を多く行い徳を積み、福田を広く植え、それによって善報を得て自分と家族の運気を改善し、福陰の子孫になる。

13 社会的責任感を持つには、「社会/世界のために何かをする」という理念を持

ち、集団の利益を守り、社会環境を改善し、社会の進歩を促進し、社会正義を伸ばすために熱心に力を入れなければならない。社会のプラスのエネルギーになり、一面を照らす光になる。

14 大義を顧み、大義を重んじ、道義を利益の上に置くべきで、個人の利益を心配して大義を放棄したり損なったりしてはいけない。政治家としての気概がなければならない。自分が損なわれても、人に弱みを握られたからといって国、社会、民衆を損なうようなことをしてはならない。決して虐待に加わらないと誓った。捜査、法執行、司法関係者の場合は、真実を公表することを堅持しなければならず、脅迫されたり買収されたりして真実を隠すことはできず、できなければ辞職したほうがましだ。

15 是非を明らかにし、正直で、愛憎がはっきりしていて、憎悪を憎んで、罪と戦う勇気があって、すべての悪を取り除く機会を探して捕まえて全力を尽くして悪を取り除くことが社会のために功労を立てて、少なくとも自分が罪に侵されないように守ることができなければならない。「ノー」と言う勇気を養うには、悪い人たちが一斉に反対するには、悪い政策は実施できず、悪い役人は上位になれないことを含む。

16 各種の姦通犯科、汚職腐敗などの不良行為に決して協力せず、悪人のために製品とサービスを提供しない、さらに悪人の手先になったり、虐待を助けたりしない。

17 親友が悪であることを発見し、改心を勧める必要があり、それを拒否した悪で得た利益は、確かに忠告が無効である場合はそれと関係を離脱し、その状況を政府に報告したり、公にしたりすることができ、それは悪を止めるのに役立ち、自分が後で巻き添えになっても処罰や清算を受けることを避けることができる。

18 軍警及び各種法執行者のためには、気骨を持って道義を守り、悪吏をしない鷹手犬は虐待を助けようとせず、是非を明らかにして言いなりにならず、民衆、国家を傷つける指令を決して実行しない、確かに抵抗できない、または抵抗できないなら銃口を高くし、陽奉陰背き、偽装行為をし、怠慢して遅延し、休暇を取って辞職し、それによってボイコットを実行することができる。

19 各級官吏のためには、民を愛する必要があり、民衆を傷つけないように気をつけ、民衆を苦しめたり、苦労させたりしないようにし、民衆のためにより多くの利益と機会を勝ち取ったり、民衆のために話をしたり、苦難を乗り越えたり、被害を受けた民衆の権利を維持したりしなければならない。上役に迎合しない、上役の奴隷にならない、上役の悪いことには忠告を与えなければならない、忠告する勇気がない、本当のことを言う勇気がない、真実の状況を反映する勇気がない、甚だしきに至っては上役の好感を得るために心にもないことを言ったり、虚偽の状況を示したりしてはならない。

20 上層部の指導者のためには、天道民心を畏敬し、人類の発展の流れと民心の向かうところに従う必要があり、私利と個人の好みのために所望のことをしてはならず、天下の大不正を冒して逆行してはならず、歴史を逆行して社会の退歩を招いてはならず、民衆と国家の利益を犠牲にして個人の功業を達成する思考を持ってはならず、国に災いして民に災いして悪名を残すことを避けなければならない。

もし誰もがこのように自修自戒自強であれば、誰もが良い発展と福報を得て成功自在に過ごすことができ、天下太平、社会文明隆盛も必ずすぐに実現できるだろう。

また、誰もが誓うことができることを提案します：決して不義の財を儲けない、盗まない、奪わない、人に賄賂を与えない、偽物･粗悪品をしない、仕事をするのは天地の良心に適している、是非善悪がはっきりしている、正義感がある、社会的責任感がある、決して虐待に加担しない、物資とサービスを悪人に提供しない、むせび泣いたり悪人を片付けたりする機会がある、決して手加減しない、職場や社会の悪いもの

は決して見て見ぬふりをしないで改善を推進し、決していい加減にしないで生を盗んで、もし以上できなかったら天に打たれたい。

【本になるためのビジョン】

長年にわたる生活、仕事の総括、社会に対する深い観察と思考を経て、本人は多くの悟りと見解を蓄積して、普段みんなと交流する時にいくつか話があって、みんなもとても認可して、だからずっと系統的に整理して、1冊の本を書いて、多くの人に伝えて、みんなと一緒に探究して、討論したいと思っています。

また、さまざまな社会問題、社会災害を見渡すと、基本的には一部の人が悪いことをしているためだとよく感じています。多くの人が良い人生の追求と価値志向がないために良い発展を得ることができず、誤って失敗したり、名誉を失ったりすることも多いと感じています。また、いくつかの公益活動に参加する中で、善行をすればするほど、利他はより多くの福沢報いを受けることができることを発見したため、悪行を行って善行をするように説得するために文章を書いて福を得る考えも芽生えました。

長年にわたって考え続け、断続的にいくつかの観点を書き続け、さらにまとめて文にまとめ、最終的には本にした。

本の内容が皆さんの仕事、生活、勉強に参考になることを願っています。

心の働きを理解してもらい、より多くの人が高遠な理想を立ててより大きな成功を収めることを引き出すことを期待することも含まれています。誰もが良い心理状態を持っていて、少し眠気を減らして喜びを増やすことができます。

善行をして徳を積むことが福報、幸運を得ることができることを多くの人に認識させ、貧富の盛衰の成因と法則を理解させ、すべてより多くのプラスのエネルギーに満ち、より多くの人に利他を助け、社会をより美しくし、自分も善行をして綿々とした福報を得ることができて、すべてが順調により幸せになることを望んでいる。

悪を行う必然的な悪の結果と得られるかどうか、啓発され、警戒されて各種の悪の念を根絶し、より温和で良善になり、損害を与え、他人と集団を傷つけることを減らし、それによって社会をより文明的、調和的にすることができるようにしたい。

社会人全体がより良い浄化を心得、誰もが純良になり、邪悪で極端な思想に生存の空間がなくなり、みんなが目覚めて様々な悪行を制止することができるようにしたい。そのため、様々な傷害、民衆を害する社会問題を減らし、世の中が世の移り変わりを止め、社会を文明、太平にすることができるようにしたい。

本書が『了凡四訓』と同じように、より多くの人が善から悪を捨てることを啓発し、『菜根譚』と同じように多くの目立つ銘言を提供し、万民を教化し、賢良を提唱し、「往聖に絶学し、万世に太平を開く」ことを実現することを期待している。

誰もがこの本を読んで、世の中の道理をもっと理解して、おおらかで、悟りが深くて、心身がゆったりしていて、大いに自在で、しかも多くの善願を立てて、多くの善行をして、最終的には誰もが大金持ちで、貴福沢が長くて、聖成菩薩になることができることを望んでいます。

この雄文をもって、天下の白を歌いたい！

【著者プロフィール】

蔡偉忠は、1978年に広東省揭陽で生まれ、幼い頃に父を亡くして苦労を味わったことと、長い間勤勉に努力してきたことに加え、天地の世話をしてくれたことで、裸一貫から起業してわずかに初成し、家庭も幸せで、蘭桂斉芳だった。

普段は周囲の様々なものを観察し、分析し、個人的な考えを記録し、発明、文化、政見など多方面の文章を形成するのが好きだ。衆生の苦労も常に念頭に置いて、社会の進歩を推進して万民に幸福をもたらすことを志して、常に政府の各部門に対して仕事の改善意見と方案を提出して、大学入試の採用プログラムの改善案を含んで、つまり現在の国家のために普及した平行採用法を採用して、大学入試の採用をより公平で合理的にすることができるようにします。

さらに社会が民主、自由、共和を一日も早く実現することを夢見て、天下は太平、大同を得て、誰もが良い生活を送ることができるようにして、そのためにいくつかの努力を払って、挫折はあっても執着して堅持しています。

普段も助学、医療、薬の寄贈などの公益をよく展開しており、公益をすることで大きな福報を得ることができることを発見したため、善行をして徳を積むメリットを深く感じており、この理念を広めてより多くの人が公益に参加し、みんなが社会に幸福をもたらすと同時に自分や家族にも幸福をもたらすことを望んでいる。

【後記】

この本を書く意味をよく知っていて、一日も早くこの本を書いて、一日も早く蒼生に幸福をもたらしたいと思っています。

しかし、ずっと何事も忙しく、心の中では定力が足りず、いつもたまに細かい内容と一部の章を書いているだけで、何年も経っても本にならなかった。

本ができていないと、心の中ではいつも不安になっています。なぜなら、世の中にはまだ貧しく、尊厳のない中で生きている人がたくさんいることを思い出して、受難の中で生きている無数の蒼生がいるからです。まさに済世は鬢先花にならず、夜も眠れないほど焦っていると言える。

自責の念はゆっくりと書くべきなのに、いつもゆっくりと書いていて、自分ができるだけ早く書くために時間と精力を集中していないことを反省したことがあります。自分がまだこのことを急いで重要な位置に置いていないのか、それとも蒼生を哀れむ苦しみが足りないのか、自責と罪悪感に満ちていて、朝鮮飢餓病にかかった子供の写真を事件にかけて自分をもっと重視して書くように促したいと思ったこともあります……。

幸いにも積み重ねて、やっと基本的に書き終えた。

全体的な内容もまあまあ満足しており、この本の理論を信じることもでき、普及・普及・受け入れられれば、誰もがより幸せで自由に過ごすことができ、社会問題は大幅に減少することができ、ひいては戦争も避けることができ、生霊は炭を塗ることを免れ、文明は破壊を免れることができる。

多くの交流、指導を歓迎し、一緒に本書と中の良い理念を広めることも歓迎します。善念を広げれば、福報は無限だ！

天地のために心を立て、生民のために命を定め、聖への継承のために絶学し、万世のために太平を開く

世道を説明し、人の心を浄化し、この雄文をもって、天下の白を歌いたい

本書の中のいくつかの優れた理念を実践することで、心の自在さ、運の改善、家を興して富を築くこと、事業の成功、綿長福沢をよりよく得ることができる